平成２８年度

学　修　要　覧

東京都市大学

メディア情報学部

メディア情報学部学修要覧　目次

東京都市大学で学ぶこと
学長　三木千壽 …… 1
大学概要 …… 2
沿革 …… 4
学年暦 …… 6
学則 …… 8
関係規程等 …… 23

メディア情報学部 …… 37
理念・目的 …… 39
技術と社会の両面から、新たな情報社会を創り出す
メディア情報学部長　中村雅子 …… 40
カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー …… 42
履修要綱 …… 44
単位について …… 44
授業科目について …… 45
履修について …… 45
授業時間について …… 49
休講について …… 49
ストライキ等により交通機関が運用を停止した場合
及び台風による気象警報発表時の授業措置について …… 50
試験について …… 50
成績について …… 51
単位修得状況や成績に関する指導について …… 52
３年次進級要件について …… 52
事例研究着手の条件について …… 52
卒業研究着手の条件について …… 52
他学科、他学部、他大学等の履修について …… 53
修業年限および卒業延期について …… 54
東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP) …… 55
勉学の指針・教育課程表・科目概要 …… 57
学部共通科目 …… 59
外国語科目
体育科目
教養科目
学部共通科目　教育課程表 …… 64
学部共通科目　科目概要 …… 66
社会メディア学科 …… 73
社会メディア学科で学ぶにあたって
社会メディア学科主任教授　川村久美子 …… 75
社会メディア学科専門科目 …… 77
社会メディア学科専門科目　教育課程表 …… 79
社会メディア学科履修モデル …… 81
社会メディア学科履修系統図 …… 84
社会メディア学科専門科目　科目概要 …… 85

情報システム学科 ……107
情報システム学科で学ぶにあたって
情報システム学科主任教授　八木伸行 …… 109
情報システム学科専門科目 ……111
情報システム学科専門科目　教育課程表 ……113
情報システム学科履修モデル ……115
情報システム学科履修系統図 ……117
情報システム学科専門科目　科目概要 …… 118
資格 ……139
教職課程 …… 141
社会調査士資格取得課程 …… 157

教授要目

メディア情報学部共通科目 …… 159
社会メディア学科１年次配当科目 …… 219
情報システム学科１年次配当科目 …… 241
教職課程１年次配当科目 …… 255

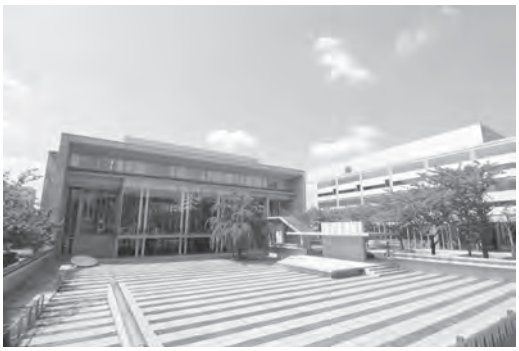
施設・学生生活・その他 …… 263
図書館 …… 265
情報基盤センター …… 269
学生生活関連 …… 273
大学院環境情報学研究科 …… 279
環境方針 …… 282
教職員名簿 …… 283
校舎配置図 …… 288

東京都市大学で学ぶこと

学長　三木 千壽

大学で学ぶことの意義は何でしょうか。高校までは生徒と呼ばれていましたが、大学では学生に代わります。生徒と学生の違いは何でしょう。広辞苑によれば生徒は教育を受ける者、学生は大学で学ぶ者、学業を修める者、となっています。すなわち生徒は受動的に学ぶのに対して、学生は能動的に学自ら学ぶことになります。高校までは大学入試を目指して勉強してきたことでしょう。まず最初のステップとして、自分がどのような人間になりたいのか、大学で何を学びたいのか、を考えてください。大学での学習の目標は決してテストのため、良い就職をすることだけではありません。

東京都市大学の理念は「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」です。自分がどのような人材として社会発展に貢献できるのかを考えてください。都市大の前身の一つである武蔵工業大学は工業教育の理想を求める学生が創設した日本においては稀な大学です。この精神を受け継ぎ、皆さんが主体的に学ぶことを期待します。



最近は大学のランキングがしばしば話題になります。大学の評価には様々な軸がありますが、都市大としては「入学時から卒業時でどれくらい能力を上げることができたか」その指標でのベストバリュー大学を目指しています。本学の伝統である実践的な専門力に加えて、教養やコミュニケーションなどの人間力のアップにも力を入れています。

都市大が輩出する人材像は、世界のどこででも活躍できるグローバルな人材です。国際人になりましょう。昨年度の入学生から都市大オーストラリアプログラム（TAP）をスタートしました。本年度は約 250 名の学生がオーストラリアのパースにあるエディスコーワン大学に 5 か月の留学をします。第一陣として出発する 120 名のうちの約半数が、留学前の準備教育で TOEIC の成績を 100 点以上アップさせてオーストラリアへ出発しました。現地での学びでどこまで成長するのか楽しみです。

都市大では教職員が一丸となって、大学としての最高レベルの教育を提供します。皆さんそれぞれの能力を最大限に伸ばすことを目標とし、皆さんからの能動により、その教育内容はますます改善されていきます。

卒業時に「よく学んだ」と言わせたいと考えています。

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

理 念

「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」

――――建学の精神“公正”“自由”“自治”を活かしながら新たな発展へ

本学は，“工業教育の理想”を求める学生たちが中心となって創設された，日本においてきわめて稀な，学生の熱意が創り上げた大学です。この建学の精神は，独立自主の思い溢れる学生たちが掲げた，夢と希望のシンボルです。東京都市大学は，この優れた精神を継承しながら，“持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究”を理念とし，新しい時代と社会の要請に応える大学へとさらなる進化を遂げていきます。

東京都市大学	TOKYO CITY UNIVERSITY UNDERGRADUATE DIVISION	入学定員	収容定員
■工学部	FACULTY OF ENGINEERING		
機械工学科	DEPARTMENT OF MECHANICAL ENGINEERING	105	420
機械システム工学科	DEPARTMENT OF MECHANICAL SYSTEMS ENGINEERING	90	360
原子力安全工学科	DEPARTMENT OF NUCLEAR SAFETY ENGINEERING	30	120
医用工学科	DEPARTMENT OF MEDICAL ENGINEERING	55	220
電気電子工学科	DEPARTMENT OF ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING	95	380
エネルギー化学科	DEPARTMENT OF CHEMISTRY AND ENERGY ENGINEERING	70	280
建築学科	DEPARTMENT OF ARCHITECTURE	100	400
都市工学科	DEPARTMENT OF URBAN AND CIVIL ENGINEERING	85	340
		630	2,520
■知識工学部	FACULTY OF KNOWLEDGE ENGINEERING		
情報科学科	DEPARTMENT OF COMPUTER SCIENCE	95	380
情報通信工学科	DEPARTMENT OF INFORMATION AND COMMUNICATION ENGINEERING	60	240
経営システム工学科	DEPARTMENT OF INDUSTRIAL AND MANAGEMENT SYSTEMS ENGINEERING	75	300
自然科学科	DEPARTMENT OF NATURAL SCIENCES	25	100
		255	1,020
■環境学部	FACULTY OF ENVIRONMENTAL STUDIES		
環境創生学科	DEPARTMENT OF RESTORATION ECOLOGY AND BUILT ENVIRONMENT	90	360
環境マネジメント学科	DEPARTMENT OF ENVIRONMENTAL MANAGEMENT	70	280
		160	640
■メディア情報学部	FACULTY OF INFORMATICS		
社会メディア学科	DEPARTMENT OF SOCIOLOGY AND MEDIA STUDIES	90	360
情報システム学科	DEPARTMENT OF INFORMATION SYSTEMS	90	360
		180	720
■都市生活学部	FACULTY OF URBAN LIFE STUDIES		
都市生活学科	DEPARTMENT OF URBAN LIFE STUDIES	150	600
■人間科学部	FACULTY OF HUMAN LIFE SCIENCES		
児童学科	DEPARTMENT OF CHILD STUDIES	100	400
		1,475	5,900

■世田谷キャンパス【工学部】【知識工学部】
〒158-8557　東京都世田谷区玉堤１－２８－１

■横浜キャンパス【環境学部】【メディア情報学部】
〒224-8551　神奈川県横浜市都筑区牛久保西３－３－１

■等々力キャンパス【都市生活学部】【人間科学部】
〒158-8586　東京都世田谷区等々力８－９－１８

■総合研究所［等々力キャンパス］
〒158-0082　東京都世田谷区等々力８－１５－１

■原子力研究所［王禅寺キャンパス］
〒215-0013　神奈川県川崎市麻生区王禅寺９７１

東京都市大学 大学院	TOKYO CITY UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL	課程	修士課程		博士後期課程	
		定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
■工学研究科	GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING		MASTER OF ENGINEERING COURSE		DOCTOR OF ENGINEERING COURSE	
機械工学専攻	MECHANICAL ENGINEERING		36	72	5	15
機械システム工学専攻	MECHANICAL SYSTEMS ENGINEERING		24	48	6	18
電気電子工学専攻	ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING		30	60	2	6
生体医工学専攻	BIOMEDICAL ENGINEERING		20	40	1	3
情報工学専攻	INFORMATION ENGINEERING		38	76	2	6
建築学専攻	ARCHITECTURE		30	60	5	15
都市工学専攻	CIVIL ENGINEERING		24	48	6	18
システム情報工学専攻	SYSTEMS INFORMATION ENGINEERING		28	56	2	6
エネルギー化学専攻	CHEMISTRY AND ENERGY ENGINEERING		16	32	3	9
共同原子力専攻	COOPERATIVE MAJOR IN NUCLEAR ENERGY		15	30	4	12
			261	522	36	108
■環境情報学研究科	GRADUATE SCHOOL OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES		MASTER OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES COURSE		DOCTOR OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES COURSE	
環境情報学専攻	ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES		20	40	2	6
都市生活学専攻	URBAN LIFE STUDIES		6	12		
			26	52	2	6
			287	574	38	114

付属施設等	大学	共通教育部 FACULTY OF LIBERAL ARTS AND SCIENCES	世田谷・横浜・等々力キャンパス
	大学	図書館 LIBRARY	世田谷・横浜・等々力キャンパス
	大学	総合研究所 ADVANCED RESEARCH LABORATORIES	等々力キャンパス
	大学	情報基盤センター INFORMATION TECHNOLOGY CENTER	世田谷・横浜・等々力キャンパス
	工学部	原子力研究所 ATOMIC ENERGY RESEARCH LABORATORY	王禅寺キャンパス

沿　革

東京都市大学は，昭和４年に創設された武蔵高等工科学校をその母体として発展してきたもので，その沿革は次の通りである。昭和24年に学制改革により武蔵工業大学に昇格した本学は，公正・自由・自治を建学の精神とし，実学の充実に力点を置いた教育と，実践的かつ先駆的な研究活動で，わが国の工業教育に尽瘁してきた。平成21年には東京都市大学と改称し，「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を理念とした，科学技術から生活福祉までの幅広い領域を網羅する大学として現在に至っている。

昭和 4年 9月　□武蔵高等工科学校として創設　□電気工学科，土木工学科，建築工学科の３学科を開設
昭和 5年 4月　□建築工学科を建築学科と改称
昭和 9年 4月　□機械工学科を増設，計４学科となる
昭和17年 4月　□実業学校令，専門学校令による武蔵高等工業学校を開設　□機械工学科，電気工学科，土木工学科，建築工学科の４学科を設置
昭和19年 4月　□武蔵工業専門学校と改称　□機械科，電気科，建築科，土木科とし，同時に電気通信科を増設，計５科となる

昭和24年 4月　□武蔵工業大学に昇格　□工学部機械工学科，電気工学科，建設工学科の３学科を設置　□学長に赤野正信が就任
昭和25年 4月　□短期大学部機械科，電気科，建設科の３科を併設
昭和27年 4月　□学長に荒川大太郎が就任
昭和29年11月　□理事長に五島慶太が就任
昭和30年 5月　□学長に元東京工業大学長・大阪帝国大学総長工学博士八木秀次が就任
同　　6月　□学校法人東横学園を合併して学校法人名を五島育英会と改称
昭和32年 4月　□工学部に電気通信工学科を増設，建設工学科を建築工学科，土木工学科に分離し，工学部は計５学科となる
昭和34年 4月　□工学部に生産機械工学科，経営工学科を増設，工学部は計７学科となる
同　　9月　□理事長に五島昇が就任
昭和35年 4月　□原子力研究所発足　□学長に前静岡大学長工学博士山田良之助が就任
同　　10月　□工学部建築工学科を建築学科と改称
昭和39年 9月　□五島育英会々長に五島昇が就任　□理事長に唐沢俊樹が就任
昭和40年 4月　□工学部機械工学科と生産機械工学科を合併，新たに機械工学科とし，工学部は計６学科となる
昭和41年 4月　□大学院工学研究科修士課程機械工学専攻，生産機械工学専攻，電気工学専攻，建築学専攻の４専攻を開設
昭和42年 5月　□理事長に星野直樹が就任
昭和43年 3月　□短期大学部を廃止
同　　4月　□大学院工学研究科博士後期課程機械工学専攻，生産機械工学専攻，電気工学専攻，建築学専攻の４専攻を開設
昭和44年 4月　□工学部電気通信工学科を電子通信工学科と改称
昭和47年 4月　□大学院工学研究科修士課程に土木工学専攻を増設，大学院工学研究科修士課程は計５専攻となる
昭和49年 3月　□理事長に曾禰益が就任
昭和53年 3月　□学長に東京大学名誉教授工学博士石川馨が就任
昭和54年10月　□創立５０周年　□情報処理センター発足
昭和55年 6月　□理事長に五島昇が就任
昭和56年 4月　□大学院工学研究科博士後期課程に土木工学専攻を増設，大学院工学研究科博士後期課程は計５専攻となる　□大学院工学研究科修士課程に経営工学専攻，原子力工学専攻を増設，大学院工学研究科修士課程は計７専攻となる
同　　6月　□会長に五島昇が就任　□理事長に山田秀介が就任
昭和60年 4月　□工学部電気工学科を電気電子工学科と改称
平成元年 9月　□学長に本学教授工学博士古浜庄一が就任
平成 4年 4月　□水素エネルギー研究センター発足
平成 6年 5月　□理事長に堀江音太郎が就任

平成 9年 4月　□環境情報学部環境情報学科を開設，大学は計２学部となる　□工学部に機械システム工学科，電子情報工学科，エネルギー基礎工学科を増設，工学部は計９学科となる　□情報メディアセンター発足
平成10年 9月　□学長に東京大学名誉教授・埼玉大学名誉教授工学博士堀川清司が就任
同　　10月　□環境情報学部が国際規格「環境マネジメントシステムISO 14001」の認証を取得
平成11年 4月　□エネルギー環境技術開発センター発足
平成12年 4月　□産官学交流センター発足
同　　5月　□理事長に秋山壽が就任
平成13年 4月　□大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻を開設，大学院は計２研究科となる　□大学院工学研究科修士課程及び博士後期課程生産機械工学専攻を機械システム工学専攻と改称

平成14年 3月　□１４号館（サクラセンター＃14（新体育館・食堂））完成
同　　4月　□大学院工学研究科修士課程及び博士後期課程土木工学専攻を都市基盤工学専攻と改称，大学院工学研究科修士課程原子力工学専攻をエネルギー量子工学専攻と改称　□工学部土木工学科を都市基盤工学科，経営工学科をシステム情報工学科とそれぞれ改称　□環境情報学部に情報メディア学科を増設，環境情報学部は計２学科となる　□生涯学習センター発足
平成15年 4月　□大学院工学研究科博士後期課程にエネルギー量子工学専攻を増設，大学院工学研究科博士後期課程は計６専攻となる　□工学部電気電子工学科を電気電子情報工学科，電子情報工学科をコンピュータ・メディア工学科，エネルギー基礎工学科を環境エネルギー工学科とそれぞれ改称
同　　5月　□理事長に山口裕啓が就任
平成16年 4月　□総合研究所発足　□９号館（新図書館）完成
同　　9月　□学長に本学教授工学博士中村英夫が就任
同　　10月　□創立７５周年
平成17年 4月　□大学院環境情報学研究科博士後期課程環境情報学専攻を開設
平成18年 4月　□大学院工学研究科修士課程経営工学専攻の学生募集を停止，修士課程及び博士後期課程にシステム情報工学専攻を開設　□大学院全専攻に博士後期課程が設置されたため修士課程の呼称を博士前期課程に変更，大学院博士後期課程及び博士前期課程は計２研究科・８専攻となる
同　　8月　□４号館（新建築学科棟）完成
平成19年 4月　□知識工学部情報科学科，情報ネットワーク工学科，応用情報工学科の３学科を開設，大学は計３学部となる　□工学部に生体医工学科を増設，工学部の電子通信工学科，コンピュータ・メディア工学科，システム情報工学科の学生募集を停止，電気電子情報工学科を電気電子工学科，都市基盤工学科を都市工学科とそれぞれ改称，工学部は計７学科となる
同　　12月　□室蘭工業大学と包括連携協定を締結
平成20年 3月　□昭和大学，多摩美術大学と包括連携協定を締結
同　　4月　□工学部に原子力安全工学科を増設，工学部は計８学科となる　□工学部環境エネルギー工学科をエネルギー化学科と改称

平成21年 4月　□同一法人内の東横学園女子短期大学と統合し，大学名称を東京都市大学と改称　□都市生活学部都市生活学科，人間科学部児童学科を開設，大学は計５学部となる　□大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程電気工学専攻の学生募集を停止，電気電子工学専攻，生体医工学専攻，情報工学専攻を開設，大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程は計９専攻となる　□知識工学部に自然科学科を増設，応用情報工学科を経営システム工学科と改称，知識工学部は計４学科となる
同　　6月　□２号館（生体医工学科棟）完成
平成22年 4月　□大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程エネルギー量子工学専攻の学生募集を停止，エネルギー化学専攻を開設，共同原子力専攻を早稲田大学と共同で開設，大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程は計１０専攻となる
平成23年 4月　□大学院工学研究科博士後期課程及び博士前期課程都市基盤工学専攻を都市工学専攻と改称　□工学部及び知識工学部の情報処理センター，環境情報学部の情報メディアセンターを改編し，情報基盤センター発足
平成23年 5月　□理事長に安達功が就任
平成24年 4月　□共通教育部を設置
平成25年 4月　□大学院環境情報学研究科に修士課程都市生活学専攻を増設，大学院博士前期課程の呼称を修士課程に変更　□環境情報学部環境情報学科及び情報メディア学科の学生募集停止，環境学部環境創生学科，環境マネジメント学科，メディア情報学部社会メディア学科，情報システム学科を新設，大学は計６学部１８学科となる　□工学部生体医工学科を医用工学科と改称，知識工学部情報ネットワーク工学科を情報通信工学科と改称
同　　9月　□学長に東京大学名誉教授・前独立行政法人科学技術振興機構理事長 理工学博士 北澤宏一が就任
同　　12月　□１号館完成
平成27年 1月　□学長に本学副学長工学博士三木千壽が就任

平成２８年度 学年暦

平成２８年度　前期

下表の白抜き部分が授業開講日です。

	月	火	水	木	金	土	日
４月					1	2 入学式	3
	4 5 6 オリエンテーション			7 8 Ｆキャンプ		9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	祝日授業日	30	1
５月	2 振替休校	3	4	祝日授業日	6	7	8
	9	10	11 午後:体育祭	12 体育祭	13	木曜授業日	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	＊休校振替日
	30	31	1	***2***	***3***	***4***	試験予備日
６月	6	7	8	9	10	11 横浜祭・オープンキャンパス	12
	片付日 振替休校	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
７月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	祝日授業日	19	20	21	22	23	＊休校振替日
	25	***26***	***27***	***28***	***29***	***30***	試験予備日
８月	1	2	3	4	5	6 オープンキャンパス	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
９月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18

大学	大学院	主要行事
全学		年度開始 ４月１日(金)
全学		入学式 ４月２日(土)
全学		前期オリエンテーション ４月４日(月)～４月６日(水)
環・メ 工・知 都・人	院環 院工 ――	学生定例健康診断 ４月４日(月)～４月６日(水) ４月５日(火)～４月８日(金) ４月５日(火)～４月６日(水)
全１年	――	フレッシャーズ・キャンプ：休講 ４月７日(木)～４月８日(金)
――	院環	前期履修登録日 ４月１１日(月)～４月１８日(月) 確認日：履修登録時
環・メ	――	４月１５日(金)～４月１８日(月) 確認日：４月２６日(火)～４月２７日(水)
都・人	――	４月１８日(月)～４月１９日(火) 確認日：４月２５日(月)～４月２６日(火)
工・知	院工	４月１９日(火)～４月２１日(木) 確認日：４月２８日(木)～４月２９日(金)
――	全※	学位論文主題等届出締切日 環境情報学研究科：４月２７日(水) 工学研究科　　：４月３０日(土) ※対象：修士２年次・博士後５年次
全学		**祝日授業日**（祝日だが授業を実施） ４月２９日(金)　■5/2 を振替休校日とする
全学		**祝日授業日**（祝日だが授業を実施） ５月５日(木)　■6/13 を振替休校日とする
全学		体育祭（5/12(木)は休講） ５月１１日(水)午後～５月１２日(木)
全学		振替授業　（**木曜日**開講の授業を実施） ５月１４日(土)
――	入試	大学院入学試験（Ａ日程：推薦） 工学研究科　　：５月１８日(水) 環境情報学研究科：５月２１日(土)
――	入試	大学院入学試験（後学期入試：一般） 環境情報学研究科　：５月２１日(土) 工学研究科　　：７月１日(金)～７月２日(土)
全学		***前期前半末試験（前期前半でクォーター開講する授業の試験）*** ***６月２日(木)～４日(土)　※5 日は試験予備日とする***
全学 （横浜キャンパス）		東京都市大学横浜祭　※6/11(土)は全キャンパス授業実施 ６月１１日(土)午後～６月１２日(日) ６月１３日(月)片付日（休校）
全学		オープンキャンパス ６月１１日(土)（横浜キャンパス, 等々力キャンパス） ６月１２日(日)（全キャンパス）
全学		**祝日授業日**（祝日だが授業を実施） ７月１８日(月)　■9/20 を振替休校日とする
全学		***前期末試験　※31 日は試験予備日とする*** ***７月２６日(火)～７月３０日(土)***
全学		夏期休業 ８月１日(月)～９月２０日(火)
全学		オープンキャンパス ８月６日(土)～８月７日(日)（全キャンパス）
全	――	転学部・転学科試験（予定） ９月６日(火)
――	入試	大学院入学試験（Ｂ日程：一般） 工学研究科　　：９月６日(火)～９月８日(木) 環境情報学研究科：９月７日(水)

祝日授業日の注意

祝日だが授業を行う日があり，その振替で休校とする日があります。

祝日だが授業を実施	振替休校日
４/２９(金) ５/　５(木) ７/１８(月)	５/　２(月) ６/１３(月) ９/２０(火)
９/２２(木) １０/１０(月) １０/１７(月) １１/２３(水)	１０/２８(金) １０/３１(月) １２/２４(土) １/１０(火)

振替授業日の注意

５/１４(土)は，木曜日開講の授業を行います。

＊休校振替日

台風等で休校が発生し振替が必要な場合に，授業を行う予備日です。

人間科学部 実習

人間科学部は，以下の実習期間に応じて，別途補講などが指示されます。

実　習　種　類		学年	期　　間
保育実習(1)	保育園	３年	2016/6/13(月)～6/27(月)
	施設	３年	2016/7/ 1(金)～9/19(月)
保育実習(2)	保育園	４年	2016/6/20(月)～7/ 4(月)
保育実習(3)	施設	４年	2016/7/ 1(金)～9/19(月)
幼稚園：観察実習	幼稚園	２年	2017/2/ 6(月)～2/10(金)
幼稚園：責任実習	幼稚園	３年	2017/2/ 6(月)～2/24(金)
幼稚園：責任実習	幼稚園	４年	2016/9/ 5(月)～9/16(金)

大学	大学院	主要行事
全学		後期オリエンテーション ９月２１日(水)
——	全※	学位論文主題仮提出に関するガイダンス　※対象：修士１年次 工学研究科／環境情報学研究科：９月２１日(水)
全学		**祝日授業日**（祝日だが授業を実施） ９月２２日(木)　■10/28 を振替休校日とする
——	院環	後期履修登録日 ９月２６日(月)～１０月１日(土) 確認日：履修登録時
都・人	——	１０月３日(月)～１０月４日(火) 確認日：１０月１０日(月)～１０月１１日(火)
環・メ	——	１０月４日(火)～１０月６日(木) 確認日：１０月１３日(木)～１０月１４日(金)
工・知	院工	１０月７日(金)～１０月１０日(月) 確認日：１０月１７日(月)～１０月１８日(火)
——	全※	学位論文主題仮提出締切日 工学研究科　：１０月１日(土) 環境情報学研究科：１０月５日(水)　※対象：修士１年次
入試	——	ＡＯ型入学試験（２次） １０月８日(土)
全学		**祝日授業日**（祝日だが授業を実施） １０月１０日(月)　■10/31 を振替休校日とする
全学		**創立記念日**（創立記念日だが授業を実施） １０月１７日(月)　■12/24 を振替休校日とする
——	全※	学位請求書・学位論文等の提出に関するガイダンス 工学研究科　：１１月２日(水) 環境情報学研究科：１１月４日(金)　※対象：修士２年次
全学 (世田谷キャンパス) (等々力キャンパス)		東京都市大学世田谷祭／等々力祭 １０月２８日(金)準備日（休校） １０月２９日(土)（休講）～１０月３０日(日) １０月３１日(月)片付日（休校）
入試	——	付属進学制度／編入学試験 １１月１２日(土)
入試	——	指定校推薦入学考査／公募推薦入学試験 １１月１３日(日)
全学		***後期前半末試験（後期前半でクォーター開講する授業の試験）*** ***１１月１５日(火)～１７日(木)　※20 日は試験予備日とする***
全学		**祝日授業日**（祝日だが授業を実施） １１月２３日(水)　■1/10 を振替休校日とする
——	全※	学位論文提出締切日 環境情報学研究科：１１月２８日(月) 工学研究科　：１１月３０日(水)　※対象：博士後５年次
全学		冬期休業 １２月２６日(月)～１月６日(金)
入試	——	外国人留学生入試 １月７日(土)
入試	——	大学入試センター試験：休講 １月１４日(土)～１月１５日(日)
全学		***学年末試験*** ***１月２５日(水)～１月３１日(火)***
——	全※	学位請求書・学位論文等提出締切日　※対象：修士２年次・博士後５年次 工学研究科／環境情報学研究科：１月３０日(月)
入試	——	全学統一入試／一般入試(前期) ２月１日(水)／２月２日(木)～２月４日(土)
——	入試	大学院入学試験（Ｃ日程：一般） 環境情報学研究科：２月１６日(木) 工学研究科　：２月２０日(月)～２月２２日(水)
入試	——	一般入試(後期) ２月２８日(火)
全学		学位授与(博士・修士・学士)資格認定者発表日 ３月１１日(土)
全学		学位授与式 ３月１９日(日)
全学		年度終了 ３月３１日(金)

平成２８年度　後期

下表の白抜き部分が授業開講日です。

	月	火	水	木	金	土	日
９月	19	20 振替休校	21 オリエンテーション	祝日 授業日	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
10 月	3	4	5	6	7	8	9
	祝日 授業日	11	12	13	14	15	16
	17 創立記念日	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	準備日 振替休校	世田谷祭 等々力祭	
	片付日 振替休校	1	2	3	4	5	6
11 月	7	8	9	10	11	12	＊休校 振替日
	14	***15***	***16***	***17***	18	19	試験 予備日
	21	22	祝日 授業日	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
12 月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24 振替休校	25
	26	27	28	29	30	31	1
１月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10 振替休校	11	12	13	14 センター試験	15
	16	17	18	19	20	21	＊休校 振替日
	23	24	***25***	***26***	***27***	***28***	29
	30	***31***	1	2	3	4	5
２月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	1	2	3	4	5
３月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	学位 授与式
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

東京都市大学学則

平成２８年４月

第１章　総則

（目的）

第１条　本大学は，学校教育法に基づき，豊かな教養を授け，深く専門の学術を教授研究し，もって文化の向上に寄与するとともに，人類福祉の増進に貢献することを目的とする。

（自己点検及び評価）

第１条の２　本大学は，教育研究水準の向上を図り，前条の目的及び社会的使命を達成するため，教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価に関する事項は，別に定める。

（名称）

第２条　本大学は，東京都市大学と称する。

（位置）

第３条　本大学は，東京都世田谷区玉堤１丁目２８番１号に置く。

第２章　組織

（学部，学科及び収容定員）

第４条　本大学に，工学部，知識工学部，環境学部，メディア情報学部，都市生活学部及び人間科学部を置く。

２　各学部に設ける学科及び収容定員は，次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	収容定員
工　学　部	機械工学科	１０５	４２０
	機械システム工学科	９０	３６０
	原子力安全工学科	３０	１２０
	医用工学科	５５	２２０
	電気電子工学科	９５	３８０
	エネルギー化学科	７０	２８０
	建築学科	１００	４００
	都市工学科	８５	３４０
	計	６３０	２，５２０
知識工学部	情報科学科	９５	３８０
	情報通信工学科	６０	２４０
	経営システム工学科	７５	３００
	自然科学科	２５	１００
	計	２５５	１，０２０
環境学部	環境創生学科	９０	３６０
	環境マネジメント学科	７０	２８０
	計	１６０	６４０
メディア情報学部	社会メディア学科	９０	３６０
	情報システム学科	９０	３６０
	計	１８０	７２０
都市生活学部	都市生活学科	１５０	６００
人間科学部	児童学科	１００	４００
合　　計		１，４７５	５，９００

（人材の養成及び教育研究上の目的）
第４条の２　第１条を実現するため，各学部と学科における人材の養成及び教育研究上の目的を別表６に定める。

（共通教育部）
第４条の３　本大学に，共通教育部を置く。
２　共通教育部に関する規程は，別に定める。

（大学院）
第５条　本大学に，大学院を置く。
２　大学院の学則は，別に定める。

（図書館）
第６条　本大学に，図書館を置く。
２　図書館に関する規程は，別に定める。

（学生部）
第７条　本大学に，学生部を置く。
２　学生部に関する規程は，別に定める。

（付属施設）
第８条　本大学に，以下の付属施設を置く。
(1) 総合研究所
(2) 情報基盤センター
２　工学部に，原子力研究所を置く。
３　付属施設に関する規程は，別に定める。

（付属学校）
第９条　本大学に，次の付属学校を置く。
(1) 付属高等学校
(2) 付属中学校
(3) 等々力高等学校
(4) 等々力中学校
(5) 塩尻高等学校
(6) 付属小学校
(7) 二子幼稚園
２　付属学校の学則は，別に定める。

第３章　職員

（職員組織）

第１０条　本大学に，学長，教授，准教授，講師，助教，助手，技術職員及び事務職員を置く。

２　前項のほか，副学長を置くことができる。

３　学長及び副学長に関する規程は，別に定める。

４　各学部に，学部長を置く。

５　学部長に関する規程は，別に定める。

（教員資格）

第１１条　各学科の主要な学科目は，各専門分野につき資格を有する専任の教授，准教授，講師又は助教が担当する。

２　各学科の学科目を担当する教員の資格基準及び資格審査に関し必要な規程は，別に定める。

第４章　大学協議会及び教授会

（大学協議会）

第１２条　本大学に，大学協議会を置き，学長の求めに応じ，本大学の運営に関する重要事項を審議する。

２　大学協議会に関する規程は，別に定める。

（教授会）

第１３条　各学部に，教授会を置く。

２　学部長は，教授会を招集し，その議長となる。

３　教授会は，学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し，意見を述べる。

(1) 当該学部における学生の入学，卒業及び学位授与に関すること。

(2) 当該学部における教育研究に関する重要な事項で，学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの。

４　教授会は，前項に規定するもののほか，当該学部の教育研究に関する事項について審議し，学長及び学部長の求めに応じ，意見を述べることができる。

５　教授会には，准教授その他の職員を加えることができる。

６　教授会の運営に関する規程は，別に定める。

第５章　教育課程及び履修方法

（授業科目の区分）

第１４条　工学部にあっては，授業科目を教養科目，体育科目，外国語科目，工学基礎科目，専門科目並びに教職に関する科目，教科に関する科目，教科又は教職に関する科目に区分する。

２　知識工学部にあっては，授業科目を教養科目，体育科目，外国語科目，知識工学基盤科目，専門科目並びに教職に関する科目，教科に関する科目，教科又は教職に関する科目に区分する。

３　環境学部にあっては，授業科目を基礎科目（体育科目・外国語科目・教養科目），専門基礎科目，専門科目（学科基盤科目・学科専門科目）に区分する。

４　メディア情報学部にあっては，授業科目を基礎科目（体育科目・外国語科目・教養科目），専門基礎科目，専門科目（学科基盤科目・学科専門科目），並びに教職に関する科目，教科に関する科目，教科又は教職に関する科目に区分する。

５　都市生活学部にあっては，授業科目を教養科目，外国語科目，体育科目，専門基礎科目，専門科目に区分する。

６　人間科学部にあっては，授業科目を教養科目，外国語科目，体育科目，専門科目並びに教職に関する科目，教科に関する科目，教科又は教職に関する科目に区分する。

（履修単位及び年限）

第１５条　学生は，４年以上在学し，次の区分に従って所定の単位数以上を修得しなければならない。

工学部　機械工学科，機械システム工学科，原子力安全工学科，医用工学科，電気電子工学科，エネルギー化学科

区　　分	卒　業　要　件
教養科目	１０単位
体育科目	２単位
外国語科目	８単位
工学基礎科目	３０単位
専門科目	６０単位
小　　計	１１０単位
自由選択　　※	１４単位
合　　計	１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。

工学部　建築学科

区　　分	卒　業　要　件
教養科目	１０単位
体育科目	２単位
外国語科目	８単位
工学基礎科目	３０単位
専門科目	６７単位
小　　計	１１７単位
自由選択　　※	７単位
合　　計	１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して７単位以上修得しなければならない。

工学部　都市工学科

区　　分	卒　業　要　件
教養科目	１０単位
体育科目	２単位
外国語科目	８単位
工学基礎科目	３０単位
専門科目	６９単位
小　　計	１１９単位
自由選択　　※	５単位
合　　計	１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して５単位以上修得しなければならない。

知識工学部

区　　分	卒　業　要　件
教養科目	１０単位
体育科目	２単位
外国語科目	８単位
知識工学基盤科目	３０単位
専門科目	６０単位
小　　計	１１０単位
自由選択　　※	１４単位
合　　計	１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。

環境学部

区分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	６単位
	教養科目	１０単位
小　　計		１６単位
専門基礎科目		３４単位
小　　計		３４単位
専門科目	学科基盤科目	６０単位
	学科専門科目	
小　　計		６０単位
自由選択科目　　※		１４単位
合　　計		１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
　体育科目の単位は，自由選択に含める。

メディア情報学部

区分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	６単位
	教養科目	１０単位
小　　計		１６単位
専門基礎科目		２０単位
小　　計		２０単位
専門科目	学科基盤科目	７４単位
	学科専門科目	
小　　計		７４単位
自由選択科目　　※		１４単位
合　　計		１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
　体育科目の単位は，自由選択に含める。

都市生活学部

区　　分	卒　業　要　件
教養科目	１０単位
外国語科目	６単位
専門基礎科目	１６単位
専門科目	７８単位
小　　計	１１０単位
自由選択　※	１４単位
合　　計	１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
　体育科目の単位は，自由選択に含める。

人間科学部

区　　分	卒　業　要　件
教養科目	２０単位
外国語科目	
体育科目	
専門科目	９０単位
小　　計	１１０単位
自由選択　※	１４単位
合　　計	１２４単位

※自由選択として，各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。

２　学部の定めるところにより，他学部，他学科で開設する指定授業科目を履修したときは，当該授業科目の単位を卒業に必要な単位として認めることができる。
３　工学部及び知識工学部の学生は，６０単位以上を修得しなければ３年次に進級することができない。
４　環境学部の学生は，２年以上在学し，７０単位以上を修得しなければ事例研究に着手することができない。
５　メディア情報学部の学生は，２年以上在学し，７０単位以上を修得しなければ３年次に進級することができない。
６　工学部及び知識工学部の学生は，３年以上在学し，１００単位以上を修得しなければ４年次に進級し卒業研究に着手することができない。
７　都市生活学部及び人間科学部の学生は，３年以上在学し，１００単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。
８　環境学部及びメディア情報学部の学生は，３年以上在学し，事例研究及び１・２年次の全ての必修科目を含む１００単位以上を修得しなければ卒業研究に着手することができない。

（在学年数及び在学年限）
第１６条　前条における，本大学での在学年数とは，本大学入学後の年数とする。
２　編入学，転入学又は再入学した者の在学年数は，前項の規定にかかわらず前項の在学年数に以下の年数を加えたものとする。
⑴　２年次入学の場合は１年
⑵　３年次入学の場合は２年
３　転学部又は転学科の場合は，転学部又は転学科の学年次にかかわりなく，第１項による。
４　休学期間は在学年数に含めない。
５　在学年数は，８年を超えることができない。
６　工学部，知識工学部及びメディア情報学部については，２年次までの在学年数は，４年を超えることができない。

（科目の履修届出）
第１７条　学生は，履修しようとする科目について，所定の届出をしなければならない。

（教育課程及び単位の計算方法）
第１８条　各学部各学科の教育課程，授業科目の単位数及び授業時間数は，別表１のとおりとし，履修の順序，その他履修方法は，別に定める。
２　本条に規定する各授業科目の単位数は，１単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせ４５時間とし，次の標準により計算するものとする。
⑴　講義及び演習は，１５時間の授業をもって１単位とする。ただし，別に定める授業科目については，３０時間の授業をもって１単位とする。
⑵　実験，実習，製図及び実技は，３０時間の授業をもって１単位とする。ただし，別に定める授業科目については，４５時間の授業をもって１単位とする。
⑶　卒業研究は，３０時間をもって１単位とするが，内容を考慮して定める。

（各授業科目の授業期間）
第１８条の２　各授業科目の授業は，１０週又は１５週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし，教育上必要があり，かつ，十分な教育効果をあげることができると認められる場合は，この限りでない。

（編入学者等の既修得単位の認定）

第１９条　学生が本大学の学部に編入学又は転入学する前に，大学，短期大学，高等専門学校又は専修学校の専門課程において履修した授業科目について修得した単位を，本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　学生が転学部又は転学科する前に所属した学部・学科において履修した授業科目について修得した単位を，転学部又は転学科後の学部・学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

３　前２項の単位認定は当該学部教授会の議を経て行うものとする。

（教育職員の免許状）

第２０条　教育職員免許状の資格を得ようとする者は，卒業に必要な単位を修得するほか，教育職員免許法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

２　前項に定める免許状の種類及び免許教科は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	免許状の種類　　（教科）
工　学　部	機械工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，工業） 中学校教諭一種免許状　（数学，技術）
	機械システム工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，工業） 中学校教諭一種免許状　（数学，技術）
	原子力安全工学科	高等学校教諭一種免許状　（理科，工業） 中学校教諭一種免許状　（理科，技術）
	医用工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，理科） 中学校教諭一種免許状　（数学，理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，理科，工業） 中学校教諭一種免許状　（数学，理科，技術）
	エネルギー化学科	高等学校教諭一種免許状　（理科，工業） 中学校教諭一種免許状　（理科，技術）
	建築学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，工業） 中学校教諭一種免許状　（数学，技術）
	都市工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，工業） 中学校教諭一種免許状　（数学，技術）
知識工学部	情報科学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，情報） 中学校教諭一種免許状　（数学）
	情報通信工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，情報） 中学校教諭一種免許状　（数学）
	経営システム工学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，情報） 中学校教諭一種免許状　（数学）
	自然科学科	高等学校教諭一種免許状　（数学，理科） 中学校教諭一種免許状　（数学，理科）
メディア情報学部	社会メディア学科	高等学校教諭一種免許状　（情報）
	情報システム学科	高等学校教諭一種免許状　（情報）
人間科学部	児童学科	幼稚園教諭一種免許状

３　教職に関する科目，教科に関する科目，教科又は教職に関する科目の単位数及び授業時間数は，別表２のとおりとし，履修の順序，その他履修方法は，別に定める。

（学芸員の資格）
第２０条の２　学芸員の資格を得ようとする者は，卒業に必要な単位を修得するほか，博物館法及び同施行規則に定められている博物館に関する科目の単位を修得しなければならない。
２　前項の博物館に関する科目の単位を修得するために開講する科目及びその単位数は，別表１の知識工学部自然科学科の専門科目教育課程表に定める。
３　第２項の科目の履修に関する規定は別に定める。

（保育士の資格）
第２０条の３　児童学科の学生で保育士の資格を得ようとする者は，卒業に必要な単位を修得するほか，児童福祉法及び同法施行規則に定められている所定の単位を修得しなければならない。

第６章　学年及び休業

（学年）
第２１条　学年は，毎年４月１日に始まり，翌年３月３１日に終る。

（学期）
第２２条　学年を次の２学期に分ける。
前学期　　４月１日から９月２０日まで
後学期　　９月２１日から翌年３月３１日まで

（休業日）
第２３条　休業日は，次のとおりとする。
(1) 日曜日
(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(3) 創立記念日　　１０月１７日
(4) 夏期休業日　　７月２６日から９月２０日まで
(5) 冬期休業日　　１２月１５日から翌年１月１０日まで
２　学長は，必要に応じ当該学部教授会の議を経て，臨時に前項に定める休業日を変更し，又は別に休業日を定めることができる。

第７章　入学，休学，退学及び賞罰

（入学の時期）
第２４条　入学の時期は，学年の始めとする。

（入学資格）
第２５条　本大学１年次に入学できる者は，次の各号の一に該当する者とする。
(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
(2) 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者
(3) 外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(5) 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(6) 文部科学大臣の指定した者
(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
(8) その他本大学において，相当の年齢に達し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願の手続）

第２６条　入学志願者は，指定の期間内に，入学検定料を添えて，所定の書類を提出しなければならない。

２　入学志願の手続きに関し，必要な事項は別に定める。

（入学者の選考）

第２７条　入学志願者に対しては，学力，健康その他について選考の上，入学者を定める。入学者の選考に関し，必要な事項は別に定める。

（入学手続）

第２８条　入学試験に合格した者は，所定の期日までに，本大学の定める入学手続きをしなければならない。

２　学長は，前項の入学手続きを完了した者に，入学を許可する。

３　入学手続きに関し，必要な事項は別に定める。

（編入学及び転入学）

第２９条　次の各号の一に該当する者が編入学又は転入学を願い出たときは，定員を考慮し，選考の上，入学を許可することがある。

(1) 大学（外国の大学を含む。）を卒業した者

(2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者

(3) 短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者

(4) 我が国において，外国の短期大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者（第２５条に定める入学資格を有する者に限る。）

(5) 高等専門学校を卒業した者

(6) 専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（第２５条に定める入学資格を有する者に限る。）

(7) 我が国において，外国の大学相当として指定した外国の学校の課程に在学した者（第２５条に定める入学資格を有する者に限る。）

２　他の大学（外国の大学を含む。）の在学生が，本大学への転入学を願い出たときは，定員を考慮し，選考の上，入学を許可することがある。

（再入学）

第３０条　やむをえない事情で本大学を退学した者が再入学を願い出たときは，定員を考慮し，選考の上，入学を許可することがある。ただし，懲戒による退学者の再入学は許可しない。

（転学部又は転学科）

第３１条　本大学の学生が，本大学の他学部への転学部又は同一学部内の他学科への転学科を願い出たときは，定員を考慮し，選考の上，これを許可することがある。

（休学）

第３２条　やむを得ない理由により長期にわたって修学することができない者は，その理由を詳記した休学願を保証人連署の上，各学期の始めまでに願い出て休学の許可を得なければならない。

２　休学の期間は，原則として１学期または１学年を区分とし，当該年度限りとする。ただし，既に許可を得ている休学期間の延長を希望するときは引き続き許可するが，通算して３年を超えることはできない。

３　前２項にかかわらず，不慮の傷病等特別な事情により，連続して２ヶ月以上修学できなくなった場合，学期途中であっても証明書類を添付して休学を願い出ることができる。

（願いによる退学）

第３３条　病気その他やむをえない事情のため，学業を続ける見込みがないときは，願い出て退学することができる。

（除籍）
第３４条　次の各号の一に該当する学生があるときは，学長は当該学部教授会に諮り，除籍することがある。
(1) 所定の学費を納入しないとき。
(2) 在学年数８年に及んでなお卒業できないとき。この場合の在学年数については第１６条を準用する。

（授賞）
第３５条　学生で，人物及び学業が優秀な者には授賞することがある。

（懲戒）
第３６条　学生で，本大学の規則に違反し，又は学生の本分に反する行為があったときは，学長は当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。
２　懲戒は，譴責，停学及び退学とする。
３　懲戒に関し必要な規程は，別に定める。

第８章　試験及び卒業

（試験の種類）
第３７条　試験を分けて，科目試験及び卒業試験とする。

（試験の方法）
第３８条　科目試験は，所定の期間内に行う。ただし，平常の成績によって考査することがある。

（卒業試験）
第３９条　卒業試験は，論文，設計又は実験報告等につき，その作成経過を加味して行う。

（受験資格）
第４０条　学生は，本学則及びこれに基づいて定められる規程に従って履修した科目についてのみ受験することができる。

（成績の評価）
第４１条　試験の成績は，原則として秀，優，良，可及び不可の５級に分け，秀，優，良及び可を合格とし，不可を不合格とする。

（単位の授与）
第４２条　科目試験に合格した者には，第１８条に掲げる単位を与える。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）
第４３条　本大学は，教育上有益と認めるときは，協議により他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，３０単位を超えない範囲で，当該学部教授会の議を経て，本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）
第４４条　本大学は，教育上有益と認めるときは，学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，当該学部教授会の議を経て，本大学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。
２　前項により与えることのできる単位数は，前条により修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。

（卒業及び学位）

第４５条　本大学に４年以上在学し，第１５条に定める単位を修得し，かつ，卒業試験に合格した者には，当該学部教授会の議を経て，卒業証書を授与する。

２　本大学を卒業した者には，本大学学位規程の定めるところにより以下の学位を授与する。

学部（学科）	学位
工学部	学士（工学）
知識工学部	学士（工学）
環境学部	学士（環境学）
メディア情報学部（社会メディア学科）	学士（社会情報学）
メディア情報学部（情報システム学科）	学士（情報学）
都市生活学部	学士（都市生活学）
人間科学部	学士（児童学）

３　第１項の在学年数については，第１６条を準用する。

第９章　入学検定料，入学金及び授業料

（授業料等）

第４６条　入学検定料，入学金及び授業料の額は，別表３に定める。

２　授業料は，所定の期日までに納入しなければならない。

３　一旦納入した入学検定料，入学金及び授業料は返還しない。ただし，入学手続時の授業料については，所定の期日までに入学辞退の届け出があった場合は返還することがある。

４　休学中の授業料等は，別に定める東京都市大学授業料等納入規程によるものとする。

第１０章　研究生，科目等履修生，外国人留学生，特別研究生及び特別聴講学生

（研究生）

第４７条　本大学において研究を志望する者は，許可を得て，研究生として入学することができる。研究生は，本大学の指定する教授等の指導を受けるものとする。

（研究生の資格）

第４８条　研究生は，本大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者に限る。

（研究生の在学期間）

第４９条　研究生の在学期間は，半年又は１カ年とする。ただし，事情によっては期間の延長を認めることがある。

（研究生の授業料等）

第５０条　研究生は，別表４に定める入学金及び授業料を納入しなければならない。

（研究生の証明書）

第５１条　研究生で，研究について相当の成果を収めた者に対しては，研究証明書を授与することがある。

（科目等履修生）

第５２条　本大学の授業科目中，特定の科目の履修を希望する者があるときは，科目等履修生として入学を許可することがある。

（科目等履修生の資格）
第５３条　科目等履修生は，履修科目を学修し得る能力のある者に限る。

（科目等履修生の在学期間）
第５４条　科目等履修生の在学期間は，１年以内とする。ただし，事情によっては，期間の延長を認めることがある。

（履修料）
第５５条　科目等履修生は，別表５に定める入学検定料，入学金及び履修料を納入しなければならない。

（科目等履修生の証明書）
第５６条　科目等履修生で，履修科目の試験に合格した者に対しては，第４２条に定める規定を準用し，単位修得証明書を授与する。

（外国人留学生）
第５７条　第２５条に定める入学資格を有する外国人で，本大学に入学を志願する者があるときは，選考の上，外国人留学生として入学を許可することができる。
２　外国人留学生に関して必要な事項については，別に定める。

（特別研究生）
第５７条の２　本大学において，他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議により，当該大学等の学生に特別研究生として本大学の指定する教授等の指導を受けさせることがある。
２　特別研究生に関して必要な事項については，別に定める。

（特別聴講学生）
第５８条　本大学において，他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議により，当該大学等の学生に特別聴講学生として本大学の授業科目を履修させることがある。
２　特別聴講学生に関して必要な事項については，別に定める。

（規定の準用）
第５９条　研究生及び特別研究生については，本章に規定する場合のほか，第１５条，第１６条，第２０条，第４２条，第４３条，第４４条及び第４５条を除き，一般学生の規定を準用する。
２　科目等履修生及び特別聴講学生については，本章に規定する場合のほか，第１５条，第１６条及び第４５条を除き，一般学生の規定を準用する。
３　外国人留学生については，第５７条に規定するもののほかは一般学生の規定を準用する。

付　則（平成２８年３月１７日）
この学則は，平成２８年４月１日から施行する。ただし，平成２７年度以前に入学した者については，第４６条第４項の変更を除き従前どおりとする（一部変更（第４条の２，第１５条，第１９条，第２５条，第２９条，第４４条，第４７条,第５９条,第１８条別表１,第２０条第３項別表２）,追加（第５７条の２,第４条の２別表６））。

別表１　教育課程，授業科目の単位数及び授業時間数（学則第１８条）

（省略：該当する学部学科の教育課程表頁を参照）

別表２　教育職員免許状を取得するための教職に関する科目，教科に関する科目，教科又は教職に関する科目（学則第２０条）

（省略：該当する学部学科の教職課程教育課程表頁を参照）

別表３　入学検定料，入学金及び授業料（学則第４６条）

科　　目	学　　部	金　　額	備　　考
入学検定料	全　　学　　部	３５，０００円	大学入試センター試験利用の場合は，１８，０００円
入　学　金	全　　学　　部	２７０，０００円	
授　業　料	工　　学　　部 知　識　工　学　部	１，３４０，０００円	
	環　境　学　部 メディア情報学部	１，２２０，０００円	
	都市生活学部 人　間　科　学　部	１，１００，０００円	

別表４　研究生の入学検定料，入学金及び授業料（学則第５０条）

科　　目	金　　額
入学検定料	６，０００円
入　学　金	６，０００円
授　業　料	半期分　２７０，０００円

別表５　科目等履修生の入学検定料，入学金及び履修料（学則第５５条）

科　　目	金　　額
入学検定料	１２，０００円
入　学　金	１０，０００円
履　修　料	１単位につき　１２，０００円

別表６　人材の養成及び教育研究上の目的（学則第４条の２）

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
工学部		「理論と実践」という教育理念に基づき，現実に即した発想のもとに理論的裏付けを持った実践によって，社会の要請に対応できる技術的能力を備えた人材を養成することを目的とする。
	機械工学科	機械工学の専門知識の修得と実践的学習を通して，工業が自然や人間社会に及ぼす影響を理解しながら問題発見・問題解決をしてもの作りができる能力及び論理的な思考に基づいたコミュニケーション能力を向上させ，社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。
	機械システム工学科	機械工学，電気工学，制御工学の基礎を幅広く学修し，機械システムを設計する実践的な経験を積むことにより，社会の多様な要請に応じた機械システムを構築できる技術者を養成することを目的とする。
	原子力安全工学科	原子力の技術継承という社会・産業界の要請を満たすために，原子核や原子力安全の正しい理論学修に加えて放射線を扱う実務を交えた学修によって，高度の原子力理論及び技術を手掛けることのできる専門性を有する技術者の養成を目的とする。
	医用工学科	工学的分野と医学的分野の両方の知識をバランスよく修得し，生体の機能と構造，及び，疾病病態とその治療に関する総合的な理解を深め，両分野を有機的に融合させることで生体情報機器や先端治療機器の研究開発ができる人材，さらには，医療機器の進歩に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。
	電気電子工学科	電気電子工学の基礎となる知識を十分に修得した上で，幅広く専門知識を身に付け，さらに学生実験や卒業研究を通して実践的な経験をつむことにより，進化する社会の中で技術者として生き抜いていく力を養い，現実に即した発想のもと電気電子分野の知識に基づく理論的裏付けを持った実践によって多彩かつ柔軟に応用できる技術者を養成することを目的とする。
	エネルギー化学科	化学・エネルギーに関連する物質，材料，デバイス及びシステムに関する理解を深めることで高度な専門知識・能力を修得し，化学的な視点に立って環境にやさしいクリーンなエネルギーの創成，変換，貯蔵及び利用に必要な高機能性物質や材料並びにデバイスやシステムの開発に貢献できる人材を養成することを目的とする。
	建築学科	科学技術が高度に発展した現代において，歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し，人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき，自然環境と調和できる建築・都市を実現するために，人間としての幅広い教養，建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い，広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。
	都市工学科	工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた，社会の中核となる人材を育成すること，並びに人間―自然環境―社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し，安全で快適な都市環境の実現に向けて，都市の構築・維持管理，都市環境の改善・創造，及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアを養成することを目的とする。

学部	学科	人材の養成及び教育研究上の目的
知識工学部		２１世紀の知識基盤社会において，高度な科学技術知識を有し，これらを総合的に活用できる人材を養成することを目的とする。
	情報科学科	情報科学に関する専門知識と応用能力を兼ね備え，技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち，世の中の要請に応えるべく，問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けているだけでなく，コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている人材を養成することを目的とする。
	情報通信工学科	情報通信分野において，通信システムを支えるネットワーク，通信機器を構成するエレクトロニクスに関する基礎技術の修得，及び演習・実験，卒業研究などの実践的学習に基づく応用技術の修得を通じて，社会に貢献できる技術者を養成することを目的とする。
	経営システム工学科	数理的分析力や情報処理能力を基盤として，複雑なシステムを分析し，その結果から解決案や新しいシステムをデザインし，それをマネジメントと新しいビジネス展開することを通じて，社会に貢献できるマネジメント能力をもった総合的技術者を養成することを目的とする。
	自然科学科	数学・物理学・化学・生物学・地球科学・天文学といった自然科学に関する幅広い知識の涵養により，総合的な見識と判断力を醸成し，自然科学の学術的発展に寄与する調査分析能力を身につけ，科学と社会の架け橋となって人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。
環境学部		地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え，持続可能な自然環境や都市環境を創造し，経済システムを環境調和型に転換することによって，持続可能社会の実現に寄与することができる人材の養成を目的とする。
	環境創生学科	持続可能な社会の基盤である生態環境と都市環境並びにそれらの相互関係性を理解するとともに，劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって快適で安全な都市空間創造についての理念と方法論を修得し，実社会において持続的な環境を創生する専門家として活躍する人材の養成を目的とする。
	環境マネジメント学科	直面する環境問題は，地球温暖化，廃棄物問題と循環型社会づくり，化学物質の環境リスク，大気と水の保全，生物多様性の減少など，人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような環境問題に対処するために，環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し，持続可能な社会に向けた意思決定を行うことができる人材を養成することを目的とする。
メディア情報学部		人間社会や，情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解し，より良い社会実現に向け，社会的仕組みや情報システムを調査・分析・実現，評価・改善できる人材を養成することを目的とする。
	社会メディア学科	グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを，社会科学的視点から調査分析し，情報メディアを駆使した解決法を編み出し，社会に向けて説得的に提言できる人材，そのために必要な実践力−リサーチ力，デザイン力，コミュニケーション力−を備えた人材を養成することを目的とする。
	情報システム学科	人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として，多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで，優れたシステムを作り上げるとともに，その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。
都市生活学部	都市生活学科	魅力的で持続可能な都市生活の創造のため，生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ，その実現のため事業推進，管理運営を行っていく，企画・実行業務を担う実践力のある人材を養成することを目的とする。
人間科学部	児童学科	いのちを大切にし，平和と環境を保持し，人類の持続可能な発展をもたらすため，「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し，その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。

平成２８年４月

１．東京都市大学 学位規程

制　　定　昭和４１年４月　１日
最新改正　平成２８年２月１５日

東京都市大学 学位規程

（趣旨）

第１条　この規程は，東京都市大学（以下「本学」という。）において授与する学位の種類，論文・特定課題研究報告書審査の方法，最終試験及び学力の確認の方法，その他学位に関し必要な事項を定めるものである。

（学位の種類）

第２条　本学において授与する学位は，学士，修士及び博士とし，その種類は次のとおりとする。

（ 1）学士（工学）
（ 2）学士（環境学）
（ 3）学士（社会情報学）
（ 4）学士（情報学）
（ 5）学士（都市生活学）
（ 6）学士（児童学）
（ 7）修士（工学）
（ 8）修士（理学）
（ 9）修士（環境情報学）
（10）修士（都市生活学）
（11）博士（工学）
（12）博士（理学）
（13）博士（環境情報学）

（学位授与の基準）

第３条　学士の学位は，本学所定の課程を修め，本学を卒業した者に授与する。

２　修士の学位は，広い視野に立って，精深な学識を修め，専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有する者に授与する。

３　博士の学位は，専攻分野について，研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する者に授与する。

（学位授与の要件）

第４条　学士の学位は，本学に４年以上在学し，東京都市大学学則で定める単位を修得し，かつ，卒業試験に合格し，当該学部教授会の議を経て卒業を認められた者に授与する。

２　修士の学位は，東京都市大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）の定めるところにより，大学院研究科の修士課程に所定の期間在学して，３０単位以上を修得し，かつ必要な教育・研究指導を受けた上，本学大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

３　前項の規定において，各専攻で特定課題研究報告書の提出を認められた者にあっては，大学院研究科の修士課程に所定の期間在学して，４０単位以上を修得し，かつ必要な教育・研究指導を受けた上，本学大学院の行う特定課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

４　博士の学位は，大学院学則の定めるところにより，大学院研究科の博士後期課程に所定の期間在学して，２４単位以上を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上，本学大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

５　博士の学位は，前項に規定するもののほか，本学に学位論文を提出して，その審査に合格し，学力試験により，大学院博士後期課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

６　第４項の規定にかかわらず，大学院学則の定めるところにより，大学院工学研究科共同原子力専攻博士後期課程にあっては，所定の期間在学して，必要な研究指導を受けた上，本学大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。

（学位請求の手続）

第５条　修士課程において，学位論文又は特定課題研究報告書を提出しようとする者は，在学期間中に学位請求書を指導教授を通じて学長に提出するものとする。

２　博士後期課程において，学位論文を提出しようとする者は，在学期間中に学位請求書を指導教授を通じて学長に提出するものとする。

３　前条第５項の規定により博士の学位を請求する者は，あらかじめ当該研究科委員会の承認を得た上で，学位請求書，論文の内容の要旨，履歴書及び別に定める論文審査料を添え，学位論文を学長に提出しなければならない。

４　本学大学院研究科の博士後期課程に３年以上在学して退学した者が，再入学しないで博士の学位を請求するときも，前項の規定による。

５　本学大学院博士後期課程に在学中又は退学後，論文を提出し，博士の学位を請求した者の論文審査及び最終試験が退学後１年以内にすべて終了した場合には，前項の規定にかかわらず，前条第４項の規定によることができる。

（学位論文・特定課題研究報告書）

第６条　学士の論文は正編１部，修士の論文又は特定課題研究報告書は正編１部及び写２部，博士の論文は正編１部及び写４部とし，自著であることを要する。ただし，参考論文を添付することができる。

２　審査のため必要があるときは，審査委員会は，論文又は特定課題研究報告書の訳文，模型又は標本等を提出させることができる。

（学位論文・特定課題研究報告書の審査，最終試験及び学力の確認）

第７条　修士及び博士の論文・特定課題研究報告書の審査，最終試験及び学力の確認は，大学院学則第２３条に定める審査委員会がこれを行う。

２　最終試験は，論文又は特定課題研究報告書を中心として，これに関連のある科目及び外国語１種類について行う。

３　試験は，口頭又は筆答あるいはこの両者の方法によって行うことができる。

４　第４条第５項に基づく学力の確認は，試問の方法により行うものとし，試問は，口頭及び筆答により，専攻学術に関し，本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために行い，外国語については１種類を課するものとする。

５　審査委員会は，前項の規定にかかわらず，学位を請求する者の経歴及び提出論文以外の業績を審査して，試問の全部又は一部を行う必要がないと認めたときは，当該研究科委員会の承認を経て，その経歴及び業績の審査をもって，試問の全部又は一部に代えることができる。

６　第５条第４項の規定により学位を請求する者が，退学後３年以内に論文を提出したときは，学力の確認には，試問を免除することができる。

（専攻内判定）

第７条の２　博士後期課程において，工学研究科の専攻主任は，審査委員会の審査結果に基づき，当該専攻の博士論文指導教員会議に諮って学位を授与するか否かを判定する。環境情報学研究科は，大学院教務委員長が審査委員会の審査結果に基づき，博士後期課程指導教員会議に諮って，学位を授与するか否かを判定する。

２　当該指導教員会議の成立は，構成員の４分の３以上の出席を要し，判定は，無記名投票によって行い出席者の３分の２以上の賛成をもって可とする。ただし，会議に出席することのできない構成員は，委任状又は文書をもって出席者とみなし，判定に加わることができる。

（審査期間）

第８条　修士の論文又は特定課題研究報告書は在学期間中に提出させ，その審査及び最終試験は在学期間中に終了するものとする。

２　博士の論文の審査，最終試験及び学力の確認は，論文を受理したのち，１年以内に終了しなければならない。ただし，特別の事由があるときは，当該研究科委員会の議を経て，その期間を１年以内に限り延長することができる。

（研究科委員会への報告）

第９条　審査委員会は，論文・特定課題研究報告書の審査，最終試験及び学力の確認を終了したときは，その結果の要旨に学位を授与できるか否かの意見を添え，当該研究科委員会に文書で報告しなければならない。

２　審査委員会は，論文・特定課題研究報告書の審査の結果，その内容が著しく不良であると認めたときは，最終試験及び学力の確認を行わないことができる。この場合には，審査委員会は前項の規定にかかわらず，最終試験及び学力の確認の結果の要旨を添付することを要しない。

（研究科委員会の議決）

第１０条　当該研究科委員会は，前条の報告に基づいて審議し，学位を授与すべきか否かを議決する。

２　前項の議決には，大学院研究科委員会運営規程第７条第２項の規定にかかわらず，委員総数の３分の２以上の出席を要する。ただし，出張又は休職中のため出席することができない委員は，委員の数に算入しない。

３　学位を授与し得るものとする議決には，出席委員の３分の２以上の賛成を要する。

（学位の授与）

第１１条　学長は，前条の議決に基づき，学位を授与すべき者には，所定の学位記を授与し，学位を授与できない者には，その旨を通知する。

（学位の名称の使用）

第１２条　学位の授与を受けた者が，学位の名称を用いるときは，授与大学名を付記するものとする。

（学位論文要旨の公表）

第１３条　本学は，博士の学位を授与したときは，学位を授与した日から３月以内に，当該論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表しなければならない。

（学位論文の公表）

第１４条　本学において，博士の学位を授与された者は，学位を授与された日から１年以内に，当該論文の全文を，「東京都市大学審査学位論文」と明記して公表しなければならない。ただし，既に公表したときは，この限りでない。

２　前項の規定にかかわらず，博士の学位を授与された者は，やむを得ない事由がある場合，本学の承認を受けて，当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において，本学は，その論文の全文を求めに応じて閲覧に供する。

３　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定による公表は，本学が協力し，インターネットの利用により行う。

（学位授与の取り消し）

第１５条　学位を授与された者が次の各号の一に該当する場合は，学長は，当該学部教授会又は当該研究科委員会の議を経て，学位の授与を取り消し，学位記を還付させ，かつ，その旨を公表する。

(1) 不正の方法によって学位を受けた事実が判明したとき。

(2) 名誉を汚す行為があったとき。

２　当該学部教授会又は当該研究科委員会において，前項の議決を行うには，教授会運営規程及び研究科委員会運営規程の規定にかかわらず，委員総数の３分の２以上の出席を必要とし，かつ，出席委員の４分の３以上の賛成を要する。第１０条第２項のただし書きの規定は，この場合に準用する。

（学位記の再交付）

第１６条　学位記の再交付を受けようとするときは，その理由を記載した申請書に所定の手数料を添えて，学長に願い出なければならない。

（登録）

第１７条　本学が博士の学位を授与したときは，学長は，授与した日から１月以内に文部科学大臣に報告し，学位簿に登録の手続をとらなければならない。

（学位記の様式）

第１８条　学位記の様式は，別表のとおりとする。

（規程の改廃）

第１９条　この規程の改廃は，各学部教授会，各研究科委員会及び大学協議会の議を経て，学長が行う。

［別表：省略］

付　則（平成２８年２月１５日）

この規程は，平成２８年４月１日から施行する。ただし，平成２７年度以前に入学した者については，従前どおりとする。

２．東京都市大学 認定留学に関する規程

制　　定　平成２４年９月１３日

東京都市大学 認定留学に関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は，東京都市大学における認定留学制度に関して，必要な事項を定めるものとする。

（認定留学の定義）

第２条　この規程において「認定留学」とは，海外にある外国の大学において教育を受けることを教育上有益と認め，留学期間を在学期間に算入することができる制度をいう。

２　前項の「外国の大学」とは，学位授与権を有する外国の大学及び大学院，又は，本学の教授会若しくは研究科委員会（以下，「教授会等」という。）が認めた教育機関をいう。

（出願資格）

第３条　本学学部生及び大学院生とする。ただし，学部生は，本学に１年以上在学していなければならない。

（出願手続）

第４条　認定留学を希望する学生は，原則として出国の３ヶ月前までに，次の書類を所属する学部長又は研究科長（以下，「学部長等」という。）に提出しなければならない。

(1) 認定留学願
(2) 留学計画書
(3) 推薦書（クラス担任，指導教員又は教務委員）
(4) 同意書（保護者又は保証人）
(5) 留学先大学の受入承諾書又はそれに相当する書類
(6) 留学先大学の履修要覧，シラバス
(7) 語学能力を証明する書類
(8) その他学部長等が必要と認める書類

（認定留学の許可）

第５条　認定留学の許可は教授会等の議を経て，学長が行う。

（認定留学の期間等）

第６条　認定留学の期間は，半年間又は１年間とする。

２　認定留学の期間は，在学期間に算入することができる。

３　認定留学の始期は，原則として４月又は，９月とする。

（終了手続）

第７条　認定留学を終了し帰国した学生は，帰国の日から１ヶ月以内に，次の書類を所属する学部長等に提出しなければならない。

(1) 留学終了届（パスポートの写しを添付）
(2) 単位認定願
(3) 留学先大学が発行した履修科目の成績証明書又はこれに準ずるもの
(4) 留学先大学が発行した履修科目の時間数又は単位数を証明する書類
(5) その他学部長等が必要と認める書類

（単位認定）

第８条　認定留学期間に修得した単位の認定は，学則第４３条又は，大学院学則第１６条第３項の規定に準ずるものとする。

（科目履修上の特別措置）

第９条　認定留学を許可された学生が通年授業科目を履修する場合，出国年度前期に履修していた科目を次年度後期に継続履修できるものとする。

２　前項に定める特別措置を希望する学生は，出国前に「継続履修願」を所属する学部長等に提出しておかなければならない。

３　所属する学科，専攻の研究指導を要する科目等については，科目担当教員の承諾を得て，学部長等の許可を受けた場合，認定留学中も当該科目の学修を行うことにより，履修したものとみなすことができる。

（認定留学中の授業料等）

第１０条　認定留学期間における本学の授業料等は，全額納入しなければならない。

（認定留学許可の取消し）

第１１条　次の各号の一に該当する場合，教授会等の議を経て，学長が認定留学を取り消すものとする。

(1) 提出書類に虚偽の記載があった場合
(2) 学生査証が得られなかった場合
(3) 学生としての本分に反した場合
(4) 修学の成果があがらないと認められる場合

（規程の改廃）

第１２条　この規程の改廃は，国際委員会，教務委員会，各教授会，共通教育部会議及び各研究科委員会の議を経て，学長が行う。

付　則（平成２４年９月１３日）

この規程は，平成２５年４月１日から施行する。

３．東京都市大学 学生の懲戒に関する規程

制　　定　平成２７年1月１９日

東京都市大学 学生の懲戒に関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は，東京都市大学学則及び東京都市大学大学院学則に規定する懲戒に関して，必要な事項を定めるものとする。

（適用等）

第２条　この規程は，本大学及び本大学院に在籍する学生に適用する。

２　学生には，研究生および科目等履修生等を含む。

（懲戒の種類）

第３条　懲戒の種類は，次の各号に定めるとおりとする。

(1) 譴責　学生の行った非違行為を戒め，事後の反省を求めるため反省文を徴するとともに，将来にわたってそのようなことのないよう，口頭および文書により説諭すること。

(2) 停学　無期または一定の期間，出校を認めず，学生の教育課程の履修および課外活動を禁止すること。

(3) 退学　本学における修学の権利を剥奪し，学籍関係を一方的に終了させること。

（試験等において不正行為を行った者への懲戒）

第４条　大学内で実施される試験等における不正行為は，懲戒の対象となる。

２　懲戒の対象となる具体的な行為や処分内容は別に定め，あらかじめ学生に周知するものとする。

（大学内外において非違行為等を行った者への懲戒）

第５条　大学内外における非違行為等は，懲戒の対象となる。

２　懲戒の対象となる具体的な行為は別表１のとおりとし，処分内容は当該事案の内容に応じて決定する。

（学業不振等で成業の見込みのない者への懲戒）

第６条　学業不振で成業の見込みのない者は，懲戒の対象となる。

２　懲戒の対象となる具体的な状況は別表２のとおりとし，処分内容は当該事案の内容に応じて決定する。

（報告の手続）

第７条　本学教職員が第４条，第５条及び第６条に該当する行為を発見した場合は，学生支援センター又は当該事案に係る担当事務局（以下「担当事務局」と言う。）に報告しなければならない。

２　担当事務局は，必要に応じて，当該学生の所属する学科等主任，関係部署又は関係者に報告するものとする。

（懲戒行為の確認）

第８条　担当事務局は，当該学生及び当該事案に係る関係者立ち会いの下で，状況または事実関係の確認を行うものとする。

２　確認した内容は，必要に応じて調書を作成し，学長に報告するものとする。

（懲戒処分の検討）

第９条　学長は，懲戒処分を決定するに当たって，当該事案の内容に応じて，当該学生の所属する学科等会議，教務委員会，学生部委員会等（以下「委員会等」と言う。）から適切な委員会等を指定し，懲戒処分案を検討させるものとする。

２　学長から指定された委員会等は，第３条に定める懲戒に付随して，相応の処分案を作成し，学長に報告するものとする。

（懲戒処分の決定）

第１０条　懲戒処分の決定は，学長から指定された委員会等がまとめた懲戒処分案について，当該学生の所属する学部教授会又は研究科委員会で審議した上で，大学協議会の議を経て，学長が行う。

２　奨学金等の受給あるいは受給資格を有している学生が懲戒処分を受けた場合，その権利・資格を取り消される場合があるものとする。

（懲戒処分の言い渡し）

第１１条　学長は，懲戒処分の決定後，当該学生に対して速やかに懲戒処分の言い渡しを行うものとする。

２　懲戒処分の言い渡しは，学長の委任により学部長等が行う場合がある。

３　担当事務局は，懲戒処分の内容を当該学生の保証人に対して通知しなければならない。

（懲戒処分の学内公示）

第１２条　担当事務局は，懲戒処分の言い渡し後，速やかに学内の所定の場所に懲戒処分内容を公示しなければならない。

２　前項の公示期間は，１週間以上とする。

（停学の解除）

第１３条　懲戒処分を行うに当たって学長から指定された委員会等は，停学処分期間中の学生において停学を解除する相当の理由が生じたと認められたときは，学長に意見を上申することができるものとする。

２　学長は，前項の上申に基づき，第９条，第１０条及び第１１条を準用して，停学を解除することができる。

（雑則）

第１４条　この規程に定めるもののほか必要な事項は，大学協議会の議を経て，学長が定める。

（規程の改廃）

第１５条　この規程の改廃は，大学協議会の議を経て，学長がこれを行う。

付　則（平成２７年１月１９日）

この規程は，平成２７年４月１日から施行する。

東京都市大学 学生の懲戒に関する規程

別表１　大学内外における非違行為等とする具体的事例（第５条）

非違行為の内容	具体的事例
（１）犯罪行為	殺人，強盗，強姦等の凶悪な犯罪行為または犯罪未遂行為 傷害行為 薬物犯罪行為 悪質な原因行為による交通事故 窃盗，万引き，詐欺，他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為 わいせつ行為（痴漢，覗き見，盗撮行為その他の迷惑行為を含む） ストーカー行為 その他刑法等に抵触する行為
（２）学則またはそれに準じて定められた規程・規則等に対する違反行為	学則・各種規程に反する行為 大学が掲示した通達等に反する行為
（３）大学の秩序を乱し，教育および研究活動に対する妨害行為	本学の教育研究または管理運営を著しく妨げる暴力行為 本学が管理する建造物への不法侵入またはその不正使用もしくは占拠 本学が管理する建造物または器物の破壊，汚損，不法改築等 本学が管理するシステムに重大な損害又は不利益を与える行為 本学構成員に対する暴力行為，威嚇，拘禁，拘束等 キャンパス・ハラスメントに該当する行為
（４）大学の教育・研究施設において利用目的に反して行われた不正利用行為	正当な手続きを行わずに大学の教育・研究施設を不正に利用する行為 コンピュータまたはネットワークの不正に使用する行為
（５）学生の本分を逸脱し，本学の名誉を傷つける行為	第三者を誹謗中傷する行為 第三者のプライバシーを侵害する行為 本学の社会的信用を失墜させる行為
（６）その他，公序良俗に反する行為	

別表２　学業不振等で成業の見込みがないとする具体的事例（第６条）

（１）性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（２）学業不振で成業の見込みがないと認められる者
（３）正当の理由がなくて出席常でない者

４．東京都市大学 授業料等納入規程

制　　定　平成　５年１１月１８日
最新改正　平成２８年　３月　８日

東京都市大学 授業料等納入規程

（趣旨）
第１条　東京都市大学学則第 46 条及び東京都市大学大学院学則第 43 条に基づく授業料等の納入に関しては、この規程の定めるところによる。

（授業料の納入額）
第２条　授業料の納入額は、学則の定めによるものとする。
２　編入学、転入学、再入学、転学部又は転学科による入学者の授業料の納入額は、入学、転学部又は転学科を許可された年次の在学生に適用される学則の定めによるものとする。

（納入期限及び分納）
第３条　授業料は、原則としてその年度分の全額を４月３０日までに納入するものとする。
２　授業料は、前学期分及び後学期分の２回に分納することができる。
３　分納する場合の納入期限は、前学期分を４月３０日までとし、後学期分を１０月２０日までとする。
４　納入期限が日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日又は土曜日に当たるときは、その前日までとする。

（新たに入学等を許可された者の納入）
第４条　新たに入学等を許可された者の授業料の納入は、前条の規定にかかわらず、入学手続き等の定めによるものとする。

（納入期限の延長）
第５条　経済的な事由あるいは災害の発生、その他やむを得ない事情により、授業料を納入期限までに納入できない者は、願い出により、納入期限の延長を許可する場合がある。
２　納入期限の延長が認められる期限は、前学期分を７月３１日までとし、後学期分を１月３１日までとする。

（督促）
第６条　この規程に定める納入期限までに授業料が納入されなかった場合は、督促を行う。
２　督促は、前学期は５月及び７月、後学期は１１月及び１月に行う。
３　督促は、保証人への督促通知状によって行う。

（休学者の授業料）
第７条　休学者については、休学期間中の授業料を免除し、その期間の在籍料として授業料の２分の１相当額を納入するものとする。ただし、休学理由が傷病、経済的困窮、介護、その他の特別な事情の場合は、審査の上、在籍料を１か月当たり１万円とする場合がある。

（停学者の授業料）
第８条　停学者の停学期間中の授業料は、減免しないものとする。

（再入学の場合の制限）
第９条　退学者が再入学を希望した場合は、授業料を納入した期間を在学していた期間とみなす。

（未納者の処置）
第１０条　授業料を納入期限までに納入しない者に対しては、次の各号に定める処置を行うものとする。
(1) 成績の無効処理
　授業料を納入しない学期の成績は無効とする。
(2) 除籍
　東京都市大学学則第３４条又は東京都市大学大学院学則第３８条に基づき、前学期分の未納者は８月３１日、後学期分の未納者は２月２８日をもって除籍とする。

（所管部署）
第１１条　この規程の所管部署は、事務局総務部財務課とする。

（規程の改廃）
第１２条　この規程の改廃は、大学協議会の議を経て学長の具申により理事長が行う。

付　則（平成２８年３月８日）
この規程は、平成２８年４月１日から施行する。

５．東京都市大学 情報システム利用規則

制　　定　平成２６年1月２０日

東京都市大学情報システム利用規則

（趣旨）

第１条　この規則は，東京都市大学情報基盤センター規程第１１条に基づき，東京都市大学情報システム（以下「情報システム」という。）の利用に関する事項を定める。

（利用者の資格）

第２条　情報システムを利用できる者は，次の各号の一に該当する者とする。

(1) 東京都市大学（以下「本学」という。）の学生及び教職員

(2) 本学以外の学校法人五島育英会の教職員

(3) その他情報基盤センター所長（以下「所長」という。）が許可した者

（申請）

第３条　利用者は，情報システムの各種サービスを受ける場合，情報基盤センターに申請し，承認を得ることとする。ただし，本学の学生及び教職員は，所定の手続きなしにサービスの一部を教育・研究及び大学運営の枠内で利用できるものとする。

２　利用可能なサービスは別に定める。

（利用の許可等）

第４条　前項の利用者の利用期間は，在学，在籍期間を原則とする。ただし，所長が大学の運用に必要と認めたときは，その期間を延長できる。

２　利用者は，アカウントなどの利用許可を得た情報を第三者に利用させてはならない。

（変更の届出）

第５条　利用者は，申請事項に変更があったときは，速やかにその旨を届け出るものとする。

（利用規範）

第６条　利用者は，東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシーの理念を理解し，遵守に努めることとする。

（禁止事項）

第７条　本学における教育・研究及び大学運営以外の利用を禁ずる。

２　文書・画像・ソフトウェア・その他の著作物に対する知的財産権や肖像権等の第三者の権利を犯すことを禁ずる。

３　公序良俗に反する文書・画像・ソフトウェア・その他の情報を公開あるいは仲介することを禁ずる。

４　個人情報保護法，不正アクセス禁止法，及びその他の法律に違反又はそのおそれのある行為に加担することを禁ずる。

５　情報システムに危害を加える行為を禁ずる。

６　情報システムが接続する外部ネットワークの利用規定に違反する行為を禁ずる。

７　その他，本学が不適切と判断した情報を発信又は仲介することを禁ずる。

（違反行為の処置）

第８条　前条の項目に違反する利用については，情報基盤センター運営会議（以下「会議」という。），リスク管理委員会，学生部委員会，又は当該設備等の管理者が調査し，差し止めることがある。

２　学生の本分を外れていると認められる行為に関しては，学則に照らして停学・退学等の処分を行うことがある。

３　不適切な利用に起因する損害等の責任は，当該利用者に帰するものとする。

（対外的な対処）

第９条　会議，前条に規定する各委員会，又は当該設備等の管理者は，外部からの苦情等に対して調査をした上で，上長の指示に基づき適正な対処を取ることとする。

（その他）

第１０条　この規則に定めるもののほか，情報システムに関して必要な事項は，別に定める。

（規則の改廃）

第１１条　この規則の改廃は，会議の議を経て所長が行う。

付　則（平成２６年１月２０日）

１　この規則は，平成２６年４月１日から施行する。

２　この規則の制定により，東京都市大学情報基盤センター利用規則及び東京都市大学情報ネットワーク利用規則を廃止する。

６．東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシー 基本方針

制　　定　平成２５年２月１８日
最新改正　平成２５年７月１５日

東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシー 基本方針

（基本理念及び目的）

第１条　情報資産は，東京都市大学（以下「本学」という。）にとって重要な資産である。本学は教育・研究を理念としており，この理念を達成するため情報資産を保有し，収集，格納，活用という手段に依存している。情報資産が守られなければ，本学の教育・研究活動の停滞，本学に対する信頼の喪失などといった被害を受けたり，加害者となる可能性がある。したがって，教職員，学生，及びすべての関係者が不断の努力をもって，本学の情報資産の機密性，完全性，可用性に配慮し，保全しなければならない。そのために，情報を取り扱う教職員，学生，及びすべての関係者がそれぞれの役割の中で,遵守すべき情報セキュリティ対策の包括的な基準として,「東京都市大学の情報システムに関する情報セキュリティポリシー」（以下「ポリシー」という。）を策定し，それに準拠した実施手順等を定め運用することにより，必要な情報セキュリティを確保することとする。

（役割と位置づけ）

第２条　ポリシーとは，この基本方針及び別に定める情報セキュリティポリシー対策基準のことをいい，本学の情報及び情報システムに関する情報セキュリティ対策について，包括的，体系的に取りまとめたものであり，情報セキュリティ対策文書の最高位に位置する。また，ポリシーは，本学が保有する情報資産を正しく取り扱うこと，学長を筆頭にすべての構成員に，情報を正しく取り扱うための指針となる役割を持っている。

（見直しと更新）

第３条　本学の情報資産を守るためには，常に最新の情報を取得し，適切な物理的・人的・技術的セキュリティが実施されているか定期的に調査・監督を実施しなければならない。改善が必要と認められた場合は，速やかにポリシーの更新を行わなければならない。

（法令等遵守）

第４条　情報及び情報システムの取り扱いに関しては，法令及び規則等（以下「関連法令等」という。）においても規定されているため，情報セキュリティ対策を実施する際には，ポリシーのほかに関連法令等（個人情報保護法，不正アクセス禁止法等）を遵守しなければならない。

（適用対象範囲）

第５条　ポリシーは,「情報資産」を守ることを目的に作成されている。ポリシーにおいて対象とする「情報資産」は,次に掲げるものとする。

(1) 対象となる情報は，電子化された情報すべてとする。
(2) 対象となる情報システムには，情報を電子的に処理するためのハードウェア，ソフトウェア，ネットワークのほか，運用管理及び保守に必要な電子化された文書も含む。

（適用対象者）

第６条　ポリシーは，第５条に掲げる情報及び情報システムを取り扱うすべての構成員に適用する。ここでいう構成員は，教職員，非常勤講師，学部学生，大学院学生，研究生，科目等履修生，特別聴講学生等の大学構成員と委託業者，来学者等とする。

（評価）

第７条　この基本方針及び情報セキュリティ対策の評価，情報システムの変更，新たな脅威の発生等を踏まえ，ポリシー及びそれに基づく実施手順の点検･評価を定期的に実施して見直しを図ることとし,このために必要な措置を規程する。

（用語の定義）

第８条　ポリシーにおける用語の定義は，JISQ27001，JISQ27002 に準ずる。

（基本方針の改廃）

第９条　この基本方針の改廃は，情報基盤センター運営会議が発議し，大学協議会の議を経て，学長が行う。

付　則（平成２５年７月１５日）

この基本方針は，平成２５年４月１日から適用する。

メディア情報学部

メディア情報学部　理念・目的等

情報通信技術の急速な発展と普及に伴って社会構造が大きく変容したために、従来からの社会的諸問題の位相が変化し、あるいは新たな諸問題が生まれてきている。このような社会と技術の流れの中から発現する課題に情報通信技術を駆使して取り組み、解決策を社会に発信していく人材の重要性が高まっている。これらの課題は、従来の工学的要素技術の教育・研究では解決が困難であり、社会的事象を分析・評価する視点や技術を利用者の立場から総合的に捉える視点がより必要になってきている。

メディア情報学部は、「社会メディア学科」及び「情報システム学科」の２学科を設置することにより、上記の必要性に応えるものである。**「社会メディア学科」**は、環境問題や国際問題などのグローバルな諸問題から、都市・コミュニティの再生、合意形成、身近なコミュニケーションに至る課題を対象に、社会科学的視点から、情報メディアを駆使して解決を図ることを目指す。そのために、調査分析力(リサーチ力)と課題解決方法を提言するためのアイデア構築・表現力(デザイン力)が身に付く実践的な教育を重視したカリキュラムを展開する。また、**「情報システム学科」**は、人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える、安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組む。優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の育成を目指す。そのために、個人から企業・組織レベルまで多様なニーズを汲み上げる調査・分析、企画・評価と実現・改善という情報化社会のイノベーションを促進する戦略的 ICT アセスメント力と、ニーズにあった情報システムをデザインし、これを作り上げる情報システム要素技術を統合できるプログラミング力を涵養できる教育を展開する。

メディア情報学部：人材の養成及び教育研究上の目的

人材の養成及び教育研究上の目的	人間社会や，情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解し，より良い社会実現に向け，社会的仕組みや情報システムを調査・分析・実現，評価・改善できる人材を養成することを目的とする。（学則 第４条の２より）

技術と社会の両面から、新たな情報社会を創り出す

メディア情報学部長　　中村 雅子

本学部は 2013 年 4 月に生まれたばかりの若い学部です。みなさんがこのキャンパスで学ぶことに誇りをもち、教職員と力を合わせて新たな学部の伝統を創っていってくれることを強く期待しています。

近代の科学技術の発展は、私たちに今日の豊かな物質文明をもたらしました。私たちはその恩恵を受けて、一世紀前の人びとから見れば、はるかに豊かで快適な社会に生きています。しかし一方で、今日、私たちは、科学技術の発展がすべてを解決するわけではなく、むしろ諸刃の刃となって、環境破壊や国際的な格差の拡大のように、私たちの生を今までになく脅かし、互いの対立を深めるものでありうることにも気づきつつあります。

この 20 年ほどの間に、急速に発展してきた情報コミュニケーション技術も、もちろん例外ではありません。情報コミュニケーション技術は、広範な情報ネットワークの構築を可能にし、世界中の情報がリアルタイムに把握できるようになり、人びとに今までにない情報発信の手段を与えました。しかしその一方で、インターネットを代表とする情報コミュニケーション技術で結ばれた世界は、必ずしも 1980 年代までに思い描かれていたようなユートピアではありません。むしろ、異なる文化や歴史を持つ人びとの間の行き違いや敵意が瞬時に増幅して伝わり、互いの溝を深めたり、個人情報の漏洩や匿名性に関わる犯罪が生まれたり、情報システムが人びとの活動を合理化するどころか、活動を阻害したり、人びとへの行き過ぎた監視・管理の道具として機能したり、といった新たな軋轢や深刻な社会問題が生じる例もあります。また、情報コミュニケーション技術の発展は、社会構造にも深い変化を与え、従来からの社会的諸問題の位相も変化しています。

このような社会と技術の流れの中から発現する課題は、単にテクノロジーを敵視し、排除すれば解決するものではありません。また逆に、従来の工学的要素技術の教育・研究だけでも解決が困難です。社会的事象を分析・評価する力、そしてテクノロジーを深く理解した上で利用者の視点から総合的に捉える力が、今まで以上に強く求められています。

本学部では、このような社会の要請に応え、「コミュニケーション」をキーワードに、国際問題から日々の暮らし・人間関係まで、さまざまな場面で生じる社会問題や、生活の隅々まで浸透してきた情報システムに関わる諸問題に取り組みます。

そのために、本学部は他にあまり例のないユニークな特色を持っています。

その一つは、同じ「コミュニケーション」に取り組む中でも、二つの異なる専門性を持つ学科が協力して学部を形作っていることです。

社会メディア学科は、環境問題や国際問題などのグローバルな諸問題から、都市・コミュニティの再生、合意形成、身近なコミュニケーションに至る課題を対象に、社会科学的視点から、解決を図ることを目指します。そのために、情報メディアを駆使できる能力、調査分析力（リサーチ力）、さらに課題解決方法を提言するためのアイデア構築・表現力（デザイン力）が身に付く実践的な教育を行います。

情報システム学科は、さまざまなニーズを汲み上げ、問題点を把握して、安全で安心な情報システムの実現に向けて取り組みます。優れたシステムを作り上げる要素技術だけではなく、その必要性を戦略的に提言・説明し、実現に向けマネジメントできる ICT アセスメント力を持った人材を育成します。

異なる専門性を持ちながらも、変化・発展するコミュニケーション環境や情報環境，社会環境のもとで、社会を読み解き，「技術と社会の両面から，新たな情報社会を創り出す」という点で、両学科は共通の目的意識を持っています。互いの専門性も学びつつ、互いに異質な背景の専門性を生かして協力しつつ、新しい社会的仕組みや情報システムをデザイン・実現する力を身につけた学生を社会に送り出すことを目標としています。この学部自体が、異なる専門性の間の有機的な相互作用を目指すという、重要な挑戦を行なっていると言ってもいいかもしれません。

本学部の前身である環境情報学部情報メディア学科は、同様に環境学部となった同環境情報学科とともに、環境と情報に関わる２１世紀の課題を克服するというミッションを共有して教育研究活動を進めてきました。横浜キャンパスはその伝統を受け継いでおり、学部を超えて集う、文系分野を得意とする学生と理系分野を得意とする学生、そして多様な専門性をもつ教員との交流ができるという環境は、きっとみなさんの考え方や感覚を豊かにしてくれることでしょう。

また横浜キャンパスは、環境に配慮したエコキャンパスとして、さらに、常に最新の高度な情報システムを備えたサイバーキャンパスとして設計されています。最新の情報ネットワーク設備を存分に活用して、情報に関する知識や技術を習得することはもちろんのこと、それら身につけた知識や技術を、ぜひ自分だけでなく仲間のため、社会のために活かす精神も養って下さい。

横浜キャンパスでは、従来より、国内外の各種組織や機関、行政組織と連携して多くのプロジェクトを推進しています。正課授業に限らず、これらにも積極的に参画していろいろな体験をし、多くのことを学ぶ機会として活用してください。これらの環境と情報に関する恵まれた環境や幅広い人的資源と組織ネットワークを活用して、自分がやりたいことに積極的に取り組み、有意義な学生生活を送ることを教職員一同、願っています。

大学での学びと高校までとの大きな違いは、大学では自ら主体的に学び、自らを育てる力を身に付けることを強く求められているという点です。その機会は無限に用意されています。学問領域について学ぶだけでなく、大学生活全体の中で、良い師や仲間を得て生涯にわたる友情やネットワークを育み、その後の人生に向けて、やりがいの感じられる進路を見出すことのできる四年間を過ごして下さい。

メディア情報学部：カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

メディア情報学部

カリキュラムポリシー　教育課程の編成方針

幅広い視野と教養を身に付けるために、全学共通科目として、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目をおく。

1．情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学および情報科学の視点で修得させることを目的として専門基礎科目を設置する。
2．学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、専門科目を設置する。学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目をおき、社会環境、情報環境などを調査・分析し、解決に向けた提言、構築ができる基礎能力を身に付けることができる構成とする。
3．学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。
4．学科専門科目では、専門分野を両学科とも２分野に区分し、それぞれ独自の専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。
5．専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。３年次の事例研究および４年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。

社会メディア学科

カリキュラムポリシー　教育課程の編成方針

1．幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目をおく。
2．情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学のみならず情報科学の視点からも修得させること、また環境改善取組み ISO14001 を習得させるための環境マネジメントを学習することを目的として専門基礎科目を設置する。
3．学科に関わる専門的な方法論と知識の修得に関しては、“情報化”や“コミュニティ”を社会や生活者の目で捉え、問題の発見・分析・解決を目指すのに必要な科目を設置する。また、様々な文化背景を持つ人々が集まる現代社会において円滑なコミュニケーションを図るのに必要な知識・スキルを身に付けるための科目を設置する。
4．学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。学科基盤科目は、社会メディアに関連する社会学・心理学・認知科学等関連領域の理論や基礎知識、思考・発想法、基礎的スキル、方法論、情報表現・デザイン関連科目から構成される。
5．学科専門科目では、専門分野を「コミュニティデザイン分野」と「人間コミュニケーション分野」の２分野に区分し、それぞれ独自の専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。
6．専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。３年次の事例研究および４年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。

情報システム学科

カリキュラムポリシー　教育課程の編成方針

1．幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目をおく。
2．情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学と情報科学の視点から修得させること及び環境改善取組み ISO14001 を習得させるための環境マネジメントを学習することを目的として専門基礎科目を設置する。
3．学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、情報システム構築に必要な科目と情報システムや情報サービスの分析、評価を行うために必要な科目を設置する。学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目をおき、ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査、分析、評価、改善できる基礎的能力を身に付けることができる構成とする。
4．学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。学科基盤科目として、情報システムを実現する上で必要とされる数学に関する標準的な科目とプログラミング教育を重視する観点から、C 言語と JAVA を学修する科目を配置する。さらに、データマイニングを含む情報学の基礎を学ぶ科目、LAN を実際に構築する演習科目やコンピュータネットワーク及び画像・音等のメディア情報処理に関する科目と ICT 技術革新とそれが社会に与えたインパクトを分析・検証する科目から構成する。
5．学科専門科目では、専門分野を「システムデザイン分野」と「ICT アセスメント」の２分野に区分し、情報システムをデザインし、これを作り上げる情報システム要素技術を統合できる能力を養う専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。
6．専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。３年次の事例研究および４年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。

ディプロマポリシー　学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに、学部・学科の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数を修得したものに、社会メディア学科においては学士（社会情報学）を、情報システム学科においては学士（情報学）の学位を与える。

１．各学科が設定した専門分野とそれに関連した領域の学識を身に付け、情報と社会に係る自然科学・社会科学両面からの研究ができる。
２．情報と社会に関連する幅広い教養を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。
３．社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析し、評価する能力を持ち、課題解決に向けて、プロトタイプの提言・構築を行うことのできる基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を身に付けている。

ディプロマポリシー　学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（社会情報学）の学位を与える。

１．学科が設定した専門分野とそれに関連した領域の学識を身に付け、広い範囲の社会領域の事象に対し社会科学的方法論に基づく研究ができる。
２．社会と情報に関連する幅広い教養を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。
３．社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析し、評価する能力を持ち、課題解決に向けて、プロトタイプの提言を行うことのできる基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を身に付けている。

備考

１．参照基準
学科設置申請時に、学校教育法第８３条、第１０８条、学校教育法施行規則第１６３条、大学設置基準第１９条～第２３条、第４３条第１項に基づき、教育課程編成を行った。
また、学部・学科の教育目標を達成するために、アクティブラーニング、課題解決型学習（PBL）、サービスラーニングを重視し先進的に取り組んでいる。
２．到達目標
卒業後の進路別（「ウェブデザイン、ウェブサービス系企業、広告系企業など」を目指す場合、「マスコミ、企業の企画・調査・マーケティング部門など」を目指す場合、「情報サービス系企業コミュニティビジネスなど」を目指す場合）に、履修モデルを作成し、学習要覧に記載している。

ディプロマポリシー　学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（情報学）の学位を与える。

１．学科が設定した専門分野とそれに関連した領域を学習し、ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査、分析、評価、改善できる基礎的能力を修得している。
２．プログラミング言語の基礎から画像・音等のメディア処理、データマイニングを含む情報学の基礎及び LAN などのネットワークの基礎を理解し、社会において情報技術を活用できる能力を修得している。
３．情報システムやサービスに関して、ユーザのニーズを調査・分析し、評価する能力を持ち、課題解決に向けて、提言できる能力を修得している。

備考

１．参照基準
学科設置申請時に、学校教育法第８３条、第１０８条、学校教育法施行規則第１６３条、大学設置基準第１９条～第２３条、第４３条第１項に基づき、教育課程編成を行った。
また、学部・学科の教育目標を達成するために、アクティブラーニング、課題解決型学習（PBL）、サービスラーニングを重視し先進的に取り組んでいる。
２．到達目標
卒業後の進路別（「ICT 系・メディア系・一般企業の情報システム開発部門」を目指す場合、「ICT 企業の IT マネジメント部門、システムコンサルタント系」を目指す場合）に、履修モデルを作成し、学習要覧に記載している。

履　修　要　綱

「履修要綱」は、本学学則第５章「教育課程及び履修方法」および、第８章「試験及び卒業」に基づいて定められたものである。従って、学生は授業を受けるにあたっては、自己の責任において、特にこれを熟読しなければならない。

１．単位について

①単位制度

各学部の「教育課程」は、大学設置基準によるところの「単位制度」に基づいて編成されており、学修の基本でもあるので、各自「単位制度」の本質を十分に理解する必要がある。

単位は履修した科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるもので、そのレベルに達するためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、「予習」、「復習」、「宿題」などの自学自習を必要とする。

各学部の授業は**「講義」、「演習」、「実習および実技」**等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、１単位の履修時間を教室内及び教室外を合せて４５時間として、学則第１８条「教育課程及び単位の計算方法」の標準に従って計算されるが、環境学部およびメディア情報学部では、講義については、１回（１時限）の授業に対して４時間の自学自習を行わせる方針で行うことを標準にしている。

なお、環境学部およびメディア情報学部を卒業する為には、学則第１５条「履修単位及び年限」に基づき、４年以上在学して総計１２４単位以上を修得しなければならない。

②単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なる。週１時限の授業に対して与えられる単位数は次のとおりである。（学則第１８条参照）

⑴ 講義・演習

２時間の授業，４時間の自学自習，週１回半期１５週では，

（２＋４）×１５＝９０時間　９０÷４５＝２単位

通年３０週の場合は４単位

⑵ 実験・実習・製図・実技

２時間の授業，１時間の自学自習，週１回半期１５週では，

（２＋１）×１５＝４５時間　４５÷４５＝１単位

ただし，授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については，その程度に応じて単位数を増加してある。

また，学則第１８条の２に基づき，各授業科目の授業は，１０週または１５週にわたる期間とするものの，教育上必要があり，かつ，十分な教育効果がある場合，この期間を変更する場合がある。科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合あるが，詳細は授業時間表で確認すること。

但し、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数を増加してある。

③単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験（中間試験その他の評価を含む）により、その成果を判定した上で単位を与える。この場合の履修とは、単位制度に基づくものであって、所定の単位を修得するためには、必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければならない。

なお、履修したが合格点に達しないため単位を与えられなかった科目のうち、単位を修得しておかなければならない科目（必修科目等）は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければならない。

④標準履修法

学生は４年次において、その二分の一から三分の二の時間を「卒業研究」に費やすので、３年次末迄には少なくとも１１５～１２０程度の単位を修得することが望ましい。

その為の目安としては、１日に２科目以上を履修し、合格すれば標準の単位を修得することができる。

（修得単位の目安　１年次終了時４０単位程度、２年次終了時８０単位程度、３年次終了時１２０単位程度）

⑤CAP（キャップ）制

半期に履修できる単位数は、基本的には上限 24 単位までである。これは、履修計画を綿密に作成した上で計画的に履修をすること、及び履修科目の予習復習などを行い、１回（１時限）の講義演習科目に対して４時間の自学自習を実施するために設けられた制度である。従って、この考え方に基づいて、計画的履修と自学自習を心がけてもらいたい。

なお、環境学部での測量士補に関する必修科目（詳細は測量士補資格を参照）、メディア情報学部の教職に関する科目（詳細は教職課程を参照）、海外フィールド演習などの学外実習科目、集中講義、卒業要件非加算科目は対象外であり、CAP 制の上限に含まれない。

また、ＧＰＡ2.8 以上の学生は、次期の履修について上限 28 単位まで履修可能である。一方で、不合格科目を再度履修する場合も、最大４単位の緩和を認めるが、緩和科目につき不合格になった場合は、次学期の緩和は認められない。その他健康などの特段の事情がある場合は、クラス担任やゼミ指導教員との相談の上、上限単位数の緩和を認める場合がある。

⑥TAP 参加学生

TAP 参加学生は、別途定める準備講座（卒業要件の修得単位には含まれない）に出席する。TAP 参加学生は、履修登録許可科目があり、この科目については１年次の履修が可能である。また、CAP 制については、TAP 参加学生は上限 28 単位（ただし対象学年は 1～3 年）である。具体的な適用学年や履修等の説明については、参加募集説明会にて説明する。

２．授業科目について

①科目の区分　授業科目はその内容により、学部共通科目（基礎科目（外国語科目、体育科目、教養科目））、専門基礎科目、専門科目（学科基盤科目、学科専門科目）及び教職課程科目に分ける。

それぞれに属する各授業科目については、各学部「教育課程表」に記載されているので、同表を参照すること。

なお、教育課程表の備考欄に「ＹＣ開講」と標記されている科目が、横浜キャンパスで開講される科目であり、各学科の授業時間割表に開講曜日・時限が記載されている。科目により履修条件が付記されているものがあるので確認をすること。

②科目の種類　授業科目は「必修科目」、「選択必修科目」及び「選択科目」に分ける。それらの「授業科目」の性質は次の通りである。

(1)　**必修科目**　・・・・・・・・　必ず履修しなければならない科目。

(2)　**選択必修科目**　・・・・　指定された科目の中から選択して必ず履修しなければならない科目。

(3)　**選択科目**　・・・・・・・・　自由に選択して履修できる科目。

なお、科目の選択は各自の履修上慎重な配慮を要するものなので、選択にあたっては必ず後述の３．履修についての「③履修における留意事項」を参照すること。

③科目の記号　授業科目の種類は次の記号で表わされる。

(1)　**必修科目・・・・・・・・○印**　(2)　**選択必修科目・・・・・・・△印**　(3)　**選択科目・・・・・・・・無印**

３．履修について

①卒業の要件

各学部を卒業する為には、４年以上在学して、次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得する共に卒業試験に合格しなければならない。（学則第１５条「履修単位及び年限」参照）

なお、この表は各自の履修の基準となるので、各学期の開始の度に必ず参照すること。

【環境学部】

区分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	６単位
	教養科目	１０単位
小計		１６単位
専門基礎科目		３４単位
小計		３４単位
専門科目	学科基盤科目	６０単位
	学科専門科目	
小計		６０単位
自由選択科目　※		１４単位
合　計		１２４単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
体育科目の単位は、自由選択に含める。

【メディア情報学部】

区分		卒業要件
基礎科目	外国語科目	６単位
	教養科目	１０単位
小計		１６単位
専門基礎科目		２０単位
小計		２０単位
専門科目	学科基盤科目	７４単位
	学科専門科目	
小計		７４単位
自由選択科目　※		１４単位
合　　計		１２４単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を越える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
体育科目の単位は、自由選択に含める。

②履修科目

［学部共通科目］

＜基礎科目・外国語科目＞

⑴「基礎科目・外国語科目」区分は、英語科目２５科目（他キャンパスでの開講含む）、中国語（１）～（４）、韓国語（１）～（４）の８科目から構成され、１年次～２年次までに配当されている。

⑵「基礎科目・外国語科目」として卒業要件６科目（６単位）が必修となっている。
入学後オリエンテーション期間内等で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合がある。

⑶ ６単位を超えて修得した単位（必修科目以外の英語、中国語、韓国語）は、自由選択科目として１４単位まで卒業要件に算入できる。

※必修科目以外の英語選択科目については、授業開始前に担当教員から各学部で開講する科目の紹介並びに申請手続等の説明があるので充分注意すること。

＜基礎科目・体育科目＞

「体育科目」区分は４科目から構成され、１、２年次に配当されている。
これらの科目を履修し、修得した場合は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

＜基礎科目・教養科目＞

⑴「基礎科目・教養科目」区分は、横浜キャンパスでの開講２４科目と、他キャンパスでの開講４９科目から構成され、１年次～３年次までに配当されている。

⑵「基礎科目・教養科目」として１０単位が卒業要件となっている。
このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。

・環境創生学科
・環境マネジメント学科
・社会メディア学科
　　「情報と社会」、「情報リテラシー演習」、「情報通信技術入門」３科目（６単位）

・情報システム学科
　　「情報と社会」１科目（２単位）

⑶ 「日中共同沙漠緑化フィールド研修プログラム」・「ネパール環境フィールド研修プログラム」の単位認定について

⒜上記プログラムの参加（履修）方法や日程等の詳細については、掲示等にて周知する。
同プログラムに参加し、合格した場合は、「海外フィールド演習」（２単位）の単位として認定される。
各々のプログラムに参加し、成績が評価されても、一度履修して合格した「海外フィールド演習（２単位）」の評価は変更しない。

⒝工学部・知識工学部の「海外体験学習（１）」・「海外体験学習（２）」も同様に扱う。

⒞都市生活学部の「海外研修（１）」・「海外研修（２）」、人間科学部の「海外研修」も同様に扱う。

⑷「特別講義」「教養ゼミナール」「教養特別講義」（１）（２）の単位認定について
上記授業科目の履修方法については、本履修要綱および「教授要目（シラバス）」および「授業時間表」等を熟読し、確認すること。
同科目の履修登録を行い、合格した場合は、「特別講義（１）」「教養ゼミナール（１）「教養特別講義（１）」もしくは「特別講義（２）」「教養ゼミナール（２）「教養特別講義（２）」（２単位）の単位として認定される。
ただし、卒業要件に算入する単位数は、それぞれ４単位までとする。一度履修して合格した場合、当該科目の評価は変更しない。

⑸「基礎科目・教養科目」で１０単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

［専門基礎科目］
環境学部
⑴「専門基礎科目」区分は環境創生学科２５科目、環境マネジメント学科３０科目から構成され、各学科それぞれ１年次～３年次までに配当されている。
⑵両学科とも、「専門基礎科目」区分における卒業要件は３４単位である。
このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。
・環境創生学科　「環境マネジメントシステム」、「温暖化の科学」２科目（４単位）
・環境マネジメント学科　「環境マネジメントシステム」、「生態学概論」２科目（４単位）
⑶３４単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

なお、他学科の専門科目を履修した場合の認定単位数等の詳細は後述の**１３．他学科、他学部、他大学等の履修について**を参照のこと。

メディア情報学部
⑴「専門基礎科目」区分は社会メディア学科１６科目、情報システム学科１８科目から構成され、各学科それぞれ１年次～３年次までに配当されている。
⑵両学科とも、「専門基礎科目」区分における卒業要件は２０単位である。
このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。
・社会メディア学科　「環境マネジメントシステム」、「情報発信入門」、「社会調査」３科目（６単位）
・情報システム学科　「環境マネジメントシステム」１科目（２単位）
⑶２０単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に算入できる。

なお、他学科の専門科目を履修した場合の認定単位数等の詳細は後述の**１３．他学科、他学部、他大学等の履修について**を参照のこと。

［専門科目・学科基盤科目］
環境学部
⑴「専門科目・学科基盤科目」区分は環境創生学科２１科目、環境マネジメント学科１６科目から構成され、各学科それぞれ１年次～３年次までに配当されている。
このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。

・環境創生学科　「環境フィールド・計測演習」、「環境情報リテラシー」、「生態学概論」、「環境数理学入門」、「ランドスケープ論」５科目（１０単位）
・環境マネジメント学科　「環境経営入門」、「環境政策入門」、「温暖化の科学」３科目（６単位）

メディア情報学部
⑴「専門科目・学科基盤科目」区分は社会メディア学科２４科目、情報システム学科２４科目から構成され、各学科それぞれ１年次～３年次までに配当されている。
このうち、各学科それぞれ以下の科目を必修科目もしくは選択必修科目として必ず履修しなければならない。

・社会メディア学科　必修科目：「現代社会とメディア」１科目（２単位）
選択必修科目：△１グループ７科目より２科目（４単位）
△２グループ１１科目より２科目（４単位）（詳細は教育課程表参照）

・情報システム学科　　必修科目：「数学基礎」、「情報基礎学」、「プログラミング基礎１、２」
「微分積分学Ⅰ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」
「テクノロジーエクスプローラ」８科目（１６単位）
選択必修科目：プログラミング演習１Ａ、１Ｂより１科目（２単位）

［専門科目・学科専門科目］

環境学部

⑴「専門科目・学科専門科目」区分は環境創生学科１５科目（生態環境分野８科目、都市環境分野７科目）、環境マネジメント学科１９科目（環境経営分野１０科目、環境政策分野９科目）から構成され、各学科それぞれ１年次～３年次までに配当されている。

⑵ 各学科とも「事例研究」（４単位）、「卒業研究」（６単位）をこの区分に位置付けており、必修科目として必ず履修しなければならない。

［専門科目／学科基盤科目・学科専門科目］区分における環境学部の卒業要件は６０単位である。
６０単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として最大１４単位まで卒業要件に算入できる。

メディア情報学部

⑴「専門科目・学科専門科目」区分は社会メディア学科２４科目（コミュニティデザイン分野１２科目、人間コミュニケーション分野１２科目）、情報システム学科２４科目（システムデザイン分野１１科目、ＩＣＴアセスメント分野１３科目）から構成され、各学科それぞれ１年次～３年次までに配当されている。
このうち情報システム学科では、以下の科目を必修科目として必ず履修しなければならない。
・「サーバシステム構築」、「サーバ管理演習」、「ＩＣＴアセスメント概論」３科目（６単位）

⑵各学科とも「事例研究」（４単位）、「卒業研究」（６単位）をこの区分に位置付けており、必修科目として必ず履修しなければならない。

［専門科目／学科基盤科目・学科専門科目］区分におけるメディア情報学部の卒業要件は７４単位である。
７４単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として最大１４単位まで卒業要件に算入できる。

［自由選択］

自由選択として、上記各区分の卒業要件単位を超える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
（体育科目の単位は、自由選択に含める。）
なお、後述する他学科開講科目、他学部及び他大学等との単位互換により修得した単位をこの区分の単位として認定することができる。
（認定単位数等の詳細は後述の「他学科、他学部、他大学等の履修について」と「単位互換について」を参照のこと。）

③履修における留意事項

⑴各学期の始めの履修手続きに当たっては、「教授要目（シラバス）」を熟読すると共に、その年度の「教育課程表」及び「授業時間表」等を充分研究した上で、各自一年間の履修方針を定めること。

⑵当該年度に組まれている授業時間表に基づいて、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」の順に、履修方針に基づいて選択し、履修登録をしなければならない。
なお、科目の中には履修条件（〇〇〇科目を履修しておくことが望ましい等）が示されている場合があるので、「学修要覧」の科目概要および「教授要目（シラバス）」を熟読すること。（含高学年配当科目）

⑶自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することは難しいので、科目選択に当たっては、授業担当教員やクラス担任教員等の助言を受けて、適正に選択することが必要である。

⑷所属学年に組まれている授業科目は極力その学年で修得するよう努力しなければならない。次の年度で再履修しようとしても授業時間や試験時間が重複して履修できないことも多いためである。
また、学年進行に伴うカリキュラム変更等により、当該年度の開講をもって廃止となる場合や新規に開講する科目に振替える場合があるので、各自キャンパス内掲示板やマイポータル（HP）等で充分に確認、注意をすること。

⑸他キャンパスでの開講科目を履修しようとする場合、キャンパス間のシャトルバスによる移動などの時間を考慮した計画を立てる必要があるので注意すること。

④履修登録

環境学部およびメディア情報学部では、インターネットを利用して、指定された日に各自で履修登録（Web による登録）を行う。（操作方法等については各学期に配布される「授業時間表」の履修登録作業手順（マニュアル）を熟読すること。）この手続を経ない科目は受講の上、試験に合格しても単位は与えられないので注意すること。その為、履修登録に際しては慎重を期し、「授業時間表」、「教育課程表」、「教授要目（シラバス）」等を参照するほか、特に、次の事項に留意しなければならない。

(1) 履修登録は、学期（前期・後期）毎に受講する全科目を登録すること。

(2) 科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが，履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期毎に行う必要があるので注意すること。

(3) 科目の履修は授業時間表で指定されている各自の組（組の指定がない場合は全ての組対象）に基づいて行うこと。

(4) 所属学年よりも上の学年に配当されている科目の履修は認められない。

(5) 他学部の開講科目を履修する場合は「各出願票」（用紙はいずれも授業時間表冊子の末頁に添付）に所定の事項を記入の上、履修登録期間に横浜キャンパス教育支援センターに提出すること。

なお、単位互換協定大学の開講科目を履修する場合は、「特別聴講願」（用紙は横浜キャンパス教育支援センターにある）に記入すること。（手続き方法や指定科目、単位認定等の詳細については年度初め等のガイダンス時に周知するので、各自確認すること。）

(6) 履修登録期間後の科目の変更・追加登録は原則として認められないので注意すること。

(7) ２年次以降の履修登録の際には、さらに、次のことに注意すること。

(a) 履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて登録すること。

(b) 低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修すること。

(c) 一度履修して合格した授業科目の評価は変更しないので、充分注意すること。
（一度合格し、成績のついた科目は再履修できない）。

(8) 休学中の当該学期の履修登録科目については、自動的に削除されるので注意すること。

⑤TAP 参加学生の履修登録の例外

TAP 参加学生については、以下の科目の１年次前期における履修を認める。

・環境マネジメント学科の TAP 参加学生（5 科目）
「画像処理技法」、「ランドスケープ論」、「環境化学」、「環境緑地学」、「住環境システム」

・社会メディア学科の TAP 参加学生（2 科目）
「メディアと表現」、「メディア文化論」

⑥大学院先行履修制度

(1)本大学では、学部在学中に、大学院修士課程の授業科目を先行履修することが出来る（ただし在学年次、受講資格等制限がある）。

(2)本大学院に進学後、各研究科各専攻において、修得した単位を「１０単位」を超えない範囲で認定することができる。
申請手続等詳細は、横浜キャンパス教育支援センターで確認すること。

４．授業時間について

各時限の授業時間は次のとおりである。

時　限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時　間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

５．休講について

(1)学校行事や担当教員の都合などにより授業を休講とする場合がある。

その場合は事前に教育支援センターのプラズマディスプレイおよび横浜キャンパスホームページポータルサイト（Web 情報提供）にて連絡する。（単位互換科目等は、通常の掲示板にて周知する場合がある。）

(2)「休講」の連絡や、その他特段に指示がなく、授業開始時間から３０分以上遅れても授業が行われない場合には「休講」の扱いとする。

６．ストライキ等により交通機関が運用を停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置について

(1)交通機関がストライキ等により運行を停止した場合

①横浜市営地下鉄または東京急行電鉄（田園都市線）がスト等により運行を停止する場合

次の段階によって授業措置が異なる。

(1)	午前６時までにスト等による運行停止が解除された場合。	⇒	平常どおりの授業を行う。
(2)	午前９時までにスト等による運行停止が解除された場合。	⇒	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う。
(3)	午前９時までにスト等による運行停止が解除されない場合。	⇒	全日休講とする。

②横浜市営地下鉄および東京急行電鉄（田園都市線）がスト等により運行を停止しない場合

ＪＲ東日本の電車その他が、スト等により運行を停止しても、授業は平常どおり行う。

(2)台風による暴風警報が発令された場合

東京地方（２３区西部、２３区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発令された場合、

次の段階によって授業措置が異なる。

(1)	午前６時までに暴風警報が解除された場合。	⇒	平常どおりの授業を行う。
(2)	午前９時までに暴風警報が解除された場合。	⇒	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う。
(3)	午前９時までに暴風警報が解除されない場合。	⇒	全日休講とする。

(3)その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講じる場合がある。

(4)上記の措置を行う場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自で確認すること。

７．試験について

①試験の種類

試験は、「科目試験」、「再試験」、「卒業試験」とからなっている。

②試験の内容

≪科目試験≫

「科目試験」は定期試験として前期末および学年末に全学一斉に行い、これとは別に担当教員によっては、中間試験その他を行うことがある。また担当教員の意志によりレポート、論文をもって試験に替える場合がある。

受験に際しては次の事項に留意すること。

(1) 試験科目、試験の日時および場所は予め掲示する。(その際に受験についての注意事項を併せて掲示する。)

(2)次の何れかに該当する者は試験を受けることはできない。たとえ受験しても無効とする。

(a) 科目の履修申告をしていない者

(b) 出席不良のため受験停止を命ぜられた者

(c) 学生証を所持しない者

(d) 試験開始後２０分以上遅刻した者

(3)受験の際は学生証を必ず机上に置かなければならない。

(4)試験開始後３０分以内の退場は許可しない。

(5)病気・負傷、大学に向かう途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて教育支援センターに提出しなければならない。

担当教員の判断により、追試験を行う場合がある。詳細は教育支援センターで確認すること。

≪再試験≫

(1)４年次に在籍し、かつ卒業研究着手者（卒業研究修得済者を含む。）を対象とする。

(2)各期末に卒業予定(見込み)の者。

(3)各期成績確定後、「不可」となった科目について、一定の条件の下、申請して再度受験し直すことが出来る。

（科目数等制限があるので、詳細は各自掲示板で確認すること。）

≪卒業試験≫

(1)卒業研究着手の条件（後述**１２．卒業研究着手の条件について**項を参照）を充たしていない者は卒業研究に着手するこ

とはできない。

(2)卒業試験は、各指導教員に分属して指導を受けた論文、文献調査、実習報告等の卒業研究につき、その作成経過を加味して行う。

③試験の際に不正を行った者の取り扱い

本学部学生が，試験（単位互換により，本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合，「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い，**「当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（０点）にする」**とともに，**「１０日以上の停学または退学」**とする。

(1) 試験には，大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他，担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や，クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし，これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱う。

(2) 停学の期間は在学年数に算入する。

(3) 処分の内容は決定後公示する。

(4) 停学の場合の執行開始は学内会議において処分の決定した翌日からとする。

（注）１．下記のような場合は不正行為と断定する。

(a) 代人に受験させた場合。

(b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合。

(c) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を見たと認められる場合。

(d) 他人の答案を見たと認められる場合。

(e) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合。

(f) 言語、動作をもって互いに連絡している場合。

(g) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借している場合。

(h) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為。

（例えばメモ、ノートを机上においている場合や所持している場合等）を行った場合。

（注）２．不正行為は試験場で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も同様の扱いを受ける。

（注）３．処分を受けるとほぼ確実に１年以上の卒業延期となる。

④試験時間について

定期試験の試験時間は次のとおりである。

なお、**各時限６０分**を原則としており、平常の授業時間（前述**５．授業時間について**）と異なるので充分注意すること。

時限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
時間	**9:00～10:00**	**10:20～11:20**	**11:40～12:40**	**13:40～14:40**	**15:00～16:00**	**16:20～17:20**

８．成績について

①成績の発表

(1) 科目試験の結果は８月下旬（（クォーター開講を含む前期配当科目））と、３月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目）の２回発表する。

(2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとする。

(3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は、３月に本学内に掲示する。

②成績の評価

学業成績の評価を、秀（１００点～９０点）、優（８９点～８０点）、良（７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（５９点以下）の５段階に分け、秀、優、良、可を合格とする。

※採点不可能な場合、（授業に出席していない、定期試験を受験していない等、判断する材料がない場合等）は、「欠席」評価となる場合がある。

③成績順位（席次）の算出方法

成績順位（席次）の算出方法は以下のとおりである。

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）方式とし、以下の計算式で算出する。

$$\frac{（4\times秀の単位数）＋（3\times優の単位数）＋（2\times良の単位数）＋（1\times可の単位数）の合計}{履修登録した単位数の合計}＝評定値$$

⑴対象となる科目は「卒業要件対象科目」とする。（教職課程や特別履修で卒業要件非加算科目は対象外）
⑵評定値算出では不合格科目も対象とする。
⑶ 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに, 分子のＧＰのみ最新評価結果に変更して算出する。
⑷前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母（履修単位数）に含めない。
⑸評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。

９．単位修得状況や成績に関する指導について

① 単位修得状況による指導

１年次前期終了時に修得単位が１０単位未満の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また，**１年次終了時に修得単位が２０単位未満**の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。なお、いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含めない。また、途中に休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

２年次の終了時に修得単位が４０単位未満の者に対しては、自主退学勧告を含んだ強力な指導を行う。
（ただし、休学がある場合はその期間は除かれる。）

②ＧＰＡによる指導

各年次終了時に、ＧＰＡが 0.6 未満の者には、退学勧告を行う。

１０．３年次進級要件について

メディア情報学部の学生は、下記の条件を充たしていなければ３年次に進級することができない。
環境学部の学生はこの限りではない。（ただし、３年次に進級は出来るが、７０単位を修得していなければ、「事例研究」に着手することが出来ない。後述参照）

① ７０単位以上修得していること。（必選問わず）
なお、単位の加算を認められたもの以外の特別履修科目と、教職課程の教職に関する科目の内、卒業要件非加算科目の単位は含めない。
② ２年以上（24 ヶ月）在学（休学期間は在学年数に含めない。）していること。

１１．「事例研究」着手の条件について

３年次になると各学科各指導教員の研究室に分属して、「事例研究」に着手するが、下記の条件を充たしていなければ着手は認められない。（但し３年次編入学生を除く。）
従って卒業研究着手条件にも連動して卒業は延期される。又、「事例研究」に着手したが、単位未修得になった場合には、次年度改めて、「事例研究」再配属手続きを執行することが必要になるので充分注意すること。

① ７０単位以上修得していること。（必選問わず）
なお、単位の加算を認められたもの以外の特別履修科目と、教職課程の教職に関する科目の内、卒業要件非加算科目の単位は含めない。
② ２年以上（24 ヶ月）在学（休学期間は在学年数に含めない。）していること。

１２．卒業研究着手の条件について

４年次になると各学科各指導教員の研究室に分属して、論文・文献調査・演習等の「卒業研究」に着手するが、下記の条件を充たしていなければ卒業研究着手は認められない。従って卒業は延期される。

① １００単位以上を修得していること。
なお、単位の加算を認められたもの以外の特別履修科目と、教職課程の教職に関する科目の内、卒業要件非加算科目の単位は含めない。

② 「事例研究」および２年次までの必修科目を全て修得していること。
・環境創生学科　：学部共通科目１年次７科目（１０単位）２年次２科目（２単位）、専門基礎科目１年次２科目（４単位）、学科基盤科目１年次４科目（８単位）２年次１科目（２単位）、事例研究（４単位）

・環境マネジメント学科：学部共通科目１年次７科目（１０単位）２年次２科目（２単位）、専門基礎科目１年次２科目（４単位）、学科基盤科目１年次３科目（６単位）、事例研究（４単位）

・社会メディア学科　　：学部共通科目１年次７科目（１０単位）２年次２科目（２単位）、専門基礎科目１年次３科目（６単位）、学科基盤科目１年次１科目（２単位）、事例研究（４単位）

・情報システム学科　　：学部共通科目１年次５科目（６単位）２年次２科目（２単位）、専門基礎科目１年次１科目（２単位）、学科基盤科目１年次７科目（１４単位）２年次１科目（２単位）、学科専門科目２年次１科目（２単位）、事例研究（４単位）

③　３年以上（36ヶ月）在学（休学期間は在学年数に含めない）していること。
（但し外国人留学生および編入学生、転学部生については上記①の条件に加え、「事例研究」の単位を修得していることとする。）

注意：「卒業研究」は学年始めの４月からはじまる。年度途中に着手条件を満たしても，着手は翌年度４月となる。
また，３年次終了時までに短期間でも休学期間があると，③の条件が満たせず，着手は翌年度４月まで延期されることになるので十分注意すること。

１３．他学科、他学部、他大学等の履修について

環境学部ならびにメディア情報学部では、一部の科目を除き、同学部内他学科開講科目の履修、および本学他学部開講科目の履修を認めている。また、現在、東京理工系４大学および横浜市内大学間で、相互履修（単位互換）を実施している。申請手続き等の詳細は、年度始めのガイダンス時に周知するが、履修可能な科目と認定単位数は以下のとおりである。

＜環境学部＞

同学部他学科の科目認定について

自学科の「専門基礎科目」・「専門科目」として設定されていない他学科の専門科目を履修した場合は、その単位を６単位まで、卒業要件となる「専門基礎科目」「専門科目」に算入することができる（算入区分は履修した科目の科目区分と同一）。

６単位を超えるものについては、「自由選択科目」に算入することができる。

他学科の「演習科目」は原則として履修することはできない。ただし、*他学科の研究室を配属希望できる条件を満たしており、かつ 実際に他学科の研究室を希望した学生は、どの研究室に配属されるかに関わらず、演習担当の教員が許可したならば履修することができる。*条件等、詳細は別途説明を行う。

他学科の「事例研究」、「卒業研究」の履修には制限および条件を設ける。詳細は別途説明を行う。

本学他学部／理工系４大学*1／横浜市内大学*2 単位互換の科目認定について

他学部の「事例研究」「卒業研究」および『教職課程の開講科目』等は履修することはできない。
その他の科目(他大学の科目は、年度初めに指定された科目に限る)は、科目担当教員の許可を得て履修することができる。
修得した単位は「自由選択科目」として卒業要件に算入することができる。
本学部・学科設置科目と類似した科目の履修を認めるかどうかは個別に判断する。

*1「理工系４大学」
工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学
*2「横浜市内大学」
神奈川大学・関東学院大学・国学院大学・鶴見大学・桐蔭横浜大学・東洋英和女学院大学*・フェリス女学院大学*・明治学院大学・横浜国立大学・横浜商科大学・横浜市立大学
（*東洋英和女学院大学・フェリス女学院大学での履修は女子のみ）

＜メディア情報学部＞

同学部他学科の科目認定について

自学科の「専門基礎科目」・「専門科目」として設定されていない他学科の専門科目を履修した場合は、その単位を「自由選択科目」に算入することができる。

他学科の「演習科目」は原則として履修することはできない。

他学科の「事例研究」、「卒業研究」等は履修することはできない。

本学他学部／理工系４大学*1／横浜市内大学*2 単位互換の科目認定について
　他学部の「事例研究」、「卒業研究」等は履修することはできない。
その他の科目(他大学の科目は、年度初めに指定された科目に限る)は、科目担当教員の許可を得て履修することができる。
修得した単位は「自由選択科目」として卒業要件に算入することができる
本学部・学科設置科目と類似した科目の履修を認めるかどうかは個別に判断する。
　教職課程履修者に限り、メディア情報学部の学修要覧に記載されている『教職に関する科目』と同一名称の科目のみ、世田谷キャンパス開講の同科目を履修することができる。

*1「理工系４大学」　工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学
*2「横浜市内大学」
　神奈川大学・関東学院大学・国学院大学・鶴見大学・桐蔭横浜大学・東洋英和女学院大学*・フェリス女学院大学*・明治学院大学・横浜国立大学・横浜商科大学・横浜市立大学
（*東洋英和女学院大学・フェリス女学院大学での履修は女子のみ）

①履修の手続きについて
(1)上記の科目を履修する場合は、通常の履修登録（Web による登録）ではなく、以下の種別毎の専用用紙・申請書（a は「授業時間表」に添付）に必要事項を記入し、期限までに横浜キャンパス教育支援センターに提出し、申請すること。
(2)他学部の科目を申請する場合は、第１回目の授業において、科目担当教員の許可印を必要とする。
(3)履修にあたっては、横浜キャンパス教育支援センターに備え付けてある他学部等の「学修要覧」・「教授要目（シラバス）」・「授業時間表」等を参考にすること。

単位互換の種別	申請様式	申請時期	備考
a.本学他学部 (本人の所属以外の学部) 開講科目	当該科目を開講している学部用の特別履修申告書 (キャンパス毎に用紙が異なるので注意すること)	各年度前期および後期始め	第１回目の授業で担当教員の許可印を必要とする。
b.横浜市内大学開講科目	各大学指定申請書 (横浜キャンパス教育支援センターに申し出ること)	各年度前期始め	後期開講科目も前期に申請。
c.東京理工系４大学開講科目		各年度前期および後期始め	

②履修の制限について
(1) 自己より上級学年の配当科目は履修できない。
(2) 履修順序の指定がある科目で、前提となる科目を履修していない場合は、当該科目を履修することはできない。
(3) 履修希望者が多く、履修人数を制限する場合は、当該学部等の学生が優先される。
(4) 上記に限らず、科目担当教員が許可しない場合は履修できない。

③履修科目の試験日程及び成績評価は、他学部、他大学等の日程及び基準による。

１４．修業年限および卒業延期について

①修業年限
　学則第１６条「在学年数及び在学年限」及び第４５条「卒業及び単位」
　　本学を卒業するためには４年以上在学しなければならない。
　４年を超え在学し、なお卒業できない場合でも在学年数は８年を超えることはできない。
　ただし、休学中の期間は在学期間に加えない。
②卒業延期
　学則第４６条「授業料等」
　　４年を超え在学する場合は、４月３０日までに定められた所定の学費を納入しなければならない。
　履修届出については前年度までの方法と同じである。
　　なお卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については、過去に卒業研究を履修し不可となった者に限り２ヶ月毎に審査が行われて卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については２カ月毎の月末に卒業資格が認定される。

東京都市大学オーストラリアプログラム（ＴＡＰ）

TOKYO CITY UNIVERSITY AUSTRALIA PROGRAM 【ＴＡＰ】

１．ＴＡＰが目指す人材像

都市大の伝統である実践的な専門力を有した国際人がＴＡＰの目指す人材像である。
「英語で学び，英語で考え，英語で議論する」を達成目標とする。

２．ＴＡＰの目標

ＴＡＰは，１年次の準備教育と２年次の５か月間の留学を合わせた２年間に亘る本学独自の国際人育成プログラムである。このプログラムを通じて，国際的な視野とコミュニケーション能力を持った，時代に柔軟に対応できる人材を育てる。留学先の西オーストラリア州は，アジア，ヨーロッパ，アフリカなどのさまざまな国の出身者が暮らす多様性に富んだ州であり，このような恵まれた環境の中で，学生は国際人としてグローバルに活躍するために語学力と異文化を理解する力を磨きながら，自主性や自立心を高める。

３．プログラム概要

１年次の準備教育として，語学準備講座と留学準備研修を提供する。２年次の５か月間は，西オーストラリア州パース近郊にあるエディスコーワン大学（以下ＥＣＵ）に留学し，英語と教養科目を中心に学ぶ。

(1) 参加対象学部学科・募集定員・派遣期間（平成２８年度入学者）

工学部　全８学科	定員８０名	サイクルB	２０１７年８月～１２月
知識工学部　情報科学科＋自然科学科	定員１５名		
環境学部　環境創生学科	定員１５名	サイクルA	２０１７年２月～　６月
環境学部　環境マネジメント学科	定員１０名	サイクルB	２０１７年８月～１２月
メディア情報学部　社会メディア学科	定員１５名	サイクルA	２０１７年２月～　６月
メディア情報学部　情報システム学科	定員　５名	サイクルB	２０１７年８月～１２月
都市生活学部　都市生活学科	定員９０名	サイクルA	２０１７年２月～　６月
人間科学部　児童学科	定員　２名		

(2) 派遣先

エディスコーワン大学　（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース近郊）

(3) 参加費用

９０万円　・準備教育，航空運賃，学生寮，教材費，査証取得費用などを含む。
　　・支払い時期については，募集説明会時に詳細を説明する。

４．プログラム内容

１．準備教育　＜ TAP in Japan ＞

２年に亘る、日本での準備教育とオーストラリアでの体験を通しての国際人育成プログラムがＴＡＰの魅力である。留学前の準備教育では，語学準備講座と留学準備研修の２つのプログラムが提供される。

1-1. 語学準備講座　＜ Preparation for English ＞

出発までに，ＴＯＥＩＣ５５０点以上の取得を目指し，ネイティブスピーカーによるレッスンを週５日，オーストラリア留学に備えて合計１００回のレッスンを受ける。レッスンは授業期間中の空き時間に行われ，その内容は「読む・書く・聞く・話す」の４技能の習得に加え，プレゼンテーションスキルなども磨く。

1-2. 留学準備研修　＜ Global Personnel Training in Japan ＞

国際人として成長するための準備として，異文化理解やコミュニケーション能力を高めるためのプログラムを提供する。研修会は，原則月１回開催予定である。その内容は，ゲストスピーカーによる講演会，危機管理セミナーなどに加え，異文化理解のためのグループワークなども行う。また，現地で日本文化を紹介するための準備も予定している。

２．オーストラリア留学 ＜ Study Abroad at ECU ＞

１年次終了の２月から（サイクルA），または，２年次の８月から（サイクルB），約５か月間ＥＣＵに留学する。最初の９週間キャンパス内の語学学校で他国の留学生とともに英語のスキルを上げるために参加する。

その後の７週間は国際人として必要な教養を身につけるため以下の科目を学ぶ。

ＥＣＵにおける授業科目

			環境学部 単位区分	メディア情報学部 単位区分
英語科目 English Language Education	Academic English (1)	３単位	教養科目	教養科目
	Academic English (2)	３単位	教養科目	教養科目
	Academic English (3)	３単位	教養科目	教養科目
	Academic English (4)	３単位	教養科目	教養科目
	Academic English (5)	１単位	サイクルＡ： Reading & Writing (2) サイクルＢ： TOEIC Preparation	サイクルＡ： Reading & Writing (2) サイクルＢ： TOEIC Preparation
教養科目 General Education	Collaborative Design	２単位	専門基礎科目	専門基礎科目
	Social,Cultural and Media Studies	２単位	教養科目	専門基礎科目
	International Relations	２単位	教養科目	教養科目
	サイクルＡ： Urban Observation	２単位	専門科目	専門科目 学科基盤科目
	サイクルＢ： Introductory Applied Mathematics	２単位	専門基礎科目	専門基礎科目

※TAP（オーストラリア）で履修した科目の成績を本学部の GPA に含める。

３．現地での過ごし方

留学中はＥＣＵキャンパス内にある学生寮に滞在する。約５か月の長期滞在のメリットを生かし，現地学生や他国の留学生と交流を深めることができる。また，現地では，ＥＣＵの学生団体主催のイベントや寮主催のイベントなど参加したりして充実したアクティビティを体験することも可能である。さらに，ＴＡＰ参加者対象のアクティブプログラム事業（以下ＬＢＡ）を利用した自発的な活動により，多くの現地での交流の機会を得ることができる。

４．帰国後の過ごし方

留学前及び留学後は，ＴＯＥＩＣテストを受験することにより，自分がどれだけ成長したかを確認することができる。帰国後，３年生になると，海外インターンシッププログラム，協定大学への交換留学及び各学部学科主催の海外フィールドワーク研修などにチャレンジする機会がある。そのためにも，ＴＡＰでは，語学力の向上を目指して努力してほしい。

５．ＴＡＰの参加方法

１年次４月の入学オリエンテーション期間中に，ＴＡＰ参加募集説明会を開催する。その説明内容をよく理解した上で参加を検討することとなる。参加を希望する場合は，４月初旬から中旬までの募集期間の間に，申し込みをする。ＴＡＰは定員２３２名の選抜制なので，その結果は，申し込み締め切り日の翌週に，窓口及びポータルサイトで発表する。参加が認められたら，所定の手続きを行い，準備講座に参加することとなる。

６．奨学金制度

学校法人五島育英会「夢に翼を奨学金」より，ＴＡＰに対して次の奨学金制度がある。

(1) ＴＡＰアワード

参加人数の上位２０％の学生に奨学金が給費される。この奨学金は，語学準備講座の成績，ＴＡＰに参加しＥＣＵで修得した成績，留学後のＴＯＥＩＣテストなど大学が指定した英語能力テストの成績及び出席状況などを基に総合的に審査した結果，成績上位２０％の以内の人物優秀なものに対して奨学金を給費する（帰国後の給費となる）。

(2) ＬＢＡサポート

豪州留学中の学生（個人又はグループ）による自発的な事業（アクティブプログラム事業　Let's be Active in TAP　（以下ＬＢＡ））に対して，審査の結果採択された場合に奨学金を給費する。

勉学の指針

教育課程表

科目概要

学部共通科目

基礎科目

■外国語科目

（英語・第２外国語）■

■体育科目■

■教養科目■

社会メディア学科専門科目

社会メディア学科で学ぶにあたって

■学科専門科目■

情報システム学科専門科目

情報システム学科で学ぶにあたって

■学科専門科目■

学部共通科目

環境学部・メディア情報学部の授業は、横浜キャンパスの両学部共通の『基礎科目』、および学科独自の科目である『専門基礎科目』『専門科目』に分類されている。以下に科目区分毎の特色と内容を示す。なお、カリキュラムは原則として入学時の年度のものが卒業まで適用されるため、詳細については、本学修要覧「教育課程表」並びに「履修要綱」等を必ず熟読し、卒業まで大切に保管すること。

基礎科目

『基礎科目』は全キャンパスの全学生にとっての共通科目である。この中の＜外国語＞科目では、十分な英語読解・作文・会話能力の習得が可能になるよう配置され、その他の外国語も選択できる。とくに英語については、全キャンパス共通のカリキュラムによって、東京都市大学を卒業するすべての学生に一定の英語力を担保する「東京都市大学スタンダード英語教育実践」にもとづいて展開されている。＜体育＞科目は集中講義を含む４科目の実習科目が配置されており、これも全キャンパスで同じカリキュラムを配置している。

＜教養＞科目は、人文学系、社会科学系、人間科学系、自然・情報科学系などから成り、幅広い教養を身につけることを目指している。また基本的な情報リテラシーに関わる科目や、海外、企業等、学外との連携の中で学ぶ実習科目を含んでおり、これからの社会に求められる適応力や総合力など、人間的な成長を支援する科目を配置している。

■外国語科目（英語・第２外国語）■

＜外国語科目＞は、１年前期から２年後期に開講される必修の英語科目（6 科目 6 単位）と、選択の英語科目（19 科目 38 単位）、および第２外国語科目として中国語、韓国語の 2 か国語（計 8 科目 8 単位）からなる。

必修の英語科目については、入学時に基礎学力調査を実施し、その成績をもとにクラス分けを行う。「必修科目」は、1 年次開講の 4 科目 4 単位と、2 年次開講の 2 科目 2 単位であり、各学期末試験期間に全学統一試験（東京都市大学スタンダード英語教育実践）を実施する。なお，語学はすべて演習科目なので出席不良は認められない。成績不良などで単位を修得できなかった英語の必修科目は原則として再履修者専用クラスを受講することになっている。

また、2 年次後期開講科目「TOEIC Preparation」では、学期末に行われる「TOEIC」に準拠した試験で TOEIC400 点相当の基準点を超えることが単位認定の条件となる。また、学期中に TOEIC を受験し基準以上の点数を取得した学生は、取得した点数に応じた成績とともに単位が付与される。

「選択科目」には、19 科目（別掲）38 単位が準備されており、そのうち、2016 年度は「アカデミック・イングリッシュ・セミナー」「英語文法トレーニング」「英語読解力養成」「Advanced TOEIC」「キャリア・イングリッシュ」「ニュースを英語で読む」「映画で学ぶ英語」「Cultural Comparison」、「Modern Society」の 9 科目 18 単位が横浜キャンパスで開講予定である。他の選択科目は、世田谷キャンパス（工・知識工学部）または等々力キャンパス（都市生活学部）での開講となる。また横浜キャンパスで開講する選択科目は年度によって変更する可能性があるので、履修を希望する際には、履修申告手続き等に十分注意すること。

また、横浜キャンパスでは「第２外国語科目」として、「中国語」(1)～(4)、「韓国語」(1)～(4)（それぞれ１単位）を設けている。「第２外国語科目」に興味があり、その他の外国語(ドイツ語やスペイン語など)を履修したい場合には、世田谷キャンパス（工学部、知識工学部）や、他大学との単位互換制度（横浜市内大学単位互換、東京理工系単位互換）などを利用して習得されたい。

なお、「外国語」は、1 年次の必修の英語科目 4 科目 4 単位、2 年次の 2 科目 2 単位の合計 6 単位が卒業要件（前述）であり、その他の「選択科目」と「第２外国語科目」は、自由選択科目として単位認定されることになるので、注意すること。

詳細については、各自入学年度の学修要覧「教育課程表」並びに「履修要綱」を熟読のこと。

■体育科目■

＜体育＞科目は、「基礎体育(1)」、「基礎体育(2)」、「応用体育(1)」「応用体育(2)」が開設されている。これらの科目を履修し、単位修得した場合は、自由選択科目として認定される。

■教養科目■

＜教養＞科目は、情報リテラシー、人文・社会・自然科学、学外連携型の学習など、幅広い教養と多様な実践的な学習のために、横浜キャンパスでの開講 24 科目と、他キャンパスでの開講 49 科目を配置している。履修にあたっては、特定の学系に科目履修が偏らないよう、バランスよく科目登録することを推奨する。卒業要件は 10 単位である。

情報リテラシーに関わる科目では、特にキャンパス内に先端的な高速ネットワークと情報機器を整備しており、演習の充実により、すべての学生がこれらの設備を自由にツールとして駆使できるようにすることを目標としている。

具体的には、1 年前期には全学生必修の「情報と社会」（２単位）に加え、環境学部、およびメディア情報学部社会メディア学科については、キャンパスのネットワークを学ぶ「情報リテラシー演習」、および情報技術の基本を学ぶ「情報通信技術入門」を必修科目として配置している（情報システム学科ではいずれも選択科目）。また 1 年後期には選択科目として「情報編集入門」を配している。

人文・社会・自然科学にわたる科目としては、「心理学入門」「社会学入門」「現代の物理」「社会とジェンダー」、「科学技術と社会」など、幅広い教養と総合判断能力を養うために学ぶべき授業科目が配置されている。

海外におけるフィールドワークを含む「海外フィールド演習」は中国、オーストラリア、ネパールなどで実施されているが、その内容や時期などについては、適宜開催されるオリエンテーションへの参加や掲示に注意すること。

インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度」である。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、このインターンシップを積極的に推進しており、受け入れ企業についても年々増加している。本学でも所定の条件を満たした場合、インターンシップに対して、「インターンシップ(1)」「インターンシップ(2)」で単位を付与する。インターンシップを検討している学生は、注意事項や単位認定についてまとめた「インターンシップ GUIDE」を熟読して、必要な手続きを行った上で参加する必要がある。参加機会を得た学生は目的意識をしっかりと持って、有意義な就業体験となるよう取り組むことによって、通常の授業とはまた異なる貴重な経験を得られよう。

また、学生が自発的な意思により、個人が持っている能力あるいは労力をもって、災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動で得られた体験や知見を活動報告書にまとめたものに対して、「ボランティア(1)」「ボランティア(2)」の単位を認定する。ボランティア活動に参加を検討している学生は「ボランティア活動ガイド（単位認定手続要項）」を熟読し、必要な手続きを行った上で参加すること。

なお、「特別講義」は適宜開講される。

他キャンパスでの開講科目を履修しようとする場合、キャンパス間のシャトルバスによる移動などの時間を考慮した計画を立てる必要があるので注意すること。

メディア情報学部　教育課程表の注意事項

- 「学部共通科目」は、両学科共通として教育課程表を掲載している。
- 「専門科目」は、学科毎に教育課程表を掲載している。
- 週時間数の「2」時間は、100 分授業（1 授業時間）のことである。
- 週時間数の（　）書きのものは、クラスにより前期または後期に配当される。
- 時間割編成等の運用上、開講時期や担当教員を変更する場合がある。
- 「教職課程」を履修するには、別途、教職課程履修登録をしなければならない。

環境学部・メディア情報学部　教育課程表

両学部　学部共通科目　教育課程表

○印必修

区分			授業科目	必選の別	単位数	週時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
基礎科目	外国語科目		Study Skills	○	1	2								ＹＣ開講
			Communication Skills (1)	○	1	2								ＹＣ開講
			Reading and Writing (1)	○	1		2							ＹＣ開講
			Communication Skills (2)	○	1		2							ＹＣ開講
			Reading and Writing (2)	○	1			2						ＹＣ開講
			TOEIC Preparation	○	1				2					ＹＣ開講
			アカデミック・イングリッシュ・セミナー		2	2	(2)							ＹＣ開講
			海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)							ＳＣ開講
			英語文法トレーニング		2			2	(2)					ＹＣ開講
			英語発音・聴解トレーニング		2	2	(2)							ＳＣ開講
			英語読解力養成		2	2	(2)							ＹＣ開講
			Advanced TOEIC		2	2	(2)							ＹＣ開講
			キャリア・イングリッシュ		2	2	(2)							ＹＣ開講
			サバイバル・イングリッシュ		2	2	(2)							ＳＣ開講
			英語でライティング&プレゼンテーション		2	2	(2)							ＳＣ開講
			ニュースを英語で読む		2	2	(2)							ＹＣ開講
			スポーツで学ぶ英語		2	2	(2)							ＳＣ開講
			映画で学ぶ英語		2	2	(2)							ＹＣ開講
			文学で学ぶ英語		2	2	(2)							ＳＣ開講
			音楽で学ぶ英語		2	2	(2)							ＳＣ開講
			Cultural Comparison		2	2	(2)							ＹＣ開講
			Modern Society		2	2	(2)							ＹＣ開講
			科学技術英語		2	2	(2)							ＳＣ開講
			外国語特別講義(1)		2	2	(2)							ＳＣ開講
			外国語特別講義(2)		2	2	(2)							ＳＣ開講
			中国語（１）		1	2								ＹＣ開講
			中国語（２）		1		2							ＹＣ開講
			中国語（３）		1			2						ＹＣ開講
			中国語（４）		1				2					ＹＣ開講
			韓国語（１）		1	2								ＹＣ開講
			韓国語（２）		1		2							ＹＣ開講
			韓国語（３）		1			2						ＹＣ開講
			韓国語（４）		1				2					ＹＣ開講
	体育科目		基礎体育（１）		1	2								ＹＣ開講
			基礎体育（２）		1		2							ＹＣ開講
			応用体育（１）		1			2						ＹＣ開講
			応用体育（２）		1				*2					集中講義
	教養科目	人文学系	哲学（１）　G		2	2								ＳＣ開講
			哲学（２）　G		2		2							ＳＣ開講
			倫理学（１）		2	2								ＳＣ開講
			倫理学（２）		2		2							ＳＣ開講
			倫理学		2		2							ＹＣ開講
			文化人類学		2		2							ＳＣ開講
			視覚芸術史（１）　G		2	2								ＳＣ開講
			視覚芸術史（２）　G		2		2							ＳＣ開講
			デザイン概論（１）　G		2			2						ＳＣ開講
			デザイン概論（２）　G		2				2					ＳＣ開講
			文学　G		2	2								ＳＣ開講
			日本文学　G		2			2						ＴＣ開講
			西洋史（１）　G		2	2								ＳＣ開講
			西洋史（２）　G		2		2							ＳＣ開講
			民俗学　G		2		2							ＳＣ開講
			比較文化史　G		2	2	(2)							ＹＣ開講
			宗教学　G		2	2								ＳＣ開講

＊開講キャンパスは年度により変更になる場合があるので、各年度の授業時間表で確認すること。

Ｇ：国際化（グローバル化）に対応した教養科目
「教養科目」において，「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し，国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「Ｇ」を付している。

環境学部・メディア情報学部　教育課程表

両学部　学部共通科目　教育課程表

○印必修

区分			授業科目	必選の別	単位数	週時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
基礎科目	教養科目	社会科学系	社会学（1）		2	2								ＳＣ・ＴＣ開講
			社会学（2）		2		2							ＳＣ・ＴＣ開講
			社会学入門		2	2								ＹＣ開講
			経済学（1）		2	2								ＳＣ・ＴＣ開講
			経済学（2）		2		2							ＳＣ・ＴＣ開講
			日本経済論　G		2					2				ＹＣ開講
			西洋経済史　G		2		2							ＳＣ開講
			政治学（1）		2	2								ＳＣ開講
			政治学（2）		2		2							ＳＣ開講
			日本の政治　G		2			2						ＹＣ開講
			行政史　G		2	2								ＳＣ開講
			国際関係論（1）　G		2	2								ＳＣ・ＴＣ開講
			国際関係論（2）　G		2		2							ＳＣ・ＴＣ開講
			法と市民（憲法を含む）		2		2							ＹＣ開講
			法学		2	2								ＳＣ開講
			民法		2		2							ＳＣ開講
			人文地理学		2	2								ＳＣ開講
			現代中国論　G		2		2							ＳＣ開講
		人間科学系	教育学（1）		2	2								ＳＣ開講
			教育学（2）		2		2							ＳＣ開講
			心理と生理		2	2								ＳＣ開講
			文化とパーソナリティ		2		2							ＳＣ開講
			学習と動機づけ		2	2								ＳＣ開講
			発達と教育		2		2							ＳＣ開講
			心理学概論		2	2								ＴＣ開講
			心理学入門		2	2								ＹＣ開講
			社会とジェンダー		2		2							ＹＣ開講
			国際化と異文化理解　G		2						2			ＴＣ開講
			日本文化の伝承　G		2		2							ＴＣ開講
			現代の疾病と食生活		2			2						ＴＣ開講
			演劇文化論　G		2					2				ＴＣ開講
			地域福祉論		2				2					ＴＣ開講
			スポーツ・健康論		2	2	(2)							ＹＣ開講
		自然・情報科学系	論理学（1）		2	2								ＳＣ開講
			論理学（2）		2		2							ＳＣ開講
			現代の物理		2			2						ＹＣ開講
			情報と社会	○	2	2								ＹＣ開講
			情報リテラシー演習	○	2	2								ＹＣ開講　情報ｼｽﾃﾑ学科のみ選択科目
			情報編集入門		2		2							ＹＣ開講
			情報通信技術入門	○	2	2								ＹＣ開講　情報ｼｽﾃﾑ学科のみ選択科目
			科学技術と社会　G		2				2					ＹＣ開講
			公衆衛生学		2						2			ＴＣ開講
			生活とメディア		2			2						ＴＣ開講
		その他	PBLによる産学協働演習		2	2								ＳＣ開講
			ボランティア（1）		1	2								ＹＣ開講
			ボランティア（2）		1		2							ＹＣ開講
			教養ゼミナール（1）		2	2	(2)							ＹＣ開講
			教養ゼミナール（2）		2	2	(2)							ＳＣ開講
			教養特別講義（1）		2	2	(2)							ＳＣ・ＴＣ開講
			教養特別講義（2）		2	2	(2)							ＳＣ・ＴＣ開講
			キャリアデザイン基礎		2		2							ＹＣ開講
			海外フィールド演習　G		2		2							ＹＣ開講
			特別講義（1）		2	2								ＹＣ開講
			特別講義（2）		2	2								ＹＣ開講
			インターンシップ（1）		1		2							ＹＣ開講
			インターンシップ（2）		1			2						ＹＣ開講

＊開講キャンパスは年度により変更になる場合があるので、各年度の授業時間表で確認すること。

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目
「教養科目」において，「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し，国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

科　目　概　要（2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと）

（教育課程表掲載順に記載）

■ Reading & Writing(2)

各教員

Reading and Writing(2)

2年生前期

科目概要

様々なジャンルの英文を読み、それに関する意見を英語で書く練習をすることで、英語基礎力の補強、読解力・表現力の向上、論理的・批評的思考力の養成を図ります。全学共通のテキストを使用しますが、授業では同じ学習項目を共有しつつ、各教員がそれぞれの個性を生かした授業を行います。

履修心得

語彙、文法などの基礎力が不足している場合は、関連科目を履修したり、自学自習で補うことが求められます。

要望

自分の目標を設定して、その達成を目指して積極的に英語学習に取り組んでいきましょう。その中で英語を学ぶ楽しさをぜひ実感してほしいと思います。

■ TOEIC Preparation

各教員

TOEIC Preparation

2年生後期

科目概要

TOEIC 試験で高得点を獲得するための準備クラスとして、TOEIC 形式によるリーディング・リスニングを学ぶ。

履修心得

TOEIC 形式の問題に慣れておくことが重要である。

要望

TOEIC のスコアは本学学生の英語力を最終判定する基準となるだけでなく、就職の際にも企業が利用する英語力判定基準となっている。より良い点数をとるためには継続した努力が必要なため、早めに受験の準備することが望ましい。

■ 英語文法トレーニング

荒井　圭子

English Grammar Training

2年生前期

科目概要

英語の 4 技能の習得とその活用には語彙力と文法力が 2 本の柱となることを念頭に、基本となる文法事項が実際にどのように活用されまた活用していったらよいかをリーデ゛ィング゛及びリスニング教材も用いて確認・学習してゆきます。実際に則した演習問題を通して実践的に文法を習得していくことを目指します。

Grammar and vocabulary are the two pillars of English that enable us to acquire four skills of the language (reading, writing, listening and speaking) and be competent to use them. This course will help students learn how basic English grammar works and how to use it in real-life situations through exercises including reading and listening practicing the grammar in context.

履修心得

特別な条件はありませんが、意欲をもって学習することが求められます。

要望

英文法トレーニングで、「英文法を知っている」から「英文法を使って英語が分かる、コミュニケーションができる」へ！

■ 英語文法トレーニング

篠原　有子

English Grammar Training

2年生前期

科目概要

このコースは英語の文法力の向上に特化したトレーニングコースである。英語の基礎力、特に文法知識を養うことを目的とする。

This course aims at improving students' English competence such as knowledge of grammer, brushing up on their basic skills of English.

履修心得

特別な条件はありませんが、意欲をもって学習することが求められます。

要望

演習を通して英文法の知識を高め、運用力のレベルアップを図ります。疑問は授業時に質問して解決するようにしてください。辞書を必ず持参すること。

■ 中国語(3)

黄 愛華

Chinese(3)

2年生前期

科目概要

基礎文法、基本表現の一部分

This course, based on the Chinese (1), (2), is designed to use the learned basic expression patterns to conduct dialogue on different situations. In addition to the language itself, the connected Chinese culture, customs will also be introduced in this course.

履修心得

教材についているCDをよく聞くこと

要望

少しレベルが高くなります。学習の成果も出る時期なので、頑張ってください。

■ 中国語(4)

黄 愛華

Chinese(4)

2年生後期

科目概要

国語の基礎文法、基本表現一通り終了。中国語検定準4級、4級問題に挑戦

This course, based on the Chinese (1), (2), (3),is designed to use the learned basic expression patterns to conduct dialogue on different situations. In addition to the language itself, the connected Chinese culture, customs will also be introduced in this course.

履修心得

学習したものを確実に自分のものになるよう心懸けましょう。

要望

レベルが高くなります。

中国語検定にぜひチャレンジーしてください。

■ 韓国語(3)

李 ジョンソン

Korean(3)

2年生前期

科目概要

韓国語(1)、(2)で学んだ文法、文型、語彙などをもう一度確認しながら活用度の高い口語表現を用いて、「聞く、話す、書く、読む」練習をバランスよく学習していく。

履修心得

文字が読めて書けること。または、韓国語(1)か(2)を履修していること。

要望

授業に積極的に取り組むこと。

■ 韓国語(4)

李 ジョンソン

Korean(4)

2年生後期

科目概要

より自然な韓国語会話ができるように、これまで学習してきた文法、文型、会話などを体系的に整理し、対照言語学的視点から視

聴覚教材を使いつつ、日韓コミュニケーションスタイルの違いについても理解を深める。

履修心得

韓国語(1)か(2)を履修しているか、それ相当の韓国語能力を有すること。

要望

授業に積極的に参加すること。

■ 応用体育(1)

高瀬　武志

Advanced Physical Education(1)

2年生前期

科目概要

生涯スポーツとして適したバドミントン題材として、基本的な技術の習得とゲームに関するルールやマナーを学び、生涯にわたって楽しく快適にバドミントンが行える能力と態度を養うことを目的とします。

In this course, we would like to give you how to enjoy badminton in your life. We also would like to learn the basic skills, the rules, the manners while we are playing a lot of practical games. Have fun.

履修心得

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨んで下さい。

要望

毎年、履修希望者が多いため抽選を行います。従って、第一回目の遅刻者・欠席者は履修できません。

■ 応用体育(1)

久保　哲也

Advanced Physical Education(1)

2年生前期

科目概要

生涯スポーツとして適した硬式テニスを題材として、基本的な技術の習得とゲームの体験を通してスポーツ文化のもつパワーと魅力を学習する。自らの生涯スポーツの一つとして楽しめる能力を養うことを目的とする。

In this course, we would like to give you how to enjoy tennis in your life. We also would like to learn the basic skills, the rules, the manners while we are playing a lot of practical games. Have fun.

履修心得

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。

要望

毎年、履修希望者が多いため抽選を行っている。従って、第１回目の欠席者は履修できないことがあるので、希望者は遅刻をせずに必ず出席すること。

■ 応用体育(2)

久保　哲也

Advanced Physical Education(2)

2年生集中（後期）

科目概要

シーズン性に富んだスポーツを中心とした集中授業の中で、生涯にわたって親しむことができる種目を選択し、その技術の習得と共に自然との共生する態度を育成することを目的とする。また、工学部、知識工学部、都市生活学部、人間科学部と合同で行うので、学部を越えた交流も行って欲しい。

The aim of this sport camp (ski& snow board) is to make the students acquire a skill and cultivate a good attitude in order to live close together with nature.

履修心得

３泊４日の集中授業であるため、全日程に出席することを条件とする。

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。

■ デザイン概論(1)

岡山　理香

Introduction to Design: Theory and History (1)

前期後半

科目概要

「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導けるよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉をあまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

履修心得

本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

要望

世の中にデザインされていないものは、あるのでしょうか？「口紅から機関車まで」(レイモンド・ローウィ)、人工物は全てデザインされていると言うこともできます。明日の世界を創造するために、デザインについて考えることはとても重要なことです。

■ デザイン概論(2)

岡山　理香

Introduction to Design: Theory and History (2)

後期後半

科目概要

本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。

履修心得

本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

要望

日本のデザインは、世界から注目されています。ユニクロや無印が世界に出店しています。ヨーロッパでは、19 世紀末に日本の美術・工芸・建築などに影響された「ジャポニスム」ブームがありました。ヨーロッパの人々を魅了した日本のデザインをよりよく知ってもらいたいと思います。よりよき世界の創造にデザインは大きな力を発揮します。

■ 日本文学

2年生前期

科目概要

文学は、自分が生きてきた背景や培ってきた価値観等に基づいて総合的に人間性を探究する営みである。人間には文学作品を読むことを通してしか学べないことがあり，読書習慣は生涯の心の支えになる。この科目では豊かな教養を身につけるために、科学とは異なる、文学独自の人間の捉え方を学ぶ。

世田谷を背景とする文学作品の読解を通して、地域の自然や環境、住民がどのように文学作品の中に描かれているのか探究しその価値を考える。また教科書掲載の一般によく知られた子どもの成長を描いた文学作品の読解を通して、子ども時代の感情と思考の経験を共感的に理解する。

履修心得

日常生活において読書に親しんでいること。　他学科・他学年の学生とのグループワークができるコミュニケーション能力を有すること。

要望

世田谷ゆかりの文学者の作品等を通して、読書習慣を身につけて欲しい。文学散歩と文学館見学に積極的に参加し、地域と文学との関連性を体感して欲しい。

■ 日本経済論

大守　隆

Japanese Economy and Economics

3年生前期

科目概要

この科目は、日本経済について大学卒業者にふさわしい知識を身に付けるためのものである。日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。

This subject enebles students to acquire knowledge on Japanese economy at a level required for university graduates. The

current situation and challenges for Japanese economy will be discussed based on major relevant indicators. First, an overview on current situation and history will be presented to attract attention. After learning framework of economic policies, we look at Japanese economy from various viewpoints, covering fiscal, monetary, regional, business, employment, energy, environmental issues. Finally a wrap-up will be made.

履修心得

週に一度は新聞などのニュースを丁寧に読んで、日本経済で起きていることの自分にとっての含意を考えてみること。

■ 日本の政治

田中　善一郎

Modern Politics in Japan

2年生前期

科目概要

1945 年の連合国の占領から今日までの日本の政治の歴史をいくつかの時代に区切り、それぞれの時代に見られた政治の特徴と政治運営の仕組を解説する。

履修心得

特にないが、毎日の新聞やテレビなどを通じて日本の政治のニュースに接することが望ましい。

要望

日本の政治の歴史や仕組みを理解することを通じて、これからも日本の政治を担うに足る人材に育ってほしい。

■ 国際化と異文化理解

3年生後期

科目概要

国際化が進む現代社会では、様々な文化背景の人々と関わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても、異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し、異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ、尊重し理解すること、さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

履修心得

グローバルな課題や文化の多様性についての関心。参加型の課題とグループワークに対する積極性。

要望

「自己について関心を深めること」「世界の様々な人たちの生き方に関心をもつこと」の両方を大切にしてください。 この授業をきっかけに、世界と自分とのつながりについて考えてみたい方歓迎。

■ 現代の疾病と食生活

2年生前期

科目概要

医学の進歩や生活水準の向上に伴い感染症は減少している。しかし，人々の生命を脅かす疾病からの開放は困難であり，国民すべてが健康で長生きできるという保障は得られない。さらに，加齢に伴う慢性疾患は増加し，がん，脳血管疾患，心臓病および糖尿病などが死因順位のトップを占める。この原因となる好ましくない生活習慣（食習慣，運動，休養，喫煙，不規則な生活，痩身志向，ストレスなど）は若年期に始まり，一人暮らしなどの生活の変化がこれを助長する。この授業では，健康増進と疾病予防の観点から，食行動のみならず、様々な好ましい生活習慣が心と身体の健康にとってなぜ大切であるかという人間側からの理解を基に，健康上の問題が発生したときに好ましくない要因を回避する方策，生活行動の変容に結びつけるための基礎知識を学ぶ。

履修心得

健康に関連する科目を履修していることが望ましい。

要望

身体の健康にとって大切な食事や生活習慣を学んでほしいです。

■ 演劇文化論

3年生前期

科目概要

演劇という芸術をより深く豊かに鑑賞するための方法を知る。実際に劇場などで演劇鑑賞を通して，演劇芸術に触れる楽しさおもしろさを経験する。演劇について DVD・ビデオ鑑賞を通して，さまざまな演劇について知る。これらのことを通して，演劇についての審美眼を養い，演劇の質について考える。特に，子どもを観客対象にした児童・青少年演劇鑑賞を通して，鑑賞教育の意義と目的について考える。

履修心得
特になし。

要望
演劇鑑賞を通して，笑ったり，泣いたり，共感したり，考えたりしながら，演劇という文化のおもしろさを経験してほしい。積極的に演劇鑑賞をしてほしい。

■ 地域福祉論

2年生後期

科目概要
この講義は、古くて新しい概念である地域福祉の思想と実践について学ぶ科目である。地域福祉は社会福祉における１分野であるというより、高齢者、障害者、児童のすべてに横断的に関わる福祉思想である。様々な領域に共通する新しい福祉サービスの在り方の体系とシステムを学ぶことは、地域主権・地方分権が叫ばれ、地域重視の傾向が加速化する今日において、地域コミュニティの形成および都市計画の立案にとっても欠くことのできない実践体系である。

履修心得
福祉問題の解決に興味・関心のある者

要望
地域福祉を学ぶことは一市民として社会で生活する上でも必要な教養である。また地域福祉を学ぶことで、様々な専門性分野を生かし統合し問題を解決し、社会的貢献ができる可能性がある。

■ 現代の物理

堀越　篤史

Contemporary Physics

2年生前期

科目概要
地球温暖化，原発問題，エネルギー問題など，現代社会はさまざまな問題に直面している。物理学は，こうした問題を考えるうえで基礎となる学問の一つである。本講義では，理系・文系を問わず，現代を生きる大学生が知っておくべき「物理学」を，さまざまな事柄を題材に解説する。

履修心得
高等学校で「物理」を履修している必要はない。

要望
本講義は，参考書として挙げた３冊をベースに組み立てられている。これらは読み物形式で書かれており，自習に最適であるため，予習・復習に役立てて欲しい。

■ 現代の物理

長田　剛

Contemporary Physics

2年生前期

科目概要
20世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は、科学の多くの分野と関連し、環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので、誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では、大事で面白いテーマを、できるだけわかりやすく取り上げる。

Modern physics, which had dramatically developed in 20th century, is a grand basis for almost all other sciences including techniques of environment and information science. It is desirable for everybody to

learn modern physics since our society is constructed on the basis of development of science and techniques. This series of lectures consistes of subjects that are important and interesting to pepole

who live in today.

履修心得
特になし。

要望
受講生からの科学に関する疑問に応える形で授業を構成することも可能です。疑問、質問など遠慮なく長田まで知らせてください。

■ 科学技術と社会

大塚　善樹、川村　久美子

Science, Technology and Society

2年生後期

科目概要

現代の社会は，科学と技術の発展をもとに作られていて，科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし，一方で，科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり，地域－地球環境問題のような負の影響も無視できない。この講義では，科学と技術の歴史をふまえ，それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

Modern society has been based on science and technology. Both are necessary for society, and for our daily life. However we have little chance to realize how science and technology related to our life, althogh they negatively influence through both local and global crisis for natural environment. In this lecture, we will consider the relationship between science/technology and society in detail, on the context of history, philosophy and science studies.

履修心得

特になし

■ 公衆衛生学

3年生後期

科目概要

共同社会の組織的な努力を通じて，疾病を予防し，生命を延長し，身体的・精神的・社会的健康を保持・増進を図るため，母子保健，環境保健，産業保健・労働衛生，疾病予防，保健・福祉，健康教育，健康管理，衛生行政，医療制度および社会保障などの基本的概念をを学ぶ。また，プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び，さらに，集団での各種疾病や中毒の予防，診断などについて，疫学，統計学などの技術を学び，科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り，応用として，健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には，シラバスにそって，公衆衛生の観点に立って健康を意識し，視野を高めると同時に，自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。公衆衛生学の学習は，保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において，特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持，増進を図る上で，極めて重要であるばかりでなく，そこで働く保育・教育者の健康の保持・増進においても，最も基本的で重要である。

履修心得

保健行政，予防医学，国際保健，健康学，福祉学，健康に関する興味

要望

この分野は社会情勢等で絶えず変化があるので最新の情報に常に意識すること。また、すべての保育者にとって公衆衛生マインドは必要である。

■ 生活とメディア

2年生前期

科目概要

講義では，日常的なメディアや，メディア利用状況をとりあげ，それらが私たちの生活にどのような影響を与えているかを論じる．具体的には，プリクラやケータイ小説，SNS といった，私たちの認識や思考に強く染み込んだメディアについて，認知科学や社会文化学的の観点から概説する．またあわせて，講義の後半では今日的な場のデザインや文化構築とメディアとの関係をとりあげる．

■ インターンシップ(2)

各教員

Internship(2)

2年生前期

科目概要

インターンシップとは，企業に行って定められた日数にわたって実務を体験することである。学生時代の勉強方法と実社会での仕事の進め方はかなり異なっているが，インターンシップによって，それらの違いを学生時代に体得できるといったメリットがある。また，就職を希望する企業が，どのような仕事をしているかを事前に知ることができる

社会メディア学科専門科目

社会メディア学科

人材の養成及び教育研究上の目的	グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを、社会科学的視点から調査分析し、情報メディアを駆使した解決法を編み出し、社会に向けて説得的に提言できる人材、そのために必要な実践力-リサーチ力、デザイン力、コミュニケーション力-を備えた人材を養成することを目的とする。

社会メディア学科で学ぶにあたって

社会メディア学科主任教授　川村久美子

１．社会メディア学科で何を学ぶか

情報コミュニケーション技術の発展が著しい。技術の発展は、私達が想像することもできなかった、世界規模での人々の繋がりを現実のものとしている。一方で、この技術自体が大きな問題を引き起こすことも既に経験済みである。

こうした社会背景の中、情報コミュニケーション技術についての理解を踏まえた上で、社会科学的な方法論に基づいて情報社会の諸問題を調査・評価・提案できる人材が重要さを増している。社会メディア学科はこうした要請に基づき、従来の教育・研究の一層の充実をはかるために生まれた学科である。

本学科の考える“情報社会の諸問題”は幅広い。例えば、新しいコミュニケーション・ツールに対する小さな違和感の問題から、世界の見え方を変える新技術が街をどう変えるのか、コミュニティのあり方をメディアがどう変えるのか 等々、いずれも情報社会の問題である。こうした諸問題を本学科では、既存学問分野の社会学、心理学、認知科学、デザイン学、メディア学、政治等をベースとする複合的な視点で解き明かしていく。

社会メディア学科で学んでほしいのは体系化された知識やスキルだけではない。激しく移り変わる時代の中で、これらは絶えず書き換えられる。常に必要な知識やスキルを取り込み、それを実践的な力に変えられる柔軟な知性こそ、本学科で最も手に入れてほしいと願うものである。

２．教育目標

本学科の教育目標は、次の三つの力を養うことである。

＊身近な社会問題を大きな背景の中で考える「知性」を養う。

＊個人と地域、地域と企業、市民と専門家、異文化――さまざまな集団を橋渡しできる「コミュニケーション力」「マネジメント力」を養う。

＊人と人との結びつきを変える新たなコミュニケーション・ツールを自ら提案できるスキルを養う。

これらの力を養うために、本学科では社会科学分野の様々な学習と併せて、情報技術やコンテンツ制作に関わるカリキュラムを用意している。

また、インターネットに代表される情報技術が人々の生活やコミュニケーションに大きく関わってきている現在、それが人々や社会にどんな影響をもたらすかに関し、深い理解と洞察力が求められている。本学科では社会学の他にもメディア学や心理学、デザイン学などの観点から情報技術にアプローチすることにより、その多面的な様相を深く考察することができる。

さらに、本学科では1，2年次にオーストラリア留学プログラム（ＴＡＰ）を実施しており、それに参加することを通して、グローバルな場面にも通用するさらに高いコミュニケーション力を養うことができる。

３．教育の特徴

社会メディア学科では基礎科目として「社会調査」「社会調査実習」等の、調査技法を学ぶ科目を設置している。こうした技法に加え「クリティカルシンキング」「社会文化フィールドワーク」「プロジェクト学習」等、現代社会の事象を深く掘り下げる意識を養う科目を設け、実践的な取り組みを授業で体験させることにより、教育目標に掲げる三つの基礎力を確実なものにしていく。

社会メディア学科の専門分野は大きく「コミュニティデザイン分野」と「人間コミュニケーション分野」の二つに分かれる。１年次、２年次に様々な科目を履修しながら、自らが主に学びたい分野を絞り込んでいく。

「コミュニティデザイン分野」：円滑なコミュニケーションの実現に向け、情報機器を使いこなして新しい仕組みをつくることを目指す。“情報化”や“コミュニティ”を社会や生活者の目で捉え、課題の発見・分析のみならず、問題解決を目指してメディアやシステムの試作・提案を行う「社会情報デザイン」や、問題解決のためのコミュニケーションの場のデザインの研究を行う。また Web やポスター、広告、ゲーム、テレビなど身近な情報のデザインを調査し、新しいデザインを行うための情報表現に関する知識と技術を学ぶ。

「人間コミュニケーション分野」：様々な文化背景を持つ人々が集まる現代社会で、円滑なコミュニケーションを図るのに必要な知識・スキルを身に付ける。コミュニケーションの側面から社会問題の解決を目指し、現代社会の多様なコミュニケーションを調査・分析する方法を学び、新たなコミュニケーションの方策を提案する力を身に付ける。既存メディアの再編や新メディアの発展で激変する現代の多様なメディア・コミュニケーションについて学び、効果的な情報発信の方法を考える。

３年次からは全員が研究室に配属される。３年次、４年次の２年間にわたり、それぞれが学びたい分野の研究室に所属し、テーマの見つけ方や研究手法、具体的な研究の進め方をゼミ形式（少人数教育）で学ぶ。担当教員による、一人ひとりの直接指導の時間も多い。４年次には卒業研究を完成させ、全員が大学生活における専門研究の成果を発表する。

４．学修にあたって

本学科の学修の特色の一つが「プロジェクト型学習」である。提示された解決すべき課題に対して、どのようにアプローチをし、何を提案するのか、学生が自ら企画し進めていくのがプロジェクト型学習である。複数の教員が連携したり、学外の組織と組んで企画されることも多い。こうした学修に学年・研究分野を横断して参加する機会を設けることにより、主体的、実践的に学ぶ力を身に付けることが、社会メディア学科の学びの大きな特徴である。

こうした学修に参加するかしないかは、多くは学生の意志に任される。プロジェクト型学習への参加体験は、学生生活の中でとりわけ大きな意味を持ってくることが多い。テーマへの興味が自らの研究意欲を掻き立て、卒業研究や大学院進学につながることも少なくない。チームで取り組む学修を通じて、今まで知らなかった自らの能力に気付くこともある。講義を受講しているだけの授業では得ることのできない達成感や挫折感も、プロジェクト学習ならではの体験である。チャンスがあったらまずは挑んでみる、大学生活を通じて常に果敢に挑戦する姿勢を持ち続けてほしい。

社会メディア学科専門科目

社会メディア学科の専門科目では、社会メディアを学んでいく上での助けになるよう、科目内容に基づいていくつかの分類を行っている。履修する際にはこれらや履修モデルを参考に、１・２年のうちはバランスよく、また３・４年次には徐々に研究計画や関心領域に応じて履修することが重要である。

■学科基盤科目

社会メディア学科で学び、事例研・卒研での研究に進むうえでの基礎知識、方法論に関する科目。内容としては以下のように、社会メディアに関連する心理学・認知科学等隣接領域の理論や基礎知識、思考・発想法、基礎的スキル、方法論、ウェブデザイン関連科目に大よそ分類できる。

・全般的な基礎知識に関する科目：「現代社会とメディア」「社会心理学概論」「認知科学」「視覚情報表現論」

・思考・発想法に関する科目：「クリティカルシンキング」

・情報システムや調査に関する基礎的スキル：「基礎プログラミング演習」「LAN 環境演習」「サーバシステム構築」「サーバ管理演習」「応用統計」など

・方法論関連科目：

全般的な手法：「社会調査設計」「社会調査実習」

量的研究手法関連科目：「社会メディア実験・測定演習」「データ分析法」

質的研究手法関連科目：「質的調査演習」「社会文化フィールドワーク」

研究プロセス全体を体験する科目：「プロジェクト学習」

・ウェブデザイン関連科目：「ウェブデザイン演習」「インフォグラフィックスデザイン演習」「インタフェースデザイン演習」「コンピュータグラフィックス」など

■学科専門科目

さらに深く学んでいくための、個別の領域の知識や問題について講義する科目。大きく 2 群に分かれる。それぞれに分類される科目名はカリキュラム表を参照のこと。

［コミュニティデザイン分野］

ソーシャルネットワーク、地域コミュニティ、参加型デザイン、メディア文化などの社会情報デザインと、視覚情報デザイン、ウェブデザインなどの情報表現に関わる学習のための科目群。

［人間コミュニケーション分野］

さまざまな個人や集団間での異文化間、科学・リスク等に関するコミュニケーションの領域、および知的財産権や法制度を含んだメディア研究、メディアと政治・経済等現代社会との関係、マスメディアの個人への影響やジャーナリズム等に関する科目群。

メディア情報学部　教育課程表の注意事項

- 「学部共通科目」は、両学科共通として教育課程表を掲載している。
- 「専門科目」は、学科毎に教育課程表を掲載している。
- 週時間数の「2」時間は、100 分授業（1 授業時間）のことである。
- 週時間数の（　）書きのものは、クラスにより前期または後期に配当される。
- 時間割編成等の運用上、開講時期や担当教員を変更する場合がある。
- 「教職課程」を履修するには、別途、教職課程履修登録をしなければならない。

メディア情報学部　社会メディア学科　教育課程表

○印必修　△印選択必修

区分		授業科目	必選の別	単位数	週時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門基礎科目		環境マネジメントシステム	○	2	2								
		情報発信入門	○	2	2								
		統計学基礎		2	2								
		ミクロ経済学		2	2								
		現代国内情勢		2	2								
		マネジメント入門		2		2							
		情報環境論		2		2							
		情報セキュリティ		2			2						
		社会調査	○	2		2							
		情報と職業		2			2						
		情報と法		2			2						
		データベース		2				2					
		キャリアデザイン		2				2					
		情報の倫理		2					2				
		行動的意思決定論		2						2			
		情報政策論		2						2			
専門科目	学科基盤科目	社会学概論		2		2							
		社会心理学概論		2		2							
		現代社会とメディア	○	2		2							
		認知科学		2		2							
		クリティカルシンキング		2		2							※
		プロジェクト学習		2			2						※
		応用統計	△1	2		2							
		社会メディア実験・測定演習	△1	2			2						※
		社会文化フィールドワーク	△1	2			2						※
		社会調査設計	△1	2				2					△１から２科目選択
		質的調査演習	△1	2				2					※
		データ分析法	△1	2					2				
		社会調査実習	△1	2					2	2			※
		基礎プログラミング演習	△2	2	2								※
		コンピュータシステム	△2	2		2							
		コンピュータグラフィックス	△2	2		2							
		ウェブデザイン演習	△2	2			2						※
		インフォグラフィックスデザイン演習	△2	2			2						※
		ＬＡＮ環境演習	△2	2				2					※ △２から２科目選択
		視覚情報表現論	△2	2				2					
		インタフェースデザイン演習	△2	2				2					※
		インタラクティブシステムデザイン	△2	2					2				
		サーバシステム構築	△2	2					2				※
		サーバ管理演習	△2	2					2				※
	学科専門科目（コミュニティデザイン分野）	都市・コミュニティ論		2		2							
		デザインシンキング		2		2							
		メディアと表現		2	〈2〉		2						〈TAP履修制限科目〉:TAP参加者履修登録許可
		メディア文化論		2	〈2〉		2						〈TAP履修制限科目〉:TAP参加者履修登録許可
		参加型デザイン論		2				2					
		社会ネットワーク論		2				2					
		社会情報デザイン		2				2					
		メディア・プロデュース論		2					2				
		持続可能社会とコミュニティ		2					2				
		ＮＰＯとソーシャルビジネス		2					2				
		起業論		2						2			
		街づくり論		2						2			
	学科専門科目（人間コミュニケーション分野）	自己理解とカウンセリング		2		2							※
		ジャーナリズム論		2			2						
		コミュニケーションの心理		2			2						
		電子商取引論		2			2						
		異文化間コミュニケーション		2				2					
		マスメディアと人間行動		2				2					
		現代国際情勢		2				2					
		メディアと政治		2				2					
		リスクコミュニケーション		2					2				
		産業組織心理学		2					2				
		メディアと知的財産権		2						2			
		ルポルタージュ論		2						2			
		事例研究	○	4					3	3			※
		卒業研究	○	6									※

※演習のため、他学科履修不可

履修上の注意事項　（メディア情報学部共通）

１．授業科目履修上の注意事項

□　１・２年次の学修（履修）の考え方

主に必修科目の修得と、基礎科目及び専門基礎科目、学科基盤科目など3年次以降の専門的学習の基礎となる科目の修得をめざす。各学年４０単位以上（各学期に最低２０単位以上）は取得すること。２年次修了までに８０単位以上取得することを目標とする。

□　３・４年次の学修（履修）の考え方

専門科目を主に履修し、３年次終了時点で卒業研究着手条件①～③を満たすよう履修する。４年次では、卒業研究に着手し、卒業研究論文を作成する。卒業要件１２４単位以上の取得を目指す。

２．３年次進級条件について

２年以上在学して７０単位以上取得しなければ、３年次に進級することができないので、２年次終了時までに７０単位以上取得すること。２年次までの在学年数は、４年を超えることができない。

３．卒業研究着手について

３年以上在学して、以下の条件を満たさなければ卒業研究着手は認められないので、この条件を満たすよう履修すること。

①１００単位以上取得していること。
②２年次までの必修科目を全て修得していること。
③事例研究を修得していること。

４．その他特に留意すべき点

他学科、他学部の科目を履修する場合は当該学修要覧を参照すること。

表－１　　履修モデル１（社会メディア学科）：ウェブデザイン、ウェブサービス系企業、広告系企業などを目指す学生の例

科目区分（卒業要件）		1年		2年		3年		4年		必修	選択	自由
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎科目（16単位）	外国語科目（6単位）	Communication Skills 1◎ Study Skills◎	Communication Skills 2◎ Reading and Writing 1◎	Reading and Writing 2◎	TOEIC Preparation ◎					6		0
	教養科目（10単位）	情報と社会◎ 情報リテラシー演習◎ 情報通信技術入門◎ 心理学入門	情報編集入門							6		4
専門基礎科目（20単位）		環境マネジメントシステム◎ 情報発信入門◎ 統計学基礎	社会調査◎ 情報環境論	情報セキュリティ 情報と法	データベース キャリアデザイン	情報の倫理				6		14
専門科目（78単位）	学科基盤科目（選択必修*1）（8単位）		応用統計△	インフォグラフィックスデザイン演習△ 社会文化フィールドワーク△	視覚情報表現論△					12	8	58
	学科基盤科目（必修、選択科目＋自由科目*2）	基礎プログラミング演習△	現代社会とメディア◎ 社会心理学概論 認知科学 クリティカルシンキング コンピュータグラフィックス△	プロジェクト学習 ウェブデザイン演習△	LAN環境演習△ インタフェースデザイン演習△	サーバシステム構築△ サーバ管理演習△ インタラクティブシステムデザイン△						
	学科専門科目		都市・コミュニティ論 デザインシンキング	メディアと表現 メディア文化論 電子商取引論 コミュニケーションの心理	参加型デザイン論 社会ネットワーク論 社会情報デザイン マスメディアと人間行動	メディア・プロデュース論 リスクコミュニケーション NPOとソーシャルビジネス 産業組織心理学	起業論 街づくり論 メディアと知的財産権					
	事例研究 卒業研究					事例研究◎		卒業研究◎				
自由選択科目（10単位）		社会学入門 ミクロ経済学		情報と職業	法と市民（憲法含む） 科学技術と社会					0		10
合計（124単位）		22	24	23	23	16	10	0	6	30	8	86

◎必修科目　△選択必修科目　*1 選択科目のいずれか８単位分を選択必修として履修する。　*2 必修以外は、学科基盤科目の選択科目から選択必修として履修した科目を除いた選択科目と自由科目から選ぶ。

表－２　履修モデル２（社会メディア学科）：マスコミ、企業の企画・調査・マーケティング部門、などを目指す学生の例

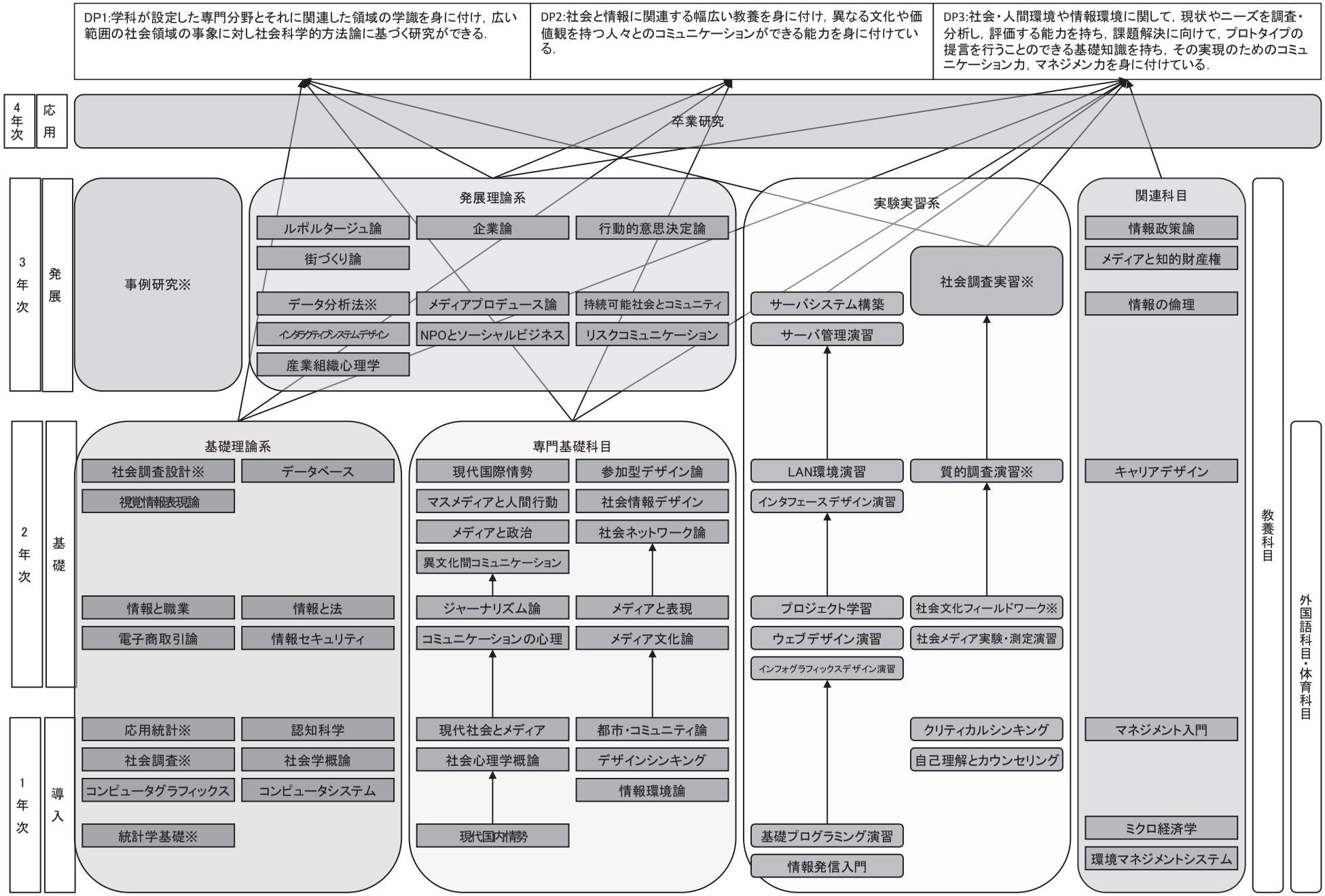
科目区分（卒業要件）		1年		2年		3年		4年		必修	選択	自由
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎科目（16単位）	外国語科目（6単位）	Communication Skills 1◎ Study Skills◎	Communication Skills 2◎ Reading and Writing 1◎	Reading and Writing 2◎	TOEIC Preparation ◎					6		0
	教養科目（10単位）	情報と社会◎ 情報リテラシー演習◎ 情報通信技術入門◎ 心理学入門	情報編集入門							6		4
専門基礎科目（20単位）		環境マネジメントシステム◎ 情報発信入門◎ 統計学基礎 現代国内情勢	社会調査◎ マネジメント入門	情報セキュリティ 情報と法		情報の倫理	行動的意思決定論			6		14
専門科目（78単位）	学科基盤科目（選択必修*1）（8単位）		応用統計△	社会メディア実験・測定演習△ インフォグラフィックスデザイン演習△	視覚情報表現論△					12	8	58
	学科基盤科目（必修、選択科目＋自由科目*2）	基礎プログラミング演習△	現代社会とメディア◎ クリティカルシンキング 社会心理学概論 社会学概論	プロジェクト学習 ウェブデザイン演習△	質的調査演習△ 社会調査設計△ インタフェースデザイン演習△	インタラクティブシステムデザイン△ データ分析法△ 社会調査実習△						
	学科専門科目		自己理解とカウンセリング	ジャーナリズム論 メディア文化論 電子商取引論 コミュニケーションの心理	異文化間コミュニケーション マスメディアと人間行動 現代国際情勢 メディアと政治 社会ネットワーク論 参加型デザイン論	リスクコミュニケーション 産業組織心理学 持続可能社会とコミュニティ メディア・プロデュース論	メディアと知的財産権 ルポルタージュ論					
	事例研究 卒業研究					事例研究◎		卒業研究◎				
自由選択科目（10単位）		社会学入門 ミクロ経済学	法と市民（憲法含む）	日本の政治		日本経済論				0		10
合計（124単位）		24	22	23	21	16	10	0	6	30	8	86

◎必修科目　△選択必修科目　*1 選択科目のいずれか８単位分を選択必修として履修する。 *2 必修以外は、学科基盤科目の選択科目から選択必修として履修した科目を除いた選択科目と自由科目から選ぶ。

表－３　履修モデル３（社会メディア学科）：情報サービス系企業コミュニティビジネスなどを目指す学生の例

科目区分（卒業要件）		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	必修	選択	自由
基礎科目（16単位）	外国語科目（6単位）	Communication Skills 1◎ Study Skills◎	Communication Skills 2◎ Reading and Writing 1◎	Reading and Writing 2◎	TOEIC Preparation◎					6		0
	教養科目（10単位）	情報と社会◎ 情報リテラシー演習◎ 情報通信技術入門◎ 社会学入門	情報編集入門							6		4
専門基礎科目（20単位）		環境マネジメントシステム◎ 情報発信入門◎ 統計学基礎	社会調査◎ マネジメント入門	情報と職業 情報と法	データベース	情報の倫理	情報政策論			6		14
専門科目（78単位）	学科基盤科目（選択必修*1）（8単位）		応用統計△	ウェブデザイン演習△	社会調査設計△	インタラクティブシステムデザイン△				12	8	58
	学科基盤科目（必修、選択科目＋自由科目*2）	基礎プログラミング演習△	現代社会とメディア◎ クリティカルシンキング 認知科学 コンピュータシステム△	プロジェクト学習 社会文化フィールドワーク△ インフォグラフィックスデザイン演習△	視覚情報表現論△ LAN環境演習△ インタフェースデザイン演習△	サーバシステム構築△ サーバ管理演習△						
	学科専門科目		都市・コミュニティ論 デザインシンキング	メディアと表現 メディア文化論 電子商取引論 コミュニケーションの心理	参加型デザイン論 社会ネットワーク論 社会情報デザイン	メディア・プロデュース論 持続可能社会とコミュニティ NPOとソーシャルビジネス リスクコミュニケーション 産業組織心理学	起業論 街づくり論 メディアと知的財産権					
	事例研究 卒業研究					事例研究◎		卒業研究◎				
自由選択科目（10単位）		心理学入門 ミクロ経済学	法と市民（憲法含む）	日本の政治	科学技術と社会					0		10
合計（124単位）		22	24	23	19	18	12	0	6	30	8	86

◎必修科目　△選択必修科目　*1 選択科目のいずれか８単位分を選択必修として履修する。　*2 必修以外は、学科基盤科目の選択科目から選択必修として履修した科目を除いた選択科目と自由科目から選ぶ。



※は社会調査士資格に関する科目

科　目　概　要（2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと）

（教育課程表掲載順に記載）

■ 情報セキュリティ

関　良明

Computer Security

2年生前期

科目概要

インターネットやITの普及に伴い、情報セキュリティが重要となっている。授業では、基礎技術として暗号関数、基盤技術として情報暗号、相手認証、電子署名などを講義する。また、応用技術としてファイアウォール、VPN、ICカードなどを講義する。最後に、NISTのFIPSについて言及する。

According to spread of internet and IT,information security becomes very important. A teacher lectures on threat to information,network security,encryption technology, and authentication technology.

履修心得

ネットワークに関する知識を学んでおくこと。

要望

技術の発展にともない、情報通信環境の安全性も変化し続けている。このことを踏まえて、ますます重要となる情報セキュリティの必要性や基礎知識を理解して、実践してほしい。

■ 情報と職業

岡部　大介

Information and Workplaces

2年生前期

科目概要

本講義において，科目担当者は，情報メディアやツールを，単に仕事を効率化する道具ではなく，むしろ，知識や技術をリンクしたり，社会的ネットワークを構築するための道具であると捉える．このような見方に立って，様々な仕事場への情報メディアやツールの導入や使用例を分析し，仕事場におけるデザインのあり方について講義することが趣旨となる．具体的には，人工物に情報を記入する古くから行われている労働環境における情報伝達から，近年あたり前となった情報システムを用いた労働環境を確認し，今日的なネットワーク化された情報と職業の意味を論考する．

In this lecture, a view of information ecology is explained along with various examples in workplaces.

履修心得

今日の情報システムへの興味に加え，デジタルファブリケーションのような，新しい ICT と職業の関係に関心があること．

■ 情報と法

佐藤　豊

Information and Law

2年生前期

科目概要

情報社会の到来に伴い、サイバースペースにおいてさまざまな法的問題が発生しつつある。この講義では、情報メディアの発達によるコミュニケーションのあり方の変化を概観し、「情報」と「法」の関わりをマクロな視点で捉え、放送・通信・インターネットなど情報を媒介するシステムにまつわる法的問題を様々な事例とともに論じる。

With the arrival of the information society, various legal problems are occurring in a cyber space. In this lecture, we will see how the communication system is changed by the development of the information media, and think about the legal problems of the Broadcasting/Internet where the information flows.

なお，本講義は，メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項にある，社会科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示する科目となる．

履修心得

インターネット・放送・通信・デジタルコンテンツ・知的財産権・著作権というキーワードに関心のある学生を歓迎する。

■ データベース

鈴木　幸市

Database

2年生後期

科目概要

デジタル化された情報の蓄積保存にはデータベースは不可欠である。データベースの主流であるリレーショナルデータベースについて、その基本的考え方、テーブル、クエリ、トランザクションなどの概念、データベースの具体的設計方法、その運用方法を教授する。さらに身近な活用事例についても教授する。

Database is indispensable component to store digital information.

In this subject, basic concept of database management system to store and utilize digital information, including relational data model, notion such as table, query, transaction, database design and its operation as well as their application will be taught.

履修心得

「コンピュータシステム」を受講すること、あるいは同等の予備知識を習得しておくこと。

要望

教材は事前にダウンロードし、PC あるいは印刷して授業に持参してください。スマホやタブレットは画面が小さいので使わないでください。/講義内容は広い範囲にわたっています。事前に教材を眺めておくこと、及び復習が大事です。データベースは情報システムに不可欠な構成要素です。しっかり自分のものにしてください。

各回の授業はそれ以前の授業内容がしっかり理解してあることを前提に進めます。止むを得ず欠席する場合は、欠席した回の教材を少なくとも 4 時間は自学自習し、その結果を提出してください。

■ キャリアデザイン

曲尾　実

Career Design

2年生後期

科目概要

キャリアデザインに必要な自己理解と社会・環境の理解を、DVDの視聴やグループワークなども実施しながら促進していく。また、社会人として求められるコミュニケーション力などの基本的なスキルについて、講義での解説とともに、グループワークなどの実施により実践的に習得の促進を図っていく。

履修心得

学問上の知識等は特になし。ただし、自らの人生（仕事人生）に対する大いなる関心と、真摯な受講態度が望まれる。

要望

成り行きでない（仕事）人生を送るための科目です。自己理解や仕事理解、自分の能力の確認などをしていきますが、キャリアに関することを考える場合には自分一人だけの分析ではなく、他の人との比較も大変重要になります。したがって、グループワークやディスカッションに積極的に参加することが必要です。

期末試験のみならず、出席率や課題への取り組み、グループワークなどへの貢献度、授業中の態度・行動も評価対象にします。

■ 情報の倫理

田川　史朗

Information Ethics

3年生前期

科目概要

情報技術の進展にともない、人びとの生活・コミュニケーション様式は大きく変化している。日頃から携帯電話やパソコンなどのツールを手にとる私たちが経験する社会的リアリティなど具体的な事例の検討からはじまり、L・レッシグのアーキテクチャ概念などに依拠しながら、情報社会における倫理の役割について論説する。

With the development of information technology, people living and communication style has changed greatly. Starting from a study of specific cases, such as the social reality that we experience to use tools such as mobile phones and personal computers on a daily basis, while relying such as the architecture concept of Lawrence Lessig, to learn about the role of ethics in the information society.

なお本講義は、メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項にある、社会科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示するための科目となる。

履修心得

ディスカッションの時間を設けるため、前週の講義で指定したテーマ等について自分なりの論点を説明できるよう準備しておくこと。

要望

情報端末利用のガイドラインやインターネット等 CMC におけるエチケットなどユーザーとして守るべきルールを羅列するような授業ではありません。本講義では、なぜこうしたルールが必要なのかを理解するための想像力を養うことを企図しています。第三者から個々具体的なルールに対して「なぜ守らなければならないのか？」と問われたときに、自分なりの「理由」を示せる力を身につけてほしいと思っています。

■ 行動的意思決定論

広田　すみれ

Behavioral decision making

3年生後期

科目概要

情報社会では様々な領域で主体的に意思決定を行うことが求められるが、一方で実際の意思決定には心理的なバイアスがさまざまに存在している。この問題を扱っているのが行動的意思決定理論である。行動的意思決定理論とは、人間の個人・集団の意思決定を実験や調査を通じて実証的に研究し、理論化したもので、行動経済学とほぼ同じ問題を扱っている。本講義では、この領域での個人レベルでの意思決定と集団レベルでの意思決定について、現在までの研究の概要や主要な概念を講義する。

This course provides you the concepts, basic ideas and the various empirical results around behavioral decision making, including behavioral game theory. You can also get those in behavioral economics, and know the impacts on the libetalian policies in the United States.

履修心得

認知科学、社会心理学概論、コミュニケーションの心理について知識があることが望ましい。またミクロ経済学の知識があるとより理解しやすい。

要望

行動的意思決定論は行動経済学とほぼ同義で現在非常に注目され、発展が進んでいる分野。消費者行動とも密接な関連があるのでそういった関心のある方に履修してほしい。

■ 情報政策論

岸田　伸幸

Information Policy

3年生後期

科目概要

20 世紀に始まった情報通信技術の急速な進歩は、世紀末には情報通信革命と呼ばれた劇的なイノベーションを惹起し、高度情報通信ネットワークが現代社会に不可欠なインフラストラクチャーとして定着した。そうした社会基盤を適切に利活用し、安全・安心・便利な国民生活、熾烈な競争に励む企業活動、人類が抱える地球規模の矛盾解決などを支援するには、国家の情報政策の役割が重大である。

本科目では、総務省の情報通信政策を中心に現代日本の情報政策の現状を教えると共に、情報政策形成の中枢である内閣府 IT 戦略本部について講義する。また、政策科学的アプローチにより日本の情報政策の特性を把握できるよう指導する。更に、海外の政策動向と国際協調活動について講義し、今後の情報政策の方向性について考える機会を与える。

なお本科目は、メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項にある、社会科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示するための科目となる。

The rapid development of the information and communication technology which had started in 20th Century provoked drastic innovations that were called the Inofromation and Communication Revolution and made advanced information and communication networks as one of the indispensable infrastructure of the contemporary society. National information and communication policies are important for making use of such a social infrastructure properly so that to support the people's safe, secure, and convenient livings, the businesse under fierce competitions, and the troubleshootings for global human welfare.

In this cource, I will lecture Japan's information policis based mainly on Ministry of Internal Affairs and Communications' along with the IT Strategy Headquarters which is the center of the information polcy making. Moreover, the policy scientific approaches will be tought so as to enable students to understand characteristics of Japan's information policy. Furthermore, I will make lectures about some of foreign information policies and the international cooperations to give students an opportunity to think about future direction of Japan's information and communication policy.

This course is one of the subjects in the Sociology and Media Studies curriculum policy article 1 to present the basic knowledge necessary to understand the information-based society from the view point of social sciense.

履修心得

日本の主権をシェアする国民の一人として国政全般への関心があること。留学生はこの限りでないが、母国の情報政策について基礎知識があることが望ましい。

要望

日常的市民生活から、ビッグビジネス、高度学術研究に至るまで、情報政策の影響は、幅広い範囲の高度で専門的な内容に及びます。内外の情報政策の主要課題を、技術的側面を含めて理解すると同時に、日本の情報政策のダイナミズムを規定するメタポリシー／メガポリシーを踏まえた見識を養いたいと思います。

■ プロジェクト学習

岡部　大介、小池　星多

Project Based Learning

2年生前期

科目概要

可能な限り実社会の問題とリンクしたプロジェクトテーマとする。学生は教員と共に、問題提起から問題解決までのプロセスを体験することで、提案力、デザイン力、発信力を身につける。得られた成果は、学内外で公表の機会をつくりフィードバックを得る。

Students practice and solve real social issues. They obtain competence of presentation, design, publishing through process from problem presentation to problem resolution with professors. They present report the results of their studies and obtain feedback.

履修心得

（小池/岡部）

講義外での主体的な学習が可能な学生であること.

■ 社会メディア実験・測定演習

広田　すみれ、山崎　瑞紀、清水　由美子

Practice of experiment and measurement for socialmedia studies

2年生前期

科目概要

メディアやコミュニケーション研究の手法として印象測定や実験を実習として体験し、実験の進め方や機器の用い方、レポート執筆法を実践的に身につける。具体的には、情報の種類と量を記述し、それが人にもたらす印象測定の方法をSD法などにより学ぶ。実験実習では記憶の自己照合効果や情報伝達等、複数の実験を行い、それぞれをレポートにまとめる。

The purpose of this class is to study the measurement and the several experiments through the experience, and to learn the ways to conduct experiments, control the experimental devices, and write the reports.

履修心得

若干、統計的知識が必要になることがある。

要望

測定や実験を自ら実施し、レポート作成をするため、積極的な態度が必要。すべて出席が前提。

■ 社会文化フィールドワーク

岡部　大介、関　博紀

Socio-cultural fieldwork

2年生前期

科目概要

本講義は，文化人類学や社会学，認知科学において用いられてきた「フィールドワーク」について解説することを趣旨とする．担当教員は，人文科学領域に関連するテーマや対象を受講生が選択し，実際にフィールドワークの手法を用いて調査を進めることを促す．

フィールドワークはグループにわかれて実施するよう計画している．従来からある質的方法，例えば，聞き取り調査，観察法，ドキュメント分析などに加えて，今日的な社会文化を調査するための新たな手法として，web やモバイルを用いた行動サンプリング法，シャドウイング，ビデオ分析などの手法についても紹介する．なお，フィールドワークを含む質的調査法の学習では，主体的な活動が重要であるため，講義時間外も含めてグループワークを進めることを求める．

本講義において，担当教員らは，フィールドワークを通して得た情報から結論を導き出し，他者にそれらを伝達するために，情報の「整理」が重要であると考える．情報の整理のために，グループで得たデータを相対化することに加え，テーマに関連した文献調査をしっかりと行なうこと，対象者と良好な関係を築き，日常的に多様な話を聴き出すこと，これらのことがらを重視する．

授業時は，テーマ選定，経過報告，結果の整理と分析，プレゼンテーション作成などをグループで行うよう促し，教員はフィードバックをする．第 7 回目に中間発表を実施し，第 13 回目と第 14 回目に本発表を実施する．

In this course, first, the examples of fieldwork studies in mundane daily life and workplace are introduced. Second, students do fieldwork surveys based on their own interests and discuss about methodology, analysis, previous works and progress with professors .

履修心得

今日的なテーマの選定，フィールドワークを通したデータ収集に真摯に取り組むことができ，かつ，それを関連する文献調査や先行研究といった情報とともに整理することを愉しめることが履修する上で必要な条件となる.

要望

教科書は授業内で指示する予定.

■ 社会調査設計

島村　賢一

Social Research Design

2年生後期

科目概要

社会的情報の収集の方法と理論を講義と実習を通じて伝授し、社会的情報を活用し、その信頼性を評価できる知識を身につけさせる。情報収集の体験学習から、社会調査がそれ自体、一つの社会的行為であり、調査対象とする社会に影響を及ぼすものであることを理解できる授業を行う。

The aim of this class is to experience a process of the social investigation with a group work that starts at planning a qualitative or quantitative research and ends with making a presentation and a report of it.

履修心得

原則として社会調査（前期講義）の単位を取得していることを受講資格とする。

要望

各自が目的意識をもち積極的に実習にも参加してください。

■ 質的調査演習

矢吹　理恵

Introduction to Qualitative Psychological Research

2年生後期

科目概要

情報社会の問題の発見と分析のために、代表的な質的調査・質的分析の諸方法について解説する。グループごとにテーマを設定して調査行い、結果のプレゼンテーションとディスカッションを課す。

The central goal of this course is preparing student researchers to design qualitative methods projects.　In class, students develop research goals, observe data collection and practice interviewing.

履修心得

「社会調査」を事前に履修していることが望ましい。

人間の行動や心理の領域で、探求したいテーマがあること。

テーマが近い人同士でのグループワークの作業になるので、他者との共同作業に積極的に参加できること。

要望

身の回りの出来事で学生自身が知りたいことを、インタビュー調査によって明らかにしていきます。人の話を聴くのが好きな人、文字データの読み込みを楽しめる人が受講してください。

■ データ分析法

玉利　祐樹

Data Analysis

3年生前期

科目概要

応用的な統計手法である多変量データ解析の手法について、考え方、ソフトウェア（Excel と R 言語）を使った実施の仕方、結果の読み取り方まで解説し、これらの手法を用いるスキルを育成する。本講義は、社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の『社会学・心理学・認知科学等における基礎的スキルと方法論』の科目である。

The purpose of this class is to study several major methods of multivariate analysis. The students will also get the skills to use the major statistical package software (Excel and R).

履修心得

初等統計学（統計学基礎、応用統計）の知識を前提として、講義を進めます。

要望

データ解析はマーケティングやコンサルティング、営業計画を立てたりする場合に必要になる手法で社会で非常に有用なツールです。ただし、数学の知識が必要となります。真面目な受講態度と努力が必要です。コピーペーストしたレポートや、単にソフトを使ったというだけのレポートも、科目の性質上評価の対象となりません。R 言語は現在多くの大学や事業所で使われている最先端のフリーソフトです。公開されている統計データや、空間データなどの分析に使えるのでぜひこの機会に身につけると、きっと役立つでしょう。

■ 社会調査実習

矢吹　理恵

Social Research Practical Training

3年生通年

科目概要

本授業では、社会調査の一連の流れを経験することを目的とする。この授業は（社）社会調査協会の社会調査士資格取得のための特別科目（G 科目）であり、研究テーマの設定から、それを踏まえた社会調査の企画、実施、分析、報告書の作成、公表に至るプロセスを1年間かけて実習する。こうした実習を通じて社会調査の方法への理解を深める。In this course students are introduced to the basic concepts and techniques that are used in social science research. The course is divided into two sections, which cover social scientific

inquiry and research design, and qualitative data gathering and analysis.

履修心得

社会調査士資格取得のための A 科目（社会調査），B 科目（社会調査デザイン）の単位を取得していること。

■ ウェブデザイン演習

杉浦　学

Web Design

2年生前期

科目概要

Web サービスを総合的にデザインし，複数の Web 技術を組み合わせてそれを実装する技術について解説する.

授業の前半では，Node.js によるサーバーサイド技術，HTML5，CSS3 などの Web サービスの構築に必要な基礎を学習するための講義と演習を行う. 授業の後半では，具体的な Web サービスのユーザを想定し，Web サービスの仕様，ユーザーインタフェースをデザインする演習を行う. この後半の演習は，前半で学んだ技術を使用し，Web サービスをアジャイルなプロトタイピングを繰り返しながら構築する実践的な内容となる.

上記の内容は，社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項にある「社会メディアに関連する情報表現・デザイン」に類するものである.

This course will provide a basic understanding of the methods of developing web applications that integrate different techniques and data sources. Students will learn the server side programming language and client side web programming. In the final group web service development project, each group describes specifications of the original web service and design interface, prototyping and agile development are required.

履修心得

「基礎プログラミング演習」で学習した JavaScript の知識が必要となる.

■ インフォグラフィックスデザイン演習

小池　星多

Information Graphics Design

2年生前期

科目概要

最初に、現在流通するインフォグラフィックスを総覧し、情報の表現方法、コンピュータによる静的、動的なグラフィックスのデザイン方法を学ぶ。その後、具体的なテーマを設定して、情報収集、編集、分解、構造化、スケッチ、絵コンテなどのデザインプロセスを経てインフォグラフィックスとして表現する。

This course is intended for students to aquire basic design skills of information graphics through step-by-step approach.

履修心得

論理的構成力、グラフィックの表現力、情報収集力

要望

毎週課題の出る忙しい授業です。デザインに強い関心を持つ、やる気のある学生を求めます。

■ LAN 環境演習

関　良明

Construction of Local Area Networks

2年生後期前半

科目概要

小規模の情報機器ネットワークの適切なシステム構築技術について、ハブ、サーバ、PCなどのハードウェアと、これらを活用するためのソフトウェア環境について、演習を通じて学ぶ。具体的には、有線のLANを対象として、MS-Windows OSによるサーバ・クライアントの構築、アクティブディレクトリ・DNSの設定、ファイル共有・アクセス権設定、Webシステムの構築を行う。

This course is designed to train students by hands-on training in setting up and securing the local area network. Students will gain the knowledge to set up the hardware(including Hub, PC, LAN cables),install software(including OS,Active directory,DNS and IIS)and maintain the security (such as file sharing and access control)

履修心得

「コンピュータネットワーク」にて、LAN、TCP/IP、DNS などのインターネットに関する基本知識を習得していること。

要望

実動するLAN環境を構築するので、興味を持って、積極的に取り組んで欲しい。

■ 視覚情報表現論

清水　由美子

Visual Communication design

2年生後期

科目概要

朝起きてから夜寝るまでの間、私たちは膨大な情報に接している。私的なメモやチラシ、貼り紙からテレビや Web のコンテンツに至るまで、様々な意図と共に私たちの目に入ってくる情報を“見やすさ”、“分かりやすさ”、“印象づけ”などを中心に人間の認知プロセスの観点から考察する。さらに視覚情報に関する基礎的な知識と併せ、“受け手が理解しやすいように、情報の形を変換する”という情報デザインの考え方を学ぶ。

We will consider from the viewpoint of human recognition processes information that we see through a variety of intentions ranging from personal memos to newspaper inserts, and posters, television and web contents mainly focusing on the concepts of being easy-to-see, easy-to-understand and their appeal.

履修心得

特になし

要望

毎日当たり前に見ている、受け取っている情報を種々の特定の視点から見直す、という経験を楽しんでほしい。

■ インタフェースデザイン演習

小池　星多

Interface Design

2年生後期

科目概要

IT 社会の現代において、私たちは、携帯電話、PC などの情報機器を使用し、インターネットなどを通じて複雑な情報を読み取る生活をしている。同時にこのような情報機器を使いやすくデザインし、情報をわかりやすくデザインする必要がある。この授業では、デジタル機器のハードウェア、ソフトウェアのデザインを通して、人間と機器をつなぐインタフェースのデザインを学ぶ。

＜科目概要（英文）＞We design the user interface of the information equipment more from the user's activity rather than the function of the equipment.

＜キーワード＞インタフェース　デザイン　活動

履修心得

製品デザイン、インタフェースデザインについての強い関心をもっていること。

要望

授業時間以外でもグループワークルームに残って作業を続ける事。

■ インタラクティブシステムデザイン

八木　伸行

Interactive System Design

3年生前期

科目概要

人にやさしい誰にも使いやすいヒューマン・コンピュータ・インタラクションを実現する基礎技術である人の行動特性，各種インタフェース手法，インタフェース評価法を学ぶ．その中で，人の知覚，認知特性を踏まえたインタフェース技法，グラフィカル・ユーザインタフェースなどのインタラクティブ・インタフェース・デザイン法を学ぶ．また，ビジュアル・インタフェースだけでなく，マルチモーダル・インタフェースやエージェント・インタフェースなどについても学ぶ．The aim of the lecture is to obtain basic knowledge how to design human-friendly interactive system, such as human behavior characteristics, interface principles and interface evaluation method to design better　human-computer interaction. In the lecture, interface techniques based on human perception and cognition, and interactive interface design such as graphical user interface are learned. Besides visual interface, multi-modal interface and agent interface are also learned.

履修心得

知覚と認知を，履修していることが望ましい．

■ サーバシステム構築

岩野　公司、宮地　英生、後藤　正幸

Server System Construction

3年生前期前半

科目概要

インターネット社会において情報サービスの提供に必要不可欠な「サーバシステム」について、OSのインストールから安定運用に結び付けるための基礎的な技術の習得を目的とする。Linux　OSのインストール、ネットワーク設定、各種サーバの導入と設定について演習を行い、様々なLinuxコマンドを駆使してサーバ構築や基本的な設定ができる水準に到達することを目標とする。

This course is designed to train students by hands-on training in setting up and securing the Linux server system. The course covers the basic knowledge to install the Linux OS, configure network settings, and setup various network services.

履修心得

「LAN環境演習」などの履修を通して、ネットワークに関連する知識を習得していることが望ましい。

要望

Linuxによるサーバを最初から学生自身で構築し、実際にWebサーバを稼動させる演習を行うので、最初から興味を持って積極的に取り組んでほしい。

■ サーバ管理演習

岩野　公司、宮地　英生、後藤　正幸

Server Management

3年生前期後半

科目概要

「サーバシステム構築」に引き続き、Linuxサーバに関わる様々なサーバ管理の技術について、さらに高度な内容を演習形式で学ぶ。ネットワークサービスの設定や保守の基礎と併せて、利便性と安定運用、クラッキング対策などのバランスの視点から、サービスの制限ポリシーなどに関する具体的知識を、演習を通して習得することを目的とする。また、サービス提供者側と利用者側の要求分析、およびハードウェア構成決定からサービスの内容の決定についても扱う。

This course is designed to develop students' skill to manage the Linux server system. The course is opened as a continuation course of "Server System Construction" and covers the basic knowledge to install the network applications into Linux system and maintain the security.

履修心得

本科目の履修者は「サーバシステム構築」を履修している必要がある。

要望

実際にWebサーバを稼動させる上で重要な管理／セキュリティに関する技術を扱うので、興味を持って積極的に取り組んでほしい。

■ メディアと表現

清水　由美子

Media Expression

2年生前期後半

科目概要

思想内容の媒体である声や文字が、各メディアの持つ特性によってどのように規定されてきたのか、また画像や映像といったイメージ情報の出現が私たちの認識にどのような影響を及ぼしたのかを歴史的にたどり、それぞれのメディアと表現との関わりを考察する。

In this class, we shall consider each of the media of sound and characters are prescribed by the characteristics of each media, and what affects the appearance of image information such as pictures and video have had on our recognition.

履修心得

特になし

要望

昨年度から1週間に2回の授業が行われています。今までよりいっそう集中した検討が期待されます。授業中の考察課題、あるいは教員からの質問などにより、できるだけ問題意識を持った受講ができるよう心掛けています。積極的な参加を望みます。

■ メディア文化論

岡部　大介

Media and Culture

2年生前期前半

科目概要

本講義では，メディア文化の社会学的，心理学的観点について論説することを趣旨とする．具体的には，科目担当者の主導で，2000 年代の「オタク文化」に至るまでの日本のサブカルチャーの文化史をたどるために，映像資料と人文社会科学系の研究者による学術書を精読していく．

この授業では，「予習」を重視する．受講生には，毎週，事前にひとつの論考を読んでくることを求める．授業時は課題の論考の概要を確認し，論考の内容を受けた議論，および内容理解を問う授業内課題を行う（授業内課題を実施する回は授業中に指示をするので注意すること）．著書の内容理解など，個人でできることは授業に臨む前に行い，授業では対面式であることを活かしたデザインにしたい．

サブカルチャー史の理解を通して，メディア文化に関する人文社会科学的な研究の知見の理解を促すとともに，「論」にするための目的の立て方，調査手法，分析手法，考察の仕方などについて解説する．

This Class is designed to help students develop critical reading about media culture. During the semester we will work on the articles of media studies in sociology, discussing and writing resumes and an essay.

履修心得

メディア文化，サブカルチャーに関する人文社会科学的な論考に興味があること．

■ 参加型デザイン論

中村　雅子

Media and Participatory Design

2年生後期

科目概要

本講義では，イノベーションがどのように生まれ、コミュニケーションの中で変容し、受容されるのかを社会的構成の観点から論じる。中でも「コミュニティデザイン」を考える上で重要な情報メディアや情報システムを中心に扱う。情報テクノロジーがどのように社会に受容され「メディア」となって、情報環境全体の再編成が生じるのかを歴史的な事例や今日の身近な事例をもとに解説する。またこのようなメディアの理解とともに，デザイン全般について有効なキーワードとして「コミュニティ」と「参加」という概念を取り上げ、これを軸にデザインのあり方について論じる。

The aim of this class is to understand the inter-constructivity of the society and the information technologies.

For understanding of 'community design', media technologies are firstly addressed. Re-configuration of the information ecologies should always occur in the process of acceptance or rejection of new media in historical cases. Participatory design methods plays important role in the process. Keywords for this class are 'community ' and 'participation'.

履修心得

コミュニケーションや認知についての基礎的な知識。

要望

デザインとは一部の才能ある人だけができることという思い込みがありますが、誰もが自分の生活をよりよくするためのデザイナーであるという視点を持ってほしいと思っています。

■ 社会ネットワーク論

白土　由佳

Social Networks

2年生後期

科目概要

伝統的な社会的ネットワークから、ソーシャルメディアによって生まれるコミュニティに代表される新しいネットワーク構築まで、人々のつながり方と社会の有り様について、「弱い絆」論や社会資本などの概念を含めて理論的な基礎について解説する。また、計量的な方法による捉え方を含め、具体的な事例を交えて分析手法についても紹介する。本講義は、社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の「コミュニティデザイン分野」の専門科目となる。

We study about how people connect and how societies are built, with the basic theoretical concepts such as “weak-ties” and social capital. Cases to introduce are from traditional social networks to new networks including communities born from SNS. Also, we learn analytical methods with specific cases using laptop PCs’ applications.

履修心得

身近な社会ネットワークの成り立ちや構造について関心があること。

要望

身近な社会ネットワークの成り立ちと構造について学び、私達の生きる社会についての理解を深めましょう。

■ 社会情報デザイン

関　博紀

Socio-information design

2年生後期

科目概要

Wikipedia や Twitter，スマホなど，現代の情報技術は高度に発達しています。そのおかげで，私たちは「正解」を容易に手に入れられるようになりました。これは情報技術の大きな恩恵です。しかし，これからの時代を生きる皆さんには，この恩恵を活かして，「正解」のない問題に取り組むことが求められます。その際に必要となるスキルが，社会情報デザインです。このスキルは，社会を観察し，問題点を見つけ出し，それに働きかけていくという一連の流れから成り立っています。それぞれの段階には，誰と協働し，どのような技術を使うかという問題が関わってきます。この講義では，これらのポイントの一つ一つを，座学とフィールドを通じて実践的に考えます。「正解」を手に入れられるようになった後，私たちはどうすれば一歩を踏み出せるのか？情報技術とともに社会を動的に捉える視点を身につけることが，この講義の目的です。

In this lecture, the basic skills of Socio-information design will be introduced. That is based on three sub-skills which are observing the environment, identifying the problems and solving them through designing activities.

履修心得

指定しない

要望

発見した問題に対してどのような解決を提案するのか？もちろん，この講義の中で全てを実現するのは不可能です。ただし「こういう技術があれば良いのに」とか，「こういった展開が出来たらもっと上手くいくはず」というように，出来ないながらも，具体的な展望を持てるようになれば，それは今後の糧になるはずです。

■ メディア・プロデュース論

橋本　理恵子

Media producing

3年生前期

科目概要

放送番組を中心として、メディアコンテンツのプロデュース体制、実際の制作過程がどのようなものであるかに関して講義する。それらを通して、放送のメディア特性や産業構造等についても取り上げ、放送メディア全般について理解を深めてもらう。

Lectures on media contents production. Students will learn about　how TV programs are produced. They also arrange a plan of the interview report.

履修心得

ニュースやドキュメンタリー番組などについて問題意識を持って視聴できること。

要望

放送番組の制作過程を知ることは、これまでとは異なる視点でメディアの情報に接すること、それにより”社会”との接し方も変わってきます。メディアをめぐる今日的な問題についても、一緒に考えていきたいと思います。

■ 持続可能社会とコミュニティ

川村　久美子

Sustainable Society and Local Community

3年生前期後半

科目概要

持続可能な社会の実現のために資本主義社会の再考、コミュニティの再生がいかに重要かを明らかにする。具体的には、資本主義社会の発生から現代までの歴史を展望し、グローバルな競争経済によっていかに環境問題や社会的不公正の問題が生じてきたのかを展望する。そのうえで、なぜいまローカルな連帯経済をベースとしたコミュニティの再生、地域社会に相互扶助的な機能を取り戻すこと、グローバルに展開する反資本主義的な市民運動などに注目が集まるのかを解説する。また、そうした動きのポテンシャルや弱点を探りながら、それが環境問題や社会的公正の問題の解決に、また持続可能な社会の形成にどのように寄与するのかを考えていく。

Learn how and why community resurgence is a key to achieve sustainable societies. Topics such as collectivism over individualism, human rights and responsibility, mutual-aid, social and solidality economy, and prosperity without growth will be addressed as factors to help solve not only the problems of social fairness but also environmental problems.

履修心得

近代社会の問題を総合的に捉えようとする授業なので、積極的に調べ、自分の頭で考えてほしい。

■ NPO とソーシャルビジネス

服部　篤子

Nonprofits and Social Business

3年生前期

科目概要

本講は、「公共サービスの担い手は誰か」、「非営利セクターにとって利益とは何か」、「そソーシャルイノベーションとは何か」、といった基本的な問いに、皆さんが解を見出すことで、NPO やソーシャルビジネスの理論と実践を理解することを目的とします。

具体的には、まず、この分野が国内外で着目されてきた社会的背景と研究の潮流を概説します。そして、公共政策、組織運営、ビジネスや市場との関係など複数の視点から非営利セクターの役割と課題を明らかにします。

さらに、営利と非営利セクターを超えたフィールドとしてのソーシャルビジネスを分析し、社会課題解決の可能性や市民社会について考えていきます。

Who is public service providers? What is the pofits for the nonprofits sector? What is the meaning of social innovation?

We oncsider these reasearch questions above and try to undrestand the concept of social busienss.

In additon, we discuss the tide of social environment where the social business were emerging. Furthermore, we examine the role of social sector in terms of public policy, institutional management, and social impact on the market.

The purpose of the class is to think over the theory and proctice of civil society beyond the bondaries between profits and business sector.

履修心得

特になし

要望

キャリアを考える上で、社会問題の解決に取り組む「社会起業家」など、NPO に携わる人々やリーダーの人間性に学ぶところは少なくありません。本講座を通じて、各自が緊要な社会の問題に目を向け、市民社会に対する意識を高めることを期待します。

■ 起業論

岸田　伸幸

Entrepreneurship and business startups

3年生後期

科目概要

本科目では、現代社会を経済活動を通じて変革する起業家について教授する。ケースを交えた講義とビジネスプランニング入門編を行い、起業の知識と理論、実務の概容を理解させる。序盤では、教科書に沿って、ベンチャー企業など起業家活動の実態について講義する。中盤では、ビジネスプランニング入門編として、事業アイデア創出方法を教え、中間レポートを提出させる。終盤では、優秀アイデアに拠るビジネスプランをグループで作成し発表する演習を実施する。期中に起業関係実務家のゲスト講義を予定する。本講義は，社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の「コミュニティデザイン分野」の専門科目となる。

This course focuses on the entreprenouers that change the contemprary world by means of socio-economic activities. You

will study entrepreneurial knowledge, theories, and outline of the startup management through the elementary business planning group work, as well as lecures with cases.

Lectures on text books about entreprenourial activities such like small businesses will be given at first. Then, business idea creation methods for the group work will be studied. Students are required to submit one's interim report. On the later half of the term, exercise groups are organized for the business planning and the presentation based on excellent ideas that students had created. A guest lecture by a startup business person is scheduled by the end of the term. This course is one of the expert subjects of "Commnity Desgin Fields" in the Sociology and Media Studies curriculum policy article 4.

履修心得

第1回授業、起業に関する簡単なアンケートを行うので、起業家やベンチャーに対する現在の知識や関心を簡単に整理しておくこと。

これは採点対象ではなく、特別な予習は不要である。

要望

現代社会のイノベーションの担い手として、起業家の存在は重要です。その典型はベンチャービジネスで見られますが、地域社会でも大企業でも起業活動が必要とされています。将来どんなキャリアを選んでも役立つ、バランスのとれた講座を目指します。また、グループ演習では、自分や友人の、思わぬ起業家的資質が覚醒するかもしれません。積極的に授業に参加する学生を評価します。

■ 街づくり論

中村　雅子、岡部　大介

Community Design

3年生後期

科目概要

各地のまちづくり，まちおこしのケーススタディを紹介し，まちづくりのための法・制度・行政・市民の関わり，市民参加の手法や合意形成の技術，専門家と市民の境界を超えるコミュニケーションの問題などを論じる．まちづくりの多面性，学際性を前提に，コミュニティデザインのための実践的な知識を示し，「コミュニティデザイン」の意義について概観する．

（中村雅子／7 回）

各地の事例紹介とともに、市民参加の手法や専門家-市民のコミュニケーションなどについて理論的な基礎を論じる．

（岡部大介／7 回）

教員によるプレゼンテーションと，重要な書籍 3 冊をとりあげた読書会を行う．これらを通して，日本国内における街づくりやコミュニティデザインの具体的事例とその意義を概観する．

In this course the lecturers introduce theoretical and practical foundations to understand the wide range of issues and complexity local community involves. With various case studies, reading and reflection, students are expected to understand basic concepts of community design and to find their own meaning on 'community design practice'.

履修心得

［7 回目まで］ 授業外での自主的な文献購読、情報収集力．

［8 回目以降］ 60 分程度まとまった話を聴き，内容を概念化する力．書物を味わうことが好きなこと．

■ ジャーナリズム論

小俣　一平

Theory of Journalism

2年生前期

科目概要

私は、ジャーナリズムは社会の出来事をニュースやノンフィクションに変えていくことであり、あわせて政治や社会を監視していく機能を持つと考える。そこで日本のジャーナリズムの現状と課題、さらにはマスメディアが発信する情報を読み解き、それを表現し、発信していく。

I think about the mission of journalism is to watch and check the political power, and other social issues. This class focuses a present situation and major challenges that journalism in Japan is facing today, and also aims to enhance students media literacy,

履修心得

新聞や雑誌を読んだり、テレビを見るなどして見知を広げる時間を持つ。

要望

遅刻厳禁。授業中の私語、化粧、食事、パソコン・携帯電話等の電子機器類の使用禁止。発見した場合は履修登録抹消。期末試験の際、開始チャイム終了後に遅れて入室した場合は、答案用紙に「遅刻」のスタンプを押して、総得点から 40 点減点するので要注意。

■ コミュニケーションの心理

広田　すみれ

Psychology of communication

2年生前期

科目概要

情報社会では個人のレベルから広告や広報といった企業・行政レベルまで、さまざまなレベルの多様なコミュニケーションが存在しているが、そこには共通した影響過程や心理的要因が存在する。そこで社会心理学の立場によるこの問題に関する研究を概観する。具体的には、説得的コミュニケーションの詳細や、その応用としての政治コミュニケーションや消費者に対するコミュニケーションの研究を紹介する。また近年のネット上でのコミュニケーションや対人関係に関する心理学的研究として、クチコミや自己開示などを中心に講義する。このことを通して、情報社会やコミュニティにおけるコミュニケーション過程への理解を深め、また個人レベルでは円滑なコミュニケーションを行っていくためのコミュニケーション行為への理解を育成する。

Students can study the major theories and the experimental studies of communication and perception & cognition related to media. They can also acquire the knowledge of psychological studies about communication behaviors in cyberspace, focusing on perception, cognition, and the studies of personal communication.

履修心得

心理学や社会心理学の基礎的な概念を知っていることが望ましい。

要望

日常の様々な場面－営業のセールストーク、政治家の演説や企業の宣伝広告、人とのやり取り－はいずれも本講義で扱っているようなコミュニケーションの心理的要素を使っている。学問的なだけでなく、身近な場面でのコミュニケーションを見直すきっかけになるような講義を目指したい。

■ 電子商取引論

梅原　英一

Electronic Commerce

2年生前期

科目概要

ICT 活用の分野として電子商取引がある。本講義では特に電子商取引のうち消費者向けビジネス（B2C）の基本事項に焦点を当てる。さらに、それらをふまえた上で、仮想の模擬 EC サイトの構築演習を行う。

＜科目概要（英文）＞The members of the class will understand the basics of e-commerce, especially B2C (Business to Customer). In addition, we will exercise a construction of simulated EC shop.

履修心得

情報リテラシー演習における Web サイト構築の知識はあるものとします。

PhotoShop の知識があることが望ましいが必須ではない

高校レベルの簡単な数学の知識（微積分、行列）は少し必要です

要望

前半の基礎理論は経営学の分野です。不慣れな分野と思いますが、チャレンジしてください。

■ 異文化間コミュニケーション

山崎　瑞紀

Intercultural Communication

2年生後期後半

科目概要

異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションや集団間関係、異文化適応について、主に社会心理学をベースに理解を深める。グループ・ディスカッションや体験学習等も適宜行う。

The overall goal of this course is to develop an understanding of the intercultural communication process and to enhance the strategies and skills needed to deal effectively with its difficulties. This course includes a number of hands-on exercises such as group discussions.

履修心得

予備知識は特に必要としないが、事前に「社会心理学概論」を履修していると理解しやすい。

要望

日本社会を異なる視点から見て、自ら考えるきっかけにしてほしい。授業中の私語と遅刻は厳禁。ゲームは積極的に参加した方が得るものも大きい。

■ マスメディアと人間行動

李　洪千

Mass media, human behavior

2年生後期

科目概要

本講義は、メディアが人々の認知、態度、行動に与える影響を学び、歴史、コミュニケーション理論、社会的、政治的、文化的側面からメディアの影響を考察する。

This course offers to learn characteristic of media and theories of mass communication. This course also consider impact of media on human behaviour.

履修心得

メディアについての基本知識と関心。

毎回小テストを行うので、欠席しないこと。

要望

メディアの効果を現代社会を理解するための必修の教養です。一緒に考えながら楽しく学びましょう。

■ 現代国際情勢

本多　美樹

Contemporary World Affairs

2年生後期

科目概要

今日の国際社会は、貧困問題、難民問題、人権侵害、組織犯罪や金融危機など、ひとつの国家では解決できないようなグローバルな問題（「グローバル・イシュー」）に直面しています。これらの問題は、なぜ、どのようなことをきっかけに発生したのでしょうか。授業では、国際社会の秩序を維持するために活動する国際機構、企業、市民社会などの重要なアクターの役割、活動と課題について、問題別に実践例を挙げながら考察します。その際に、国際社会で起きている事象を歴史の流れに位置付けて考えることによって、現在の国際情勢への理解を深めます。授業は、受講生の関心と知識レベルに合わせて展開します。従って、シラバスの内容の変更もありえます。 なお、本講義は、社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の「人間コミュニケーション分野」の専門科目です。

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes and financial crisis. Who controls such “global issues”? The issues cannot be controlled or solved by a single actor. And the issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with global issues and to learn that a variety of actors including regional and international institutions, businesses and NGOs have made comprehensive efforts to solve the issues. Students are also provided with a historical perspective for a better understanding of international affairs.

履修心得

日々のニュース報道に常に関心をもつこと。特に冷戦以降の歴史に関心があるとさらに望ましい。

特別な事情がない限り、20 分以上の遅刻は欠席と見なします。

携帯の使用、お喋りは禁止。

要望

日々のニュースに関心を持ってください。国際情勢に興味のある意欲的な学生の履修を希望します。

■ メディアと政治

山本　竜大

Media & Politics: Political Communication

2年生後期

科目概要

この授業では、ICT（Information & Communication Technology）の利用を含む政治、情報、メディア・コミュニケーションの関係に注目する。一般的な政策形成に類似した過程が、情報政策にもある。ただし、政策過程は多くのアクター、政治社会的制度や規制、文化・歴史的枠組みから構成される。そのため、独特の特徴や基礎知識が政治情報・政治コミュニケーション分野にもあることを念頭におきながら、本授業は「メディアと政治」の点から、現代の情報社会のさまざまな面を捉えていく。

This class focuses on the relations among Politics, information, and media communication. We come to learn the political/policy process with the use of information & communication technologies as well as some typical or theoretical ones. However, the policy courses consist of many actors, political-social mechanism and rules, cultural and historical frameworks. Thus, with keeping original frameworks and/or characters of political information and communication as basic knowledge, we’ll consider various aspects of and modern societies, namely contemporary information societies, in terms of “Media and Politics”. Since this lecture is given in Japanese, foreign students need to learn technical terms on Japanese politics, policy and media sociology so as to enhance your comprehension, through some related classes in advance.

履修心得

特にないが、政治・政策、メディアに興味あることが前提である。

要望

やわらかいアタマで考え抜いたことは、みなさんの今後に大きく影響します。大学の勉強は「受動的」では身につきませんが、「能動的」にそれに取り組むならば、きつくても面白いものです。

■ リスクコミュニケーション

広田　すみれ

Risk Communication

3年生前期前半

科目概要

現代社会では多くの情報が公開されるのに伴って、人々がその情報を理解したうえで、主体的に意思決定をすることが求められるようになっている。病院でのインフォームドコンセントや金融情報の開示に基づいた商品購入はその一例である。だがこれらはリスクを伴う問題であり、時には個人の生命・健康や生活に重大な問題につながるものである。これは食品のリスクや災害リスクに関しても同様である。そこで本講義では、リスクに関する基礎概念及びリスクコミュニケーション、そこで生じる心理的バイアスについて講義し、また現代社会で行われているリスクコミュニケーションの現状について、科学コミュニケーションの話題なども取り入れながら多くの具体例を紹介する。

This course provides you the knowledge of the risks and the risk communication in various fields from from psychological aspects. You will also get knowledge about crisis communication in emergency.

履修心得

社会心理学、特にコミュニケーションに関する知識を持っていることが望ましい。

要望

自分なりにリスクに関する問題意識を持って参加してほしい。

きちんとノートテークをすること（ただ聞いているだけでは授業の内容な身につかない）。

■ 産業組織心理学

本多・ハワード　素子

Industrial / Organizational Psycholoigy

3年生前期

科目概要

産業組織心理学の研究知見を基に、組織や仕事に関して、それを取り巻く社会問題と関連づけて紹介する。グループワークや心理尺度によるセルフアセスメントを通して、自身の将来のキャリアについて理解を深めるとともに、主体的に考えてもらう。

Based on the theories and research findings in I-O Psychology, we discuss the various social problems related to current industrial organizations. The members of a class will also think about their own future career paths using scores from career related scales and group discussion.

履修心得

社会心理学のグループダイナミクスの知見を学ぶことが役立つ。参考図書を紹介するので読んで欲しい。

要望

産業心理学は、応用心理学、社会心理学、集団力学、経営学、組織行動学など多領域に関わる実践的な研究分野である。身近な社会から広い社会まで、社会に関心を持ち、これからの仕事、組織、キャリアについて理解を深めて欲しい。

■ メディアと知的財産権

張　睿暎

Media and Intellectual Property

3年生後期

科目概要

デジタル技術やネットワーク技術の進展によりメディアは急速に変革しつつあり、それに伴って知的財産権のあり方にも大きな影響を与えている。この講義では、特にデジタル技術・ネットワーク技術と関連の深い著作権を中心に、著作権法の理解を深められるように、各メディア（著作物）にまつわる紛争事例を素材に解説していく。

The media is revolutionizing rapidly by the development of digital technology and the network technology. In this lecture, I will illustrate about various aspects of digital media , mainly from the aspect of copyright law.

履修心得

断絶のない授業参加により全体像を把握することに重みをおくので、第1回目のガイダンスに必ず参加すること。授業中には質問をたくさんするので、積極的に発言することが望ましい。

要望

断絶のない授業参加により全体像を把握することが大事である。授業中は積極的に発言してほしい。

■ ルポルタージュ論

小俣　一平

Introduction to Reportage

3年生後期

科目概要

ルポルタージュは、reportage というフランス語をそのまま使った用語で、報道、現地報道、現地報告を意味し、ノンフィクションの下部の分類とされる。ルポライターという和製語が造られたが、日本語では、明治初期には「探訪者」と表記され、新聞の社会面の記者を指した。私のこの授業では、太平洋戦争時の総合雑誌による「戦場からの報告」、1960 年代の「ベトナム戦記」をはじめ、歴史に残る内外のルポルタージュ作品や映像を紹介しながら、その時々の時代背景として政治的、社会的出来事の分析を織り込みながら、今日的意味を問うていく。In my lecture we will study about a reportage. Reportage, which mean news coverage, field report, and so on, have quite long and complicated history in japan. We will have opportunities to read or watch some of major reportage works and understand significance and background of them.

履修心得

「ジャーナリズム論」を履修した学生が望ましい。

要望

大学院生を対象に「ルポルタージュ論」を教えた経験はあるが、学部生は本学が初めてで、一緒に興味ある講義にしていきたい。受講生は、学生証を机の上に置くこと。10 分以上の遅刻者は、教室には入れない。私語をする学生は退席させる。携帯、メール、化粧、食事の禁止。ルポの不提出は未受験（999）になる。

■ 事例研究　　各教員

Case Studies Seminar
3 年通年

講義の目的

事例研究では、配属された学生が、主として研究テーマを発見することをねらいとして、文献調査、現場調査、実験等を個人またはグループで行う。こうしたアカデミック・トレーニングを通して、研究分野の知見を体得し、卒業研究の基礎を学ぶ。また、本事例研究においては、企業におけるインターンシップ、共同研究、受託研究、公開発表、イベント参加なども積極的に含め、その多様化を図ることにしている。本事例研究と卒業研究をセットにして配置し、必修とする。

This compulsory seminar will offer the basic academic training to the junior students, so that they will be able to learn more about the adviser's disciplines, and try to find their own study themes. Also the students must read related academic books in foreign languages under the guidance of the teacher.

■ 卒業研究　　各教員

Senior Seminar
4 年通年

講義の目的

事例研究で学んだ基礎の上に立ち、卒業論文の課題設定、中間発表を経て、最終的に卒業論文を完成させる。そこに至るまでに、ゼミ方式および個別指導を併用することにより、実効のある指導を行う。また、本学部の性質上、研究成果は論文形式にとどまらず、コンピュータ・ソフトやビデオなどの電子加工物、模型なども認める。ただし、そのような場合であっても、研究テーマや意図、製作過程を記述した報告書ないし卒業研究概要の提出を求める。

This compulsory seminar to be held in the senior year will provide the students with the opportunity to write a graduation thesis under the auspice of the adviser. Without the completion of this thesis the students are not eligible to receive the BA degree.

＜注意事項＞
以下に記載した教員毎の概要は、平成 28 年度の実施に基づくものです。平成 30 年度「事例研究」配属の際は、定年退職教員や新規着任教員等により担当教員が変更となる場合があります。

●小俣　一平

〇卒業研究

ジャーナリズムは、社会の出来事をニュースやノンフィクションに変えていくことであり、あわせて政治や社会を監視していく機能を持つ。日本のジャーナリズムの現状と課題、さらにはマスメディアが発信する情報を読み解き、それを表現し、発信していく。この方法を踏まえて、各自の卒業論文のテーマに反映していく。

●川村　久美子

〇事例研究

１．科学技術と持続可能な社会　２．持続可能な社会とコミュニティ、２．その他広く科学・テクノロジー・社会・人間の関連についての研究テーマであれば、相談のうえ受けつける。

以上の内容から各人がテーマをしぼり、それに応じたフィールドワーク、文献研究を行う。

●研究目的

持続可能な社会はどのようにすれば作れるのだろうか――川村研究室（持続可能な社会とコミュニティ）では、モノづくりと社会・人づくりとの『相互関係』に着目します。

ここでは持続可能な社会の問題をおもに環境問題と社会的不公正の問題と捉えます。環境問題に対してはいくつかの接近法があります。自然科学者はそれを自然現象としてとらえ、監視や制御の科学的方法を導き出し、また科学技術開発に専念します。一方、人文社会科学者は社会的公正の問題や環境問題を前にして、市場や公共圏、意識やライフスタイルなどに着目し、人間改革や社会改革を目指します。前者をモノづくり、後者を社会・人づくりと呼ぶことができるでしょう。こうした接近法の問題点は、様々な学問がそれぞれに解決法を探り、それらが互いにどのように関係するかが明らかではないことです。特にモノづくりと社会・人づくりの間に大きな溝があります。それは近代科学の縦割り状況を反映しているからなのですが、持続可能な社会の問題は極めて複合的なものであるため、どうしてもそこに矛盾が生じます。さらに専門家以外に政治家、市民、ＮＧＯ、企業などが関与し、問題解決の現場は相当に混乱しているといってよいでしょう。

川村研究室のゼミ研究や卒論研究では、そうした「問題解決の現場」をフィールドワークすることで、複合的な問題の解決にどのような調整が必要かを考えていきます。

以上の内容から各人がテーマをしぼり、それに応じたフィールドワーク、文献研究を行う。

○卒業研究

１．科学技術と持続可能な社会　２．持続可能な社会とコミュニティ、２．その他広く科学・テクノロジー・社会・人間の関連についての研究テーマであれば、相談のうえ受けつける。

以上の内容から各人がテーマをしぼり、それに応じたフィールドワーク、文献研究を行う。

●研究目的

持続可能な社会はどのようにすれば作れるのだろうか――川村研究室（持続可能な社会とコミュニティ）では、モノづくりと社会・人づくりとの『相互関係』に着目します。

ここでは持続可能な社会の問題をおもに環境問題と社会的不公正の問題と捉えます。環境問題に対してはいくつかの接近法があります。自然科学者はそれを自然現象としてとらえ、監視や制御の科学的方法を導き出し、また科学技術開発に専念します。一方、人文社会科学者は社会的公正の問題や環境問題を前にして、市場や公共圏、意識やライフスタイルなどに着目し、人間改革や社会改革を目指します。前者をモノづくり、後者を社会・人づくりと呼ぶことができるでしょう。こうした接近法の問題点は、様々な学問がそれぞれに解決法を探り、それらが互いにどのように関係するかが明らかではないことです。特にモノづくりと社会・人づくりの間に大きな溝があります。それは近代科学の縦割り状況を反映しているからなのですが、持続可能な社会の問題は極めて複合的なものであるため、どうしてもそこに矛盾が生じます。さらに専門家以外に政治家、市民、ＮＧＯ、企業などが関与し、問題解決の現場は相当に混乱しているといってよいでしょう。

川村研究室のゼミ研究や卒論研究では、そうした「問題解決の現場」をフィールドワークすることで、複合的な問題の解決にどのような調整が必要かを考えていきます。

●研究の進め方

ゼミナールの成果を踏まえ、集大成として卒業研究を行います。
テーマはゼミ研究で選んだテーマでもよいし、新たに選んだものでも結構です。
フィールドワークとして、実際に企業や行政、市民へのインタビューなども必要であれば行います。
年間、何度かの中間発表を行い、最終的に１月末に卒論を完成させます。

●小池　星多

○事例研究

卒業研究に必要なフィールドワーク力、基礎的なデザイン力を養う。

インフォグラフィックスのデザイン
パーソナルファブリケーションのデザイン
地域活性化のためのデザイン
ソーシャルロボットのデザイン

○卒業研究

研究概要

学外のコミュニティのフィールドワークとフィールドに必要なものをデザインする活動を通して、人とモノのネットワークについて研究する。

●清水　由美子

○事例研究

前期は基礎的な文献講読やデータ作成・研究法の習得が中心となる。グループワークを重視し、自分達で課題を設定し、調査・分析・考察する過程を体験する。

後期には、前期に学んだ技法を用いての分析を行いつつ、幅広い知識を得るための文献講読を続ける。後期を通して、卒業研究につながる各自のテーマを絞り込んでいく。2015 年度の主要文献は次の通りであった。

調査系論文の読み方、浦上昌則他著、2008、東京図書
消費者行動論、守口剛・竹村和久、2012、八千代出版

In the first semester, the course centralizes practices on basic literature reading, data creation and research method. In the second semester, the students will analyze materials utilizing the techniques acquired in the first semester and continue literature reading to expand the knowledge base.

○卒業研究

前半は事例研究で絞り込んだテーマについて、内容分析や認知実験、調査を基にデータを作成し、分析する。それぞれのテーマの背景分野の知見や分析手法の共有を目的に、合同検討も行う。毎月１度の中間発表を予定している。後半は週１回の進捗状況の報告を中心に個別に進める。

In the fast half, the students will choose themes from case studies and work on them by creating and analyzing data. In order to share analysis methods and knowledge base on each theme, the course will organize joint review sessions. In the latter half of the year, each research will be individually explored, followed up by weekly review on their progress.

●中村　雅子

○事例研究

地域コミュニティや学習環境、メディア、社会＝技術的ネットワークの問題を中心に取り組んでいます。主なフィールドとして、市民活動と地域コミュニティ（主に都筑区）、科学コミュニケーション、学校と地域の協力関係（横浜市内）、子どもたちのメディア活動（都筑区）、情報教育と学習環境デザインなどがあります。

なお、ゼミ生の自主研究として、必ずしも担当教員と問題関心や研究テーマが同じでなくとも、研究方法が妥当であればグループワークのようなかたちで実証的な研究を行うことができます。研究室としてのプロジェクト活動のほか、方法論や関連領域の主要研究についての文献研究・理論研究を進めます。

同時に３年前期からテーマごとの３、４年合同のプロジェクト・チームを作り、フィールドワークへの肩慣らしを行います。

３年後期はフィールドワークや文献研究のほか、実証データの収集・分析・報告書の作成までを行います。プロジェクト・グループごとに１つの研究報告を書き、報告会を行います。平行して卒業研究のテーマを模索し、数回の発表でお互いの企画の討議・検討を行います。

○卒業研究

４年の卒業研究では、事例研究で学んだ実証的研究の方法論を生かして、各人の問題意識に基づく卒業研究を行います。複数の学生がチームを組んで共同研究を行うことも認めています。テーマの選定については、情報化やコミュニケーションなどを中心とした領域が指導教員の専門分野のため、これらを勧めていますが、先に述べたような広義の社会科学的な問題設定と実証的な方法論の範囲で取り組みが可能なものであれば認められます。 事例研究で挙げた領域以外のテーマに関心がある場合は、関連するテーマにお詳しい先生が学内にいる場合は（その先生の許可を頂ければ）、複数指導体制で重要基本文献や理論についてのご指導をいただきながら、そのテーマを卒業研究に育てていきます。

●広田　すみれ

○事例研究

本研究室は社会心理学と行動的意思決定研究を背景に、１）Web も含め、メディアと人間の関係に関わる研究、２）日常や消費場面、医療や倫理などの意思決定に関する研究、３）広告も含め説得的コミュニケーションに関する研究やリスク認知や防災等に関する研究を、実験研究(フィールドでの社会実験も含む）や質問紙調査、メディアの内容分析などを通して行っています。具体的な卒業研究のテーマは卒業研究の項を参考にしてください。事例研究では卒業研究に取り組む前段階として、社会心理学の教科書を読んで基礎的な理解を進めるとともに、これらの問題についての情報検索スキルや、データを分析して研究を進めるためのスキルを学びます。

○卒業研究

卒業研究では事例研究での成果を踏まえ、個人あるいはグループでの関心に基づいてテーマを設定し、実験や質問紙調査、内容分析などの手法でデータを収集・分析し、卒業研究にまとめます。過去の研究テーマでは

・テレビ放送局のブランドイメージの多変量解析手法による分析
・ウェブクチコミによる意思決定の実験的研究（写真やコメント内容の影響等）
・商品に関する希少性（あと○品やあと○分など）の様々なコミュニケーション手法による効果の分析
・動画における字幕の効果
・清涼飲料水の広告におけるプライミング効果
・検索目的の有無によるバナー広告の効果の違い
・価格.com におけるテレビのクチコミのテキストマイニングによる分析

といったものがあります。

●岡部　大介

○事例研究

3 年生の前期から，認知科学系の学術投稿論文を参考にしながら，自身の興味関心に沿ったテーマを設定する．それとともに，分析対象となるフィールドをゆるやかに考えはじめる．必要に応じて文献を読み込みつつ，3 年後期からは，参与-非参与観察，インタビュー，実験などを通してデータを取得する．2，3 週間に 1 度くらいのペースで発表し，それをもとに，より豊かな研究になるよう議論する．

○卒業研究

4 年生の前期は，3 年生の時にまとめたフィールド調査をさらに発展させる．3 年生の時の対象やフィールドを継続して分析しても，変更しても良い．学術的な知見から分析してみたい対象やフィールドをさらに深掘りする．必要に応じて文献を読み込みつつ，全体のゼミに加えて，個別相談の時間を設けて取得したデータを精緻していく．2，3 週間に 1 度くらいのペースで，ゼミの時間に発表し，それをもとにより豊かな研究になるよう議論する．

●矢吹　理恵

○事例研究

個人と家族の心理的発達、及びそこに関わる社会と文化の問題を取り上げる。個々の人間が生きている文脈を重視した質的研究法であるィールドワークや面接法についても学ぶ。各自研究テーマを設定し、質的データ収集・分析・報告書作成・発表を行う。This class provides basic technique of field work and qualitative psychological research.

○卒業研究

個人の生き方を考えるのに不可欠な、「男女平等というキレイごと」を超えたジェンダー論・家族心理学・生涯発達心理学・複数の国を往還して生きる国際結婚家族や帰国生を対象にした文化心理学を中心に、人間の心理・行動について質的研究方法による研究を行う。個人でテーマを設定し、文献研究とともに質的データ収集と分析を行う。

This seminar covers both basic and current theory of gender, cross-cultural, life-span developmental and family psychology. The seminar makes use of readings from the text book, as well as experimental workshops and qualitative research.

●山崎　瑞紀

○事例研究

私たち人間は所属する集団や他者の影響を受けると同時に、自ら影響を与える存在といえます。本研究室では、個人が自分や他者（集団も含めて）をどのように認識しているのか、他者（集団）とどう関わりながら生きているのか、について、実験や質問紙調査を用いて研究しています。内容は、①認知のバイアス、②説得的コミュニケーション（効果的な伝え方や情報提供のあり方、広告など）、③異なる文化に移行した際の適応過程、集団間認知、④ソーシャルメディアが人間に及ぼす影響、などとなります。

○卒業研究

事例研究での成果を踏まえて、各自（あるいはグループ）の関心に基づいてテーマを設定し、適切な手法を用いてデータを収集、分析し、卒業研究にまとめていきます。文化、集団、人間の関係を社会心理学的視点からとらえたものがテーマとなります。具体的な内容としては、印象形成、認知のバイアス、対人関係、集団間関係、文化と心、在住外国人の適応、非言語的コミュニケーション、説得的コミュニケーション、教育用ゲームの開発、などです。年代や性別、出身地域の異なる者同士のコミュニケーションもテーマに含まれます。

例えば、過去の卒研テーマとして以下のようなものがあります。

・ステレオタイプ的判断の認知的基盤（錯誤相関の実験）
・閾下プライミング効果の実験
・サッカーにおいて勝利をもたらす監督とは？－日本とイタリアの比較－
・ネガティブな予言はあたりやすいか？
・したことによる後悔としなかったことによる後悔
・POP 広告が購買行動に与える効果
・感染症教育用ゲーム「Prevention」の開発
・留学生と日本人学生の協働的活動としての外国人教員 HP 作成プロジェクト実施の試み

●李　洪千

○事例研究

事例研究は大きく、①メディア関連研究、②空気の研究の 2 つに構成されている。メディア関連研究は、データを通じてメディアの現状を把握し、メディアの実体と問題点を考察する新聞産業研究グループ、放送産業研究グループがある。もう一つは、選挙に使われているいる選挙アプリを研究する選挙アプリグループである。「空気の研究」は、新聞、テレビ、雑誌、書籍、ネットの書き込みから嫌韓空気を読み解き、創成条件や変化の構造を考察する研究である。

○卒業研究

事例研究で行った研究結果をベースに、資料検索、データ収集・分析、グループ学習方法、レポートの書き方などアカディミック・スキールを用いて論文を書いていく。事例研究でグループ別に行った研究テーマの成果を論理的、検証可能なレベルで組み立てていく総合的な学習である。

●関　博紀

○事例研究

「つくること」と「つかうこと」の可能性を，認知科学とデザインの知識を使って探ります。情報技術の発達は，これら 2 つのあり方を大きく変えました。50 年後，100 年後には，もっと変わっているでしょう。その時，「つくること」や「つかうこと」は，デザイナーやユーザといった枠を超えて，日常に浸透した社会的な営みになっているはずです。そこではどのようなものが生み出され，私たちの経験はどのようになっているでしょうか？また，そのようになっても，なお専門家に託される知識があるとすれば，それはどのようなものでしょうか？つくることの高揚感や，つかうことの喜びも変わっているでしょうか？そして，「つくること」が日常に溶け込んだ時，自然や人工といった概念は何を含むようになっているでしょうか？こうした問いを，理論と実践の両面から考えます。

以下は，検討中のテーマ（学生のテーマはこれらに限定しません）

1. 「つくること」のフィールド調査
2. 「つかうこと」のフィールド調査
4. 日常生活の博物学的調査（いわゆる「作品分析」も含む）
5. 人の動きを分化させる環境の調査
6. 制作・企画・運営全般
7. 理論の模索

〇卒業研究

基本的な内容は「事例研究」と同じ。「卒業研究」は個人作業を基本とする。ただし，テーマや準備状況，見通しが十分にたっている場合は，共同研究も認める予定。「事例研究」で身につけた研究活動の基礎的なスキルを自分なりに駆使して，（可能な限り）独力で成果をまとめられるようになることが目的である。

情報システム学科専門科目

情報システム学科

人材の養成及び教育研究上の目的	人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで、優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。

情報システム学科で学ぶにあたって

情報システム学科主任教授　八木　伸行

１．情報システム学科で何を学ぶか

情報システム学科は,「誰もが情報システムを快適，かつ安全に利用できるよう，利用者の多様なニーズ・視点に立ったシステム構築を実現できるプロフェッショナル」の育成を掲げる学科である．この育成のために「プログラミングやメディア処理技術，Web 制作技術とともに，ICT アセスメントや情報セキュリティ，情報管理など，高度な情報システム実現に向け，調査・分析・実現・評価・改善をプロデュースする総合的な方法」を学ぶカリキュラムを用意している．

本学修要覧に記載の通り，所定の年限の在学と所定の単位を修得すれば卒業となり，情報学の学士が授与されることになるが，それは，以下の能力を獲得していることを意味する．

・学科が設定した専門分野とそれに関連した領域を学習し，ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査，分析，評価，改善できる基礎的能力

・プログラミング言語の基礎から画像・音などのメディア処理，データマイニングを含む情報学の基礎及び LAN などのネットワークの基礎を理解し，社会において情報技術を活用できる能力

・情報システムやサービスに関して，ユーザのニーズを調査・分析し，評価する能力を持ち，課題解決に向けて，提言できる能力

これらの能力の獲得が，本学科で学んだ証であるので，卒業までにしっかりと身につけ，社会に羽ばたいてほしい．

２．教育目標

本学科では，以下の方針で，カリキュラムを編成している．

・幅広い視野と教養を身に付けるために，外国語科目，体育科目，および，社会科学，人文学，情報処理，社会実習に関わる科目などからなる教養科目を設置する．

・情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能などについて，社会科学と情報科学の視点から修得させることに加え，環境改善取組み ISO14001 を習得させるための環境マネジメントからなる専門基礎科目を設置する．

・学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために，情報システム構築に必要な科目と情報システムや情報サービスの分析，評価を行うために必要な科目を設置する．学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目をおき，ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査，分析，評価，改善できる基礎的能力を身に付けることができる構成とする．

・学科基盤科目では，学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し，専門科目の体系的学習の基盤を養う．学科基盤科目として，情報システムを実現する上で必要とされる数学に関する標準的な科目と，プログラミング教育を重視する観点から C 言語と JAVA を学修する科目を配置する．さらに，データマイニングを含む情報学の基礎を学ぶ科目，LAN を実際に構築する演習科目やコンピュータネットワーク及び画像・音などのメディア情報処理に関する科目と，ICT 技術革新とそれが社会に与えたインパクトを分析・検証する科目から構成する．

・学科専門科目では，専門分野をシステムデザイン分野と ICT アセスメント分野の 2 分野に区分し，情報シ

ステムをデザインし，これを作り上げる情報システム要素技術を統合できる能力を養う専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する．

・専門科目では，実習や演習などを重視し，実践的に能力の積み上げを図る．3 年次の事例研究および 4 年次の卒業研究を必修とし，調査・分析能力，問題の解決・提言能力の涵養に向け，丁寧な個別指導を行う．

３．教育の特徴

本学修要覧に，卒業後の進路として，「ICT 系・メディア系・一般企業の情報システム開発部門」を目指す場合と，「ICT 企業の IT マネジメント部門，システムコンサルタント系」を目指す場合に分け，履修モデルを掲載しているので，これを参考に自分の将来を見据えた履修計画を立ててほしい．前者のモデルには，システムデザイン分野の学科専門科目が多く含まれ，後者のモデルには，ICT アセスメント分野の学科専門科目が多く含まれているが，両モデルに記載されている学科専門科目もある．

システムデザイン分野の学科専門科目群は，インターネットや携帯電話などの情報通信，音や映像といったマルチメディア情報の処理など，現代の情報社会を支える様々なディジタル技術の知識・技術を習得し，誰もが使え，安全で安心な情報システムをデザイン・構築する力を獲得するためのものである．コンピュータネットワーク，ディジタル信号処理，ディジタル通信，オペレーティングシステム，マルチメディア情報処理，マルチメディア記述法，可視化技法，コンピュータシミュレーション，サーバシステム構築，音響心理学などの科目がある．

ICT アセスメント分野の学科専門科目群は，情報システムを構築する上で必要となる要素技術の理解および，ユーザのニーズを調査・分析し，ビジネスとして成立させるための諸条件を勘案したシステム設計，要員などのリソース確保，実行管理，評価などができる総合プロデュース力を獲得するためのものである．ICT アセスメント概論，ビジネスモデリング，組織とマネジメント，情報政策論，システムインテグレーション，電子商取引論，産業組織心理学，起業論，企業と情報管理，情報セキュリティなどの科目がある．

両分野の専門科目群を学ぶ上での基盤となる知識や技術を身につけるのが，学科基盤科目である．このため，必修となっている科目が多い．微分積分学，線形代数学，確率統計基礎などの数学系科目，プログラミング基礎，プログラミング演習などのプログラミング系科目，情報基礎学，情報理論，アルゴリズム論，コンピュータシステム，知覚と認知，モバイルシステム，インタラクティブシステムデザイン，LAN 環境演習，テクノロジーエクスプローラなどの情報学系科目がある．この中のテクノロジーエクスプローラは，情報システム学科のカリキュラムの羅針盤となる科目である．

また，3 年次から全員が各研究室に配属され，ゼミ形式の指導が始まる．3 年次の事例研究に続き，4 年次に卒業研究を行う．この過程で，指導教員から研究の助言を得て，自らの専門性を深めていく．自主性が強く求められる専門科目である．

４．学修にあたって

所定の年限を在学し所定の単位を修得すれば卒業できるが，それだけであってほしくない．大学の勉強が，社会に出て活用できなければ，勉強した意味がない．試験前にあわてて勉強するようでは，使える学問とはならない．学んだ知識を日々復唱し，実生活に使われている技術に照らし合わせて考えることにより，堅牢な知識となる．大学では，高校までと違い，授業は学びのきっかけとして，授業で気になった内容は自ら深堀りする自主性が求められる．

また，この過程で，新しいことを自ら学ぶ姿勢，やり方を学んでほしい．大学で学んだことだけで対応できるのは，数年である．世の中の技術の進展は速い．しかも進展のスピードは，加速している．大学で学んだことだけで，生涯働き続けられるほど，世の中は甘くはない．この時代を生き抜くためには，常に学ぶ姿勢が重要である．大学時代に生涯学び続けられるための基礎学力を高めておくことが重要である．そうしておけば，新しいことも苦労なく受容することができるようになる．それとともに，学びの姿勢・やり方を獲得してほしい．すなわち，計画を立て（計画力），集中して（集中力），しかも持続して（持続力），最後までやりぬく力（完遂力）である．これが身についていれば，どんな変化にも柔軟に対応できるはずである．これを念頭に，大学での勉強を進めてほしいと思う．

合わせ，大学生活でしかできない体験をたくさんしてほしい．今が，一番の挑戦，成長の時である．後悔のない大学生活を送ってもらいたい．

情報システム学科専門科目

情報システム学科の専門科目では、情報システムを学んでいく上での助けになるよう、科目内容に基づいていくつかの分類を行っている。履修する際にはこれらや履修モデルを参考に、1年のうちは基礎固めを中心にバランスよく、2年からは徐々に関心領域を重視しながら履修を進め、３，４年時には研究を意識しながら専門性を高める履修を進めることが重要である。

■学科基盤科目

情報システム学科で学び、事例研・卒研での研究に進むうえでの基礎知識、方法論に関する科目を配置している。内容としては、情報通信システムの基礎から現在の状況の理解に関する科目群、情報システム実現上で必要な数学基礎知識とその発展科目群、そしてプログラミングを体系的に基礎から応用までを学修する科目群に大よそ分類できる。基盤として特に重要な科目は、必修あるいは選択必修の指定がされている。

・情報通信システムの基礎から現状理解に関する科目群：

「テクノロジーエクスプローラ」、「情報基礎学」、「コンピュータシステム」、「LAN 環境演習」、「情報理論」などから成る。

・数学基礎知識とその発展科目群：

「数学基礎」、「微分積分学　Ⅰ」、「線形代数学　Ⅰ」、「線形代数学　Ⅱ」、などから成る。

・プログラミング系科目群：

「プログラミング基礎１」、「プログラミング基礎２」、「アルゴリズム論」、「プログラミング演習の１A、１B、２A、２B、３」などから成る。

■学科専門科目

専門性を高めながらさらに深く学んでいくための知識や、考え方について講義する科目を配置しており、大きく 2 つの分野に分かれる。それぞれに分類される科目名の詳細は、カリキュラム表に記載されている。

［システムデザイン分野］

情報システムの構築・運用管理などに関する科目群や、マルチメディア情報の取り扱いに関する科目群等から成る。特にサーバ系科目は重要であるため、必修科目に指定している。

［ICT アセスメント分野］

産業社会に関する基礎知識、人間・組織マネジメント、情報政策・情報管理等を学び、システム開発のプロジェクト計画を立案・実現・運用などの総合的能力を養う科目等から成る。特にシステム実現に必要な調査・分析・設計・管理等を学ぶ「ICT アセスメント概論」を科目に指定している。

メディア情報学部　教育課程表の注意事項

- 「学部共通科目」は、両学科共通として教育課程表を掲載している。
- 「専門科目」は、学科毎に教育課程表を掲載している。
- 週時間数の「2」時間は、100 分授業（1 授業時間）のことである。
- 週時間数の（　）書きのものは、クラスにより前期または後期に配当される。
- 時間割編成等の運用上、開講時期や担当教員を変更する場合がある。
- 「教職課程」を履修するには、別途、教職課程履修登録をしなければならない。

メディア情報学部　情報システム学科　教育課程表

○印必修　△印選択必修

区分		授業科目	必選の別	単位数	週時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門基礎科目		環境マネジメントシステム	○	2	2								
		統計学基礎		2	2								
		ミクロ経済学		2	2								
		情報発信入門		2	2								※
		情報環境論		2		2							
		マネジメント入門		2		2							
		コンピュータグラフィックス		2		2							
		情報と職業		2			2						
		情報と法		2			2						
		視覚情報表現論		2				2					
		データベース		2				2					
		情報と経済		2				2					
		キャリアデザイン		2				2					
		エネルギーと政策		2					2				
		情報の倫理		2					2				
		データ分析法		2					2				
		意思決定論		2						2			
		メディアと知的財産権		2						2			
専門科目	学科基盤科目	数学基礎	○	2	2								
		情報基礎学	○	2	2								
		知覚と認知		2			2						
		プログラミング基礎１	○	2	2								※
		プログラミング基礎２	○	2		2							※
		微分積分学Ⅰ	○	2		2							
		微分積分学Ⅱ		2			2						
		線形代数学Ⅰ	○	2		2							
		線形代数学Ⅱ	○	2			2						
		テクノロジーエクスプローラ	○	2	2								
		コンピュータシステム		2		2							
		アルゴリズム論		2		2							
		確率統計基礎		2			2						
		データマイニング		2					2				
		情報理論		2			2						
		プログラミング演習１Ａ	△	2			2						△から１科目選択　※
		プログラミング演習１Ｂ	△	2			2						※
		プログラミング演習２Ａ		2				2					※
		プログラミング演習２Ｂ		2				2					※
		フーリエ解析学		2				2					
		ＬＡＮ環境演習		2				2					※
		モバイルシステム		2				2					
		プログラミング演習３		2					2				※
		インタラクティブシステムデザイン		2					2				
	学科専門科目（システムデザイン分野）	コンピュータネットワーク		2		2							
		ディジタル通信		2			2						
		オペレーティングシステム		2				2					
		ディジタル信号処理		2				2					
		音響心理学		2						2			
		サーバシステム構築	○	2					2				※
		サーバ管理演習	○	2					2				※
		マルチメディア情報処理		2					2				
		マルチメディア記述法		2						2			
		可視化技法		2						2			※
		コンピュータシミュレーション		2						2			※
	学科専門科目（ＩＣＴアセスメント分野）	オブジェクト指向方法論		2				2					
		アカウンティングシステム		2				2					
		ＩＣＴアセスメント概論	○	2			2						
		電子商取引論		2			2						
		情報セキュリティ		2			2						
		ビジネスモデリング		2						2			
		システムインテグレーション		2				2					
		オペレーションズリサーチ		2					2				
		組織とマネジメント		2					2				
		企業と情報管理		2					2				
		産業組織心理学		2					2				
		情報政策論		2						2			
		起業論		2						2			
		事例研究	○	4					3	3			※
		卒業研究	○	6									※

※演習のため、他学科履修不可

履修上の注意事項　（メディア情報学部共通）

１．授業科目履修上の注意事項

□　１・２年次の学修（履修）の考え方

主に必修科目の修得と、基礎科目及び専門基礎科目、学科基盤科目など3年次以降の専門的学習の基礎となる科目の修得をめざす。各学年４０単位以上（各学期に最低２０単位以上）は取得すること。２年次修了までに８０単位以上取得することを目標とする。

□　３・４年次の学修（履修）の考え方

専門科目を主に履修し、３年次終了時点で卒業研究着手条件①～③を満たすよう履修する。４年次では、卒業研究に着手し、卒業研究論文を作成する。卒業要件１２４単位以上の取得を目指す。

２．３年次進級条件について

２年以上在学して７０単位以上取得しなければ、３年次に進級することができないので、２年次終了時までに７０単位以上取得すること。２年次までの在学年数は、４年を超えることができない。

３．卒業研究着手について

３年以上在学して、以下の条件を満たさなければ卒業研究着手は認められないので、この条件を満たすよう履修すること。

①１００単位以上取得していること。
②２年次までの必修科目を全て修得していること。
③事例研究を修得していること。

４．その他特に留意すべき点

他学科、他学部の科目を履修する場合は当該学修要覧を参照すること。

表－11　履修モデル１（情報システム学科）：卒業後の進路として ICT 系・メディア系・一般企業の情報システム開発部門を目指す学生の例

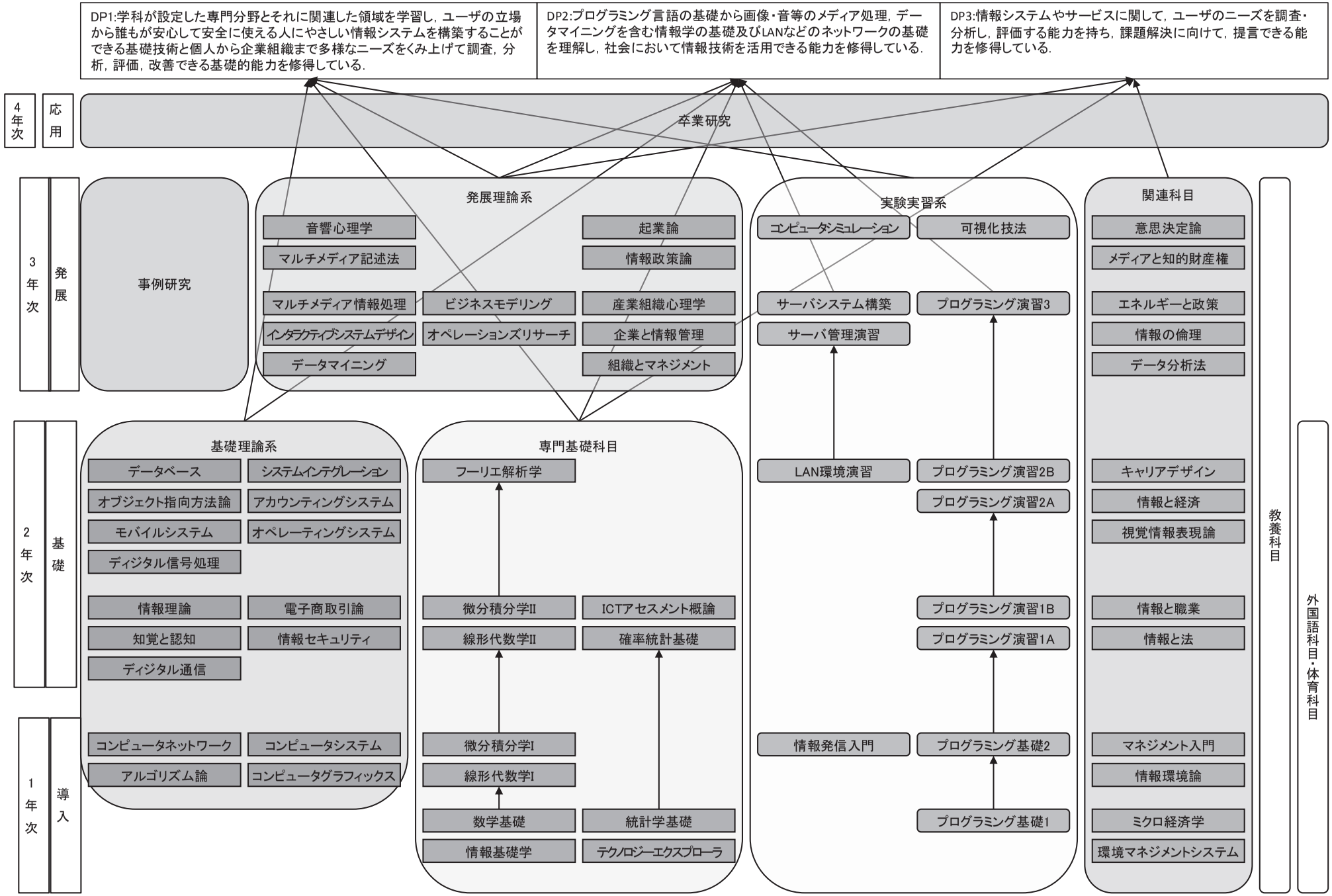
科目区分（卒業要件）		1年		2年		3年		4年		必修	選択	自由
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎科目（16単位）	外国語科目（6単位）	Communication Skills 1◎ Study Skills◎	Communication Skills 2◎ Reading and Writing 1◎	Reading and Writing 2◎	TOEIC Preparation◎					6		0
	教養科目（10単位）	情報と社会◎ 情報リテラシー演習 情報通信技術入門	法と市民（憲法含む） 情報編集入門							2		8
専門基礎科目（20単位）		環境マネジメントシステム◎ 情報発信入門 統計学基礎	コンピュータグラフィックス	情報と職業 情報と法	視覚情報表現論 データベース	情報の倫理 データ分析法				2		18
専門科目（78単位）	学科基盤科目	数学基礎◎ プログラミング基礎１◎ 情報基礎学◎ テクノロジーエクスプローラ◎	微分積分学（１）◎ 線形代数学（１）◎ プログラミング基礎２◎ コンピュータシステム アルゴリズム論	微分積分学（２） 線形代数学（２）◎ （プログラミング演習１A△、プログラミング演習１B△） 確率統計基礎 情報理論 知覚と認知	（プログラミング演習２A、プログラミング演習２B） LAN 環境演習 モバイルシステム	プログラミング演習３ インタラクティブシステムデザイン データマイニング				32	2	44
	学科専門科目		コンピュータネットワーク	ICT アセスメント概論◎ ディジタル通信 情報セキュリティ	ディジタル信号処理 オペレーティングシステム オブジェクト指向方法論	サーバシステム構築◎ サーバ管理演習◎ マルチメディア情報処理	マルチメディア記述法（コンピュータシミュレーション、可視化技法） 音響心理学					
	事例研究 卒業研究					事例研究◎		卒業研究◎				
自由選択科目（10単位）		中国語 1	中国語 2 キャリアデザイン基礎		システムインテグレーション※ キャリアデザイン	組織とマネジメント※				0		10
合計（124単位）		23	23	23	21	18	10	0	6	42	2	80

◎必修科目　△選択必修科目　（　、　）はカッコ内のいずれかを選択する。※は教育課程表では学科専門分野であるが、モデル1では自由選択科目として履修する。

表－12　履修モデル2（情報システム学科）：卒業後の進路としてICT企業のIT マネジメント部門、システムコンサルタント系を目指す学生の例

科目区分（卒業要件）		1年		2年		3年		4年		必修	選択	自由
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎科目（16単位）	外国語科目（6単位）	Communication Skills 1◎ Study Skills◎	Communication Skills 2◎ Reading and Writing 1◎	Reading and Writing 2◎	TOEIC Preparation◎					6		0
	教養科目（10単位）	情報と社会◎ 情報リテラシー演習 情報通信技術入門	法と市民（憲法含む） 情報編集入門							2		8
専門基礎科目（20単位）		環境マネジメントシステム◎ 情報発信入門 統計学基礎	マネジメント入門	情報と職業 情報と法	情報と経済 データベース	情報の倫理 データ分析法				2		18
専門科目（78単位）	学科基盤科目	数学基礎◎ プログラミング基礎1◎ 情報基礎学◎ テクノロジーエクスプローラ◎	微分積分学（1）◎ 線形代数学（1）◎ プログラミング基礎2◎ コンピュータシステム アルゴリズム論	微分積分学（2） 線形代数学（2）◎ （プログラミング演習1A△、プログラミング演習1B△） 確率統計基礎 情報理論	（プログラミング演習2A、プログラミング演習2B） LAN環境演習 モバイルシステム	インタラクティブシステムデザイン				32	2	44
	学科専門科目		コンピュータネットワーク	ICTアセスメント概論◎ 情報セキュリティ 電子商取引論	システムインテグレーション オブジェクト指向方法論 アカウンティングシステム	サーバシステム構築◎ サーバ管理演習◎ オペレーションズリサーチ 組織とマネジメント 企業と情報管理 産業組織心理学	情報政策論 起業論 ビジネスモデリング					
	事例研究 卒業研究					事例研究◎		卒業研究◎				
自由選択科目（10単位）		中国語 1	中国語 2 キャリアデザイン基礎		科学技術と社会 キャリアデザイン		意思決定論			0		10
合計（124単位）		23	23	21	21	18	12	0	6	42	2	80

◎必修科目　△選択必修科目（　、　）はカッコ内のいずれかを選択する。


DP1:学科が設定した専門分野とそれに関連した領域を学習し，ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人にやさしい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査，分析，評価，改善できる基礎的能力を修得している．
DP2:プログラミング言語の基礎から画像・音等のメディア処理，データマイニングを含む情報学の基礎及びLANなどのネットワークの基礎を理解し，社会において情報技術を活用できる能力を修得している．
DP3:情報システムやサービスに関して，ユーザのニーズを調査・分析し，評価する能力を持ち，課題解決に向けて，提言できる能力を修得している．
4年次
応用
卒業研究
3年次
発展
事例研究
発展理論系
音響心理学
マルチメディア記述法
マルチメディア情報処理
インタラクティブシステムデザイン
データマイニング
ビジネスモデリング
オペレーションズリサーチ
起業論
情報政策論
産業組織心理学
企業と情報管理
組織とマネジメント
実験実習系
コンピュータシミュレーション
可視化技法
サーバシステム構築
サーバ管理演習
プログラミング演習3
LAN環境演習
プログラミング演習2B
プログラミング演習2A
プログラミング演習1B
プログラミング演習1A
情報発信入門
プログラミング基礎2
プログラミング基礎1
関連科目
意思決定論
メディアと知的財産権
エネルギーと政策
情報の倫理
データ分析法
キャリアデザイン
情報と経済
視覚情報表現論
情報と職業
情報と法
マネジメント入門
情報環境論
ミクロ経済学
環境マネジメントシステム
教養科目
外国語科目・体育科目
2年次
基礎
基礎理論系
データベース
システムインテグレーション
オブジェクト指向方法論
アカウンティングシステム
モバイルシステム
オペレーティングシステム
ディジタル信号処理
情報理論
電子商取引論
知覚と認知
情報セキュリティ
ディジタル通信
専門基礎科目
フーリエ解析学
微分積分学II
ICTアセスメント概論
線形代数学II
確率統計基礎
1年次
導入
コンピュータネットワーク
コンピュータシステム
アルゴリズム論
コンピュータグラフィックス
微分積分学I
線形代数学I
数学基礎
統計学基礎
情報基礎学
テクノロジーエクスプローラ

科　目　概　要（2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと）

（教育課程表掲載順に記載）

■ 情報と職業

岡部　大介

Information and Workplaces

2年生前期

科目概要

本講義において，科目担当者は，情報メディアやツールを，単に仕事を効率化する道具ではなく，むしろ，知識や技術をリンクしたり，社会的ネットワークを構築するための道具であると捉える．このような見方に立って，様々な仕事場への情報メディアやツールの導入や使用例を分析し，仕事場におけるデザインのあり方について講義することが趣旨となる．具体的には，人工物に情報を記入する古くから行われている労働環境における情報伝達から，近年あたり前となった情報システムを用いた労働環境を確認し，今日的なネットワーク化された情報と職業の意味を論考する．

In this lecture, a view of information ecology is explained along with various examples in workplaces.

履修心得

今日の情報システムへの興味に加え，デジタルファブリケーションのような，新しい ICT と職業の関係に関心があること．

■ 情報と法

佐藤　豊

Information and Law

2年生前期

科目概要

情報社会の到来に伴い、サイバースペースにおいてさまざまな法的問題が発生しつつある。この講義では、情報メディアの発達によるコミュニケーションのあり方の変化を概観し、「情報」と「法」の関わりをマクロな視点で捉え、放送・通信・インターネットなど情報を媒介するシステムにまつわる法的問題を様々な事例とともに論じる。

With the arrival of the information society, various legal problems are occurring in a cyber space. In this lecture, we will see how the communication system is changed by the development of the information media, and think about the legal problems of the Broadcasting/Internet where the information flows.

なお，本講義は，メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項にある，社会科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示する科目となる．

履修心得

インターネット・放送・通信・デジタルコンテンツ・知的財産権・著作権というキーワードに関心のある学生を歓迎する。

■ 視覚情報表現論

清水　由美子

Visual Communication design

2年生後期

科目概要

朝起きてから夜寝るまでの間、私たちは膨大な情報に接している。私的なメモやチラシ、貼り紙からテレビや Web のコンテンツに至るまで、様々な意図と共に私たちの目に入ってくる情報を“見やすさ”、“分かりやすさ”、“印象づけ”などを中心に人間の認知プロセスの観点から考察する。さらに視覚情報に関する基礎的な知識と併せ、“受け手が理解しやすいように、情報の形を変換する”という情報デザインの考え方を学ぶ。

We will consider from the viewpoint of human recognition processes information that we see through a variety of intentions ranging from personal memos to newspaper inserts, and posters, television and web contents mainly focusing on the concepts of being easy-to-see, easy-to-understand and their appeal.

履修心得

特になし

要望

毎日当たり前に見ている、受け取っている情報を種々の特定の視点から見直す、という経験を楽しんでほしい。

■ データベース

鈴木　幸市

Database

2年生後期

科目概要

デジタル化された情報の蓄積保存にはデータベースは不可欠である。データベースの主流であるリレーショナルデータベースについて、その基本的考え方、テーブル、クエリ、トランザクションなどの概念、データベースの具体的設計方法、その運用方法を教授する。さらに身近な活用事例についても教授する。

Database is indispensable component to store digital information.

In this subject, basic concept of database management system to store and utilize digital information, including relational data model, notion such as table, query, transaction, database design and its operation as well as their application will be taught.

履修心得

「コンピュータシステム」を受講すること、あるいは同等の予備知識を習得しておくこと。

要望

教材は事前にダウンロードし、PC あるいは印刷して授業に持参してください。スマホやタブレットは画面が小さいので使わないでください。/講義内容は広い範囲にわたっています。事前に教材を眺めておくこと、及び復習が大事です。データベースは情報システムに不可欠な構成要素です。しっかり自分のものにしてください。

各回の授業はそれ以前の授業内容がしっかり理解してあることを前提に進めます。止むを得ず欠席する場合は、欠席した回の教材を少なくとも 4 時間は自学自習し、その結果を提出してください。

■ 情報と経済

田中　秀実

Information and the Economy

2年生後期

科目概要

本講義では、いわゆる「情報経済学」について、情報というものが経済理論ではどのように扱われるかについて論じる。通常の経済理論では、取引において、双方が正しい情報を持っていることを前提としている。ところが、現代では、情報そのものが売買の対象とさえなっているように、情報を把握すること自体が大きな課題であり、正しい情報を持たずに行動することは多大な不利益をもたらす。そのような情報の非対称性は、モラルハザードや逆選択などの歪みのある取引結果を引き起こす。情報経済学はそのような状況を考察する理論である。メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項の，社会科学および情報科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示する科目となる.

This lecture tries to explain features and roles of information on the economic theory. In recent years, purchasing some kind of information is an usual activity. And, Information itself has high value and the role of it is increasingly more important. The normal economic theory supposes that both agents in economic contracts, buyer and seller, have the same correct information, but, in reality, some might have no information. This so-called asymmetry of information will cause moral-hazard or adverse-selection, a distortionary result on economic contracts. The information economics will try to explain these situations.

履修心得

数理的な思考に際して、教養レベルの基礎的な微積分学の知識があれば望ましい。

要望

情報経済という分野は、興味の方向によって、本講義におけるような、取引主体間の非対称情報が生み出す問題にゲーム理論的なアプローチを行うものもあれば、ネットワーク経済における情報産業のありかたに政策論的なアプローチを行うものもあり、その接近法は大きく異なっている。受講者は両者のスタンスの違いと、自己の興味の方向に留意して受講して欲しい。

■ キャリアデザイン

池田　宗人

Career Design

2年生後期

科目概要

生涯にわたって自分の生き方を主体的に考え行動する力の基礎的部分を講義する。「生き方」の中では、職業ないし仕事に関わる側面を中心に説明する。

履修心得

キャリアに関する問題意識。

要望

本講義では、職業と仕事に関するキャリア（ワークキャリア）を対象の中心としますが、職業・仕事を含む「人生」（ライフキャリア）にも通じる内容です。自律的、主体的に生きるためのスキルと考え方を身につける機会です。そんな機会を有効に活用するためにも、積極的な授業への参加・取り組みを求めます。

■ エネルギーと政策

木村　啓二

Introduction to Energy Policy

3年生前期

科目概要

エネルギーは私たちの生活や経済活動と密接にかかわっています。と同時に、それは国内のみならず世界全体とかかわり、かつ環境影響を与えています。そこで、本講義では私たちのエネルギー利用が環境に与える諸影響について理解するとともに、そうした課題解決に向けた取組と今後の課題について考えていきます。

Energy production and consumption is closely related to our lives and economic activities. On the other hand, that affects environment issues. This lecture provides you basic information on energy consumption and the environmental impacts from the energy usage. In addition, we consider the current situations for addressing these challenges.

履修心得

経済学やエネルギーに関する基礎知識があれば望ましいですが、特に必須ではありません。

■ 情報の倫理

田川　史朗

Information Ethics

3年生前期

科目概要

情報技術の進展にともない、人びとの生活・コミュニケーション様式は大きく変化している。日頃から携帯電話やパソコンなどのツールを手にとる私たちが経験する社会的リアリティなど具体的な事例の検討からはじまり、L・レッシグのアーキテクチャ概念などに依拠しながら、情報社会における倫理の役割について論説する。

With the development of information technology, people living and communication style has changed greatly. Starting from a study of specific cases, such as the social reality that we experience to use tools such as mobile phones and personal computers on a daily basis, while relying such as the architecture concept of Lawrence Lessig, to learn about the role of ethics in the information society.

なお本講義は、メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項にある、社会科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示するための科目となる。

履修心得

ディスカッションの時間を設けるため、前週の講義で指定したテーマ等について自分なりの論点を説明できるよう準備しておくこと。

要望

情報端末利用のガイドラインやインターネット等 CMC におけるエチケットなどユーザーとして守るべきルールを羅列するような授業ではありません。本講義では、なぜこうしたルールが必要なのかを理解するための想像力を養うことを企図しています。第三者から個々具体的なルールに対して「なぜ守らなければならないのか？」と問われたときに、自分なりの「理由」を示せる力を身につけてほしいと思っています。

■ データ分析法

玉利　祐樹

Data Analysis

3年生前期

科目概要

応用的な統計手法である多変量データ解析の手法について、考え方、ソフトウェア（Excel と R 言語）を使った実施の仕方、結果の読み取り方まで解説し、これらの手法を用いるスキルを育成する。本講義は、社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の『社会学・心理学・認知科学等における基礎的スキルと方法論』の科目である。

The purpose of this class is to study several major methods of multivariate analysis. The students will also get the skills to use the major statistical package software (Excel and R).

履修心得
初等統計学（統計学基礎、応用統計）の知識を前提として、講義を進めます。

要望
データ解析はマーケティングやコンサルティング、営業計画を立てたりする場合に必要になる手法で社会で非常に有用なツールです。ただし、数学の知識が必要となります。真面目な受講態度と努力が必要です。コピーペーストしたレポートや、単にソフトを使ったというだけのレポートも、科目の性質上評価の対象となりません。R 言語は現在多くの大学や事業所で使われている最先端のフリーソフトです。公開されている統計データや、空間データなどの分析に使えるのでぜひこの機会に身につけると、きっと役立つでしょう。

■ 意思決定論
阿部　雅之

Decision Making Method

3年生後期

科目概要
意思決定をデータ中心のアプローチとして捉え、ビジネスのみならず、日常生活においても重要な位置づけであることを習得する。学習直後から活用可能な事例を中心に学習する。

This lecture treats Decision Making Method by data-oriented approach. We also discuss Decision Making Method in our daily life.

履修心得
特に設定はしないが、統計関連科目されにできれば簿記会計関連科目の学習が望ましい。また、表計算ソフトエクセルの基本的操作ができればなおよい。

要望
学習したその日からすぐに活用できるテーマを教材としているので、日常の生活や行動を意思決定的観点からシステム的に捉え、普段の生活の場でも実践してください。この授業を受けることで、それまで持っていた先入観や概念が大きく覆ります。若いうちにカルチャーショックを大いに受けてください。

■ メディアと知的財産権
張　睿暎

Media and Intellectual Property

3年生後期

科目概要
デジタル技術やネットワーク技術の進展によりメディアは急速に変革しつつあり、それに伴って知的財産権のあり方にも大きな影響を与えている。この講義では、特にデジタル技術・ネットワーク技術と関連の深い著作権を中心に、著作権法の理解を深められるように、各メディア（著作物）にまつわる紛争事例を素材に解説していく。

The media is revolutionizing rapidly by the development of digital technology and the network technology. In this lecture, I will illustrate about various aspects of digital media , mainly from the aspect of copyright law.

履修心得
断絶のない授業参加により全体像を把握することに重みをおくので、第1回目のガイダンスに必ず参加すること。授業中には質問をたくさんするので、積極的に発言することが望ましい。

要望
断絶のない授業参加により全体像を把握することが大事である。授業中は積極的に発言してほしい。

■ 知覚と認知
八木　伸行

Perception and Cognition

2年生前期前半

科目概要
人にやさしいシステムを構築するには，人がどのように物を知覚し，認知し，記憶・学習し，行動するかのメカニズムを知っておくことが，重要である．本講義では，そのために必要な視覚，聴覚，味覚，嗅覚，触覚などの知覚の基本特性，画像，形状，運動，立体，文字などの認知特性，記憶・学習メカニズムの基本について学ぶ．The aim of the lecture is to obtain basic knowledge of perceptive and cognitive mechanisms through visual and auditory systems from the psychological and physiological points of view because the knowledge is quite useful to design. The lecture focuses the basic characteristic of visual perception, hearing sense, taste, olfaction and haptics, cognition of image, shape, motion, 3D, and text, and mechanism of memory and learning.

履修心得
特になし

■ 微分積分学 II

鈴木　理

Calculus II

2年生前期

科目概要

多変数関数の微分法と積分法について講義する。微分の概念（偏微分と全微分）とその幾何学的意味について講義し、合成関数の微分の計算方法や、応用として2変数関数の極値問題の解法を指導する。また、定積分の基本的概念を講義し、累次積分や積分順序の変更による積分計算の方法を指導する。変数変換や広義積分の概念とその計算方法を講義する。これらの計算技法の応用として、立体の体積や曲面の表面積を扱う。

This course is the sequel to the class "Calculus I" and deals with differential and integral calculus of functions of several variables. The topics in this class are as follows: partial and total differential, differentiation of composite functions, higher-order partial derivatives, extrema, multivariable integrals, change of variables, improper integrals and their applications.

履修心得

微分積分学 I の知識は前提とする

要望

わからないところがあれば、質問をするなどして、積極的に取り組んでほしい

■ 線形代数学 II

安田　正實

Linear Algebra II

2年生前期

科目概要

ベクトル空間における基本項目を学習し、さまざまな分野との関わりをもつ行列論の理論的応用を学ぶ。本講義ではベクトル、行列の知識をとおして専門知識の理解に役立てることを目指します。

The aim is to learn the fundamental notion for the vector space and to apply the matrix theory on the various related theory. This mathematical notion provides a useful knowledge on further special topics.

履修心得

線形代数学 I を前提とする。行列の基本変形、連立方程式の解法、行列の階数、逆行列、行列式が計算できること。

複素数の計算、微分積分での最大最小の計算ができること。

要望

参考書は授業内でも説明します。また学習のための補習資料をWEBに掲示します。

予習や復習は積極的におこない、もし分からない点があれば積極的に質問してください。

■ 確率統計基礎

堀口　正之

Elementary Probability and Statistics

2年生前期

科目概要

集めたデータの整理の仕方やデータに対する確率的取り扱いの基本的な考え方、確率分布や独立性、期待値、分散、大数の法則と中心極限定理について講義する。また、標本の概念、推定や検定の手法の基本的概念と計算方法、およびその分析方法として母平均や母分散の推定と検定やカイ2乗検定を扱う。

In this class, I give series of lectures about basic knowledge and skills on mathematical statistics and probability theory. Keywords relating to topics are: probability distributions and independence, expectation, variance, law of large numbers and central limit theorem, sampling theory, estimation and test of population mean and variance, Chi-square test.

履修心得

数学基礎、微分積分学、線形代数の基本的な知識があること

要望

授業で扱った内容は、次の授業までに理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。

■ データマイニング

大谷　紀子

Data Mining

3年生前期

科目概要

大量のデータに埋もれている価値のある情報や新しい知識を抽出するためのデータマイニング技術について解説する。数値データだけでなく、インターネット上のテキストやリンクの情報にも焦点をあて、世の中にあふれる情報の活用方法を紹介する。小規模なサンプルデータを用いて手計算によりマイニングをする演習を実施し、理解の定着を図るとともに、データマイニングの意義を実感させる。

The purpose of this lecture is to understand Data Mining techniques and think about how to utilize data.

履修心得

情報理論を履修し、情報量とエントロピーに関する知識があること。対数を含む基本的な数学の知識があること。

要望

授業で扱った内容は、次の授業までにすべて理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。

■ 情報理論

藤井　哲郎

Information Theory

2年生前期

科目概要

現在の情報技術（IT）の飛躍的発展の背景には、しっかりとした理論体系のもとに構築された「情報理論」の存在がある。携帯電話も地デジ放送もこの情報理論が支えている。本講義では、情報理論の基礎を学ぶことで、その後の専門科目や研究を学ぶための基礎素養を身につける。

The purpose of this course is to introduce the elements of Information Theory including Entropy, Source Coding, Channel Coding, and Security. In this course, the relation between Information Theory and practical problems is also focused.

履修心得

確率と統計に関する基本的な知識

要望

情報理論の基礎をしっかりと学んで欲しい。

■ プログラミング演習 1A

八木　伸行

Practical Programming IA

2年生前期

科目概要

本演習では、実用的な情報システムで必要となる，対象の構造を表現するためのデータ構造およびその処理のためのアルゴリズムを，C 言語のプログラムでどのように表現するか学習する．そのため，ポインタや動的メモリの扱いを含む C 言語のやや高度な言語要素について学習するとともに，データを処理する様々な方法を，プログラミングの演習を通して学習する．また，仕様と実装方法の分離を，抽象データ型の考え方を用いて理解する．The aim of the lecture is to obtain practical C programminng technique, which is indispensable to develop practical information systems, such as data structure to express target data and algorithm to process them. For the purpose, advanced elements in C language such as pointer and dynamic memory allocation, C++ extention from C, and various processing methods to process those data structures are learned through programminng practices.

履修心得

プログラミング基礎1を履修していること.

■ プログラミング演習 1B

横井　利彰

Practical Programming IB

2年生前期

科目概要

C 言語および Java 言語の基礎の理解を前提とした上で、Java 言語によるグラフィカル・ユーザ・インタフェースと対話性のデザイン、マルチスレッドによる並行処理、ネットワーク通信の基本について解説する。次に、学生自らが複数のクラスの設計を行うことができるように、複数クラスが連携するプログラムの作成方法を紹介する。この過程を通じて、オブジェクト指向プログラム開発の基本的流れを指導するとともに、オブジェクト指向分析・設計・開発の概要を紹介する。まとめとして、プロジェクト形式で最終的なプログ

ラム作品の作成を指導し、実践的な応用プログラミング能力を身につけさせる。

This is an intermediate course of software engineering using the Java programming language. The course is designed for students with some programming experience in C and Java. Topics include: Object-oriented development, graphical user interface, multi-threads, classes, objects, inheritance, interfaces, polymorphism, and network communications.

履修心得

プログラミング基礎1での C 言語基礎と、プログラミング基礎2での Java 言語基礎の理解。

要望

プログラム作成には忍耐が必要なので、少しずつ確実に学びアイデアを実現する喜びを味わってほしいです。

■ プログラミング演習 2A

大谷　紀子

Practical Programming IIA

2年生後期

科目概要

システムの開発プロセスとして、要件定義、システム設計、実装、テスト、評価に関する基本的知識を解説する。演習では、顧客からのシステム開発要求を受注した場面を想定し、数名からなるチームで各種ドキュメントの作成、レビュー、C 言語による実装、テスト、顧客への最終プレゼンを行うことで、システムエンジニアのシステム開発作業を体験させる。アシスタントを顧客、教員を上司として、アポの取り方をはじめとするコミュニケーションの方法も指導する。

The purpose of this lecture is to obtain basic knowledge about requirement definition, system design, implementation, testing, and evaluation in the software development process.

履修心得

プログラミング基礎 1、プログラミング演習 1A を受講し、C 言語を習得していること。

要望

システムエンジニアとしての素養を身につける演習なので、意欲を持ってグループワークに取り組んで欲しい。

■ プログラミング演習 2B

横井　利彰

Practical Programming IIB

2年生後期

科目概要

企業や組織で運用するソフトウェアの開発では、複数の人間が参加して分析・設計し、連携をとりながらプログラム開発を行うため、本演習では、この流れをプロジェクト学習の形で体験しながら、実践力を習得できる学習内容を提供する。具体的には、「プロジェクトの範囲と目的の明確化」、「対象における課題とニーズ分析」、「具体的なシステム化」、「機能の検討・選定」、「機能を実現するための資源選定」、「開発から稼動までのスケジュール策定」、を数名のチームで行うことができるように指導しながら、受講生が Java 言語での携帯端末向けソフトウェア開発を行うことができるように指導する。

This course is an introduction to software engineering using the Java programming language. Students will learn the fundamentals of software development by team. The focus is on developing high quality, working software that solves real problems. The course is designed for students with intermediate programming experience. Topics include: Requirement definition document, object-oriented analysis, object-oriented design, object-oriented programming, Android application development, and schedule management.

履修心得

プログラミング基礎1での C 言語基礎と、プログラミング基礎2での Java 言語基礎の理解、プログラミング演習1B での Java 言語応用の理解。

要望

ソフトウェア作成には忍耐と発想力が必要なので、少しずつ確実に学び多面的な視点でアイデアを練り、実現する喜びを味わってほしいです。

■ フーリエ解析学

鈴木　理

Fourier Analysis

2年生後期

科目概要

フーリエ解析は、波の伝播や熱の伝導を記述する数理理論として開発されたものであり、いまでは様々な分野で応用されている重要なものである。最近では音楽の波形解析にも応用され、”1/f-ゆらぎ”はよく知られている。これらの数学的基盤はフーリエ変換である。本講義では、フーリエ級数、フーリエ変換を扱い、その定義、計算方法や代表的な性質を扱う。テーラー級数展開や微分方程式への応用についても講義する。

履修心得

微分積分学(2)で扱う内容を理解していること

■ LAN 環境演習

藤井　哲郎、関　良明

Construction of Local Area Networks

2年生後期前半

科目概要

小規模の情報機器ネットワークの適切なシステム構築技術について、ハブ、サーバ、PCなどのハードウェアと、これらを活用するためのソフトウェア環境について、演習を通じて学ぶ。具体的には、有線のLANを対象として、MS-Windows OSによるサーバ・クライアントの構築、アクティブディレクトリ・DNSの設定、ファイル共有・アクセス権設定、Webシステムの構築を行う。

This course is designed to train students by hands-on training in setting up and securing the local area network. Students will gain the knowledge to set up the hardware(including Hub, PC, LAN cables),install software(including OS,Active directory,DNS and IIS)and maintain the security (such as file sharing and access control)

履修心得

「コンピュータネットワーク」にて、LAN、TCP/IP、DNS などのインターネットに関する基本知識を習得していること。

要望

実動するLAN環境を構築するので、興味を持って、積極的に取り組んで欲しい。

■ モバイルシステム

諏訪　敬祐

Mobile Communications System

2年生後期

科目概要

スマートフォンを中心にモバイル情報端末の利用が急速に進んでいる。モバイルシステムはインターネットと連携して様々なサービスを提供している。本講義では、モバイルシステムとモバイルネットワークの概要とディジタル伝送と端末技術の基本的仕組の理解を目的とする。さらに、モバイルマルチメディアサービスの概要を理解し、サービスを提供するためのインターネット技術及びネットワーク技術について講義を行う。また、ウェアラブル端末、電子ペーパーや GPS の原理、位置情報サービス、電子書籍など情報端末の利用について講義する。

This lecture shows the outline of the mobile communications system and technologies and discusses the mobile services.

履修心得

インターネットなどのネットワーク技術、コンピュータシステム、ディジタル通信技術の基本的な理解が必要である。

要望

授業には毎回出席すること。課題レポートの提出、試験は必須です。

■ プログラミング演習 3

小倉　信彦

Practical Programming III

3年生前期

科目概要

サーバサイドスクリプティング言語によるWebアプリケーションの作成方法を講義・演習指導する。Webアプリケーションの作成に必要なHTML要素を講義・演習指導し、スクリプトによる動的なページの生成や、リクエストへの応答を行う方法を講義・演習指導する。また、SQL文を用いたデータベースの作成、操作および、プログラミング言語からデータベースを操作する方法を講義・演習指導する。これらの要素技術を用いた、簡単な Webアプリケーション作成の演習指導を行う。

This course teaches an outline of the Server Side Programming and programming technique of PHP language with SQL databases as an framework of the Server Side Programming.

履修心得

プログラミングの基礎を学んでいること。

基本的な HTML 要素を学んでいること。

要望

プログラミングの基礎については復習しておくこと。特に自分が勉強したプログラミング言語については、簡単なプログラムが作成できるようにしておくこと。

■ インタラクティブシステムデザイン

八木　伸行

Interactive System Design

3年生前期

科目概要

人にやさしい誰にも使いやすいヒューマン・コンピュータ・インタラクションを実現する基礎技術である人の行動特性，各種インタフェース手法，インタフェース評価法を学ぶ．その中で，人の知覚，認知特性を踏まえたインタフェース技法，グラフィカル・ユーザインタフェースなどのインタラクティブ・インタフェース・デザイン法を学ぶ．また，ビジュアル・インタフェースだけでなく，マルチモーダル・インタフェースやエージェント・インタフェースなどについても学ぶ．The aim of the lecture is to obtain basic knowledge how to design human-friendly interactive system, such as human behavior characteristics, interface principles and interface evaluation method to design better human-computer interaction. In the lecture, interface techniques based on human perception and cognition, and interactive interface design such as graphical user interface are learned. Besides visual interface, multi-modal interface and agent interface are also learned.

履修心得

知覚と認知を，履修していることが望ましい．

■ ディジタル通信

諏訪　敬祐

Digital Communication

2年生前期後半

科目概要

インターネットを利用したディジタル情報の伝送にはディジタル通信技術が用いられている。特に無線通信方式、光通信方式では高速、高能率な通信技術の適用が重要である。本講義では、ディジタル通信の概要について学び、ディジタル化の原理、マルチプルアクセス方式、ディジタル変調方式とディジタル復調方式の原理の修得を目的とする。さらに、ディジタル伝送における通信品質改善技術、システム信頼性設計などについて講義を行う。また、携帯電話システム、無線 LAN などの通信システムについても講義する。

This subject gives a lecture on digital communication techniques to acquire the basic principle of the digital signal transmission and the digital communication systems.

履修心得

情報通信技術、インターネットなどのネットワーク技術の基本的な理解が必要である。

要望

授業には毎回出席すること。試験は必須です。

■ オペレーティングシステム

君山　博之

Operating System

2年生後期

科目概要

オペレーティングシステムは、コンピュータシステム全体を管理する基本ソフトウェアである。本講義では、オペレーティングシステムの機能や役割を習得し、その知識をコンピュータシステムの開発や構築など，システム構成力の習得に役立つ能力を養う。

An operating system (OS) is a fundamental software which manages the whole of computer hardware resources. In this lecture, we will learn roles and functions of OSes to master capability to integrate computer system, to create application softwares, and also to manage computer systems.

履修心得

コンピュータの基本的な構成、動作原理、プログラミング基礎、コンピュータネットワークとプロトコルの基礎知識が必須。

要望

オペレーティングシステムはコンピュータのほとんどの処理を行っている基本ソフトウエアです．基本ソフトウエアとは言うものの機能は多岐に渡り，実装も複雑です．そのためこの講義内容を理解するためには，関連科目として掲げた講義（特に「コンピュータシステム」および「コンピュータネットワーク」）の内容に関しては確実に習得してから授業に臨んでください．

オペレーティングシステムは常に進化しているソフトウエアです．ゆえに，単に講義内容を覚えるのではなく，なぜそうなているのかを理解することが大事です．なので，毎回の講義内容を確実に理解し，不明点があれば必ず質問することを心がけてください．

■ ディジタル信号処理

小倉　信彦

Digital Signal Processing

2年生後期

科目概要

ディジタル信号処理技術は、通信、音響、テレビ、医用、計測、制御などの幅広い分野で，必要不可欠な基盤技術となっている。身近なところでは、携帯電話の基礎実現技術として重要な役割を担っている。本科目ではディジタル信号処理システムの特性、フーリエ変換、ディジタルフィルタを中心に講義する。

The course introduces basic concepts and fundamental techniques in digital signal processing. These include signal representation, convolution, Fourier analysis and digital filters.

履修心得

行列、複素数などの数学に関する初歩的な基礎知識

要望

数学の知識を必要とする。基礎知識の積み重ねであるので、わからない事は、受講した週のうちに復習すること。

■ 音響心理学

岡本　学

Psychoacoustics

3年生後期

科目概要

本講義は，カリキュラムポリシー3 項にある，情報システム学科に関わる専門的な知識を体系的に学こと，および音響に関わる情報システムや情報サービスの分析に関わる。聴覚は，外界の情報を取り込む受容器官として，視覚と並んで極めて重要である。音に対する種々の心理特性と聞こえのメカニズムを十分理解することによって，音響心理に関する基礎力を養う。

The aim of the lecture is to obtain basic knowledge of psychoacoustics including pitch, timbre, loudness, masking, music scales and auditory illusions.

履修心得

新しい知識の獲得に貪欲で，音に興味のある学生であること

■ サーバシステム構築

岩野　公司、宮地　英生、後藤　正幸

Server System Construction

3年生前期前半

科目概要

インターネット社会において情報サービスの提供に必要不可欠な「サーバシステム」について、OSのインストールから安定運用に結び付けるための基礎的な技術の習得を目的とする。Linux OSのインストール、ネットワーク設定、各種サーバの導入と設定に

ついて演習を行い、様々なLinuxコマンドを駆使してサーバ構築や基本的な設定ができる水準に到達することを目標とする。

This course is designed to train students by hands-on training in setting up and securing the Linux server system. The course covers the basic knowledge to install the Linux OS, configure network settings, and setup various network services.

履修心得

「LAN環境演習」などの履修を通して、ネットワークに関連する知識を習得していることが望ましい。

要望

Linuxによるサーバを最初から学生自身で構築し、実際にWebサーバを稼動させる演習を行うので、最初から興味を持って積極的に取り組んでほしい。

■ サーバ管理演習

岩野　公司、宮地　英生、後藤　正幸

Server Management

3年生前期後半

科目概要

「サーバシステム構築」に引き続き、Linuxサーバに関わる様々なサーバ管理の技術について、さらに高度な内容を演習形式で学ぶ。ネットワークサービスの設定や保守の基礎と併せて、利便性と安定運用、クラッキング対策などのバランスの視点から、サービスの制限ポリシーなどに関する具体的知識を、演習を通して習得することを目的とする。また、サービス提供者側と利用者側の要求分析、およびハードウェア構成決定からサービスの内容の決定についても扱う。

This course is designed to develop students' skill to manage the Linux server system. The course is opened as a continuation course of "Server System Construction" and covers the basic knowledge to install the network applications into Linux system and maintain the security.

履修心得

本科目の履修者は「サーバシステム構築」を履修している必要がある。

要望

実際にWebサーバを稼動させる上で重要な管理／セキュリティに関する技術を扱うので、興味を持って積極的に取り組んでほしい。

■ マルチメディア情報処理

岩野　公司

Multimedia Information Processing

3年生前期

科目概要

現在の情報システムにおいて重要な要素となっている、コンピュータによる「マルチメディア情報処理」について講義を行う。マルチメディア情報としては「画像」と「音声」を取り上げ、それぞれの情報・信号の基本的な特徴や、それぞれに対する代表的な信号処理技術を解説する。静止画・動画・音声の各種分析手法や符号化技術の基礎、画像認識や音声認識のための特徴量抽出手法やパターンマッチング手法などについて学習し、それらの原理の習得を目標とする。

This lecture presents fundamentals of multimedia information processing. Topics will cover various basic techniques for speech and image signal processing; including speech signal analysis and processing, image signal coding and processing, and speech/image recognition.

履修心得

「ディジタル信号処理」で周波数の概念、離散フーリエ変換について学んでいることを前提とする。

要望

知識の習得に強い意欲を持って受講すること。疑問点や不明点は、質問や復習を行ってすぐに解決すること。

■ マルチメディア記述法

八木　伸行

Multimedia Coding Technology

3年生後期

科目概要

本科目では，マルチメディア記述に関する技術を，基礎から応用まで幅広く習得する．マルチメディア・フォーマットならびにインタフェース，MPEG 等の映像・音声符号化や BML 等のマルチメディア符号化の技術、規格など，マルチメディア記述法の基本を学ぶ．また，マルチメディア・コンテンツの管理・活用に不可欠な MPEG7 等のメタデータ記述法についても学ぶ．さらに，マルチメディアの応用例として，デジタル放送，インターネット放送，モバイルマルチメディアなどの仕組みについても学ぶ．The aim of the lecture is to obtain multimedia coding technology widely from fundamentals to applications. The lecture includes technology and standards about multimedia format, multimedia interface, video and audio coding such as MPEG, multimedig coding such as BML,

and metadata description neccessary for management and utilization of multimedia content such as MPEG-7. The lecture also covers digital broadcasting, Internet TV, and mobile multimedia as applications of multimedia.

履修心得

マルチメディア情報処理を履修しているか，同等の知識があることが望ましい．

■ 可視化技法

宮地　英生

Fundamentals of Visualization

3年生後期

科目概要

1年次の CG 技術の基礎理解を踏まえ，プログラミングによるコンピュータグラフィックス技術を用いた表現手法とその利用法について学ぶことにより，対象をわかりやすく表現し，また自らの表現目的を明快に示す CG 作成技法を身につける．インタラクティブ性や，より自由度の大きいアニメーション等の表現に主眼をおいた OpenGL と C を用いる CG 作成技法を修得する.This course is intended for students to understand a method of three dimensional image generation with computer using OpenGL which provides wide range functions which realize interactivity, mathematically described phenomenon expression and so on.

履修心得

CG 基本技術，C言語の基礎を理解していること．

1年後期：コンピュータグラフィックスを履修しておくことが望ましい．

同じ時期に開講される「コンピュータシミュレーション」受講を薦めます．

要望

論理的な思考と表現への関心をもつこと．遅刻・欠席をしないこと．自由な発想と自発的な取り組みを期待します

■ コンピュータシミュレーション

横井　利彰

Computer Simulation

3年生後期

科目概要

物理現象から社会現象に至るまでの問題解決案策定の有力手段の一つとして、コンピュータシミュレーション技術を中心に解説し、取り扱う問題を正確かつ迅速に解決する基本的能力を育成する。内容としては、「システムの主要因子抽出」、「因果関係の数学モデル表現」、「コンピュータ上での再現」、「パラメータ可変時の定性的・定量的挙動把握」、「意思決定者の判断材料としてのまとめ」について紹介し、課題を通じて指導する。また具体的な事例を取り上げ、プログラミングを通じて実践力がつくように指導する。

The course introduces concepts of analytic modeling and computer simulation, using projects drawn from multidisciplinary areas of computational engineering science.

履修心得

Java 言語や C++言語でのプログラミングを通じてシミュレーションを行うので、基本的なプログラミング能力を有することが望ましい。

要望

コンピュータシミュレーション技術を理解して課題解決に利用するためには、対象となる現象を記述する数式や因果関係の正しい理解が重要であるため、微分方程式、線形代数等について充分に復習しておくことが望ましい。また、コンピュータシミュレーションでは、オブジェクト指向によって構築されたライブラリを用いることが多いため、円滑な学習のためには、オブジェクト指向プログラミングの一通りの実習経験を有していることが望ましい。

■ オブジェクト指向方法論

小倉　信彦

Object-Oriented Methodology

2年生後期後半

科目概要

オブジェクト指向方法論はソフトウェア開発法の一種であり、構造化分析・設計手法の後に、より進んだ開発法として登場した。オブジェクト指向方法論に属する開発法には様々なものがあるが、本科目では、多くの開発法で用いられる記法である統一モデリング言語 UML について講義する。また、開発プロセスの例を挙げ、分析の課題を提示する。講義や課題をとおしてオブジェクト指向開発法によるドメインや対象システムの表現方法および、分析・設計手法を指導する。

This course teaches the basic principles of the object-oriented paradigm and software developing process based on the paradigm.　The topics covered in this course will include: unified modeling language, iterative process, use case driven development.

履修心得
基本的なプログラミングの能力を身につけていることが望ましい。

要望
情報システムやソフトウェアの開発の基礎となる知識であるので、しっかりと理解して欲しい。

■ アカウンティングシステム
田中　優希

Accounting System

2年生後期

科目概要
本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。
簿記は会計学の基礎であると同時に、企業経営の理解にもつながるため、多くの学生の履修を期待する。
The theme of this lecture is a double-entry bookkeeping.
This lecture is also the basis of accounting. At the same time, learning of bookkeeping also leads to an understanding of corporate behavior.

履修心得
予備知識を必要としない。ただし日ごろから経済系のニュースに気を配ると、講義の理解が早まる。

要望
週に1度の講義だけでは、簿記はなかなか身につきません。各自の復習が重要です。慣れてくると、パズルのようにスラスラと解くことが出来ると思います。初めは大変かもしれませんが、継続して学習してください。

■ ICT アセスメント概論
梅原　英一

Introduction of ICT assessment

2年生前期

科目概要
IT 技術者には、テクノロジ系の技術のみならず、経営戦略やマネジメントの知識も必要である。そこで、本クラスでは、情報処理技術者に必要なストラテジ系、マネジメント系の基本知識を講義する。基本的に IT パスポート試験のシラバスに従って講義する。
IT engineer is required not only knowledge of IT technology but also management and business strategy. In this class, I will lecture elementary knowledge of management and business strategy required for IT engineer,according to the syllabus of IT Passport Examination.

履修心得
特になし

要望
IT 技術者には、マネジメントやストラテジに関する知識も必須です。
なお、テクノロジ系の知識は別の授業で必ず身につけてください。
また、2 年次・3 年次には、この分野に関する専門科目も配置されてます。
より深い内容は、専門科目で履修してください。

■ 電子商取引論
梅原　英一

Electronic Commerce

2年生前期

科目概要
ICT 活用の分野として電子商取引がある。本講義では特に電子商取引のうち消費者向けビジネス（B2C）の基本事項に焦点を当てる。さらに、それらをふまえた上で、仮想の模擬 EC サイトの構築演習を行う。
＜科目概要（英文）＞The members of the class will understand the basics of e-commerce, especially B2C (Business to Customer). In addition, we will exercise a construction of simulated EC shop.

履修心得
情報リテラシー演習における Web サイト構築の知識はあるものとします。
PhotoShop の知識があることが望ましいが必須ではない
高校レベルの簡単な数学の知識（微積分、行列）は少し必要です

要望
前半の基礎理論は経営学の分野です。不慣れな分野と思いますが、チャレンジしてください。

■ 情報セキュリティ

関　良明

Computer Security

2年生前期

科目概要

インターネットやITの普及に伴い、情報セキュリティが重要となっている。授業では、基礎技術として暗号関数、基盤技術として情報暗号、相手認証、電子署名などを講義する。また、応用技術としてファイアウォール、VPN、ICカードなどを講義する。最後に、NISTのFIPSについて言及する。

According to spread of internet and IT,information security becomes very important. A teacher lectures on threat to information,network security,encryption technology, and authentication technology.

履修心得

ネットワークに関する知識を学んでおくこと。

要望

技術の発展にともない、情報通信環境の安全性も変化し続けている。このことを踏まえて、ますます重要となる情報セキュリティの必要性や基礎知識を理解して、実践してほしい。

■ ビジネスモデリング

梅原　英一

Business Modelling

3年生後期

科目概要

企業の業務改善や業務処理システム構築などのために業務処理の手順を単純なモデルとして記述する複数の方法を理解し、自分でも簡単な業務処理の手順を記述できるようにする. また、ビジネスゲームを通じて、販売管理、原価管理などを行うことにより、企業経営の基本的な仕組みを実感する。

Business model is the mechanism for making a profit for an organization. In this course, ICT-related business models are lectured with cases, first. Then, how to describe business processes is explained.

履修心得

特になし

■ システムインテグレーション

関　良明

System Integration

2年生後期前半

科目概要

システム開発において、ソフトウェア開発は重要である。授業では、開発モデル、開発工程、開発手法について講義する。開発規模の見積もり、構造化手法、オブジェクト開発手法については、多くの演習問題を出題する。

In order to integrate information systems, software development is very important. A teacher lectures on　development models, development processes, and the exercises of development skills.

履修心得

情報サービス、情報システム、IT技術者、SEについて、事前に調べておくこと。

要望

将来IT技術者を目指すうえで基礎となる科目。

特に、演習問題を自分で解き、授業中にしっかり理解すること。

■ オペレーションズリサーチ

増井　忠幸

Operations Research

3年生前期

科目概要

ORは、経営事象や社会事象を、数学モデルで表現し定量的に分析することによって、その構造や挙動を解析・把握し、意思決定のための定量的基礎を得るための方法である。この講義では、問題の捉え方及び要因の抽出とその関係付けによる数学的モデル作成方法について、身近な事象を例として取り上げ、モデル構築の方法と解析方法について講述する。また、典型的なORモデルについて解説し、その数学的な意味を理解するとともに、演習等によってその解法を理解し、システム開発能力を養うと共に、意思決定やシステム設計に役立てる素養を身に付けることを狙いとする。

＜科目概要（英文）＞The objectives of this lecture are to understand the typical OR models and methods of analysis, and to acquire the modeling skills appropriate for many kinds of phenomenon such as business management and environmental problems for decision making.

＜キーワード＞モデル、最適化、経営科学、数理計画

履修心得

確率・統計学の基礎知識、数学的基礎（微分積分学、線形代数学）が必要。

統計学基礎、数学基礎、微分積分学、線形代数学、ビジネスモデリング、アルゴリズム論などを履修していることが望ましい。

要望

この講義は、問題を論理的に把握・記述し、考える素養を身に着け、さらに解法をアルゴリズム化する能力を養うことを狙いとしている。考え方や理論・演習内容を講義中に完全に理解するようにして欲しい。欠席すると次回の講義内容がわからなくなることが多いので、欠席しないようにし、やむを得ず欠席した場合には、次回の講義までに内容を理解しておくようにしてください。

■ 組織とマネジメント

梅原　英一

Organization and Management

3年生前期

科目概要

企業の情報システムは組織や経営戦略と表裏一体の関係にある。そこで情報システムや IT の専門家として基本的な経営理論、組織理論の概念を学習する。また、演習として実際の上場企業の分析を行い、経営や組織を理解する。

Organizational management and information systems have the relationship between the two sides of the same coin. Therefore, as a specialist in information systems and IT, we have to learn basic concepts of management theory and organizational theory.

履修心得

特になし。

要望

IT 技術者でも最低限の経営学の知識は必要です。情報処理技術者試験の出題範囲でもあります。

■ 企業と情報管理

梅原　英一

Business and Information Security

3年生前期

科目概要

情報社会における企業活動は、情報システムによって、多種・多様な情報を蓄積し利用することで成立している。この情報システムを管理しているのは、CIO（Chief Information Officer：情報担当役員）である。CIO の重要な役割は、情報システムの適切な管理と投資意思決定である。そこで第一に日本における企業情報システムを概観する。第2に情報システムの管理の基礎となるシステム監査について講義と演習を行う。

Business organizations are utilizing various information using information systems. CIO (Chief Information Officer) manages these information systems.

Important role of the CIO is an appropriate management and investment decision-making of these information systems.

Therefore first, we overview Japanese enterprise information systems.

Second, learn and exercise for system auditing.

履修心得

情報セキュリティの基礎、情報システムの基礎

高校程度の数学の知識は必要です

要望

CIO（情報担当役員）は、どのような役割を担うべきかを学びましょう

■ 産業組織心理学

本多・ハワード　素子

Industrial / Organizational Psycholoigy

3年生前期

科目概要

産業組織心理学の研究知見を基に、組織や仕事に関して、それを取り巻く社会問題と関連づけて紹介する。グループワークや心理尺度によるセルフアセスメントを通して、自身の将来のキャリアについて理解を深めるとともに、主体的に考えてもらう。

Based on the theories and research findings in I-O Psychology, we discuss the various social problems related to current

industrial organizations. The members of a class will also think about their own future career paths using scores from career related scales and group discussion.

履修心得

社会心理学のグループダイナミクスの知見を学ぶことが役立つ。参考図書を紹介するので読んで欲しい。

要望

産業心理学は、応用心理学、社会心理学、集団力学、経営学、組織行動学など多領域に関わる実践的な研究分野である。身近な社会から広い社会まで、社会に関心を持ち、これからの仕事、組織、キャリアについて理解を深めて欲しい。

■ 情報政策論

岸田　伸幸

Information Policy

3年生後期

科目概要

20 世紀に始まった情報通信技術の急速な進歩は、世紀末には情報通信革命と呼ばれた劇的なイノベーションを惹起し、高度情報通信ネットワークが現代社会に不可欠なインフラストラクチャーとして定着した。そうした社会基盤を適切に利活用し、安全・安心・便利な国民生活、熾烈な競争に励む企業活動、人類が抱える地球規模の矛盾解決などを支援するには、国家の情報政策の役割が重大である。

本科目では、総務省の情報通信政策を中心に現代日本の情報政策の現状を教えると共に、情報政策形成の中枢である内閣府 IT 戦略本部について講義する。また、政策科学的アプローチにより日本の情報政策の特性を把握できるよう指導する。更に、海外の政策動向と国際協調活動について講義し、今後の情報政策の方向性について考える機会を与える。

なお本科目は、メディア情報学部カリキュラムポリシー1 項にある、社会科学の視点で情報社会を理解し分析する上で必要な基礎知識を提示するための科目となる。

The rapid development of the information and communication technology which had started in 20th Century provoked drastic innovations that were called the Inofromation and Communication Revolution and made advanced information and communication networks as one of the indispensable infrastructure of the contemporary society. National information and communication policies are important for making use of such a social infrastructure properly so that to support the people's safe, secure, and convenient livings, the businesse under fierce competitions, and the troubleshootings for global human welfare.

In this cource, I will lecture Japan's information policis based mainly on Ministry of Internal Affairs and Communications' along with the IT Strategy Headquarters which is the center of the information polcy making. Moreover, the policy scientific approaches will be tought so as to enable students to understand characteristics of Japan's information policy. Furthermore, I will make lectures about some of foreign information policies and the international cooperations to give students an opportunity to think about future direction of Japan's information and communication policy.

This course is one of the subjects in the Sociology and Media Studies curriculum policy article 1 to present the basic knowledge necessary to understand the information-based society from the view point of social sciense.

履修心得

日本の主権をシェアする国民の一人として国政全般への関心があること。留学生はこの限りでないが、母国の情報政策について基礎知識があることが望ましい。

要望

日常的市民生活から、ビッグビジネス、高度学術研究に至るまで、情報政策の影響は、幅広い範囲の高度で専門的な内容に及びます。内外の情報政策の主要課題を、技術的側面を含めて理解すると同時に、日本の情報政策のダイナミズムを規定するメタポリシー／メガポリシーを踏まえた見識を養いたいと思います。

■ 起業論

岸田　伸幸

Entrepreneurship and business startups

3年生後期

科目概要

本科目では、現代社会を経済活動を通じて変革する起業家について教授する。ケースを交えた講義とビジネスプランニング入門編を行い、起業の知識と理論、実務の概容を理解させる。序盤では、教科書に沿って、ベンチャー企業など起業家活動の実態について講義する。中盤では、ビジネスプランニング入門編として、事業アイデア創出方法を教え、中間レポートを提出させる。終盤では、優秀アイデアに拠るビジネスプランをグループで作成し発表する演習を実施する。期中に起業関係実務家のゲスト講義を予定する。本講義は，社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の「コミュニティデザイン分野」の専門科目となる。

This course focuses on the entreprenouers that change the contemprary world by means of socio-economic activities. You will study entrepreneurial knowledge, theories, and outline of the startup management through the elementary business planning group work, as well as lecures with cases.

Lectures on text books about entreprenourial activities such like small businesses will be given at first. Then, business idea creation methods for the group work will be studied. Students are required to submit one's interim report. On the later half of the

term, exercise groups are organized for the business planning and the presentation based on excellent ideas that students had created. A guest lecture by a startup business person is scheduled by the end of the term. This course is one of the expert subjects of “Commnity Desgin Fields” in the Sociology and Media Studies curriculum policy article 4.

履修心得

第1回授業、起業に関する簡単なアンケートを行うので、起業家やベンチャーに対する現在の知識や関心を簡単に整理しておくこと。

これは採点対象ではなく、特別な予習は不要である。

要望

現代社会のイノベーションの担い手として、起業家の存在は重要です。その典型はベンチャービジネスで見られますが、地域社会でも大企業でも起業活動が必要とされています。将来どんなキャリアを選んでも役立つ、バランスのとれた講座を目指します。また、グループ演習では、自分や友人の、思わぬ起業家的資質が覚醒するかもしれません。積極的に授業に参加する学生を評価します。

■ 事例研究　　各教員

Case Studies Seminar
3 年通年

講義の目的

事例研究では、配属された学生が、主として研究テーマを発見することをねらいとして、文献調査、現場調査、実験等を個人またはグループで行う。こうしたアカデミック・トレーニングを通して、研究分野の知見を体得し、卒業研究の基礎を学ぶ。また、本事例研究においては、企業におけるインターンシップ、共同研究、受託研究、公開発表、イベント参加なども積極的に含め、その多様化を図ることにしている。本事例研究と卒業研究をセットにして配置し、必修とする。

This compulsory seminar will offer the basic academic training to the junior students, so that they will be able to learn more about the adviser's disciplines, and try to find their own study themes. Also the students must read related academic books in foreign languages under the guidance of the teacher.

■ 卒業研究　　各教員

Senior Seminar
4 年通年

講義の目的

事例研究で学んだ基礎の上に立ち、卒業論文の課題設定、中間発表を経て、最終的に卒業論文を完成させる。そこに至るまでに、ゼミ方式および個別指導を併用することにより、実効のある指導を行う。また、本学部の性質上、研究成果は論文形式にとどまらず、コンピュータ・ソフトやビデオなどの電子加工物、模型なども認める。ただし、そのような場合であっても、研究テーマや意図、製作過程を記述した報告書ないし卒業研究概要の提出を求める。

This compulsory seminar to be held in the senior year will provide the students with the opportunity to write a graduation thesis under the auspice of the adviser. Without the completion of this thesis the students are not eligible to receive the BA degree.

＜注意事項＞
以下に記載した教員毎の概要は、平成 28 年度の実施に基づくものです。平成 30 年度「事例研究」配属の際は、定年退職教員や新規着任教員等により担当教員が変更となる場合があります。

●岩野　公司

○事例研究

音声・音楽・環境音・映像などの「音」を中心としたマルチメディア情報を対象として、それらを人間のように処理・認識・理解する情報システムに関する研究を行う。関連する研究事例の調査、基礎的な知識・スキルの習得を行うことで、卒業研究のための基礎を養う。

○卒業研究

事例研究で得た知識・スキルを基に、「音」を中心としたマルチメディア情報を対象とした知的情報システムの提案や設計、構築などに関する研究を行う。研究対象には、システムが人や社会に与える影響の調査・評価も含まれる。研究成果を分かりやすく公表するための作文能力やプレゼンテーション能力についても向上を目指す。

●梅原　英一

○事例研究

経営情報・経営情報システムに関して研究する
【前期】経営情報システムを研究するための基本的な知識を習得する
（1）経営に関して：基本的な経営学の専門書を輪講する
（2）情報システム／経営情報に関して（グループワークでのプロジェクト）
　（2－1）システム構築：各自関心のあるテーマでシステムを構築する。
　（2－2）データサイエンティスト：各自関心のあるテーマでデータ解析を行う。
　（2－3）経営情報：各自関心のあるテーマでビジネスモデル・ビジネスゲーム、意思決定モデル、情報セキュリティなどを調査する。
（3）なお、情報処理技術者試験の取得（受験）を推奨する。希望者にはサポートを行う。
【後期】グループワークとして成果をまとめる
前期の情報システム／データ／経営情報に関する課題を発展させる。
①関連論文の輪講・発表（プレゼン）
②課題の成果を論文形式でまとめ、発表（プレゼン）する。

○卒業研究

経営情報・経営情報システムに関して研究する。
企業や行政により IT の活用事例研究、システム構築による実験・シミュレーション、数理モデルやシミュレーションによるモデル化や実際のデータによる分析を行う。

テーマは学生が関心のあるテーマを自分で選択する。
複数人で一つのテーマに取り組むことも認める。
結果は卒業論文としてまとめ提出する。

●大谷　紀子

○事例研究

Web システムを構築するためのプログラミングを習得し、学内サービスシステムの構築を通してシステムエンジニアの下流工程を体験することで、システムエンジニアに求められる素養を身につける。また、コンピュータによる知的処理の研究に必要な知識や技術を習得したり、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などを身につけたりすることで、卒業研究の基盤を作る。

The purpose of this course is to make the base for the senior seminar. You will develop computer programming skills, system designing techniques and presentation skills.

○卒業研究

推論や学習など、人間が知能を使って行なう活動と同様の処理をコンピュータで実行したり、人間には到底不可能と思われる膨大な情報処理をコンピュータで効率よく実行したりすることで、さまざまな問題を解決する手法を探求する。特に，生物の進化過程を模倣した遺伝的アルゴリズムと呼ばれる手法などを中心に研究する。対象問題の特徴に合わせた処理方法を考案し、実用性も考慮しながらシステムを構築して、提案手法の有用性を検証する。

Your idea about the intelligent computer systems for solving some problems should be achieved through this course.

●諏訪　敬祐

○事例研究

情報通信、インターネットの技術・原理を国内外の文献などから理解し、社会において情報通信技術がどのように適用され、利用されているかを調査・検証し、技術的課題を明らかにする。さらに、個人、社会にとってふさわしいコミュニケーションの形態について検討し、文献調査やシステム構築により考察する。本事例研究と卒業研究は一体であるため、必修科目である。

○卒業研究

情報通信技術の仕組みを理解し、ユーザの視点からの情報通信システムを提案し、構築する。研究の過程で課題を解決するための技術的な提案が行える積極性を修得する。

●関　良明

○事例研究

SNS やスマートフォンの急速な普及を背景として、新たなコラボレーションやネットワークサービスが次々に登場し、情報セキュリティの問題も顕在化している。私たちの社会・地域、日常生活、ビジネス、教育・学習など様々な社会活動の場面を、より安心・安全にする知見や技術、ネットワークサービスの開発を一層推進していくことが求められている。2016 年の事例研究は、利用者自身が各種のセキュリティ脅威を認識して、適切な対応ができるように、各種セキュリティ脅威を考慮したシステムデザインを探求する。

○卒業研究

コンピュータネットワークのグローバルな普及、情報メディアの多様な発展、ネットワークサービスの拡大とそれにともなう各種脅威の顕在化など、情報通信環境は変化し続けている。このような変革期において、社会活動を効率的に推進するための情報共有サービスと、情報資産を守るための情報セキュリティは表裏一体の関係にある。2016 年の卒業研究は、利用者自身が各種セキュリティ脅威を認識できる情報共有システムの提案と評価に取り組む。

●藤井　哲郎

○事例研究

高品質な映像メディアの代表であるデジタルシネマからデジタル HDTV、モバイルメディアまでの多岐にわたるデジタル映像メディアを対象に、これらをネットワークで流通させる技術とそれを支えるデジタルメディア処理技術に関する調査・分析・実験・考察を行う。インターネット、ホームネットワーク、モバイル等の実際のネットワーク上での具体的検証を積み重ね、新しいアーキテクチャ、プロトコル、ビジネスモデルを探る。このような学習を通して、卒業研究を進めるために必要な基礎的な能力を身につける。

○卒業研究

メディア・ネットワーキングとそれを支えるメディア処理技術の研究を進める。デジタルシネマに代表される高品質映像から、デジタル HDTV、モバイルメディアまでの幅広いデジタル映像メディアを対象とし、これらをネットワークで流通させる技術とそれを支えるデジタルメディア処理技術に関する研究を進める。さらに、これらの技術に基づく新しいビジネスモデルの開拓もめざす。

●宮地　英生

○事例研究

コンピュータグラフィックスおよび可視化に関する知識、プログラミング能力、システム設計技術、プレゼンテーション技術を身につけ、卒業研究の基盤を作る。

The purpose of this course is to make the base for the senior seminar. You will develop computer programming skills, system designing techniques and presentation skills about computer graphics and visualization.

●八木　伸行

○事例研究

楽しく使いやすく役立つメディア技術と，人と情報環境が調和したメディアインタフェース技術を研究する．週１回のゼミを中心に，調査，分析，実験，発表，討論を通して，知能メディアに関する専門知識ならびに専門技術を習得する．主なテーマは，以下の通り．

(1)映像コンテンツの制作・管理・活用技術
・画像認識，音声認識，自然言語処理によるメタデータ抽出
・映像コンテンツの意味解析と構造化
・映像コンテンツの再構成，知識資源化
・メタデータ付与ツール
・簡易コンテンツ生成
・映像特殊効果システム

(2)映像メディアのインタフェース技術
・ユーザの嗜好，興味度推定
・コンテンツ推薦
・マルチモーダル検索インタフェース
・ユーザニーズに合わせたコンテンツ提示
・多様な端末に向けたコンテンツ提示

○卒業研究

楽しく使いやすく役立つメディア技術と，人と情報環境が調和したメディアインタフェース技術を研究する．知能メディアに関する専門知識ならびに専門技術を深め，独自のアイデアを具現化する．主なテーマは，以下の通り．

(1)映像コンテンツの制作・管理・活用技術
・画像認識，音声認識，自然言語処理によるメタデータ抽出
・映像コンテンツの意味解析と構造化
・映像コンテンツの再構成，知識資源化
・メタデータ付与ツール
・簡易コンテンツ生成
・映像特殊効果システム

(2)映像メディアのインタフェース技術
・ユーザの嗜好，興味度推定
・コンテンツ推薦
・マルチモーダル検索インタフェース
・ユーザニーズに合わせたコンテンツ提示
・多様な端末に向けたコンテンツ提示

●横井　利彰

○事例研究

目標：　「最新の情報技術を学び、実践的な問題解決力を養う」
Java 言語や C 言語に関して、基盤となる力や強い興味を持っていることが望ましい。

学修項目(予定)
(1) Java 言語の実践力育成実習　(5 月～7 月)
(2) 最新情報通信技術の動向に関連する輪講　(6 月～7 月)
(3) Java3D、Oculus 等に関する学習・作品制作
(4) Android アプリ開発の実践と作品制作　（８月～翌年２月）
(5)　卒業研究のための最新技術の実践的学習とプレゼンテーション　(10 月～3 月)
（ア）防災・減災「リアル班」
1）Android アプリによる避難者誘導の拡充、Google Glass による救助隊員支援の拡充
2）防災本部機能の拡充（避難者支援、リアルタイム状況表示）
（イ）防災・減災「バーチャル班」
1）避難シミュレータの発展
1. Java3D モデルの拡充（立体音、ジェスチャーインタフェース）

2. Oculus Lift 用モデルの構築（複数参加、物理シミュレーション考慮など）
2）物理シミュレーションの発展
1. 崩壊・崩落シミュレーション（Bullet/JBullet）、炎・消火シミュレーション（粒子法等）
（ウ）サーバ／クラウド／Hadoop
1）教育支援（授業支援連携）、ビッグデータ処理
（エ）記録メディア（Blu-ray、DVD、USB メモリー、HDD 他）の寿命と適正活用
（オ）電子ペーパー端末の実践的活用事例研究

年間活動：
・ 毎週のゼミ（講義／輪講形式での議論と実習）
・ 必要に応じてプチゼミ（特定テーマの短期集中学習）を実施
・TCU 横浜祭、オープンキャンパスでの研究展示
・ 夏合宿（8 月）、中間作品発表会(９月・12 月）、最終作品発表会(2 月)の実施
・ 後期から卒業研究グループゼミに参加し専門研究の理解を深める

○卒業研究

目標：「独自の研究を通じて、実践的な問題解決能力を身につける」
※ Java 言語や C++ 言語等に関する応用力を有するか、強い学習意欲があることが望ましい。

主な研究テーマ：
(1) 防災・減災「リアル班」
Android アプリによる避難者誘導（位置・移動・避難者情報の把握・送受）
Google Glass による救助隊員支援（現場情報・生命情報取得、本部連携）
防災本部機能の拡充（避難者支援、リアルタイム状況表示、他）
(2) 防災・減災「バーチャル班」
避難シミュレータの発展
①Java3D モデルの拡充（立体音、ジェスチャーインタフェース、他）
②Oculus Lift 用モデルの構築（複数参加、物理シミュレーション考慮など）
物理シミュレーションの発展
①崩壊・崩落シミュレーション（Bullet／JBullet）
②火炎・放水・消火シミュレーション（粒子法など）
(3) サーバ／クラウド／Hadoop
教育支援（授業支援連携）、ビッグデータ処理
(4) 記録メディア（Blu-ray、DVD、USB メモリー、HDD 他）の寿命と適正活用
（記録・再生のエラー処理技術、寿命評価、高信頼性記録システム開発、他）
(5) Web サービス構築
（クラウド、スマートフォンと連携した情報サービスの構築、他）
(6) 電子ペーパー端末・タブレット等の実践的活用
（教育現場・学内業務での実践的活用研究、他）
(7) その他

年間活動：
毎週：全体ゼミ、プロジェクト報告会、テーマ別ゼミ
TCU 横浜祭、オープンキャンパスでの研究展示
夏合宿：　第 1 回中間発表会
第 2 回中間発表会（12 月）、最終発表会（2 月）

●小倉　信彦

○事例研究

射影法や勾配法等の基礎的な最適化手法を学び、また計算機実験や文献輪読を行い、卒業研究のための基礎知識を身につける。

○卒業研究

事例研究の経験を踏まえ、音声・画像処理や通信等各自テーマを設定し、多様な環境下で使われる信号処理システムの、アルゴリズム・理論上の問題や実装上の課題を解決することを目指す。

資　格

教育職員免許状

社会調査士

教職課程

１．教職課程を履修するにあたって

世田谷及び横浜キャンパスでは，主に理数系を中心とした専門教育・研究によって，科学技術者の養成を行うとともに，高度に発展した技術のもとでの持続可能な社会の実現に向け様々な観点から教育・研究を進めている。その中にあって，教職課程の果たす役割は，どういうところにあるのだろうか。

これまで日本は，科学技術に関しては技術立国といわれるほどに世界の先端を進んできた。学校教育は，その時々の時代の要請に応えながら，理数教育・科学技術教育を通して必要な人材を育成し，この社会を支えてきた。近年，「知識基盤社会」への転換が叫ばれ，社会構造の急激な変化を余儀なくさせられている。少子高齢化，グローバル化，情報社会化が進む中，知識集約型の生産性の高い産業構造への転換が進められている。これに対し市民は，これら科学技術の成果を批判的に取り入れながら，十分に使いこなすことが求められてきている。そのためには，科学技術を正しく理解するとともに科学技術と人間社会の関わりに深い関心を持ち，これを生活のレベルに積極的に活用し，あるいはまた社会問題・環境問題や持続可能な世界を視野に入れながら豊かな生活を築くことが必要になる。他方で，子どもたちの理数離れが進行し，理数教科の選択回避や理数系大学の進学者の減少がもたらされ，今後さらに求められる科学技術とこれを基盤とした社会の維持・発展が危ぶまれている。

こうした現状を救うには，真の理数教育が必要なのである。それができるのは，理数教科の教員たちであり，特に学問としての数学，自然科学，技術学，情報学の楽しさを実感として味わってきている教員たちである。

現在皆さんは，自分で選択した学科に所属し，これから専門的知識・技能を身につけ，関連する分野で活躍しようとしている。それら専門の内容・知識・技能は，将来の自分を支え，あるいは社会を支える大きな柱になる。機械系，電気系，エネルギー系，建築・都市系，情報系，自然科学系で学ぶ専門的知識は，学校教育で扱う理数教科の基礎的知識の上に積み上げられ，またこれらの知識を発展・活用したものである。こういった背景をもった皆さんが，本学教職課程で学び，将来教職に就けば，他大学の教員養成学部を卒業した教員とは異なり，教科に関する知識・技能に比べものにならないくらいの広さ，深さを持つことになる。

子どもたちを理数教科に引き戻すには，彼らに興味を抱かせることが第一歩となる。そしてその一歩を足がかりに，豊かな学力を保障し，科学技術の本質的な理解をもたらし，同時に環境問題，持続可能な社会を築くためにはどうすればよいかを，子どもたちとともに探究できるのは，十分な専門的知識と豊かな教養を身につけた本学で育つ教員こそであると確信する。

なお，教員免許取得を志す者には，教育職員免許法に基づいて，必要な科目の単位を修得することが求められる。以下，その詳細について説明する。

２．免許状について

学校教育法（昭和２２年法律第２６号）でいう「学校」（小学校・中学校・高等学校・幼稚園等）の教員となるためには，「教育職員免許法」（以下「免許法」という）に定める，各相当学校の教員の相当免許状を有していなければならない。

教員免許状は免許法所定の科目の単位を修得した後，所定の手続により所轄庁に申請し，授与される。

本学では，教職課程を開設し，中学・高等学校の普通免許状の取得に必要な科目を開講している。免許状の取得は，本学卒業要件とは別の基準による。つまり，当該学科を卒業するために必要な科目の単位を修得し，あわせて教職課程で定められた科目の単位を修得することが必要である。

３．本学メディア情報学部で取得できる免許状の種類

本学メディア情報学部の教職課程では，次の普通免許状を取得することができる。

学部	学　　科	免許状の種類　　（教科）
メディア情報学部	社会メディア学科	高等学校教諭一種免許状　（情報）
	情報システム学科	高等学校教諭一種免許状　（情報）

４．履修資格等

(1) 履修学生

教職課程を履修することができる者は，東京都市大学学則第４条に定める学生で，教職課程の承認を受けた者とする。

(2) 授業・単位

単位は，講義・実技・実験により，定められた授業への出席および必要な自学・自習をした者で，試験等に合格した者に与える。

(3) 履修上の注意

教職課程を履修する者が，教師となる資質・能力に欠けるところがあると認められた場合，又は履修に際して，望ましくない行為があった場合，その履修を中止させ，再履修は認めない。

(4) 教職課程に関する事務手続き

教職課程に関する事務は，教育支援センターにおいて行う。

５．履修手続

(1) ガイダンス

教職課程関係ガイダンスは，毎年４月に行う。(※後期からの希望者は，教育支援センターまで相談に来ること。)

(2) 教職課程履修登録

①教職課程登録

教職課程登録は教職課程登録料が必要となる。本学１号館１階証明書発行機にて申請書（教職登録料）を購入し，申請書を教育支援センターへ提出することで登録が完了となる。登録期間は前後期に時間割表で指示する。

②申請書の提出により，人数の面で差し支えない限り，当該年次より教職課程の履修を許可する。

教職課程履修希望者が学力不足，及び教職適性を欠くときは，原則として履修を許可しない。

③履修申告

履修許可を得た者は，学期始めに，その学年で履修する科目を履修登録する。

(3) 教職課程登録料及び教育実習費

教職課程登録料及び教育実習費は，必要に応じて下記の額を納入する。(平成２８年４月現在)

教職課程登録料	１０，０００円（１～４学年のうち登録時のみ納入）
教育実習費（教育実習(2)）	約１０，０００円（４学年の教育実習時のみ納入）

一旦納入した教職課程登録料及び教育実習費は，理由の如何にかかわらず返還しない。

なお，教職課程登録料及び教育実習費は，経済情勢の変動等により，今後改訂することがある。

６．免許状の種類と資格

高等学校の教諭の一種免許状を授与されるために必要な資格は，免許状・免許教科の種類により，次の表の通りである。なお，この詳細は後述を参照すること。

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">免許状の種類
科目区分</td><td colspan="2">一種免許状</td></tr>
<tr><td colspan="2">高等学校教諭</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報</td></tr>
<tr><td colspan="3">基　礎　資　格</td><td colspan="2">学士の学位を有すること</td></tr>
<tr><td rowspan="8">最低修得単位数</td><td rowspan="4">教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目</td><td>日本国憲法</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td>体育</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td>外国語コミュニケーション</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td>情報機器の操作</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">教職に関する科目</td><td>２３単位</td><td rowspan="3">（小計）
５９単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科に関する科目</td><td>２０単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科又は教職に関する科目</td><td>１６単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">最低修得単位数の合計</td><td colspan="2">６７単位</td></tr>
</table>

７．教員免許状取得までのスケジュール（一例）

スケジュールは変更になることがあるので，ポータルサイト及び掲示板を確認すること。

スタート	時期・手続き等		《各学年のチェックポイント》
１年生	４月	入学式 教職課程ガイダンス 教職課程登録 履修登録	▷卒業までに必要な教員免許状取得に向けた手続きの流れを把握しましょう。 ▷スタートダッシュが肝心です。
	１０月	履修登録	▷免許状取得に必要な科目をなるべく多く履修しておきましょう
２年生	４月	履修登録	▷1年生に引き続き，免許状取得に必要な科目を履修しましょう。
	１０月	履修登録	▷１１月頃に教育実習(2)ガイダンスに参加し，教育実習に向けた準備・関連手続きがスタートします。 ▷ガイダンスに欠席すると次々年度の教育実習を実施出来ませんので注意が必要です。
	１１月頃	教育実習(2)ガイダンス および申込（事前登録）	
３年生	４月	履修登録	▷３～６月に教育実習(2)に向けた事前準備・関連手続きがスタートします。
	３～６月	教育実習(2)内諾活動	
	１０月	履修登録	▷ガイダンスに欠席すると次年度の教育実習を実施出来ませんので注意が必要です。
	１１月頃	教育実習(2) 第２回ガイダンス	
４年生	４月	履修登録 教育実習(2)事前準備	▷随時教育実習(2)がスタートします。自己都合の遅刻・欠席は厳禁です。自覚を持って実習に参加してください。
	５～７月	教育実習(2)	▷今までの集大成となる年です。免許状取得に必要な単位を再度確認し，全て修得してください。
	６～７月	【希望者向け】 第１回教員免許状 一括申請ガイダンス	▷教員免許状取得希望する方は，必ず６月下旬に行われる第１回教員免許状一括申請ガイダンスに出席してください。
	１０月	履修登録	
	１１月下	【希望者向け】 第２回教員免許状 一括申請ガイダンス	▷１１月下旬の第２回教員免許状一括申請ガイダンスでは諸手続を行います。欠席すると申請が出来なくなることもありますので注意が必要です。
	３月	学位授与式	特に注意が必要な手続き
ゴール	**教員免許状取得**		

教職課程 履修総括表

	高等学校教諭 情報

教職に関する科目

授業科目の詳細は **表１** 参照

科目区分	最低修得単位数	
①教職の意義等に関する科目 ○ 教職の意義及び教員の役割 ○ 教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ○ 進路選択に資する各種の機会の提供等	2	合計 **２３**
②教育の基礎理論に関する科目 ②－１ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ②－２ 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ②－３ 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	6	
③教育課程及び指導法に関する科目 ③－１ 教育課程の意義及び編成の方法 ③－２ 各教科の指導法 ③－４ 特別活動の指導法 ③－５ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	6	
④生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ④－１ 生徒指導の理論及び方法 〃 進路指導の理論及び方法 ④－２ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	
⑤教育実習	3	
⑥教職実践演習	2	

教科に関する科目

授業科目の詳細は **表２** 参照

科目区分	最低修得単位数	
情１ 情報社会及び情報倫理	1	合計 **２０**
情２ コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)	1	
情３ 情報システム(実習を含む。)	1	
情４ 情報通信ネットワーク(実習を含む。)	1	
情５ マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)	1	
情６ 情報と職業	1	

教科又は教職に関する科目

授業科目の詳細は **表３** 参照

科目分野		最低修得単位数
教科に関する科目	上記の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の各区分の必要最少単位数を超えて修得する科目	合計 **１６**
教職に関する科目		
教職に関する科目に準ずる科目		

共通科目

授業科目の詳細は **表４** 参照

科目群	最低修得単位数	
日本国憲法	2	合計 **8**
体育	2	
外国語コミュニケーション	2	
情報機器の操作	2	

総合計	**６７単位**

［表１］教職に関する科目

学則第２０条別表 2-1①　工学部・知識工学部・メディア情報学部　教職に関する科目（各学科共通）　教育課程表よりメディア情報学部に該当する部分を抜粋

各教科免許について定められた，科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

科目区分		授業科目	単位数		週時間数								必選の別	最低修得単位数
					１年		２年		３年		４年			高等学校教諭
					前	後	前	後	前	後	前	後		情報
①		教職論	2	☆		2							必　修	**２単位**
②	②－１	教育原論	2	☆	2								必　修	②-１～３から各々１科目以上 **６単位**
	②－２	発達心理学	2	☆	2	(2)							必　修	
		教育心理学　＊	2	☆	2								選　択	
		発達と教育　＊	2	☆		2								
	②－３	教育制度論	2	☆				2					１科目必修	
		教育社会学	2	☆					2					
③	③－１	教育課程論	2					2					必　修	③-1, 2, 4, 5 から各々１科目以上 **６単位**
	③－２	情報教育法(1)	2						2				１科目必修	
		情報教育法(2)	2							2				
	③－４	特別活動の理論と方法	2			2							必　修	
	③－５	教育の方法と技術(1)	2	☆			2						１科目必修	
		教育の方法と技術(2)	2	☆				2						
④	④－１	生徒指導・進路指導の理論と方法	2		2								必　修	④-1, 2 から各々１科目以上 **４単位**
	④－２	教育相談とカウンセリング(1)	2	☆	2								１科目必修	
		教育相談とカウンセリング(2)＊	2	☆		2								
⑤		教育実習(2)	3								3		必　修	**３単位**
⑥		教職実践演習（中・高）	2									2	必　修	**２単位**
☆　卒業要件の自由選択の単位数に算入される。													**合計**	**２３単位**

＊　平成２８年度は世田谷キャンパスのみ開講

［表２］教科に関する科目

表２　高等学校教諭　情報

各教科免許について定められた，科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

学科／科目区分	社会メディア学科 授業科目	単位数	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	必選の別	最低修得単位数
情報社会及び情報倫理	情報と社会	2	2								必　修	1単位
	情報と法	2			2						1科目選択必修	
	メディアと知的財産権	2						2				
	情報の倫理	2					2				選　択	
	情報政策論	2						2			選　択	
	参加型デザイン論	2				2					選　択	
コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	基礎プログラミング演習	2	2								必　修	1単位
	コンピュータシステム	2		2							必　修	
	ウェブデザイン演習	2			2						選　択	
情報システム（実習を含む。）	サーバシステム構築	2					2				必　修	1単位
	データベース	2				2					選　択	
	サーバ管理演習	2					2				選　択	
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	情報通信技術入門	2	2								必　修	1単位
	ＬＡＮ環境演習	2				2					必　修	
	情報セキュリティ	2			2						選　択	
	モバイルシステム　＊	2				2					選　択	
	コンピュータネットワーク　＊	2		2							選　択	
	ディジタル通信　＊	2			2						選　択	
	ディジタル信号処理　＊	2				2					選　択	
マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	情報編集入門	2		2							必　修	1単位
	コンピュータグラフィックス	2		2							必　修	
	インフォグラフィックスデザイン演習	2			2						選　択	
	視覚情報表現論	2				2					選　択	
	インターフェースデザイン演習	2				2					選　択	
	インタラクティブシステムデザイン	2					2				選　択	
情報と職業	情報と職業	2			2						必　修	1単位

＊は、情報システム学科開設科目

学科／科目区分	情報システム学科 授業科目	単位数	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	必選の別	最低修得単位数
情報社会及び情報倫理	情報と社会	2	2								必　修	1単位
	情報と法	2			2						1科目選択必修	
	メディアと知的財産権	2						2				
	情報の倫理	2					2				選　択	
	情報政策論	2						2			選　択	
	参加型デザイン論　＊	2				2					選　択	
コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	情報基礎学	2	2								必　修	1単位
	コンピュータシステム	2		2							必　修	
	プログラミング基礎１	2	2								選　択	
	プログラミング基礎２	2		2							選　択	
	アルゴリズム論	2		2							選　択	
	データマイニング	2			2						選　択	
	情報理論	2			2						選　択	
	プログラミング演習１Ａ	2			2						選　択	
	プログラミング演習１Ｂ	2			2						選　択	
情報システム（実習を含む。）	サーバシステム構築	2					2				必　修	1単位
	サーバ管理演習	2					2				必　修	
	データベース	2				2					選　択	
	プログラミング演習３	2					2				選　択	
	オペレーティングシステム	2				2					選　択	
	システムインテグレーション	2				2					選　択	
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	ＬＡＮ環境演習	2				2					必　修	1単位
	情報通信技術入門	2	2								選　択	
	モバイルシステム	2				2					選　択	
	コンピュータネットワーク	2		2							選　択	
	ディジタル通信	2			2						選　択	
	ディジタル信号処理	2				2					選　択	
	情報セキュリティ	2			2						選　択	
マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	情報編集入門	2		2							必　修	1単位
	コンピュータグラフィックス	2		2							必　修	
	視覚情報表現論	2				2					選　択	
	インタラクティブシステムデザイン	2					2				選　択	
	マルチメディア情報処理	2					2				選　択	
	マルチメディア記述法	2						2			選　択	
	可視化技法	2						2			選　択	
	コンピュータシュミレーション	2						2			選　択	
情報と職業	情報と職業	2			2						必　修	1単位

＊は、社会メディア学科開設科目

［表３］教科又は教職に関する科目／［表４］教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目

表３　教科又は教職に関する科目

各教科免許について定められた，科目分野ごとの必要単位数を修得すること。

科目分野	授業科目	単位数	週時間数								必選の別	最低修得単位数 高等学校教諭 情報
			１年		２年		３年		４年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
教科に関する科目	表２の「教科に関する科目」の最低修得単位数を超えて履修する科目											計１６単位
教職に関する科目	表１の「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて履修する科目											
教職に関する科目に準ずる科目	道徳教育の理論と方法　＊	2		2							選　択	

科目担当教員を変更することもある。

＊は、平成２８年度は世田谷キャンパスのみ開講

表４　教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目

各教科免許について定められた，科目群ごとの必要単位数を修得すること。

科目群	授業科目	単位数	週時間数								必選の別	最低修得単位数 高等学校教諭 情報
			１年		２年		３年		４年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
日本国憲法	法と市民（憲法を含む）	2		2							必　修	各科目群から各々２単位以上 計８単位
体育	基礎体育(1)	1	2								１科目必　修	
	基礎体育(2)	1		2								
	応用体育(1)	1			2							
	応用体育(2)	1				*2						
	スポーツ・健康論	2	2								必　修	
外国語コミュニケーション	Communication Skills(1)	1	2								必　修	
	Communication Skills(2)	1		2								
情報機器の操作	情報リテラシー演習	2	2								必　修	

*応用体育(2)　集中講義

教育実習・教職実践演習

教育実習

(1) 教育実習とは

教育実習とは大学の学科科目や教職課程で学んできた知識や技能を検証する機会であり，理論と実践の統合の場である。また，実習生として学校教育の全体を総合的に認識し体験できる機会である。最低限度の実践的指導能力を培う場であると同時に，その能力について自らの適性を見極める自己評価の場でもある。

教育実習は，各教育委員会や実習校などのご理解とご協力の下で実施できるものである。学校現場は日常の学校運営（授業や学校行事など）で多忙であるが、後進を育てるために，負担を承知の上で実習生を受入れている。したがって，実習校との打合せを事前に行い，当該校の方針や見解を求め，迷惑をかけたりすることなく，単に学生として学ぶのではなく，教員に準ずる立場で教員としての視点に立って真摯な態度で日々の実習に臨まねばならない。

なお、事前・事後の手続きについては，情報を収集・確認し，スケジュールの管理を各自で確実に行うこと。また，実習校を訪問する際には，スーツを着用し，身だしなみ（髪型・髪色），言動等への細かな気遣いが必要である。勤務態度・服装・礼儀・マナーなど実習生として相応しい姿勢で臨むこと。

(2) 実習実施前提条件

① 教育実習該当前年度ガイダンス（**「教育実習(2)」は前々年度にも実施**）に出席すること。

② 教育実習事前登録を期限内に完了していること。

(3) 実習期間・時期

取得希望免許状	最低実習期間	実習時期
高等学校免許状	２週間	実習校が指定した時期

(4) 保険加入

教育実習を行うにあたり傷害保険と賠償責任保険への加入が義務付けられている。傷害保険は，入学時「学生教育研究災害保険」に加入済みだが，教職課程活動での保険「学研災付帯賠償責任保険」に加入しなければならない。加入に際しては，教育支援センターにて手続きを行うこと。

教育実習(2)

「教育実習(2)」は，４年次の５月から７月にかけて主として母校（中学校または高等学校）で２週間～３週間実習を行う。現場における実習に加え，事前事後指導から成り，いずれも受講しなければならない。

教育実習関連手続き

教育実習に関する連絡事項は学内掲示板またはポータルサイトで伝える。
手続きを怠ると教育実習が行えなくなることがあるので注意すること。

【「教育実習(2)」実施前年度及び前々年度】

①ガイダンス実施前々年度 → 教育実習事前登録 → 実習校依頼交渉 → 実習校受入内諾手続き → ②ガイダンス実施前年度

【「教育実習(2)」実施年度】

受講科目履修 → 事前手続き → 実習校事前訪問 → 教育実習 → 教育実習日誌提出 → 事後指導 → 単位認定

(1) 実習実施前提条件

① 教育実習該当**前々年度ガイダンス**に出席し，事前登録を期間内に完了していること。
② 下記の科目を３年修了時までに履修していること。
・「教職論」
・「生徒指導・進路指導の理論と方法」
・各教科指導法（１科目以上）

(2) 教育実習ガイダンス（２回開催）

① 教育実習を履修する者は,履修前々年度に行われる「教育実習(2)」第１回ガイダンスに必ず出席し，履修許可を受けること。なお，欠席した場合は,「教育実習(2)」実施年度に教育実習を受講できないことがあるので注意すること。
② 教育実習は原則として母校実習となるが，必要な諸手続等の説明を行う。
③ 教育実習の前年度に第２回ガイダンスを行い，実施に向けての最終意志確認を行う。

(3) 母校実習

注意事項：
① 実習前年度６月末日までに，当該学校長の受入れ内諾をとる。
② 内諾を得た後,その結果を直ちに教職課程担当教員および教育支援センターへ連絡し,「教育実習内諾依頼連絡票」を提出すること。
③ 教育実習（５～７月）の時期設定は実習校の決定に従い，全期間を通じて毎日連続して実習を行う。
④ 教育実習の実習校への正式依頼は本学が行う。
⑤ **教育実習校の決定後は本人の都合によって，実習校の変更はできない。**

(4) 教育実習セミナー（教育実習事前指導）

教育実習セミナーは,「教育実習(2)」の一環として，１泊２日の合宿方式で行う。ここでは，教育実習を行う者としての心構え，生徒に対する指導の方法等，教育実習の事前準備の最終確認を行う。なお，この日時・内容の詳細については別途連絡する。別途費用（約１０，０００円）がかかる。

(5) 教育実習実施

① 実習校への挨拶・手続き

母校実習に行く前に実習校宛の受入れ依頼など，実習に関する必要書類を配布するので，実習校との事前打合せまたは当日に必ず持参し，ご挨拶すること。

本学系列校へ実習に行く者は，別途指示する。

② 実習中のトラブル・事故・病気等

実習中の重大な作業トラブルや病気･怪我等実習先で問題が生じた場合は，必ず実習担当教員に相談するとともに，教職課程担当教員及び教育支援センターに連絡すること。

③ 教育実習終了

教育実習終了後，お世話になった先生方へ礼状を出し，感謝の気持ちを示すこと。

教員採用が決定した場合もご報告すること。

【教育実習一般に関する注意事項】

① 教育実習を履修する者は，教職課程専任教員の指導を受けること。
② 教育実習期間中は皆勤すること。ただし，やむを得ない事由による欠席は，あらかじめ本学教職課程専任教員に連絡し，その指示を受けること。
③ 教育実習を履修する者は実習校の校則を守り，教育方針を理解し，かつ校長・教職員の指示に従うこと。
④ 教育実習を履修する者は教育実習生としての本分を忘れず，態度・服装・言動等に適切な配慮を払うこと。
⑤ 教育実習の履修に際して，本冊子に違反し，又は教育実習生として望ましくない行為があったときは，ただちに履修を停止することがある。
⑥ 教育実習日誌・礼状・資料等は実習終了後に，ただちに実習校の校長に提出すること。
⑦ 教育実習に関する事務は教育支援センターにおいて行う。なお，教育実習手続等の詳細については，掲示およびポータルサイト等によって指示する。

教職実践演習

(1) 教職実践演習とは

免許法施行規則の改正により，２０１０年度以降入学生より「教職実践演習」を履修しなければならない。

「教職実践演習」とは４年生の後期に開講される科目で，教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめとして位置づけられた科目である。この科目では，特に教員としての資質が問われる内容となっている。また「教職履修カルテ」の作成が必要となる。

(2)「教職履修カルテ」の作成について

教員免許を取得しようとする学生は，教職課程の科目履修を始めてから「教職実践演習」（４年後期）の授業を受けるまでの間，各自「教職履修カルテ」を作成しなければならない。「教職履修カルテ」とは，自分が教職課程の授業の中で何を学んだかを振り返るとともに，今後どのような学習が必要なのかを自分で考えるための手がかりを得るためのものである。

「教職実践演習」の履修には，「教職履修カルテ」の作成が必須である。それまでに準備が整わない場合，授業を履修することができない。具体的な書類の作成方法については，ガイダンス等での指示に従うこと。

履修上の注意事項

●教職課程の履修手続については，まず履修登録（申請書の提出，**有料**）を，次いで履修申請を行う。

●教職課程を履修するに際しては，教育課程表に従って，１年次より周到な履修計画を立てる必要がある。教職課程への履修登録は，１年次から４年次まで，どの学年でも可能である。しかし原則としては教職課程カリキュラム及び各学科カリキュラムとの整合性を確保するため，遅くとも２年次からの履修スタートが望ましい。

●教職課程の履修者で，卒業直後に教員を目指す者は，就職機会の多様性・効果性を考えると，２種類以上の一種免許状を取得することが望ましい。また，履修者の事情により履修途中でリタイアしても，それまでに修得できた個々の科目，とくに「教職に関する科目」の単位数は，卒業後にも有効である。例えば，卒業後，全国の大学の教職課程において，科目等履修生等として学修（在籍）する場合，既得の単位数は履修単位に積算されることになる。

●教育実習は現場の課題に適切に対応できる，力量ある教師の養成をめざすための体験学習科目である。
「教育実習(2)」（３単位）は高等学校の一種免許状の場合の必修科目（ただし，「工業」の免許状の場合は選択必修科目）であり，実習校（中学・高校）における授業担当（教壇実習）を主体とする。実習期間は，例年４年次の５月から７月にかけての２週間である。この実習は，教職課程カリキュラム全体の集大成として位置づけられる。

●学部段階の一種免許状に加えて，学部卒業後の大学院段階では，さらに専修免許状の取得が可能である。本学大学院環境情報学研究科修正課程 環境情報学専攻では，指定されている科目（「教科に関する科目」）から２４単位以上を修得する者は，修士の学位を有するとき，専修免許状を取得することができる。この点の詳細については，本学の「大学院履修要綱」を参照すること。

科　目　概　要（2 年次以上配当科目のみ。1 年次配当科目は教授要目を参照のこと）

（教育課程表掲載順に記載）

■ 教育制度論

岩本　俊一

Educational System

2年生後期

科目概要

国民教育制度の成立過程をその源であるイギリス産業革命期の民衆教育機関から就学義務を伴う国民教育制度の成立にいたる道筋をたどるなかでその歴史的役割を明らかにする。同時に市民社会の思想と内在的に導き出される公教育の原則についても考察し、国民教育制度の本質的なあり方について理解を深める。その上で、わが国の教育制度について戦前の教育制度のあり方を取り上げたのち、戦後教育改革期のわが国の憲法・教育基本法体制下での教育制度の意義について考察する。

履修心得

将来教員たるものの自覚をもって講義に臨むこと。
常識的な世界史及び日本史の知識が必要となる。

■ 教育社会学

井上　健

Sociology of Education

3年生前期

科目概要

教育社会学は、広い意味での「教育」について、社会学的な視点から実証的・理論的に研究する学問である。教育制度や学校経営はもちろんのこと、家庭や地域における人間関係、情報社会や消費社会のあり方なども研究対象となる。例えば、「学力」問題を考えるには、授業やテストに着目するだけでなく、社会や文化を見渡すことも必要である。本講義では、基本的なテーマを概説するとともに、調査データの読み取りやディスカッションも交えて、教育を広い視野から複眼的に考えていきたい。

履修心得

3年次開講科目なので、より発展的な内容も扱います。1、2年次開講科目の内容を十分に修得してから受講してください。

要望

主体的な学びを通じて、視野が広がり、また、考えが深まっていきます。
【参考：2015 度の「教育社会学」（SC 開講）の「授業改善アンケート」の平均値】
「授業内容を理解するため、意欲的に授業に取り組みましたか」4.50、「教員の説明はわかりやすかったですか」4.56、「履修してみて、多面的な見方を知ったり、視野が広がったりするなど将来的にプラスになったと思いますか」4.63、「履修してみて、この授業の関連分野をさらに学びたくなりましたか」4.19、「総合的に判断して、満足いく授業でしたか」4.14　なお、このアンケートの回答者は 16 名である。

■ 教育課程論

岩崎　敬道

Curriculum Development

2年生後期

科目概要

教育課程は，学校教育において教育目標を具体化するためにつくる教育計画全体を示すものである。この作成にあたり，いくつかの大事な課題があり，本講義ではこれらを具体例を示しながら学習した上で，教育課程を学んでいく。

履修心得

取得しようと考えている教科（学校種を含め）についての知識と教科外活動に関する知識。

要望

自分の言葉で考えること，ならびに積極的な発言を求めます。

■ 情報教育法(1)

小池　星多

Teaching Method of Informatics Education (1)

3年生前期

科目概要

専門教科「情報」および「社会と情報」を中心とした指導計画を学び、実際に作成する。さらに作成した指導計画を使用して模擬

授業を行う。
＜科目概要（英文）＞The purpose of this lesson is to study the method of information education of high school through trial lesson.
＜キーワード＞教職、情報教育、模擬授業

履修心得
本学で学んでいる情報システム関連の知識

要望
高校の情報教育に強い興味と意欲のある学生を求める。

■ 情報教育法(2)

小池　星多

Teaching Method of Informatics Education (2)

3年生後期

科目概要
専門教科「情報」および「情報の科学」を中心とした指導計画を学び、実際に作成する。さらに作成した指導計画を使用して模擬授業を行う。
＜科目概要（英文）＞The purpose of this lesson is to study the method of information education of high school through trial lesson.
＜キーワード＞教職、情報教育、模擬授業

履修心得
本学で学んでいる情報システム関連の知識

■ 教育の方法と技術(1)

安井　浩之

Method and Technique of Education (1)

2年生前期

科目概要
学習目標の設定、学習支援の方法、テスト制作、評価方法等を学んだ後に、教材制作のためのソフトウェア、インターネット等の使用方法を学び、最後にそれまでに学んだことを応用して実際に教材を制作して発表する。

履修心得
基本的な PC の操作ができること。

要望
PC を使用したり、ディスカッションを行ったりするため、休まずに出席すること。

■ 教育の方法と技術(2)

安井　浩之、渡邉　大輔

Method and Technique of Education (2)

2年生後期

科目概要
今日、将来の高度情報社会に生きる児童・生徒に必要な資質（情報活用能力）を養い、また、コンピュータ等の新しい情報手段の活用により教育効果を高める必要が指摘されている。さらに、教員についても、これらを相当する資質能力を含め、教育の方法及び技術についての力量が求められている。これらのことを踏まえ、本授業では、教育の情報化に関わる最新の動向を示すとともに児童・生徒の情報活用能力の育成を目指した授業方法と技術、情報機器及び教材の活用の方法と技術について指導する。

履修心得
様々な情報機器や情報サービスの基本的な知識を持っていること。

要望
議論への積極的な参加ができるよう、自主的に予習をするくこと。
議論を重視するので欠席をしないこと。
（2016 年度から担当者が一部変更されました）

■ 教育実習(2)

井上　健、岩崎　敬道

Practices of Education (2)

4年生前期

科目概要

本実習の内容は、事前指導・現場実習・事後指導から成り、いずれも履修する。

現場実習では、実習生として中学校または高等学校で2週間、実習校教師や本学教師の指導を受けつつ、教育現場での教師にふさわしい資質・能力を育成する。

履修心得

各教科に関する教育内容，教授法の知識，教育に対する責任感，社会性

要望

教職課程での学習の成果を大いに発揮して欲しい。

■ 教職実践演習

岩崎　敬道、井上　健

Seminar of Education in Practice

4年生後期

科目概要

4月から「新任教員」として教壇に立つことを想定し、演習形式で「実践的な指導力」を養っていく。テーマとしては、教員の役割、教員に求められる人間関係力、学級経営、実践的な生徒理解や学習指導法などであるが、これまでの講義や教育実習で学んだことを踏まえて、より高度なまた総合的な内容としたい。そのためにも、講義だけでなく、ディスカッション、ロールプレイ、模擬授業、フィールド・ワーク（教育現場の見学、調査あるいは支援活動）などを積極的に取り入れていく。

履修心得

教職課程を履修して得た知識及び教育実習で獲得した学校の実際に関する知識、技能等。

要望

教職課程の授業で得た知識を元にして、教育実習で確かめたこと、新たに得たことなどを十分に活かしてほしい。

社会調査士資格取得課程履修要綱（社会メディア学科のみ）

●社会調査士資格取得課程とは、（社）社会調査協会が授与する「社会調査士」の資格取得のための課程をいう。本学部の目指す、現実の社会的課題を発見し、取り組み、提案を行える人材を育成する、という目標のもとで不可欠な調査研究能力の育成という観点から 2009 年度から本学に設置された。メディア情報学部では社会メディア学科でのみ、引き続き資格取得が可能である。

●社会調査士とは

社会調査士とは、量的・質的な社会調査を適正に行う基礎知識を大学の課程の中で一通り履修した上で、実際に調査を、企画立案－実施－分析－報告書執筆まで、実践的に学習したことをもって認定する資格である。

現代の社会で、さまざまな社会問題の解決を図っていく上で、社会調査は不可欠の方法である。その意味で社会調査の重要性が高まっているのに対して、専門的人材の育成システムは従来未整備で、安易で信頼できない調査が蔓延する原因になってきた。このような現状を打開し、社会調査の質的な改善や水準向上を進める上での担い手を養成する、というのがこの資格の趣旨である。

国家資格のような公的な資格ではないが、日本社会学会、行動計量学会、教育社会学会という伝統ある３学会が、2003 年にこの「社会調査士資格認定機構」を設立し、2004 年から資格認定をおこなっている（2008 年 12 月に法人化して現名称になった）。

2011 年 2 月までに社会調査士 195 校・専門社会調査士（＊社会調査士の上位資格で大学院修了者に対するもの）62 校が参加しており、とくに社会科学系の学部・学科では社会調査の実践的能力を持っていることを社会に示す目的で取得を目指す学生が多く、必須の資格になりつつある。

大学だけでなく、新聞社、テレビ局などの世論調査関係者やリサーチ会社、シンクタンクの関係者も参加しており、社会的認知度も高まっている（資格取得者は 2014 年度現在で、社会調査士 21,870 名・専門社会調査士 410 名、専門社会調査士（八条規定）2,142 名）。

●概要

１．社会調査士資格取得課程とは、社会調査協会が授与する「社会調査士」の資格取得のための課程である。

２．本学メディア情報学部社会メディア学科において社会調査士の資格を取得するには、次の要件を満たさなければならない。

①学士の資格を有すること

②別表１の A～D 科目（各 2 単位）をすべて取得し、さらにＥ、Ｆのあわせて３科目のうち、いずれか１科目（2 単位）以上を取得する。また、G 科目に該当する事例研究（認定研究室のみ：2016 年度は中村研究室、広田研究室、矢吹研究室、山崎研究室：五十音順）、あるいは社会調査実習のうちいずれか１科目以上を取得する（4 単位）。

●社会調査士資格取得課程　登録料

・資格取得を社会調査協会に申請する際に手数料 16,200 円を必要とする。ただし在学中に大学を通して社会調査士（キャンディデイト）を申請する場合は下記のように減額になる。なお、在学中に社会調査士（キャンディデイト）資格を取得済の場合は、5,400 円となる。

・在学中でも下記の条件を満たした場合、社会調査士（キャンディデイト）資格を取得できる（手数料 14,000 円）。

1)在籍期間が 2 年以上

2)社会調査士科目を 3 科目以上取得している

3)取得・今年度履修中の合計が 5 科目以上である（ただし、E/F 科目は選択制のため、1 科目と数える）

（なお、取得手数料は社会調査協会に支払うものであり、2015 年 12 月現在の額である。）

図表 ― 社会調査協会に認定された社会調査士資格を取得するための科目（注1）

社会メディア学科用

（2）社会調査士資格に関する科目　　○：必修　△：選択必修

	認定科目記号	授業科目	資格取得上の必選の別	単位数	週時間数								備　　考
					1年		2年		3年		4年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
社会調査士（社会調査協会）	A	社会調査	○	2		2							
	B	社会調査設計	○	2				2					
	C	統計学基礎	○	2	2								
	D	応用統計	○	2		2							
	E	データ分析法	△	2					2				EとFの科目のうちいずれか1科目必修。
	F	社会文化フィールドワーク		2			2						
		質的調査演習		2				2					
	G	事例研究	△	4					4				いずれか1科目必修。ただし事例研究については、実習担当教員の担当する場合のみ（注2）。
		社会調査実習		2					4				

（注1）科目認定は年度毎に行われるため、年度によって変更される可能性がある。随時、大学からのアナウンスに注意のこと。
（注2）2016年度は中村研究室、広田研究室、矢吹研究室、山崎研究室（五十音順）。

教授要目

メディア情報学部共通科目（１年次の科目）

■外国語科目■

■体育科目■

■教養科目■

社会メディア学科専門科目（１年次の科目）

■専門基礎科目■

■専門科目　学科基盤科目■

■専門科目　学科専門科目■

情報システム学科専門科目（１年次の科目）

■専門基礎科目■

■専門科目　学科基盤科目■

■専門科目　学科専門科目■

教職課程科目：教職に関する科目（１年次の科目）

（教育課程表掲載順に記載）

メディア情報学部

外国語科目

体育科目

教養科目

教授要目

Study Skills

科目英名	Study Skills
担当者	各教員
単位数	１単位
開講時期	１年生前期

科目概要

英文法の基礎を学び，１年生後期科目の Reading & Writing(1)，２年生科目の Reading & Writing (2)，および TOEIC Preparation に必要な英語基礎力を養成することを目的とする。

達成目標

（１）英語の文法，構文の基礎を理解する。
（２）基本的な英文を正確に読み取ることができる。

成績評価

定常点　５０％，試験　５０％

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の予習復習が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

中・高で学んだ初歩的な英語知識を前提とする。

授業計画

第　１回　イントロダクション／冠詞と名詞　(Unit 67, 68, 70)
第　２回　現在進行形と単純現在形　(Unit 3, 4)
第　３回　現在完了形と過去形　(Unit 8, 9)
第　４回　未来　(Unit 18, 22, 24)
第　５回　助動詞　(Unit 25, 26, 27, 28, 30, 31)
第　６回　仮定法　(Unit 36, 37, 38)
第　７回　受動態　(Unit 40, 41)
第　８回　中間のまとめ，中間模擬試験
第　９回　動名詞と不定詞　(Unit 51, 52, 53)
第１０回　分詞構文　(Unit 66)
第１１回　関係詞節　(Unit 90, 91, 92, 93, 95)
第１２回　形容詞と副詞　(Unit 96, 98) ／比較・最上級　(Unit 102, 104, 105)
第１３回　接続詞 (Unit 110,113)
第１４回　まとめ

オフィスアワー

担当者に確認すること。

授業形態

講義・演習

授業の具体的な進め方

重要な文法項目を解説し，問題演習を通して知識の定着を図る。

授業に持参するもの

英和辞書

教科書

『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編)』Raymond Murphy　Cambridge University Press　2013　978-4-902290-23-3

学生へのメッセージ

英語基礎力の向上のためには地道な自学自習が欠かせません。十分に予習，復習をしたうえで授業に臨んでください。

その他・自由記述欄

本科目は到達目標を共有する統一カリキュラムによって行われる。具体的な授業の進め方等については担当教員の指示に従うこと。

Communication Skills(1)

科目英名	Communication Skills (1)
担当者	各教員
単位数	１単位
学年	１年生前期

科目概要

In this course students will be immersed in English and will focus on improving their communication skills in listening and speaking.

達成目標

Students will be able to
1. listen and understand simple English conversation and announcements.
2. develop the ability to understand and the confidence to communicate effectively in English.

成績評価

Class participation and homework assignments: 50%
Final exam.: 50%

予習復習時間

Ideally, students should do 4 hours of self study for every 100 minutes of class time.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Students should expose themselves to English as much as possible in their daily lives and have self-management skills.

授業計画

第　１回　Course guidance
第　２回　Unit 1: You're an Interesting Person!
(Names; Introductions)
第　３回　Unit 1: You're an Interesting Person!
(Asking Addresses; Phone numbers)
第　４回　Unit 3: TGIF(Thank God It's Friday)
(Determining weekend activity preferences)
第　５回　Unit 3: TGIF(Thank God It's Friday)
(Talking about the weekend; Last weekend)
第　６回　Unit 4: Wow! Everything's on Sale
(Shopping behavior; At a supermarket)
第　７回　Unit 4: Wow! Everything's on Sale
(Comparing prices; Talking about shopping)
第　８回　Mid-term Review / Unit 6 Intro
第　９回　Unit 6: Got Any Travel Plans?
(Travel preferences; Comparison shopping for air tickets)
第１０回　Unit 6: Got Any Travel Plans?
(Meeting people on a plane; Following directions in Chicago)
第１１回　Unit 9: Hey, Look at Her!
(Attitudes about appearances)
第１２回　Unit 9: Hey, Look at Her!
(Idetifying and decribing people)
第１３回　Unit 11: Traveling Around Japan
(Expressing opinions about Japan; Identifying places in Japan)
第１４回　Unit 11: Traveling Around Japan
(Buying train tickets; Japan travel questionnaire)

オフィスアワー

Will be announced in the first class meeting by each instructor

授業形態

Activity-based

授業の具体的な進め方

Detailed classroom policy will be explained by each instructor in the first class meeting.

授業に持参するもの

English-English dictionary or electronic dictionary

教科書

『New Airwaves (Second Edition)』Dale Fuller/ Clyde W. Grimm　Macmillan Language House　2013　978-4-7773-6390-2

学生へのメッセージ

Don't be shy. Use English confidently in the classroom in paired work and small-group discussion.

その他・自由記述欄

この科目は都市大スタンダード科目のひとつで共通シラバスで運営される。具体的なクラスの指針は，各担当者が初回授業で説明する。

教授要目

Reading and Writing(1)

科目英名	Reading and Writing (1)
担当者	各教員
単位数	1単位
開講時期	1年生後期

科目概要

This course is designed to help students (1) become familiar with the major issues in global culture and (2) learn to integrate grammatical knowledge and reading strategy, so as (3) to be able to improve your reading and writing skills through the practice of vocabulary enrichment, reading comprehension exercises, written responses, discussions, and reflections.

To get reading ability, the students of this course will develop factors such as vocabulary, grammar, and background knowledge. They will increase motivation that influence one's ability to extract and construct meaning from the text.

To be a good writer, students will write to discover new things about our world as well as ourselves. For that matter, the process of writing is a way of coming to know. Writing can become a medium for self reflection, self expression, and communication, a means of coming to know for both the writer and reader.

The interplay of these skills and factors will lead the students to more deeper understanding of the world. Each class meeting will be fun and exciting to learn English.

達成目標

Once they have completed this course, students will be able to demonstrate the following skills:

（1）Respond to, read and view texts
（2）Identify the topic and purpose of a reading sample
（3）Distinguish between main ideas and supporting details
（4）Distinguish between stated and implied ideas; make inferences
（5）Draw conclusions and predict outcomes
（6）Recognize the structure and organization of paragraphs
（7）Use various reading aids such as dictionaries and online resources
（8）Enhance reading comprehension and build <better> vocabulary

成績評価

Daily Work & Quiz & Participation (Contribution to class)(50%) Final Exam (50%)
Attendance is NOT included in grading: participation is different to attendance. It means being active and sharing learning experience with the other students.

予習復習時間

Back ground research and assigned reading are required.
Student will be storngly recommended to enchance volabulary.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Students will be expected to have a great deal of curiosity to English learning and global world.
Attendance is mandatory. Your participation in class discussions is important to the other students.

授業計画

第　1回　Introduction to course:Unit 1Manga in Malasia　#0　Background Research
第　2回　Unit 1Manga in Malasia　#1　Scan Reading and Check Vocabulary
第　3回　Unit 1Manga in Malasia　#2　Reading Comprehension and Discussion
第　4回　Unit 2 Hosteling in New Zealand　#1　Scan Reading and Check Vocabulary
第　5回　Unit 2 Hosteling in New Zealand #2　Reading Comprehension and Discussion
第　6回　Unit 3 Sweden　#1　Scan Reading and Check Vocabulary
第　7回　Unit 3 Sweden　#2　Reading Comprehension and Discussion
第　8回　Mid term Exam
　　Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #0 Background Research
第　9回　Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #1 Scan Reading and Check Vocabulary
第１０回　Unit 4 The Past, Present and Futrure of Sakhalin #2　Reading Comprehension and Discussion
第１１回　Unit 5 Gardens by the Bay(Singapore)#1 Scan Reading and Check Vocabulary
第１２回　Unit 5 Gardens by the Bay(Singapore)#2 Reading Comprehension and Discussion
第１３回　Unit 6 Jobless Generation(Italia)#1 Scan Reading and Check Vocabulary
第１４回　Unit 6 Jobless Generation(Italia)#2 Reading Comprehension and Discussion

オフィスアワー

Will be told in class

授業形態

Lecture

授業の具体的な進め方

Preparation and self-studying for 4hours a week are strongly recommended.
The teacher of your class will explain the lesson plan.

教科書

『World Report』Kuniko Yoshida and Anthony Allan　Kinseido　2015　9784764740228

Communication Skills(2)

科目英名	Communication Skills (2)
担当者	各教員
単位数	1単位
開講時期	1年生後期

科目概要

In this course students will be immersed in English and will focus on improving their communication skills in listening and speaking.

達成目標

Students will be able to
1. listen and understand simple English conversation and announcements.
2. develop the ability to understand and the confidence to communicate effectively in English.

成績評価

Class participation and homework assignments: 50%
Final exam.: 50%

予習復習時間

Ideally, students should do 4 hours of self study for every 100 minutes of class time.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Students should expose themselves to English as much as possible in their daily lives and have self-management skills.

授業計画

第　1回　Course guidance
第　2回　Unit 14: I Need a Job!
　　(Expressing opinions about work; Checking newspaper ads; Resume)
第　3回　Unit 14: I Need a Job!
　　(Filling out an application form; How to handle job interview questions)
第　4回　Unit 15: Dare to Dream
　　(Expressing opinions about the future; Talking about future plans)
第　5回　Unit 15: Dare to Dream
　　(Back to the Future episode)
第　6回　Unit 17: What's on Your Mind?
　　(Opinions about present-day concerns; Expressing opinions)
第　7回　Unit 17: What's on Your Mind?
　　(Agreeing and disagreeing; Generational conflicts)
第　8回　Mid-term Review / Unit 18 Intro
第　9回　Unit 18: Home Is Where the Heart Is
　　(Exchanging hometown information)
第１０回　Unit 18: Home Is Where the Heart Is
　　(Hometown descriptions)
第１１回　Unit 19: Holidays to Remember
　　(Talking about various holidays)
第１２回　Unit 19: Holidays to Remember
　　(Identifying holidays and festivals; Questionnaire about Japanese traditions)
第１３回　Unit 20: Guess What Happened to Me!
　　(Sharing past experiences; Experiences on the train)
第１４回　Unit 20: Guess What Happened to Me!
　　(Distinguishing good news from bad news; Expressing favorite conversation topics)

オフィスアワー

Will be announced in the first class meeting by each instructor

授業形態

Activity-based

授業の具体的な進め方

Detailed classroom policy will be explained by each instructor in the first class meeting.

授業に持参するもの

English-English dictionary or electronic dictionary

教科書

『New Airwaves (Second Edition)』Dale Fuller/ Clyde W. Grimm　Macmillan Language House　2013　978-4-7773-6390-2

学生へのメッセージ

Don't be shy. Use English confidently in the classroom in paired work and small-group discussion.

その他・自由記述欄

この科目は都市大スタンダード科目のひとつで共通シラバスで運営される。具体的なクラスの指針は，各担当者が初回授業で説明する。

教授要目

アカデミック・イングリッシュ・セミナー

科目英名	Academic English Seminar
担当者	ミラー 〈johnmjr@outlook.com〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

The aim of the course will be to help students acquire public presentation skills that are needed in academic environment by practicing methods and techniques used in the forms of oral discourse. Students will also learn how to deliver a presentation with acceptable posture, eye contact, and voice inflection in English.

達成目標

The course will focus on how to structure a presentation with an introduction, body, and conclusion with proper transitions. Students will also be assessed on ability to develop and utilize a variety of visuals including graphs, diagrams, flow charts, and bullet charts.

成績評価

20% Preliminary Presentations (x4)
50% Final Presentation
30% Homework/Active Participation

予習復習時間

Completion of all preassigned- reading/review/homework in a timely fashion is mandatory.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

The instructor uses ENGLISH ONLY in the classroom. A fair level of reading and listening comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course.

授業計画

第　1回　Course outline/General housekeeping
Introduction to public speaking
第　2回　The Informative Speech
第　3回　Preliminary Presentation: Performance 1
第　4回　The Layout Speech
第　5回　Preliminary Presentation: Performance 2
第　6回　The Demonstration Speech
第　7回　Preliminary Presentation: Performance 3
第　8回　How to develop effective visuals
第　9回　How to explain visuals
第１０回　Preliminary Presentation: Performance 4
第１１回　The Speech Introduction
第１２回　The Speech Body
第１３回　The Speech Conclusion
第１４回　Final Presentation Performance

オフィスアワー

T.B.A.

授業形態

Please note that classes are 100 minutes in duration.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

Textbook, J <-> E dictionary and writing utensils

教科書

Speaking of Speech New Edition　David Harrington & Charles LeBeau　Macmillan　2009
978-4-7773-6271-4

参考書

学生へのメッセージ

Academic English Seminar is a challenging yet rewarding class. This class demands that you do your best, and nothing less than your best should be forthcoming. You will earn a Fail grade for unsatisfactory work, a C grade for average work, a B grade for work that stands out above the average, and an A grade for work that marks itself as truly exceptional.　Students should make an effort to be on time for class. Habitual lateness to classes will negatively impact final grades in this course. The above course outline is subject to change without prior notification.

その他・自由記述欄

英語発音･聴解トレーニング

科目英名	English Listening Comprehension
担当者	Ｅ・マディーン 〈〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期前半

科目概要

Students will improve their English proficiency while we work on all four skill areas with a focus on pronunciation.

達成目標

The aim of this course is to improve students' English level while learning to enjoy English as a second language.

成績評価

Students will be evaluated based on their class journal, participation and attendance.

予習復習時間

Homework will be required every week.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Not applicable.

授業計画

第　1回　Pretty and handsome
第　2回　chips and fish or fish and chips?
第　3回　Treat and deal
第　4回　Calm and quiet
第　5回　watch and look
第　6回　Popular and common
第　7回　wide and big
第　8回　sore and pain
第　9回　dish and food
第１０回　use and spend
第１１回　think and hope
第１２回　Such and so
第１３回　He's very diligent
第１４回　She's looking for her job review

オフィスアワー

12:30-1 p.m. Wednesdays

授業形態

student centered

授業の具体的な進め方

Students will be required to do a number of exercises, all designed to greatly improve their English

関連科目

None

授業に持参するもの

An electronic dictionary is recommended

教科書

Time to Communicate　Bray　Nan'Un-Do　2015　978-4-523-1779191-3

参考書

None.

学生へのメッセージ

You'll enjoy this class and will improve your English.

その他・自由記述欄

Do your best!

教授要目

英語発音･聴解トレーニング

科目英名	English Listening Comprehension
担当者	三幣　友行　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要
様々な音声を聴くことによって英語を正しく聴き取る力をつけることを目指す
達成目標
英語と日本語の音声の違いを確認しながら､英語特有の発音や音声変化等を聞き取る力をつける
成績評価
平常点４０％、小テスト点３０％、期末テスト３０％を総合的に評価する
予習復習時間
１回の授業（100 分）につき 4 時間の予習を必要とする
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特になし
授業計画
第　１回　授業に関する説明
第　２回　Word Endings
第　３回　Stress in Words
第　４回　Rhythm in Sentences
第　５回　Intonation in Discourse
第　６回　Sound Change in Connected Speech
第　７回　Consonant Introduction
第　８回　中間のまとめ
第　９回　Consonant Practices
第１０回　Cluster Practice
第１１回　Vowel Introduction
第１２回　Vowel Practices
第１３回　Omitted Syllables
第１４回　これまでのまとめ
オフィスアワー
月曜日：１６：５０～１７：５０　その他相談に応じる
授業形態
演習
授業の具体的な進め方
前回の授業で行った内容の確認から始まり、英語の音声を聴き取りながら、正確に理解できているかを確認する
関連科目
授業に持参するもの
教科書、辞書
教科書
WELL SAID Intro　LINDA GRANT　THOMSON HEINLE　2007　ISBN 1-4130-1546-8
参考書
学生へのメッセージ
積極的に授業に参加する学生を歓迎します
その他・自由記述欄

英語読解力養成

科目英名	English Reading Training
担当者	吉田　由美子　<ykyumi@icloud.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
長文を読むことに対する苦手意識をなくし、大意を把握できる力を身につけ、アカデミックリーディングのスキルにつながる読解力向上を目的とする。
達成目標
様々なトピックや形式の英文を多読していくことで、学習した文法の実用例を知り、概要を理解するだけでなく、微妙なニュアンスまで正確に読み取ることができる。
成績評価
授業中の提出物 30%、小テストや課題 30%、期末テスト 40%として総合的に評価する。
予習復習時間
1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要(学則第 18 条に基づく)。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
英語、日本語ともに、長文を読む習慣をつけておく。
授業計画
第　１回　ガイダンス　長文読解のストラテジーについて
第　２回　Lesson 1 Energy Drinks　WPM を計る
第　３回　Lesson 2 Method Acting［Previewng and Predicting 1］予測して読む
第　４回　Lesson 4 Endocrine Disruptors［Scanning 1 ］詳細を把握する
第　５回　Lesson 6　Bluetoorh［Identifying Topics］キーワードから共通のカテゴリーを探す
第　６回　Lesson ８ Temperament［Identifying Pronouns］代名詞の理解
第　７回　Lesson 10 Biofeedback　［Prefixes and Suffixes］接頭辞と接尾辞
第　８回　Lesson 12 Lobbying　［Listing］列挙
第　９回　Lesson 14 The Bandwagon Effect［Cause and Effect］原因・結果
第１０回　Lesson 16　Taj Mahal　［Spatial Order］空間的順序
第１１回　中間のまとめ・英字新聞を読む　1 見出しの読み方と特徴
第１２回　Lesson 20 Food Taboos［Deductive reasoning］演繹法
第１３回　英字新聞を読む　2 長文を読み解くスキル
第１４回　今までのまとめ
オフィスアワー
なし。メールで対応する。
授業形態
演習
授業の具体的な進め方
毎回一つの unit を終わらせていく。語彙の定着をしてから、テキストのタスクにしたがって進める。各 unit の語彙に関する問題を、必ず予習しておくこと。
関連科目
授業に持参するもの
辞書
教科書
Reading Expert 3　宍戸　真　成美堂　2014　978-4-7919-3082-1
参考書
学生へのメッセージ
学生へのメッセージ　長文読解には、英語力だけでなく幅広い知識が求められるので、日ごろからいろいろなことに興味を持ち、学習する意欲を持って授業に臨んでほしい。
その他・自由記述欄

教授要目

Advanced TOEIC

科目英名	Advanced TOEIC
担当者	ミラー 〈johnmjr@outlook.com〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

This course aims to help students develop the necessary skills and sub-skills required to achieve a TOEIC score of 600 or above.

達成目標

The course will focus on developing students' reading, listening, and exam-taking skills and strategies. Students will also be taught important grammar structures and functions tested in the TOEIC Test. This will help familiarize students with the format and timing of the TOEIC Test.

成績評価

14% Homework/Active Participation
11% TOEIC Mini Test (x 11)
25% TOEIC Pretest
50% TOEIC Practce Post-Test

予習復習時間

Completion of all preassigned- reading/review/homework activities is mandatory.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

The instructor uses ENGLISH ONLY in the classroom. A fair level of reading and listening comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course.

授業計画

第　1回　General Housekeeping
Introduction to the New TOEIC Test
The Eight Parts of Speech
第　2回　Daily Life
TOEIC Practice Pretest
第　3回　Clothing
TOEIC Mini Test 1
第　4回　Grocery Shopping
TOEIC Mini Test 2
第　5回　Cooking
TOEIC Mini Test 3
第　6回　Eating out
TOEIC Mini Test 4
第　7回　Shopping for clothes
TOEIC Mini Test 5
第　8回　Housing
TOEIC Mini Test 6
第　9回　The Weather
TOEIC Mini Test 7
第１０回　At the Movie Theater
TOEIC Mini Test 8
第１１回　Sports
TOEIC Mini Test 9
第１２回　Traffic and Commuting
TOEIC Mini Test 10
第１３回　Automobiles
TOEIC Mini Test 11
第１４回　TOEIC Practice Post-Test

オフィスアワー

T.B.A.

授業形態

Please note that classes will be 100 minutes in duration.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

Textbook, J <-> E dictionary and writing utensils.

教科書

TOEIC Test: Round the Clock　Yoshiko Honda and Noriko Kano　Nan'un-do　2011
978-4-523-17683-1

参考書

学生へのメッセージ

Advanced TOEIC is a challenging yet rewarding class. This class demands that you do your best, and nothing less than your best should be forthcoming. You will earn a Fail grade for unsatisfactory work, a C grade for average work, a B grade for work that stands out above the average, and an A grade for work that marks itself as truly exceptional.　Students should make an effort to be on time for class. Habitual lateness to classes will negatively impact final grades in this course. The above course outline is subject to change without prior notification.

その他・自由記述欄

キャリア・イングリッシュ

科目英名	English for Career Preparation
担当者	ミラー 〈johnmjr@outlook.com 〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

This course offers a variety of business situations and environments to introduce students to Business English.

達成目標

Lessons will focus on systematically developing students' communicative abilities so as to build confidence in using English in the workplace and ultimately increase employment opportunities in the real world. To this end, students will regularly be encouraged to practice using English creatively in a variety of simulated business contexts.

成績評価

1)　Mid-term Exam: 25%; Final Exam: 50%
2)　Active Participation/Attendance: 15%
3)　Teacher Points (will be allocated at the instructor's discretion and dependent on the student's overall demeanor and attitude towards classwork, and ability to follow instructions): 10%

予習復習時間

You are expected to read and think about all assigned material for each class.　Your thoughts and insights are important to the class.　Note: coming to class unprepared is the same as not coming at all.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

None.

授業計画

第　1回　Course outline/schedule; General housekeeping; Course expectations and requirements
Introductions
Unit 1 Let me give you my card: Talking about your job; Giving contact information; Starting and ending conversations
第　2回　Unit 2 I start work at 8:30: Conversation strategy: reflecting and reacting; Describing routines; Describing schedules
第　3回　Unit 3 What does your company do?: Asking about company background; Conversation strategy: asking for repetition and spelling; Describing company business
第　4回　Unit 4 How do you like your job?: Talking about likes and dislikes; Making suggestions; Conversation strategy: sounding polite
第　5回　Unit 5 Can I take a message?: Answering the phone; Conversation strategy: controlling language; Taking a message; ending a call
第　6回　Unit 6 Which ones should we order?: Describing and comparing products; Understanding advertisements; Conversation strategy: softening language
第　7回　Mid-term Exam
第　8回　Unit 7 Are you free on Tuesday?: Making a telephone call; Conversation strategy: checking information; Making an appointment
第　9回　Unit 8 Where's the Marketing Department?: Prepositions of place; Giving a tour
第１０回　Unit 9 How long does the process take?: Describing a process; sequencing, ordering a product, recruiting; Conversation strategy review: checking and confirming
第１１回　Unit 10 Exports increased sharply: Talking about graphs; Giving a presentation; Answering questions
第１２回　Unit 11 I'm leaving tomorrow: Talking about future plans; Degrees of certainty
第１３回　Unit 12 Would you like to try some dim sum?: Ordering and accepting or refusing food; Giving and receiving compliments; Thanking and responding to thanks
第１４回　Final Exam

オフィスアワー

Via e-mail only.

授業形態

Group and pair-work activities; classroom discussions -- participation is mandatory.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

Get Ready for International Business: English for the Workplace with Extra Practice for the TOEIC Exam　Vaughan, Andrew & Zemach, D. E.　Macmillan Education　2013
978-0-230-43325-0

参考書

学生へのメッセージ

The instructor uses ENGLISH ONLY in the classroom. A fair level of reading and listening comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course easily.

その他・自由記述欄

教授要目

サバイバル・イングリッシュ

科目英名	Survival English
担当者	Ｅ・マディーン　〈〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期後半

科目概要

This class will help prepare students for travel abroad when knowing English is necessary.

達成目標

The aim of this class is to improve students` English for travel abroad.

成績評価

Students will be graded on their attendance, class participation and final report.

予習復習時間

Students need to prepare for each class period and review will be at the end of each class period.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

There is no prerequisite for taking this class.

授業計画

第　１回　My suitcase is overweight
第　２回　I'm suffering from jet lag
第　３回　Each host family is different
第　４回　I'm experiencing culture shock
第　５回　My dormitory is too noisy
第　６回　How can I make friends?
第　７回　What should I talk about?
第　８回　I feel homesick
第　９回　How do I order food?
第１０回　I lost my passport
第１１回　I need to go to hospital
第１２回　I don't want to leave
第１３回　Airport check-in
第１４回　Review

オフィスアワー

Wednesday 1:00-1:30

授業形態

This is a student centered class with a lot of pair work and communication activities.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

Communicate Abroad　Simon Cookson　CENGAGE Learning　2016　ISBN978-4-86312-277-2

参考書

学生へのメッセージ

Do your best!

その他・自由記述欄

英語でﾗｲﾃｨﾝｸﾞ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ

科目英名	Academic Writing and Presentation
担当者	Ｊ・Ｒ・ブラウン　〈johnrb@live.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

In this course, students will practice writing presentations for homework and give those presentations in class followed by question-and-answer sessions.

達成目標

The aim of the course is to help students improve their writing, presentation and conversation skills in English.

成績評価

Students will be evaluated on the basis of their written work, presentations and participation in discussions in English.

予習復習時間

Two hours

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Students who intend to take this course should read books, magazines, newspapers and/or internet articles in English.

授業計画

第　１回　Description of course
第　２回　Interests
第　３回　Ambitions
第　４回　Dreams
第　５回　Experiences
第　６回　Work experience
第　７回　Music
第　８回　Art
第　９回　Society
第１０回　History
第１１回　Travel - domestic
第１２回　Travel - international
第１３回　Culture
第１４回　Careers

オフィスアワー

Monday 12:30-1:00

授業形態

Presentation and discussion in English

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

If you want to practice writing, giving presentations and discussing various topics in English, you may find this course useful.

その他・自由記述欄

教授要目

ニュースを英語で読む

科目英名	Reading English-language Newspaper
担当者	石山　伊佐夫　〈〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

英語で書かれた新聞・雑誌の記事をテキストにして、できるだけ辞書に頼らない英文速読の訓練を行います。また折にふれ、その日のニュースをもとにした簡単なディスカッションも行う予定です。

In this class you will practice reading rapidly the NEWS of the day in English, not consulting your dictionaries. And occasionally a short discussion based on the issues is scheduled.

達成目標

平易な英文記事の大意をすばやく掴み、時事問題や国際情勢についての多角的なものの見方・考え方を身につける。

成績評価

授業態度（３０％）、ディスカッション（１０％）、小テスト（２０％）、期末テスト（４０％）を総合的に評価します。

予習復習時間

1 時限授業につき 4 時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

世界や日本の状況に敏感であること。その日の新聞、TV,ラジオニュースなどを必ずチェックする。(日本語で可)

授業計画

第　１回　ガイダンス
第　２回　時事英語って何？（特徴と構成。タイトル、表現など）
第　３回　海外から見た日本（技術・災害ロボット１）
第　４回　海外から見た日本（災害ロボット２）
第　５回　海外から見た日本（文化・クールジャパン１）
第　６回　海外から見た日本（クールジャパン２）
第　７回　海外から見た日本（スポーツ１・ＭＬＢ日本人選手）
第　８回　海海外から見た日本（スポーツ２）
第　９回　前半のまとめ&ディスカッション
第１０回　世界を読む（米国大統領選挙）
第１１回　世界を読む（EU の挫折・難民）
第１２回　世界を読む（中東の混乱・テロ襲撃）
第１３回　世界を読む（アジア・アセアンの未来）
第１４回　総括&ディスカッション

オフィスアワー

火曜日午後 5 時以降。事前に連絡をとれば確実です。

授業形態

生きた英語ニュースを教材にした講義形式。受講者数によっては、演習形式も取り入れる。

授業の具体的な進め方

interactive（双方向的）な授業になるので、受け身ではない積極的な参加の姿勢が重要です。

関連科目

授業に持参するもの

英和、英英辞書

教科書

15 Selected Units of English through the News Media　Asahi Press

参考書

教室で指示する。

学生へのメッセージ

英語で読めれば、世界は 10 倍楽しくなる。

その他・自由記述欄

スポーツで学ぶ英語

科目英名	Learning English through Sports
担当者	日高　正司　〈授業で確認すること〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

身近なスポーツに関する情報や知識のインプットを英文読解を通じて強化する。また内容について受講者と教員が英語による質疑応答をとおしてコミュニケーション能力を養う。

達成目標

スポーツに関する英文が読める能力を身につける。

スポーツを話題とした英語対話のための英語表現力や発話能力を向上させる。

成績評価

クラスの課題(30%)、授業参加(30%)、期末レポート(40%)　の総合評価とする。

予習復習時間

１回（１００分）の授業に対して４時間の自学自習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

テキストのスポーツトピックに関連する英文を収集して授業で報告するなど、予習に十分時間は必要となる。

授業計画

第　１回　イントロダクション
第　２回　Warming Up
第　３回　Sports Nutrition
第　４回　Sevens Rugby
第　５回　Athletics
第　６回　Weight Training
第　７回　Women's Soccer
第　８回　Sports Supplemets
第　９回　Swimming
第１０回　Judo
第１１回　Sports Psychology
第１２回　Equestrian
第１３回　Gymnastics
第１４回　Sportsmanship　授業のまとめ

オフィスアワー

月曜日授業終了後

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

毎回、受講者はテキストで取り上げらるスポーツ・トピックについて概要説明する。担当者は必要に応じて発表者のサポートをおこなう。続いて内容に関しての質疑応答をおこなう。毎回、英文内容についてのサマリーを書いて提出する。

関連科目

アカデミック・イングリッシュ

授業に持参するもの

英語辞書

教科書

Sports and English　Cotter Matthew　南雲堂　２０１５

参考書

授業で指示する

学生へのメッセージ

スポーツをトピックとした英文の読解やディスカッションを通じてコミュニケーションの能力を向上させることが目的であり、映像を使った授業ではないので注意すること。

その他・自由記述欄

意欲ある受講生を歓迎する。

教授要目

映画で学ぶ英語

科目英名	Screen English
担当者	大森　尚子　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

映画を活用して英語を学んでいく授業。映画のセリフのディクテーション、会話作文、映画に関する記事のリーディングが主な内容。聞く・話す・読む・書くの４つの技能をバランスよく向上させていく。

This course is designed to improve four skills (listening/speaking/reading/writing) through the selected movies. Also, this course provides an opportunity to appreciate various kinds of human lives and deepen cross-cultural understanding.

達成目標

１.「生きた英語」を通しコミュニケーション技能を高める。
２．映画についての記事を読み多読力を高める。
３．映画で描かれる様々な人生に接して異文化理解を深める。

成績評価

授業内演習の達成度・発言 (participation):40% 課題 (assignment):20% 期末試験 (the final exam):40%

予習復習時間

1 回（１００分）の授業で 4 時間の自学自習が必要。授業でとりあげた重要表現の復習は必須である。またこれに加えてそれぞれの映画全篇をみて内容を把握しておくことと、第 14 回授業のあとに内容をまとめるための時間が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

授業に対する積極的な姿勢が求められる。5 本の映画をとりあげるが、授業内では限られた場面しか視聴しないので各自全編を視ておくこと。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　Shattered Glass 『ニュースの天才』　ニュースを捏造したエリート記者を描いたノンフィクション
(1)Introdution
第　３回　Shattered Glass
(2)Listening of the selected scenes
第　４回　Shattered Glass
(3)Reading a review
第　５回　An Inconvenient Truth　『不都合な真実』　元副大統領アルゴア氏による環境問題ドキュメンタリー　(1)Introduction
第　６回　An Inconvenient Truth　『不都合な真実』
（２）Reading a review
第　７回　Juno 『ジュノ』　高校生の妊娠出産を扱った青春コメディ
(1)Introduction
第　８回　Juno 『ジュノ』
(2)Listening of the selected scenes
第　９回　Juno『ジュノ』
(3)Reading a review
第１０回　Million Dollar Baby　『ミリオンダラーベイビー』　32 才からプロボクサーを目指すヒロイン
(1)Introduciton　(2)Listening of the selected scenes
第１１回　Million Dollar Baby　『ミリオンダラーベイビー』
(3)Reading a review
第１２回　Dear Wendy　『DEAR WENDY』　銃の腕を磨く「平和主義者」グループを結成した少年たちを描いたアメリカ銃社会へのメッセージ映画　(1)Introduction
第１３回　Dear Wendy　『DEAR WENDY』
(2)Reading a review
第１４回　提出してもらったレポートのコメント、総括

オフィスアワー

火曜日（昼休み）

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

１．セリフの聞き取りやディクテーション
２．セリフを実際に会話練習（ペアワーク）
３．会話作文（自分だったらどう発話するか）
４．映画に関する記事を読む

関連科目

授業に持参するもの

テキスト　辞書

教科書

DRAMATIC CINEMA ENGLISH　一色真由美他　南雲堂　2010　9784523176404C0082

参考書

学生へのメッセージ

・映画の英語は意外に厄介。スピードも早く、スラングや言葉遊び、比喩も多い。一方、セリフに込められた感情は感動的だったり刺激的だったりと触発されることも多いはず。重層な英語に戸惑いつつも楽しむ姿勢が必要。
・試験などで履修制限を実施するので、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。

その他・自由記述欄

映画で学ぶ英語

科目英名	Screen English
担当者	ミラー　<johnmjr@outlook.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

The main goal of this course is to improve overall conversational skills for fluency, including speaking, reading, writing and confidence. This goal will be implemented in class by covering certain aspects of the movie-watching experience.

達成目標

A main requirement of the course is that students maintain a journal of their in-class movie watching experiences. Students are expected to record their impressions of various aspects of the film segments viewed as well be able to express those opinions to others when called upon to do so.

成績評価

50% Movie Journal
35% Final Movie Review
15% Active Participation

予習復習時間

Completion of all preassigned- reading/review/homework activities in a timely fashion is mandatory.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

The instructor uses English only in the classroom. A fair level of reading (and listening) comprehension is expected. If you can manage to understand this syllabus without help, you should be able to succeed in this course with little difficulty.

授業計画

第　１回　Course outline/objectives/expectations
Please note that in this initial classes you will be required to take a level test to determine English competency.
第　２回　Talking about Movie Genres
第　３回　Summarizing a Movie Section (Basic)
第　４回　Talking about Your Reaction to a Movie (Basic)
第　５回　Making a Prediction
第　６回　Talking about Cultural Customs
第　７回　Talking about Cultural Values
第　８回　Talking about Characters (Basic) -- Appearance
第　９回　Talking about Characters (Advanced) -- Personality
第１０回　Summarizing a Movie Section (Advanced)
第１１回　Talking about Your Reaction to a Movie (Advanced)
第１２回　Talking about Movie Messages and Ratings
第１３回　Writing a Movie Review
第１４回　Watching a Great Movie on Your Own

オフィスアワー

T.B.A.

授業形態

Please note that classes will be 100 minutes in duration.

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

Textbook, J <-> E dictionary and writing utensils.

教科書

Movie Time!　Eric Bray　Nan'un-do　2012　978-4-523-17708-1

参考書

学生へのメッセージ

Screen English is a challenging yet rewarding class. This class demands that you do your best, and nothing less than your best should be forthcoming. You will earn a Fail grade for unsatisfactory work, a C grade for average work, a B grade for work that stands out above the average, and an A grade for work that marks itself as truly exceptional. Students should make an effort to be on time for class. Habitual lateness to classes will negatively impact final grades in this course. The above course outline is subject to change without prior notification.

その他・自由記述欄

教授要目

映画で学ぶ英語

科目英名	Screen English
担当者	鈴木　夏実　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

名画を中心に、映像作品を活用して英語を学んでいく授業。主にディクテーションを通して、語彙力を養成し、リスニング力を高める。作品内で使用されている様々な人物背景や英語表現を通して、多様な文化を知る。アニメーションの中の英語表現の工夫を通して、文化と言語の関係を考察する。様々な時代に作成された映像の表現方法を観察し、その変遷を知る。

This course is designed to improve and consolidate vocabulary, grammar, speaking and listening skills of the language through various types of movies.

達成目標

1. 映像の中の「生きた英語」を通し、語彙力、表現力を養成する。Vocabulary building through the authentic English through movies.
2. 音声教材を活用し、スピーキング力を向上する。 Building listening & speaking skills through movies.
3. 映像の中の異文化を考察し、その多様性を理解する。Inter-cultural awareness.

成績評価

授業内演習・発言・質疑応答等(Participation)：30%、 課題提出(Assignment)：30%、期末試験(Final Exam)：40%

予習復習時間

授業関連映像鑑賞、課題リサーチ、演習予習等で毎週４時間程度の準備学習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

・映像に対する興味を持ち、新旧映画のある程度の知識を有すること。
・言語学習への「能動的かつ持続的な学習意欲」を持ち、それを実行する継続力があること。

Students will be expected to be an integral part of the learning process by taking an active role in all class discussions and activities. Participation will be ensured and encouraged through topical questions, lively discussions, and targeted feedback.

・試験等で履修制限を実施するので、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。

Attending the first lesson is required.

授業計画

第　１回　「映画で学ぶ英語」オリエンテーション
第　２回　日本文化が映画に　The Last Samurai: Introduction, Vocabulary
第　３回　日本文化が映画に　The Last Samurai: Summary, Dictation
第　４回　様々な英語　Crocodile Dundee & My Fair Lady: Vocabulary, Summary
第　５回　様々な英語　My Fair Lady: Song Dictation　　◎復習テスト１
第　６回　異文化理解　Breakfast at TIFFANY ：Vocabulary, Dictation
第　７回　異文化理解　Guess Who’s Coming To Dinner: Introduction, Vocabulary
第　８回　実話が映画に　Patch Adams: Introduction, Vocabulary
第　９回　実話が映画に　Patch Adams: Summary, Dictation
第１０回　実話が映画に　We Bought a Zoo!: Summary, Dictation　　◎復習テスト２
第１１回　アニメーション　Finding Nemo & Spirited Away: Introduction, Vocabulary
第１２回　アニメーション　Spirited Away & Totoro: Summary, Dictation
第１３回　ミュージカル　The Sound of Music: Introduction, Vocabulary
第１４回　ミュージカル　The Sound of Music:　Song Dictation　　◎復習テスト３

オフィスアワー

横浜キャンパス：火曜日・金曜日（昼休み）

授業形態

演習、討議、講義、鑑賞

授業の具体的な進め方

授業の進め方
1. 視聴覚教材を利用したリスニングやディクテーションの演習・解説.
2. 異文化理解（他者理解）に関する解説や対話。
3. ペアワーク、グループディスカッション、講義形式。

関連科目

授業に持参するもの

配布資料、ノート、筆記用具

教科書

参考書

学生へのメッセージ

演習という授業の性質上、平常の受講姿勢が極めて重要である。
提起されるあらゆる課題に対して、真摯かつ能動的に向き合っていく努力が必要とされる。

その他・自由記述欄

文学で学ぶ英語

科目英名	Learning English through Literature
担当者	水戸　俊介　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

アメリカの短編小説に触れながら、作家の生きた時代と社会、作品の歴史的・文化的背景を学びます。授業で扱う作品は、アーウィン・ショーの「夏服を着た少女たち」(1939)です。男女のカップルが口喧嘩をしながらニューヨークのマンハッタンを歩くという、ただそれだけの、特別に何かが起きたりするような物語ではありません。しかしながら、この小説を通して、正確に英文を読む力を身につけるとともに、登場人物の男女の機微やマンハッタンの街並みを想像する力を養うこともできます。小説という虚構世界に没入することで、異世界に住まう作中人物たちに感情移入し、彼らの思考や感情、彼らを取り巻く社会や歴史を自分自身の問題として理解することができます。

達成目標

1. 基本的な英文法の知識を身につけ、英文の文意を概ね説明できる。
2. 英語の談話構造の観点から、英文を理解できる。
3. 小説世界で起きる出来事を自分自身の問題として思考することができる。

成績評価

まとめのテスト（60%）、訳の発表（40%）

予習復習時間

約１ページ分の日本語訳をする。1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

前提とする知識は特にありません。文学に関心のある受講生を希望します。

授業計画

第　１回　オリエンテーション　授業の進め方を説明します。
第　２回　“The Girls in Their Summer Dresses”精読：“Fifth Avenue was shining …”～
第　３回　“Frances patted his arm …”～
第　４回　“Sure …”～
第　５回　“At least once a year …”～
第　６回　“They walked over …”～
第　７回　まとめのテスト&小説に対する質疑応答
第　８回　“He sighed and closed …”～
第　９回　“Everything is all right? …”～
第１０回　“Frances finished her drink …”～
第１１回　“She began to cry …”～
第１２回　“Michael waved to …”～
第１３回　まとめのテスト&小説のテーマ
第１４回　“The Girls in Their Summer Dresses”の感想と総評

オフィスアワー

木曜日 12:30-13:00 講師控え室

授業形態

演習および講義

授業の具体的な進め方

授業計画に基づいてテキストを読みます。

関連科目

授業に持参するもの

学習ノートと辞書

教科書

テキストは配布します。

参考書

夏服を着た女たち　アーウィン・ショー　講談社　1984　978-4061832480

学生へのメッセージ

小説を読む楽しさを知り、英語力もつけていきましょう。

その他・自由記述欄

教授要目

音楽で学ぶ英語	
科目英名	Learning English through Music
担当者	秋山　義典　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

洋楽を聴くひとが最近では減ってきたといわれていますが、この時間では講師の選んだ英語の新旧の名曲を聴いて歌のリズム、ビートを経験することを第 1 の目標にします。第二の目標は歌詞のなかの独特の語句を紹介して、実際の歌の中身を確認する。そのうえで表現上のキーワードに注目する。次にさまざまな感情表現に応用することをめざします。

達成目標

音楽にはきまったリズムとビートがあります。歌いだすと自然に身体が動き出します。コンサートやライブに行くとき身体がおどっていることに気が付くものです。それはどうしてでしょうか？音楽のリズムが人間の身体のリズムに重なり合うからなのです。普通に話す英語にも決まったリズムとビートがあるのです。身体が英語を話すような感覚が音楽と英語に共通する感じといえるでしょう。英語のリズムを音楽のビートで感じ取る体感を目標としたいと思います。洋楽を聴くことで英語がより身近に感じられるになり、英語のリズムや発音について新しい理解を享受できるようになります。特に英語の音やリズムを習ったことのない人には有益であろう。

成績評価

授業への参加度　３０％　試験　50％　授業中の提出物など　20％

予習復習時間

予習ではハンドアウトを精読して配布したレジュメのポイントをチェックして独力で歌い手の英語を理解した状態で講義に臨むこと。取り上げる課題を YouTube などで予習復習可能である。１時限授業につき、４時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

英語を身体で覚えることに関心のあるひとに向いている。音楽は yoga やダンスによく似ている。声やのどを使って英語を体感しよう。具体的には声に出して歌ってみることである。英語の詩の内容も注目すること。音楽に興味があるひと、洋楽アーティストに関心を持つひとには授業の中身も素直に自分のなかに入っていくと思う。

授業計画

第　１回　　「音楽で学ぶ英語」とは何か。イントロダクション
第　２回　　恋のはじまり：マドンナ『ライク・ア・ヴァージン』
　若いときのマドンナの名曲
第　３回　　70 年代を代表する絶唱：ビリー・ジョエル『オネスティ』
　アメリカ的なキーワード
第　４回　　離れたこころはもう二度ともどせない：イーグルス『ホテル・カリフォルニア』
　ティファニーのねじれ？メルセデスベンツの曲線？意外な内容を発見！
第　５回　　危険な台詞が連呼？：ポリス『エブリ・ブレス・ユー・テイク』
　元恋人にささげる息苦しいラブソング。内容聴いて、きみも恋愛劇のジェラシーのヒロイン、ヒーローに！
第　６回　　むかしの彼女がなつかしい？今のきみはどうなったのか？：
エルビス・コステロ『アリソン』むかしのきみは消えてほしいなんて。
第　７回　アルコール中毒、離婚、学校中退：
　トレイシー・チャップマン『ファスト・カー』あなたはスピードの出る車をもっているから。
第　８回　　失恋の痛み。あなたのいない人生なんて生きていけない：
　マライア・キャリー『ウィズアウト・ユー』
第　９回　　男と女の遠い距離感：
　ゴティエ『むかし、知り合いだったヒト』YouTube も興味深々
第１０回　　なつかしいビートルズの曲を彷彿させるポールの最新ヴァージョン：
　ポール・マッカートニー『ニュー』
第１１回　　アメリカがベトナム戦争に入ったころ：
　マーヴィン・ゲイ『ワッツ・ゴーインオン』
　一度聴いたら、1 週間は脳裏をかけめぐる名曲
第１２回　　ソウルの王様：
　ジェイムズ・ブラウン『アイ・ガッチュー』砂糖とスパイスのようなリズム
第１３回　　イギリスの労働階級による曲と詩が意外な組み合わせ」：
　ブルース・フォーンズビー＆ザ・レンジ『ザ・ウェイ・イティイズ』
　人種問題を歌いながら「人生そんなものさ」とシニカルに歌い上げる渋い一曲
第１４回　　「音楽で学ぶ英語」のレビューとリクエストの多い曲の復習

オフィスアワー

月曜日　16：45～

授業形態

ハンドアウトを使って、内容を一読、原曲を聴きながら、必要箇所の書き取りなど行い、単語のスペルと音を考察する。

授業の具体的な進め方

ハンドアウトを配布して、それをもとに原曲を聴きながら、重要な表現や英語の音の連鎖などに注意を向けるように講義形式で進めていく。ときに各自で原曲を聴きながら、声に出して歌ってみること。声に出して読むことがたいへん重要である。前半は、わかりやすいビートルズの名曲も取り上げて、入門編とする。後半は、最近のヒットポップスも紹介する予定

関連科目

『映画で学ぶ英語』、Communication Skills (1)(2)

授業に持参するもの

電子辞書、決められたハンドアウトを持参する

教科書

参考書

怖いくらい通じるカタカナ英語の法則　池谷裕二　講談社　　9784062575744
ネィティブもその気なる 3 語の英会話　D・セイン　青春出版社　　978-4413019606
改訂 CD 版英語耳　　9784048688635

学生へのメッセージ

聞くだけでは分からない聞こえるだけでは十分わからない英語の世界観があるのです。歌の行間に秘められた意味、隠されたエピソードなども紹介し、アーティストたちの熱い思いに少しでも迫る試みに挑みながら、講師が自らかき集めた洋楽の現在形と過去の名曲を淡々と紹介します。

その他・自由記述欄

教授要目

Cultural Comparison	
科目英名	Cultural Comparison
担当者	鈴木　夏実　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本授業の中心課題は、異なる文化を持つ人々と、いかに相互主体的コミュニケーションを展開することができるかです。相互主体的なコミュニケーションとは、どちらか一方が主張し、他方は従うというコミュニケーション、あるいは互いに主張しあうだけで相手を受け入れようとしないコミュニケーションではなく、お互いにイニシアティブを取り合って適切に自分を表現しあうコミュニケーションです。今、世界の人々には、自分の文化の境界線を越えてコミュニケーションをとる機会が急速に増えています。海外旅行、ホームステイ、留学、ビジネス、国際結婚などを体験するのは限られた人ではありません。だれにでも異文化間コミュニケーションの機会が訪れるのです。様々な文化を比較し、分析することで、潤滑な異文化間コミュニケーションの可能性を探ります。

The focus and primary goal of this course will be to cultivate a spirit of mutual understanding among cultures. Students will discuss various psychological, sociological, and cultural factors in order to assess the similarities and differences occurring in two or more different cultures and societies.

達成目標

本授業では、異文化間コミュニケーションの基本的なトピックと技能に習熟することによって、文化背景の異なる人々に対する開かれた態度を養い、彼らとのコミュニケーションに参加する意欲を喚起します。同時に、自らの文化を深く見つめることによって、自分の文化への洞察力を養います。

-Students will read and discuss a variety of cross-cultural research, as well as draw on personal experiences to explore the hidden cultural premises governing our lives.

-Students will increase their understanding of cross-cultural communication and international relationships, while broadening their international perspective.

成績評価

・授業参加度(Participation)を 30%、課題(Assignment)を 30%、定期試験(Final Exam)を 40%で評価します。

予習復習時間

・リサーチ、課題作成など毎週２時間程度の自宅学習を必要とします。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

・話し合いに意欲的に参加して自分の考え・意見を構築し、積極的に発言することを要望します。

・英語資料や洋画を多用します。英語への興味や、英語力向上の意識をもって受講してください。

Students will be expected to be an integral part of the learning process by taking an active role in all class discussions and activities. Participation will be ensured and encouraged through topical questions, lively discussions, and targeted feedback.

授業計画

第　１回　異文化コミュニケーションについて (Cross-cultural Communication)
オリエンテーション　異文化比較とは？ (Introduction & Orientation)
第　２回　文化とコミュニケーション (Culture & Communication)
カルチャーショック 1(Culture Shock1)
第　３回　カルチャーショック 2(Culture Shock2)
集団主義と個人主義　(Collectivism vs Individualism)
第　４回　集団主義と個人主義　(Collectivism vs Individualism)
第　５回　ステレオタイプ (Cultural Stereotypes)
第　６回　コミュニケーションスタイル：ノンバーバル・コミュニケーション(1)
(Communication Style: Non-Verbal Communication (1))
第　７回　コミュニケーションスタイル：ノンバーバル・コミュニケーション(2)
(Communication Style: Non-Verbal Communication (2))
第　８回　ハイ・コンテクストとロー・コンテクスト (Context: High vs. Low)
第　９回　ターンテイキング (Taking Turns)
第１０回　ことばと人格 (Language & Personality)
第１１回　ほめる・ほめ言葉に応える (Self-Expression for Effective Communication)
第１２回　感謝と謝罪 (Showing Appreciation & Making Apologies)
第１３回　アサーティブ・コミュニケーション(1) (Assertive Communication (1))
アサーティブ・コミュニケーションの国からやってきた
第１４回　アサーティブ・コミュニケーション(2) (Assertive Communication (2))
アサーティブ・コミュニケーションの達人になる

オフィスアワー

Tuesday & Friday: 12:15-13:15

授業形態

・授業は討議形式で行います。
・座席は教師が随時指定します。
・3 人（又は 6 人）グループを、話し合いの単位とします。
Pair-work, group-work, & class discussion

授業の具体的な進め方

・視覚教材を多用します。
・シュミレーションを実施します。(クラス人数により、実施回数や内容の変更があります。)
・グループディスカッションを通して、自分の意見の確認や他者の違う視点の共有を繰り返します。
・聴く、発言する、書きとめる作業で意見をまとめるトレーニングをします。

関連科目

授業に持参するもの

・教科書は使用しませんが、毎回資料を配布します。紛失しないように授業用のバインダー、又はフォルダーを用意してください。
・参考書は随時紹介します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

・話し合いに意欲的に参加して自分の考えを築き、積極的に発言することを要望します。
・各テーマについて、自分の意見や疑問を持ち、それを書きまとめる習慣をつけましょう。

その他・自由記述欄

・各テーマ終了時にコメントシートを提出。提出回数とコメント内容は成績の一部とします。
・定期試験は記述式。持ち込み禁止。

教授要目

Modern Society	
科目英名	Modern Society
担当者	吉田　国子　〈yoshida@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

「今」話題になっている事柄について、異なる英語メディアを通じて情報を得て、理解し、批判的に読み込こむための基礎的な技能と知識を獲得するために、大量の聴解と読解を行う

達成目標

英語ニュースの概要が適切な補助的手段を使いながらわかるようになること

成績評価

クラスへの貢献、小テスト（４０％）、期末テスト（６０％）

予習復習時間

一コマの授業に対して４時間の自習を必要とする

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

英語メディアに対する興味関心。授業外で英語に触れる機会を作れること

授業計画

第　１回　ガイダンス　身近にある英語メディアの紹介
第　２回　日本の今　日本の大学生（音声映像メディア）
第　３回　日本の今　日本の大学生（活字メディア）
第　４回　日本の今　若者の生き方（音声映像メディア）
第　５回　日本の今　若者の生き方（活字メディア）
第　６回　中間レビュー
第　７回　世界の今　世界の大学生（音声映像メディア）
第　８回　世界の今　世界の大学生（活字メディア）
第　９回　世界の今　若者の生き方（音声映像メディア）
第１０回　世界の今　若者の生き方（活字メディア）
第１１回　中間レビュー
第１２回　日本と世界　日本と世界の若者の関わり（音声映像メディア）
第１３回　日本と世界　日本と世界の若者の関わり　（活字ディア）
第１４回　期末レビュー

オフィスアワー

木曜日昼休み

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

履修生の積極性を高く評価し、できるかぎり英語で授業を行う

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

英語メディアの中の情報は、背景知識がないと理解が難しいので、普段から日本語のニュース報道に関心を持って欲しい。履修希望者は初回授業に必ず出席のこと。

その他・自由記述欄

Modern Society	
科目英名	Modern Society
担当者	鈴木　夏実　〈〉
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要

・この授業では、現代人が直面している様々な話題（健康、環境、テクノロジー、社会など）を、新聞、雑誌、ＴＶニュース、インターネットニュースなどを通して学びます。
・内容の要約や自分の意見を発表する等の活動を通じて、聞く、話す、読む、書く、の英語の４技能と語彙の総教を目指します。また、様々な社会問題をクリティカルに捉える視点を養います。
In this course students will be able to learn about current social issues through newspapers, magazines, TV news, and Internet news. Students will be engaged in activities such as summarizing and expressing own views to improve their four skills (listening, speaking, reading, and writing) and vocabulary. Training on critical thinking will also be offered.

達成目標

・世界で使われている英語情報を正確に迅速に入手し、活用できる力を養成する。
・英文を理解し、それについての意見を平易な英語で表現できること目指す。
Students will be able to read and listen to news in English effectively and to summarize main points of writing and speaking. In addition, students will be able to broaden their awareness by accessing a variety of opinions.

成績評価

・授業への出席(Attendance) (15%)
・積極的参加度(Participation) (25%)：①リーディングテスト２回実施　②筆写課題提出２回
・課題への取り組み(60%)：振り返りテストを２回実施します。

予習復習時間

・毎週 120 分以上：各ユニットの映像鑑賞とリーディング練習、演習問題の予習

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

・授業外でも、国内外の英語情報(TV, Internet, newspaper, international events, etc.)に注意を向け、実際に英語情報を自分の生活に生かす体験をするように心がける事。
・継続的学習は、言語習得の必須条件です。出席と積極的授業参加を重視します。
・Reading & Listening スキルアップのための音読トレーニングをします。
・初回授業で講義内容、受講心得などを説明します。
Students are required to follow the classroom rules in order to create an effective classroom environment. Don't miss the first day of the class, since the detail of course structure will be explained on that day.

授業計画

第　１回　Orientation
UNIQLO Aims High (introduction)
第　２回　UNIQLO Aims High
第　３回　Texting & Driving… It Can Wait
第　４回　Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals
第　５回　Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals　*Reading Check 1
第　６回　A Wave of Asian Immigrants
第　７回　Facebook Envy (introduction)　*Review Test1
第　８回　Facebook Envy
第　９回　Smart Networking Tips
第１０回　Smart Networking Tips　*Reading Check 2
第１１回　Law Students Struggle to Find Work
第１２回　Carbon Dioxide Making Oceans More Acidic
第１３回　"Technovation" Aims to Get More Women in the Tech Workforce
第１４回　"Technovation" Aims to Get More Women in the Tech Workforce　*Review Test2

オフィスアワー

Tuesday & Friday 12:30-13:20

授業形態

Pair-work, group-work, & class discussion

授業の具体的な進め方

・テキスト付属 DVD と音声教材 CD を多用し、ディクテーション（書き取り）と音読トレーニングをします。
・インターネットや新聞などを活用し、テーマについての検索、調査力をつけます。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

CBS News Break 2　熊井信弘　SEIBIDO　2015/01　978-4-7919-3388-4

参考書

学生へのメッセージ

・今ホットな問題は何か、そのために必要な視点は何か、視野を広げ、英語力を磨きましょう。

その他・自由記述欄

教授要目

科学技術英語	
科目英名	Sci-Tech English
担当者	三幣　友行　〈tmykmns@yahoo.co.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

科学技術に関する英文を読みながら、科学技術に関する論文や新聞を読むための語彙力、読解力の向上を目的とする。なお、本講義は少人数クラス（1クラス 20 人以下）で行う。

達成目標

科学技術に関する専門的な内容の英文を読む力をつけながら、英語の総合的な読解力を向上させる。

成績評価

平常点３０％、小テスト点２０％、期末試験５０％を総合的に評価する。

予習復習時間

１回（１００分）の授業に対して 4 時間の自学自習が必要となる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　授業に関する説明
第　２回　Bare Bones
第　３回　Mummy Mystery
第　４回　Swim with Seahorses
第　５回　Mission to Mars
第　６回　Feed the World
第　７回　Into the Rain Forest
第　８回　中間のまとめ
第　９回　Turn Up the Heat
第１０回　Free Fall
第１１回　THe Hidden Lives of Leaves
第１２回　Getting the Shot
第１３回　Attack of the Germs
第１４回　これまでのまとめ

オフィスアワー

月曜日：１６：５０～１７：５０　その他相談に応じる

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

最初に前回の学習範囲の小テストを行い、リーディング演習、解説を行う。

関連科目

英語科目全般

授業に持参するもの

教科書、辞書、筆記用具

教科書

Science Frontiers　Keiko Hattori　センゲージラーニング　2016
ISBN978-4-86312-289-5

参考書

学生へのメッセージ

科学技術に関する基本的な英語読解能力をつけたい受講者を歓迎します。また、少人数クラス（20 名以下）で授業を行うことで教育効果を高めることを目的として、初回授業時に選抜を行うことがあるため、必ず出席すること。

その他・自由記述欄

予習を前提として授業を進めるので、必ず予習はしてください。

教授要目

中国語(1)	
科目英名	Chinese(1)
担当者	黄　愛華　〈t8a10m9y8@pony.ocn.ne.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要
中国語の発音と最基本文法
Targeting learners of Chinese at a basic or low level, this lecture is designed to cover the grammar items included in current textbooks for beginning learners of Chinese in Japan. Textbooks for learners of Chinese at a basic and low level are used for class. This lecture aims to improve learners' communicative abilities through intensive training in listening, speaking and reading.
達成目標
中国語の発音を把握、簡単の自己紹介ができるようになること
成績評価
平常点（出席、小テスト）５０％　期末テスト５０％
予習復習時間
毎日 10 分教材についている音声を聞くこと　復習、宿題、練習問題、小テスト勉強などの時間が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
教材についているＣＤをよく聞くこと
授業計画
第　１回　中国語全体の話、発音記号(ピンイン)、単母音の学習
第　２回　母音、アクセント
第　３回　子音、発音の組み合わせ
第　４回　発音のルール
第　５回　発音の総合練習
第　６回　中国語の基本語順、よく使う挨拶語
第　７回　第一課　あいさつする
第　８回　第一課ポイント、練習問題
第　９回　中国映画鑑賞
第１０回　第二課　名前を尋ねる
第１１回　第二課ポイント、練習問題
第１２回　第三課　食べたいものを尋ねる
第１３回　第三課ポイント、練習問題
第１４回　学習確認
オフィスアワー
応じます。事前連絡があれば尚良い
授業形態
教科書、配布資料に基づく講義
授業の具体的な進め方
「中国語１」は発音と基本文法が中心になります。発音は教科書に従い先生の発音をリピート、記憶し、自分で発音もできるようにしていきます。第４課以後、教科書に従い、各課の単語、本文、ポイント、練習問題の順に学習していきます。各課にオリジナルプリントを使ってマスターしていきます。
関連科目
授業に持参するもの
カメラなど、板書を書き移しきれない時に活用してください。
教科書
できる・つたわるコミュニケーション中国語　岩井伸子　胡興智　白水社　２０１５年
９７８－４－５６０－０６９３５－６
参考書
学生へのメッセージ
中国語は今後の仕事に生活に役立つ言語であるので、ぜひ身につけてほしいと思います。
その他・自由記述欄
中国語ははじめて学ぶ言語です。間違って当たり前、恥ずかしがらず、声出して一緒に頑張りましょう。

把握状況に応じて、進度調整を致します。

中国語(1)	
科目英名	Chinese(1)
担当者	孫　玲　〈〉
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要
この講義は初級の教科書を用いながら、特に日常で頻繁に使用される文法事項を習得していくことを重視しています。基本となる文法事項に加え、中国語の聞き取りや会話、読解能力を同時に向上させ、より実用的な能力を身につけることを目的とします。
達成目標
リスニングと筆記をポイントとして、中国語検定準４級レベルに達することを目標とします。
成績評価
小テストの平常点や出席率と期末試験成績によって評価を行います。
予習復習時間
１時限分の授業に対して２時間の自学自習が必要です。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
会話の朗読練習をするときは大きな声を出すこと。宿題だけではなく、授業で学んだ内容を都度、自主的に復習することを期待します。
授業計画
第　１回　第１ユニット
発音①　簡体字、中国語の発音、ピンイン)、声調、単母音、複合母音
第　２回　発音②　音節の構造、子音（有気音、無気音）
第　３回　発音③　鼻母音、アル化、声調の組み合わせ
第　４回　声調の変化、挨拶言葉、第１ユニットのまとめ
第　５回　第２ユニット
人称代名詞、動詞“是”を用いる文、“ma”を使った疑問文
第　６回　本文「あいさつする」とトレーニング
第　７回　疑問詞疑問文「何を、誰」、人の呼び方、構造助詞“的”の用法、
第　８回　本文「名前を尋ねる」とトレーニング
第　９回　動詞述語文、副詞“也”、省略疑問文、
第１０回　本文「食べたいものを尋ねる」とトレーニング
第１１回　形容詞述語文、曜日の言い方、尋ね方
第１２回　本文「近況を尋ねる」とトレーニング、
第１３回　自己紹介
第１４回　第２ユニットのまとめ、総復習
オフィスアワー
月曜日（授業終了後に質問等を受け付けます）
授業形態
講義、演習、グループワーク
授業の具体的な進め方
関連科目
授業に持参するもの
教科書
『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』　岩井伸子／胡　興智著　白水社
参考書
学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

教授要目

中国語(2)	
科目英名	Chinese(2)
担当者	黄　愛華　〈t8a10m9y8@pony.ocn.ne.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

基礎文法、基本表現の一部分を学習する。
Targeting learners of Chinese at a basic or low level, this lecture is designed to cover the grammar items included in current textbooks for beginning learners of Chinese in Japan. Textbooks for learners of Chinese at a basic and low level are used for class. This lecture aims to improve learners' communicative abilities through intensive training in listening, speaking and reading.

達成目標

学習した表現を活用し、自分の状況を書き、話せるようになること

成績評価

平常点（出席、小テスト）５０％　期末テスト５０％

予習復習時間

毎日 10 分教材についている音声を聞くこと　復習、宿題、練習問題、小テスト勉強などの時間が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

教科書についているＣＤをよく聞くこと。ニュースや新聞の中国に関する記事を関心持って読むこと

授業計画

第　１回　中国語１復習
第　２回　第四課　近況を尋ねる
ポイント
第　３回　第四課練習問題
復習１　第一課～第四課
第　４回　第五課　予定を尋ねる
ポイント
第　５回　第五課練習問題
第六課　場所を尋ねる
第　６回　第六課ポイントと練習問題
第　７回　中国関連映像鑑賞
第　８回　中国関連映像鑑賞
第　９回　第七課　注文する
ポイント
第１０回　第七課練習問題
第八課値段の交渉をする
第１１回　第八課　ポイントと練習問題
第１２回　復習２　第四課～第八課
第１３回　総復習
第１４回　学習確認

オフィスアワー

応じます。事前連絡があれば尚良い

授業形態

教科書、配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

各課の単語、本文、文法現象、ポイント、練習問題の順で進みます。単語や本文はよく声を出して読んで、練習問題はみなさんに発表していただく。

関連科目

授業に持参するもの

カメラなど、板書を書き移しきれない時に活用してください。

教科書

できる・つたわるコミュニケーション中国語　岩井伸子　胡興智　白水社　２０１５年
９７８－４－５６０－０６９３５－６

参考書

学生へのメッセージ

中国語は今後の仕事に生活に役立つ言語であるので、ぜひ身につけてほしいと思います。

その他・自由記述欄

私は皆様の中国語学習に力いっぱいお助けします。学生のみなさんも頑張っていただきたいと思います。
把握状況に応じて、進度調整を致します。

中国語(2)	
科目英名	Chinese(2)
担当者	孫　玲　〈〉
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

この講義は初級の教科書を用いながら、特に日常で頻繁に使用される文法事項を習得していくことを重視しています。基本となる文法事項に加え、中国語の聞き取りや会話、読解能力を同時に向上させ、より実用的な能力を身につけることを目的とします。

達成目標

リスニングと筆記をポイントとして、中国語検定４級レベルに達することを目標とします。

成績評価

小テストの平常点や出席率と期末試験成績によって評価を行います。

予習復習時間

１時限分の授業に対して２時間の自学自習が必要です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

会話の朗読練習をするときは大きな声を出すこと。宿題だけではなく、授業で学んだ内容を都度、自主的に復習することを期待します。

授業計画

第　１回　第１ユニット
疑問詞“どこ”、時刻の言い方と数詞、前置詞“和”～と
第　２回　本文「予定を尋ねる」とトレーニング
第　３回　指示代名詞①、存在をあらわす“在”
第　４回　本文「場所を尋ねる」とトレーニング
第　５回　所有を表す“有”、と存在を表わす“有”、数量の言い方
第　６回　本文「注文する」とトレーニング、
第　７回　第１ユニットのまとめ
第　８回　第２ユニット
指示代名詞②、いろいろな量詞
第　９回　値段の言い方・尋ね方
第１０回　本文「値段の交渉をする」とトレーニング
第１１回　動作が発生したことを表わす“了”、連動文
第１２回　本文「出来事を尋ねる」とトレーニング
第１３回　学校の生活
第１４回　第２ユニットのまとめ

オフィスアワー

月曜日（授業終了後に質問等を受け付けます）

授業形態

講義、演習、グループワーク

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』　岩井伸子／胡　興智著　白水社

参考書

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

韓国語(1)

科目英名	Korean(1)
担当者	李　ジョンソン、水嶋
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

韓国語初級クラス。文字や発音の基礎に続き、基本的な挨拶表現、基礎語彙、基礎文法を学ぶ。なお、韓国の文化、社会などに付いて理解を深めていく。

達成目標

韓国語の文字や語彙、文法の基礎を身につける。簡単な表現を学習し、実践でも使えるようにする。「聞く、話す、読む、書く」の言語4技能の総合的な学習を通じ、コミュニケーション能力を養成する。

成績評価

小テスト、授業態度及び授業への参加度、課題の完成度などにより総合的に評価する。

予習復習時間

毎回、予習、復習の内容を授業時に指示する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

韓国語の学習が初めての人を対象とするが､少し学習経験があっても初級レベルであれば履修可能。

授業計画

第　１回　韓国語、ハングルの概要
第　２回　基本母音、基本母音を使った基礎単語
第　３回　基本子音
第　４回　基本子音と基本母音の組み合わせ練習
第　５回　終声（パッチム）
第　６回　合成母音
第　７回　文字のまとめ
第　８回　挨拶表現
第　９回　第一課　簡単な自己紹介
第１０回　第二課　①　指示詞（これ、それ、あれ、どれ）
　　②　誰のですか。
第１１回　第二課　③　誰ですか。
　　④　名前は何ですか。
第１２回　第三課　存在詞　①　パソコンがありますか。
　　②　彼女もいますか。
第１３回　第三課　存在詞　③　どこにありますか。/いますか。
　　④　東京駅の前にあります。/います。
第１４回　総まとめ

オフィスアワー

李：　火曜　14時30分から17時、　　木曜　10時20分から17時
水嶋　月曜　10時20分から17時

授業形態

講義及び演習

授業の具体的な進め方

・講義及び演習形式で授業を進めて行く。
・授業の始めに、前回の内容を復習し、新しい内容に進む。授業の最後にその日の内容をまとめる。
・韓国映画、ドラマなどを通じて文化、社会などに触れる時間を設ける。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

教科書

よくわかる韓国語 STEP 1　入佐信宏・文賢珠　白帝社　2002　4-89174-587-8

参考書

学生へのメッセージ

積極的に授業に取り組むこと。

その他・自由記述欄

韓国語(2)

科目英名	Korean(2)
担当者	李　ジョンソン、水嶋
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

韓国語(1)で学んだ基礎文法、基礎表現に基づいて、日常で使えるコミュニケーション能力を身につける。

達成目標

韓国語(1)で学習してきた表現、語彙を確立させ、日常会話や読解力に活かせるようにする。

成績評価

学習態度、授業への参加度、課題の完成度、小テストなどにより総合的に評価する。

予習復習時間

毎回、予習、復習する内容を授業時に指示する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

ハングルが読めること。または、韓国語(1)を履修していること。

授業計画

第　１回　韓国語(1)復習
第　２回　第４課　用言の活用（１）
　　①何をしますか。
　　②学校で勉強をします。
第　３回　第４課　③飲みません。
　　④副詞（少し/たくさん）
⑤有効に使える副詞（よく/ほとんどなど）
第　４回　第５課　用言の活用（２）
　　①東大門市場は安いですか。
第　５回　第５課　②難しくありません。
　　③家族と食べます。
第　６回　まとめ―①
第　７回　第６課　疑問視、数詞など
　　①趣味は何ですか。
　　②誕生日はいつですか。
第　８回　第６課　③携帯はありますか。
　　④何番ですか。
第　９回　第７課　曜日、時間
　　①何時ですか。
　　②７時に起きます。
　　③９時から３時までです。
第１０回　第７課　④いいえ、来ません。
第１１回　まとめ―②
第１２回　第８課　状態・状況に関する表現
　　①天気が良いです。
　　②忙しくありません。
第１３回　第８課　③家は学校から遠いですか。
　　④バスで３０分かかります。
第１４回　まとめ―③

オフィスアワー

李：火曜　14時30分から17時、　木曜　10時20分から17時
水嶋：　月曜　10時20分から17時

授業形態

講義及び演習

授業の具体的な進め方

・講義により授業を進めていく。
・毎回授業のはじめに復習をし、新しい内容に進む。授業の最後にその日の内容をまとめる。
・韓国映画、ドラマ、音楽などを観て、聴く時間を設ける。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

教科書

よくわかる韓国語　入佐信宏・文賢珠　白帝社　2002　4-89174-587-8

参考書

学生へのメッセージ

積極的に授業に取り組むこと。

その他・自由記述欄

教授要目

基礎体育(1)	
科目英名	Physical Education(1)
担当者	久保　哲也　〈kubo@tcu.ac.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

チームスポーツであるバスケットボールを題材として、集団の中で各々の役割を認識させることによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とする。スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらう。

The purpose of this course is to train for sustaining and increasing physical strength.

達成目標

①バスケットボールの基本技術を習得する。
②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。
③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

授業態度(授業に対する積極性や貢献度、参加状況、安全に対する配慮等)が 40%、技能((基本技術の習得、各自の目標達成度)が 30%、理論(ルール・マナーの理解、レポートによる評価等)を30%とし、総合的に評価する。

予習復習時間

1回(1時限)の授業に対して4時間の自学自習が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　体力測定
第　3回　個人技能のレベルアップ
・シュート、ドリブル、リバウンド、パッシング等
第　4回　個人技能のレベルアップ
・不得意な技術の補正
第　5回　個人技能のレベルアップ
・得意な技術を伸ばす
第　6回　チームのレベルアップ
・チーム分け
・オフェンスの基本プレー
第　7回　チームのレベルアップ
・オフェンスの基本プレー
第　8回　チームのレベルアップ
・3対3でのハーフコートバスケットボールゲーム
第　9回　チームのレベルアップ
・対人防御と対人防御に対する攻撃法
第１０回　チームのレベルアップ
・地域防御と地域防御に対する攻撃法
第１１回　チームのレベルアップ
・各々のチームに適した戦術を使ってのプレー
第１２回　チームのレベルアップ
・速攻攻撃法
第１３回　ゲームを楽しむ
・ルールの確認
・審判法
第１４回　まとめ

オフィスアワー

（金）3限、4限

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

バスケットボールを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えている。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解して欲しい。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行うので、上記の内容は多少前後する。

関連科目

基礎体育（2）、応用体育（1）、応用体育（2）、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

体育館専用シューズを着用すること。
服装は一般的な運動着とする。
1回目の授業時に顔写真（縦4cm×横3cm）を持参すること。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

チームを作るため、欠席や遅刻はしないようにすること。

その他・自由記述欄

基礎体育(1)	
科目英名	Physical Education(1)
担当者	波多野　圭吾　〈khatano@tcu.ac.jp〉
単位数	単位
開講時期	1年前期

科目概要

チームスポーツであるフットサルを題材に、その基本的な技術を習得するとともに、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。また、スポーツの楽しみ方を理解し、周囲とのコミュニケーションを深めながら、スポーツを通じた豊かで充実した人生を形成することの大切さを学ぶ。

The purpose of this course is to train for sustaining and increasing physical strength.

達成目標

（1）フットサルの基本的な技術を習得する
（2）フットサルに主体的に取り組み、ゲームをする楽しさを味わう
（3）生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う

成績評価

毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢)を40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか）を40%、「技術の習得」を20%として評価する。

予習復習時間

実技科目のため、週1時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。

授業計画

第　1回　オリエンテーション（本科目の目的など）
第　2回　体力測定
第　3回　キック技術の習得（インサイドキック、インステップキックなど）
第　4回　パス技術の習得１（対面パス、対列パスなど）
第　5回　パス技術の習得２（２対１のボールまわし、３対１のボールまわしなど）
第　6回　シュート技術の習得１（ドリブルシュート、ポストシュートなど）
第　7回　シュート技術の習得２（ピヴォ当て・ファー詰めなど）
第　8回　オフェンス技術の習得（２対１、３対２など）
第　9回　ディフェンス技術の習得（マンマーク、ゾーンディフェンスなど）
第１０回　リーグ戦１（個人技能の発揮を意識して）
第１１回　リーグ戦２（チームメイトとのコミュニケーションを意識して）
第１２回　リーグ戦３（チームオフェンスを意識して）
第１３回　リーグ戦４（チームディフェンスを意識して）
第１４回　総括

オフィスアワー

月曜日、木曜日の昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

フットサルの基本技術の習得を目指すとともに、ゲームに関するルールやマナーを学ぶ。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じて学生相互の理解や協調性の習得を目指す。
履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記の計画は多少前後することや変更することも考えられる。

関連科目

基礎体育（2）、応用体育（1）、応用体育（2）、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

服装は一般的な運動着を着用し、フットサルに適した運動靴を着用すること。
初回の授業時に顔写真（縦４cm×横３cm）を持参すること。

教科書

なし

参考書

フットサルクリニック　市原誉昭　高橋書店　2004　978-4471140908

学生へのメッセージ

チームを作るため、欠席や遅刻はしないようにして下さい。

その他・自由記述欄

授業に必要な資料等は随時配布します。
実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

教授要目

基礎体育(1)	
科目英名	Physical Education(1)
担当者	波多野　圭吾　〈khatano@tcu.ac.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

チームスポーツであるバスケットボールを題材に、その基本的な技術を習得するとともに、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。また、スポーツの楽しみ方を理解し、周囲とのコミュニケーションを深めながら、スポーツを通じた豊かで充実した人生を形成することの大切さを学ぶ。

The purpose of this course is to train for sustaining and increasing physical strength.

達成目標

（1）バスケットボールの基本的な技術を習得する

（2）バスケットボールに主体的に取り組み、ゲームをする楽しさを味わう

（3）生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う

成績評価

毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢) を 40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか) を 40%、「技術の習得」を 20%として評価する。

予習復習時間

実技科目のため、週１時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。

授業計画

第　１回　オリエンテーション（本科目の目的など）

第　２回　体力測定

第　３回　パス技術の習得（チェストパス、ショルダーパスなど）

第　４回　ドリブル技術の習得（スラロームドリブルなど）

第　５回　シュート技術の習得１（ジャンプシュート、レイアップシュートなど）

第　６回　シュート技術の習得２（ミートシュート、リバウンドシュートなど）

第　７回　チームオフェンスの理解１（ツーメン、スリーメン、クリスクロスなど）

第　８回　チームオフェンスの理解２（２対１、３対２、３対３など）

第　９回　チームディフェンスの理解（ゾーンディフェンスなど）

第１０回　リーグ戦１（個人技能の発揮を意識して）

第１１回　リーグ戦２（チームメイトとのコミュニケーションを意識して）

第１２回　リーグ戦３（チームオフェンスを意識して）

第１３回　リーグ戦４（チームディフェンスを意識して）

第１４回　総括

オフィスアワー

月曜日、木曜日の昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

バスケットボールの基本技術の習得を目指すとともに、ゲームに関するルールやマナーを学ぶ。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じて学生相互の理解や協調性の習得を目指す。

履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記計画は多少前後することや変更することも考えられる。

関連科目

基礎体育（2）、応用体育（1）、応用体育（2）、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

服装は一般的な運動着を着用し、体育館専用シューズを着用すること。

初回の授業時に顔写真（縦４cm×横３cm）を持参すること。

教科書

なし

参考書

バスケットボール練習メニュー２００　小野秀二　池田書店　2009　978-4262163260

学生へのメッセージ

チームを作成するため、欠席や遅刻はしないようにしてください。

その他・自由記述欄

授業に必要な資料等は随時配布します。

実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

基礎体育(1)	
科目英名	Physical Education(1)
担当者	狩野　豊　〈kano@pc.uec.ac.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年前期

科目概要

チームスポーツであるフットサルを題材として、体力の維持向上を養うとともに、集団の中で各々の役割を認識することによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とします。また、スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらいます。

Futsal is team sports and is suitable to develop a physical fitness and communicative competence. The purpose of this class is support a physical fitness and to promote sense of cooperation/sociability by recognizing each role among group.

達成目標

①フットサルのルールと基本技術を習得する。

②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。

③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

出席状況、授業記録レポート、授業時の態度や積極性並びに技術能力を加味し、総合的に判断します。

予習復習時間

授業前日の体調管理に配慮して下さい。フットサルのルールについては Web 教材などを用いて確認して下さい。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨んで下さい。

授業計画

第　１回　オリエンテーション：種目選択と体力テストの説明

第　２回　体力測定の実施

第　３回　フットサルにおける基本的な動き

・ ルールを確認しながらのゲーム実践

第　４回　個人技能のレベルアップ

・ボールコントロール、シュート、ドリブル、トラップ等

第　５回　個人技能のレベルアップ

・得意な技術を伸ばす

第　６回　〝個人技能のレベルアップ

・1 対 1 の攻防、2 対 1 の攻防

第　７回　チームのレベルアップ

・チーム分け

・パス（敵なし・動きながらのパス）

・パス（敵あり・ボールキープ）

第　８回　チームのレベルアップ

・2 対 2 の攻防、3 対 3 の攻防

第　９回　チームのレベルアップ

・グループでのボール保持及びボール奪取（3 対 1、4 対 1）

第１０回　チームのレベルアップ

・ゾーンディフェンス

・マンツーマンディフェンス

第１１回　ゲームを楽しむ

・ルールの再確認

・審判法

・ゲーム形式の学習

第１２回　ゲームを楽しむ

・チーム戦術 1

第１３回　ゲームを楽しむ

・チーム戦術 2

第１４回　ゲームを楽しむ

・チーム戦術 3

・授業のまとめ

オフィスアワー

月曜日　昼休み時間

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

体力測定・フットサルを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えています。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解しましょう。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行いますので、上記の内容は多少前後します。

関連科目

基礎体育（2)、応用体育、生活と健康、アウトドアスポーツ

授業に持参するもの

体育館シューズ，フットサルシューズ，運動に適した服装

ガイダンス時に説明します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

授業が楽しく展開できるように、仲間との交流や授業参加において、積極的な態度で臨んでもらいたい。

教授要目

基礎体育(2)

科目英名	Physical Education(2)
担当者	久保　哲也　〈kubo@tcu.ac.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

チームスポーツであるバレーボールを題材として、集団の中で各々の役割を認識させることによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とする。スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらいとする。

The aim of this course is to make the students recognize full sport life and give them an opportunity to build the pleasures of team sports.

達成目標

①バレーボールの基本技術を習得する。
②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。
③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

授業態度(授業に対する積極性や貢献度、参加状況、安全に対する配慮等)が 40%、技能((基本技術の習得、各自の目標達成度)が 30%、理論(ルール・マナーの理解、レポートによる評価等)を30%とし、総合的に評価する。

予習復習時間

1回(1時限)の授業に対して4時間の自学自習が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨むこと。

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　個人技能のレベルアップ
・オーバーハンドレシーブ、アンダーハンドレシーブ等
第　3回　個人技能のレベルアップ
・スパイク、バックアタック等
第　4回　個人技能のレベルアップ
・不得意な技術の修正
・得意な技術を伸ばす
第　5回　個人技能のレベルアップ
・サーブ、サーブレシーブ等
第　6回　チームのレベルアップ
・チーム分け
・サーブレシーブからの攻撃
第　7回　チームのレベルアップ
・セッターを決めての練習
第　8回　チームのレベルアップ
・三段攻撃
第　9回　チームのレベルアップ
・コンビネーション攻撃
第１０回　チームのレベルアップ
・ブロックとレシーブのコンビネーション
第１１回　チームのレベルアップ
・スパイクレシーブからの攻撃の組み立て
第１２回　ゲームを楽しむ
・ルールの確認
・審判法
第１３回　ゲームを楽しむ
・リーグ戦
第１４回　まとめ

オフィスアワー

（金）3限、4限

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

バレーボールを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えている。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解して欲しい。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行うので、上記の内容は多少前後する。

関連科目

基礎体育（1)、応用体育（1)、応用体育（2)、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

体育館専用シューズを着用すること。
服装は一般的な運動着とする。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

チームを作るため、欠席や遅刻はしないようにすること。

その他・自由記述欄

基礎体育(2)

科目英名	Physical Education(2)
担当者	波多野　圭吾　〈khatano@tcu.ac.jp〉
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

チームスポーツであるフットサルを題材に、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。特に、学習した基本技術やグループ戦術をゲーム内で発揮できるよう、周囲と協力することを重視する。また、生涯スポーツへの契機となるよう、周囲とコミュニケーションをとりながら将来のスポーツライフの設計、実践ができる能力を育成する。

The aim of this course is to make the students recognize full sport life and give them an opportunity to build the pleasures of team sports.

達成目標

（1）フットサルの基本技術や戦術について理解し、それらをゲームの中で活かすことができる
（2）ゲームをする楽しさを味わい、チームメイトと共有することができる
（3）周囲とコミュニケーションをとりながら、生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う

成績評価

毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢)を40%、「思考・判断・表現」（課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか）を40%、「技術の習得」を20%として評価する。

予習復習時間

実技科目のため、週1時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。

授業計画

第　1回　オリエンテーション（本科目の目的など）
第　2回　キック技術の習得（インサイドキック、インステップキックなど）
第　3回　パス技術の習得（ダイレクトパス、ワンツーパスなど）
第　4回　ドリブル技術の習得（スラロームドリブルなど）
第　5回　シュート技術の習得（ドリブルシュート、ポストシュートなど）
第　6回　オフェンス戦術の理解（パス＆ゴー、オーバーラップなど）
第　7回　ディフェンス戦術の理解（チャレンジアンドカバー、ディレイなど）
第　8回　チームオフェンスの理解（エイト、パラレラ、ジャゴナウなど）
第　9回　チームディフェンスの理解（ダイヤモンド、ボックスなど）
第１０回　リーグ戦１（個人技能の発揮を意識して）
第１１回　リーグ戦２（チームメイトとのコミュニケーションを意識して）
第１２回　リーグ戦３（チームオフェンスを意識して）
第１３回　リーグ戦４（チームディフェンスを意識して）
第１４回　総括

オフィスアワー

月曜日、木曜日の昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

フットサルの基本的な技術や戦術を習得することを目指し、それをゲーム内で発揮できるようにする。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じてフットサルのルールやマナーを学ぶとともに、学生相互の理解や協調性の習得を目指す。
履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記の計画は多少前後することや変更することも考えられる。

関連科目

基礎体育（1)、応用体育（1)、応用体育（2)、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

服装は一般的な運動着を着用し、フットサルに適した運動靴を着用すること。
初回の授業時に顔写真（縦４㎝×横３㎝）を持参すること。

教科書

なし

参考書

フットサルクリニック　市原誉昭　高橋書店　2004　978-4471140908

学生へのメッセージ

チームを作成するため、欠席や遅刻はしないようにしてください。

その他・自由記述欄

授業に必要な資料等は随時配布します。
実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

教授要目

基礎体育(2)	
科目英名	Physical Education(2)
担当者	波多野　圭吾　<khatano@tcu.ac.jp>
単位数	1単位
開講時期	1年後期

科目概要

チームスポーツであるバレーボールを題材に、その基本的な技術を習得するとともに、集団の中で各々の役割を認識することや、協調性や社会性を養う態度の育成を目指す。また、スポーツの楽しみ方を理解し、周囲とのコミュニケーションを深めながら、スポーツを通じた豊かで充実した人生を形成することの大切さを学ぶ。

The aim of this course is to make the students recognize full sport life and give them an opportunity to build the pleasures of team sports.

達成目標

（1）バレーボールの基本的な技術を習得する

（2）バレーボールに主体的に取り組み、ゲームをする楽しさを味わう

（3）生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う

成績評価

毎回の授業における「関心・意欲・態度」(主体的に学習に取り組もうとする姿勢) を 40%、「思考・判断・表現」(課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身につけているか) を 40%、「技術の習得」を 20%として評価する。

予習復習時間

実技科目により、週1時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

実技科目であることから、日頃より健康管理に心がけ、良いコンディションで授業に臨むことを求める。

授業計画

第　1回　オリエンテーション（本科目の目的など）

第　2回　パス技術の習得1（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスなど）

第　3回　パス技術の習得2（打ち込みパス、三角パスなど）

第　4回　サーブ技術の習得（フローターサーブ、サイドハンドサーブなど）

第　5回　レシーブ技術の習得1（スパイクレシーブ、対人レシーブなど）

第　6回　レシーブ技術の習得2（3人組対人レシーブなど）

第　7回　スパイク技術の習得（助走、投げ上げキャッチ、直上トスなど）

第　8回　チームオフェンスの理解（レシーブからのトスアップなど）

第　9回　チームディフェンスの理解（4人でのサーブレシーブなど）

第10回　リーグ戦1（個人技能の発揮を意識して）

第11回　リーグ戦2（チームメイトとのコミュニケーションを意識して）

第12回　リーグ戦3（チームオフェンスを意識して）

第13回　リーグ戦4（チームディフェンスを意識して）

第14回　総括

オフィスアワー

月曜日、木曜日の昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

バレーボールの基本技術の習得を目指すとともに、ゲームに関するルールやマナーを学ぶ。また、毎回のゲームやリーグ戦などを通じて学生相互の理解や協調性の習得を目指す。履修者の体力レベルや上達速度などに応じた授業を行うため、上記の計画は多少前後することや変更することも考えられる。

関連科目

基礎体育（1）、応用体育（1）、応用体育（2）、スポーツ・健康論

授業に持参するもの

服装は一般的な運動着を着用し、体育館専用シューズを着用すること。

初回の授業時に顔写真（縦4cm×横3cm）を持参すること。

教科書

なし

参考書

バレーボールの練習プログラム　福原祐三　大修館書店　1997　978-4469263701

学生へのメッセージ

チームを作成するため、欠席や遅刻はしないようにしてください。

その他・自由記述欄

授業に必要な資料等は随時配布します。

実技科目のため、出席状況にも重きを置きます。欠席や遅刻にも十分留意してください。

基礎体育(2)	
科目英名	Physical Education(2)
担当者	狩野　豊　<>
単位数	単位
開講時期	1年後期

科目概要

チームスポーツであるフットサルを題材として、体力の維持向上を養うとともに、集団の中で各々の役割を認識することによって、協調性や社会性を養う態度を育成することを目的とします。また、スポーツの楽しさ、友人とのコミュニケーション等を通して、スポーツライフの形成の大切さと豊かな充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることをねらいます。

Futsal is team sports and is suitable to develop a physical fitness and communicative competence. The purpose of this class is support a physical fitness and to promote sense of cooperation/sociability by recognizing each role among group.

達成目標

①フットサルの基本技術を習得する。

②運動量を確保すると共に、ゲームをする楽しさを味わう。

③生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

出席状況、レポート、授業時の態度や積極性並びに技術能力を加味し、総合的に判断します。実技科目であるため、出席状況に重きを置きます。

予習復習時間

授業前日の体調管理に充分に配慮して下さい。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃より健康管理に心掛け、よいコンディションで授業に臨んで下さい。

授業計画

第　1回　オリエンテーション：種目選択

第　2回　体力測定

第　3回　個人技能のレベルアップ

・ボールコントロール、シュート、ドリブル、トラップ等

第　4回　個人技能のレベルアップ

・得意な技術を伸ばす

第　5回　個人技能のレベルアップ

・不得意な技術の修正

第　6回　個人技能のレベルアップ

・1対1の攻防、2対1の攻防

第　7回　チームのレベルアップ

・チーム分け

・パス（敵なし・動きながらのパス）

・パス（敵あり・ボールキープ）

第　8回　チームのレベルアップ

・2対2の攻防、3対3の攻防

第　9回　チームのレベルアップ

・グループでのボール保持及びボール奪取（3対1、4対1）

第10回　チームのレベルアップ

・グループでのボール保持及びボール奪取（4対1、4対2）

第11回　チームのレベルアップ

・ゾーンディフェンス

・マンツーマンディフェンス

第12回　ゲームを楽しむ

・ルールの確認

・審判法

・ゲーム形式の学習

第13回　ゲームを楽しむ

・チーム戦術

・ゲーム形式の学習

第14回　ゲームを楽しむ

・リーグ戦によるゲーム

オフィスアワー

月曜日　昼休み

授業形態

実技

授業の具体的な進め方

体力測定・フットサルを題材に、基本的な技術の習得やゲームに関するルールやマナーを学び、チーム・ゲームを通して相互理解や協調性を習得することを考えています。各自の役割を通してチームワークの重要性を理解しましょう。レベルや上達速度、男女比により最適な内容を行いますので、上記の内容は多少前後します。

関連科目

基礎体育（1）、応用体育、生活と健康、アウトドアスポーツ

授業に持参するもの

授業時に必要な資料は随時プリントして配布します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

授業が楽しく展開できるように、仲間との交流や授業参加において、積極的な態度で臨んでもらいたい。前期に引き続き履修する学生は、個々の技能やチーム戦略のさらなる向上を目指して，高い目標を掲げてほしい。

その他・自由記述欄

教授要目

哲学(1)

科目英名	Philosophy (1)
担当者	大野　晃徳　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

「政治学」や「心理学」といった学問は、学問名自体が研究対象を大まかに指し示していますが、「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では、いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では、この根本的な問いに対する答えを、西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

達成目標

哲学は本来、単なる知的な好奇心から生まれたものではないこと、また皆さんにとって無縁なものではなくむしろ身近なものだということを理解するのが目標となります。

成績評価

期末試験（６０点満点。持込参照不可で行います）。小テスト（当日の講義の内容に関連したごく簡単な問題、ないしは諸君の考えを書いてもらう問題で、ノートを参考にしながら解答作成してもかまいません。一回あたり４点満点となり、原則として毎回実施します。また良い成績のものを１０回分採用し、全部で４０点満点となります）。

予習復習時間

予習は不要です。復習はノートの確認・整理で１０分程度（課題等は出しません）。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修にあったって前提となる知識はありません。

授業計画

第　１回　前期講義概要説明（哲学は何を論じる学問か）
第　２回　「哲学」という言葉の由来
第　３回　哲学の源流としての古代ギリシャ思想（ミレトス学派・ピュタゴラス）
第　４回　『パイドロス』への着目
第　５回　哲学誕生の背景としての古代ギリシャ思想(エレア学派･ヘラクレイトスなど)
第　６回　哲学誕生の背景としての古代ギリシャ思想（デモクリトスなど）
第　７回　ソフィストの登場と哲学の誕生
第　８回　哲学のライバルとしての弁論術
第　９回　真の意味での言論の技術
第１０回　書かれた言葉批判と哲学
第１１回　ソクラテスの弁明
第１２回　無知の知
第１３回　アリストテレスの哲学（存在としての存在に関する真理の探究）
第１４回　哲学の根本的特徴・まとめ

オフィスアワー

火曜日 12.20〜13:10
火曜日 12:20〜13：10 木曜日 12:20〜13:20

授業形態

講義形式で行います

授業の具体的な進め方

教科書は使用せず、板書中心に行ってゆきます。

関連科目

倫理学

授業に持参するもの

教科書

参考書

パイドロス　プラトン　岩波書店　1967　400336015X

学生へのメッセージ

たくさん話し、たくさん板書するので、授業中居眠りしている暇などないと思ってください。

その他・自由記述欄

哲学(2)

科目英名	Philosophy (2)
担当者	大野　晃徳　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

このシラバスを書いている「私」は「大野」ですが、だからといって「私」を「大野」と規定することはできません。そんなことをすれば、(「私」と自らを名指す人は何十億といるため）世界は「大野」で溢れかえってしまうからです。では「私」とはどうとらえるべきなのでしょうか。

後期の講義では、この問いに対する解答を、主にデカルトの思索を手掛かりにしながら探し求めてゆきます。

達成目標

「私」という存在の成り立ちや、事物の存在が思いのほか自明ではないこと、また確実な知識を広げてゆくには何が必要となるのかといった点について掘り下げて考え、理解することが目標となります。

成績評価

期末試験（６０点満点。持込参照不可で行います）。小テスト（当日の講義の内容に関連したごく簡単な問題、ないしは諸君自身の考えを書いてもらう問題で、ノートを参照しながら解答を作成して構いません。一回あたり４点満点。原則として毎回実施したうえで、得点の高いものを１０回分採用し、全部で４０点満点となります）。

予習復習時間

予習は不要です。復習はノートの確認・整理で１０分程度。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修にあたって前提となる知識はありません。

授業計画

第　１回　後期講義概要説明（「私」という存在は謎めいている）
第　２回　デカルトについて
第　３回　デカルト『省察』の内容検討（全てを疑うことを可能とする四つの根拠）
第　４回　デカルト『省察』の内容検討（何のために全てを疑うのか）
第　５回　デカルト『省察』の内容検討（方法的懐疑と懐疑論）
第　６回　デカルト『省察』の内容検討（コギトの原理）
第　７回　デカルト『省察』の内容検討（明証性の規則）
第　８回　デカルト『省察』の内容検討（神の存在と誠実さの証明）
第　９回　デカルト『省察』の内容検討（誤謬の原因）
第１０回　デカルト『省察』の内容検討（物質的事物の特徴）
第１１回　デカルト『省察』の内容検討（物質的事物の存在証明）
第１２回　デカルト的「私」とフロイト的「私」
第１３回　フロイト的観点からのデカルト批判
第１４回　鏡像段階に関するラカンの議論とそれを土台としたデカルト批判・まとめ

オフィスアワー

火曜 12:40〜13:10　木曜 12：40〜13：10

授業形態

講義形式で行います

授業の具体的な進め方

教科書は用いず、板書中心で行ってゆきます。

関連科目

倫理学、心理学

授業に持参するもの

教科書

参考書

世界の名著　27 巻　『デカルト　　中央公論新社　1978　4124006373

学生へのメッセージ

普段当たり前だと思ってることについて掘り下げて考える・・・というのは哲学の一つの特徴とも言えますが、この講義の中で皆さんにもそうした特徴を体感してもらえればと思います。

その他・自由記述欄

教授要目

倫理学(1)

科目英名	Ethics (1)
担当者	山本　史華　〈fyama(at)tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期前半

科目概要

倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。
本講義では、倫理学の基礎となる、私と他者の問題、そして両者を架橋する言語の問題を中心に講義する。

達成目標

私の不思議、世界の不思議、言語の不思議を知ること。
他者の何を理解でき、何を理解できないかを考えること。
そして、この講義で述べられたことは本当に正しいのかを批判的に検討できるようになること。

成績評価

基本的にレポートの内容で評価する(レポート100%)。
レポートの課題は二題から一題選択。一題は、下記の教科書の内容から取り上げる。
締め切りは厳守。締め切り後の提出は、原則認めない。
コピペ・無断引用のあるレポートは「不可」とする。
また、予告なしに数回出席をとる。

予習復習時間

教科書をよく読んで復習すること

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし。
高校で「倫理」を履修していなくても大丈夫です。

授業計画

第　１回　講義概要、履修する上での注意点やルール、単位取得についての説明
第　２回　倫理学とはどういう学問か
第　３回　私とは何か(1)　デカルトのコギトから出発しよう
第　４回　私とは何か(2)　デカルト批判の検討
第　５回　私とは何か(3)　寺山修司と谷川俊太郎の問題提起　存在と本質の違いについて
第　６回　私とは何か(4)　私と世界の関係を考える
第　７回　私とは何か(5)　唯一性と尊厳をめぐって
第　８回　私とは何か(6) 他者なき世界
第　９回　私とは何か(7)　独我論批判の検討
第１０回　パーソンとは何か　パーソン論をめぐって
第１１回　言葉について(1)　意識から言語へ
第１２回　言葉について(2)　クオリア反転の思考実験
第１３回　言葉について(3)　実体から関係へ
第１４回　日本語はどのような言語なのか

オフィスアワー

月曜日４時限目

授業形態

教科書と配付資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

第２回から第９回までは教科書（『世界を読み解くリテラシー』）を使用する。
必ず教科書を用意すること。
第１０回以降は適宜資料を配布する。
学生に質問を投げかけながら進めるので、積極的に参加すること。
授業計画の順序は入れ替えることがある。

関連科目

哲学(1)、哲学(2)、倫理学(2)

授業に持参するもの

教科書。配付資料。

教科書

世界を読み解くリテラシー　井上健・山本史華・中井洋史編　萌書房　2010
978-4-86065-054-4　「第５講」を使用

参考書

無私と人称　二人称生成の倫理へ　山本史華　東北大学出版会　2006　4861630231

学生へのメッセージ

学生とともに考え、対話する講義を目指します。
この趣旨に同意する学生を募集します。

その他・自由記述欄

倫理学(2)

科目英名	Ethics (2)
担当者	山本　史華　〈fyama(at)tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期前半

科目概要

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。
生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。
生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、日常生活の中に置き直し、自らの問いとして考えてみよう。

達成目標

医学と医療の違いを理解し、生命医学倫理の諸問題に対して自分の意見をはっきりと述べられるようになること。
また、自分とは異なる見解に対しても正しく理解できるようになること。

成績評価

基本的にレポートの内容で評価する(レポート100%)。
レポートの課題は二題から一題選択。
締め切りは厳守。締め切り後の提出は、原則認めない。
コピペ・無断引用があるレポートは「不可」とする。
また予告なしに数回出席をとる。

予習復習時間

教科書をよく読んで、復習すること。１時限分の講義に対して４時間の自学自習が必要。
医学・医療のニュースに関心を持ち続け、講義内容と関連させて考えてみること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「倫理学（１）」を履修していなくても問題ありません。

授業計画

第　１回　講義概要、履修する上での注意点やルール、単位取得についての説明
第　２回　日常のなかの生命倫理（講義の目的と方法論）
第　３回　死ぬとはどういうことか（哲学・倫理学における死）
第　４回　脳死に関するディベート
「脳死は人の死であるか否か」
第　５回　死は果たして定義できるのか（三徴候死と脳死）
第　６回　臓器、そして命はいったい誰のものなのかその（脳死臓器移植　その１）
第　７回　誰かの不幸を待ち望むことは正当化されるのか（脳死臓器移植　その２）
第　８回　なぜ死に急ぐのか（安楽死・尊厳死）
第　９回　自分の遺伝子を残すことになぜこだわるのか（生殖補助医療技術・代理出産）
第１０回　自己決定すれば、それでいいのか（インフォームド・コンセント、生命倫理四原則）
第１１回　誰の幸せが問題なのか、不幸なのは誰か（出生前診断、優生思想）
第１２回　人体実験はどこまで許されるのか（医学と医療の区別）
第１３回　偶然性を飼い慣らすことはできるのか（臨床研究の方法と限界）
第１４回　希釈された危険性をどのように扱えばよいのか（低線量被曝）

オフィスアワー

火曜日　３時限目

授業形態

教科書に基づく講義とディベート

授業の具体的な進め方

教科書を用意すること。
学生に質問を投げかけながら進める。積極的に参加すること。
各回の順序と内容は変更することがある。
ディベートでは、原則、出席者全員に発言してもらう。

関連科目

倫理学(1)、哲学(1)、哲学(2)

授業に持参するもの

教科書、配付資料

教科書

日常のなかの生命倫理（仮）　山本史華　梓出版社　2016　2016年夏発売予定

参考書

学生へのメッセージ

現在、教科書を執筆中です。シラバスの授業計画はあくまでも予定と考えてください。
変更がある場合、初回の講義で正式な授業計画をお知らせします。

その他・自由記述欄

教授要目

倫理学

科目英名	Ethics
担当者	矢島　壮平　<syajima@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

古来、哲学者たちは「善／悪とは何か？」、「いかに行為すべきか？」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

Philosophers have been considering ethical or moral questions like “What is good/bad?” or “How should we act?” from the ancient times. More or less, we cannot help but asking such questions in our daily lives. In recent years, however, such questions have been asked in highly branched and specialized contexts because of the development of science and technology. In response to this calling of time, an academic discipline called applied ethics has been emerging. In this course, its subfields of environmental and information ethics will be lectured.

達成目標

(1)　倫理学の基礎知識を身につける。
(2)　環境や情報分野において、どのような倫理的問題があるのかを理解する。
(3)　(2)で理解した問題について、自ら思考して解決策を模索できる。

成績評価

試験（100%）

予習復習時間

復習に１時間

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし。

授業計画

第　１回　イントロダクション
第　２回　情報倫理学
第　３回　コンピューターとインターネットの歴史
第　４回　インターネットの倫理
第　５回　プライバシー、監視と自由
第　６回　著作権
第　７回　情報公開と機密情報
第　８回　環境倫理学
第　９回　環境史
第１０回　保全保存論争
第１１回　自然保護と生物多様性
第１２回　生態系と倫理学
第１３回　動物解放論
第１４回　まとめ

オフィスアワー

事前に連絡があれば授業後に対応します。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

前半は情報倫理学、後半は環境倫理学を扱います。授業はパワーポイントや配布資料をもとに進めます。

関連科目

授業に持参するもの

配布資料

教科書

使用しません。配布資料を用います。

参考書

必要に応じて授業中適宜指示します。

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

文化人類学

科目英名	Cultural Anthropology
担当者	鈴木　洋平　<bunwak@nifty.com>
単位数	2単位
開講時期	1年集中（後期）

科目概要

文化人類学は文化を「ものさし」としながら、人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を、誤解や思い込みをも含んだ形で映像、文章などを通して追体験していくことで、人類学という学問の歩みをともに踏み固めるとともに、現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

達成目標

（1）文化人類学が議論を重ねてきた各種理論に触れる
（2）文化についての様々な視点の取り方を体験する
（3）文化の中にある存在としての自己を見出す

成績評価

四日間の授業内課題（60%）と、最終日の最終試験（40%）で評価。
そのほかに、任意の追加レポート（20～30%程度）を用意しています。

予習復習時間

一日十分程度、自分の専門以外のニュースや時事に注目する時間を取るのが予習。
授業で習った観点から、予習で見た題材を別の観点から見ようと十分程度試みるのが復習。
継続的に行うことで、授業効果が高まるとともに、世界への視線が養えます。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特にありませんが、自分と異なる意見を聞く度量を持つことで、授業をより楽しめるかと思います。

授業計画

第　１回　導入１：「文化」「人類」学とは？
第　２回　「文化人類学」の辞書的定義と今：視線は社会の中？外？
第　３回　進化主義：人類学の初期衝動①文明も文化も「進化」するのか？
第　４回　伝播主義：人類学の初期衝動②文化はどこから来た？
第　５回　導入２：「なんでも見てやろう」の時代へ
第　６回　機能主義：「ワケのわからないもの」にこそ「ワケ」がある
第　７回　構造機能主義：社会は親族からできている
第　８回　新進化主義：その「進化」に基準はあるか？
第　９回　導入３：人類学華やかなりし？頃
第１０回　構造主義：「冷たい社会」の熱い血潮
第１１回　「巨人」クロード・レヴィ＝ストロース：関係の網の目が見えますか？
第１２回　導入４：反省と混迷の中で
第１３回　文化を書く：文化を書く権利は、誰にある？
第１４回　まとめと、そのあとで：人間としてのあなたが、文化の中で生き続けるということ

オフィスアワー

授業後には時間を空けておきますので、つかまえて質問してください。他の時間は連絡あれば対応します。

授業形態

講義と、講義内容に合わせた実習を行います。

授業の具体的な進め方

授業は講義時間と、講義内容に合わせた実習の時間に分かれます。
実習は参加者数名ごとに班に分かれて討論しつつ、回答を作成していきます。
（班区分、具体的内容説明などは授業時に行います）

関連科目

民俗学
より「日本の中の自分」に注目しています。文化人類学との視点の違いを楽しむのも意義があると思います。

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

もしも、これを読んでいるあなたが人類ならば、おおむね人類学に触れてみることに損はないかと思います
（もしも人類でないならば、それはそれで人類理解のために意義があることでしょう）。
演習重視の講義ですので、お互いに不幸な関係にならないために、積極的に楽しんでみてください。

その他・自由記述欄

教授要目

視覚芸術史(1)

科目英名	History of Visual Arts (1)
担当者	岡山　理香　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには、真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。

達成目標

産業革命以降から 20 世紀初頭のヨーロッパにおける視覚芸術の変遷を理解する。
また、それらの日本への影響、日本からの影響を理解する。
多様な価値観の存在を知り、思考の柔軟性を培う。

成績評価

毎時間のレポート（50%）と学期末テスト（50%）による総合評価

予習復習時間

講義中にとったメモをきちんとノートにまとめること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

必ずノートを作成すること。期間中、一度は美術館へ行くこと。

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　アーツ・アンド・クラフツ・ムーヴメント（1）：ウイリアム・モリス
第　3回　〃　（2）：アーサー・マクマード
第　4回　ラファエル前派
第　5回　アール・ヌーヴォーのクラフト（1）：エミール・ガレ
第　6回　〃　（2）：ナンシー派
第　7回　アール・ヌーヴォーのグラフィック (1)：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
第　8回　〃　のグラフィック (2)：アルフォンス・ミュシャ
第　9回　アール・ヌーヴォーの建築（1）：エクトル・ギマール
第１０回　アール・ヌーヴォーの建築（2）：アントニ・ガウディ
第１１回　アール・ヌーヴォーの建築（3）：チャールズ・レニー・マッキントッシュ
第１２回　ウィーン世紀末（1）：ウイーン分離派
第１３回　〃　（2）：オットー・ワーグナー
第１４回　〃　（3）：アドルフ・ロース

オフィスアワー

水曜日　14：00〜17：00

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

プロジェクターで映した画像（絵画、彫刻、建築、工業製品など）について、解説を行なう。受講者は、口述筆記を行なうこと。

関連科目

デザイン概論（1）（2）　視覚文化ゼミナール

授業に持参するもの

教科書

参考書

世界を読み解くリテラシー　萌書房　2010　9784860650544
美術の理論　武蔵野美術大学　2002
現代芸術論　2002　4901631136
西洋美術史　美術出版社　1990　9784568400649

学生へのメッセージ

建築や自動車、車両といったプロダクト・デザインを学ぶ上で、重要な内容を持っています。
ぜひ、美術館へも足を運んでみて下さい。展示されている作品はもちろん、美術館の建築自体も興味深いものがたくさんあります。

その他・自由記述欄

視覚芸術史(2)

科目英名	History of Visual Arts (2)
担当者	岡山　理香　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

17 世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり、それによって 18 世紀の産業革命が起こり、芸術の分野がそれを自覚するのは 19 世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では、印象主義以降の絵画、建築、デザインを扱う。

達成目標

印象主義以降の絵画の歴史的変遷を理解する。それらと建築、デザインの関係を理解する。
もっとも重要なことは、近代主義とは何かを考える知識、回路、方法論を身につける。

成績評価

毎時間のレポート（50%）とテスト（50%）による総合評価

予習復習時間

講義中にとったメモをきちんとまとめること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

必ずノートを作成すること。期間中、一度は美術館へ行くこと。

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　新古典主義の絵画、彫刻
第　3回　ロマン主義の絵画、彫刻
第　4回　印象主義へ：エドゥワール・マネ
第　5回　印象主義の絵画（1）：クロード・モネ
第　6回　印象主義の絵画（2）：オーギュスト・ルノワール
第　7回　印象主義の彫刻：オーギュスト・ロダン
第　8回　後期印象主義の絵画：ゴッホ、ゴーギャン
第　9回　新印象主義の絵画
第１０回　イタリア未来派
第１１回　構成主義と新造形主義
第１２回　アール・デコのクラフト：ルネ・ラリック
第１３回　アール・デコのグラフィック：カッサンドル
第１４回　アール・デコの建築

オフィスアワー

水曜日 14：00〜17：00

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

プロジェクターで映した画像について、解説する。受講者は、口述筆記を行なうこと。

関連科目

デザイン概論 (1) (2)　視覚文化ゼミナール

授業に持参するもの

教科書

参考書

世界を読み解くリテラシー　萌書房　2010　9784860650544
美術の理論　武蔵野美術大学　2002
現代芸術論　2002　4901631136
西洋美術史　美術出版社　1990　9784568400649

学生へのメッセージ

絵画や彫刻を学問の対象とすることで、さまざまな価値観や方法論が存在することを知ってほしいと思います。
ぜひ、美術館へ足を運んでみて下さい。展示作品はもちろん、美術館の建築自体も興味深いものがたくさんあります。

その他・自由記述欄

教授要目

文学

科目英名	Literature
担当者	秋山　義典　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本授業では英国と米国の代表的な文学作品を紹介しながら、その根底にある物語のあり方を検討する。古代の神話や民話の主人公にも共通するよく利用される物語の枠組みに着目する。ルネッサンス時代の演劇作品から 19 世紀、20 世紀初頭へと歴史の流れの中で人間は何を考え、いかに行動して世界を変えたのか。映像と資料を使いながら、現代に生きる私たちの視点から考察を行う。

達成目標

１．世界の古典的な文学作品を取り上げて、物語の着眼点を紹介する。登場人物、時代背景、人間の掟の在り方、時代の人間関係、パラダイムなどに注目する。一見すると複雑な物語世界であるが、複雑な筋を整理して理解する。

２．ひとりひとりで異なる見方がある一方、共通する視点も重要である。授業の中でその文学の「発見力」を養成する。

成績評価

授業への貢献＋毎回のリスポンス　３０％　課題レポート　７０％

予習復習時間

岩波文庫などで作品に直接あたり、読んでみること。ネットなどで調べてあらすじを読むこと。１時限授業につき、４時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

１．授業を欠席すると物語の重要な点が分からなくなり、講義の理解に支障が生まれてくるので、毎回の出席が求められる。

２．人間の存在には合理的な面と不合理な面があり、そういう矛盾のなかで世界や社会が作られている点を受け入れることができること。

授業計画

第　１回　イントロダクション

第　２回　ウィリアム･シェイクスピア『ハムレット』前半　ハムレットはなぜ悩むのか。シェイクスピア劇の謎を解く

第　３回　ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』後半

第　４回　エミリー・ブロンテ『嵐が丘』前半　ヒースクリフの復讐とその達成感指数

第　５回　エミリー・ブロンテ『嵐が丘』後半

第　６回　ジェーン・オースチン『分別と多感』前半　女性の人生には結婚が唯一の方法なのか。

第　７回　ジェーン・オースチン『分別と多感』後半

第　８回　ブラム・ストーカー『ドラキュラ』前半　19 世紀後半の最新テクノロジーと東欧の信仰世界

第　９回　ブラム・ストーカー『ドラキュラ』後半

第１０回　ジョン・アーヴィング『サイダー・ハウス・ルール』前半　大人になることのむずかしさ

第１１回　ジョン・アーヴィング『サイダー・ハウス・ルール』後半

第１２回　カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』前半　自分たちは何のために生まれたのか、理解しようするその苦しさについて

第１３回　カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』後半

第１４回　「文学」の総合レビュー

オフィスアワー

月曜日 16 時 45 分―17 時 15 分

授業形態

講義形式とハンドアウト記入提出

授業の具体的な進め方

ハンドアウトを使って一つの作品を２回に分けて解説する。

各作品のストーリー展開を注意深く着目することが求められる。提出物を必ず出すこと。参加者の感想をもとに個人の考え方を紹介する。そのことで自己と他者の受け取り方の相違を感じ取ることで、文学の深い世界を体験する。映像資料を活用しながら、ストーリー展開を重視し、登場人物の固有名詞など整理する。

関連科目

「映画で学ぶ英語」「音楽で学ぶ英語」

授業に持参するもの

毎回利用するハンドアウト

教科書

参考書

教養のための想像力　Ｎ．フライ　太陽社　　978－4884680077

学生へのメッセージ

言語文化とは自分のイメージを作り、それを自己流に解釈し、内容をつかみ、比較したり、細部に注目することが大切である。

その他・自由記述欄

各作品は全体像をつかむために映像やネット動画などを利用することもある。ハンドアウトの提出を利用する。ハンドアウトの提出が重要である。欠席するとストーリーの進行（誰が犯人で、登場人物の名前など）に付いて行かれない恐れもあるので注意。

西洋史(1)

科目英名	European History (1)
担当者	新保　良明　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解く。

達成目標

古代ローマから中世末期に至るまでのヨーロッパ前近代社会の変化を多面的に学ぶ。

成績評価

試験の内容で評価する（試験１００％）

予習復習時間

１回（１００分）の授業に対して、復習に重きを置いた４時間の自学自習が必要（学則第１８条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

各時代を大観する講義を展開するつもりであるが、高校世界史の授業内容を反復するわけではない。従って、可能ならば高校世界史の教科書を確認しつつ、履修する方が有益と思われる。

授業計画

第　１回　オリエンテーション：小説『フランケンシュタイン』が伝える都市構造

第　２回　古代ローマの皇帝権力と即位方法、死後裁判

第　３回　巨大帝国の「小さな政府」と都市の自治

第　４回　キリスト教の成立と迫害原因

第　５回　ゲルマン民族大移動とローマ帝国没落原因論、イスラーム勢力の侵入と第２次民族移動

第　６回　グリム童話『長靴を履いた猫』から読み解くヨーロッパ封建社会の仕組み

第　７回　キリスト教化のための妥協と方策、キリスト教の女性観（イヴとマリア）

第　８回　11 世紀以降のヨーロッパの変化：領域的拡大と中世都市の成長

第　９回　グリム童話『ハーメルンの笛吹き男』から読み解く中世都市のギルドと自治

第１０回　農業システムの改良と「肉食」の思想

第１１回　映画『薔薇の名前』から読み解く教会と修道院　－祈りと「時間」－

第１２回　「大学」の誕生と教養科目

第１３回　封建制の危機と教会大分裂

第１４回　ヨーロッパの動物裁判

オフィスアワー

木曜日の昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

必要に応じて資料を配付しながら、講義形式を採る

関連科目

できれば「西洋史（２）」も合わせて受講してもらうと、理解が深まると思われる。

授業に持参するもの

特になし

教科書

なし

参考書

大学で学ぶ西洋史［古代・中世］　服部良久など　ミネルヴァ書房　2006 年 4-623-04592-7

学生へのメッセージ

高校時代に学んだ「世界史Ａ」または「世界史Ｂ」の教科書的な内容をベースにしながら、関連する事象を積極的に取り上げる。従って、講義では、高校世界史の枠組みを最低限、再確認した上で、『グリム童話』などを題材にしながら、世界史の教科書にはなかった角度から、西洋史を改めて読み解いていきたい。これにより、歴史の醍醐味や面白さに触れてくれれば、うれしく思う。

その他・自由記述欄

教授要目

西洋史(2)

科目英名	European History (2)
担当者	新保　良明　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解く。

達成目標

ルネサンス以降の近世・近代ヨーロッパ社会の変化を多面的に学ぶ。

成績評価

試験の内容で評価する（試験１００％）

予習復習時間

１回（１００分）の授業に対して、復習に重きを置いた４時間の自学自習が必要（学則第１８条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

各時代を大観する講義を展開するつもりであるが、高校世界史の授業内容を反復するわけではない。従って、可能ならば、高校世界史の教科書を復習しつつ、履修する方が有益と思われる。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　ルネサンスと社会変容　－衣・食・マナー－
第　３回　宗教改革と対抗宗教改革、シェークスピア『ヴェニスの商人』から読み解くユダヤ人問題
第　４回　「大航海時代」の幕開けとイギリス東インド会社、オランダ東インド会社
第　５回　ジェントルマンと大都会ロンドンの誕生
第　６回　主権国家体制の成立と戦争・戦術の変化　－絶対王政への道－
第　７回　二重革命の時代①：フランス革命と国民国家への道
第　８回　二重革命の時代②：イギリスの産業革命、農業革命、交通革命
第　９回　イギリスの生活革命①：「聖月曜日」問題とレジャーの誕生
第１０回　イギリスの生活革命②:コーヒーと茶と砂糖　－ノンアルコール飲料の流行－
第１１回　近代ヨーロッパにおける「病気」意識と衛生観念の発生
第１２回　19 世紀におけるミドルクラスの台頭と女性観の変化
第１３回　19 世紀末の第二次産業革命と帝国主義、ナショナリズム　－ロンドンのミュージック・ホールと労働者－
第１４回　ワイマール憲法とヒトラー政権

オフィスアワー

木曜日の昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

必要に応じて資料を配付しながら、講義形式を採る

関連科目

できれば、「西洋史（１）」も受講してもらいたい。一貫性が保たれるので。

授業に持参するもの

特になし

教科書

なし

参考書

大学で学ぶ西洋史［近現代］　小山哲など　ミネルヴァ書房　2011 年　9784623059386

学生へのメッセージ

高校時代に学んだ「世界史Ａ」または「世界史Ｂ」の教科書的な内容をベースにしながら、関連する事象を積極的に取り上げる。従って、講義では、高校世界史の枠組みを最低限、再確認した上で、コーヒー・紅茶・砂糖などの嗜好品やスポーツ、旅行などといった現在につながる事象のルーツを問いながら、幅広い授業を組み立てたい。

その他・自由記述欄

民俗学

科目英名	Folklore Studies
担当者	鈴木　洋平　<bunwak@nifty.com>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

「一日・一年・一生」の民俗学
日本民俗学は日本という地域を主な対象に、人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で、特に大事にしてきたのが日常、つまり「当たり前の生活」でした。本科目では、人々の生活感覚に繋がる二つの異なる時間幅である「一日」「一年」を軸に、民俗学が注目してきた人々の「当たり前の生活」を紹介します。かつての生活と学生の皆さん自身の現在を、もう一つの時間軸である「一生」に繋げることを目的に理解を深めていきます。

達成目標

（１）日本の民俗の多様さを、各種の事例から把握する
（２）日本民俗学が注目してきた問題を、歴史的背景を含め理解する
（３）学生が自分自身の日常を客観視する
（４）日本民俗学が対象としてきた社会と、学生自身が生きる現在を比較する

成績評価

各回授業時に出題する課題・演習を 40%、期末試験を 60%として評価します。

予習復習時間

民俗学においては、自己を理解する視線の醸成が非常に重要となります。
予習と復習を兼ねる作業として、日々数分かけて自分の生活を客観視した記録を日記として付けるのが有効です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特別なことはありませんが、予習復習と同様に、自分自身の生活に注目して記録する習慣を持っていると、より授業を楽しめるかと思います。

授業計画

第　１回　はじめに 人生の中の民俗、民俗の中の人生
第　２回　一日　(1) 朝 出会いの時間
第　３回　一日　(2) 昼 労働と昼寝の時間
第　４回　一日　(3) 夜① 集まる時間
第　５回　一日　(3) 夜② 交わる時間
第　６回　一日 まとめ 生活の中の変化
第　７回　一日を終えて 民俗学から、柳田国男が見ようとしたもの
第　８回　一年 (1) 春 終わり、始まり、望む季節
第　９回　一年 (2) 夏 育ち、病む季節
第１０回　一年 (3) 秋 ともに喜び、祭る季節
第１１回　一年 (4) 冬 迎え、出ていく季節
第１２回　一年 まとめ 繰り返す一年、繰り返せない一年
第１３回　一日・一年から一生へ 世代を重ね、紡いでいくもの
第１４回　一日・一年・一生 変わり続ける安定と、変わらない変化の中で

オフィスアワー

授業後などに連絡をもらえれば随時対応します。

授業形態

配付資料を中心とした講義と、各回の小実習

授業の具体的な進め方

ガイダンス除く各回授業は、おおむねこのような構成になっています。
①各回導入
②各回テーマに関する映像の鑑賞
③一日・一年・一生に関わる各回テーマ（朝昼夜、春夏秋冬）の解説
④各回テーマに関する映像を再見、内容解説
⑤参加者個々人と各回テーマに関する小課題

関連科目

文化人類学

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

民俗学は過去を土台に、未来へ向けて飛び上がるための学問だと考えます。皆さんがより高く飛ぶために、過去を踏み固める機会になれば幸いです。

その他・自由記述欄

教授要目

比較文化史

科目英名	Comparative Cultural History
担当者	S・クレイネス　〈kraines@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

Large cities in Japan today look much like large cities in the US and Europe.　There is no question that modern day Japan has been greatly influenced by the history and culture of the west.　And in many regards, the resultant similarities are apparent. However, in the experience of this lecturer, at a fundamental level no two cultures are more different than Japan and the US.　Based on that personal experience, this class will examine several aspects whereby the cultural history of Japan and the US differ and consider possible implications for the role of Japan in the future development of global society.

達成目標

1.An understanding of the fundamental similarities and differences between Japan and other globalized nations, beginning with the US
2.An understanding of how the particular cultural history of a nation affects that nation's response to current issues such as globalization and sustainability
3.An active curiosity in how Japan will interact with and possibly play a leading role in future global society

成績評価

participation in class discussions/presentations and a final short report to be written in English

予習復習時間

４時間

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Curiosity about the relationship of Japan with the rest of the world.
A desire to improve one's English communication ability.
A basic level of English communications skills is recommended.

授業計画

第　１回　History and culture － historical and other factors that affect the culture of a nation
第　２回　A factual comparison of similarities and differences between Japan and the other nations of the world
第　３回　Self-introduction － why is this American studying engineering and information technologies in Japan?
第　４回　Self-introduction continued － objective facts and personal observations regarding similarities and differences between Japan and the US
第　５回　Student group presentations: what country is most similar to Japan and what country is most different? Why?
第　６回　Student group presentations continued
第　７回　Looking to the future － where is the culture and history of Japan and the other nations of the world heading? Are we on a sustainable path? Introduction to scenarios, forecasting and backcasting
第　８回　What is globalization? Inevitable result of technological development and population growth, or intentional design of the US?
第　９回　Ways in which the culture and history of different countries have affected (or not affected) the evolution of modern-day global society
第１０回　Review of alternative scenarios for modern-day society － alternate realities (e.g. in literature and pop culture)
第１１回　Student group presentations: what is your ideal future society?
第１２回　Student group presentations continued
第１３回　Topic review
第１４回　Open discussion on the role of Japan and Japanese culture in the future of global society

オフィスアワー

木曜日の１４時～１５時

授業形態

Lectures using slides and handouts
Class discussions and student group presentations
Topic reviews will be given at the end of each lecture in Japanese

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

Please join us － it will be fun! After all, what else do you have to do on a Friday evening?

その他・自由記述欄

宗教学

科目英名	Religious Studies
担当者	長島　大輔　〈dnagashi@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

宗教における儀礼、祈り、祭儀、巡礼、神話などの機能を学びつつ、三大一神教を中心に世界の主要な宗教の教義、思想、実践について学ぶ。また、宗教に関する国際問題について学び、現代社会における宗教の位置づけについて考える。

達成目標

①三大一神教を中心に世界の主要な宗教・宗派の基礎知識を身に付ける。また、宗教における儀礼、祈り、祭儀、巡礼、神話などの機能を理解する。
②今日の宗教を取り巻く様々な国際問題について知り、自身の考えを述べることが出来るようになる。

成績評価

第 14 回講義で行われる筆記試験 75%、授業参加点・感想カード等 25%

予習復習時間

毎回、次週の講義資料を配布するので、次の講義までに目を通しておくこと(30 分程度)。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

宗教について、あるいは宗教に関する国際問題について、少しでも関心があること。世界史の基礎的知識があれば尚良い。

授業計画

第　１回　なぜ、どうやって宗教を学ぶのか（講義の目的及び全体の構成について）
第　２回　ユダヤ教・キリスト教・イスラーム①
・三大一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の発生とその歴史的展開、教義、思想について（①～③）
・この回では、特にユダヤ教について学ぶ。
第　３回　ユダヤ教・キリスト教・イスラーム②
・この回では特に、キリスト教について学ぶ。
第　４回　ユダヤ教・キリスト教・イスラーム③
・この回では特に、イスラームについて学ぶ。
第　５回　ユダヤ教・キリスト教・イスラーム④
・三大一神教の比較とまとめ（教義、儀礼、祭儀、巡礼などの比較）
第　６回　アジアの諸宗教①
・ヒンドゥー教の教義と実践
第　７回　アジアの諸宗教②
・仏教の教義と実践
第　８回　無神論、前半のまとめ
・「無神論」、「理神論」、「不可知論」について
第　９回　原理主義①
・興りと歴史的展開
第１０回　原理主義②
・現代の原理主義（「イスラム原理主義」とは何か）
第１１回　宗教と政治①
・宗教とナショナリズム
第１２回　宗教と政治②
・宗教と戦争、暴力、テロリズム
第１３回　宗教と政治③、後半のまとめ
・「宗教・宗派間対話」は可能か
第１４回　試験、全体のまとめ

オフィスアワー

前期前半（授業開講期間）の火曜日と金曜日の 12：30～13：30（以下のメールアドレスでアポを取ればより確実です）

授業形態

配布資料とパワーポイントに基づく講義形式

授業の具体的な進め方

事前に配布する資料をあらかじめ読んでくることを前提に授業を進める。また必要に応じてパワーポイント、映像資料を使用する。また、受講者に適宜発言を求めたり、講義の内容を踏まえて感想カードを作成してもらったりする。

関連科目

授業に持参するもの

事前に配布された資料

教科書

参考書

岩波イスラーム辞典　　岩波書店　2002 年　978-4000802017
岩波キリスト教辞典　　岩波書店　2002 年　978-4000802024
現代宗教事典　　2005 年　978-4335160370
宗教学入門　脇本平也　講談社学術文庫　1997 年　978-4061592940
地図で読む世界史　柴宜弘　実務教育出版　2015 年　978-4788911482

学生へのメッセージ

新聞やニュースなどで取り上げられる宗教が関わる問題に、是非関心を向けてみて下さい。講義で身につけた知識や考えが、これらの時事問題の理解にも多いに役立つと思います。また、どんな質問（論争！）も大歓迎です。遠慮せずに積極的に講師に疑問をぶつけて下さい。

その他・自由記述欄

教授要目

社会学(1)

科目英名	Sociology(1)
担当者	木村豊
単位数	2単位
開講時期	１年生前期後半

科目概要

社会の中で生きる私たちにとって，「社会」は聞き慣れた言葉であるが，それが何であるかを説明するのは難しい。社会学は，そのような掴みどころのない「社会」について記述・分析しようと試みる学問であり，そのためそれは，私たちがもっている社会への眼差しである「常識」について問い直すものとなる。そこで本授業では，まず「社会」を捉えるための基本概念について解説し，それから現代社会をめぐる多様なトピックを取り上げながら社会学的な検討を行っていく。

達成目標

①これまで社会学者がいかに「社会」を論じてきたのかについて学ぶことを通して，社会学の基礎的な考え方を身につける。②そのような社会学の手法を用いて，自らが生きる「社会」について社会学的に思考することを実践する。

成績評価

成績は，期末試験 60%，リアクションペーパー20%，授業出席・態度 20%で評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　ガイダンス
第　２回　社会学的思考の方法：「社会」を見る眼
第　３回　社会集団と社会的行為：相互行為と役割の形成
第　４回　親密圏と公共圏：公共空間とプライバシー問題
第　５回　イエと家族の社会学：近代家族の変容と無縁社会
第　６回　子供と教育の社会学：子供の社会化と教育格差
第　７回　性別と役割の社会学：ジェンダーとセクシャリティ
第　８回　格差と階層の社会学：社会的排除と貧困問題
第　９回　産業と労働の社会学：資本主義経済と労働の規範
第１０回　文化と余暇の社会学：文化の享受と余暇の過ごし方
第１１回　犯罪と逸脱の社会学：監視社会とリスクの管理
第１２回　福祉とケアの社会学：専門職の専門性と当事者主権
第１３回　生活と時間の社会学：クロックタイムと生活リズム
第１４回　まとめ

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。

授業形態

講義形式で授業を進める。

授業の具体的な進め方

基本的には授業中に配布するプリントに沿って講義を進めるが，同時に授業の中で出席者に対して講義内容に関する積極的な発言を求め，その発言内容をもとに議論を展開することがある。また，毎回授業の中でリアクションペーパーを記入してもらうが，次回の授業内でその記述内容を取り上げ，議論を展開することがある。

参考書

『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志　有斐閣　2007　9784641053700
『社会学になにができるか』奥村隆（編）　八千代出版　1997　9784842910338
『ソシオロジカル・イマジネーション―問いかけとしての社会学』鈴木智之・澤井敦（編著）　八千代出版　1997　9784842910376

学生へのメッセージ

私たちが生きる「社会」の諸問題について関心を持って授業に参加してほしい。また，授業の中で出席者に対して発言を求めることがあるので，日頃からできるだけ新聞やニュースを見る習慣をつけ，近年の社会的な出来事について自分の意見を述べられるようにしてほしい。

その他・自由記述欄

出席者の関心や理解の状況に合わせて，授業の進度・内容について若干変更することがある。

社会学(2)

科目英名	Sociology(2)
担当者	木村豊
単位数	2単位
開講時期	１年生後期後半

科目概要

社会の中で生きる私たちにとって，「社会」は聞き慣れた言葉であるが，それが何であるかを説明するのは難しい。社会学は，そのような掴みどころのない「社会」について記述・分析しようと試みる学問であり，そのためそれは，私たちがもっている社会への眼差しである「常識」について問い直すものとなる。そこで本授業では，まず「社会」を捉えるための基本概念について解説し，それから現代社会をめぐる多様なトピックを取り上げながら社会学的な検討を行っていく。

達成目標

①これまで社会学者がいかに「社会」を論じてきたのかについて学ぶことを通して，社会学の基礎的な考え方を身につける。②そのような社会学の手法を用いて，自らが生きる「社会」について社会学的に思考することを実践する。

成績評価

成績は，期末試験 60%，リアクションペーパー20%，授業出席・態度 20%で評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　ガイダンス
第　２回　社会学的調査の手法：量的調査と質的調査の立場
第　３回　社会構造と社会変動：近代社会とポスト近代社会
第　４回　近代化と個人化：個人の発達と人びとの「つながり」
第　５回　都市と住民の社会学：コミュニティとネットワーク
第　６回　地域と人口の社会学：過疎問題と地域おこし活動
第　７回　空間と場所の社会学：場所の消費と空間の移動
第　８回　記号と消費の社会学：マクドナルド化とブランド力
第　９回　知識と情報の社会学：メディアとコミュニケーション
第１０回　環境と技術の社会学：科学技術の進展と環境保全
第１１回　国家と民族の社会学：グローバル化とエスニシティ
第１２回　歴史と記憶の社会学：集合的記憶と歴史の創られ方
第１３回　人生と自己の社会学：ライフコースと自己の物語
第１４回　まとめ

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。

授業形態

講義形式で授業を進める。

授業の具体的な進め方

基本的には授業中に配布するプリントに沿って講義を進めるが，同時に授業の中で出席者に対して講義内容に関する積極的な発言を求め，その発言内容をもとに議論を展開することがある。また，毎回授業の中でリアクションペーパーを記入してもらうが，次回の授業内でその記述内容を取り上げ，議論を展開することがある。

参考書

『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志　有斐閣　2007　9784641053700
『社会学になにができるか』奥村隆（編）　八千代出版　1997　9784842910338
『ソシオロジカル・イマジネーション―問いかけとしての社会学』鈴木智之・澤井敦（編著）　八千代出版　1997　9784842910376

学生へのメッセージ

私たちが生きる「社会」の諸問題について関心を持って授業に参加してほしい。また，授業の中で出席者に対して発言を求めることがあるので，日頃からできるだけ新聞やニュースを見る習慣をつけ，近年の社会的な出来事について自分の意見を述べられるようにしてほしい。

その他・自由記述欄

出席者の関心や理解の状況に合わせて，授業の進度・内容について若干変更することがある。

教授要目

社会学入門

科目英名	Introduction to Sociology
担当者	塚田　修一　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのか。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

What is Sociology? What can Sociology show? This class focuses the fundamental thinking sand views of Sociology, giving many different topics.

達成目標

・社会学という学問のものの見方・考え方、そして研究対象としているものを理解してもらう。

・社会現象や社会問題に対してそれが何故、どのようにして成立しているのかを積極的に考えられる思考を養ってもらう。

成績評価

成績は、授業時のリアクションペーパーを 30%、学期末試験を 70%として評価する。（ただし、受講生の様子を勘案して評価方法を変更することもある）

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし。ただし、様々な文化や考え方を「知的に面白がれる感覚」を少しでも持っていることが望ましい。

授業計画

第　１回　社会学への招待　社会とは何か、社会学とは何か
第　２回　社会学の古典　M. Weber、E. Durkheim、G.Gimmel
第　３回　時間①　円環時間と直線時間ーーアイドルの「脱退」と「卒業」から考えるーー
第　４回　時間②　集合的記憶とノスタルジアーー「ALWAYS　三丁目の夕日」と「クレヨンしんちゃん　嵐を呼ぶモーレツ！大人帝国の逆襲」ーー
第　５回　空間①　＜渋谷＞の形成と衰退ーー広告が創る都市空間ーー
第　６回　空間②　＜郊外＞の歴史と現在ーー東急的郊外と西武的郊外ーー
第　７回　コミュニケーション①　「よいコミュニケーション」とは何か？
第　８回　コミュニケーション②　お笑い番組のコミュニケーションーーボケとツッコミの変容ーー
第　９回　メディア①　「メディアはメッセージである」ーーマクルーハンを読み直すーー
第１０回　メディア②　インターネットと SNS
第１１回　現代社会の社会学①　「自分探し」社会についてーー「本当の自分」とは何だろうか？ーー
第１２回　現代社会の社会学②　現代文化のカルチュラル・スタディーズーー特撮番組を素材に考えるーー
第１３回　「社会学」の総括
第１４回　期末試験

オフィスアワー

講義の前後で対応する。

授業形態

担当者の講義のほか、具体的な文化テクストの視聴も織り交ぜつつ、授業を進めていく。また随時、受講者への発問も行う。

授業の具体的な進め方

・受講者には単に社会学の知識を習得してもらうのではなく、様々に思いや考えをめぐらせてもらう講義を行う。毎回講義内容の要となる点に関する質問や疑問を受講者に投げかけ、社会問題や事例、文化テクストを多く参照しながらそれらの説明をしていく。

・毎回講義内容に関する思いや考えについてリアクションペーパーを書いてもらい、次回の講義のなかでそれらに応えていく。

関連科目

授業に持参するもの

特になし

教科書

参考書

社会学　長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志　有斐閣　2007　9784641053700
文化の社会学　佐藤健二・吉見俊哉編　有斐閣　2007　9784641122420
社会学の歴史Ⅰ　　2014　9784641220393
失われざる十年の記憶　鈴木智之・西田善行編　青弓社　2012　9784787233424

学生へのメッセージ

知的方面への貪欲さを持って、授業に参加してもらいたい。
また授業で紹介する文献にも積極的に目を通してほしい。
「単位の取りやすさ」のみを期待する者の受講は歓迎しない。

その他・自由記述欄

経済学(1)

科目英名	Economics(1)
担当者	伊藤潤平
単位数	2 単位
開講時期	１年生前期後半

科目概要

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では，それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には，数式による説明は極力避け，図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので，適宜その用語の意味について解説していきます。

達成目標

ミクロ経済学の考え方に触れてもらい，経済学で用いる基本的なツールの使い方を知ってもらいます。ニュースや新聞等で実際に起こっている経済事象に触れた際に，本科目で学習したことを役立てて欲しいと思います。経済用語を理解することと，授業の中盤以降は需要・供給曲線を用いた講義が中心になるので，需要と供給のメカニズムをしっかり把握してください。

成績評価

課題 20%，期末試験 80%
課題は不定期に 2〜3 回程度提出してもらう予定です。

予習復習時間

新聞，ニュース，経済誌等で実際に起こっている経済事象に関心をもってください。復習は配布したレジュメを見直して理解を深めてください。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特にありませんが，興味をもって受講してくれることを望みます。

授業計画

第　１回　講義ガイダンス（授業概要，経済学とは）
第　２回　経済学の視点，フロー循環図
第　３回　生産可能性フロンティア，政策アドバイザーとしての経済学者
第　４回　交易と生産可能性，特化
第　５回　絶対優位，比較優位
第　６回　市場と競争，需要曲線
第　７回　需要曲線のシフト，供給曲線
第　８回　均衡
第　９回　弾力性
第１０回　価格規制
第１１回　税金
第１２回　消費者，生産者，市場の効率性
第１３回　外部性
第１４回　税と効率・公平

オフィスアワー

特に設けません。質問等はメールにて問い合わせてください。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

パワーポイントによるスライドを使用して講義を行います。授業中に練習問題を解いてもらう時間をできるだけ作り，理解を深めてもらいます。練習問題を解いてもらった後は解説を行いますが，その際は黒板を使用することがあります。

関連科目

後期に担当する経済学（2）では，マクロ経済学を学習していきます。

授業に持参するもの

筆記用具。レジュメを配るのでテキストは指定しませんが，マンキュー『入門経済学』をベースにレジュメを作成するので，適宜参考にしてください。

参考書

『入門経済学（第 2 版）』N・グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社　2014　978-4492314432
『入門経済学（第 4 版）』ジョセフ・E・スティグリッツ / カール・E・ウォルシュ　東洋経済新報社　2012　978-4492314197

学生へのメッセージ

馴染みのない学問領域である学生が多いと思いますが，興味のある方は積極的に参加してください。

教授要目

経済学(2)

科目英名	Economics(2)
担当者	伊藤潤平
単位数	2 単位
開講時期	１年生後期後半

科目概要

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では，それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には，数式による説明は極力避け，図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので，適宜その用語の意味について解説していきます。

達成目標

マクロ経済学の考え方に触れてもらい,経済学で用いる基本的なツールの使い方を知ってもらいます。ニュースや新聞等で実際に起こっている経済事象に触れた際に，本科目で学習したことを役立てて欲しいと思います。経済指標や専門用語が多く出てくるのでしっかりと理解し，マクロ経済の仕組みを把握してください。

成績評価

課題 20%，期末試験 80%
課題は不定期に 2〜3 回程度提出してもらう予定です。

予習復習時間

新聞，ニュース，経済誌等で実際に起こっている経済事象に関心をもってください。復習は配布したレジュメを見直して理解を深めてください。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特にありませんが，興味をもって受講してくれることを望みます。

授業計画

第　１回　講義ガイダンス（授業概要，経済学とは）
第　２回　国内総生産
第　３回　実質 GDP と名目 GDP
第　４回　生計費の測定
第　５回　生産性
第　６回　成長
第　７回　失業
第　８回　金融システム
第　９回　貯蓄，投資
第１０回　貨幣システム
第１１回　総需要と総供給
第１２回　総需要曲線
第１３回　総供給曲線
第１４回　開放マクロ経済学

オフィスアワー

特に設けません。質問等はメールにて問い合わせてください。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

パワーポイントによるスライドを使用して講義を行います。授業中に練習問題を解いてもらう時間をできるだけ作り，理解を深めてもらいます。練習問題を解いてもらった後は解説を行いますが，その際は黒板を使用することがあります。

関連科目

前期に担当する経済学（1）では，ミクロ経済学を学習していきます。

授業に持参するもの

筆記用具。レジュメを配るのでテキストは指定しませんが，マンキュー『入門経済学』をベースにレジュメを作成するので，適宜参考にしてください。

参考書

『入門経済学（第 2 版）』N・グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社　2014　978-4492314432
『入門経済学（第 4 版）』ジョセフ・E・スティグリッツ / カール・E・ウォルシュ　東洋経済新報社　2012　978-4492314197

学生へのメッセージ

馴染みのない学問領域である学生が多いと思いますが,興味のある方は積極的に参加してください。

西洋経済史

科目英名	Economic History
担当者	新保　良明　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

「大航海時代」を出発点にして、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、産業革命の実態と社会的影響力、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

達成目標

「大航海時代」から「世界恐慌」までの世界経済の歴史的特徴を、欧米諸国を軸に大観する。

成績評価

試験の内容で評価する（試験１００％）

予習復習時間

１回（１００分）の授業に対して、復習に重きを置いた４時間の自学自習が必要（学則第１８条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし。ただし、世界史の基礎知識があった方が理解は深まると思われる。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　「大航海時代」とポルトガルのアジア進出
第　３回　「コロンブスの交換」と世界商品
第　４回　魚とヨーロッパ経済　－ニシンとタラから見たオランダの隆盛－
第　５回　オランダ東インド会社と東南アジア支配
第　６回　イギリス東インド会社の設立とアジア進出
第　７回　イギリスの産業革命、資本主義の構造、農業革命、「聖月曜日」問題
第　８回　コーヒー、茶、砂糖を巡る世界交易の成立　－世界システム論－
第　９回　デパートの誕生と消費型社会の誕生
第１０回　スタンダード・テクノロジーの誕生
第１１回　第二次産業革命とその影響
第１２回　近代世界で鉄道が担った役割　－アメリカ大陸横断鉄道とシベリア鉄道－
第１３回　世界恐慌とニューディール政策
第１４回　まとめと試験

オフィスアワー

木曜日の昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

講義形式

関連科目

西洋史（２）

授業に持参するもの

特になし

教科書

なし

参考書

西洋経済史　奥西孝至など　有斐閣　2010 年　9784641124042

学生へのメッセージ

近世・近代の西洋史の経済的事象に着目して、「大航海時代」の到来から、アメリカ発の「世界恐慌」とそれへの対処法までを概観する。

その他・自由記述欄

教授要目

政治学(1)

科目英名	Political Science (1)
担当者	森　達也　〈tmori@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず、政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ、その歴史的な経緯と現状を検討してゆく。

達成目標

政治学の基本的な考え方を理解する。自身の関心ある問題や身近にある問題を理解し、皆と議論するための知識と能力を養う。

成績評価

期末試験 70%

授業内課題 30%

予習復習時間

予習：教科書の次回講義内容に関する部分を講読する。

復習：講義後に疑問点などを整理して次回講義のコメントシートに反映させる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

必須ではないが、高校の「政治・経済」を復習、または自己学習をしておくことが望ましい。

授業計画

第　１回　講義概要説明とアンケート

第　２回　政治と政治学

第　３回　現代政治学の展開

第　４回　さまざまな政治体制とその比較

第　５回　政治制度（１）議会と内閣

第　６回　政治制度（２）選挙と政党政治

第　７回　政治過程（１）利益団体

第　８回　政治過程（２）世論とマスメディア

第　９回　政策決定論

第１０回　政策実施論

第１１回　映像から政治を考える

第１２回　福祉国家の歴史と現状

第１３回　比較福祉国家論

第１４回　福祉国家の正当性

オフィスアワー

授業終了時

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式を基本とする。

必要に応じて時事問題を解説し、コメントシートまたはメールを用いた討論を行う。詳細は開講時に説明する。

関連科目

経済学、憲法、倫理学、国際関係論など

授業に持参するもの

教科書、配布プリント

教科書

現代政治学（第４版）　加茂利男ほか　有斐閣アルマ　2012　978-4-641-12455-4

参考書

学生へのメッセージ

政治の仕組みを知り、その上で日々の社会の出来事について考える一つの機会として活用してください。

その他・自由記述欄

政治学(2)

科目英名	Political Science (2)
担当者	森　達也　〈tmori@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

哲学者たちは古来より政治という営みの本質について、またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同志の闘争のことであるのか、それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され、その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は、政治という人間の営為を分析・理解する一方で、政治の現実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を、それらの問題を提起した古典的文献の講読を通じて検討してゆく。時事的問題についても適宜取り上げ、コメントシートを用いて受講者と討論する。

達成目標

テクストを熟読し、各思想家が提示した問題を適切に把握する能力を養う。政治学の基本概念を用いて自己の意見を表明し、他者と議論できるようにする。

成績評価

期末試験 70%

授業内課題 30%

予習復習時間

予習：教科書の次回講義内容に関する部分を講読する。

復習：疑問点などを整理し、次回講義のコメントシートに反映させる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「政治学（1）」の講義内容を理解しておくことが望ましいが、必須ではない。

授業計画

第　１回　講義概要説明とアンケート

第　２回　ヴェーバー『職業としての政治』

第　３回　プラトン『国家』

第　４回　アリストテレス『アテナイ人の国制』／『政治学』

第　５回　マキアヴェリ『君主論』／『ディスコルシ』

第　６回　映像から政治を考える

第　７回　ホッブズ『リヴァイアサン』

第　８回　ロック『統治二論』／『寛容書簡』

第　９回　モンテスキュー『法の精神』

第１０回　ルソー『社会契約論』

第１１回　アダム・スミス『国富論』

第１２回　マルクス『共産党宣言』ほか

第１３回　ハイエク『隷属への道』

第１４回　ロールズ『正義論』

オフィスアワー

授業終了後

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式を基本とする。

必要に応じて時事問題を解説し、可能であればメールを用いた討論を行う。詳細は開講時に説明する。

関連科目

倫理学、憲法、社会学など

授業に持参するもの

教科書、配布プリント

教科書

政治学の名著30　佐々木毅　筑摩書房　2007　978-4-480-06355-7

参考書

はじめて学ぶ政治学　岡崎晴輝ほか　ミネルヴァ書房　2008　9784623050543

学生へのメッセージ

現代社会の諸問題を批判的に考える姿勢を身につけるための一つの機会として本講義を活用してください。

その他・自由記述欄

教授要目

行政史	
科目英名	History of the Bureaucracy
担当者	井上　勇一　〈inouye@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期後半

科目概要

大日本帝国憲法から日本国憲法に変わることによって、内閣、議会、外交、防衛の各制度が、どのような理由からどのように変わったかについて講義する。

達成目標

大日本帝国憲法下および日本国憲法下における政治制度の違いから、日本が太平洋戦争にいたった制度的な原因について考える。
太平洋戦争原因論は、戦後７０年を経ようとしている今日においても、依然として大きな研究課題であり、昨今の日韓関係や日中関係における「歴史認識」の問題にも、少なからず深い関係がある。
履修者には、本講義を、こうした現代の外交問題を考える際の足がかりにしてもらいたい。

成績評価

学期末試験により評価する。（試験結果が思わしくない履修者には追試を行うなど、履修者全員の合格を目指す。）

予習復習時間

学則第 18 条により、4 時間の自学自習（近代日本をテーマにした一般図書の購読なども含む）が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

下記参考書などを利用しつつ、日本近代史の流れ、あるいは関連する基礎的な知識について確認しておくことが望ましい。

授業計画

第　１回　開講にあたって：国際化とは何か。日本人の国際意識、日本の行政制度における国際化について考えよう。
第　２回　序論（近代国家）：中世と近代はどこがちがうの？　近代の始まりはいつ？　近代国家日本の誕生の原動力には、国際的なインパクトがあった？
第　３回　内閣制度Ⅰ(内閣と天皇)：昭和天皇はご聖断によって終戦を決められたのに、日米開戦に反対できなかったのはなぜ？
第　４回　内閣制度 II（内閣と国会）：大日本帝国憲法下でも、日本国憲法下でも、首相を任命するのは天皇。現在は、首相を指名するのは国会。では、大日本帝国憲法下で首相を指名したのは、誰？
第　５回　内閣制度 III（総理と閣僚）：首相が閣僚に対する罷免権をもつのは当たりまえ？　しかし、大日本帝国憲法下では、首相は閣僚を罷免できたのか？
第　６回　内閣制度 IV（行政機構と官僚制）：英米等各国には内務省が設置されているのに、日本では、戦後、内務省を廃止した。その理由は？
第　７回　内閣制度 V（中央政府と都道府県）：日本では、どうして中央は地方より優位なのか？　明治４年の廃藩置県において、沖縄県はどのような取り扱いを受けたか？
第　８回　議会制度Ⅰ（貴族院と参議院）：戦前には、日本にも貴族制度があり、帝国議会には、上院として、貴族院があった！
第　９回　議会制度 II（衆議院）：大日本帝国憲法下（帝国議会）と日本国憲法下（国会）の衆議院は、どこが違う？
第１０回　外政機構Ⅰ（外交官の役割と在外公館の機能 I）：明治時代、外交官のことを交際官といったが、外交官の役割と在外公館の機能は？
第１１回　外政機構 II（外務省組織と外港の一元化）：外務本省組織の局は、地域局と機能局に大別されるが、）：「二重外交の禁止」とか「外交は水際まで」といわれるが、「外交一元化」とはどういう意味？
第１２回　防衛制度Ⅰ（統帥権の独立）：大日本帝国憲法下で、内閣が軍部の独走を止められなかったのはなぜ？
第１３回　防衛制度 II（シビリアン・コントロール）：文民統制とはどういう意味か？　戦後の自衛隊の発足と発展の中でシビリアン・コントロールはどのように護られてきたか。
第１４回　まとめ（試験）

オフィスアワー

受講者からの申し込みがあれば、個々に対応するので、下記メイルアドレスに連絡されたい。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

教科書は特に使用せず、パワー・ポイントにしたがって講義を進める。
また講義の中では、必要に応じて、参考図書ないし一般図書等を紹介する。
なお、使用したパワー・ポイントは、講義終了後、Web Class を通じて配付する。

関連科目

日本国憲法（日本国憲法についての知識があることを前提に講義を行う。日本国憲法について興味のある者は、日本国憲法もあわせて履修することをお勧めする。）
また国際関係論（井上担当）をあわせて履修すれば、明治維新から現在にいたる近代日本政治外交史を俯瞰することができる。

授業に持参するもの

教科書

参考書

日本政治史－外交と権力　北岡伸一　有斐閣　2011　9784641049932

学生へのメッセージ

近代日本政治外交史を、中学・高校までの日本史のような時系列的に講義するのではなく、政治制度の観点から現在とは異なる戦前の政治制度を切り口に、実際に起こった事件、事例を取り上げて解説する。
特に、政治制度面から見た太平洋戦争の原因については、高校で日本史を選択していない学生にも理解できるように解説する。
高校時代に「日本史」を履修しなかった学生には、日本近代史について学習する最後の機会になるので、この機会に日本人として知っておくべき最低限の知識を学んでほしい。

その他・自由記述欄

昨今、中国、韓国からの日本政府、日本国民の歴史観、認識に対する批判が強まっているが、歴史学者の間でも、両国との間では共通の認識が得られていないような状況にある。
他方、我々一人一人も日本の歴史、特に近代史に関する事実関係を知っておくことは重要である。
このような問題意識をもって、講義に出席することを期待したい。

教授要目

国際関係論(1)

科目英名	International Relations(1)
担当者	中山裕美
単位数	2単位
開講時期	１年生前期後半

科目概要

国家は政治や経済,安全保障などさまざまな領域において外国との間で互いに利害関係を調整し，複雑な国際関係を築いている。本講義では国際関係の歴史を振り返りながら，国家が果たす役割について理解し,国家を介して我々が国際社会といかにしてつながっているかについて考察する。

また本講義では新聞記事やニュースで取り上げられた事件をとりあげながら,その背後にある国際関係をめぐる様々な問題についても解説する予定である。

達成目標

今日の我々の生活は，経済活動やエネルギーや資源，食糧などの様々なモノを介して，外国と密接なつながりを有している。本講義を介して，受講者が国際社会の一員としての国際的素養を習得し，国際問題に対する多角的視座が養われることを目的とする。

成績評価

期末試験（90%）＋平常点（１０%）

予習復習時間

日常的にニュースを視聴したり新聞を購読したりして,さまざまな時事問題に対する見識を深めること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

世界で起こっている様々な出来事に対する探究心を持って講義に臨むこと。政治経済に囚われない幅広い興味関心を持っているとなお良い。

授業計画

第　１回　ガイダンス：日本と国際社会をつなぐ
第　２回　国家とは何か
第　３回　国際関係の誕生
第　４回　冷戦期の国際関係
第　５回　冷戦後の国際関係
第　６回　戦争はなぜ起こるのか
第　７回　平和とは何か
第　８回　国連平和維持活動と人道的介入
第　９回　日本と国際関係（１）：PKO 協力法
第１０回　核兵器をめぐる国際関係
第１１回　テロとの戦いと国際社会
第１２回　世界金融と国際関係
第１３回　貿易の自由化
第１４回　日本と国際関係（２）：TPP 参加交渉

オフィスアワー

毎回講義終了後，教室にて質問を受け付ける。

授業形態

配布資料に従って，パワーポイントを使いながら，講義を行う。

授業の具体的な進め方

（１）毎回の講義の冒頭で今週の国際関係ニュースと題し，講義内容に関連した時事問題を紹介・解説する。
（２）国際関係論に関連する諸概念を具体的な事件に当てはめながら説明する。
（３）内容の理解度促進とリフレッシュを兼ねて映像を視聴する予定である。
（４）内容に応じて学生が自分自身の考えを表明する機会を設ける（授業アンケートや質疑応答を通じて）。

国際関係論(2)

科目英名	International Relations(2)
担当者	中山裕美
単位数	2単位
開講時期	１年生後期後半

科目概要

グローバリゼーションの進展は新たにトランスナショナルなアクターの登場を招き,従来の国家中心主義的な世界観を動揺させている。また，ヒトやモノが流動的に行き交う今日において，一国内の事象は国内にとどまらず世界的に拡散する可能性を秘めており，その解決のために国家の枠を越えた取り組みの必要性が提起されている。本講義では国家だけでなく，国際機関や民間団体，さらたには個人がどのように地球規模の課題に向き合っているのかについて学んでいく。また本講義では新聞記事やニュースで取り上げられた事件をとりあげながら,その背後にある国際関係をめぐる様々な問題についても解説する予定である。

達成目標

今日の我々の生活は，経済活動やエネルギーや資源，食糧などの様々なモノを介して，外国と密接なつながりを有している。本講義を介して，受講者が国際社会が直面する諸課題に対する関心を深め,国際社会の一員として果たすべき役割について自ら考える機会を提供する。

成績評価

期末試験（90%）＋平常点（１０%）

予習復習時間

日常的にニュースを視聴したり新聞を購読したりして,さまざまな時事問題に対する見識を深めること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

世界で起こっている様々な出来事に対する探究心を持って講義に臨むこと。政治経済に囚われない幅広い興味関心を持っているとなお良い。

授業計画

第　１回　グローバル化する諸問題
第　２回　グローバリゼーションとはなにか
第　３回　グローバリゼーションを理解するための国際関係理論
第　４回　多様化するアクター
第　５回　民主化デモはなぜ世界中でおきるのか
第　６回　内戦は世界とどう関わっているか
第　７回　グローバルな現象に翻弄される人々：難民について考える
第　８回　グローバルな現象に翻弄される人々：移民について考える
第　９回　グローバル化の中の途上国経済
第１０回　途上国の貧困と向き合う
第１１回　多国籍企業の役割
第１２回　地域統合とグローバリゼーション
第１３回　地球環境問題とグローバルガバナンス
第１４回　グローバル社会に生きる

オフィスアワー

毎回講義終了後，教室にて質問を受け付ける。

授業形態

配布資料に従って，パワーポイントを使いながら，講義を行う。

授業の具体的な進め方

（１）毎回の講義の冒頭で今週の国際関係ニュースと題し，講義内容に関連した時事問題を紹介・解説する。
（２）国際関係論に関連する諸概念を具体的な事件に当てはめながら説明する。
（３）内容の理解度促進とリフレッシュを兼ねて映像を視聴する予定である。
（４）内容に応じて学生が自分自身の考えを表明する機会を設ける（授業アンケートや質疑応答を通じて）。

教授要目

法と市民(憲法を含む)

科目英名	Law, Constitution and Citizen
担当者	大沼　友紀恵　<>
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

法治国家という現代社会の中で、われわれは権利・義務の主体として生活している。そして、この法治国家を形づくる各種法体系の頂点に位置する法律が憲法である。本講義では、日本国憲法の内容や特色の解説を中心としながら、われわれの市民生活と法の関係のあり方について概説する。

What is "Civil Right" —In this course, we are going to study the notion, sources and common senses of law and constitution.

達成目標

日本の統治機構のシステムと人権保障がどのような内容かという点について、一般的な常識を身に付けることを目標とする。

成績評価

期末試験を100%として評価する。

予習復習時間

1回の授業に対して4時間の自学自習が必要（学則第18条に基づく）。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

日頃からメディア等での裁判報道に関心を持ってもらいたい。

授業計画

第　１回　法の目的・正義とは何か
第　２回　憲法の特色・憲法の歴史
第　３回　国民主権 - 国民主権の意味・天皇制 -
第　４回　平和主義 - 戦争の放棄・戦力の不保持と自衛権 -
第　５回　立法機関 - 権力分立の意味・国会の権能 -
第　６回　行政機関 - 議院内閣制・内閣の組織・内閣の権能・内閣の責任 -
第　７回　司法機関と地方自治 - 司法権の独立・地方自治の意義 -
第　８回　財政 - 課税権・予算・決算・予備費 -
第　９回　人権の基本原理 - 人権の特色・人権の享有主体 -
第１０回　包括的基本権・新しい人権・平等権
第１１回　精神的自由権 - 内心の自由 - 表現の自由 -
第１２回　経済的自由権 - 職業選択の自由・居住移転の自由・財産権の保障 -
第１３回　身体的自由権・受益権・参政権
第１４回　社会権 - 生存権・教育権・勤労権・労働基本権・環境権 -

オフィスアワー

授業開始時に指示する

授業形態

重要なポイントを書き出しながらの講義形式で行う。

授業の具体的な進め方

毎回、テーマに沿って重要なポイントを書き出しながら解説を行うスタイルで進めていく。

関連科目

授業に持参するもの

ノート・筆記用具

教科書

参考書

学生へのメッセージ

筆記事項が多いので、いろいろと工夫をして臨んでほしい。

その他・自由記述欄

法学

科目英名	Jurisprudence
担当者	大沼　友紀恵　<onumay@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期前半

科目概要

本講義では、法学についての基礎的なことがら概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール（総則、物権、債権総論、契約）について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

達成目標

(1)民法典の歴史および構造について理解する
(2)民法のルールについての基礎的な理解をする
(3)具体的な事例を法的な観点から説明できるようにする

成績評価

学期末試験（１００％）によって評価する。

予習復習時間

1回の授業に対して4時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特に指定しない

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　法の分類
第　３回　法源（１）制定法、意思表示
第　４回　法源（２）慣習、判例、条理
第　５回　民法と民法典
第　６回　権利と義務
第　７回　契約・法律行為
第　８回　権利能力・意思能力
第　９回　行為能力
第１０回　代理
第１１回　時効
第１２回　事例検討
第１３回　まとめ
第１４回　試験および解説

オフィスアワー

木曜　１３：４０～１４：２０　必須ではありませんが、事前にメールで予約してもらえれば確実です。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

基本的に講義方式で行うが、出席者に発言を求める場合もある。出席者は、きちんとノートをとること、積極的に授業に参加することが期待される。随時、小テストを実施する。これは、早期に理解の不十分な点を把握し、復習に役立ててもらうことを目的とするので、結果は成績評価の対象としない。

関連科目

民法

授業に持参するもの

教科書および小型の「六法」

教科書

民事法入門（第６版）　野村豊弘　有斐閣　2014年

参考書

新版　注釈民法（１）～（１７）　谷口知平ほか　有斐閣　4641017441
ウォーミングアップ法学　石山文彦編　ナカニシヤ出版　9784779504525
民法Ⅰ　第４版　9784130323512

学生へのメッセージ

理解の不十分な点は、そのままにせず、速やかに復習すること。

その他・自由記述欄

状況により、順番・内容を変更する場合がある。

教授要目

民法

科目英名	Civil Law
担当者	大沼　友紀恵　〈onumay@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本講義では、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

達成目標

(1)民法のルールについての基礎的な理解をする
(2)具体的な事例を法的な観点から説明できるようにする

成績評価

学期末試験（１００％）によって評価する。

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

法学の単位を取得済みであるか、同等の知識があることが望ましいが、必須ではない。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　民法概論
第　３回　契約の成立
第　４回　契約の効果
第　５回　契約の履行
第　６回　契約の不履行
第　７回　所有権
第　８回　不法行為
第　９回　家族
第１０回　親子・扶養
第１１回　相続、遺言
第１２回　事例検討
第１３回　まとめ
第１４回　試験および解説

オフィスアワー

木曜　１３：４０～１４：２０　必須ではありませんが、事前にメールで予約してもらえれば確実です。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

基本的に講義方式で行うが、出席者に発言を求める場合もある。出席者は、きちんとノートをとること、積極的に授業に参加することが期待される。随時、小テストを実施する。これは、早期に理解の不十分な点を把握し、復習に役立ててもらうことを目的とするので、結果は成績評価の対象としない。

関連科目

法学

授業に持参するもの

教科書および小型の「六法」

教科書

民事法入門（第 6 版補訂版　野村豊弘　有斐閣　2014 年

参考書

新版　注釈民法（13）～（28）　谷口知平ほか　有斐閣　9784641017474
民法Ⅳ　補訂版　内田 貴　東京大学出版会　9784130323109
民法Ⅲ　第３版　9784130323338

学生へのメッセージ

理解の不十分な点は、そのままにせず、速やかに復習すること。

その他・自由記述欄

状況により、順番・内容を変更する場合がある。

人文地理学

科目英名	Human Geography
担当者	新井　智一　〈〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

高校までの地理は，主に自然的・社会的事象の分布（「…に～がある」ということ）を説明する教科であるのに対し，大学の（人文）地理学は，なぜそうした分布が見られるのかということを，理論的，ときには科学的に説明する学問です。この授業は，そうした「分布の科学」について学んだのち，地理学から見た東京大都市圏の課題について考えます。

達成目標

人文地理学という学問分野を概観，理解することと同時に，さまざまな分布図や統計表を難なく読解できる能力を身につけること。

成績評価

期末試験の成績（80％）と，授業中の実習への取り組み（20％）。また，授業中の発言について加点します。

予習復習時間

予習は必要ありませんが，１時限分の授業に対して１時間の復習時間が必要です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

ありません。高校で地理を履修していなくても結構です。

授業計画

第　１回　人文地理学の歴史
大航海時代の「探検」から第二次大戦中の「地政学」まで
第　２回　人文地理学の伝統的な研究（１）－地域区分（１）
日本の「バカ」「アホ」方言の分布と伝播
第　３回　人文地理学の伝統的な研究（２）－地域区分（２）
天ぷらにはしょうゆかソースか？食生活の東西差
第　４回　人文地理学の伝統的な研究（３）－景観・土地利用研究
東京近郊の都市で農地はどのような場所に残るのか？
第　５回　人文地理学の理論（１）－チューネン・モデル（農業立地論）
都市周辺の地理的条件が同じとき，個々の場所で最適な農業のありかたを数理的に説明
第　６回　人文地理学の理論（２）－中心地理論
地理的条件が同じとき，都市は規模にかかわらず規則的に立地することを数理的に説明
第　７回　人文地理学の理論（３）－空間的拡散とモンテカルロ・シミュレーション
一見ランダムな病気や口コミの拡散に規則性があることを，実験を通じて理解
第　８回　人文地理学の理論（４）－時間地理学
時間の経過と人間の空間的行動とを１枚の地図で表す方法と，実社会での活用法
第　９回　メンタル・マップ　－頭の中の地図
認知地図（頭の中の地図と現実とのズレ）と選好地図（地域に対して持つイメージの地図）
第１０回　不平等の地理学
国際間の不平等，都市内での不平等を地図で明らかにする方法
第１１回　東京大都市圏の地理学
関東大震災以降における東京の中心部と郊外の発展過程と現在の課題
第１２回　都市の内部構造
江戸や米国の都市にみられる「すみわけ」について
第１３回　外国人，高齢化と都市
日本におけるさまざまな国籍の人々の分布，都市の「フードデザート」（食の砂漠）問題
第１４回　試験および解説

オフィスアワー

授業終了後に質問を受け付けます。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

教科書

なし

参考書

最近の地理学　坂本英夫・浜谷正人　大明堂　1985　4470400386
立地と空間的行動　杉浦芳夫　古今書院　1989　4772212310

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

現代中国論

科目英名	Contemporary Chinese Society
担当者	竹茂　敦　〈必要に応じて指示する。〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

中国の名目国内総生産（GDP）は 2010 年に日本を追い抜いて世界第２位となった。2020 年代には米国を抜いて第１位になるとの予測もあり、「21 世紀は中国の時代」「世界の工場」といった中国経済の将来性が期待・注目を集めている。しかしその一方で、ここ数年の経済成長は(日米欧諸国と比べれば依然として高成長ではあるものの)鈍化傾向にあり、汚職・腐敗問題や環境問題、少数民族問題といった先行きへの不安要素が取り沙汰されることも増えている。また、近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず、1970 年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえある。本講義では、このような中国内外の現状や諸問題について、様々な視点から検討してゆく。

達成目標

現代中国を理解するための基礎的な知識の習得。

成績評価

期末テストによって評価する（試験 100%）。

予習復習時間

１回（１００分）の授業に対して４時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

とくになし。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　中華人民共和国の成立と社会主義建設の模索
第　３回　文化大革命による混乱と毛沢東の死
第　４回　鄧小平の復活と改革・開放政策の展開
第　５回　「六・四」天安門事件と国際的孤立
第　６回　高度経済成長と格差の拡大・価値観の多様化
第　７回　戦後の米中・日中関係
第　８回　国際的な存在感の高まりと対外関係の緊張
第　９回　軍事制度と軍事力
第１０回　環境問題
第１１回　民族問題（華僑・華人を含む）
第１２回　蒋介石時代の台湾
第１３回　台湾の民主化と中台関係の変質
第１４回　まとめ

オフィスアワー

講義終了後、昼休み

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

◆レジュメ・映像などを用いて講義形式で進める。
◆毎回冒頭 20～30 分ほどで、時事や中華料理、中国文物といった、現代中国を理解する手掛かりとなる事柄をトピック的に取り上げて解説する。
◆教科書はとくに定めない。授業内で必要に応じてレジュメを配布するとともに、参考図書を適宜紹介する。

関連科目

とくになし。

授業に持参するもの

必要に応じて指示する。

教科書

＊教科書はとくに定めない（授業内で必要に応じてレジュメを配布する）。

参考書

＊参考図書は授業内で適宜紹介する。

学生へのメッセージ

近年の中国については、程度の差こそあれ、マイナスのイメージ・感情を抱いている学生諸君も少なくないと思うが、本講義の受講にあたってはそれらはひとまず脇において、「中国を冷静かつ多角的に理解しようとする姿勢」を意識してほしい。また、新聞・テレビで中国に関するニュースに触れ、『三国志』や陳舜臣氏の著作といった中国に関する小説・エッセイを読み、中華料理を賞味し、博物館で古今の中国文物を鑑賞するなど、教室外でも「中国に対する積極的な興味・関心」を抱いてもらいたい。

その他・自由記述欄

教育学(1)

科目英名	Education (1)
担当者	角田　多加雄　〈sumida.takao@nifty.com〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

人間は次世代の育成をつねに考え、そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが、教育それ自体について深く考える機会は多くない。この授業では、現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための、教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では、おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続いて海外の教育状況を考察し、後半ではこうした論を単なる知識の習得におわらせず、現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

達成目標

教育について考え、自分の意見をつくっていく上で必要な事実や概念の習得
・教育について考え議論するための基本的概念の習得
・古典や外国語文献を含む資料の読み方と利用方法について学ぶ
・偏りのない海外の教育状況の理解
・「伝える」「教える」などの教育上の基本概念について検討する
・大学で学ぶということの意味について自分なりの考えをもつ

成績評価

期末レポートによる評価。求められた課題に対応した内容になっていて、参考文献を適切に選択・参照し、さらに自分自身の見解が明確に表現されていることが評価の上で重視される。レポート作成過程での質問や相談は歓迎する。

予習復習時間

１時限分の授業に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

教育についてだけでなく、国際情勢も含めた社会の問題について広く関心を持ち、自分の意見や疑問を表現できるようにしておくことが望ましい。

授業計画

第　１回　大学で学ぶとはどのようなことか　リテラシーとコミュニケーションという問題
第　２回　教育の思想史（１）　古代ギリシアの教育思想　プラトンとイソクラテス
第　３回　教育の思想史（２）　古代中国の教育思想　儒教と老荘思想
第　４回　教育の思想史（３）　近代の教育思想　近代とは　ルソーとマルクス
第　５回　教育の思想史（４）　日本の近代　福沢諭吉の教育論
第　６回　教育の国際比較（１）　学力をめぐる国際比較
第　７回　教育の国際比較（２）　不平等と教育予算
第　８回　教育の国際比較（３）　宗教・民族・国家と教育
第　９回　グローバリズムと教育（１）新自由主義の登場
第１０回　グローバリズムと教育（２）ナショナリズムの歴史
第１１回　グローバリズムと教育（３）言語の政治学と教育
第１２回　教育と経済　学力・競争・エリート教育
第１３回　メディアと教育　いじめと暴力をどうするか
第１４回　教育の未来に向けて　教育の議論を深めるために

オフィスアワー

授業終了後。電子メールでも随時質問を受け付ける。

授業形態

講義が中心となるが、随時討論を行う。質問はいつでも歓迎する。

授業の具体的な進め方

毎回の講義テーマにそって論理的に関連付けられた３つから４つの論点を提示し、それについて講義を行ない、理解の確認も含めて随時討論を行う。

関連科目

教育学（２）

授業に持参するもの

講義内容や質問事項、発言のために自分の意見をまとめるためのノート

教科書

毎回資料プリントを配布する。

参考書

ギリシア人の教育　廣川洋一　岩波新書　1990 年　4004301106
国家　プラトン　岩波文庫　1979 年　4003360176
エミール　　1962 年　9784000071291
孔子　金谷治　講談社学術文庫　1990 年　4061589350
福沢諭吉教育論集　山住正己編　岩波文庫　1991 年

学生へのメッセージ

教育についての問いは、社会についての多くの問いと同様に答えが一つではありません。自分と異なる意見にも興味を持ち、そこからも学ぶという寛容な姿勢がとりわけグローバル化した社会では重要になります。授業では積極的に意見を出すようにしてください。講義内容への感想だけでなく、反論も大いに歓迎します。

その他・自由記述欄

教授要目

教育学(2)

科目英名	Education (2)
担当者	角田　多加雄　〈sumida.takao@nifty.com〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として、いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ、基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく、教育と深く関わる言語や芸術、社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく、現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく、可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

達成目標

教育について考え、自分の意見をつくっていく上で必要となる基礎知識とその活用力の習得を目指す。

・日本の近現代教育に関する基本的知識の習得
・古典作品や史料の読み方と利用の方法を学ぶ
・現代の教育について考え議論し、自分の意見をつくるための基本的概念の習得
・大学で学ぶということの意味について自分なりの考えをもつ

成績評価

期末レポートによる評価。求められた課題に対応した内容になっていて、参考文献を適切に選択・参照し、さらに自分自身の見解が明確に表現されていることが評価の上で重視される。レポート作成過程での質問や相談は歓迎する。

予習復習時間

１時限分の授業に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

授業で扱う時代や思想について、高校の教科書や歴史について書かれた新書などでおおまかに把握しておくこと。深く調べていくための参考文献は毎回紹介します。

授業計画

第　１回　教育の歴史を学ぶ意味　歴史区分の問題
第　２回　前近代の教育思想　儒学・国学・洋学
第　３回　幕末期の状況と教育　翻訳と近代日本語
第　４回　近代日本の教育の成立　教育制度と教育習慣の起源
第　５回　啓蒙思想家の思想と教育　西洋思想の導入
第　６回　教育勅語体制の成立と展開
第　７回　戦争と教育（１）教科書と学校教育
第　８回　戦争と教育（２）植民地教育・市民生活
第　９回　敗戦と占領下の教育　アメリカの影響
第１０回　戦後経済成長期の教育　学力と試験
第１１回　戦後教育改革の全体構造
第１２回　グローバル化のなかの日本（１）　新自由主義と教育
第１３回　グローバル化のなかの日本（２）　ナショナリズムと教育
第１４回　教育の未来に向けて　歴史から何を学ぶか

オフィスアワー

授業終了後。電子メールでも随時質問を受け付ける。

授業形態

講義が中心となるが、随時討論を行う。質問はいつでも歓迎する。

授業の具体的な進め方

毎回の講義テーマにそって論理的に関連付けられた３つから４つの論点を提示し、それについて講義を行ない、理解の確認も含めて随時討論を行う。

関連科目

教育学（１）

授業に持参するもの

講義内容や質問事項、発言のために自分の意見をまとめるためのノート

教科書

毎回資料プリントを配布する。

参考書

日本教育小史　－近・現代－　山住正己　岩波新書　1987年　9784842914893
日本の教育　堀尾輝久　東京大学出版会　1994年　4130530550

学生へのメッセージ

教育についての問いは、社会についての多くの問いと同様に答えが一つではありません。自分と異なる意見にも興味を持ち、そこからも学ぶという寛容な姿勢がとりわけグローバル化した社会では重要になります。授業では積極的に意見を出すようにしてください。講義内容への感想だけでなく、反論も大いに歓迎します。

その他・自由記述欄

心理と生理

科目英名	Psychology and Physiology
担当者	渡辺　昭彦　〈awatana@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

人間は社会的存在であるともに自然的存在でもある。本講では、大脳生理学的および認知心理学的知見に基づく自然的存在としての人間の心と行動に関する基礎概念の解説と学習を行う。心理学の基礎となるヒトの生物学的共通要素を探る。

達成目標

１．自然科学的、社会科学的方法論の理解。そのためのシステマティックな思考法と視点の育成。
２．人間の生理、簡単な解剖学などから演繹される心理的機構の理解。
３．科学的思考法とその情報の収集と表現の仕方の最低限の理解。

成績評価

レポート（２０％）、期末のまとめ（６０％）、授業中の小テスト（２０％）より総合的に評定する。

予習復習時間

講義のより深い理解のためには、その日の内容を教科書、ノートを参考に最低1時間程度は振り返り復習する必要がある。同時に次回の予習に同程度の時間を割くべきである。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

高等学校生物学程度の基礎的な生物学に対する知識と生命に対する燃えるような好奇心。イントロダクション時に小テストを行い、結果次第で履修を認めない場合もあるので、第1回のイントロダクションは出席すること。

授業計画

第　１回　生物としてのヒトについてのイントロダクション：聴講の心得と14回にわたる講義内容のアウトラインを解説する。
第　２回　こころと行動の科学としての心理学への招待およびヒトの生理学入門。心理学の歴史と発展の沿革と心理過程の理解のためになぜ生理学が必要なのか、問題を提起する。
第　３回　心理学の素養としての生理学１：脳と神経系。各種人体標準値の解説と神経生理学の基礎を解説する。
第　４回　心理学の素養としての生理学２：大脳皮質の機能局在の解説を行う。
第　５回　心理学の素養としての生理学３：大脳内部と情動。情動行動の発生機序並びに、自律神経の役割と機能を解説する。
第　６回　脳のイメージング：画像解析の世界。各種脳画像診断の方法と意義などを解説し、心理学的意義を述べる。
第　７回　間奏曲：ヒトと動物のこころ（VTR鑑賞とレポート）
第　８回　入力情報処理１：感覚と知覚　嗅覚、触覚、味覚。
第　９回　入力情報処理２：感覚と知覚　聴覚と視覚①
第１０回　入力情報処理３：感覚と知覚　視覚②
第１１回　記憶および睡眠のメカニズムと意味を解説する。
第１２回　ホメオスタシスとストレス：ストレス・コーピング。
第１３回　時間とリズムの生理学。生物学、心理学におけるリズムの意味と解釈を解説する。
第１４回　まとめ。講座履修の目的が達成されたか、学期の振り返りとともに再認識したもらう。

オフィスアワー

月曜日　１３：３０－１６：００

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

教科書の内容は当然予習されてきているものと見なし、行間の表現されていない部分を板書、スライド、視覚教材などを用いて提示、解説する。

関連科目

文化とパーソナリティ、学習と動機づけ

授業に持参するもの

教科書、ノート。
後方で見えにくい人は双眼鏡、オペラグラスなど。

教科書

現代の心理学　伊藤・千田・渡辺　金子書房　2003/4　978-47608231

参考書

脳の事典　坂井、久光　成美堂出版　2012　978-4-415-30999-6

学生へのメッセージ

生物に対する興味、生命に対する畏怖、人間に対する尊厳を忘れずに。
単位取得のみを目的とする学生は履修しないこと。

その他・自由記述欄

出席をなおざりにする学生は、単位を取得できないことが多いようである。また、騒がしいと認定された学生は、供覧実験の被験者となってもらう場合がある。この場合、拒否権はなく、各種ハラスメントも免責となるので注意されたい。

教授要目

文化とパーソナリティ	
科目英名	Culture and Personality
担当者	渡辺　昭彦　〈awatana@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要

人間は自然的存であると同時に社会的存在である。社会の構成要素である個人について、その個人を個人たらしめているパーソナリティについて、理論、とらえ方（心理テスト）、変容、対人技法（カウンセリング）などを学ぶ。その上で人々の集団を俯瞰して文化的考察を行う。

達成目標

対人理解、自己洞察を含めた人間理解の方法論と思考法を体得して欲しい。さらに行動の変容を見極め、その対処法をも学んで欲しい。前半は個としての自己認識を、後半は社会の中での自己認識の確立を目指す。

目標はグローバルな自己の存在と立ち位置を理解できるようになることである。

成績評価

レポート（２０％）、まとめとしての期末試験（６０％）、授業中の小テスト（２０％）より総合的に評定する。

予習復習時間

概念的なことは教科書、ノート、参考書以外の情報ソースを活用してしっかり把握すること。そのために特に学習時間は設けず、日常生活においてアンテナを張り巡らして知識の吸収に努めること。心理査定などはその都度再度の実習を心がけて、応用範囲を考えること。予習と復習に４時間程度はかけること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

自分、他人を問わず、人間に対する興味を持ち、理解を深め、尊厳をもって他人と関わることを望む人の履修を期待する。

イントロダクション時に小テストを行い履修に不適と判断される人は履修できない場合もある。第１回のイントロダクションは出席すること。

授業計画

第　１回　イントロダクション:あなたをあなたらしくしているものとは？　人は生物学的基盤は共通である。個としての相違点を探る事を目的として開講する。

第　２回　パーソナリティ１：定義と理論分類（類型論と特性論）。それぞれの理論の特徴を述べる。

第　３回　パーソナリティ２:フロイトの理論と力動論。類型論と特性論で語りきれない論理を考察し、演繹された力動論に関して学ぶ。

第　４回　心理査定１：総論。理論分類されたパーソナリティを以下に把握するか、その方法論のアウトラインを解説する。

第　５回　心理査定２：各論１（質問紙法）。パーソナリティの把握のための手法の１つである質問紙法を解説する。

第　６回　心理査定３：各論２（投影法）。パーソナリティの把握のための手法の１つである投影法を解説する。

第　７回　心理査定４：各論２（投影法）実習。各論２で述べきれなかった投影法を紹介し、若干の実習を試みる。

第　８回　間奏曲：生と死の心理学（VTR 鑑賞とレポート）。課題ビデオを鑑賞し、生と死についての考察を課す。

第　９回　臨床心理学と病理１:(行動の変容)。パーソナリティの変容の変容の病理に関して、病態概念、治療の一助となるカウンセリング技法などを解説する。

第１０回　臨床心理学と病理２:(自己測定)。複数の人がいる場合のコミュニケーションの意味、測定などを行う（実習を含む)。

第１１回　個人から社会へ

第１２回　文化論１:世界の中の日本。日本と世界の比較文化的測定を体験に基づき実施、考察する。

第１３回　文化論２：人の本性（自己は堅固か？)。いくつかの実験例を参照して、パーソナリティの堅固さを論証、考察する。

第１４回　まとめ:学期を通しての目標と到達度を確認し、今後の生活に活かせるように指導する。

オフィスアワー

月曜日　１２：３０－１６：００

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

教科書で述べていないことを中心に板書、スライド、プリントを配っての実習などで学習を進める。

教科書内容の事前学習は当然ながら必要条件である。

関連科目

生理と心理、倫理学

授業に持参するもの

教科書、ノート。

デジカメ、オペラグラス？

教科書

現代の心理学　伊藤・千田・渡辺　金子書房　2003/4　978-47608231

参考書

＜わたし＞はどこにあるのか　M.S.ガザニガ　紀伊國屋書店　2014　978-4-314-01121-1

ウィーン大学生フロイト　金関猛　中央公論新社　2015　978-4-12-004690-2

学生へのメッセージ

ヒトはどこからきてどこへゆくのか。キミはなにものなのか。こころをとらえることはできるのか。こころはかわるのか、かえられるのか。つよいかよわいか。

その他・自由記述欄

真面目な受講者の学習の妨げになるような行為（私語、騒乱、立ち歩き、過度の飲食）をする者は退出を命じることがあります。この場合、いかなるハラスメントも免責となります。

教授要目

学習と動機づけ

科目英名	Learning and Motivation
担当者	千田　茂博　<ssenda(at)tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要
心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動、またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

達成目標
心理学を学ぶことで受講者各自が少しでも自己理解を深めることをめざしている。

成績評価
授業中の課題（10 点）、期末試験（90 点）

予習復習時間
１時限分の講義に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特に自分自身の動機づけ、意欲について振り返りながら授業を受講してほしい

授業計画
第　１回　学習と動機づけ
第　２回　行動主義と認知論
第　３回　スキナーのオペラント条件づけ理論
第　４回　強化とは何か
第　５回　認知論的学習理論
第　６回　欲求テスト
第　７回　伝統的欲求理論
第　８回　マズローの欲求階層説
第　９回　内発的動機づけ
第１０回　学習性無力感
第１１回　自己認知説
第１２回　指し手・コマ理論
第１３回　アドラーの勇気づけ理論
第１４回　試験および解説

オフィスアワー
木曜日、金曜日ともに１２：３０から１６：００まで、学生なんでも相談室にいます。

授業形態
講義

授業の具体的な進め方
講義を中心として、時に実習的な課題を行う

関連科目
発達と教育、教育心理学

授業に持参するもの
その都度指定する

教科書
現代の心理学　伊藤隆一、千田茂博、渡辺昭彦著　金子書房　2003 年　9784760823116
世界を読み解くリテラシー　井上健、山本史華、中井洋史編　萌書房　2010 年　9784860650544

参考書
授業中に随時紹介

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

発達と教育

科目英名	Development and Education
担当者	千田　茂博　<ssenda(at)tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要
人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

達成目標
受講者自身が自らの発達プロセスを振り返ることにより、自己理解を少しでも深められることをめざす。

成績評価
授業中の課題（10 点）、期末試験（90 点）

予習復習時間
１時限分の講義に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
単に知識としてではなく、自らの発達を振り返りながら授業を受講してほしい

授業計画
第　１回　発達と教育とは
第　２回　知能とは何か
第　３回　知能テストと創造性
第　４回　ピアジェの認知発達理論
第　５回　地球脱出
第　６回　道徳判断の発達
第　７回　フロイト、エリクソンの発達理論
第　８回　自我と社会性の発達 児童期まで
第　９回　自我と社会性の発達 青年期
第１０回　自我と社会性の発達 成人期以降
第１１回　価値観、信念の形成過程
第１２回　認知療法と論理情動療法
第１３回　来談者中心療法
第１４回　試験および解説

オフィスアワー
木曜日、金曜日ともに１２：３０から１６：００まで、学生なんでも相談室にいます。

授業形態
講義

授業の具体的な進め方
講義を中心として、時に実習的な課題を行う

関連科目
学習と動機づけ、教育心理学

授業に持参するもの
その都度指定する

教科書
現代の心理学　伊藤隆一、千田茂博、渡辺昭彦　金子書房　2003 年　9784760823116

参考書
授業中に随時紹介

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

心理学概論

科目英名	Basic Psychology
担当者	森山徹
単位数	２単位
開講時期	１年生前期

科目概要

「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたのかを，最新の知見を通して学んでいきます。いろいろな分野・領域の心理学に触れ，心の不思議さやその仕組みを理解し、自己や他者への洞察を進めていきます。また、生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係を築いていけるような学習者としての資質向上をはかることを目指します。

達成目標

①心理学の多様な分野に触れ、「心」についての理解を深める。
②科学的なもの見方･考え方を理解し、日常的な学習において習慣化できるようにする。
③「心」と向き合う真摯な姿勢をもてるようにする。

成績評価

①出席状況（全受講者対象，２／３以上の出席必須）
②講義内で取り組む課題及びレポートの提出
以上２点を評価対象とし､①の基準を満たした者に対して②の提出状況と内容についての評定を行い総合的に評価する。なお、遅刻・早退、講義中の受講態度についても評価対象とし、適宜減点換算する。

予習復習時間

１回２時間の授業に対して４時間程度の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

心理学についての基礎的な知識は必要ありません。ただし、人の「心」や自分自身の「心」と真剣に向かい合いたい、「心」の不思議さについて探求したいという気持ちをもって受講してください。

授業計画

第　１回　講義ガイダンス／「心理学概論」にいて・心理学とはどのような学問か
第　２回　「私」の成り立ち①乳幼児心理学・発達心理学
　　「赤ちゃん学」からわかってきた私たちの心の起源
第　３回　「私」の成り立ち②教育心理学
　　子どもの心の発達
第　４回　「認識」という心のメカニズム①思考・言語・記憶
第　５回　「認識」という心のメカニズム②認知心理学
第　６回　「認識」という心のメカニズム③比較心理学の世界
第　７回　「私」という個性①人格心理学・性格心理学
　　自我と自己，自己理解と自己肯定感
第　８回　「私」という個性②知能とは何か
　　学習と知能
第　９回　「心」の揺れと治療①臨床心理学
第１０回　「心」の揺れと治療②障害は個性か
第１１回　人とのつながり①社会心理学
　　コミュニケーションの心理学
第１２回　人とのつながり②心理学の社会的応用
第１３回　未来の「心」の形
　　人工知能・ロボット・アンドロイド
第１４回　「心」とは何か

オフィスアワー

事前に連絡があれば時間を調整し対応します。

授業形態

授業は講義形式すが､必要に応じて適宜受講者同士のディスカッションや演習形式での学習を行います。

関連科目

心理と生理、心理学入門

授業に持参するもの

筆記用具

参考書

『幼稚園教育要領』

学生へのメッセージ

受講者同士の対話や自身との対話を通して多様な｢心｣の特性にアプローチしていきます。講義は毎回ナイーブでデリケートな内容を多く取り扱います。授業の形式や性格上、受講には人数制限を設けます。初回講義時に、小テストを実施して受講者を決定しますので、受講希望者は、必ず初回の授業に出席するようにしてください。

その他・自由記述欄

テキストは使用しません。
毎回、講師が資料を用意します。

心理学入門

科目英名	Introduction to Psychology
担当者	川村　久美子　〈kawamura@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方、もうひとつは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちには馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。
We will study Ecological Psychology and examine the psychological aspect of today’s environmental crisis. Mind here can be defined not as a dimension evolved inside oneself but as an aspect of interaction among humans, society, technology, and nature.

達成目標

１.「知性とは何か」について考える。
２．人間と環境との関係性、相補性について考える。
３．近代産業社会の人間に対する要請を検討し、心理学が提示してきた人間モデルとの関係について考える。

成績評価

実験レポート(中間）20%、試験（学年末）70%、小テスト 10%（授業中に理解度についてのテストを行う）

予習復習時間

毎回２時間の授業に対して、４時間の自学自習が必要である。授業時に配布する資料をもとに必ず復習し、次回の授業に備えること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

授業時間外にグループでの実験を行う。

授業計画

第　１回　ガイダンス　近代社会の形成と心理学の登場
中世：集団が単位の世界／近代：個が単位の世界／個人主義の醸成と心理学の登場
第　２回　錯覚実験に対する対立する説明：
二つ折り紙の実験／錯覚：感覚が当てにならないのか、動かない前提だからか
第　３回　「心理学の教科書」が採用する前提とは
感覚器官を解剖学的に語る／中枢へと向かう情報／二次元の網膜像という出発点／あてにならない感覚情報を意味づける認知の働き
第　４回　前提の起源：デカルトの二元論
機械論的世界観と要素還元主義／機械論的身体の前提／知性の二段階説
第　５回　知性の二段階説をサポートしない実験結果
欧米の研究者とバンツ族の奥行知覚／暗室で育てた子猫の知覚実験／先天盲の開眼時の体験／絶えず動揺している眼球／
第　６回　「動くこと」を前提としない場合の人間知性のモデル
行動主義／認知科学と表象主義／情報理論
第　７回　フレーム問題が示す人間知性とＡＩの違い
ロボット実験／閉じられた環境でないと発揮されないＡＩの推論能力／なぜ人間だけはフレーム問題に悩まないのか／知性の二段階説の限界
第　８回　アフォーダンス理論
能動的に動く自分と世界との関係を見ている／視野による自己の特定／参照点となる自己情報／聴覚・触覚・味覚における自己情報／主体と客体は注意の両極
第　９回　逆さめがねの実験とスマート・パーセプション
距離は見える／いかに衝突を避けているか／鳥の移動／飛行機の操縦／行為と知覚の循環
第１０回　協調構造としての行為
知性の二段階説による行為の説明／古典的運動制御理論／産業化とテイラー主義／膨大な自由度／協調構造による説明／自己組織化理論との関係／設計図なくても構造が出現
第１１回　ダイナミカル・システムズ・アプローチ
「同期する指」の実験／馬の足並み実験／パーキンソン病治療への応用
第１２回　アフォーダンスと「行動の種」の選択
行為の可能性の知覚／フレーム問題に悩まない／環境と動物の相互作用が知性をつくる／新たな進化の考え方：行動の種／相近進化
第１３回　協調構造としての身体がアフォーダンス情報に出会う
スウィング・ルームの実験／マイクロスリップ実験／シロアリの巣作り
第１４回　アフォーダンスとスマートなデザイン
ヒューマンインターフェースの現場／失敗するデザイン・成功するデザイン

オフィスアワー

火曜、水曜昼休み

授業形態

講義形式だが授業時間外に実験を行う。

関連科目

認知科学

学生へのメッセージ

必ず出席し、実験にも積極的に参加すること。

その他・自由記述欄

教科書は特にない。参考書は授業時に提示する。

教授要目

社会とジェンダー

科目英名	Gender in Society
担当者	西山　千恵子　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

ジェンダーとは社会的に作られた性別、性差という意味である。「男は仕事、女は家事」といった性別役割分担など、この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来、自然なことだと考えられてきた。それに対し、ジェンダーという概念は、これらの性差は自然でも、必然でもなく、社会的に構築されたものだと捉える視点を与える。本授業では、私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し、人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

達成目標

1)　現代社会の課題をジェンダーの視点を持って理解する。
2)　ジェンダーの視点から法律、社会、政治と暮らしとの関係を学び、国際社会での日本の男女の位置づけを知り、生きる力を養う。
3) 性による差別を学ぶことで、社会にはさまざまな差別が存在することを理解し、平等・公正・正義に満ちた社会を形成する構成員になるための知性や自覚を養う。

成績評価

試験９０％　平常点（授業時のミニッツ・ペーパー）１０％

予習復習時間

授業後、配布したプリントを確認しノートを整理し、疑問点、質問点があればまとめておくこと。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「大学で学ぶ」姿勢を持って、授業への積極的な参加を期待する。授業中の私語、携帯電話の操作等、不適切な行為は禁ずる。

授業計画

第　１回　「社会とジェンダー」を学ぶ目的
―格差社会・国際化・情報化・少子高齢などの課題と社会
第　２回　国連の男女平等に向けての活動
第　３回　日本の男女平等政策
第　４回　女性差別撤廃条約とは何か
第　５回　ジェンダーと男性問題―「男性差別」はあるのか？
第　６回　性の多様性とは何か
第　７回　セクシュアル・マイノリティの人権
第　８回　ジェンダーの発達心理学
第　９回　暴力とジェンダー１．デートDV
第１０回　暴力とジェンダー２．配偶者間暴力
第１１回　リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）
第１２回　メディアとジェンダー
第１３回　戦争とジェンダー
第１４回　まとめ―ジェンダーの平等に向けて

オフィスアワー

授業後に質問等に対応する。または講義時に配布するミニッツ・ペーパーに質問を記入のこと。

授業形態

講義、ワークショップ

授業の具体的な進め方

講義はパワーポイントやDVDを利用し、講義内容の理解を深められるように工夫する。ディスカッションの時間や参加型のワークショップも取り入れ、発言を求めることがある。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

ジェンダーで学ぶ政治社会学入門　大海篤子　世織書房　2010　978-4902163513

参考書

学生へのメッセージ

積極的な講義への参加を期待する。
日本社会に潜むジェンダーによる差別に気づき、平和・公正・平等な社会の一員になることをめざしてほしい。

その他・自由記述欄

参考書は教科書に示されており、適宜授業の中でも紹介する。ミニッツ・ペーパーを適宜配布する。次回以降、匿名で読み上げ、質問に回答したり、講義の補助材料とすることがある。
授業のキーワード：現代社会、グローバル化、ジェンダー、男女共同参画、格差社会、少子高齢社会

日本文化の伝承

科目英名	Transmission of Japanese Culture
担当者	榎本宗白
単位数	2 単位
開講時期	１年生後期

科目概要

日本文化の一つである茶道は書道・華道・香道や能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされている。
この講義ではその茶道が現代でどのような役割を果たしているのか,茶道の歴史をさかのぼり茶道の真意・点前の意義・懐石の意味やマナー，茶室などの数奇屋建築といった衣食住の重要性を学びます。
現代を生きる知恵を学びましょう。

達成目標

日本文化にたずさわり，茶道に触れてみる

成績評価

講義での課題（５０％）と試験（５０％）により評価する

予習復習時間

特になし

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　茶道と稽古について
第　２回　茶の歴史
第　３回　お茶の種類と工程
第　４回　露地について
第　５回　露地　～外露地～
第　６回　露地　～内露地～
第　７回　茶室とは
第　８回　茶室の名称
第　９回　床の間について
第１０回　懐石について
第１１回　茶事の形式
第１２回　茶事の流れ
第１３回　五節句について
第１４回　総括

オフィスアワー

事務局に連絡ください

授業形態

授業内で指示

授業の具体的な進め方

難しく思われがちな茶道を紐解きながら理解を深めてもらい,現代にも通用する心のあり方などを説明します。
また，茶室においては禅語や和歌などのに軸を掛けて説明し，茶室に座り床の間を拝見してもらいます。

教科書

特になし

参考書

特になし

学生へのメッセージ

茶道は日本人が誇るべき文化です。
その文化を学びながら身近に感じてみましょう。

教授要目

スポーツ・健康論

科目英名	The theory of Health, Physical Fitness and Sports
担当者	久保　哲也　〈kubo@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本講義では、健康、体力をテーマに身体運動の意義や必要性に関する理解を深めるとともに、健康、体力の維持増進と日常生活との関連の重要性について考察する。
The purpose of this lecture is to study the importance of different lifestyles and health.

達成目標

①健康の基盤としての体力作りの理解。
②生涯にわたって健康で過ごせるような知識の習得。
③スポーツの楽しみ方を見出し、スポーツライフを設計し、実践する能力を養う。

成績評価

期末試験を 80%、レポート（2 回）を 20%とし、総合的に判断する。

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）。これに加え、7 回目終了後と 14 回目終了後に各 2 時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

遅刻をしないこと。

授業計画

第　1回　ガイダンスー本講義のアウトライン、評価方法、受講上の注意に関する説明ー
第　2回　健康の基盤としての体力作り（その 1）ーエアロビクス（有酸素運動）ー
第　3回　健康の基盤としての体力作り（その 2）ーアネロビクス（無酸素運動）ー
第　4回　健康の基盤としての体力作り（その 3）ーウェイトコントロールー
第　5回　健康の基盤としての体力作り（その 4）ースポーツ傷害、救急法ー
第　6回　健康の基盤としての体力作り（その 5）ー熱中症とその予防ー
第　7回　生活と健康（その 1）ー飲酒ー
第　8回　生活と健康（その 2）ータバコの害ー
第　9回　生活と健康（その 3）ーエイズと STDー
第１０回　生活と健康（その 4）ー薬物乱用と健康ー
第１１回　生活と健康（その 5）ー環境汚染と健康ー
第１２回　メディアにみるスポーツ（その 1）ーCM 編ー
第１３回　メディアにみるスポーツ（その 2）ー剣道編ー
第１４回　まとめ

オフィスアワー

（金）3 限、4 限

授業形態

配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

パワーポイントや DVD による映像をもとに順序立てて解説していく。

関連科目

基礎体育（1）、基礎体育（2）、応用体育（1）、応用体育（2）

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

自分自身の将来にわたる健康に関わる内容なので、しっかりと身につけて欲しい。

その他・自由記述欄

論理学(1)

科目英名	Logic（1）
担当者	谷川　卓　〈〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについての理解を深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

達成目標

タブローの方法によって、一階述語論理の範囲で推論の妥当性を判定できるようになること。

成績評価

平常点（30%）、試験（70%）

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。この講義で利用する教科書には、練習問題それぞれについて解答が書かれている。そこで教科書の練習問題については、各自で授業時間外に取り組んでもらうことを求める。（それら練習問題を解けるかどうかが、単位を取得できるかどうかのひとつの目安になると思う。）また、追加の自習用練習問題を用意する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

とくにない。ただし、授業内容を復習し、教科書の練習問題にそのつど取り組んでいく姿勢が必要。

授業計画

第　1回　イントロダクション
第　2回　命題論理の記号言語
第　3回　真理関数
第　4回　真理値分析
第　5回　トートロジー・矛盾・論理的等値
第　6回　命題論理のタブロー（1）　トートロジーかどうかを判定する
第　7回　命題論理のタブロー（2）　推論が妥当かどうかを判定する
第　8回　述語論理の記号言語
第　9回　量化と多重量化
第１０回　解釈と真理値
第１１回　妥当性と充足可能性
第１２回　述語論理のタブロー（1）妥当式かどうかを判定する
第１３回　述語論理のタブロー（2）推論が妥当かどうかを判定する
第１４回　まとめと試験

オフィスアワー

昼休みに非常勤講師室まで。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

論理学（2）

授業に持参するもの

教科書とノート

教科書

論理学入門　丹治信春　ちくま学芸文庫　2014　978-4480095183

参考書

学生へのメッセージ

論理学では練習問題を解いてはじめてちゃんと理解できるような事柄がたくさんある。そのため、受講学生には講義への積極的な参加を求める。「ただ単に出席して聞き流す」といった参加の仕方では単位取得は難しいと思うので、そのつもりでいてほしい。（すべての講義に出席していても、期末試験の出来具合によって単位認定不可になることは、当然ありえる）。

その他・自由記述欄

教授要目

論理学(2)

科目英名	Logic (2)
担当者	谷川　卓　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

達成目標

自然演繹と呼ばれる方法を学び、論理というものについての理解を深めること。

成績評価

平常点（40%）、試験（60%）

受講学生には授業のなかで練習問題に取り組んでもらうことになる。平常点には、そうした問題演習への取り組みを含めた授業への参加態度が反映される。

予習復習時間

1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

前提というわけでないが、「論理学（1）」を履修しておくことを推奨する。（この講義では、論理学（1）で扱ったことを別の観点から見ることになる。）

授業計画

第　１回　イントロダクション
第　２回　推論のいろいろ：この授業で扱う推論について
第　３回　否定について
第　４回　「かつ」と「または」(1)　推論規則の解説
第　５回　「かつ」と「または」(2)　練習問題
第　６回　「ならば」(1)　推論規則の解説
第　７回　「ならば」(2)　練習問題
第　８回　命題論理（1）　例題解説
第　９回　命題論理（2）　練習問題
第１０回　「すべて」と「存在する」(1)　量化について
第１１回　「すべて」と「存在する」(2)　推論規則の解説と練習問題
第１２回　述語論理（1）　例題解説
第１３回　述語論理（2）　練習問題
第１４回　まとめと試験

オフィスアワー

昼休みに非常勤講師室まで。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

基本的には講義形式。ただし練習問題を適宜提示するので、それを利用して部分的に演習形式を取り入れた授業を行う予定である。

関連科目

論理学（1）

授業に持参するもの

ノート

教科書

参考書

入門！論理学　野矢茂樹　中公新書　2006　978-4121018625
記号論理入門　金子洋之　産業図書　1994　978-4782802014
論理学をつくる　　2000　978-4815803902
記号論理入門[新装版]　前原昭二　日本評論社　2005　978-4535601444

学生へのメッセージ

論理学では、練習問題を解いてはじめてちゃんと理解できるような事柄がたくさんある。そのため、受講学生には講義への積極的な参加を求める。「ただ単に出席して聞き流す」といった参加の仕方では、単位取得は難しいと思うので、そのつもりでいてほしい（すべての講義に出席していても、期末試験の出来具合によって単位認定不可になることは、当然ありえる）。

その他・自由記述欄

情報と社会

科目英名	Information and Society
担当者	中村　雅子、李　洪千　<（李）hongchun@tcu.ac.jp （中村）masako@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

今日の情報環境、コミュニケーション状況を中心に、情報と社会に関わる幅広い視野を持つために、基礎的な知識を学びつつ、そこに至る歴史的な変化や、将来に向けた可能性、問題点などを多角的に論じるオムニバス授業である。前半は主に情報社会に生きるために必要なメディアの歴史や特性の理解、活用方法などを中心に、また後半は主に社会学・社会心理学的な観点から、情報テクノロジーと社会的活動、行動様式、コミュニティの変化などについて論じる。

The aim of this class is to understand our contemporary information ecologies, its history and future from various viewpoints. We need to grasp both social and technological aspects of the ‘information society’. Perspectives from various viewpoints such as change of morals, values and lifestyles will be introduced.

達成目標

1)情報と現代社会の関係について、現状を理解し、説明できるようになる。
2)今日の情報社会の一員として遵守すべき倫理と、メディアの活用法を身につける。
3)現代の情報環境の特色を理解し、メディアの特性や影響力、コミュニケーションやコミュニティの変化について理解し、説明できるようになる。

成績評価

第 1 部：各回の小テスト(30%)および最終レポート（20%）により評価する。
第 2 部：授業への出席を前提とした上で、各回の授業内レポート、および最終レポートにより評価する。

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

とくになし

授業計画

第　１回　第 1 部授業のガイダンス：情報と社会についての基礎
第　２回　情報社会と倫理
第　３回　情報社会とマナー：ネチケット
第　４回　情報社会とトラブル Ⅰ
第　５回　情報社会とトラブル Ⅱ
第　６回　情報社会と SNS
第　７回　情報社会と情報活用
第　８回　第 2 部のガイダンス、認知科学・社会科学からのアプローチ
第　９回　社会とメディアの相互構成
第１０回　新しいメディアによるコミュニケーションの変化
第１１回　メディアによる説得と動員
第１２回　メディアによる認知的な影響
第１３回　情報共有とユーザ参加
第１４回　オルターナティブメディアとリテラシー

オフィスアワー

（李）火曜日の 15:10-16:50。その他、研究室在室時は随時対応します。アポイントを取りたい場合は hongchun@tcu.ac.jp に連絡して下さい。
（中村）研究室在室時は随時対応します。在室日時を知りたい場合やアポイントを取りたい場合は masako@tcu.ac.jp に連絡して下さい。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

（李）講義を基本にするが、数回の小テストも予定。パソコン、スマートフォンなどの使用は控えてもらいたい。
（中村）基本的には講義形式だが、受講生同士のコミュニケーションの時間を取る予定。

関連科目

情報通信技術入門、情報リテラシー演習

授業に持参するもの

教科書

指定しない

参考書

授業時に紹介

学生へのメッセージ

情報社会に生きる市民として、また本学学生としての基本的なマナーと知識、そして自分自身を守る知恵を身ににつけることを期待しています。

その他・自由記述欄

教授要目

情報リテラシー演習

科目英名	Information Literacy
担当者	宮地、馬場、フィッツギボンズ、奥平、春日、杉浦、高橋、萩原 <各クラスの Web ページにクラスごとの教員およびアシスタントの e-mail 連絡先を掲載する。(大学内での e-mail 送受信方法は本演習の授業内で扱う。)>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

各種メディアを活用するための基本的な技術と作法を学ぶ。学内ネットワークやインターネットを通した情報の収集・編集・発信・交換の方法を学ぶ。演習では、学内の情報機器の使い方、電子メールの使い方、ソフトウェアを用いた文書作成、発信、プレゼンテーションの方法、Web 文書の作成方法を扱う。また、電子メールや Web ページなどで、情報を発信したり、活用する際に気をつけなければいけない決まりや必要な心構え、作法も扱う。
This course is intended for students to acquire basic knowledge and skills for information transmission including e-mail, web design, and elementary web programming, as well as network and computer system of our campus.

達成目標

情報ネットワーク利用スキルの獲得
基本的なオフィスアプリケーションソフトウエアの使用方法を身につける
Web ページ作成の基礎を身につける
グループによるプレゼンテーションの企画、発表能力を身につける

成績評価

毎週の課題提出物に基づいて評価する。(各回への出席を前提とする)

予習復習時間

各回の講義・実習内容は Web 上で提供されるので必ず事前に目を通し、事前に調べておくこと。 また、授業で充分理解できなかったことは、当日に復習して演習室で確かめるなどした上で質問点を整理し、アシスタントや教員に相談して解決すること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

なし

授業計画

第　１回　パソコン・ネットワークの基礎：キャンパスネットワークの基本構成、ログイン・ログアウト、パスワード、Web アクセス、日本語入力、メールシステム構成
第　２回　メールの基礎：メールソフトの使用法
第　３回　コンピュータを使いこなす：パソコン・ファイルとフォルダの管理、ネットワークドライブ、ファイル送付、ワードプロセッサを使った文書の作成
第　４回　図書館の利用：大学図書館の利用、オンライン蔵書目録、電子ジャーナルの活用
第　５回　数字を処理する：表計算ソフトによる関数計算，グラフ作成
第　６回　メールの正しい利用法：メール機能への習熟、メールマナーとウイルス対策、メーリングリスト、Web メール
第　７回　ホームページによる情報発信 I：ホームページの仕組み、HTML 入門
第　８回　ホームページによる情報発信 II： HTML によるホームページ制作
第　９回　ホームページによる情報発信 III：作成ソフトの利用法、ホームページ制作
第１０回　プログラミング言語 JavaScript の魅力と概要：Hello World
第１１回　JavaScript の基本的な使い方：動きのあるホームページの作成
第１２回　JavaScript による対話型のホームページの作成
第１３回　プレゼンテーション資料を作る:作成ソフトの利用法、テキストの入力と配置、図形・画像の取り込みとデザイン
第１４回　魅せるプレゼンテーション:グループワークとしてのプレゼンテーション企画発表

オフィスアワー

別途各教員より指示する

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

演習形式で行い、毎週提出課題を課す。第 13 回はグループワークを行い、第 14 回はグループ発表を行う。

関連科目

「情報編集入門」(両学部)、「情報と社会」(両学部)、「メディアと知的財産権」(メディア情報学部)

授業に持参するもの

教科書

『なし』

参考書

『授業資料を Web ページで受講者に公開する。』

学生へのメッセージ

パソコンを道具として使いこなして情報収集・発信にとりくもう。

その他・自由記述欄

遅刻せず必ず出席するとともに、自主的に課題に取り組むこと。

情報編集入門

科目英名	Multimedia Workshop
担当者	清水、馬場、フィッツギボンズ、山崎(瑞)、春日 <kasuga@tcu.ac.jp(春日) ,shimizu@tcu.ac.jp(清水) , mizuki@tcu.ac.jp(山崎) >
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

今日、デジタルカメラやパソコンの各種編集ソフトが普及し、またパソコンの処理速度が上がり、メモリ、ハードディスクの容量も増えたため、映像や音声の編集も以前に比べてはるかに容易にできるようになりました。しかし、人の感性に訴えることで相手にメッセージを伝え、共感を得るには、単にそのようなツールが使えるだけでなく、それらのツールを使って自分の伝えたい情報を相手が受け入れられるように効果的に組み立てていくスキルが必要となります。
この授業では、そのような問題意識のもと、特に写真やムービー等のイメージを中心とした情報編集の方法について演習形式で学んでいきます。はじめに、広告やテレビのイメージ表現を分析的に読み取るリテラシーを身に付けます。次に、それを踏まえて特定のテーマについて写真やムービーを使って表現する情報編集技法を習得します。最後に、それらのスキルを応用し、自らの定めるテーマについてグループで協働しながら一つのマルチメディア作品を企画し、制作します。

The aim of this course is to invite the first students to the multimedia workshop so that they will be able to obtain such skills as video-camera shooting, non-linear editing, sound editing, and the various ways of presenting their works effectively.

達成目標

＊身の回りの映像表現を分析的に読み解くリテラシーを身につけます。
＊自らが定めるテーマに関し映像で表現する知識とスキルを獲得します。

成績評価

個人点(60%)・チーム点(40%)別に評点し合計して成績をつけます。
（１）個人点の評価基準：演習課題の提出状況と内容、チームのワークへの貢献度、出席状況
（２）チーム点の評価基準：プロジェクト作品の内容、目的の明確さ、テクニックの習熟度、著作権・倫理的側面への配慮、プレゼンテーションの的確さ

予習復習時間

１回の授業につき４時間の自学自習が必要です。本授業の場合、企画、撮影、編集など、授業時間外の作業を多く必要とします。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

グループ単位の作業が多い授業です。遅刻や欠席など、自分の役割を果たせないようなことがないよう、注意してください。

授業計画

第　１回　フォトイメージで“らしさ”を表す
第　２回　イメージのレトリックを読む
第　３回　イメージの繋がりで物語る
第　４回　ビデオ制作に備える
第　５回　カメラの動きで意味を構成する
第　６回　ムービー素材を吟味し、選択する
第　７回　ムービー素材を組み立て、整える
第　８回　ムービー作品発表会
第　９回　グループ制作を企画・構成する
第１０回　企画内容を魅力的に伝える
第１１回　取材し、素材を集める
第１２回　作品を作り込む
第１３回　作品を仕上げ、見せ方を工夫する
第１４回　グループ作品発表会

オフィスアワー

火曜昼休み（清水）・金曜３時限（山崎）・授業後１時間（咸）・木曜４時限（北村）・木曜昼休み（枝廣）

授業形態

演習（主にグループワーク）

授業の具体的な進め方

画像と映像の分析的な読み方に関する知識を得た後、短いムービー作品を各自制作します。後半はグループでテーマを定め、映像作品を協働制作します。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

後半のグループでの映像作品制作はもちろんのこと、授業前半もグループ単位での作業が多い授業です。遅刻や欠席は自分だけでなく、グループメンバーに迷惑をかけることになるため厳禁です。

その他・自由記述欄

教授要目

情報通信技術入門

科目英名	Introduction to Information and Communications Technology
担当者	諏訪　敬祐　〈suwa@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

本講義では、ディジタル情報の表現、コンピュータの仕組みについて理解し、インターネット、携帯電話システム及びセキュリティの基礎を学習する。

This lecture provides the basic understanding of the computer system, the Internet and mobile communication system for a freshman.

達成目標

ディジタル情報の表現方法、コンピュータの基礎知識の修得とインターネット、通信システムとサービスの基本を理解する。

成績評価

課題レポート（40 点）及び期末試験（60 点）の合計点により評価する。

予習復習時間

各回の講義資料は授業ホームページに掲示されるので、事前に眼をとおして予習すること。質問があるときは授業時間及びオフィスアワーで確認して疑問点を解消すること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

情報通信技術に関する興味や関心が必要である。

授業計画

第　１回　情報通信概要
第　２回　情報の表現(1)
第　３回　情報の表現(2)
第　４回　コンピュータの構成
第　５回　コンピュータの仕組み
第　６回　ディジタル情報機器
第　７回　コンピュータネットワーク
第　８回　インターネット
第　９回　インターネットサービス
第１０回　情報通信システム
第１１回　情報通信サービス（有線系）
第１２回　情報通信サービス（無線系）
第１３回　情報セキュリティ
第１４回　まとめ

オフィスアワー

金曜日 17:00 以降（事前に suwa@tcu.ac.jp へ連絡すること。）

授業形態

講義とビデオ映像で授業を行う。

授業の具体的な進め方

講義資料は授業のホームページに掲載する。印刷して授業に臨むこと。講義はプロジェクタを用いた講義形式である。ビデオ映像を視聴することにより情報通信技術への関心や理解を深める。

関連科目

情報リテラシー演習

授業に持参するもの

講義資料、閲覧用パソコン

教科書

はじめての情報通信技術と情報セキュリティ　諏訪敬祐、関良明　丸善出版　2015 年
978-4-621-08909-5

参考書

なし

学生へのメッセージ

授業には毎回出席すること。課題レポートの提出と試験は必須です。

その他・自由記述欄

PBL による産学協働演習

科目英名	Industry-University Collaborative Practice on Project BasedLearning
担当者	野中　謙一郎.小林　志好 〈knonaka@tcu.ac.jp, ykoba@tcu.ac.jp〉
単位数	単位
開講時期	1 年前期

科目概要

企業からの課題に対して，専門分野の異なる学生がグループワークを重ね，アイデアをプレゼンテーションし，それを企業が講評するという PBL(Problem based learning)である．

達成目標

グループワークによる実社会の課題への取り組みや発表・討論において，アイディア提案や議論，目標設定や計画の遂行を経験する．これらを通じて，社会人として必要な力を理解し，今後の学修に必要な主体性を体得する．

成績評価

毎回の振り返りレポート(30%)，課題に対する提案内容(30%)，中間発表およびプレゼンテーション(40%)を対象にして,授業を通じて身につけた"社会で活躍できる力"を評価する．

予習復習時間

１時限分の授業に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

学部や前提知識を問わず履修できる．履修希望者が多い場合は，科目の性質上，履修者数の制限を行うことがある．全ての回に出席してチームで活動を行うことが求められる．

授業計画

第　１回　マインドセット・ルール説明
第　２回　課題とは？ディスカッションの練習
第　３回　企業からの課題提示
第　４回　グループ活動（議論・情報収集）
第　５回　中間発表（企業への一次提案）
第　６回　グループ活動（議論・情報収集）
第　７回　企業への最終提案と講評
第　８回　前半の振り返り，思考を整理し深めるためのスキル紹介，チーム編成
第　９回　企業からの課題提示
第１０回　グループ活動（議論・情報収集）
第１１回　中間発表（企業への一次提案）
第１２回　グループ活動（議論・情報収集）
第１３回　企業への最終提案と講評
第１４回　全体の振り返り，今後の目標

オフィスアワー

平日の 12:30-13:20

授業形態

グループワークによる討議とプレゼンテーションを中心とした演習

授業の具体的な進め方

企業から出題された実践的な課題について，チームで情報収集と議論を行い，解決策を発表・提案する．それに対して企業がコメントする．受講生は振り返りを通じて，社会で必要な考え方と力を理解する．

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

受講生の皆さんは，企業が実際に直面している課題に取り組むことになります．同じチームの仲間と協力しながら検討を重ね，自分達の力で企業に対して提案を試みながら，成長を実感することを期待します．なお，初回授業時に選抜を行うので，必ず出席すること．

その他・自由記述欄

教授要目

ボランティア(1)

科目英名	Volunteer(1)
担当者	各教員
単位数	１単位
開講時期	１年生前期

科目概要

学生の自発的な意志により，個人が持っている能力あるいは労力をもって災害，人権，福祉,平和などの他人や社会に貢献する国内で行なわれる無償の活動を経験するものである.得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し，単位認定を行なう．持続可能で豊かな社会は，人々の経済的活動としての仕事や個人的な生活だけでなく，地域での公共的な活動を自発的に担うことによってはじめて実現される.そのような自発的な社会貢献活動を体験し，広範な世代や職業の人々との触れあいや共同作業を通して，その後の大学での修学の充実と社会のなかで自ら果たすべき役割について自覚することを目的とする.

達成目標

・自発的な社会貢献活動を体験し、その意義について理解を深める
・広範な世代や職業の人々との触れあいや共同作業を通して，視野を広げ、以後の学生生活や卒業後のキャリア形成への理解を深める

成績評価

１週間（実質５日間）を目安とするボランティア活動を行い，「ボランティア活動ガイド」に定める活動日誌，活動報告書などの提出書類をもとに評価する（100%）

予習復習時間

参加するボランティア活動の意義・内容を事前、およびボランティア活動の期間を通じて学習し理解する十分な時間を要する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「ボランティア活動ガイド」に記載されている内容に従うことが前提である．また，必要な手続き，書類提出が完了していること．事前に指導教員またはクラス担任に十分に相談すること。

授業計画

第　１回　事前学習としてボランティア活動の内容を十分理解するとともに，活動団体・機関に連絡の上，詳細な説明を受ける．ボランティア活動開始前までに活動申請書・計画書の提出が必要である.

第　２回　ボランティア活動に従事する．活動中は「ボランティア活動日誌」を作成する.

⇩

第１３回

第１４回　活動終了後に,「ボランティア活動報告書」「ボランティア活動レポート」を作成し，必要書類とともに学生支援センターに提出するとともに、担当教員の面談を受ける.

オフィスアワー

クラス担任または研究指導教員に相談すること.

授業形態

講義、発表、学外実習

授業の具体的な進め方

研修先での実習

関連科目

授業に持参するもの

なし（研修期間については企業側の指示による）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

研修先の担当者に指導をしていただくため,社会人として常識ある発言および行動をすること.

その他

ボランティア(2)

科目英名	Volunteer(2)
担当者	各教員
単位数	１単位
開講時期	１年生後期

科目概要

学生の自発的な意志により，個人が持っている能力あるいは労力をもって災害，人権，福祉,平和などの他人や社会に貢献する国内で行なわれる無償の活動を経験するものである.得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し,単位認定を行なう.本科目は、すでにボランティア活動（１）を修得した学生がさらに学習をすすめるために設置する。

達成目標

・自発的な社会貢献活動を体験し、その意義について理解を深める
・広範な世代や職業の人々との触れあいや共同作業を通して，視野を広げ、以後の学生生活や卒業後のキャリア形成への理解を深める

ボランティア活動（１）とあわせて、上記２点についての理解をさらに深める。

成績評価

１週間（実質５日間）を目安とするボランティア活動を行い，「ボランティア活動ガイド」に定める活動日誌，活動報告書などの提出書類をもとに評価する（100%）

予習復習時間

参加するボランティア活動の意義・内容を事前、およびボランティア活動の期間を通じて学習し理解する十分な時間を要する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「ボランティア活動ガイド」に記載されている内容に従うことが前提である．また，必要な手続き，書類提出が完了していること．事前に指導教員またはクラス担任に十分に相談すること。

授業計画

第　１回　事前学習としてボランティア活動の内容を十分理解するとともに，活動団体・機関に連絡の上，詳細な説明を受ける．ボランティア活動開始前までに活動申請書・計画書の提出が必要である.

第　２回　ボランティア活動に従事する．活動中は「ボランティア活動日誌」を作成する.

⇩

第１３回

第１４回　活動終了後に,「ボランティア活動報告書」「ボランティア活動レポート」を作成し，必要書類とともに学生支援センターに提出するとともに、担当教員の面談を受ける.

オフィスアワー

クラス担任または研究指導教員に相談すること.

授業形態

講義、発表、学外実習

授業の具体的な進め方

研修先での実習

関連科目

授業に持参するもの

なし（研修期間については企業側の指示による）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

研修先の担当者に指導をしていただくため,社会人として常識ある発言および行動をすること.

その他

教授要目

教養ゼミナール(1)(英語CMに見る現代社会)

科目英名	Cultural Seminar
担当者	吉田　国子　〈yoshida@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

全学年対象のゼミナールで、テーマは「英語CMに見る現代社会」。履修者を最大２０名とする。

達成目標

英語CMの内容を把握し、その根底にある価値観を理解する。それに基づいてグループでの議論を経て、与えられたテーマについて発信する技能を獲得することを目標とする。

成績評価

発表（６０％）、課題（２０％）、平常（２０％）の総合評価。

予習復習時間

１００分の授業に対し、４時間の予習復習を要す。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

社会への興味関心。

授業計画

第　１回　Course guidance: Where can you watch English commercial films?
第　２回　English commercial film 1: Watch and comprehend an American commercial film
第　３回　English commercial film 1: Analyze and discuss the American commercial
第　４回　English commercial film 1: Make and publish your own version of the commercial film
第　５回　English commercial film 2: Watch and comprehend a British commercial film
第　６回　English commercial film 2　Analyze and discuss the British commercial film
第　７回　English commercial film 2　Make and publish your own version of commercial film
第　８回　English commercial film 3: Watch and comprehend an Australian commercial film
第　９回　English commercial film 3: Analyze and discuss the Australian commercial film
第１０回　English commercial film 3: Make and publish your own version of the commercial film
第１１回　English commercial film 4: Watch and comprehend a South African commercial film
第１２回　English commercial film 4: Analyze and discuss a South African commercial film
第１３回　English commercial film 4: Make and publish your own version of the commercial film
第１４回　Final presentation: Make and publish your commercial film of Tokyo City University

オフィスアワー

火曜日 昼休み

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

グループでの議論や発表を中心としたゼミナール形式。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

積極的に活動する姿勢を高く評価する。

その他・自由記述欄

履修希望者が２０名を超えた場合は選抜を行うので、初回授業に必ず出席のこと。

Movies in English ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	Ｅ・マディーン　〈emadeen@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

Students will improve their English through watching, discussing and writing about movies in English.

達成目標

The aim of the class is to instill enjoyment of watching movies in English and improve students English.

成績評価

Students will be evaluated based on the quality of their movie journals, participation and attendance.

予習復習時間

Writing in their movie journal every week.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

Not applicable.

授業計画

第　１回　Talking about movies you've seen
第　２回　Talking about movie genres
第　３回　Summarizing a movie section
第　４回　Talking about your reaction to a movie
第　５回　Making a prediction
第　６回　Tallking about culture
第　７回　Talking about characters
第　８回　Summarizing a movie section
第　９回　Talking about plot?
第１０回　What exactly is plot?
第１１回　Talking about movie messages and ratings
第１２回　Acting out a scene
第１３回　Writing a movie review
第１４回　Watching a great movie on your own and note taking Review

オフィスアワー

12:30-1 p.m. Wednesdays

授業形態

Student centered class

授業の具体的な進め方

Students will watch and discuss movies in English in class and write about them in their movie journals.

関連科目

None

授業に持参するもの

electronic dictionary

教科書

Movie Time　Bray　Nan'un-do　2012　978-4-523-17708-1

参考書

None.

学生へのメッセージ

You'll not only improve your English but also enjoy movies in English!

その他・自由記述欄

Do your best!

教授要目

トータル・テニスゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	岩嶋　孝夫　〈tiwashi@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

テニスは、生涯スポーツとして老若男女問わず親しまれているスポーツである。この授業ではテニスをプレーしたことがある学生、もしくは現在もプレーしている学生を対象にして、テニスの歴史やスポーツとしての特性、詳細なルールについて講義する。さらにビデオ撮影、メンタルテスト、体力テスト、ゲーム分析を通じて、技術的・精神的・体力的及び戦術的な側面から「自分のテニスを知る」ために、文字どおりテニスを「Total」に解説していく。

達成目標

テニスに関する専門的知識を習得するだけでなく、自分のテニスの現状を知ることにより、自分自身でテニスの改善目標を設定できる能力を身につける。

成績評価

授業への積極性 30%、課題への取り組み方 20%、レポート 50%とする。

予習復習時間

テニスの練習だけでなく、テニストーナメントへの出場や試合観戦を積極的に行うこと。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

テニスのレベルは問わないが、テニスのゲームができること、さらにテニスに対する興味および向上心を持っていることを前提とする。

授業計画

第　１回　授業内容に関するガイダンス
第　２回　テニスの歴史と特性
第　３回　ビデオ撮影（フォームチェック）のプラン作り
第　４回　ビデオ撮影
第　５回　前時に撮影したビデオ再生によるグループ内討論と自己分析
第　６回　前時をふまえたグループ練習（フィードバック）
第　７回　テニスのルール解説
第　８回　テニスのための体力トレーニング
第　９回　体力測定（フィールドテスト）とメンタルチェック
第１０回　テニスのゲーム分析方法
第１１回　ゲーム分析の実践（シングルス：レベル差があるプレーヤーとの対戦）
第１２回　ゲーム分析の実践（シングルス：レベルの近い相手との対戦）
第１３回　ゲーム分析の実践（ダブルス）
第１４回　授業のまとめ、レポート課題に関する説明

オフィスアワー

月曜日 15:00〜16:30

授業形態

講義及び実技

授業の具体的な進め方

適宜資料を配布しながら、講義室での講義またはテニスコートでの実技を行う。

関連科目

基礎体育（1）（2）、応用体育

授業に持参するもの

その都度指示する。

教科書

参考書

新版テニス指導教本　日本テニス協会　大修館　2005　4-469-26580-2

学生へのメッセージ

グループ内での積極的なコミュニケーションを期待する。

その他・自由記述欄

視覚文化ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	岡山　理香　〈〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

文化は、あらゆる感覚をもって生み出され、あらゆる感覚をもって享受される。本ゼミナールは、特に視覚によって確認される文化を研究対象とする。それは、絵画、彫刻、建築、工芸、映像等広範囲に及ぶが、一貫して「モダニティー（近代性）」の追求を試みることによって、現在の多岐にわたる視覚文化の状況を見極めることを目的とする。

達成目標

本ゼミナールは、理論を学ぶとともにその実践としての作品制作を目標とする。本年は、グループ作品として茶道の場である茶室の実寸大模型を制作する。

成績評価

個人作品とグループ作品の「総合評価」

予習復習時間

予習１時間　復習１時間

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

視覚芸術史(美術)（１）（２）を履修済みのこと。

授業計画

第　１回　視覚文化とは何か：参考資料を用いての演習
第　２回　　〃　　：茶室について
第　３回　　〃　　：茶の湯について
第　４回　視覚文化の現況を捉える：記録手段（ビデオカメラ等）を用いてのフィールドワーク、美術館見学等を行なう。
第　５回　武蔵庵にて茶会の体験
第　６回　茶室の見学（五島美術館、目黒区庁舎内茶室）
第　７回　テーマの設定：前講をふまえ、ゼミナール参加者は個々にテーマを設定し、最終講義のプレゼンテーションにむけての活動を行なう。　（個人作品の制作）
第　８回　　〃
第　９回　個人作品講評会
第１０回　テーマの設定：前講をふまえ、ゼミナール参加者は、グループごとにテーマを設定し、最終講義のプレゼンテーションにむけての活動を行なう。　（グループワーク）
第１１回　茶室の製作　１（図面作成）
第１２回　茶室の製作　２（材料の準備）
第１３回　茶室の製作　３（組み立て）
第１４回　製作した茶室でのお茶会を催す

オフィスアワー

水曜日 14：00〜17：00

授業形態

ゼミナール

授業の具体的な進め方

本ゼミナールは、講義、討論、演習によって構成される。演習には模型制作も含まれる。また、なかなか入る機会のない茶室を実際に見学し、理解を深める。茶の湯の実践も行う。

関連科目

視覚芸術史 (1) (2)　デザイン概論 (1) (2)

授業に持参するもの

教科書

参考書

茶室の歴史　中村昌生　淡交社　1998　4473016145
茶の本　岡倉天心　岩波文庫　1929　4003311515
伝統建築と日本人の知恵　　2007　9784794215819

学生へのメッセージ

日本の伝統文化を今日に息づかせるための一つの方策として、昨年度に続き、本年も茶室の実寸大模型を作ります。今日に作られる茶室は、まさに現代建築であることを認識しておいて下さい。

その他・自由記述欄

自国の文化をより深く知ることは、世界の様々な文化を理解する助けともなります。そうして、お互いの文化を尊重することで、また何か素晴らしいことやものが生まれるでしょう。

教授要目

ポスト3.11を考えるゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	山本　史華　〈各担当教員に尋ねること。代表の山本はfyama(at)tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

本ゼミを履修する前に、5年前の3月11日のことをもう一度思い出してみよう。その時、自分はどこにいて、何をしていただろうか。数々の衝撃的な映像を目の当たりにして、どのような感慨を抱いただろうか。あれから5年が経過した。この5年間で、自分や日本はどれだけ変わっただろうか。

ポスト3.11の社会が、プレ3.11と同じような社会であり続けるならば、またいつか同じ被害が繰り返されるだけだ。我々は、3.11 から何かを学ばなければならない。それは何なのかを考えるために、プレ3.11とポスト3.11を比較する視点を持とう。そして、何を変え、何を維持すべきなのか、を学際的な視野に立ちながら、ともに追究していこう。履修後、希望の持てるゼミにしたい。

達成目標

災害の歴史とポスト3.11の現状について知り、これからどうすべきかについて自分なりの見解をまとめられるようになること。

成績評価

レポートもしくは最終回での発表内容をもとにして、出席も考慮に入れながら、総合的に評価する。

予習復習時間

プレ3.11とポスト3.11を比較する視点を持ちながら、時事問題に対して、自分の意見や疑問点をまとめてくること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修希望者は必ず初回に出席すること。

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　岡山理香
「私たちは，震災の記憶をどのように伝えていくのか？―被災地での体験とともに―」
第　3回　岡田往子
「突き動かすもの　原子力分野の片隅から見えるもの」
第　4回　千田茂博
「こころのケアとソーシャル・サポート」
第　5回　杉本裕代
「『我慢』の精神とポスト3.11」
第　6回　岡田啓
「エネルギー政策と震災」
第　7回　特別公開講演　秋鹿研一
「再生可能エネルギーと水素社会」
第　8回　映画「100,000年後の安全」上映と討論
第　9回　フリーディスカッション
第１０回　皆川勝
「シビルエンジニアが市民のための技術者であるために」
第１１回　新保良明
「79年「8.24」ポンペイ消滅―復興されなかった都市―」
第１２回　寺澤由紀子
「ゴジラ映画における記憶の表象」
第１３回　山本史華
「低線量被曝と高レベル放射性廃棄物の倫理」
第１４回　学生の発表

オフィスアワー

各担当教員に尋ねること。

授業形態

ゼミ形式。

授業の具体的な進め方

各担当教員が、自らの専門領域と関連させながら問題を提起し、学生とともに考えながら進行していく、双方向ゼミ。参加者は、毎回最低一度は発言するように心がけること。参加者全員がもっと自由に討論できるようにするため、フリーディスカッションの回も設けてある。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

教科書

リレー講義　ポスト3.11を考える　山本史華・杉本裕代ほか　萌書房　2015
978-4-86065-092-6

参考書

学生へのメッセージ

我々は、3.11を教訓にして、変わることができただろうか。3.11を転機にできるか否かは、いまにかかっている。「転機を生きている」という自覚、あるいは「転機をつくる」という意欲をもって、ゼミに臨んで欲しい。単なる単位欲しさの学生、やる気のない学生の履修は断る。

その他・自由記述欄

本ゼミは、共通教育部が主催している。
有志で、本学王禅寺キャンパスの原子力研究所を見学しに行く予定である。

スポーツゲーム分析ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	岩嶋　孝夫　〈tiwashi@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

スポーツ競技において、自チームを勝利に導くために相手チームのゲーム分析（スカウティング）をすることはもはや一般的になってきた。また、自分自身（自チーム）のゲーム分析をすることによっても、次の試合に向けた改善目標を設定することができる。この授業では、スポーツ競技において行われているゲーム分析について具体的に解説した上で、受講者に受講者自身が行っている、もしくは興味を持っているスポーツ種目に関する分析テーマを決定させる。分析テーマについてデータ収集から分析、考察を行わせ、中間発表を経た上でプレゼンテーション及び小論文としてまとめさせる。

達成目標

個々に興味のあるスポーツ競技のゲーム分析結果を報告する過程において、データ収集・分析の能力およびプレゼンテーション能力を高め、同時に受講者が取り上げたスポーツ競技についての理解を深めることを目標とする。

成績評価

授業に対する積極性：30%、プレゼンテーション（中間発表含む）：40%、小論文：30%とする。

予習復習時間

面談や発表及び小論文作成に向けて、データ収集や分析、考察、さらにプレゼンテーション準備の時間が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

受講者自身でのテーマ決定およびデータ収集となるので、特定の対人的または集団的スポーツ競技に強い興味・関心を持っていること。

授業計画

第　１回　授業内容に関するガイダンス
第　２回　ゲーム分析とは何か
第　３回　ゲーム分析の方法（データ収集、データ整理、統計処理）
第　４回　データの分析及び考察
第　５回　中間発表に向けた準備（レジュメの作成、発表方法）
第　６回　中間発表とディスカッション１回目
第　７回　中間発表とディスカッション２回目（前回未発表者）
第　８回　中間発表とディスカッションをふまえた見直し作業
第　９回　プレゼンテーションに向けた準備
第１０回　プレゼンテーションとディスカッション１回目
第１１回　プレゼンテーションとディスカッション２回目
第１２回　プレゼンテーションとディスカッション３回目
第１３回　小論文の作成方法
第１４回　授業のまとめ、受講者による意見交換

オフィスアワー

月曜日 15:00から16:30

授業形態

講義および演習形式

授業の具体的な進め方

必要に応じて、受講者が決めたテーマやその内容について個人面談を実施する。

関連科目

基礎体育（１）（２）、応用体育

授業に持参するもの

適宜指示する。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

この授業では受講者自身でテーマや調査内容を決定していくので、より積極的な態度で授業に臨んでほしい。また、他の受講者が取り上げたスポーツ競技に対しても興味を持とうとする気持ちが必要である。

その他・自由記述欄

参考書については、受講者各自のテーマに応じて紹介する。

教授要目

ラグビーゼミナール(1)

科目英名	Cultural Seminar
担当者	渡辺　一郎　〈〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

ラグビーフットボールの成立過程を、英国の歴史や文化と関連づけて学ぶとともに、ラグビーを通したスポーツ文化論ならびにトレーニング論の研究を行い、自らの運動実践における態度の育成やスポーツの理解を学ぶ。

達成目標

英国の歴史の理解
フットボール成立の時代、社会背景の理解
英国文化の理解
ラグビーの持つ競技特性とジェントルマンシップの関連いついての理解

成績評価

授業態度（積極的に授業に取り組んでいるか等）(40%)、レポート（30%)、プレゼンテーション能力（30%）

予習復習時間

前週で配布される資料をしっかり読んで関連事項に関して調べておくこと

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

ラグビーを専門的に追及するため、ある程度のラグビーについての知識が必要であるためラグビー経験者が望ましい。

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　ラグビーの構造
第　3回　民族的ゲームとパブリックスクールにおけるフットボール
第　4回　フットボールからサッカー、ラグビーへ
第　5回　アマチュアリズムの成立過程
第　6回　ルールの成立
第　7回　オフサイドルールについて
第　8回　英、米、日本のスポーツ文化の相違
第　9回　キャプテンシー
第１０回　ラグビーとプロフェッショナリズム
第１１回　戦うためのキーファクター
第１２回　ラグビーとウェイト・トレーニング
第１３回　ゲーム分析法(1)　セットプレー
第１４回　ゲーム分析法(2) ジェネラルプレー

オフィスアワー

火曜日 9:00～12:15

授業形態

資料を配布、また最後の授業には各自発表をする。

授業の具体的な進め方

関連科目

スポーツ・健康論

授業に持参するもの

特になし

教科書

参考書

学生へのメッセージ

ラグビーはコンタクトを含んだボールゲームである。この特殊性が相手に対する思いやり、フェアープレー、スポーツマンシップ等の考え方が生まれた要因でもある。相手との関係が希薄になっている現代社会では、ラグビーを学ぶことにより相手を思いやる心やコミュニケーション能力の育成に是非とも必要である。

その他・自由記述欄

生涯スポーツ(ゴルフ)ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	山田　盛朗　〈yamadamo@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

生涯続けることのできるスポーツであるゴルフをテーマとして、様々な観点からゴルフを学び、実践する。週に１度のゴルフの実技や講義に加え、得た技術を実際のコースに出て実践する授業となっている。

達成目標

実践で活用できるようなルール・マナーを覚えること。
コースで楽しんでラウンドできる技術を身につけること。
ゴルフコースでプレーをし、各自の目標スコアを切ること。

成績評価

学内授業・学外授業での出席を前提とし、授業に対する意欲、技術の向上度、実践におけるルール・マナーなどがしっかりとできているかを総合的に判断する。

予習復習時間

学んだ技術をしっかりと復習し９月の学外授業に臨むこと。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

初心者でも構いません。

授業計画

第　１回　授業の進め方
第　２回　スイングの実践と基礎
第　３回　スイングの理論と実践
第　４回　技術の習得と展開
アイアンショットの練習
第　５回　個々のフォーム分析
第　６回　アイアンショットの練習
第　７回　様々なクラブについての説明
第　８回　アプローチショットの練習
第　９回　ドライバーショットの練習
第１０回　パターの練習
第１１回　ルール、マナーについて
第１２回　実戦練習（仮想コースにて）
第１３回　実戦練習（ショートコースにて）
第１４回　実戦練習（本コースにて）

オフィスアワー

金曜日の昼休み（１２時３０分～１３時２０分）

授業形態

講義並びに実技、実習

授業の具体的な進め方

実技中心の授業となる。
学内授業では、世田谷キャンパスの体育館、１０号館屋上などを使用し、ゴルフの基礎技術、基礎知識を習得する。
９月はじめに行う学外授業は、２泊３日で群馬県のサンコー７２ゴルフコースを予定している。

関連科目

授業に持参するもの

実技時はグローブの着用が望ましい。
コースをラウンドする時には、各自ゴルフシューズを準備すること。（クラブは貸し出します）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

ゴルフをやりたい！新しいことにチャレンジしたい！ゴルフがうまくなりたい！そんな学生の参加を期待しています。一緒に楽しくゴルフをやりましょう！！！

その他・自由記述欄

教授要目

新しい自分を探る心理学ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	千田　茂博　〈ssenda(at)tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

心理学・特に臨床心理学の知識を学びながら、履修者自身に関する理解を深めていくことを目的としている。そのために、グループでの話し合いを通して、心理学の知識と自分の体験とを重ね合わせながら、より深く心の内面に迫りたい

達成目標

受講者各自が自己理解を深めていくことで、自己課題を明確化して取り組んでいくことをめざす

成績評価

授業中の課題（３０点）、最終レポート（７０点）

予習復習時間

１回の講義に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

このゼミの性質上、10 名程度が適当と思われる。選抜方法は初回のゼミの時間に説明するので、必ず出席すること。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　各自の問題意識の共有
第　３回　ジョハリの窓
第　４回　体験学習
第　５回　心理テスト（１）PI の体験
第　６回　参考文献についてのディスカッション（１）
第　７回　参考文献についてのディスカッション（２）
第　８回　心理テスト（２）エゴグラムの体験
第　９回　自己理解のためのディスカッション（１）
第１０回　自己理解のためのディスカッション（２）
第１１回　自己理解のためのディスカッション（３）
第１２回　各自の自己課題の検討（１）
第１３回　各自の自己課題の検討（２）
第１４回　各自の自己課題の検討（３）

オフィスアワー

木曜日、金曜日ともに、１２：３０から１６：００まで学生なんでも相談室にいます。

授業形態

ゼミ形式

授業の具体的な進め方

グループディスカッションを中心とする授業

関連科目

発達と教育

授業に持参するもの

その都度指定する。

教科書

なし

参考書

授業中に随時紹介

学生へのメッセージ

自分の内面を表現する場面があるので、心の準備をしておくこと。

その他・自由記述欄

マイノリティの歴史と記憶ゼミナール

科目英名	Cultural Seminar
担当者	寺澤　由紀子　〈〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

多民族国家でありながら、白人中心の社会であるアメリカの中で、常に周縁に置かれ、抑圧や迫害の対象となってきた少数民族。しかしそのような白人中心主義的イデオロギーの中、彼らは、自らのアイデンティティを確立し、その権利を主張するために様々な闘いを展開してきた。この授業では、特にネイティブアメリカン、日系アメリカ人、ブラックアメリカンに焦点を充て、彼らの歩んできた歴史的、社会的背景を探ると共に、それぞれの抱える記憶が、音楽、映画、メモリアルなどの文化的産物にどのように表象されているかを考察する。

達成目標

・ アメリカに生きる３つのエスニックグループの歴史を辿り、彼らの歴史がどのように記憶されているのかを文化表象から考察する。
・ 彼らの歴史を学ぶことによって、その他のマイノリティ（日本でのエスニックマイノリティや、人種以外でのマイノリティも含む）への興味と理解を深める。
・ 国家の主流ナラティヴの中でマイノリティとして生きることとはどういうことかを理解し、メインストリームとのかかわりの中で生じる様々な問題に、自分がどのように関与していけるかを考える。
・ アメリカの歴史、社会、文化について知識を深めると共に、自ら問題意識を持ち、クリティカルに考える姿勢を身につける。

成績評価

平常点（授業への参加度、課題、ミニプレゼンテーション）５０％
レポート：５０％

予習復習時間

課題を行う時間の他、授業で扱う内容に関する知識を自ら深めるための予習、復習時間を確保すること

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

積極的に学ぼうとする姿勢が求められる

授業計画

第　１回　アメリカとマイノリティ
第　２回　ネイティブアメリカン（１）：その歴史
第　３回　ネイティブアメリカン（２）：ディズニーとネイティブアメリカン
第　４回　ネイティブアメリカン（３）：西部劇における表象
第　５回　ネイティブアメリカン（４）：居留地と核
第　６回　日系アメリカ人（１）：その歴史
第　７回　日系アメリカ人（２）：忠誠審査の重み
第　８回　日系アメリカ人（３）：映画における表象
第　９回　日系アメリカ人（４）：メモリアルの訴えるもの
第１０回　ブラックアメリカン（１）：その歴史
第１１回　ブラックアメリカン（２）：公民権運動
第１２回　ブラックアメリカン（３）：ロス暴動を考える
第１３回　ブラックアメリカン（４）：サウスセントラルの若者たち
第１４回　まとめ

オフィスアワー

火曜：１５：１５－１６：１５

授業形態

講義、討論

授業の具体的な進め方

各トピックの初回授業では、それぞれのマイノリティグループに関連した音楽を取り上げ、そこに描かれている内容を考えながら、歴史を追う。その際、あらかじめ決めておいた担当者（初回の授業で決定）はその曲及びミュージシャンについて簡単なリサーチをし、授業で発表を行う。他の受講者も、歌詞の意味を確認しておくこと。それ以降の授業では、映画やメモリアルなどの文化的産物の中に、各マイノリティグループの記憶がどのように表象されているかを探っていくが、受講者は、指示された課題（映画の鑑賞など）をあらかじめすませて授業に臨むこと

関連科目

授業に持参するもの

初回授業で指示する

教科書

参考書

学生へのメッセージ

アメリカはおそらく日本人にとって非常に身近な外国の１つだと思いますが、そこに住むエスニックマイノリティについての知識と理解を深めることで、改めてアメリカという国を見つめなおしてみましょう。

その他・自由記述欄

＊　全授業数の２／３以上の出席が成績評価の前提条件となる
＊　20 分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻２回で欠席１回とみなす
＊　やむを得ず欠席する場合は、責任を持ってその回の授業内容を確認し、次週までの課題もやっておくこと

教授要目

科学ニュースを読むゼミナール	
科目英名	Cultural Seminar
担当者	堀越　篤史　〈horikosi@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

地球環境問題，新エネルギー・新素材開発，IT，先端医療といった科学技術に関する話題からノーベル賞に代表される純学問的話題まで，巷には多くの科学ニュースが溢れている。それらの内容を把握し他人に分かりやすく伝える力は，現代を生きる理系人にとって必須である。

本ゼミナールは，毎回数名のレポーターが最近の科学ニュースの中から好きな話題を選び，調べ，発表する形で進められる。発表と参加者全員による質疑応答を通じて，個々の話題への理解を深めるとともに現代における科学ニュースの読み方・伝え方を身に付ける。

達成目標

１）ニュースの要点を理解できる
２）ニュースの要点を分かりやすく伝えることができる
３）レポーターの発表に対して適切な質問ができる

成績評価

発表(50%)，レポート(20%)，議論への参加度(30%)により評価する。

予習復習時間

2 時間

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

所属学科の専門分野にこだわらず，自然科学全般に広く興味・関心があること。

授業計画

第　１回　ガイダンス
第　２回　ノーベル賞解説
第　３回　発表：雷雲から電気エネルギー収集　（以下，過去の例）
第　４回　発表：系外惑星を可視光で撮影することに成功
第　５回　発表：「スパイダーマン」スーツ実現の鍵
第　６回　発表：CO2 地中貯留の実証実験スタート
第　７回　発表：衣服が透けて見える人体スキャナー
第　８回　発表：細胞内で動作するバイオコンピュータ
第　９回　発表：「はやぶさ」また快挙　微粒子は小惑星「イトカワ」の物質と確認
第１０回　発表：もんじゅ，落下装置の回収中断　機器に異常
第１１回　発表：パンから水素ができちゃう
第１２回　発表：ロボットスーツ「HAL」で都内をかっ歩
第１３回　発表：手のひらサイズの X 線発生装置　京大教授らが開発
第１４回　発表：「ダチョウ抗体」新型インフルエンザ対策で注目

オフィスアワー

火曜 17:00-18:00

授業形態

レポーターによる話題提供を中心としたゼミナール形式

授業の具体的な進め方

ニュースの選択はレポーターの自由である。テレビ，新聞，雑誌，インターネット等あらゆるメディアから科学関連の記事を選び，図書館や書店等で適当な参考文献を見つけてフォローし，30 分程度の発表を行う。発表終了後，レポーターはニュースの内容と質疑応答をレポートにまとめ，提出する。

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

あくまでニュースを読むゼミであるので，卒業研究のゼミで学術論文を読む場合ほどの厳密さは必要ない。各回のレポーターは何をどこまで，どのように伝えるべきかを良く考えて準備・発表し，またそれを聞く参加者は，できるだけ素朴な質問をするよう心がけて欲しい。

その他・自由記述欄

教授要目

教養特別講義（コミュニティと地域(まち・むら)づくり）	
科目英名	Special Lecture of the Liberal Arts
担当者	瀬沼頼子
単位数	2 単位
開講時期	１年生後期

科目概要

日々のくらしに関わる「コミュニティ」と「地域づくり」について，あらためて考えていく。ひとびとが共に支え合い安心してくらせる，豊かで持続可能なコミュニティとは何か，それを実現させるためにはどのような地域づくりが必要なのか，理論と実践事例をもとに学んでいく。現代日本の社会状況から対象をまちに限定せず，農村地域も視野においた内容とする。

達成目標

学生自身が一市民として地域に目を向け，自らできることは何かを考え，行動できる力(主体的市民としての力）を養うことを目標におく。

成績評価

試験成績，課題レポート成績をベースに出席状況も勘案して評価する。

予習復習時間

９０分

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特に条件はありませんが，まちづくりに関心があることが望ましい。

授業計画

第　１回　授業の進め方と留意点と学びの目標について
－授業の取り組み方，参考図書の紹介，成績評価等，半期間本授業を履修するにあたり必要となる基本的事項について説明する。

第　２回　コミュニティとは何か
－社会学における一般的なコミュニティの捉え方を紹介し，今日のコミュニティ論を捉える。さらに学生自身にとってコミュニティとはどのような存在なのか考える。

第　３回　地域（まち・むら）を捉える
－地域とは何か，地域を捉えるさまざまな視点を通じてあらためて地域を考えてみる。

第　４回　「グローカル・コミュニティ」視点とくらし
－持続可能なコミュニティ形成実現に向けての視点である「グローカル・コミュニティ」と私たちのくらしとのつながりについて学ぶ。

第　５回　災害とコミュニティ
－東日本大震災をはじめ大規模自然災害が発生するたびにコミュニティのあり方が問われてきた。そこで，災害とコミュニティについて考える。

第　６回　地域づくりとひとづくり
－「まちづくりはひとづくり」と言われるように地域の担い手となるひとの育成が大切なことを学ぶ。

第　７回　まちづくり・むらづくりとは何か
－あらためてまち・むらづくりについて考える時間とする。それぞれの居住地域について考える時間とする。

第　８回　まちづくりの目的と実践に向けて基本を学ぶ
－まちづくりはどのように行われていくのか，その手法と主体的市民としてまちづくりへの関わり方について学ぶ。

第　９回　限界集落とコミュニティ形成・むらづくり
－近年課題となっている限界集落をはじめとする農山村地域の現状を把握し，少子高齢化時代の農山村地域のコミュニティ形成・むらづくりについて考える。

第１０回　都市と農村の共生と地域づくり
－都市と農村はこれまで対比的に捉えることが多かったが，これからは双方向からの繋がり方が大切であり，「共生」視点から都市と農村を捉えてみる。

第１１回　まちづくり事例から学ぶ
－パワーポイントや配布資料を使い，まちづくり実践事例から学んでいく。

第１２回　むらづくり事例から学ぶ
－パワーポイントや配布資料を使い，むらづくり実践事例から学んでいく。

第１３回　地域の宝さがしと地域づくり
－個性・魅力ある地域づくりにおいては，「地域の宝」の発掘やその磨きが大切である。特に地域活性化を実現させていくためには他の地域の模倣でないことが求められ，どのように実践していくかを学ぶ。

第１４回　地域環境保全と持続可能なコミュニティ形成
－地球環境時代を視野においたコミュニティ形成について考え，授業のまとめを行う。

オフィスアワー

授業終了後 30 分程度

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

講義内容等を示したレジュメを毎回配布する。

授業に持参するもの

筆記用具・ノート，事前に調べてくるようにと指示があった場合にはその内容の資料など。

教科書

『実践事例にみる　ひと・まちづくり』瀬沼　頼子・齋藤　ゆか編著　ミネルヴァ書房　2013 年　978-4-623-06405-2

参考書

『シャッター通り再生計画』足立基浩　ミネルヴァ書房　2011 年　978-4-623-05717-7
『観光振興と魅力あるまちづくり』佐々木一成　学芸出版社　2009 年 978-4-7615-2423-4
『コミュニティデザイン』山崎亮　学芸出版社　2011 年　978-4-7615-1286-6
『地域再生の条件』本間義人　岩波新書　2007 年　978-4-00-431059-4
『地域防災とまちづくり』瀧本浩一　イマジン出版　2008 年　978-4-87299-479-7

学生へのメッセージ

皆さんがすんでいる地域のことについて，まずは感心を持ってほしい。学生時代にはいろいろな地域に旅行に出かける機会があると思いますが，その際には単なる観光旅行にとどまらずに，それぞれの地域がどのように「地域づくり」に取組んでいるのか，という視点からも興味を持ち見聞してきてほしい。

その他・自由記述欄

三茶 PJ（世田谷区三軒茶屋で学生が商店会とのコラボで実施しているプロジェクト活動）に現在関わっています。三軒茶屋やまちづくりに関心のある学生の方はまちづくり実践の場である三茶 PJ にぜひ参加してください。

教授要目

キャリアデザイン基礎

科目英名	Introduction to Career Design
担当者	大重　史朗　〈esoshige@yahoo.co.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

学生が自分のキャリアデザインを行なう上での基礎的な知識と能力を身につける。また、大学での学生生活とプロの社会人との関係や違いを考え、理解することで、各自が目標をもって、高い学習効果が得られるよう工夫をする。

By taking this course,students will acquire basic knowledge and abilities for designing their own careers. And I will motivative them to have objectives and to attain higher studying effects by understanding the relationship and differences between college life and professionals.

達成目標

学生生活（高校と大学の違い）および学生と社会人生活の違いを理解し、4年次に行なう就職活動を念頭に置きながら、大学生として最低限必要で、かつ、社会に出るためにも大切な情報収集のほか、仲間の意見にも耳を傾けながら、論理的に自分の考えをまとめ、人前でわかりやすく発表することなどの基礎力を養う。

成績評価

①出席（50点）；第一に出席を重視します。
②授業への参加度；(50点）随時、グループワークや教場レポート、プレゼンを実施する際に積極的に参加することを求めます。①、②ともに重視します。

予習復習時間

授業1コマ（１００分）に対し、4時間の予習・復習時間をかけてください。ただし、あくまでも授業での作業に集中して取り組むことが大前提です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

毎日、新聞を読む習慣をつけてください。どこをどう読めばよいかは授業で説明します。また、授業には、議論する仲間の立場を尊重し、守秘義務を守る「安全・安心の場」であることを念頭に参加してください。

授業計画

第　1回　キャリアデザインの「基礎」とは何か。「学生」と「社会人」の違い
第　2回　新聞は社会との接点　新聞をどう読むか、その作られ方と利用の仕方
第　3回　新聞記事で論述力・説得力をつける（1）
第　4回　新聞記事で論述力・説得力をつける（2）
第　5回　新聞記事で論述力・説得力をつける（3）
第　6回　仲間の意見に耳を傾ける力をつける（1）
第　7回　仲間の意見に耳を傾ける力をつける（2）
第　8回　授業や就職に活かす情報収集術
第　9回　社会の動きにアンテナを張るスキルを学ぶ（1）
第１０回　社会の動きにアンテナを張るスキルを学ぶ（2）
第１１回　社会の動きにアンテナを張るスキルを学ぶ（3）
第１２回　仲間の前で話す技術を身に着ける（1）
第１３回　仲間の前で話す技術を身に着ける（2）
第１４回　仲間の前で話す技術を身に着ける（3）＆後期の振り返り

オフィスアワー

授業時間前後の休み時間に相談などに応じます

授業形態

講義とグループワーク、レポート作成、プレゼンテーション等を取り入れます。

授業の具体的な進め方

講義や文章作成の作業、グループによるディスカッションなどを交えて行う。必要に応じて教場レポートの執筆も行う。
毎回の授業中の作業に集中することを第一とし、定期テストは行わない。
（上記14回の内容はあくまで予定であり、状況に応じて変更もありうるので注意してください）

関連科目

キャリアデザイン、その他1年次に配当される教科すべての知識や考え方が関連します。

授業に持参するもの

筆記用具。回によっては、事前の教員の指示により、当日の新聞朝刊などを持参してもらうことがあります。

教科書

（主にプリントを配布する）

参考書

（授業中に紹介します）

学生へのメッセージ

受講する学生同士、お互いの立場を尊重し、授業に積極的に参加することを心掛けてください。

その他・自由記述欄

キャリアデザイン基礎

科目英名	Introduction to Career Design
担当者	吉野　賢治　〈kyoshino@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

学生が自身のキャリアデザインを行う上での基礎的な知識、能力を身に付ける。また、大学での学習と社会や仕事とのつながりを理解することにより、各自が目標を持って、より高い学習効果が得られるような動機付けを行う。
By taking this course, students will acquire basic knowledge and abilities for designing their own careers. And we will motivate them to have objectives and to attain higher studying effects by understanding the relationship between studying at a university and professions.

達成目標

１．社会で求められる能力、企業・業界・職種の知識、自分自身について理解する。
２．コミュニケーションとは何かを理解し、グループワークを通じて実践する力を身につける。
３．プレゼンテーションとは何かを理解し、課題の発表を通じて実践する力を身につける。
４．自らのキャリアについて、目標を持ち、その実現のために学生生活をどのように過ごすかを明確にする。

成績評価

１．毎回の講義内で出題する課題、グループワークの成果、講義およびグループワークへの取り組み姿勢（45%）
　（課題提出数が一定数を満たさない場合は、評価対象としない）
２．レポート（45%）
３．プレゼンテーション（10%）

予習復習時間

１回の授業につき４時間の自学自習が必要　（自学自習時間は 学則第１８条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

講義およびグループワークへの積極参加および規律性

授業計画

第　1回　オリエンテーション　キャリア、キャリアデザインとは
第　2回　社会を知る（1）　社会で求められる能力、働くこととは
第　3回　社会を知る（2）　情報収集とキャリアデザインへの活用
第　4回　コミュニケーション力をつける（1）　コミュニケーションの基礎
第　5回　コミュニケーション力をつける（2）　アサーションとは
第　6回　仕事を知る（1）　会社、業界、職種とは
第　7回　仕事を知る（2）　資格とは、大学での学びと将来の関連、卒業生の進路
第　8回　自分を知る（1）　自分を振り返る
第　9回　自分を知る（2）　他者評価
第１０回　行動計画を立てる　行動計画の立て方と計画作成
第１１回　プレゼンテーション力をつける（1）　プレゼンテーションの基礎
第１２回　プレゼンテーション力をつける（2）　キャリアデザイン課題発表
第１３回　大学生活とキャリアデザイン（1）　学内リソースを知る
第１４回　大学生活とキャリアデザイン（2）　先輩講話、これまでのまとめ

オフィスアワー

木曜日 14:30-15:00　メールにて事前にアポイントを取ってください。また、授業終了後に質問を受け付けます。

授業形態

パワーポイントや配付資料に基づく講義と、グループワークによる演習。

授業の具体的な進め方

パワーポイントや配布資料による解説。それをもとに、学生間でグループを作ってディスカッションを行うことで、具体的な理解を深める。

関連科目

キャリアデザイン

授業に持参するもの

ノート、筆記用具、配布プリント

教科書

なし

参考書

大学生のためのデザインニング・キャリア　渡辺三枝子　他　ナカニシヤ出版　2011
978-4779505980
大学生のためのキャリアガイドブック　寿山泰二　他　北大路書房　2009
978-4762826719

学生へのメッセージ

・変化の激しい世の中では、自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通して考えていきましょう。
・毎回のグループワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、コミュニケーション力や対人関係能力も磨かれます。ぜひ積極的に、講義に参加してください。
・講義において、取り組み姿勢やマナーを重視し評価に加えます。「授業を受けるマナー７箇条」は必ず遵守するようにしてください。

その他・自由記述欄

教授要目

海外フィールド演習	
科目英名	Oversea Field Work
担当者	吉崎真司、威泳植、リジャル H.B.、岡田啓 < shin@tcu.ac.jp(吉崎)、yhamu@tcu.ac.jp(威)、 rijal@tcu.ac.jp(ﾘｼﾞｬﾙ)、okada@tcu.ac.jp(岡田) >
単位数	2 単位
開講時期	１年生以上

科目概要

海外フィールド演習では、急速に変化する中国の砂漠化やネパールの建築・都市環境問題について実際に見る・感じることを通じて学習をする。また、両国の様々な環境の実態把握・改善を行うために、実測を実施する。

This field work is intended to see and experience the desertification of China and urban and architecture environments of Nepal. To evaluate and improve the various environmental problems, students measure the situation of the environment in those fields by using measure the situation of the environment in those fields by using measurement instruraments or questionnaire survey to residents.

達成目標

(1)中国やネパールなどの海外における環境問題を現地にまで足を運んで体験し、実践的な活動を行う。

(2)様々な環境を実測すると同時に、人々の環境に対する主観を調査し、環境問題の現況を複眼的に捉える。

(3)研修での活動、収集したデータ、研修の感想等を冊子にまとめる。

成績評価

成績の評価方法は、各フィールド演習の説明会で説明します。基本的には、実習への参加態度(50%)とレポート・冊子や発表会（50%）で評価します。

予習復習時間

研修の事前勉強会や事後勉強会のための資料収集やまとめを予習・復習の時間とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

英語や中国語など、現地の人々とのコミュニケーションを図るための事前勉強、訪問国の歴史や現在の体制などの下調べを自主的に行っておくことが必要である。

授業計画

第　１回　事前学習（1）

第　２回　事前学習（2）

第　３回　事前学習（3）

第　４回　現地観察（1）

第　５回　現地観察（2）

第　６回　現地講義（1）

第　７回　現地講義（2）

第　８回　現地調査・測定（1）

第　９回　現地調査・測定（2）

第１０回　現地調査・測定（3）

第１１回　現地調査・測定（4）

第１２回　現地調査・測定（5）

第１３回　事後学習（1）

第１４回　事後学習（2）

オフィスアワー

原則として指定しないが、事前にメールなどで連絡をとったうえで受け付ける。

授業形態

講義、グループワーク、現地調査、現地測定

授業の具体的な進め方

事前学習と事後学習は講義や演習、グループワーク方式で行う。現地では、講義のほか実地調査や計測、現地視察などを行う。

関連科目

環境緑地学、環境情報リテラシー、環境化学、建築気候学、住環境と人間行動、環境教育、環境フィールド・計測演習他

授業に持参するもの

研修説明会や事前学習の際に示します。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

この海外フィールド演習には中国やネパールに関心のある学生が参加します。持続可能な社会を実現するために、中国やネパールから学ぶべき良い点が多くあります。反対に、中国やネパールにも改善すべき点が多々あります。現地の自然環境や社会環境、都市の環境問題や沙漠化などの地球環境問題を肌で感じてほしいと思います。

また、グループで行う作業が多いので、途中で断念することなく最後までやり通して欲しいと思います。

その他

日本とは状況が異なる海外での活動では、様々な面で危険が伴う。自分勝手な行動を慎むこと、指導教員の指示に従て行動してほしい。

インターンシップ(1)	
科目英名	Internship(1)
担当者	各教員
単位数	1 単位
開講時期	1 年～4 年

科目概要

インターンシップとは,企業に行って定められた日数にわたって実務を体験することである。学生時代の勉強方法と実社会での仕事の進め方はかなり異なっているが，インターンシップによって，それらの違いを学生時代に体得できるといったメリットがある。また，就職を希望する企業が，どのような仕事をしているかを事前に知ることができる。

達成目標

(1) 企業における実際の業務を体験することにより,実社会における仕事の概要を理解し,大学生活における講義，実験・演習，卒業研究で何を習得すべきかの認識を深める.

(2) 企業における実際の業務を体験することにより，自己の適性を認識し，卒業後の進路選択に役立つ知識を身につけ，経験を積む.

成績評価

履修者本人からの報告書(50%)，研修先から提出された所見(50%)

予習復習時間

実際の研修時間の他、準備や報告書の作成を行う。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

研修先における業務内容を予め充分に調査し，実習で関連する専門科目の復習を行い，事前知識を習得しておくこと．実習先は事前に教務委員の了承を得ること。

学内の手続きに関しては,学生支援センターは窓口開設時間帯および学科教務委員にアポを取ってから相談すること.

授業計画

第　1回　1．研修を行う企業の決定

第　2回　企業先や研修中のマナー、留意点などの事前指導

第　3回　企業での研修。1週間をめどとする企業での研修（実質5日間）を行う。研修の内容，日数，および時間などの具体的な詳細は研修先の企業との協定による.

⇩

第１３回

第１４回　成果報告会、総評、まとめ

オフィスアワー

随時対応する。

授業形態

企業における研修

授業の具体的な進め方

研修先での実習

関連科目

授業に持参するもの

なし（研修期間については企業側の指示による）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

企業での研修では，社員に指導をしていただくため，社会人として常識ある発言および行動をすること.

その他

メディア情報学部
社会メディア学科

専門基礎科目

教授要目

環境マネジメントシステム

科目英名	Environmental Management System
担当者	水上　浩　<minakami@jaco.co.jp>
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

この講義は、地球環境問題への理解を深めるために、生産活動と環境負荷の相関関係や、環境管理の重要性の基礎的な知識を習得することを目的とする。/The objective of the lecture is to learn correlation between production activities and the environmental impact, and the basic knowledge of the importance of environmental management, for a better understanding of global environmental issues.

達成目標

地球環境の保全と継続的改善のため、’９６年に国際的環境規格であるＩＳＯ１４００１メネジメントシステム（経営的管理手法）が発効した。本講義は、学生諸子が循環型社会システムへの移行を含め、経営的管理手法とともに、国際的環境動向、環境法規制、環境パフォーマンス評価、ライフサイクル・アセスメント等の環境技術について理解するとともに、本学のＩＳＯ１４００１の環境マネジメントシステム（ＩＳＯ認証）について、ＩＳＯの規格改訂（２０１５版）の内容を踏まえて、自らの言葉で説明できるようになることを達成目標とする。

成績評価

レポート・試験（６０％）、発表（４０％）を中心に評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して、２時間以上の自学自習が必要となる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

環境、特に地球温暖化に関する情報は絶えず変化している。新聞やインターネットなどを通じて最新情報に触れるように留意すること。

授業計画

第　１回　地球の限界：ＥＭＳと地球環境問題
第　２回　ＥＭＳとは何か：ＩＳＯ１４００１シリーズ発行の経緯
第　３回　大学とＥＭＳ：東京都市大学横浜キャンパスとＩＳＯ１４００１
第　４回　ＩＳＯ１４００１のしくみ
第　５回　環境側面：日常生活が環境に及ぼす影響
第　６回　ＥＭＳと要求事項：環境と法
第　７回　環境マネジメントシステム：環境方針
第　８回　環境マネジメントシステム：環境重要項目と必要な取り組みの決定
第　９回　環境マネジメントシステム：環境改善目標の設定
第１０回　東京都市大学横浜キャンパスのＥＭＳ運営上の課題（グループ課題）の報告
第１１回　ＥＭＳと環境監査
第１２回　見直し（試験）
第１３回　学生用環境マニュアルの作成①（方針と改善活動項目）
第１４回　学生用環境マニュアルの作成②（まとめ）

オフィスアワー

授業時間終了後に質問を受け付ける。

授業形態

講義および教室外での調査活動

授業の具体的な進め方

講義および例題の演習および発表。演習は教室外での調査活動を含む

関連科目

「環境監査」(3 年生　学科専門科目（選択))

授業に持参するもの

配布資料。必要に応じて発表や演習に使用するパソコン。

教科書

講義中配布資料
必要に応じて指示

参考書

『ＪＩＳ規格（１４００１）』　　日本規格協会

学生へのメッセージ

本学はＩＳＯ１４００１の認証を日本の大学で最初に取得した大学であり、学生諸君はその構成員として位置づけられている。横浜キャンパスにおいて、環境改善のために学生が果たすべき役割について学び、環境改善活動を実践すること。

その他・自由記述欄

情報発信入門

科目英名	Guidance to research information & representation
担当者	小俣　一平、清水　由美子、矢吹　理恵、木村誠聡、各教員 <小俣（ippei0202@icloud.com),清水（shimizu@tcu.ac.jp)，矢吹（yabuki@tcu.ac.jp)、木村（kimura@ic.kanagawa-it.ac.jp）>
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

情報発信は、大学４年間を通して極めて基本的なテーマであるばかりか、社会に出てからも、避けて通れない業務となる。自分の考えをどう発信していくのか。私の授業では、まず自分の考えをまとめ、プレゼンテーションしていく方法を身につけていく。その上で、考え方をどう文章や映像で表現していくのか。そのための書き方、取材の仕方、インタビュー、アンケートのとり方、さらにビデオ撮影の方法等の基本を学んだうえで、活字、映像で見せるところまでのＡ to Ｚを学ぶ。伝えることの難しさ、そして愉しさを体感すること目標にする。

We learn various methods of research and representation concerning contemporary phenomena. Students are required not only to discover/observe/gather information related to a certain theme, but accomplish written matter/picture/photograph/digital image/oral presentation and so on, through practical lesson. At the end of the course, you will find yourself acquainted with basic skills how to research information and with which　to produce works persuasive to audience.

達成目標

多様なメディアを通じての情報収集の技法を学び、そこで得た情報を加工し、発信していく過程を身につける。

成績評価

グループワーク 30%、中間発表 30%、最終発表と制作過程の記録提出 40%

予習復習時間

次回授業のための事前のフィールドワークの準備が必要。時間は１コマにつき４時間程度の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

知的好奇心。自分で考える習慣を身につける。チーム作業のため協調性が必要。

授業計画

第　１回　まず情報を収集することから始める。収集した情報の分析、発信するうえでの技法までを俯瞰して解説する。チームを編成し、リーダー等を決定。
第　２回　情報収集の技法。学問的なライブラリーや図書館の利用方法。学術 DB(CiNii) の利用方法を学びながら、チームごとにテーマを決めていく。
第　３回　オンラインの利用法を把握したうえで、チームでの自由闊達な論議の上で、テーマを確定させる。各チームのテーマ発表と設定理由をプレゼンテーション。
第　４回　フィールドワーク及びインタビュー（聞き取り）についての方法論。これに即したフィールドワークの計画・立案。
第　５回　フィールドワークの実施①　現地調査の要諦、注意事項を説明したうえで、現地に向かう。報告は次週の授業の際に行う。その際、個別に質問を行うので、何を聞かれてもいいように調査事項をメモ、把握しておくこと。
第　６回　フィールドワークの実施②　①の報告後、何が足りないのか各グループで討議する。
第　７回　①②のフィールドワークと検討結果を踏まえて、情報の整理と今後の課題をグループ討議し、第１回目の中間報告を行う。
第　８回　前回の反省に則って、再度フィールドワーク実施。その結果から不足情報を、これまでに学んだ学術的方法やオンラインを駆使して補てんする。
第　９回　テーマに沿って得た情報をどう加工するのか。グループで討議し、プレゼンテーションの方法を決定する。そのうえで、中間報告に向けての準備に入る。
第１０回　表現方法を駆使した第２回目の中間発表。(A 班～C 班)
第１１回　表現方法を駆使した第２回目の中間発表。(D 班～F 班)
第１２回　情報発信に向けての最終調整とグループ討議。グループでのプレゼンに向けての各自の役割分担を確定し、一覧表にして提出。
第１３回　グループごとのテーマによる情報発信。(A 班～C 班)
第１４回　グループごとのテーマによる情報発信。(D 班～F 班)

オフィスアワー

小俣は、水曜日を除く講義以外の時間ならいつでも開放している。事前に 045-910-2550 か 090-6160-3538 に電話してくるか、あるいは　ippei0202@icloud.com　にメールで予約してくれるとなお良い。その際、都市大生であることを明記してください。気楽にどうぞ。
清水は、火曜２時限と昼休み。
矢吹は、月曜日から木曜日。メールでアポを取ってください。

授業形態

グループ別に分かれて、各自のテーマごとにフィールドワークや調査を行い、発表していく形式

授業の具体的な進め方

グループ別にテーマを設定し、グループワークを進め、発表していく。

関連科目

本講義で習得した方法論は、「社会文化フィールドワーク」において、さＲに専門的に活用することとなる。

授業に持参するもの

毎回配布する資料。

学生へのメッセージ

参考書等は、授業の中で紹介する。

その他・自由記述欄

教授要目

統計学基礎

科目英名	Descriptive Statistics
担当者	山崎　瑞紀　〈mizuki@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

主にデータの集約的な記述や２変数間の関係を分析する方法を習得する。
This course includes the methods for collecting data, graphical and numerical descriptive statistics, and correlation and simple linear regression.

達成目標

①与えられたグラフや表を適切に読み取ることができるようになる
②得られたデータを整理、図示し、要約や分析を行うことができるようになる
これらを通して、官庁統計や調査報告書、論文などを適切に読み解き、自ら簡単な調査報告を作成できる技術の獲得を目指す。

成績評価

出席状況・課題提出（50%）、学期末試験（50%）により評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

予備知識は特に必要としない。

授業計画

第　１回　統計学とは何か：統計学の意義、歴史を解説するとともに、本講義の達成目標について述べる
第　２回　母集団と標本：母集団と標本の違いや標本抽出の方法を学び、データの取得や整理について学習する
第　３回　データの種類、図表の作成：データ（尺度）の種類、及び、それらを適切に表現する方法を学ぶ
第　４回　表やグラフの読み方：表やグラフの読み方、注意点を解説する
第　５回　表やグラフの作り方：表やグラフの作成方法を学ぶ
第　６回　度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの見方、作成方法を学ぶ
第　７回　代表値：平均値、中央値、最頻値などのさまざまな代表値とそれらの性質を学び、データの集約について理解する
第　８回　散布度：標準偏差、分散、四分位偏差などのさまざまな散布度とそれらの性質について理解し、その算出方法を習得する
第　９回　散布図と相関係数：２変数間の関係を調べるために、散布図とピアソンの積率相関係数を用いることを学ぶ
第１０回　相関と因果の違い：みかけの相関などを説明し、相関関係と因果関係は異なることについて学ぶ
第１１回　クロス集計と順位相関係数：カテゴリカルなデータにおける２変数間の関係を調べるため、クロス集計の読み方や作成方法、及び、順位相関係数の算出方法を学ぶ
第１２回　回帰直線１：２変数の直線的関係を記述する回帰直線の求め方、及びデータに対する回帰直線の当てはまりのよさを評価する決定係数について学ぶ
第１３回　回帰直線２：残差分析について学ぶ
第１４回　本講義で学んだ知識に基づいて官庁統計や調査報告の読み方を解説する

オフィスアワー

金曜４限

授業形態

パワーポイントと配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

毎回、講義時に課題を出し、講義終了時に提出。Excel を用いる課題も宿題として計３回程度出す。

関連科目

発展として、応用統計、社会調査を履修すると学びが深まる。

授業に持参するもの

関数電卓、定規、教科書

教科書

読む統計学・使う統計学　第２版　広田すみれ　慶応義塾大学出版会　2013　978-4766420364

参考書

授業時に適宜紹介する。

学生へのメッセージ

情報化社会のなかで、データを読み解き、表現するスキルはますます重要となってきている。課題に積極的に取り組み、より高いスキルを身につけてほしい。

その他・自由記述欄

ミクロ経済学

科目英名	Microeconomics
担当者	宮武　宏輔　〈〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

経済活動は社会の問題を解決する有力な手段の１つである。企業の活動は、他の企業や労働者、消費者だけでなく、環境などを含めた社会全体に様々な影響を与えている。例えば、企業の競争が技術革新を促し、それが社会的に有益な財を生み、社会全体の発展に繋がっていることも多い。一方で財の生産のために、環境に負荷を与える可能性もある。このように、社会を変える原動力の１つに企業活動がある。これを理念として、本講義では具体的な企業活動を例に挙げながら授業を進めてる。

達成目標

企業活動や市場のメカニズムを理論的に分析する授業である。したがって、経済学の基礎的な知識を身につけて、その知識をベースに企業活動が社会に与える影響、日本経済と世界経済の動きとの関係性つい基本的な説明ができるようになることを最終目標とする。

成績評価

宿題 20%、期末試験 80%

予習復習時間

予習として、新聞や経済誌（日経ビジネスなど）を読み、企業の活動や日本経済の動きに詳しくなっておくこと。復習は授業の際に配ったレジュメを読み返して専門用語を覚えること。またレジュメには簡単な練習問題を載せるので、それを解くこと。尚、１回の授業につき少なくとも４時間程度は予習・復習に充てることが望ましい。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特にないが、新聞や経済誌などで企業の活動や日本経済の動きについて、ある程度の情報を持っておくことが望ましい。また、簡単な微分を使うので、基礎的な数学的知識も復習しておくことを推奨する。

授業計画

第　１回　ガイダンス、経済学の概要（経済学とはどのような学問か？経済学的な思考、需要曲線・
供給曲線とは？）
第　２回　消費者理論（効用の概念、限界概念、無差別曲線）
第　３回　消費者理論（予算制約、効用最大化）
第　４回　消費者理論（需要曲線、上級財・下級財、奢侈品、必需品、ギッフェン財）
第　５回　消費者理論（需要の価格弾力性）
第　６回　生産者理論（企業活動と利潤最大化）
第　７回　生産者理論（費用曲線の考え方、平均費用・平均可変費用、規模の経済、供給曲線の導出）
第　８回　市場理論（完全競争の市場均衡、価格メカニズム）
第　９回　市場理論（余剰分析）
第１０回　市場理論（独占市場の考え方）
第１１回　市場理論（複占市場、寡占市場、独占的競争市場など）
第１２回　市場理論（価格戦略、マーケティング理論など）
第１３回　市場の失敗（市場の失敗のメカニズムと政府の政策）
第１４回　総復習（試験対策）

オフィスアワー

授業の後に質問に来て下さい。またはメールで問い合わせてください。詳細は第１回授業で説明します。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

テキストは特に指定しない。毎回、レジュメを配って、それをもとに授業を行う。そのレジュメに授業中の内容（板書）などを書き込んでおくこと。そのレジュメは復習や試験で使用することになる。

関連科目

「経済学（１）（２）」(１年)、「マネジメント入門」（１年）等とあわせて履修することで、より理解が深まることが期待される。また、本講義の知識を下地にして、「日本経済論」（３年）でより具体的な経済の動向や政策について学習することが望ましい。

授業に持参するもの

筆記用具

教科書

参考書

『ミクロ経済学（第２版）』　伊藤元重　日本評論社　2003　4535552614
『公共経済学入門』　上村敏之　新世社　2011　4883841553
『産業組織の経済学[第２版]』　2013　4535556679
『マンキュー経済学Ｉ　ミクロ編[第３版]』　N・G・マンキュー、足立英之ほか訳　東洋経済新報社　2013　4492314377

学生へのメッセージ

物やサービスの価格や流通量がどのように決まるのか、あるいはなぜ価格が下落する商品や価格が上昇する商品があるのかなど、日常の経済の動きに興味のある方はぜひ履修してみてください。

その他・自由記述欄

授業では具体例を多く出して、できるだけ理解しやすいように心掛ける予定ですが、理論の学習になるので、難解な部分もあります。したがって、じっくりと考え、しっかり勉強する必要があります。

教授要目

現代国内情勢

科目英名	Study of Contemporary Domestic Affairs
担当者	小俣　一平　〈ippei0202@icloud.com〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

新聞、雑誌、テレビのニュース記事をベースにいま日本で何が起きているのか。私の講義では、社会に出るまえに最低限知っておかなければならない「現代日本」を読み解く。特に私の授業では、日本の政治、経済、社会、文化を軸にその時々の出来事や課題をクローズアップし、自分の見方、考え方を身につけていくことを目標にする。インターネット検索で何もかもが分かったつもりになりがちだが、一つのニュースには別のニュースと関連性があったり、その背景を手繰ることで新たに見えてきたりする事実があることを学んでいく。併せて戦後史も俯瞰していく。The goal of this course is to give students a basic understanding of contemporary Japan. We will read news articles in newspapers, magazines and television, and know not only a background of some news, but also the relationship between one news and another news.

達成目標

社会を読み解く上での基本知識を身につける。

成績評価

試験重視。出席20%　課題図書レポート提出40%　試験６０％　授業開始10分以降は「遅延証明」の提出がない者は、欠席とみなす。

予習復習時間

日頃からインターネットだけでなく、新聞、雑誌を読む時間を１日 60 分、テレビのニュース１日６０分　ドキュメントを見る時間を週 60 分以上。これをもって予習復習と見なす。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

戦後の日本、世界の歴史を高校時代の教科書で下読みしておくと理解が増す。

授業計画

第　１回　ガイダンス（この授業の目的、日本・世界の現代史の重要性を説明する）
第　２回　18 歳で選挙権を持つ君たちへ（国会・内閣・司法のしくみ）
第　３回　占領下の日本と憲法
第　４回　サンフランシスコ講和条約と平和憲法
第　５回　冷戦時代の幕開けと世界の政治バランス
第　６回　日米安保体制と日米地位協定
第　７回　沖縄返還と密約
第　８回　高度成長期と公害日本
第　９回　日中国交回復
第１０回　ロッキード事件と田中角栄　バブル崩壊と政権交代
第１１回　小泉内閣の誕生と格差社会の出現
第１２回　民主党政権の誕生と 3･11
第１３回　自民党政権の復活と安保法制
第１４回　18 歳で選挙権を持つ意味と意義　安保法制下の若者の未来

オフィスアワー

水曜日を除く講義以外の時間は、開放にしている。事前に 045－910-2550、090-6160－3538 に電話で予約を入れるか下記のメールアドレスに連絡をするとなおよい。その際都市大生と分かるように表記すること。みんな来ています、気軽にどうぞ。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

授業の前半は、紙資料や DVD をつかって戦後史を講義。後半は時事問題を解説する。

関連科目

ジャーナリズム論

授業に持参するもの

教科書

戦後政治史（第 3 版）　石川真澄・山口二郎　岩波新書　2010　4004312817
日本国憲法　童話屋　2001　4887470149

参考書

学生へのメッセージ

現在を知るためにも歴史に通じることは必要不可欠である。いろいろな社会問題を考えるうえで、その礎となるのは、日本・世界の歴史であり、特に高校時代に学ぶ機会が少なかった戦後史を重点に講義する。

私語、食事、化粧、パソコン、携帯電話等の電子機器類の使用を禁止。見つけた場合は履修登録抹消。期末試験の際、試験開始のチャイムが終了して以後の入室は、解答用紙に「遅刻」のスタンプを押して、マイナス 40 点となるので要注意。

その他・自由記述欄

マネジメント入門

科目英名	Introduction to Management
担当者	郭　偉宏　〈kakuikou@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本講義では、組織における企画・組織・指導・監督といったマネジメント機能を理解し、意思決定、コミュニケーション、戦略およびＨＲＭに関する管理科学を学ぶ。
This lecture is an introduction to principles and of management. As such, it will provide you with an overview of the many functions managers must perform. We will discover that management consists of four primary functions: planning; organizing, leading and controlling. Topics include decision making, communication, strategic management and human resource management.

達成目標

①マネジメントの概念を理解する
②マネジャーの技能を理解する
③マネジメントとマネジャーの関係を理解する

成績評価

出席とレポート
期末レポート（グループワーク）
評価方法：出席とレポート（70%）、期末レポート（30%）

予習復習時間

1 回（100）分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　マネジメントとは
第　２回　グローバル環境におけるマネジメント
第　３回　多様性とマネジメント
第　４回　社会倫理と責任
第　５回　変化と改革
第　６回　企画（1）：意思決定と企画の基礎
第　７回　企画（2）：戦略管理、計画技術
第　８回　組織（1）：組織の設計
第　９回　組織（2）：人力資源管理とチーム管理
第１０回　指導（1）：個人行為とコミュニケーション
第１１回　指導（2）：リーダーとモチベーション
第１２回　監督（1）：監督の基礎
第１３回　監督（2）：組織実績の監督
第１４回　これからのマネジメント

オフィスアワー

授業時にアナウンスを行う

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式で解説するとともに、演習も行う。チーム課題もある。

関連科目

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

Management　Robbins & Coulter　Prentice Hall　2012　978-0-13-216384-2

参考書

ハーバード流マネジメント入門　D. クイン・ミルズ　ファーストプレス　978-4-903241-22-7　2400 円
マネジメント　ドラッガー　ダイヤモンド社　978-4478410233　2000 円
もし高校野球の女子マネージャーがドラッガーの「マネジメント」を読んだら　978-4478012031

学生へのメッセージ

企業やマネジメント、就職活動への基礎となるので、ぜひ履修してください。

その他・自由記述欄

教授要目

情報環境論	
科目英名	Information Environment
担当者	関　博紀　〈hseki@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

情報と環境は，現代社会を理解する上で欠かせない概念です。また近年では，これら 2 つが分ちがたく結びついている場面にも多く出くわします。この講義では，情報，環境，そしてそれらが融合した情報環境の各諸相を,実際の生活場面にみられる具体的な事例とともに考えます。その際，人類学や社会学，心理学，建築学，工学などの領域で蓄積されてきた，従来の情報理論や環境論への理解を深め，これからの情報環境に見合った新たな情報環境論の可能性を探ります。

In this lecture, the outline of information environment will be introduced. That is based on the fields such as the anthropology, psychology, architecture, and ecology.

達成目標

（1）日常の至るところに情報環境があることを理解している。

（2）情報環境を，情報と環境，さらに両者の関係から説明することができる。

（3）情報環境の具体例を挙げ，そこにみられる問題点を指摘し，かつその改善方法を示すことができる（できることを理解している)。

成績評価

講義期間中に行う小課題(論述形式･30%)と学期末に課す最終課題(レポート形式･70%)を総合し，60 点以上の者に合格を与える。

進捗に応じて変更の可能性があるが,その際は事前に周知し,不便のないように配慮する。

予習復習時間

【予習】ガイダンスで触れた内容について，参考書などを通して理解を深める。必要がある場合は，改めて指示をする。

【復習】講義で触れた内容について，参考書などを通じて理解を深める。可能な範囲で，実体験を通じて考察を深める。

1 回の授業につき 4 時間程度の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

指定しない

授業計画

第　1回　ガイダンス（概要と進行の説明）

第　2回　日常にみられる情報環境（1）(映像作品１を参考にして)

第　3回　日常にみられる情報環境（2）(映像作品２を参考にして)

第　4回　情報環境はどのように扱えるのか？

第　5回　情報とは何か（1）(ルーツ)

第　6回　情報とは何か（2）(具体例と問題点)

第　7回　情報とは何か（3）(小まとめ)

第　8回　環境とは何か（1）(ルーツ)

第　9回　環境とは何か（2）(具体例と問題点)

第１０回　環境とは何か（3）(小まとめ)

第１１回　情報環境とは何か（1）(ルーツ)

第１２回　情報環境とは何か（2）(具体例と問題点)

第１３回　情報環境とは何か（3）(小まとめ)

第１４回　まとめと復習

オフィスアワー

水曜日午後。その他の曜日でも，事前に連絡があれば対応する。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

スライドや映画などの視覚資料を使って，講義形式で行う。資料は一部のものに限り配布する。講義中に時間を確保するので，重要な点は各自ノートに取ること。また，適宜，コメントペーパーを回収し，理解度を把握する予定である。その結果に応じて，授業計画は変更する可能性がある。

関連科目

認知科学，社会情報デザイン，社会文化フィールドワーク

授業に持参するもの

ノート

教科書

なし

参考書

日常にひそむ数理曲線 DVD-Book　佐藤雅彦＋ユーフラテス　小学館　2010 9784094803105

反哲学史　木田元　講談社学術文庫　2000　9784061594241

通信の数学的理論　　2009　9784480092229

その他，講義で告知する

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

社会調査	
科目英名	Social Research
担当者	中村　雅子　〈masako@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

社会が直面する諸問題について詳細に把握し、解決の糸口を探るためにも、また問題解決に向けた政策的な合意形成のためにも、人々と社会についての適切なデータ収集が不可欠である。本講義は、学生が、他者が示した情報の信頼性を判断し、また社会に貢献する有意義な情報発信を行う知識と技能を身に付けることを目的とする。社会調査の意義と、諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの違いや、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程について教授する。

The aim of this class is to understand the basis of investigation methods for social science, that varies from the qualitative approaches using interviews and observation method to the quantitative one using questionnaire surveys.

達成目標

社会調査の現代社会における意義を具体的な事例から学ぶ。
社会調査の量的・質的な方法のそれぞれの拠って立つ観点の違いや、各方法の持つ長所や問題点を理解する。
既存の社会調査研究を的確に評価できるリサーチリテラシーを身につける。

成績評価

毎回のコメントレポート 30%、グループ課題レポート 30%、テスト 40%

予習復習時間

1 回の授業につき計 4 時間の予習・復習を行う

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

統計学基礎、応用統計を履修することが望ましい

授業計画

第　1 回　社会調査とは何か
社会調査の意義と社会に与える影響力の大きさについて、国勢調査、官庁統計等、具体的な事例も含めて説明する。
第　2 回　社会のリアリティ
質的方法と量的方法など、多様な調査の種類や、社会調査の歴史や成り立ちを含めて解説し、認識を深める。
た概念と操作的定義、社会調査の方法の選択と得られる知見の関係を、事例を紹介しながら比較する。
第　3 回　質的研究①
質的方法としての観察法について具体的な事例で説明し観察によるデータ収集の方法について学ぶ。
第　4 回　質的研究②
観察法の中でも独自の方法である参与観察法を中心に、具体的な事例を挙げながら解説する。
第　5 回　質的研究③
質的インタビューを中心に、質的研究の方法と留意点について解説する。
第　6 回　質的研究④
生活史法、会話分析などのその他の質的研究の手法の紹介、およびトライアンギュレーションの考え方などについて解説する。
第　7 回　量的研究①
量的方法について、質問紙法による調査を例に長所、短所を検討し、実施のプロセスを解説する。
第　8 回　量的研究②
調査票の意義と重要性について具体的な事例や作成の留意点を含めて解説する。
第　9 回　量的研究③
量的調査における調査対象者へのアプローチ方法とその結果の違いについて、個人面接法、訪問留め置き法、電話調査、郵送法、オンラインアンケートなどを具体的な事例を挙げながら解説する。
第１０回　量的研究④
量的調査において、どのように対象を標本抽出するか、それによってどのように違いが生じるかを、ランダムサン
プリングの原理とともに具体的な例をあげて説明する。
第１１回　量的研究⑤
量的調査の分析で必要になる統計的な処理について、記述統計・推測統計などの基本的な事項を学ぶ。
第１２回　量的研究⑥／グループ課題成果発表
統計的検定の発想を理解し、練習課題を通じて二変数間の関係についての検定を学ぶ／グループ課題の優秀作品について発表を行う。
第１３回　量的研究⑦
練習課題を通じて、統計的知識を実際に社会調査の量的調査結果に適用することを学ぶ。
第１４回　リサーチセンスを身につけるために
授業のまとめを行い、また社会調査の社会的背景への配慮や倫理的問題、バイアスへの意識の必要性を再確認する。

オフィスアワー

水曜 12：30-13：00。その他、教員在室時は随時受け付けます。アポイントをとりたい場合は、masako@tcu.ac.jp へご連絡下さい。

授業形態

講義（一部 PBL に基づくグループ学習を取り入れている）

授業の具体的な進め方

講義、グループワーク、受講生同士のコミュニケーション、プレゼンテーションを併用しながら、社会調査の基礎を体験的に身につける。

関連科目

統計学基礎、応用統計、社会調査設計、質的調査演習、社会調査実習

授業に持参するもの

教科書

新：社会調査へのアプローチ（予定）　大谷 信介，後藤 範章，永野 武，木下 栄二，小松 洋　ミネルヴァ書房　2013　978-4623066544

参考書

授業ホームページで指示

学生へのメッセージ

実証的な方法で社会についてデータを得ることは、社会の理解、課題発見、提言に不可欠な知識です。ぜひしっかり学んで下さい。

その他・自由記述欄

メディア情報学部
社会メディア学科

専門科目

学科基盤科目
学科専門科目

教授要目

社会学概論

科目英名	A basic view of sociology
担当者	島村　賢一　<shimak@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

人間が地球環境においていかに他者と共に生きる存在であるのかを社会学的に理解することを目的とする。そのために、自我、役割、集団、社会構造などの概念について説明する。そして、家族、ジェンダー、労働、民族問題、グローバル化、リスクなどの具体的現象をとりあげ、その現状と変化について社会学的に考察する。そこから、現代社会における人間のあり方や人間と自然との関係を明らかにし、これからのあるべき姿について考えたい。本講義は、社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項の「社会学の理論や基礎知識」を習得するための科目となる。

The purpose of this lecture is to understand sociologically how human being lives in coexistence with others in the global environment. For that the concepts as self, role, group, social structure will be explained. We take the meanings of concrete phnenomena like family, gender, labor、ethnicity, globalization and risks into sociological consideration. From this we clarify the existence of human being, the relations between human being and nature in our contemporary society and think of our future.

達成目標

基本的な社会学の概念を習得し、具体的な社会現象の社会学的分析を学ぶことによって、「社会学的なものの見方」を通じ、社会にある様々な諸現実を個人・社会・歴史の重層性において捉える力を身につける。

成績評価

小レポート 40%、学期末試験 60%として評価する。

予習復習時間

1 回（100 分）の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

社会で現実に起きていること、例えば日々のニュース、時事問題について関心をもっていることが望ましい。

授業計画

第　１回　ガイダンス、社会学と近代社会(1)(近代社会とは何か)
第　２回　社会学と近代社会(2)（市場と国家）
第　３回　社会学の基本的な考え方(1)（行為論）
第　４回　社会学の基本的な考え方(2)（社会関係論）
第　５回　社会学の基本的な考え方(3)（集団論と社会構造）
第　６回　家族とは何か(家族の歴史的位相)
第　７回　ジェンダーの基礎概念（男女共同参画社会とは）
第　８回　少子高齢化問題
第　９回　労働世界の変容(1)（格差社会とは）
第１０回　労働世界の変容(2)（フリーターとニート）
第１１回　民族問題の社会学（外国人労働者と移民）
第１２回　グローバル化とリスク社会（ベックのリスク社会論）
第１３回　リスク社会としての現代(1)（福島第一原発事故からの考察）
第１４回　リスク社会としての現代(2)（テロと金融危機）

オフィスアワー

授業終了後に質問を受け付ける。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式を中心とする。

関連科目

本講義は、教養科目の「社会学入門」と関連する。また本講義の一部は、「集団と個人」を取り扱う「社会心理学概論」、「社会関係資本」をベースにした「社会ネットワーク論」、および「リスク社会」を扱う「リスクコミュニケーション」と関連する。

授業に持参するもの

適宜指示する。

教科書

毎回プリントを配布する。
世界リスク社会論　ウルリッヒ・ベック　ちくま学芸文庫　2010 年　978-4-480-09310-3

参考書

適宜指示する。

学生へのメッセージ

初回に説明する受講ルールを守るようにしてください。

その他・自由記述欄

特になし

社会心理学概論

科目英名	Social Psychology
担当者	山崎　瑞紀　<mizuki@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期前半

科目概要

社会心理学の主な理論と考え方を概説し、人間の社会的行動についての理解を深める。グループ・ディスカッションや体験学習等も適宜行う。

This course is designed to deepen your understanding of human social behavior. This course includes a number of hands-on exercises such as group discussions.

達成目標

人々の認知や行動の法則性や問題点等についての理解を深め、社会のなかで生かす視点を自分なりに検討できるようになることを目標とする。

成績評価

出席を含めた平常点（20%）、学期末試験（80%）により評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

予備知識は特に必要としない。

授業計画

第　１回　イントロダクション
第　２回　対人認知の基本的特徴：印象形成
第　３回　対人認知の二過程：自動性と統制性
第　４回　自己認知１：自己スキーマ
第　５回　自己認知２：自覚状態理論
第　６回　自己評価
第　７回　集団による意思決定（ゲーム実施）
第　８回　ゲームの振り返り
第　９回　集団と個人
第１０回　社会的交渉
第１１回　態度の形成と変容
第１２回　説得的コミュニケーション１：送り手の特性、メッセージ内容、受け手の特性
第１３回　説得的コミュニケーション２：顕在過程と潜在過程
第１４回　まとめ

オフィスアワー

月曜４限

授業形態

パワーポイントと配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

講義がメインだが、グループ・ディスカッションや体験学習等も適宜行う。

関連科目

コミュニケーションの心理、異文化間コミュニケーション、心理学概論

授業に持参するもの

教科書

資料を配布する

参考書

新編　社会心理学　堀洋道（監修）吉田富二雄ほか（編著）　福村出版　2009
978-4-571-25036-1
グラフィック社会心理学　第２版　池上知子・遠藤由美　サイエンス社　2008
978-4781911915

学生へのメッセージ

人々の認知や行動は奥深く、様々な視点から考察できる。一緒に理解を深めていきたい。授業中の私語は慎むこと。

その他・自由記述欄

教授要目

現代社会とメディア	
科目英名	Media and Contemporary Society
担当者	広田　すみれ.李　洪千　〈広田：sumire@tcu.ac.jp 李：hongchun@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

情報化においてさまざまなメディアの研究がこれまでどのような角度からなされてきたのかという視点を習得する、社会メディア学科の領域を初年次に概観する位置づけの科目で，社会とメディアについての入門的な概念を理解するとともに，これまでの主要な研究成果，知見の簡単な紹介を行う．また現実社会の関連する課題・問題を取り上げ，社会メディア学科での学びへの導入を行う．前半（広田担当）では、メディアの社会に対する影響の変遷の歴史（メディア史）と、それに対する考え方の概観、ならびにメディアの産業構造について論じる．後半（李担当）は主に社会学・ジャーナリズムの立場から、メディアと社会・政治や人間活動との関わりについて論じる．

The purpose of this class is to provide students a brief review of the studies in the social media department and fundamental ideas about the relationship between various media and our modern soceity. Stundents will learn the fundamental ideas, theories, and the important research findings in this field. This class will also provide the students fundamental study skills for all the media studies in the coming course.

達成目標

・メディアが現代社会で果たす役割の重要性について理解する
・メディアと社会が相互構成的に変化するものであることを理解する
・メディアの影響という場合に多様な側面があることを理解する
・現代社会の多様なメディアの存在とメディア自体の相互関係について、基礎知識を持つ

成績評価

広田：授業内小レポート（15%程度）、最終レポート（85%）による
李：授業内レポート、最終レポート、予習、小テストなどにより評価する。

予習復習時間

毎回2時間の予習・復習を行うことを前提とする

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　1回　前半のガイダンス（授業の進め方など）
メディアとは何か：コミュニケーションの媒体としてのメディア
音、画像、文字。メディアと心理的過程（知覚、認知）
第　2回　メディア史(1)
メディア史における４つの革命、マスメディアの登場と社会への影響
第　3回　メディア史(2)
ジャーナリズムの登場、映像メディア（映画、テレビ）の登場と社会への影響、プロパガンダ
第　4回　マスメディアと社会
マスメディアの影響の理論と心理的過程
第　5回　産業としてのマスメディア(1)
新聞、テレビ・ラジオとそのビジネスモデルの変化
第　6回　産業としてのマスメディア(2)
出版とそのビジネスモデルの変化
第　7回　産業としてのマスメディア(3)
第　8回　2部のガイダンス
日本のメディアの概略
第　9回　現代社会とメディア環境の変化
第１０回　現代社会とデジタルメディア
第１１回　現代社会と広告メディア
第１２回　現代社会におけるメディアと政治
第１３回　現代社会とメディアの表現の自由
第１４回　現代社会と世論

オフィスアワー

広田：月または火の昼休み（12:30-13:00）。ただし事前にメール連絡（sumire@tcu.ac.jp）してください。
（李）火曜日の15:10-16:50。その他、研究室在室時は随時対応します。アポイントを取りたい場合はhongchun@tcu.ac.jpに連絡して下さい。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

広田：講義形式。ただしコメントペーパー等意見を書いてもらう。また関連するビデオ等を紹介する
（李）講義を基本にするが、場合によってはゲストをお招きする場合もあります。毎回前回と当日授業の内容について小テストを実施します。課題も数回予定。

関連科目

情報と社会

授業に持参するもの

特になし

教科書

なし

参考書

よくわかるコミュニケーション学　伊藤 守　ミネルヴァ書房　2015　4623072649
ビジュアルゼミナール　曽根泰教　日本経済新聞社　1989　4532089069

学生へのメッセージ

社会とメディアについて考える基礎科目としてしっかり学習して下さい。

その他・自由記述欄

教授要目

認知科学	
科目英名	Cognitive Science
担当者	関　博紀　〈hseki@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

私たちは，日々，何かを考え（思考），思い出し（記憶），決め（判断），作って（制作）います。認知科学は，こうした営みを扱う心理学のひとつです。その特徴は，対象とする営みの“日常”性にあります。もちろん，日常は計測することが難しく，研究成果としてまとまりにくいという問題があります。にもかかわらず，なぜ認知科学は，“日常”に拘るのでしょうか？そこには，認知科学という試みを生み出すに至った，心理学という学問に共通の問題も透けて見えます。この講義では，認知科学の最新の知見を，具体的な事例とともに紹介します。加えて，認知科学の試みを“日常性”というキーワードから再考することで，人間を問うことにまつわる問題点についても考察し，日々の暮らしを豊かにする視点を育みます。

We are apt to think that a cognitive process runs internally within our body or brain. Many contemporary psychologists or cognitive scientists also adhere to this view. However, in this class, the alternative approaches will be introduced. In addition, through the class, opportunities to consider a desirable modification and design of the environment and institutions.

達成目標

（1）　日常の至るところに，認知的活動を見出すことができる（できることを理解している）。

（2）　認知のメカニズムを，いくつかのアプローチにもとづいて説明することができる（できることを理解している）。

（3）　認知科学という分野が誕生した経緯を説明し，その際に重要となったポイントを整理し，それに対する自らの考えを述べることができる。

成績評価

講義期間中に行う小課題（論述形式・30%）と学期末に課す最終課題（レポート形式・70%）を総合し，60 点以上の者に合格を与える。

進捗に応じて変更の可能性があるが，その際は事前に周知し，不便のないように配慮する。

予習復習時間

【予習】ガイダンスで触れた内容について，参考書などを通して理解を深める。必要がある場合は，改めて指示をする。

【復習】講義で触れた内容について，参考書などを通じて理解を深める。可能な範囲で，実体験を通じて考察を深める。

1 回の授業につき 4 時間程度の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

指定しない

授業計画

第　1回　ガイダンス（概要と進行の説明）
第　2回　日常にみられる認知（1）（映画その１を参考にして）
第　3回　日常にみられる認知（2）（映画その２を参考にして）
第　4回　認知的活動はどのように扱えるのか？
第　5回　現代の代表的なアプローチ（1）（認知科学誕生までの経緯）
第　6回　現代の代表的なアプローチ（2）（日常を問う試み）
第　7回　状況論的アプローチ（1）（周囲に依存する認知）
第　8回　状況論的アプローチ（2）（状況，実践，社会）
第　9回　ダーウィンのミミズの心理学
第１０回　生態学的アプローチ（1）（空を飛ぶってどういうこと？）
第１１回　生態学的アプローチ（2）（動く動物と動かない環境）
第１２回　デザインと認知科学（1）（ユーザを理解する）
第１３回　デザインと認知科学（2）（デザイナーを理解する）
第１４回　まとめと復習

オフィスアワー

水曜日午後。その他の曜日でも，事前に連絡があれば対応する。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

スライドや映画などの視覚資料を使って，講義形式で行う。資料は一部のものに限り配布する。講義中に時間を確保するので，重要な点は各自ノートに取ること。また，適宜，コメントペーパーを回収し，理解度を把握する予定である。その結果に応じて，授業計画は変更する可能性がある。

関連科目

情報環境論，社会情報デザイン，社会文化フィールドワーク

授業に持参するもの

ノート

教科書

なし

参考書

状況に埋め込まれた学習　ジーン・レイヴ著，佐伯胖訳　産業図書　1993
978-4782800843
アフォーダンスの心理学　エドワード・リード著，細田直哉訳　新曜社　2000
978-4788507432
その他，講義の中で紹介する。

学生へのメッセージ

認知科学が扱うテーマは，どれも日常的なものです。それが面白い点であり，難しい点でもあります。上手くいけば，日常の奥深さを目の当たりにすることが出来ますが，日常は往々にして計測しづらいものです。散歩はなぜ楽しいのか？芸術家やトップアスリートたちは何が凄いのか？果ては，卵を割るとはどういうことか？講義で取り上げる内容のうち，どれかひとつは，皆さんも身近に感じられると思います。それを見つけて，日々の暮らしを再発見する贅沢を味わってほしいと思います。

その他・自由記述欄

教授要目

クリティカルシンキング

科目英名	Critical Thinking
担当者	李　洪千　〈hongchun☆tcu.ac.jp　☆を@にしてタイトルを[クリティカル・シンキング]にして送ってください。〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

本授業は、クリティカル・シンキングに関する重要なスキルを練習する。本コースは、最新の争点を理解するためのクリティカル・シンキングのスキルを応用することに重点を置き、ディベートとディスカッションを重視する。授業を通じて、争点に対する意見を見分ける能力を身につける、議論における論理的証拠を見つける能力を身につける。

The purpose of this course is to practice some of important skills of critical thinking, and focus on applying those strategies to understanding current issues. The class will focus on discussion and debate. This course trying to make distinguish between strong arguments and weak ones, and detect whether someone's claim needs more evidence to back it up.

達成目標

1）論理的思考のやり方について学ぶ。
2）社会的争点について、論点整理、根拠、問題点などを説明できるようになる。
3）社会的問題の前提条件を把握し、争点と現実との因果関係について説明できるようになる。
4）社会的問題についての論理的な視点を他人の前で発表できるようになる。

成績評価

グループの議論・発表（30%）、授業後のグループ・ワーク（１０%）、課題レポート(60%).
レポートは2回から3回出される。

予習復習時間

各回において2時間の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

積極的に議論に参加すること。授業後のグループ・ワークの参加も求められる（評価に反映する）。

授業計画

第　1回　ガイダンス：(授業の説明、グループ分け)
第　2回　クリティカル・シンキングの概要
第　3回　クリティカル・シンキングと前提条件
第　4回　主張、争点、議論
第　5回　因果関係
第　6回　問題の発見
第　7回　ファクトチェック（Fact check）
第　8回　与えられたテーマの調査発表
第　9回　賛否の立場の発表
第１０回　賛否のディベート
第１１回　総合練習①　テーマの論点の整理と発表
第１２回　総合練習②　テーマの賛否の発表
第１３回　総合練習③　グループ間のディベート（前半）
第１４回　総合練習④　グループ間のディベート（後半）

オフィスアワー

火曜日の15:10-16:50。その他、研究室在室時は随時対応します。アポイントを取りたい場合はhongchun@tcu.ac.jpに連絡して下さい。

授業形態

講義・演習

授業の具体的な進め方

グループワークが基本である。毎回授業計画によるクリティカル・シンキングのやり方を練習するとともに、時事問題や社会的争点を取り上げて学んだ内容を練習して、整理、発表を行います。毎回他のグループの発表について相互評価をおこなう。

関連科目

デザイン・シンキングと併存して履修を薦める。

授業に持参するもの

ノートと4色のペン

教科書

指定しない

参考書

改訂3版 グロービスMBAクリティカル・シンキング　グロービス経営大学院　ダイヤモンド社　2012　4478020582
クリティカルシンキング（入門篇）　E.B.ゼックミスタ　他　北大路書房　1996　476282061X
哲学思考トレーニング　　2005　4480062459

学生へのメッセージ

論理的に考えることは、すぐ役立つことではありませんが。情報化時代を生き残るためには欠かせないスキールです。情報は誰でも入手できますが、情報の意味や本質を見抜く判断力は検索では得られないからです。クリティカル・シンキングのスキルを身につけて、情報化社会を賢く生きていきましょう。

その他・自由記述欄

応用統計

科目英名	Inferential Statistics
担当者	玉利　祐樹　〈ytamari@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

本講義では、初等統計学のうちの推測統計学について解説を行う。本講義は、社会メディア学科カリキュラムポリシー4項の『社会学・心理学・認知科学等における基礎的スキルと方法論』の科目である。
The purpose of this class is to study various ways of inferential methods and statistical testing. You will get the basic statistical skills and knowledges for your future researches.

達成目標

確率分布を理解するとともに、統計量と検定の考え方・計算法・使い方、区間推定の実施方法を身につける。またｔ検定、カイ二乗検定、分散分析についての概略を知る。

成績評価

小テスト・レポート：30% 最終試験：70%

予習復習時間

毎回4時間程度の予復習を前提とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

記述統計学の知識を必要とする。

授業計画

第　1回　導入：授業の進め方などについてのガイダンスを行う。
第　2回　記述統計の復習（母集団と標本、標本抽出、ヒストグラム、平均と分散・標準偏差、標準化などについて）
第　3回　確率変数、確率分布の復習。確率分布とは何か、幾何分布、二項分布について
第　4回　正規分布、標準正規分布表の読み方
第　5回　正規分布の性質、用い方
第　6回　点推定と区間推定の方法
第　7回　仮説検定理論の基本的な考え方、用語について。特に、帰無仮説の立て方について
第　8回　大標本での母集団の平均値との差の検定について学ぶ
第　9回　片側検定、両側検定、仮説検定に伴う第1種の過誤、第2種の過誤について学び、ここまでの復習を行う。
第１０回　比率の差の検定、区間推定、仮説検定の演習
第１１回　小標本での検定方法であるｔ検定の考え方、ソフトウェアでの実施方法
第１２回　カイ二乗検定（独立性の検定など）の考え方、ソフトウェアでの実施方法
第１３回　分散分析の基本的な考え方
第１４回　散布図、共分散、相関係数、相関係数の検定について、その考え方

オフィスアワー

メールなどでアポイントの上、講義の前後に対応する。

授業形態

講義、及び演習

授業の具体的な進め方

基本的な知識に関して講義を行い、その上で実際に手を動かして知識の確認を行って貰う。授業中は、学生間のディスカッションの時間なども多く設ける。また、授業時に、レポートや予告なし試験なども行う予定である。

関連科目

本講義は、『統計学基礎』の内容をさらに発展させた講義であり、また『データ分析法』の内容の基礎となる講義である。

授業に持参するもの

初回授業時に指定する。

教科書

読む統計学 使う統計学　広田すみれ　慶応義塾大学出版　2013　4766420365

参考書

心理統計学の基礎―統合的理解のために　南風原 朝和　有斐閣　2002　4641121605
続・心理統計学の基礎--統合的理解を広げ深める　南風原 朝和　有斐閣　2014　4641220417

学生へのメッセージ

データから価値のある意味を読み取る、将来を予測する，何かの振る舞いをモデル化するといった時、統計学の知識は必須になります。コンピュータが低価格化し、 また高機能なオープンソースの統計ソフトが開発されたことで、かつて専門的な環境が必要だった統計分析を、知識さえあれば誰でも行えるようになりました。こうした状況下において、自分自身でデータに向き合う必要に迫られた時に、指針となる様な基礎的な力を身につけて貰いたいと思っています。

その他・自由記述欄

教授要目

基礎プログラミング演習	
科目英名	Fundamental Programming
担当者	秋山　優　◇
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

Web アプリケーションの開発を通して，プログラミングにおける基礎的な概念を解説する．具体的には，言語は JavaScript を用い，HTML，CSS や Web API などを複合的に組み合わせてひとつのアプリケーションを開発する方法について解説する．毎回の授業では，プログラムの基本的なアルゴリズムを解説した後で，演習課題の提出を求める．学期末には，最終課題として制作した Web アプリケーションの提出を求める．

なお，本講義は，社会メディア学科カリキュラムポリシー4 項にある「社会メディアに関連する情報表現・デザイン」に類する科目となる．

This course is intended for students to aquire programming skills through integrating several computer languages and designing a simple application. Students study design proccess of Web application and algorithm, design interface and programming an application.

達成目標

・ 順次実行，条件分岐，繰り返し等のプログラミングの基礎概念を理解する
・ 仕様記述の方法，設計法の基礎を習得し，新しいソフトウェアの具体像をデザインできるようになる
・ ライブラリや Web API 等，既存のリソースを自らの開発作業に活用するための基礎技術を習得する

成績評価

出席率と授業内に出題/実施する演習課題の提出（60%）
学期末の課題提出（40%）

予習復習時間

4 時間（授業内に終了しなかった演習課題や学期末の課題制作等）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

履修の前提科目として「情報リテラシー演習」を想定している．履修にあたって「情報リテラシー演習」で学習した内容を完全に理解していることが求められる．

授業計画

第　１回　JavaScript 入門
講義の目標とスケジュール，JavaScript の概要を解説し，開発環境をはじめとした授業内演習を実施するための準備作業を行う．

第　２回　プログラミングの手順とデバッグ
プログラムの開発手順の概要を解説し，JavaScript の基本的な文法の習得訓練を兼ね，デバッガの利用方法を習得する．

第　３回　コンピュータに情報を記憶させる：変数
変数，データ型，式の概念を解説し，変数を用いて演算を行うプログラムを作成する．

第　４回　ユーザとのインタラクション：関数とイベントモデル
関数の概念と定義方法を解説し,ボタンクリックやマウス操作のイベントに反応するプログラムを作成する．

第　５回　プログラムに知性を：条件分岐
条件分岐の概念，比較演算子・論理演算子の記述方法を解説し，条件分岐を活用したプログラムを作成する．

第　６回　コンピュータの得意な仕事「繰り返し」
繰り返しの概念，while 文や for 文などの繰り返し文の記述方法を解説し，繰り返しを活用したプログラムを作成する．

第　７回　オブジェクトと配列
オブジェクトと配列の概念，オブジェクトの生成と参照方法，配列の操作とアルゴリズムを解説し，オブジェクトや配列にデータを保存し，操作するプログラムを作成する．

第　８回　プログラムによる画面の制御１
Document Object Model（DOM）の概念，DOM を用いた HTML の操作方法について解説し，複雑な画面表示の制御を行うプログラムを作成する．

第　９回　プログラムによる画面の制御２
Canvas 要素を使った図形描画，座標系について解説し，入れ子の繰り返し構造を使った図形描画のプログラムを作成する．

第１０回　ライブラリの活用
YUI Library，jQuery，jQuery Mobile などを解説し，外部ライブラリの利用方法の基礎を習得する．

第１１回　Web API の活用
JSON 形式などで提供されている Web API を使ったデータ取得方法を解説し，利用方法の基礎を習得する．

第１２回　設計とアルゴリズムの記述
画面遷移図を用いた Web アプリケーションの設計,アルゴリズムの設計と記述方法について解説し，最終課題として作成する Web アプリケーションの設計を行う．

第１３回　ファイル分割による開発の効率化
最終課題として作成する Web アプリケーションを題材に，HTML，CSS，JavaScript を分割して，開発作業の役割分担を行い，開発効率を高める方法を習得する．

第１４回　最終課題のデモンストレーションと相互評価
履修者が最終課題として作成した Web アプリケーションのデモを行い,デザインやユーザビリティに関する相互評価を行う．

オフィスアワー

授業時間外は電子メール等で随時質問に応じる．

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

概念を解説する講義とプログラムを制作する実習を組み合わせて実施する.講義と演習の配分は各回で異なる．毎週課題を出題する予定なので，必ず毎回授業に出席し，授業時間外の予習復習時間を授業時間内に完了しなかった課題等に充てることが求められる．

関連科目

履修前の前提科目とて「情報リテラシー演習」を想定している．履修後には，この科目で学習したことを更に発展させた「ウェブデザイン演習」という科目が用意されている．

授業に持参するもの

無し（授業資料は Web 上で公開予定）

教科書

参考書

学生へのメッセージ

無し

その他・自由記述欄

無し

教授要目

コンピュータシステム

科目英名	Computer Systems
担当者	岩野　公司　〈iwano@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要

情報処理に必要不可欠な「コンピュータシステム」について、その発展の歴史、種類、用途やその動作原理などについて講義を行う。コンピュータ内部での文字表現や数の表現、演算の手法、基本構成要素となる論理回路について学び、その上で中央処理装置の機能や制御、メモリやハードディスクなどの記憶装置の原理の習得を目指す。最後にプログラミング言語などのソフトウェアに関する理解を深めることで､ハードウェアとソフトウェアの両面の知識を体系的に学習することを目的とする。

This lecture is intended to provide fundamentals of computer systems. Topics will cover both hardware and software aspects of computer systems, namely data representation, arithmetic operations, logic circuits, CPU, memory devices, programming languages, and so on.

達成目標

① コンピュータの発展の歴史、種類、用途やその動作原理などの理解

② コンピュータの基本構成要素となる論理回路、中央処理装置、記憶装置などの原理や機能の理解

③ コンピュータ内部でのデータ表現と処理技法の理解

成績評価

期末試験（１００％）によって科目の理解度・目標達成度を測り、評価を行う。

予習復習時間

１時限分の授業に対して４時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「情報通信技術入門」や「情報基礎学」で２進数の概念や論理演算の基礎を学んでいることを前提とする。

授業計画

第　１回　コンピュータの概要、発展の歴史
第　２回　コンピュータの性能評価、情報量
第　３回　文字の表現とコード
第　４回　コンピュータの仕組みとその構成
第　５回　進数表現と進数変換
第　６回　数の表現と演算手法
第　７回　論理と論理回路
第　８回　組合せ回路
第　９回　順序回路
第１０回　中央処理装置（ＣＰＵ）の構成要素
第１１回　中央処理装置（ＣＰＵ）の機能と制御
第１２回　半導体記憶装置
第１３回　補助記憶装置
第１４回　プログラミング言語

オフィスアワー

月曜 13:20-15:00、木曜 13:20-16:50。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

スライドを利用し、教科書に沿った内容の講義・解説を進める。授業ノートとして穴埋め形式のプリントを毎回配布する。授業時には、その穴埋めを行うことでノートを完成させる。毎回の講義終了時に確認のための小テストを行い、その解答は次回授業時の冒頭で解説する。ただし、この小テストは成績評価の対象とはならない。

関連科目

本科目は同時期に開講の「アルゴリズム論」、２年後期開講の「オペレーティングシステム」、各プログラミング演習との関連が深い。

授業に持参するもの

教科書、筆記用具。前回講義までの配布プリントも持参しておくことが望ましい。

教科書

コンピュータシステム　志村正道　コロナ社　2005　978-4339024111

参考書

コンピュータはなぜ動くのか　矢沢久雄　日経ＢＰ社　2003　978-4822281656
情報工学　都倉信樹　放送大学教育振興会　1999　978-4595547577

学生へのメッセージ

原理を理解し、システム全体の働きについて理解を深めていく能力を身につけること。

その他・自由記述欄

コンピュータグラフィックス

科目英名	Computer Graphics
担当者	宮地　英生　〈miyachi@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要

コンピュータ上での画像表示の基本原理および２次元・３次元画像の作成技術を学び，自己表現の一手段として活用するための基礎理解を進める.ディジタル画像の基礎知識にはじまり，モデリングのための幾何学の基礎知識，モデリングからレンダリング、画像ができるまでの一連の流れを理解する。また、陰面消去技術として代表的なＺバッファ法や，透明性・反射を考慮できるレイトレーシング法等の理解，さらにはアニメーション用表示技術の基本やディジタル画像処理技術の基礎など,ディジタル画像表現の基本技法を理解する．This course is intended for students to understand basic concept and methods of creating three dimensional graphics using computer such as modeling, rendering, shading including scan line method, ray tracing, and animation techniques. Basis of digital image representation and image processing methods is also lectured.

達成目標

ディジタル画像の原理,コンピュータ上での物体表現方法(モデリング)から画像生成(レンダリング)，アニメーションの原理等のＣＧ基本技術の概要を理解する

成績評価

期末試験 70%，ほぼ毎回だされる課題レポート 30%

予習復習時間

予め Web にアップされた資料および参考書などをもとに予習するとともに,授業後だされる課題を中心に理解を深め，十分理解できなかったことはレポートのときに質問する、または、オフィスアワー等を活用して解決すること

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

三角関数，２次関数，図形、座標系等の高校数学の基本的な知識および，ビット・バイト等ディジタル情報の単位について理解しておくこと

授業計画

第　１回　コンピュータグラフィックスとは（概要）
第　２回　CG の歴史
第　３回　ＣＧの仕組み概要　（ディジタル画像）
第　４回　ＣＧの仕組み概要（3 次元 CG 処理の流れ）
第　５回　３次元幾何モデル
第　６回　図形の描画と図形変換
第　７回　レンダリング(1)：投影変換、ラスタライズと隠面消去
第　８回　レンダリング(2)：3 次元空間と投影変換
第　９回　レンダリング(3)：シェーディングモデル
第１０回　レンダリング(4)：マッピング法と高度なレンダリング
第１１回　アニメーション
第１２回　シミュレーションとビジュアライゼーション
第１３回　立体視と仮想現実感（ＶＲ）
第１４回　復習講義

オフィスアワー

月曜日　13:00-16:00　火曜日　13:00-14:45

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

パワーポイント資料に基づき講義します．基本的に毎回レポート課題をだし，メール等で提出してもらいます．

関連科目

３年後期可視化技法

授業に持参するもの

Ｗｅｂにあげた講義ＰＤＦのコピー

教科書

参考書

ビジュアル情報処理-CG・画像処理入門　ＣＧ－ＡＲＴＳ協会　ＣＧ－ＡＲＴＳ協会
978-4-903474-02-1
CG とビジュアルコンピューティング入門　伊藤　貴之　サイエンス社
978-4781911410
コンピュータグラフィックス第２版　4-903474-00-7

学生へのメッセージ

自分で考える習慣を身につけましょう。
遅刻せず毎回きちんとレポートを出すこと．私語厳禁

その他・自由記述欄

【授業のキーワード】コンピュータグラフィックス、画像表現、モデリング、レンダリング、レイトレーシング、ディジタル画像処理、バーチャルリアリティ

教授要目

都市・コミュニティ論	
科目英名	Urban and Community Studies
担当者	渕元　初姫　〈hatsukif@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

都市は雇用機会が比較的豊富で、文化・娯楽施設へのアクセスや交通の利便性に恵まれています。こうした側面は人々を惹きつけますが、一方で、都市では、地域コミュニティにおける人と人とのつながりが希薄になりがちです。

この講義では、具体的なケーススタディを交えて、都市およびコミュニティについて理解するための基本的な概念や理論を紹介します。また合わせて、オンライン・コミュニティに代表されるような、伝統的なコミュニティ概念を変えるような新しいコミュニティのあり方や、メディアや社会関係を含むハイブリッドな都市論についての導入までを論じます。

Urban areas play a major role not only as providers of employment but also as centre of culture and entertainment. Convenient and reliable public transportation networks make a significant contribution to our economic and industrial activities. These positive aspects of urban life, on the one hand, fascinate people. On the other hand, civic engagement in local community has declined.

This lecture introduces key ideas and theoretical knowledge to understand Urban and Community Studies, and explains how cities and communities develop and change over time with case studies. The goal of the lecture is to provide ideas of modern community such as online community, in contrast with traditional community, and the lecture explores hybrid experience in urban spaces.

達成目標

(1) 都市及びコミュニティに関する基本的な概念・理論を理解する。
(2) 都市の成り立ちと地域コミュニティの変容について理解する。
(3) 日本における伝統的なコミュニティの諸相を理解する。
(4) 都市におけるコミュニティの再生と、新しいコミュニティのあり方を理解する。

成績評価

授業内リアクション・ペーパー（30%）及び期末試験（70%）により評価します。

予習復習時間

1 回の授業に対して 4 時間の自学自習が必要です。授業の前までに、WebClass を通じて配布する資料を各自でダウンロードし、プリントアウトしておいてください。授業の後は、復習としてその内容について振り返り、知識の定着をはかるとともに、自らの興味や関心と関連付けて考えてみることも大切です。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「社会学入門」を履修済みであること。また、都市とコミュニティについて関心をもっていることが必要です。

授業計画

第　１回　オリエンテーション：「都市」と「コミュニティ」とは
第　２回　福祉国家の形成とコミュニティの変容：工業化と都市化
第　３回　都市の成り立ちとコミュニティ：郊外化・再都市化
第　４回　市民生活と地方自治体の役割
第　５回　日本における地方自治の歴史①明治期から戦後まで
第　６回　日本における地方自治の歴史②大都市東京の自治史
第　７回　都市と政治権力
第　８回　コミュニティと社会的ネットワーク
第　９回　コミュニティの自治①自治会・町内会
第１０回　コミュニティの自治②都市内分権の仕組み
第１１回　コミュニティの自治③都市内分権の事例
第１２回　都市における「社会的排除」
第１３回　都市におけるコミュニティの再生
第１４回　まとめ

オフィスアワー

授業時間の前後に対応します。

授業形態

配布資料に基づく講義を行います。

授業の具体的な進め方

教員による講義のほか、各回のテーマによっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、授業内容について学生の理解を確認するため、授業内リアクション・ペーパーの記入と提出を求めます。これは不定期に合計 3 回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。

関連科目

「社会学（１）（２）」「社会学入門」「社会学概論」「街づくり論」「社会ネットワーク論」「持続可能社会とコミュニティ」

授業に持参するもの

WebClass を通じて配布する資料をプリントアウトして持参してください。

教科書

参考書

コミュニティの自治:自治体内分権と協働の国際比較　名和田是彦編　日本評論社　2009　978-4535585348
コミュニティを問いなおす：つながり・都市・日本社会の未来　広井良典　ちくま新書　2009　978-4480065018
都市の社会学：社会がかたちをあらわすとき　　2000　978-4641121034

学生へのメッセージ

日常的に、新聞やインターネットなどの各種メディアを通じて、都市やコミュニティ生活に関連すると思われる話題に関心をもつようにしてください。

授業中は、重要であると思う点についてノートをとり、不明な点があれば、教員に質問したり、出席者同士で問いかけあうことも必要です。

その他・自由記述欄

授業計画は、学生の興味・関心や理解の度合いなどに応じて、適宜変更することがあります。

教授要目

デザインシンキング

科目英名	Design Thinking
担当者	小池　星多　〈koike@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

現代の問題解決の手法のひとつであるデザインシンキングを、情報デザインの思想と歴史の学習と具体的なワークショップを通して身につける。

This course is intended for students to aquire skills of design thinking through the study of ideas and history of information design and workshop.

達成目標

幅広い分野のデザインの知識、デザインシンキングのプロセスを学ぶ。

成績評価

ワークショップ活動 50%、作品提出 30%、レポート提出 20%

予習復習時間

３時間程度授業外で行うことを期待する。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

基礎的なパソコンの操作知識。グループワークのためのコミュニケーション能力。

授業計画

第　１回　オリエンテーション　　情報デザイン概論
第　２回　デザイン史概論
第　３回　情報の可視化、インフォグラフィックスデザイン概論
第　４回　情報機器のインタフェースデザイン概論
第　５回　まちづくりのデザイン概論
第　６回　ソーシャルロボティクス概論
第　７回　デザインシンキング、発想法のデザイン概論
第　８回　既存製品の調査を行う（グループ）
第　９回　ユーザーの活動の調査を行う（グループ）
第１０回　コンセプトデザイン作業（グループ）
第１１回　コンセプトデザインのプレゼンテーション（グループ）、　製品のスケッチ（グループ）
第１２回　プロトタイプング　試作品の製作（グループ）
第１３回　プレゼンテーション準備　（グループ）
第１４回　最終プレゼンテーション（グループ）

オフィスアワー

水曜日　12:30-13:00

授業形態

講義、グループワーク

授業の具体的な進め方

講義とワークショップ

関連科目

授業に持参するもの

教科書

参考書

学生へのメッセージ

課題制作、発表準備など授業時間外に作業することが多いです。デザインに高い関心のある学生を望みます。

その他・自由記述欄

非常に忙しい授業です。

自己理解とカウンセリング

科目英名	Self-Understanding and Counseling
担当者	矢吹　理恵　〈yabuki@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

ロールプレイ等の体験学習やケーススタディを通じてカウンセリングの基礎的な技能にふれること、そして様々なエクササイズを通じて自己理解と他者理解を促進することを目指す。

This class covers counseling theory and technique. The class makes use of readings from the text book, as well as experimental workshops.

達成目標

この授業の達成目標は、自己と自分のコミュニケーションのあり方を受講者自身で模索し、発見することである。その上で、他者とのコミュニケーションに有用なカウンセリング技法を体験する。

The objective of this course is to familiarize students with a selected set of analytical perspectives on how to think about the meaning of selves, i.e. the question

成績評価

毎週のレポート７０％、エクササイズ・ワークショップへの取り組み度　３０％

予習復習時間

授業後ただちにレポートを作成する必要がある。所要時間は 1 時間～2 時間。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

講義に加え、体験学習型ワークショップが入るため、各エクササイズへの積極的な参加とそれについてのレポート提出が求められる。他者とのコミュニケーション・ディスカッションができる学生のみ履修すること。毎週、レポートを課す。

授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　カウンセリングとは
第　３回　ロジャーズのカウンセリング理論と技法
第　４回　聴く①　ラポールのとりかた　傾聴
第　５回　聴く②　カウンセリングの疑似体験
第　６回　自己理解のためのエクササイズ①　自分を知ること、他者を知ること
第　７回　自己理解のためのエクササイズ②　自分の価値観・心の枠組みを探る
第　８回　自己理解のためのエクササイズ③　人生における人とのかかわり
第　９回　自己理解のためのエクササイズ④　投映法・描画法にる自己理解
第１０回　コミュニケーション実習①　言語的コミュニケーション
第１１回　コミュニケーション実習②　非言語的コミュニケーション
第１２回　コンセンサスのためのエクササイズ
第１３回　異文化間コミュニケーション①　理論編
第１４回　異文化間コミュニケーション②　実践編

オフィスアワー

火曜～木曜　　昼休み

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

課題を個人で行った後、グループ内でディスカッションを行い、発表し、全体討議を行う。

関連科目

「心理学入門」を事前に履修していることが望ましい

授業に持参するもの

体験型学習に必要な文房具を前週に指示するので、持参すること。

教科書

参考書

学生へのメッセージ

講義の他に参加型のワークショップを行います。

自己のいろいろな側面を見たいという真剣な意志がある学生のみが参加すること。内職は禁止。毎回レポートを課すので、その日のうちに作成すること。

その他・自由記述欄

メディア情報学部
社会メディア学科

専門科目

TAP 対応科目

教授要目

メディアと表現

科目英名	Media Expression
担当者	清水　由美子　〈shimizu@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期後半

科目概要

思想内容の媒体である声や文字が、各メディアの持つ特性によってどのように規定されてきたのか、また画像や映像といったイメージ情報の出現が私たちの認識にどのような影響を及ぼしたのかを歴史的にたどり、それぞれのメディアと表現との関わりを考察する。

In this class, we shall consider each of the media of sound and characters are prescribed by the characteristics of each media, and what affects the appearance of image information such as pictures and video have had on our recognition.

達成目標

＊各メディアの特徴がそのコンテンツをどのように規定しているのかを知る。
＊メディアの発展と人との関係を歴史的に認識できる。

成績評価

中間テスト（40%）、授業内考察（60%）により総合的に評価する。

予習復習時間

１回の授業につき４時間の自学自習が必要。授業で使用するパワーポイントファイルをアップしておくので、予習復習に利用すること。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　オリエンテーション・声という媒体
第　２回　文字の発明
第　３回　絵・写真・映画その１　～絵と写真を中心に～
第　４回　絵・写真・映画その２　～映画を中心に～
第　５回　電信・電話・ラジオ
第　６回　新聞
第　７回　テレビ
第　８回　中間テスト
第　９回　テレビゲーム
第１０回　インターネット
第１１回　携帯電話
第１２回　携帯電話からスマートフォンへ
第１３回　デジタル教科書
第１４回　書くという行為の変遷がもたらしたもの

オフィスアワー

火曜 10 時 50 分から 13 時まで

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

授業で使用するパワーポイントファイルを授業前にアップしておくので、プリントアウトして持参すること。

教科書

参考書

声の文化と文字の文化　W-J. オング　藤原書店　1991　978-4938661366
パンドラのメディア テレビは時代をどう変えたのか　稲増龍夫　筑摩書房　2003　978-4480863461
ウェブ進化論　　2006　978-4480062857
Twitter 社会論　津田大介　洋泉社　2009　978-4862484826
メディアの予言者　マクルーハン再発見　服部桂　廣済堂　2001　978-4331850022

学生へのメッセージ

昨年度から１週間に２回の授業が行われています。今までよりいっそう集中した検討が期待されます。授業中の考察課題、あるいは教員からの質問などにより、できるだけ問題意識を持った受講ができるよう心掛けています。積極的な参加を望みます。

その他・自由記述欄

メディア文化論

科目英名	Media and Culture
担当者	岡部　大介　〈okabe@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	2 年前期前半

科目概要

本講義では，メディア文化の社会学的，心理学的観点について論説することを趣旨とする．具体的には，科目担当者の主導で，2000 年代の「オタク文化」に至るまでの日本のサブカルチャーの文化史をたどるために，映像資料と人文社会科学系の研究者による学術書を精読していく．
この授業では，「予習」を重視する．受講生には，毎週，事前にひとつの論考を読んでくることを求める．授業時は課題の論考の概要を確認し，論考の内容を受けた議論，および内容理解を問う授業内課題を行う（授業内課題を実施する回は授業中に指示をするので注意すること）．著書の内容理解など，個人でできることは授業に臨む前に行い，授業では対面式であることを活かしたデザインにしたい．
サブカルチャー史の理解を通して，メディア文化に関する人文社会科学的な研究の知見の理解を促すとともに，「論」にするための目的の立て方，調査手法，分析手法，考察の仕方などについて解説する．
This Class is designed to help students develop critical reading about media culture. During the semester we will work on the articles of media studies in sociology, discussing and writing resumes and an essay.

達成目標

以下にまとめられる．
[1] メディア文化に関する社会学的，心理学的な観点や論点の一部を理解できるようになること．
[2] 学術的な論考をもとに，その議論を少し拡張することができるようになること．
[3] 学術文献をもとに，自分で論考し，文章化できるようになること．

成績評価

以下の点から，成績を評価する．
・内容の理解を問う授業内課題．（100%）なお，授業内課題は合計 8 回実施する．授業内課題を行う前の週の授業内にアナウンスするので，注意すること．

予習復習時間

1 コマにつき，事前の精読と復習に合計 4 時間かかると考える．（学則第 18 条に基づく．）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

メディア文化，サブカルチャーに関する人文社会科学的な論考に興味があること．

授業計画

第　１回　ガイダンス：授業内容の説明，成績評価方法の説明，次回からとりあげる文献の紹介．
第　２回　『ニッポン戦後サブカルチャー史』サブカルチャーとは，1950 年代のサブカルチャー
第　３回　『ニッポン戦後サブカルチャー史』1960 年代から 1970 年代のサブカルチャー，都市と文化（新宿）
第　４回　『ニッポン戦後サブカルチャー史』1980 年代のサブカルチャー，都市と文化（原宿，渋谷），広告都市
第　５回　『ニッポン戦後サブカルチャー史』1990 年代のサブカルチャー，サブカルチャーから「サブカル」へ
第　６回　『ニッポン戦後サブカルチャー史』2000 年代のサブカルチャー，オタク文化
第　７回　『オタク的想像力のリミット』　なぜ鉄道オタクなのか――「想像力」の社会史，授業内課題（1）
第　８回　『オタク的想像力のリミット』　動物化するポストモダン――オタクから見た日本社会，授業内課題（2）
第　９回　『オタク的想像力のリミット』　噛う日本の「ナショナリズム」，授業内課題（3）
第１０回　『オタク的想像力のリミット』　趣都の誕生 萌える都市アキハバラ，授業内課題（4）
第１１回　『オタク的想像力のリミット』　製作者 vs 消費者のあくなきせめぎ合い――ファンサブ文化にみる「ハイブリッドモデル」，授業内課題（5）
第１２回　『オタク的想像力のリミット』　「少女文化」の中の腐女子，授業内課題（6）
第１３回　『オタク的想像力のリミット』　コスプレイヤーの学び――文化的実践としてのコスプレはいかに達成されるか，授業内課題（7）
第１４回　『オタク的想像力のリミット』　アニメミュージックビデオを創作するピア・コミュニティ，授業内課題（8）

オフィスアワー

水曜日 12:30 から 13:00，事前にメールで連絡のこと．

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

本講義を 2 年前期に受講し，その後，2 年後期に開講される「社会ネットワーク論」を受講することで，人々の今日的なつながりに対する社会文化論的視点を網羅的に理解することができる．

授業に持参するもの

教科書と筆記用具

教科書

オタク的想像力のリミット　宮台真司監修，辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編著　筑摩書房　2014　978-4480867247

参考書

ニッポン戦後サブカルチャー史　宮沢章夫　2014　NHK 出版　978-4140816509

メディア情報学部
情報システム学科

専門基礎科目

教授要目

環境マネジメントシステム

科目英名	Environmental Management System
担当者	水上　浩　〈minakami@jaco.co.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

この講義は、地球環境問題への理解を深めるために、生産活動と環境負荷の相関関係や、環境管理の重要性の基礎的な知識を習得することを目的とする。/The objective of the lecture is to learn correlation between production activities and the environmental impact, and the basic knowledge of the importance of environmental management, for a better understanding of global environmental issues.

達成目標

地球環境の保全と継続的改善のため、’９６年に国際的環境規格であるＩＳＯ１４００１メネジメントシステム（経営的管理手法）が発効した。本講義は、学生諸子が循環型社会システムへの移行を含め、経営的管理手法とともに、国際的環境動向、環境法規制、環境パフォーマンス評価、ライフサイクル・アセスメント等の環境技術について理解するとともに、本学のＩＳＯ１４００１の環境マネジメントシステム（ＩＳＯ認証）について、ＩＳＯの規格改訂（２０１５版）の内容を踏まえて、自らの言葉で説明できるようになることを達成目標とする。

成績評価

レポート・試験（６０％）、発表（４０％）を中心に評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して、２時間以上の自学自習が必要となる。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

環境、特に地球温暖化に関する情報は絶えず変化している。新聞やインターネットなどを通じて最新情報に触れるように留意すること。

授業計画

第　１回　地球の限界：ＥＭＳと地球環境問題
第　２回　ＥＭＳとは何か：ＩＳＯ１４００１シリーズ発行の経緯
第　３回　大学とＥＭＳ：東京都市大学横浜キャンパスとＩＳＯ１４００１
第　４回　ＩＳＯ１４００１のしくみ
第　５回　環境側面：日常生活が環境に及ぼす影響
第　６回　ＥＭＳと要求事項：環境と法
第　７回　環境マネジメントシステム：環境方針
第　８回　環境マネジメントシステム：環境重要項目と必要な取り組みの決定
第　９回　環境マネジメントシステム：環境改善目標の設定
第１０回　東京都市大学横浜キャンパスのＥＭＳ運営上の課題（グループ課題）の報告
第１１回　ＥＭＳと環境監査
第１２回　見直し（試験）
第１３回　学生用環境マニュアルの作成①（方針と改善活動項目）
第１４回　学生用環境マニュアルの作成②（まとめ）

オフィスアワー

授業時間終了後に質問を受け付ける。

授業形態

講義および教室外での調査活動

授業の具体的な進め方

講義および例題の演習および発表。演習は教室外での調査活動を含む

関連科目

「環境監査」(3 年生　学科専門科目（選択))

授業に持参するもの

配布資料。必要に応じて発表や演習に使用するパソコン。

教科書

講義中配布資料
必要に応じて指示

参考書

『ＪＩＳ規格（１４００１)』　　日本規格協会

学生へのメッセージ

本学はＩＳＯ１４００１の認証を日本の大学で最初に取得した大学であり、学生諸君はその構成員として位置づけられている。横浜キャンパスにおいて、環境改善のために学生が果たすべき役割について学び、環境改善活動を実践すること。

その他・自由記述欄

統計学基礎

科目英名	Descriptive Statistics
担当者	山崎　瑞紀　〈mizuki@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

主にデータの集約的な記述や２変数間の関係を分析する方法を習得する。
This course includes the methods for collecting data, graphical and numerical descriptive statistics, and correlation and simple linear regression.

達成目標

①与えられたグラフや表を適切に読み取ることができるようになる
②得られたデータを整理、図示し、要約や分析を行うことができるようになる
これらを通して、官庁統計や調査報告書、論文などを適切に読み解き、自ら簡単な調査報告を作成できる技術の獲得を目指す。

成績評価

出席状況・課題提出（50%）、学期末試験（50%）により評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

予備知識は特に必要としない。

授業計画

第　１回　統計学とは何か：統計学の意義、歴史を解説するとともに、本講義の達成目標について述べる
第　２回　母集団と標本：母集団と標本の違いや標本抽出の方法を学び、データの取得や整理について学習する
第　３回　データの種類、図表の作成：データ（尺度）の種類、及び、それらを適切に表現する方法を学ぶ
第　４回　表やグラフの読み方：表やグラフの読み方、注意点を解説する
第　５回　表やグラフの作り方：表やグラフの作成方法を学ぶ
第　６回　度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの見方、作成方法を学ぶ
第　７回　代表値：平均値、中央値、最頻値などのさまざまな代表値とそれらの性質を学び、データの集約について理解する
第　８回　散布度：標準偏差、分散、四分位偏差などのさまざまな散布度とそれらの性質について理解し、その算出方法を習得する
第　９回　散布図と相関係数：２変数間の関係を調べるために、散布図とピアソンの積率相関係数を用いることを学ぶ
第１０回　相関と因果の違い：みかけの相関などを説明し、相関関係と因果関係は異なることについて学ぶ
第１１回　クロス集計と順位相関係数:カテゴリカルなデータにおける２変数間の関係を調べるため、クロス集計の読み方や作成方法、及び、順位相関係数の算出方法を学ぶ
第１２回　回帰直線１：２変数の直線的関係を記述する回帰直線の求め方、及びデータに対する回帰直線の当てはまりのよさを評価する決定係数について学ぶ
第１３回　回帰直線２：残差分析について学ぶ
第１４回　本講義で学んだ知識に基づいて官庁統計や調査報告の読み方を解説する

オフィスアワー

金曜４限

授業形態

パワーポイントと配布資料に基づく講義

授業の具体的な進め方

毎回、講義時に課題を出し、講義終了時に提出。Excel を用いる課題も宿題として計３回程度出す。

関連科目

発展として、応用統計、社会調査を履修すると学びが深まる。

授業に持参するもの

関数電卓、定規、教科書

教科書

読む統計学・使う統計学　第２版　広田すみれ　慶応義塾大学出版会　2013
978-4766420364

参考書

授業時に適宜紹介する。

学生へのメッセージ

情報化社会のなかで、データを読み解き、表現するスキルはますます重要となってきている。課題に積極的に取り組み、より高いスキルを身につけてほしい。

その他・自由記述欄

教授要目

ミクロ経済学

科目英名	Microeconomics
担当者	宮武　宏輔　<>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

経済活動は社会の問題を解決する有力な手段の１つである。企業の活動は、他の企業や労働者、消費者だけでなく、環境などを含めた社会全体に様々な影響を与えている。例えば、企業の競争が技術革新を促し、それが社会的に有益な財を生み、社会全体の発展に繋がっていることも多い。一方で財の生産のために、環境に負荷を与える可能性もある。このように、社会を変える原動力の１つに企業活動がある。これを理念として、本講義では具体的な企業活動を例に挙げながら授業を進めてる。

達成目標

企業活動や市場のメカニズムを理論的に分析する授業である。したがって、経済学の基礎的な知識を身につけて、その知識をベースに企業活動が社会に与える影響、日本経済と世界経済の動きとの関係性つい基本的な説明ができるようになることを最終目標とする。

成績評価

宿題 20%、期末試験 80%

予習復習時間

予習として、新聞や経済誌（日経ビジネスなど）を読み、企業の活動や日本経済の動きに詳しくなっておくこと。復習は授業の際に配ったレジュメを読み返して専門用語を覚えること。またレジュメには簡単な練習問題を載せるので、それを解くこと。尚、１回の授業につき少なくとも４時間程度は予習・復習に充てることが望ましい。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特にないが、新聞や経済誌などで企業の活動や日本経済の動きについて、ある程度の情報を持っておくことが望ましい。また、簡単な微分を使うので、基礎的な数学的知識も復習しておくことを推奨する。

授業計画

第　１回　ガイダンス、経済学の概要（経済学とはどのような学問か？経済学的な思考、需要曲線・
供給曲線とは？）
第　２回　消費者理論（効用の概念、限界概念、無差別曲線）
第　３回　消費者理論（予算制約、効用最大化）
第　４回　消費者理論（需要曲線、上級財・下級財、奢侈品、必需品、ギッフェン財）
第　５回　消費者理論（需要の価格弾力性）
第　６回　生産者理論（企業活動と利潤最大化）
第　７回　生産者理論（費用曲線の考え方、平均費用・平均可変費用、規模の経済、供給曲線の導出）
第　８回　市場理論（完全競争の市場均衡、価格メカニズム）
第　９回　市場理論（余剰分析）
第１０回　市場理論（独占市場の考え方）
第１１回　市場理論（複占市場、寡占市場、独占的競争市場など）
第１２回　市場理論（価格戦略、マーケティング理論など）
第１３回　市場の失敗（市場の失敗のメカニズムと政府の政策）
第１４回　総復習（試験対策）

オフィスアワー

授業の後に質問に来て下さい。またはメールで問い合わせてください。詳細は第１回授業で説明します。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

テキストは特に指定しない。毎回、レジュメを配って、それをもとに授業を行う。そのレジュメに授業中の内容（板書）などを書き込んでおくこと。そのレジュメは復習や試験で使用することになる。

関連科目

「経済学（１）（２）」(１年)、「マネジメント入門」（１年）等とあわせて履修することで、より理解が深まることが期待される。また、本講義の知識を下地にして、「日本経済論」（３年）でより具体的な経済の動向や政策について学習することが望ましい。

授業に持参するもの

筆記用具

教科書

参考書

『ミクロ経済学（第２版）』　伊藤元重　日本評論社　2003　4535552614
『公共経済学入門』　上村敏之　新世社　2011　4883841553
『産業組織の経済学[第２版]』　2013　4535556679
『マンキュー経済学Ｉ　ミクロ編[第３版]』　N・G・マンキュー、足立英之ほか訳　東洋経済新報社　2013　4492314377

学生へのメッセージ

物やサービスの価格や流通量がどのように決まるのか、あるいはなぜ価格が下落する商品や価格が上昇する商品があるのかなど、日常の経済の動きに興味のある方はぜひ履修してみてください。

その他・自由記述欄

授業では具体例を多く出して、できるだけ理解しやすいように心掛ける予定ですが、理論の学習になるので、難解な部分もあります。したがって、じっくりと考え、しっかり勉強する必要があります。

情報発信入門

科目英名	Guidance to research information & representation
担当者	小俣　一平、清水　由美子、矢吹　理恵、木村誠聡、各教員 <小俣（ippei0202@icloud.com),清水（shimizu@tcu.ac.jp）,矢吹（yabuki@tcu.ac.jp）,木村（kimura@ic.kanagawa-it.ac.jp）>
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

情報発信は、大学４年間を通して極めて基本的なテーマであるばかりか、社会に出てからも、避けて通れない業務となる。自分の考えをどう発信していくのか。私の授業では、まず自分の考えをまとめ、プレゼンテーションしていく方法を身につけていく。その上で、考え方をどう文章や映像で表現していくのか。そのための書き方、取材の仕方、インタビュー、アンケートのとり方、さらにビデオ撮影の方法等の基本を学んだうえで、活字、映像で見せるところまでのＡ to Ｚを学ぶ。伝えることの難しさ、そして愉しさを体感すること目標にする。

We learn various methods of research and representation concerning contemporary phenomena. Students are required not only to discover/observe/gather information related to a certain theme, but accomplish written matter/picture/photograph/digital image/oral presentation and so on, through practical lesson. At the end of the course, you will find yourself acquainted with basic skills how to research information and with which to produce works persuasive to audience.

達成目標

多様なメディアを通じての情報収集の技法を学び、そこで得た情報を加工し、発信していく過程を身につける。

成績評価

グループワーク 30%、中間発表 30%、最終発表と制作過程の記録提出 40%

予習復習時間

次回授業のための事前のフィールドワークの準備が必要。時間は１コマにつき４時間程度の予習復習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

知的好奇心。自分で考える習慣を身につける。チーム作業のため協調性が必要。

授業計画

第　１回　まず情報を収集することから始める。収集した情報の分析、発信するうえでの技法までを俯瞰して解説する。チームを編成し、リーダー等を決定。
第　２回　情報収集の技法。学問的なライブラリーや図書館の利用方法。学術 DB(CiNii)の利用方法を学びながら、チームごとにテーマを決めていく。
第　３回　オンラインの利用法を把握したうえで、チームでの自由闊達な論議の上で、テーマを確定させる。各チームのテーマ発表と設定理由をプレゼンテーション。
第　４回　フィールドワーク及びインタビュー（聞き取り）についての方法論。これに即したフィールドワークの計画・立案。
第　５回　フィールドワークの実施①　現地調査の要諦、注意事項を説明したうえで、現地に向かう。報告は次週の授業の際に行う。その際、個別に質問を行うので、何を聞かれてもいいように調査事項をメモ、把握しておくこと。
第　６回　フィールドワークの実施②　①の報告後、何が足りないのか各グループで討議する。
第　７回　①②のフィールドワークと検討結果を踏まえて、情報の整理と今後の課題をグループ討議し、第１回目の中間報告を行う。
第　８回　前回の反省に則って、再度フィールドワーク実施。その結果から不足情報を、これまでに学んだ学術的方法やオンラインを駆使して補てんする。
第　９回　テーマに沿って得た情報をどう加工するのか。グループで討議し、プレゼンテーションの方法を決定する。そのうえで、中間報告に向けての準備に入る。
第１０回　表現方法を駆使した第２回目の中間発表。(A 班～C 班)
第１１回　表現方法を駆使した第２回目の中間発表。(D 班～F 班)
第１２回　情報発信に向けての最終調整とグループ討議。グループでのプレゼンに向けての各自の役割分担を確定し、一覧表にして提出。
第１３回　グループごとのテーマによる情報発信。(A 班～C 班)
第１４回　グループごとのテーマによる情報発信。(D 班～F 班)

オフィスアワー

小俣は、水曜日を除く講義以外の時間ならいつでも開放している。事前に 045-910-2550 か 090-6160-3538 に電話してくるか、あるいは　ippei0202@icloud.com　にメールで予約してくれるとなお良い。その際、都市大生であることを明記してください。気楽にどうぞ。
清水は、火曜２時限と昼休み。
矢吹は、月曜日から木曜日。メールでアポを取ってください。

授業形態

グループ別に分かれて、各自のテーマごとにフィールドワークや調査を行い、発表していく形式

授業の具体的な進め方

グループ別にテーマを設定し、グループワークを進め、発表していく。

関連科目

本講義で習得した方法論は、「社会文化フィールドワーク」において、さＲに専門的に活用することとなる。

授業に持参するもの

毎回配布する資料。

学生へのメッセージ

参考書等は、授業の中で紹介する。

その他・自由記述欄

教授要目

情報環境論

科目英名	Information Environment
担当者	関　博紀　<hseki@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期後半

科目概要

情報と環境は，現代社会を理解する上で欠かせない概念です。また近年では，これら 2 つが分ちがたく結びついている場面にも多く出くわします。この講義では，情報，環境，そしてそれらが融合した情報環境の各諸相を,実際の生活場面にみられる具体的な事例とともに考えます。その際，人類学や社会学，心理学，建築学，工学などの領域で蓄積されてきた，従来の情報理論や環境論への理解を深め，これからの情報環境に見合った新たな情報環境論の可能性を探ります。

In this lecture, the outline of information environment will be introduced. That is based on the fields such as the anthropology, psychology, architecture, and ecology.

達成目標

（1）日常の至るところに情報環境があることを理解している。

（2）情報環境を，情報と環境，さらに両者の関係から説明することができる。

（3）情報環境の具体例を挙げ，そこにみられる問題点を指摘し，かつその改善方法を示すことができる（できることを理解している)。

成績評価

講義期間中に行う小課題(論述形式･30%)と学期末に課す最終課題(レポート形式･70%)を総合し，60 点以上の者に合格を与える。

進捗に応じて変更の可能性があるが,その際は事前に周知し,不便のないように配慮する。

予習復習時間

【予習】ガイダンスで触れた内容について，参考書などを通して理解を深める。必要がある場合は，改めて指示をする。

【復習】講義で触れた内容について，参考書などを通じて理解を深める。可能な範囲で，実体験を通じて考察を深める。

1 回の授業につき 4 時間程度の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

指定しない

授業計画

第　1回　ガイダンス（概要と進行の説明）
第　2回　日常にみられる情報環境（1）(映像作品１を参考にして)
第　3回　日常にみられる情報環境（2）(映像作品２を参考にして)
第　4回　情報環境はどのように扱えるのか？
第　5回　情報とは何か（1）(ルーツ)
第　6回　情報とは何か（2）(具体例と問題点)
第　7回　情報とは何か（3）(小まとめ)
第　8回　環境とは何か（1）(ルーツ)
第　9回　環境とは何か（2）(具体例と問題点)
第１０回　環境とは何か（3）(小まとめ)
第１１回　情報環境とは何か（1）(ルーツ)
第１２回　情報環境とは何か（2）(具体例と問題点)
第１３回　情報環境とは何か（3）(小まとめ)
第１４回　まとめと復習

オフィスアワー

水曜日午後。その他の曜日でも，事前に連絡があれば対応する。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

スライドや映画などの視覚資料を使って，講義形式で行う。資料は一部のものに限り配布する。講義中に時間を確保するので，重要な点は各自ノートに取ること。また，適宜，コメントペーパーを回収し，理解度を把握する予定である。その結果に応じて，授業計画は変更する可能性がある。

関連科目

認知科学，社会情報デザイン，社会文化フィールドワーク

授業に持参するもの

ノート

教科書

なし

参考書

日常にひそむ数理曲線 DVD-Book　佐藤雅彦＋ユーフラテス　小学館　2010 9784094803105

反哲学史　木田元　講談社学術文庫　2000　9784061594241

通信の数学的理論　　2009　9784480092229

その他，講義で告知する

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

マネジメント入門

科目英名	Introduction to Management
担当者	郭　偉宏　<kakuikou@tcu.ac.jp>
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本講義では、組織における企画・組織・指導・監督といったマネジメント機能を理解し、意思決定、コミュニケーション、戦略およびＨＲＭに関する管理科学を学ぶ。

This lecture is an introduction to principles and of management. As such, it will provide you with an overview of the many functions managers must perform. We will discover that management consists of four primary functions: planning; organizing, leading and controlling. Topics include decision making, communication, strategic management and human resource management.

達成目標

①マネジメントの概念を理解する

②マネジャーの技能を理解する

③マネジメントとマネジャーの関係を理解する

成績評価

出席とレポート

期末レポート（グループワーク）

評価方法：出席とレポート（70%)、期末レポート（30%)

予習復習時間

1 回（100）分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要（学則第 18 条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　1回　マネジメントとは
第　2回　グローバル環境におけるマネジメント
第　3回　多様性とマネジメント
第　4回　社会倫理と責任
第　5回　変化と改革
第　6回　企画（1)：意思決定と企画の基礎
第　7回　企画（2)：戦略管理、計画技術
第　8回　組織（1)：組織の設計
第　9回　組織（2)：人力資源管理とチーム管理
第１０回　指導（1)：個人行為とコミュニケーション
第１１回　指導（2)：リーダーとモチベーション
第１２回　監督（1)：監督の基礎
第１３回　監督（2)：組織実績の監督
第１４回　これからのマネジメント

オフィスアワー

授業時にアナウンスを行う

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式で解説するとともに、演習も行う。チーム課題もある。

関連科目

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

Management　Robbins & Coulter　Prentice Hall　2012　978-0-13-216384-2

参考書

ハーバード流マネジメント入門　D.クイン・ミルズ　ファーストプレス 978-4-903241-22-7　2400 円

マネジメント　ドラッガー　ダイヤモンド社　　978-4478410233　2000 円

もし高校野球の女子マネージャーがドラッガーの「マネジメント」を読んだら 978-4478012031

学生へのメッセージ

企業やマネジメント、就職活動への基礎となるので、ぜひ履修してください。

その他・自由記述欄

教授要目

コンピュータグラフィックス	
科目英名	Computer Graphics
担当者	宮地　英生　〈miyachi@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要

コンピュータ上での画像表示の基本原理および２次元・３次元画像の作成技術を学び，自己表現の一手段として活用するための基礎理解を進める.ディジタル画像の基礎知識にはじまり，モデリングのための幾何学の基礎知識，モデリングからレンダリング、画像ができるまでの一連の流れを理解する。また、陰面消去技術として代表的なＺバッファ法や，透明性・反射を考慮できるレイトレーシング法等の理解，さらにはアニメーション用表示技術の基本やディジタル画像処理技術の基礎など,ディジタル画像表現の基本技法を理解する．This course is intended for students to understand basic concept and methods of creating three dimensional graphics using computer such as modeling, rendering, shading including scan line method, ray tracing, and animation techniques. Basis of digital image representation and image processing methods is also lectured.

達成目標

ディジタル画像の原理，コンピュータ上での物体表現方法（モデリング）から画像生成（レンダリング），アニメーションの原理等のＣＧ基本技術の概要を理解する

成績評価

期末試験 70%，ほぼ毎回だされる課題レポート 30%

予習復習時間

予め Web にアップされた資料および参考書などをもとに予習するとともに,授業後だされる課題を中心に理解を深め，十分理解できなかったことはレポートのときに質問する、または、オフィスアワー等を活用して解決すること

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

三角関数，２次関数，図形、座標系等の高校数学の基本的な知識および，ビット・バイト等ディジタル情報の単位について理解しておくこと

授業計画

第　１回　コンピュータグラフィックスとは（概要）
第　２回　CG の歴史
第　３回　ＣＧの仕組み概要　（ディジタル画像）
第　４回　ＣＧの仕組み概要（3 次元 CG 処理の流れ）
第　５回　３次元幾何モデル
第　６回　図形の描画と図形変換
第　７回　レンダリング(1)：投影変換、ラスタライズと隠面消去
第　８回　レンダリング(2)：3 次元空間と投影変換
第　９回　レンダリング(3)：シェーディングモデル
第１０回　レンダリング(4)：マッピング法と高度なレンダリング
第１１回　アニメーション
第１２回　シミュレーションとビジュアライゼーション
第１３回　立体視と仮想現実感（ＶＲ）
第１４回　復習講義

オフィスアワー

月曜日　13:00-16:00　火曜日　13:00-14:45

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

パワーポイント資料に基づき講義します．基本的に毎回レポート課題をだし，メール等で提出してもらいます.

関連科目

３年後期可視化技法

授業に持参するもの

Ｗｅｂにあげた講義ＰＤＦのコピー

教科書

参考書

ビジュアル情報処理-CG・画像処理入門　ＣＧ－ＡＲＴＳ協会　ＣＧ－ＡＲＴＳ協会
978-4-903474-02-1
CG とビジュアルコンピューティング入門　伊藤　貴之　サイエンス社
978-4781911410
コンピュータグラフィックス第２版　　4-903474-00-7

学生へのメッセージ

自分で考える習慣を身につけましょう。
遅刻せず毎回きちんとレポートを出すこと．私語厳禁

その他・自由記述欄

【授業のキーワード】コンピュータグラフィックス、画像表現、モデリング、レンダリング、レイトレーシング、ディジタル画像処理、バーチャルリアリティ

メディア情報学部
情報システム学科

専門科目

学科基盤科目
学科専門科目

教授要目

数学基礎

科目英名	Basic Mathematics
担当者	鈴木　理、香川　智修　<>
単位数	単位
開講時期	1年前期

科目概要

分数関数や無理関数などの初等的関数の性質について講義を行う。さらに、微分と積分および、ベクトルと行列の概念、さらに基本的な計算方法について説明する。

達成目標

高校で学んだ数学をもとに、これから大学で学ぶ「微分積分学」「線形代数学」への準備のための科目である。初等関数の性質やそれらによって表される関数について、微分法と積分法の概念の理解と計算方法、またベクトルと行列についてもその基本的な概念と性質、計算方法を身につける。(1) 初等関数の性質を理解していること (2) 極限や微分と積分の概念を理解していること (3) 基本的な関数の微分と積分の計算ができること (4) 対数微分法や置換積分、部分積分など、工夫して微積分の計算をすることができること (5) ベクトルや行列の演算と性質を理解していること (6) 行列表現と変形を使って連立方程式が解けること

成績評価

授業中に行う小テストや課題提出などの平常点を20%、中間、期末試験の結果を80%として評価する。

予習復習時間

1回100分の授業に対して4時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

高校の数学I、数学II、数学A、数学B

授業計画

第　1回　初等関数～分数関数、無理関数
第　2回　微分と積分の考え方、簡単な関数の微分と積分
第　3回　合成関数、無理関数の微分
第　4回　置換積分法
第　5回　対数関数、指数関数、三角関数の微分と積分
第　6回　積と商の微分法
第　7回　部分積分法
第　8回　逆関数とその導関数、媒介変数で表される関数の微分と積分
第　9回　定積分の計算法
第１０回　定積分での置換積分、部分積分、極形式と面積
第１１回　行列とベクトル
第１２回　行列の加法、減法、スカラー倍
第１３回　行列の積、逆行列
第１４回　複素平面

オフィスアワー

授業終了後

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

講義形式で行い、各回の講義の後半で計算演習を行う

関連科目

微分積分学I、微分積分学II、線形代数学I、線形代数学IIの準備となる科目である。

授業に持参するもの

筆記用具、教科書

教科書

よくわかる基礎数学　藤田岳彦ほか　実教出版　2012　978-4-407-325133

参考書

微分積分 改訂版　矢野健太郎ほか　裳華房　1991　978-4785310714

学生へのメッセージ

授業で扱った内容を次回の授業までにすべて理解しておくこと。分からないことは質問すること。

その他・自由記述欄

情報基礎学

科目英名	Foundations of Computer Science
担当者	大谷　紀子　<otani@tcu.ac.jp>
単位数	2単位
開講時期	1年前期後半

科目概要

本講義は、情報システム学科における専門科目の体系的な学習に必要な基盤を構築することを目的とする。現代の情報化社会はコンピュータ情報通信などの情報システムにより支えられているが、情報システムを構築するために必要不可欠な計算機科学や離散数学の基礎事項を解説する。各項目が使用される場面を具体的に紹介して、以降の専門科目へのつながりを意識させるとともに、論理的思考力を養成する。

The purpose of this lecture is to get essential knowledge for understanding the information system and develop logical thinking skills.

達成目標

・論理的思考能力を獲得する。
・計算機科学に関する基礎知識を習得する。
・離散数学に関する基礎知識を習得する。

成績評価

レポート・演習を10%、中間試験を20%、期末試験を70%として評価する。

予習復習時間

1回(100分)の授業に対して4時間の自学自習が必要。これに加え、7回目終了後と14回目終了後に各2時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

高校の数学I、数学II、数学A、数学Bの知識があること。

授業計画

第　1回　2進数・8進数・16進数
第　2回　命題論理
第　3回　命題論理の推論
第　4回　述語論理
第　5回　述語論理の推論
第　6回　集合(1) 性質と演算
第　7回　集合(2) 証明
第　8回　写像(1) 性質と濃度
第　9回　写像(2) 特殊な写像
第１０回　関係
第１１回　グラフと木構造
第１２回　木構造の探索
第１３回　再帰的構造と再帰的定義
第１４回　帰納法による証明

オフィスアワー

木曜昼休み・木曜3限

授業形態

講義・演習

授業の具体的な進め方

各項目に関して講義形式で解説し、必要に応じて演習を行なうとともにレポートを課す。

関連科目

本科目で学んだ内容は、情報理論、コンピュータシステム、アルゴリズム論、データマイニングなどの科目で必要となる。

授業に持参するもの

筆記用具

教科書

参考書

論理と集合から始める数学の基礎　嘉田勝　日本評論社　2008　978-4-535-78472-7

学生へのメッセージ

授業で扱った内容は、次の授業までにすべて理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。

その他・自由記述欄

教授要目

プログラミング基礎１

科目英名	Foundations of Programming I
担当者	小倉　信彦　〈ogura@tcu.ac.jp(小倉)、otani@tcu.ac.jp(大谷)〉
単位数	２単位
開講時期	１年前期

科目概要

プログラミング言語であるＣ言語の基礎的な内容を講義・演習指導する。Ｃ言語は、簡潔で学習しやすい構文を持ち、また現代の実用言語の多くにその構文を受け継いでいることから、Ｃ言語の学習を通して、情報システムの実現方法を理解するための基礎的な概念を学ぶとともに様々なプログラミング言語を習得するための基礎を確立することを目的とする。変数、条件分岐、繰り返し、関数、構造体など、基本的な言語要素を演習形式により指導する。

This course introduces the basic subject of computer programming with the C language. Fundamental programming concepts will be learnt by several exercises given for each subjects, variable, type, arrays, loop, function, character data, file input/output, and data structure.

達成目標

・様々な制御構造やデータ構造を持つプログラムの動作を理解し、基本的なプログラムを作成できること。

・各種アルゴリズムや他の言語を学習するために必要な、プログラミング言語の基本要素を理解すること。

成績評価

授業内で行う演習課題(50%)、レポート（30%)、小テスト（20%）により評価を行う。(出席を前提とする)

予習復習時間

・1 回の授業に対して 4 時間程度の自学自習が必要。これに加え、7 回目および 14 回目終了後に各 2 時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

なし

授業計画

第　１回　Ｃ言語概要と開発環境の使い方
第　２回　変数と計算、入出力
第　３回　条件分岐と配列
第　４回　繰り返し
第　５回　コーディング基準
第　６回　関数
第　７回　関数プロトタイプ
第　８回　ソフトウェアテスト手法
第　９回　構造体
第１０回　分割コンパイル
第１１回　いろいろな型
第１２回　文字列とファイル
第１３回　総合的課題（１）:課題の企画、設計とモジュール分割
第１４回　総合的課題（２）:プログラムの作成、動作試験と資料作成、デプロイメント

オフィスアワー

金曜の２限と昼休み(小倉)、木曜の昼休みと３限(大谷)

授業形態

演習

授業の具体的な進め方

・演習形式で行い、原則として毎週提出課題を課す

・WEB 上の授業システムを使って、講義、演習を進める

関連科目

・事前に履修が望ましい科目：　特になし

・本科目の受講後に履修する関連授業科目：アルゴリズム論、プログラミング基礎２、プログラミング演習１Ａ

授業に持参するもの

・特になし

教科書

参考書

新・明解Ｃ言語 入門編　柴田望洋　SB クリエイティブ　2014　978-4797377026

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

プログラミングに関わる多くの講義・演習が本科目の内容の理解を前提としている。プログラミングの演習では、様々なプログラムを入力して、実行して、プログラムの振る舞いを観察することで理解が出来るので、教材に例示されたプログラムを必ず動かして理解し、演習課題に取り組むこと。

プログラミング基礎２

科目英名	Foundations of Programming II
担当者	横井　利彰　〈yokoi@tcu.ac.jp〉
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要

Ｃ言語の基礎の理解を踏まえた上で、プログラミング言語 Java の利活用の方法について紹介する。まず、基本の制御構造である順次・反復・条件分岐に関する Java 言語での記述方法について解説し、さらに配列操作、グラフィクス描画の基礎、イベント処理、ファイル入出力の方法、クラスライブラリの利用方法を解説し、オブジェクト指向プログラミングの基礎力が身につくように指導する。その上で、学生のプロジェクト作品の制作を支援しながら、学生自らが構想したプログラム表現の実現までを指導する。

This course focuses on introducing the language, libraries and concepts of Java. The course is specifically targeted at students who learned the fundamentals of C language. Topics include: Object-oriented programming, primitives, arrays, objects, inheritance, interfaces, threads, polymorphism and collections.

達成目標

・Java 言語の基礎を他の人に説明できるようになる。

・自分の構想した動作を、基本動作の組み合わせで表現できるようになる。

・作成したプログラムの構造・動作を的確に説明できるようになる。

・対話的な画面を GUI によって実現できるようになる。

成績評価

全授業への出席を前提とし、遅刻は 0.5 回の出席として扱う。また、最終プロジェクト作品の発表は成績評価に必須で、これらを前提とする。

その上で、小テストを 25%、レポートを 45%、プロジェクト作品を 30%として評価する。

なお、14 回の授業のうち 5 回以上の欠席がある場合には原則として評価対象としない。ただし、疾病等特別な事情がある場合には、そのことを証明できる書類を持参した際に配慮する場合がある。

予習復習時間

1 回(100 分)の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。これに加え、7 回目終了後と 14 回目終了後に各 2 時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

プログラミング基礎１を修得済みであるか、あるいは同程度の基本知識を有すること。

授業計画

第　１回　Java 言語とＣ言語の特質比較、レポート課題１
第　２回　数値変換と演算、レポート課題２
第　３回　演算とグラフィクス描画、レポート課題３
第　４回　制御文（for 文、while 文、do-while 文)、小テスト、レポート課題４
第　５回　制御文（条件式と if 文)、レポート課題５
第　６回　for 文、if 文の応用、レポート課題６
第　７回　配列の基礎と応用、小テスト２、レポート課題７
第　８回　ファイル操作の基礎、クラスの基礎、レポート課題８
第　９回　ファイル操作の応用、レポート課題９
第１０回　イベント処理（１）:マウス操作、レポート課題１０
第１１回　イベント処理（２）:音の再生、画像の描画、レポート課題１１
第１２回　作品構想発表会
第１３回　プロジェクト推進と Q&A
第１４回　最終作品発表会

オフィスアワー

火曜日と金曜日の昼休み、その他を希望する場合には yokoi@tcu.ac.jp に連絡を下さい。

授業形態

講義＋実習＋発表会

授業の具体的な進め方

コンピュータ室を用い、基本的に講義を受けながら実習を行い、授業 web 頁で配布される独自授業教材を用いて、毎週のレポート課題を遂行する。学習状況を確認するための小テストを２回実施するほか、最終プロジェクト課題の遂行を通じて実践力と表現力を養う。

関連科目

プログラミングの基礎力に関連する科目として、Ｃ言語に関するプログラミング基礎がある。また、本科目受講後の科目として、Java プログラミングの中級科目としてプログラミング演習１Ｂが、同様に応用力育成の科目としてプログラミング演習２Ｂがあり、、Web プログラミングの科目としてプログラミング演習３、高度のソフトウェアに関する科目として、コンピュータシミュレーションがある。

授業に持参するもの

教科書

やさしい Java 第 5 版　高橋麻奈　ソフトバンククリエイティブ　2013　978-4-7973-7476-6

独自教材（授業支援システム資料、サンプルプログラムなど）

参考書

学生へのメッセージ

プログラム作成には忍耐が必要なので、少しずつ確実に学びアイデアを実現する喜びを味わってほしいです。また、本科目独自の教材を通じて、他にない充実した学習を行ってほしいです。

その他・自由記述欄

教授要目

微分積分学Ⅰ

科目英名	Calculus Ⅰ
担当者	堀口　正之　〈〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

関数の極限と連続の概念を理解し、基本的な関数の微分をもとにして、合成関数や逆関数の微分、さらに高次導関数によって導かれる諸定理や応用について講義する。
また、定積分の基本的概念を理解し、部分積分法や置換積分法の基本的計算法や、いろいろなタイプの被積分関数の計算方法を扱い、広義積分や、定積分の応用として面積、体積の計算方法について扱う。
I give series of lectures about basic properties of functions related to differential and integral calculus. The topics in this class are as follows: limit of functions, differentiation with respect to composite and inverse functions, higher-order derivatives, indefinite and definite integrals, partial and substitution integrals, improper integrals and their applications.

達成目標

情報を学ぶ上で微分積分学の理解が欠かせない。ここでは、1変数の微分法と積分法について学び、基本的な概念の理解と計算法の習熟を目標とする。
(1)極限や微分、積分の基本的な概念が理解できること
(2)いろいろな関数の微分と積分の計算ができること
(3)高次導関数の計算ができること
(4)曲線の概形を知ることができること
(5)部分積分や置換積分が使えること
(6)広義積分の計算ができること
(7)面積や体積、曲線の長さが計算できること

成績評価

授業中に行う小テストや課題提出などの平常点を2割、中間・期末試験の結果を8割として、総合的に評価する

予習復習時間

1回の授業に対して4時間の自学自習が必要。これに加え、7回目終了後と14回目終了後に各2時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

数学基礎で扱われた内容の知識があること

授業計画

第　1回　数列の収束
第　2回　初等関数、逆関数
第　3回　関数の極限と連続
第　4回　微分可能性、導関数の定義、接線の方程式
第　5回　高次導関数、ライプニッツの公式
第　6回　平均値の定理
第　7回　テーラーの定理
第　8回　不定形の極限（ロピタルの定理）
第　9回　微分法の応用（局所的性質、曲線の概形）
第１０回　面積、定積分、不定積分
第１１回　積分の計算法（１）部分積分法と置換積分法
第１２回　積分の計算法（２）有理関数、三角関数、無理関数の積分
第１３回　広義積分
第１４回　積分の応用（面積、体積、曲線の長さ）

オフィスアワー

授業終了後に質問を受け付ける

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

講義形式で解説し、各回の授業の後半では計算演習も行なう

関連科目

関連科目は、基礎数学、微分積分学II、線形代数I、IIです。本講義を受講する前には、2次関数、三角関数、指数・対数関数、数列などの関数の理解と、極限、微分と積分の基礎的な内容を理解していることが望ましい。そのため、本講義受講前に数学基礎を履修していることが望ましい。本講義履修後には、微分積分についてさらに理解を含めるために微分積分学IIを履修することが望ましい。また、微分積分のなかでも利用されることの多い線形代数学について、本講義履修と並行あるいは履修後に、線形代数I、線形代数IIを履修することで微分積分

授業に持参するもの

教科書および参考資料

教科書

微分積分学　長ほか著　東京教学社　2012　9784808210304

参考書

微分積分演習(東京都市大学数学シリーズ)　　学術図書出版

学生へのメッセージ

授業で扱った内容は、次の授業までに理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。

その他・自由記述欄

線形代数学Ⅰ

科目英名	Linear Algebra Ⅰ
担当者	安田　正實　〈授業内で説明〉
単位数	2単位
開講時期	1年後期

科目概要

ベクトル、行列の概念から派生するベクトル空間に習熟し、その関連する計算とさまざまな理論展開を行います。本講義はベクトル空間における基本的な概念、基本項目を学習することから、数理的な応用が生かされる有用性を学びます。
The aim is to learn the fundamental notion for the vector space and to apply the matrix theory on the various related theory. These topics are useful not only the mathematical field also other scientific development of subjects.

達成目標

ベクトル、行列について概念とその演算を理解する。行列の基本変形から、連立方程式の解法、行列の階数、逆行列、行列式が計算できること。

成績評価

講義中の中間試験30%、期末試験50%、演習、レポートでの評価20%

予習復習時間

１回の授業に対して4時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

実数における四則演算、数列、多項式、三角関数の定義とそれらの計算。簡単な微分積分の知識。

授業計画

第　１回　平面ベクトルや空間ベクトル、一般のベクトル空間の例
第　２回　ベクトルの演算、内積(スカラー積)、外積（ベクトル積）
第　３回　平面空間や空間における直線と平面の方程式
第　４回　行列の定義と演算
第　５回　行列の基本変形、展開
第　６回　連立方程式の解法（掃き出し法）
第　７回　中間まとめ
第　８回　行列式の定義と性質
第　９回　行列の階数
第１０回　一般的な線形連立方程式の解
第１１回　逆行列、行列式の計算
第１２回　クラーメルの公式
第１３回　行列の余因子展開
第１４回　ベクトル、行列の応用とまとめ

オフィスアワー

授業時間終了後に質問を受け付けます。また電子メールで質問も受け付けます。

授業形態

講義形式

授業の具体的な進め方

講義および演習を行う。単元ごとにレポート課題を課します。

関連科目

線形代数学(2)、微分積分学

授業に持参するもの

教科書・演習書および参考資料、ＷＥＢ資料

教科書

参考書

東京都市大学数学シリーズ、線形代数演習　古田公司ほか　学術図書
978-4-7806-0082-7

学生へのメッセージ

参考書は授業内で説明します。また学習のための補習資料をＷＥＢに掲示します。
予習や復習は積極的におこない、もし分からなければ質問するように。

その他・自由記述欄

教授要目

テクノロジーエクスプローラ

科目英名	Technology Explore
担当者	藤井　哲郎　〈fujii@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期前半

科目概要

ICT 技術の進歩とその社会への浸透が経済活動に多大な影響を与え、日常生活を大きく変えようとしている。本講義では、ICT 技術革新とそれが社会に与えたインパクトを分析・検証し、技術者として社会に対する責任の自覚を促す。

The purpose of this course is to introduce the concept of Faculty of Informatics, Dept. of Information Systems. The relationship between Information system and real society are focused.

達成目標

建学の精神や学部学科の理念から始まり、各研究室で行っている研究内容と授業科目との関連について理解することにより、情報科学の体系について学ぶ。各自が今後の大学生活における目標と、そのための学習計画を建てる能力を修得する。

成績評価

授業への 100%出席を前提とする。毎回行う課題を基に評価し、60 点以上をもって合格とする。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習が必要（学則第１８条に基づく）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　１回　第 1 回: 建学の精神と情報システム学科の理念
第　２回　第 2 回: コンピュータ時代の到来と社会
第　３回　第 3 回: コンピューターのパーソナル化
第　４回　第 4 回: ソフトウェアについて
第　５回　第 5 回: ソフトウェア工学について
第　６回　第 6 回: インターネット 1:　インターネット萌芽期からの変遷
第　７回　第 7 回:インターネット 2:　インターネットの発展とメディア
第　８回　第 8 回: 電子図書館について
第　９回　第 9 回: 映像メディアの登場
第１０回　第 10 回: メディアのデジタル化
第１１回　第 11 回: コンピュータグラフィックス
第１２回　第 12 回: 情報通信の歩み
第１３回　第 13 回: 携帯メディア
第１４回　第 14 回: AI と IoT

オフィスアワー

木曜日 12 時 30 分から 13 時 30 分まで

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

大学・学部・学科の理念や、情報システム学科で学ぶ授業科目と最先端技術との関係を学ぶ講義を行う。

関連科目

情報基礎学、情報通信技術入門

授業に持参するもの

筆記用具、ノート

教科書

参考書

学生へのメッセージ

幅広い知識を体得できるため、積極的な態度で講義に臨んで欲しい。

その他・自由記述欄

コンピュータシステム

科目英名	Computer Systems
担当者	岩野　公司　〈iwano@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

情報処理に必要不可欠な「コンピュータシステム」について、その発展の歴史、種類、用途やその動作原理などについて講義を行う。コンピュータ内部での文字表現や数の表現、演算の手法、基本構成要素となる論理回路について学び、その上で中央処理装置の機能や制御、メモリやハードディスクなどの記憶装置の原理の習得を目指す。最後にプログラミング言語などのソフトウェアに関する理解を深めることで、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識を体系的に学習することを目的とする。

This lecture is intended to provide fundamentals of computer systems. Topics will cover both hardware and software aspects of computer systems, namely data representation, arithmetic operations, logic circuits, CPU, memory devices, programming languages, and so on.

達成目標

① コンピュータの発展の歴史、種類、用途やその動作原理などの理解
② コンピュータの基本構成要素となる論理回路、中央処理装置、記憶装置などの原理や機能の理解
③ コンピュータ内部でのデータ表現と処理技法の理解

成績評価

期末試験（１００％）によって科目の理解度・目標達成度を測り、評価を行う。

予習復習時間

１時限分の授業に対して４時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

「情報通信技術入門」や「情報基礎学」で２進数の概念や論理演算の基礎を学んでいることを前提とする。

授業計画

第　１回　コンピュータの概要、発展の歴史
第　２回　コンピュータの性能評価、情報量
第　３回　文字の表現とコード
第　４回　コンピュータの仕組みとその構成
第　５回　進数表現と進数変換
第　６回　数の表現と演算手法
第　７回　論理と論理回路
第　８回　組合せ回路
第　９回　順序回路
第１０回　中央処理装置（ＣＰＵ）の構成要素
第１１回　中央処理装置（ＣＰＵ）の機能と制御
第１２回　半導体記憶装置
第１３回　補助記憶装置
第１４回　プログラミング言語

オフィスアワー

月曜 13:20-15:00、木曜 13:20-16:50。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

スライドを利用し、教科書に沿った内容の講義・解説を進める。授業ノートとして穴埋め形式のプリントを毎回配布する。授業時には、その穴埋めを行うことでノートを完成させる。毎回の講義終了時に確認のための小テストを行い、その解答は次回授業時の冒頭で解説する。ただし、この小テストは成績評価の対象とはならない。

関連科目

本科目は同時期に開講の「アルゴリズム論」、２年後期開講の「オペレーティングシステム」、各プログラミング演習との関連が深い。

授業に持参するもの

教科書、筆記用具。前回講義までの配布プリントも持参しておくことが望ましい。

教科書

コンピュータシステム　志村正道　コロナ社　2005　978-4339024111

参考書

コンピュータはなぜ動くのか　矢沢久雄　日経ＢＰ社　2003　978-4822281656
情報工学　都倉信樹　放送大学教育振興会　1999　978-4595547577

学生へのメッセージ

原理を理解し、システム全体の働きについて理解を深めていく能力を身につけること。

その他・自由記述欄

教授要目

アルゴリズム論

科目英名	Theory of Algorithms
担当者	大谷　紀子　〈otani@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

プログラミングの基礎となるデータ構造とアルゴリズムの基本を解説するとともに、探索や整列の代表的なアルゴリズムを紹介する。各アルゴリズムは、フローチャートと C 言語により書かれたプログラムの両者で示すことで、プログラミング科目との連携を図る。また，アルゴリズムの実現方法の違いによる得失をさまざまな観点から考えさせることで、目的に応じたアルゴリズムを客観的かつ明確に記述するための論理的思考力を養う。

You will understand basic algorithms on computer programming, develop skills for thinking out procedures, and know how to draw flowcharts.

達成目標

・各データ構造の特徴を把握し、使用場面に応じてデータ構造を適切に選択できるようになる。
・フローチャートの記述方法を習得する。
・目的を達成するためのアルゴリズムを考案できるようになる。
・物事を緻密かつ論理的に思考する能力を獲得する。

成績評価

レポート・演習を 10%、中間試験を 20%、期末試験を 70%として評価する。

予習復習時間

1 回(100 分)の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。これに加え、7 回目終了後と 14 回目終了後に各 2 時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

プログラミング基礎 1 を受講し、C 言語の基礎を習得していること。

授業計画

第　１回　アルゴリズムとは
第　２回　データ構造
第　３回　フローチャートの記法
第　４回　サブルーチン
第　５回　再帰
第　６回　いろいろなアルゴリズム(1) 最大値と整列
第　７回　いろいろなアルゴリズム(2) 2 進数⇔10 進数変換
第　８回　いろいろなアルゴリズム(3) 素数
第　９回　いろいろなアルゴリズム(4) 最大公約数
第１０回　線形探索
第１１回　2 分探索
第１２回　バブルソート
第１３回　クイックソート
第１４回　ヒープソート

オフィスアワー

火曜昼休み・火曜 3 限・水曜 2 限・水曜昼休み

授業形態

講義・演習

授業の具体的な進め方

各項目に関して講義形式で解説し、必要に応じて演習を行なうとともにレポートを課す。

関連科目

情報基礎学とプログラミング基礎 1 で学んだ内容を受けて本科目とプログラミング基礎 2 を受講することで、プログラミング演習 1A,1B,2A,2B,3 へとつなげていくことができる。

授業に持参するもの

教科書・筆記用具

教科書

アルゴリズム入門(改訂版)　大谷紀子・志村正道　コロナ社　2013　9784339024746

参考書

学生へのメッセージ

授業で扱った内容は、次の授業までにすべて理解しておくこと。自分で考えてわからない場合は必ず質問すること。

その他・自由記述欄

コンピュータネットワーク

科目英名	Computer Networks
担当者	諏訪　敬祐　〈suwa@tcu.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

本講義は、インターネットにおける TCP/IP プロトコルの基礎知識の修得と各プロトコルがどのような機能を有しているかの理解を目的とする。また、電子メール、WWW の仕組みについて講義を行う。

This lecture leads the understanding of the TCP/IP protocols and the roles of them. Also the internet applications like as an e-mail or WWW are lectured.

達成目標

インターネットにおける TCP/IP プロトコルについて知識を修得し、電子メールなどのアプリケーションの仕組みを理解する。

成績評価

毎回授業で実施する課題（20%）、及び期末試験（80%）の合計点により評価する。

予習復習時間

各回の講義資料は授業ホームページに掲示されるので、事前に眼をとおして予習すること。1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要である。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

情報通信技術、インターネットなどのネットワーク技術の基本的な理解が必要である。

授業計画

第　１回　コンピュータネットワーク概要
第　２回　データ通信
第　３回　プロトコルと OSI 参照モデル
第　４回　インターネット基礎
第　５回　TCP/IP プロトコル
第　６回　データリンク層
第　７回　インターネット層 IP
第　８回　トランスポート層 TCP と UDP
第　９回　アプリケーションプロトコル
第１０回　電子メールと WWW
第１１回　ローカルエリアネットワークと無線 LAN
第１２回　ネットワーク構成機器
第１３回　ネットワークセキュリティ
第１４回　まとめ

オフィスアワー

金曜日 17:00 以降（事前に suwa@tcu.ac.jp へ連絡すること。）

授業形態

講義、授業課題

授業の具体的な進め方

講義資料は授業のホームページに掲示する。資料は配布するが、事前に印刷して授業に臨むこと。講義はプロジェクタを用いた講義形式である。毎回、課題を出し、解答用紙に記述して回収し、解答内容の確認を行う。

関連科目

情報通信技術入門、コンピュータシステム

授業に持参するもの

講義資料、閲覧用パソコン

教科書

参考書

はじめての情報通信技術と情報セキュリティ　諏訪敬祐、関良明　丸善出版　2015 年　978-4-621-08909-5
情報通信概論　諏訪敬祐、渥美幸雄、山田豊通　丸善　2004 年　4-621-07440-7

学生へのメッセージ

授業には毎回出席すること。試験は必須です。

その他・自由記述欄

メディア情報学部

教職課程科目

教職に関する科目

教授要目

教職論

科目英名	Teaching Profession
担当者	岩崎　敬道　〈授業で指示します。〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年後期

科目概要

教師たちは日々、どのような仕事を行い、何に悩み、何を喜びとしているのか。教師という職業に求められる専門性とは何なのか。本講義では、教職を考えるうえで核となる知識や概念をとりわけ「学校と教師の現実」に即して論じていく。ビデオ視聴やグループ・ディスカッションも積極的に取り入れる予定である。講義を通じて、みなさんが教職への理解を深め、今後どんな学習をしていけばよいかを考える手がかりを得ることを願っている。

達成目標

本授業は、教職の意義、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教職というものを多角的に見る目と深く問うていく姿勢を養うことを目標とする。

成績評価

(1)ミニレポート（40%）：毎回の授業終了時に提出　(2)レポート（60%）

予習復習時間

自分で受けてきた教育に携わっていただいた教員像とその仕事内容等について振り返ってみること。ただし，学則第 18 条にしたがい 1 時限分の授業に対して 4 時間の自学自習が必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

教員とはどういう職種なのか，なぜ自分は教員免許を取ろうとしているのか，を不十分でも自分の言葉で語れること。

授業計画

第　1回　教職課程で学ぶことの意味
第　2回　教職を考える視点
第　3回　教師の仕事の特色（1）：他の職業との違い、職務内容、服務、身分保障等
第　4回　教師の仕事の特色（2）：無境界性・複線性・不確実性
第　5回　授業とは（1）：子どもの「旬」をとらえる
第　6回　授業とは（2）：学びのデザイナーとしての教師
第　7回　授業とは（3）：テストは何のためにあるのか
第　8回　教師として生きる（1）：教育実習から新任の教員へ
第　9回　教師として生きる（2）：保護者との関係、研修
第１０回　教師として生きる（3）：同僚とともに学校をつくる
第１１回　これからの学校と教師（1）：転換期の学校
第１２回　これからの学校と教師（2）：教師教育をめぐる改革の動向
第１３回　これからの学校と教師（3）：評価される対象としての教師
第１４回　改めて教職の専門性とは（1）:「教員の地位と役割に関する勧告」を読む

オフィスアワー

講義時間前後（8：20〜8：50，12：40〜13：00 など）

授業形態

学生参加型

授業の具体的な進め方

授業ごとにその日の課題を提示し，それに対する自身の考えをまとめ，発表し，参加者どうしの意見の共有・議論等を行う形式で進める。

関連科目

「教育原論」

授業に持参するもの

教科書

参考書

文科省『学習指導要領

学生へのメッセージ

自分の言葉を持ち,積極的に発言をするとともに,他人の意見に謙虚に耳を傾けてほしい。

その他・自由記述欄

教育原論

科目英名	Principles of Education
担当者	夏秋　英房　〈natsuaki@kokugakuin.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要

教育とはいったいなんだろうか？この問いに対する答えは、公式のように出てくるものではない。この授業では、教育に関する基礎的な知識を習得するとともに、様々な問題を考えることを通して、教育に対する受講者それぞれの考えを深める糸口をつかんでもらいたい。What is education? Basic knowledge and comprehension on education and pedagogy have to be learned bu students in pre-service teacher education.

達成目標

この授業の到達目標は、教育とは何か（理念）、および教育の歴史と思想について、その基本的な点について理解することである。この到達目標は、各種のレポート作成によって確認を行う。また、毎回の授業時にミニレポートを書いてもらい、次回の授業で紹介し、コメントすることで理解を深めたい。

成績評価

授業時に提出するリアクションペーパーと討議への参加（20%）、中間レポートによる評価（20%）、期末試験による評価（60%）

予習復習時間

予習 2 時間、復習 2 時間

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特になし

授業計画

第　1回　オリエンテーション
第　2回　これまで受けてきた教育についての振り返り
第　3回　教育の原型としての育児
第　4回　教育の理念
第　5回　教育の歴史と思想
第　6回　子どもの発達はどのようにとらえられてきたか
第　7回　子どもの社会的発達について
第　8回　学校教育の成立と教育の歴史性--学校制度とその意義(1)
第　9回　近代社会における学校--学校制度とその意義(2)
第１０回　生活の学校か科学の学校か--学校教育の役割をめぐって
第１１回　授業では子どもに何を身につけさせるべきか--教師の役割
第１２回　学力と評価--その歴史と課題
第１３回　障害児教育とはなにか--人の発達と障害への支援
第１４回　道徳性の発達と教育--「人格の完成」との関わりのなかで--

オフィスアワー

授業終了後に質問を受け付ける

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

事前にテキストの指示された箇所を読んでいることを前提に授業をすすめる（予習）。基礎的事項の学修を大小のリポートで表現することを求める(復習)。講義中に討論を行い、それぞれの意見の表明と検討をする態度と方法を習得する。

関連科目

教職論、そのほか教職課程科目全体

授業に持参するもの

教科書

よくわかる教育原論　安彦・児島ほか編　ミネルヴァ書房　2012 年　978-4-623-06247-8
高等学校学習指導要領解説　情報編　文部科学省　開隆堂　平成 22 年　978-4-304-04165-5

参考書

学生へのメッセージ

教職課程を履修する者として、教育についての関心と問題意識にもとづいた知識理解を深め、自己課題を明確にしよう。

その他・自由記述欄

参考文献・資料は講義中に適宜、提示したり配付したりします。積極的な授業への参加を求めます。内容によっては視聴覚教材も使用します。

教授要目

発達心理学

科目英名	Developmental Psychology
担当者	池田　行伸　〈ikeday@kokugakuin.ac.jp〉
単位数	2 単位
開講時期	1 年前期

科目概要
生涯発達に関する代表的な理論を概説するとともに、発達心理学の教育場面への適用（学習の過程）や発達に伴う諸問題（あるいは障害）を論じる。なお本講義では、主として、胎児期から成人期までのライフステージを中心に人の一生における発達を考えていきたい。

達成目標
児童期から青年期を中心に「発達」と「学習の過程」に関する心理学的知識を習得し、教育現場で出会う様々な問題を考えるための基礎を養う。

成績評価
小レポート（２０％），期末テスト（８０％）

予習復習時間
授業前に教科書の該当箇所を読む（３０分）、授業後ノートを見直す（３０分）

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特になし

授業計画
第　１回　発達心理学とは
第　２回　発達のメカニズム
第　３回　胎児期・乳児期
第　４回　幼児期
第　５回　児童期
第　６回　青年期
第　７回　成人期・老年期
第　８回　発達障害・学習障害
第　９回　知能の発達：遺伝説・環境説・輻輳説・相互作用説―
第１０回　レディネスと教育及び学習の過程
第１１回　学習と理解：学習過程の成立
第１２回　長期にわたる学習：熟達者の特徴と日々の学習の積み重ね
第１３回　発達の過程：子どものわかり方の知見,「できること」の先行,「説明できること」をつくりだす仕組み
第１４回　概念の発達：素朴概念から科学的概念へ

オフィスアワー
メールで連絡してくれれば対応する

授業形態
講義。板書中心。トピックごとにビデオを見て知識を定着させる。

授業の具体的な進め方
板書を多く行う講義形式

関連科目
教育原理などの教職科目

授業に持参するもの
特になし

教科書
よくわかる発達心理学　無藤隆・岡本裕子・大坪治彦　編　ミネルヴァ書房　2004

参考書
よくわかる臨床発達心理学　麻生武・浜田寿美男　編　ミネルヴァ書房　2005 4623040992

学生へのメッセージ
教員免許状取得に必要な科目であり、知識である

その他・自由記述欄
全体の流れ意義など重要なことは第一回授業時に詳しく話す

教育心理学

科目英名	Educational Psychology
担当者	千田　茂博　〈ssenda(at)tcu.ac.jp〉
単位数	単位
開講時期	1 年前期

科目概要
教育心理学は、教育に関する心理学的な事実や法則を明らかにし、子どもたちの発達や学習を援助していく学問である。本講義では、知識獲得のプロセス、学習への動機づけ、パーソナリティ、不適応などについて、事例を交えて学んでいく。

達成目標
教育心理学の知識や理論と実際の教授法とを結びつけて考えることをめざす 。

成績評価
授業中の課題の全体評価（３０点）
最終レポート　（７０点）

予習復習時間
１時限分の講義に対して４時間の自学自習が必要

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
特に指定しない

授業計画
第　１回　ガイダンス
第　２回　教育とは
第　３回　心理学とは
第　４回　学習意欲の源
第　５回　プログラム学習
第　６回　仮説実験授業
第　７回　学習性無力感
第　８回　自己認知説
第　９回　アドラー心理学
第１０回　CLASS DIVIDED
第１１回　心理テスト
第１２回　エゴグラムの実際
第１３回　発達障害について
第１４回　最終レポートについての面接

オフィスアワー
木曜日、金曜日ともに１２：３０から１６：００まで、学生なんでも相談室にいます。

授業形態
講義

授業の具体的な進め方
講義中心ではあるが、実習的な課題も随時行う

関連科目
学習と動機づけ、発達と教育

授業に持参するもの
その都度指定する

教科書
なし

参考書
現代の心理学　伊藤隆一、千田茂博、渡辺昭彦　金子書房　2003 年　9784760823116

学生へのメッセージ

その他・自由記述欄

教授要目

発達と教育

科目英名	Development and Education
担当者	千田　茂博　<ssenda(at)tcu.ac.jp>
単位数	単位
開講時期	１年後期前半

科目概要
人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。
達成目標
受講者自身が自らの発達プロセスを振り返ることにより、自己理解を少しでも深められることをめざす。
成績評価
授業中の課題（10 点）、期末試験（90 点）
予習復習時間
１時限分の講義に対して４時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
単に知識としてではなく、自らの発達を振り返りながら授業を受講してほしい
授業計画
第　１回　発達と教育とは
第　２回　知能とは何か
第　３回　知能テストと創造性
第　４回　ピアジェの認知発達理論
第　５回　地球脱出
第　６回　道徳判断の発達
第　７回　フロイト、エリクソンの発達理論
第　８回　自我と社会性の発達 児童期まで
第　９回　自我と社会性の発達 青年期
第１０回　自我と社会性の発達 成人期以降
第１１回　価値観、信念の形成過程
第１２回　認知療法と論理情動療法
第１３回　来談者中心療法
第１４回　試験および解説
オフィスアワー
木曜日、金曜日ともに１２：３０から１６：００まで、学生なんでも相談室にいます。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
講義を中心として、時に実習的な課題を行う
関連科目
学習と動機づけ、教育心理学
授業に持参するもの
その都度指定する
教科書
現代の心理学　伊藤隆一、千田茂博、渡辺昭彦　金子書房　2003 年　9784760823116
参考書
授業中に随時紹介
学生へのメッセージ
その他・自由記述欄

特別活動の理論と方法

科目英名	Extra Curricular　Activities
担当者	岩本　俊一　<>
単位数	２単位
開講時期	１年後期

科目概要
学校教育における特別活動の位置を学習指導要領を手がかりに確認し、特別活動と教科および「道徳」との関係にかかわる考察を通して特別活動に関する理解を深める。以上をふまえた上で、学習指導要領を手掛かりとして特別活動の内容と方法を理解し、実践例を通して実践力の向上を図っていく。
In order to understand the school education, it is indispensable for us to enquire the concept of extra-curricular activities. After a few comments on this problem, I attempt to suggest a way to understand how the extra-curricular activities take place in school education.
達成目標
現代日本の学校教育における特別活動の位置およびその意義を理解するとともに、学校教育活動の本質からみた特別活動の意味について理解を深めることを目標とする。その上で特別活動の指導の実践力を身に着けることを目標とする。
成績評価
期末に実施される試験を中心とする。試験の採点に当たっては、講義内容が正確に理解されているか否かを重視する。

予習復習時間
予習復習時間
講義一回分ににつき、４時間の自学を必要とする。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）
教育に関して常識論にとどまらず、根源的に思索することを心がけること。
講義内で示された参考文献等に目を通すなど、復習を通じて講義内容の理解に努めること。
授業計画
第　１回　本講義のねらいと概要
第　２回　序論　日本の学校教育・子どもと青年をめぐる問題
第　３回　学校教育の構造　教科活動と教科外活動
第　４回　特別活動の目標
第　５回　戦後日本の学校における教科外活動の位置　（１）教科活動との関係
第　６回　戦後日本の学校における教科外活動の位置　（２）道徳との関係
第　７回　特別活動の領域・内容
第　８回　特別活動の内容と方法(1)　学級活動
第　９回　特別活動の内容と方法(2) 生徒会活動
第１０回　特別活動の内容と方法(3)　学校行事
第１１回　特別活動の実際　実践例に学ぶ　HR におけるいじめ問題へのとりくみ等
第１２回　特別活動の実践に向けて（１）　各自の指導案作成
第１３回　特別活動の実践に向けて（２）　作成した指導案の発表と検討
第１４回　まとめ
オフィスアワー
講義の前後に対応します。
授業形態
講義
授業の具体的な進め方
関連科目
授業に持参するもの
教科書
参考書
資料　特別活動を考える　岩本・浪本　北樹出版　2005 年
学習指導要領　文部科学省
学生へのメッセージ
将来教員たるものの自覚をもって講義に臨むこと
その他・自由記述欄

教授要目

生徒指導･進路指導の理論と方法

科目英名	Guidance and Career education
担当者	野島　一郎　〈nojima@tcu.ac.jp〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

教師の仕事において，教科指導と並んで重要なのが生徒指導・進路指導である。どちらも多くの問題が浮上し,学校教育においてこれまで以上にその指導の重要性が増している。

この講座では，生徒指導（教育相談を含む）及び進路指導の理論と方法，現状と様々な課題を学び，「学ぶこと」「生きること」「働くこと」の指導はいかにあるべきかを探求していきたい。更に,教育現場における実例をもとに,学生諸君が学校現場に出たときの具体的な指導方法についても講義を行う。

また，キャリア教育の流れを受け，高校生の進学・就職の現状を踏まえ，進路指導の理論と方法について講義を行う。

In the work of the teacher, it is student instruction, vocational counseling to be important along with subject instruction.Many problems surface both, and importance of the instruction increases in school education more than before.

In this lecture, I'll lecture by a theory of student instruction (including the education consultation) and the vocational counseling and methods, the present conditions and various problems.Furthermore, based on the example in the educational front, I'll lecture on the concrete instruction method when students you appeared in the school spot.

In addition, I receive the flow of the career education and lecture on a theory and a method of the vocational counseling based on the present conditions of entrance into a school of higher grade, finding employment of the high school student.

達成目標

(1)　生徒指導・進路指導の意義と原理、学習指導要領の内容を理解する。
(2)　生徒の心理的・身体的発達過程を踏まえ生徒理解ができる。
(3)　学校における生徒指導体制を理解し、そのチームワークに加わることができる。
(4)　教育相談について理解し、担任として必要最小限のカウンセリングができる。
(5)　生徒指導に関する法令・条例、校内規則を理解する。
(6)　キャリア教育の意義と方法を理解する。
(7)　学校現場における具体的な進路指導ができる。
(8)　生徒指導・進路指導に係る家庭・地域・関係機関との連携について理解する。

成績評価

毎回の講義において行われる演習・小テスト・課題を 30%，期末試験を 70%として評価する。

予習復習時間

１回の授業に対して４時間の自学自習が必要。これに加え、７回目終了後と１４回目終了後に各２時間の自学自習で全体の流れを理解することが必要。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

特に指定しない。

授業計画

第　１回　オリエンテーション、生徒指導の現代的課題（時事問題）
第　２回　生徒指導・進路指導の意義と原理
第　３回　教育課程と生徒指導
第　４回　青少年の発達段階と生徒指導
第　５回　生徒理解
第　６回　学校における生徒指導体制（原理、組織、計画）
第　７回　学校現場における生徒指導体制（生徒指導部、生徒懲戒基準）
第　８回　学校現場における生徒指導の実際（実例と対処）
第　９回　生徒指導上の諸問題①（非行・問題行動一般、暴力、いじめ、不登校）
第１０回　生徒指導上の諸問題②（中途退学、自殺、薬物）
第１１回　教育相談
第１２回　進路指導とキャリア教育
第１３回　進路指導体制、組織、担任の役割
第１４回　高校生を取り巻く進路状況・まとめ

オフィスアワー

授業前後、または随時電子メール等で質問を受け付けます。

授業形態

配付資料、プレゼンを使用した講義及び演習

授業の具体的な進め方

講義、演習、ディスカッション、ワークシート

関連科目

特になし

授業に持参するもの

配布したプリントのファイル、ノート

教科書

生徒指導提要　文部科学省　教育図書　平成２２年　978-4-87730-274-0
高校授業超入門　野島　一郎　学事出版　平成２４年　978-4-7619-1872-9

参考書

授業の中で紹介します

学生へのメッセージ

教員である前に一個の自立した大人であることが必要です。

その他・自由記述欄

理論だけでなく､教員採用試験合格及び現場での職務遂行までを見通した実践的な講義に努めます。

教育相談とカウンセリング(1)

科目英名	Clinical Psychology of School (1)
担当者	今野　紀子　〈〉
単位数	2単位
開講時期	1年前期

科目概要

カウンセリングの基礎理論を理解し、技法を修得することを学ぶ。教育相談の様々な事例を検討することにより生徒一人一人の状況を理解し､それに応じた援助を行う力を身につける。さらに適切な関係機関と連携して、問題の解決にあたることの必要性を理解する。
This class covers counseling theory and technique, which is required for school teachers. The class makes use of readings from the text book, as well as experimental workshops.

達成目標

教育相談では、個々の生徒の心理的課題を把握し、それに応じた対応が必要になる。この授業では、カウンセリングの基礎的な理論と技法を修得し、教職員や関係者と連携し、生徒の発達上の特性を理解し､実際の教育現場のニーズに対応した援助活動を行う力を養うことを目標とする。

成績評価

毎回の小レポート（30%）・テスト（７０%）

予習復習時間

1回の授業に対して4時間の自学自習が必要である.

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

教育現場に出て生徒と向き合う意志があるものが履修すること

授業計画

第　１回　教育相談とは　カウンセリングマインドを考える
第　２回　学校における教育相談の意義と役割
第　３回　生徒指導と教育相談
第　４回　教育相談の理論と技法
第　５回　教育相談の事例（１）：友達・対人コミュニケーションおよびいじめについて
第　６回　教育相談の事例（２）：心身の変化・思春期心性について，大人や家族との関係
第　７回　教育相談の事例（３）：進路・将来への展望について
第　８回　教育相談の事例（４）：自傷行為など
第　９回　教育相談の事例（５）：心の不調・発達障害など
第１０回　学校とカウンセリング
第１１回　カウンセリングの技法（１）：話の聴き方・カウンセリングの聴く姿勢
第１２回　カウンセリングの技法（２）：気持ちを伝える言葉
第１３回　カウンセリングの技法（３）：物語の意味
第１４回　学校カウンセリングにおける倫理

オフィスアワー

質問等は授業時，授業後に随時受け付ける.

授業形態

配布資料等に基づく講義

授業の具体的な進め方

パワーポイント等の資料により授業計画に基づき解説していく.適宜,ディスカッション,グループワーク，ロールプレイ等を通して学ぶ.

関連科目

教職課程科目

授業に持参するもの

特になし

教科書

人生にいかすカウンセリング　諸冨祥彦　編　有斐閣　2011　13- 978-4641124479

参考書

カウンセリング学習のためのグループワーク　福山清蔵　日本・精神技術研究所　1998　13-978-4931317093
教師のためのソーシャルスキル－子どもとの人間関係を深める技術－　河村茂雄　誠信書房　2002　13-978-4414202120

学生へのメッセージ

積極的な参加を期待する.

その他・自由記述欄

教授要目

教育相談とカウンセリング(2)

科目英名	Clinical Psychology of School (2)
担当者	水野　直樹　<>
単位数	単位
開講時期	1年後期

科目概要

具体的な事例を取り上げ、問題の本質や背景について検討し、教師としてどのような対応をすべきかを考えていく。マニュアル的な援助方法ではなく、その子どもの個別性を見極め、臨機応変に対応していくための基礎づくりを重視します。

達成目標

児童、生徒が出会う心理的課題の解決を援助し成長することを促進する教育相談について学ぶ。児童、生徒のニーズを把握し、ニーズに応じた援助活動を行うために必要となる視点を身につける。

成績評価

授業への参加（40点）、レポート（30点）、テスト（30点）

予習復習時間

自ら様々な課題を探してほしい。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

新しいことを学ぼうとする姿勢。様々な情報を教育や心理学に結び付けて考えることで、興味関心が増すであろう。

授業計画

第　１回　教育相談とは
第　２回　教師とカウンセラーの違い
第　３回　教育相談の事例（１）：逸脱行動・反抗期
第　４回　教育相談の事例（２）：いじめ
第　５回　教育相談の事例（３）：不登校
第　６回　教育相談の事例（４）：自傷行為
第　７回　教育相談の事例（５）：発達障害
第　８回　教育相談の心理学的な基礎（１）：受容と共感的理解
第　９回　教育相談の心理学的な基礎（２）：アセスメント・カウンセリングの技法
第１０回　教育相談の心理学的な基礎（３）：臨床の知
第１１回　学校における教育相談の意義と特質
第１２回　教育相談の校内体制（１）：家庭・地域との連携
第１３回　教育相談の校内体制（２）：養護教諭・カウンセラーとの連携
第１４回　教育相談の校内体制（３）：外部機関との連携

オフィスアワー

講義の前後

授業形態

講義・討論

授業の具体的な進め方

ときに学生同士の話し合い、および何らかのリアクションペーパーへの記述を求めます。
ときに学生同士の話し合い、および何らかのリアクションペーパーへの記述を求めます。
他学生とのコミュニケーションや話し合いをすることもあるので、積極的な参加を期待します。グループを作る際には、積極的な声掛けをしながら、コミュニケーションを図ってください。積極的参加意思が見られない場合や私語や授業の妨げになる場合、退室していただく場合もあります。

関連科目

発達心理学

授業に持参するもの

筆記具、ノート、配布された資料

教科書

参考書

学生へのメッセージ

教師は教える立場であるが、生涯にわたって学ぶ姿勢が必要となる。その点を最も重視します。
他学生とのコミュニケーションや話し合いをすることもあるので、積極的な参加を期待します。

その他・自由記述欄

道徳教育の理論と方法

科目英名	Moral Education
担当者	岩本　俊一　<>
単位数	単位
開講時期	1年後期

科目概要

道徳教育が学校において成立するというのはどのような意味かを考察し、学校における道徳教育の在り方を教科活動と道徳教育、教科外活動と道徳教育との関係を通して考察する。これをふまえて、戦後のわが国における道徳教育、特に1958年に特設された「道徳」の授業の実践例に学びつつ、実践力の向上を図る。

達成目標

現代日本の学校教育における道徳教育の位置づけとその意味を理解するとともに、学校教育における道徳教育のありかたに関する理解を深め、「道徳」の授業における実践力を涵養することを目標とする。

成績評価

期末テスト(100点)によって評価する。

予習復習時間

一講義につき２－４時間の自学自習を必要とする。

履修する上で必要な条件（前提とする知識など）

常識的な世界史、および日本史の知識が必要となる。

授業計画

第　１回　はじめに－ねらいと概要－
第　２回　現代日本の子どもと青年をめぐる問題と道徳 教育
第　３回　学校教育における道徳教育の位置
第　４回　戦前日本の学校における道徳教育
第　５回　戦後教育改革の理念と道徳教育の理念
第　６回　試案・学習指導要領における道徳教育の方法
第　７回　学習指導要領の改訂と「道徳」の特設
第　８回　特設「道徳」の内容と方法
第　９回　特設「道徳」と教科・特別活動・総合的な学習の時間との関係
第１０回　改正教育基本法と2008年改訂学習指導要領における道徳教育
第１１回　「道徳」の授業の実践に向けて（１）　実践例に学ぶ
第１２回　「道徳」の授業の実践に向けて（２）　各自の指導案の作成
第１３回　「道徳」の授業の実践に向けて（３）　作成した指導案の検討及び模擬授業
第１４回　まとめ

オフィスアワー

授業後に対応します。

授業形態

講義

授業の具体的な進め方

関連科目

授業に持参するもの

各自『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－総則編－』『中学校学習指導要領解説－道徳編－』を準備しておくこと。

教科書

参考書

［３改訂版］史料　道徳教育を考える　岩本俊一他編　北樹出版　2010　9784779302480
中学校学習指導要領
中学校学習指導要領解説－総則編－
中学校学習指導要領解説－道徳編－

学生へのメッセージ

教育に関して常識論にとどまらず、根源的に思索することを心がけること。
講義内で示された参考文献等に目を通すなど、復習を通じて講義内容の理解に努めること。

その他・自由記述欄

教育・研究施設
学生生活関連
大学院環境情報学研究科
その他

図書館・情報基盤センター

学生生活関連

大学院環境情報学研究科

環境方針

教職員名簿

校舎配置図

図 書 館

皆さんの学生生活に欠かせない施設である図書館は，世田谷・横浜・等々力の３キャンパスにあり，学部・学科を問わず共通に利用できます。学習・研究を進める上で必要となる各学部の専門図書や雑誌を始め，新書・教養文庫，視聴覚資料など多様な資料があります。また，ネットワーク上で利用できる電子ブック・電子ジャーナル・データベースなどで情報収集することもできます。さらに，パソコンやグループ学習室・ＡＶブースなどの施設・設備もありますので，大いに利用して下さい。

その他，皆さんが参加できる各種講習会や選書ツアーなど，３キャンパス合同の企画も多数開催しています。

１．図書館の利用

入退館，図書の貸出・延長，貸出用ノートパソコン・施設の利用などには学生証が必要です。忘れずに携帯して下さい。

※学生証を忘れた場合は，カウンターに申し出て下さい。

２．開館時間と休館日

○開館時間

【通常】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	９：００～２０：００	９：００～２０：００	９：００～２０：００
土	９：００～１７：００	９：００～１７：００	９：００～１７：００

【試験期】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	８：３０～２２：００	８：３０～２２：００	８：３０～２２：００
土	８：３０～２０：００	８：３０～１７：００	８：３０～１７：００

※休講時は開館時間を短縮します。

○休館日

日曜日・国民の祝日・偶数月末日・創立記念日・入学試験日

※振替授業や休講等による開館スケジュールの変更は，ホームページ，掲示板等で案内します。

３．図書館資料の利用

図書館資料には，図書・雑誌・視聴覚資料（ＤＶＤ・音楽ＣＤなど）・電子資料（電子ブック・電子ジャーナル・データベース）などがあります。

○資料の探し方

図書館所蔵資料は図書館ホームページの「学内蔵書検索（ＯＰＡＣ）」から検索できます。

資料の配置場所はフロアマップを参考にして下さい。配置場所が「閉架」・「貴重」など不明な場合は，カウンターのスタッフにお問い合わせ下さい。

○館内閲覧資料

以下の資料は，図書館内で利用して下さい。

・禁帯出ラベル・館内ラベル貼付資料
・雑誌，紀要，新聞など
・視聴覚資料（音楽ＣＤを除く）

○シラバス記載「参考書」

教授要目＜シラバス＞に「参考書」として記載されている図書を授業科目担当教員から推薦された図書として備えています。Ｗｅｂシラバスは，図書館ホームページのＯＰＡＣとリンクしており，配置場所や貸出状態が分かるようになっています。

○図書の貸出

図書の貸出条件は以下の通りです。

借りたい図書と学生証を持って，自動貸出機またはカウンターで手続きをして下さい。

利用者	冊数	期間	延長回数
学生・教職員	１５冊	１５日	３回

※冊数には音楽ＣＤおよび他キャンパスの図書を含みます。

※長期休暇期間中（夏，冬，春）は貸出期間を延長します。

○延長

貸出中の図書は，返却期限日を延長（更新）することができます。

・図書館ホームページの「利用状況照会」から手続きをするか，図書を持参して自動貸出機またはカウンターで手続きをして下さい。携帯電話のモバイルサイトからも手続きができます。

・以下の場合は延長できません。

①返却期限日を過ぎた図書がある場合

②貸出停止期間中の場合

③貸出中の図書に他の利用者の予約が入っている場合

④更新回数の上限（３回）を超えた場合

○返却

・借りた図書は，返却期限日までに返却して下さい。世田谷・横浜・等々力どのキャンパスでも返却できます。

・返却期限日を過ぎると，遅れた日数分貸出停止となります。

・閉館時は返却ポストを利用して下さい。

・図書を紛失・汚損・破損した場合は直ちにカウンターにお知らせ下さい。（原則弁償となります。）

○予約（取り寄せ）

利用したい図書が「貸出中」の場合は予約をすることができます。また，他キャンパスの図書は取り寄せることができます。

・図書館ホームページの学内蔵書検索（ＯＰＡＣ）で図書を検索し，予約をして下さい。

・予約した図書が貸出できる状態になると，ＴＣＵメールアドレス宛てに連絡します。

・以下の場合は予約できません。

①返却期限日を過ぎた図書がある場合

②貸出停止期間中の場合

４．図書館サービスの利用

○レファレンスサービス

図書館スタッフが学習・研究に必要な資料の提供や情報検索のサポートを行います。カウンターにて気軽に相談して下さい。

○情報検索サービス

図書館ホームページから，資料の所蔵情報，電子ジャーナル，データベースの検索ができます。

○図書購入リクエスト

図書館に所蔵していない資料は，図書館ホームページの「図書購入リクエスト」から申込みをすることができます。購入の可否は図書館ホームページの「利用状況照会」から確認できます。

○他大学所蔵資料の利用（図書の取寄せ，文献複写依頼など）
他大学で所蔵している図書,雑誌の記事・論文などは，図書館を通して取り寄せることができます。
また，直接訪問して利用することもできます。利用を希望する場合は，カウンターへお問い合わせ下さい。

○メールによるお知らせ
図書館からの連絡（予約図書，希望図書，未返却図書の督促など）を，ＴＣＵメールアドレス宛てにお知らせします。

５．施設の利用

世田谷キャンパス図書館

○ラーニング・コモンズ／ Ｂ１階
少人数やグループのディスカッションなどに利用できる学習空間です。
○メディア学習室（４０席） ／ Ｂ１階
グループ用の学習室です。遠隔講義をはじめ，ネットワークやプロジェクターが利用できます。
○プレゼンテーション室１（１６席）・プレゼンテーション室２（１２席） ／ Ｂ１階
グループ用の学習室です。ネットワークやプロジェクターが利用できます。
○ＴＯＳＨＯＫＡＮ　Ｇａｌｌｅｒｙ ／ １階
１階のフロアを展示スペースとして，課外活動や研究活動の紹介・発表などに利用できます。
○個人閲覧室（各５室） ／ ２・３階
個人用の学習室です。パソコンをネットワークに接続できます。ドア付き（３階／要予約）・ドアなし（２階）の２タイプあります。

横浜キャンパス図書館

○ＡＶブース（１９席・３人用ブース…３台，１人用ブース…１０台）／ １階
館内の視聴覚資料（ＤＶＤ・Ｂｌｕ－ｒａｙ・ＣＤなど）が利用できます。
○グループスタディルーム（２４席） ／ １階
グループ用の学習スペースです。分割して２グループで使用可能。パソコン・大型ディスプレイを使用して，プレゼンテーションの練習などもできます。

等々力キャンパス図書館

○グループスタディルーム３室（１２席・８席・６席）／１階
グループ用の学習室です。ゼミ，その他数人のグループで図書館資料を活用しながら，自由に学習・研究活動が行えます。
○アクティブラーニングフィールド／２階
スピードラーニング（ＣＤ）やＳｋｙｐｅを利用した英会話レッスン（英会話サプリ）用パソコンに加え，ＴＯＥＩＣ対策・多読資料なども配置したグローバルイングリッシュルームと，コミュニケーション能力やプレゼン能力を培うためのプレゼンテーションエリアがあります。
○視聴覚コーナー／１階
図書館所蔵の視聴覚資料（ＤＶＤ・ビデオなど）が利用できます。

６．設備機器の利用

世田谷キャンパス図書館

○各種パソコン
さまざまな用途に対応できるパソコンを備えています。利用にはＴＣＵアカウントが必要です（検索用パソコンを除く）。
■検索用パソコン ／ Ｂ１階～４階 検索コーナー
所蔵資料の検索（ＯＰＡＣ）やインターネット検索など，資料･情報検索用に利用できます。
■常設デスクトップパソコン ／ Ｂ１階
Ｗｉｎｄｏｗｓ，Ｍａｃの２種のパソコンがあります。

■貸出用ノートパソコン　／　Ｂ１階
専用のＰＣロッカーに収納されています。学生証で貸出・返却を行い，館内で自由に利用できます。
○視聴覚資料用液晶テレビ ／ Ｂ１階
館内の視聴覚資料(ＤＶＤ，ビデオなど)が利用できます。
○プリントシステム（複写（出力）コーナー） ／ Ｂ１階～３階
図書館内設置のパソコンおよび持ち込みパソコンからプリントを出力できます。
○コピー機（複写（出力）コーナー） ／ Ｂ１階～３階
図書館資料に限り，著作権法３１条の範囲内で複写できます。複写に関する責任は，利用者にあります。

横浜キャンパス図書館

○パソコン（４台） ／ １階
レポート・論文作成に利用できます。利用にはＴＣＵアカウントが必要です。
○プリンター（１台）／１階　図書館内設置のパソコンからプリントを出力できます。
○スキャナー（２台）／１階
禁帯出の資料データを取り込み，画像データとして利用できます。
○コピー機（複写コーナー） ／ １・２階
図書館所蔵資料複写用のコイン式コピー機です。白黒／カラーが選べます。
著作権法３１条の範囲内でご利用下さい。

等々力キャンパス図書館

○各種パソコン
■検索用パソコン／Ｂ１～２階
所蔵資料の検索（ＯＰＡＣ）専用のパソコンです。
■常設デスクトップパソコン／１・２階
ＰＣコーナー，グループスタディルーム，アクティブラーニングフィールドに設置しています。
■貸出用ノートパソコン／１階カウンター
館内専用の貸出パソコンです。カウンターにて貸出しています。
○プリンター
■ポイントシステム対応プリンター／１階ＰＣコーナー
１人当たり年度ごとに５０００ポイントまでプリンター印刷が可能な「印刷ポイントシステム」に対応したプリンターを設置しています。
■プリントシステム（複写コーナー）／１階
館内設置のパソコンおよび持ち込みパソコンからプリントを出力することができる有料プリンターです。ＵＳＢメモリからプリントを出力することも可能です。
○コピー機（複写コーナー）／１階
図書館所蔵資料複写用のコイン（現金）式コピー機です。複写は，著作権法第３１条の範囲内での利用となります。
（著作権法第３１条については，コピー機前の掲示板に掲載しています）

７．図書館を快適に利用するために

・利用者の迷惑にならないよう静粛を保つ。
・資料や機器類を大切に扱う。
・貸出資料や学生証を他人に貸与しない。
・携帯電話はマナーモードにし，通話はしない。
・貴重品は常時携帯し，各自の責任で管理する。
・飲食はしない。(閲覧席に限り密封容器の飲料のみ可)
・喫煙は館外の喫煙スペースで。

――――――図書館ホームページでも利用案内を掲載していますのでご覧下さい。
(http://library.tcu.ac.jp/)

情報基盤センター

ＩＴ（Information Technology）時代と言われる現代，情報および情報を処理するコンピューターの基礎概念を学ぶことは，全ての学生にとり必要不可欠になっています。このことは，将来情報処理あるいはコンピューターの専門家を志すか否かにかかわらず言えることです。そのため，情報基盤センターは，各学部の共通科目や学科の専門科目に演習室を提供しています。

以上のように当センターは,本学の情報教育の中枢を担うとともに,情報の受発信基地として有効に利用されています。

１．情報基盤センターの利用

世田谷，横浜，等々力の各キャンパスに情報システムを利用できる施設・教室があります。どのキャンパスでも TCU アカウント*で情報システムを共通に利用できます。授業のないオープン利用時にはパソコンなどの機器を自由に利用することができ，レポート作成や文献検索などに役立てられます。

＊演習室(PC 教室)のパソコンや TCU メールなど，学内の各種システムを利用するためのユーザー名とパスワード

２．開館時間と休館日

○開館時間

【授業日】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	８：４５～１９：００	８：４５～２２：００	８：００～２０：００
土	８：４５～１５：００	８：４５～１７：００	

【授業日以外】

	世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス
月～金	９：００～１７：００	９：００～１７：００	８：００～２０：００
土	９：００～１３：００	９：００～１２：００	

※世田谷キャンパスでは，閉館後は図書館地階の常設パソコン・貸出用ノートパソコン（図書館の利用時間に準じる）をご利用下さい。

※等々力キャンパスでは,IC カードで入室を管理しているので，原則，キャンパス内の他の施設と同じ時間帯に利用できます。ただし，パソコンやプリンターに関する連絡・問い合わせは，事務取扱時間内に行って下さい。
また，図書館内のコンピューター教室は，図書館の開館時間に準じて利用できますが，試験期間でも２０：００までの利用となります。

※世田谷および等々力キャンパスは月１回（原則第１水曜日）保守のため，１３：３０以降は閉館になります。

※開館時間は行事や休業期間などにより変更する場合があります。詳細は各施設の Web ページや掲示をご覧下さい。

○休館日

日曜日・国民の祝日・創立記念日・入学試験日

※休館日は振替授業などにより変更する場合があります。詳細は各施設のＷｅｂページや掲示をご覧下さい。

３．施設の利用

世田谷キャンパス

○施設紹介

■オープン利用スペース（１５号館：演習室Ｄ）
開館時間中は常時利用できます。
パソコン利用授業の予習や復習，レポートの作成や印刷などに利用できます。

■授業利用スペース（１５号館：演習室Ａ～Ｃ，１号館：１２Ｌ，１２Ｍ，１２Ｎ，１２Ｐ教室）
演習室Ａ～Ｃにはデスクトップパソコン，１２Ｌ～１２Ｐ教室にはノートブックパソコンを設置しています。
授業利用がない時間帯は，１５号館の演習室をオープン利用スペースとして利用できます。

■研究利用スペース（１５号館：研究用端末室）
卒業研究着手者や大学院生を対象に，研究用スペースとしています。一般パソコンに加え，画像編集に特化した専用機やポスターセッション用などの大判資料の印刷が行える印刷機などを設置しています。

○設置機器紹介

■パソコン　一般用（５２８台），画像編集用（４台）
■プリンター　カラー・レーザー（５台），モノクロ・レーザー（３台），インクジェット（２台），大判（２台）
■スキャナー　一般用（３台），ネットワーク対応（５台）
■画像編集用機器　Ｂｌｕ－ｒａｙ，ＣＤ，ＤＶＤ，ＶＨＳレコーダー，デジタルカメラ，ビデオカメラ

横浜キャンパス

○施設紹介

■グループ学習スペース（２号館：メディアホール）
開館時間中は常時利用できます。
パソコン利用授業の予習や復習，レポートの作成や印刷などに利用できます。

■授業利用スペース（２号館１階，２階，３号館４階の演習室）
演習室にはデスクトップパソコン，グループワークルームにはノートブックパソコンを設置しています。授業利用がない時間帯は，オープン利用スペースとして利用できます。

■研究利用スペース（２号館２階：映像編集室）
研究室所属学部生や大学院生を対象に，研究用スペースとして利用できます。

○設置機器紹介

■パソコン　一般用（４２２台）
■プリンター　カラー・レーザー（１台），モノクロ・レーザー（全演習室に設置），大判（２台）
■スキャナー　中演習室，メディアホールのみ設置

等々力キャンパス

○施設紹介

■授業利用スペース（１号館：１２２教室，２号館：２１１教室，２１２教室，３号館：３０１教室）
デスクトップパソコンを設置しています。
授業利用がない時間帯は，パソコン利用授業の予習や復習，レポートの作成・印刷などに利用できます。

○設置機器紹介

■パソコン　一般用（１４０台）
■プリンター　カラー・レーザー（４台），モノクロ・レーザー（４台），大判（３台）
■スキャナー　ネットワーク対応（４台）

４．サービスの利用

全キャンパス

○情報ネットワーク，情報システム

３キャンパスは１Ｇｂｐｓの高速回線で相互に接続されており，各キャンパスにある情報システムを利用できます。また，持ち込みパソコンで情報ネットワークを利用するための情報コンセントや無線ＬＡＮも整備しています。

○ＴＣＵアカウント

情報基盤センターから全ユーザーに発行するアカウント（ユーザー名とパスワード）です。このアカウントで以下のシステムを利用できます。

ＴＣＵメール，ポータルシステム，Windows システム，ＵＮＩＸサーバー，授業支援システム，ＶＰＮ，Ｗｅｂ履修システム他

○ＴＣＵメール

Ｗｅｂメールの機能を持ち，受信拒否，自動振り分け，メール転送などの設定が可能なメールシステムです。

○授業支援システム

教材の配布，レポート提出，アンケート集計，小テストなどがＷｅｂ上で行えるシステムです。

○ＶＰＮ

暗号化された通信で仮想的に情報ネットワークに接続し，安全に学内専用の情報システムを利用できます。

世田谷キャンパス

○Windows システム

１号館や１５号館，図書館地階では，Windows パソコンやファイルサーバー，プリンターなどの周辺機器を利用できます。

○仮想デスクトップシステム

演習室と同じデスクトップ環境にリモートアクセスが行えるサービスです。学内の研究室や自宅（VPN 接続が必要）から，演習室と同じデスクトップ環境が利用できます。

横浜キャンパス

○Windows システム

２号館１階，２階，３号館４階の演習室において，Windows パソコンやファイルサーバー，プリンターなどの周辺機器を利用できます。

等々力キャンパス

○Windows システム

各コンピューター教室で，Windows パソコンやファイルサーバー，プリンターなどの周辺機器を利用できます。

○英語学習システム

１２２教室において，効率的に語学を習得するためのソフトウェアとタブレットを利用できます。（タブレットは授業時のみ）。

５．システム利用上の注意

サーバーやパソコン（演習室，PC 教室等）の利用に際しては，以下の事項に留意して下さい。

【パスワードの管理】

パスワードの変更方法の Web ページ（http://www.itc.tcu.ac.jp/changepass）から各キャンパスのパスワード変更ページにログイン後パスワードを変更し，各自責任を持って管理をして下さい。

また，毎年パスワード変更期間を設けますので，期間中に必ずパスワードを変更して下さい。これを怠るとパスワードが無効になり，システムが利用できなくなります。パスワードが無効になったり忘れた場合は，パスワードの再設定（有料）を行って下さい。

【印刷制限】

無駄な印刷を防ぐため，演習室（PC 教室）でのプリンター出力には制限があります。

一定の範囲内（毎年，年度の初めに年間の利用量が設定されます）まで無料で印刷できますが，それを超えると有料（自己負担）になります。

※詳細については，情報基盤センターの窓口までお問い合わせ下さい。

６．禁止事項・利用マナー

本学の情報システムは，高度な機器やソフトウェアを多く取扱っています。皆さんが快適に利用できるよう，ルールを守って利用して下さい。

【禁止事項】**（必ず守ってください）**

・教育・研究以外の目的で施設・設備を利用しないこと（公序良俗に反する動画像の閲覧、SNS、ゲーム、教育・研究以外の目的での印刷など）。
・不正な持込ソフトウェアを使用しないこと。
・許可されているところ(設置端末の空き USB ポートや持込パソコン用に机上コンセントが配されている場所など)以外に持込機器を接続しないこと。
・設置機器の電源コンセントやケーブルの抜き差しをしないこと。
・飲食をしないこと。また、外から見える状態で飲食物を持ち込まないこと。
・傘の持ち込みが禁止されている場所に傘を持ち込まないこと。
・充電を目的とした機器の接続は行わないこと。

【マナー】**（最低限のマナーとして以下のことを守ってください）**

・使用したもの（マニュアルなど）は必ず元の場所に戻すこと。
・サインインしたままで席を離れたり、席取りのために荷物を置いたりしないこと。
・自分で印刷した以外のプリンター用紙を持ち出さないこと。
・大量の印刷や試し印刷は控えること。

――――――情報基盤センターのＷｅｂページに利用案内を掲載していますので，ご覧下さい。

学生生活関連

１．学生生活の関連情報

学生生活に関連した情報は，「ＣＡＭＰＵＳ　ＬＩＦＥ」や「学生手帳」にも掲載されていますので，是非有効に併用して下さい。

また，学生生活・教務・就職・進学・施設設備などに関する質問等があれば電話や電子メールではなく，各キャンパスの事務局の窓口にて直接問い合わせて下さい。

事務取扱時間

■授業期間

月曜日～金曜日	９：００～１７：００
土曜日	９：００～１３：００（11:30～12:30 を除く）

■授業期間外

月曜日～金曜日	９：００～１７：００（11:30～12:30 を除く）（夏期休業中は 16:00 まで）
土曜日	９：００～１２：００

日曜日，祝日および大学で定めた休日は休業とします。
併せて，学生の夏(冬)期休業中で，事務取扱いを行わない期間がありますので，学生手帳やホームページ，ポータルサイト，掲示板を参照して下さい。

２．クラス担任

本学では，クラス担任教員を定め，クラス全般およびクラスの一人一人の指導に当たっています。クラス担任教員とは学生諸君の学習や学生生活のあらゆる面における助言・指導に当たる教員です。問題に遭遇した場合はもとより，普段から気軽にアドバイスを受けて下さい。

クラスは学部・学科ごとに編成され，授業グループと連動する場合もあります。ます。なお，学部・学科によっては，３年次に進級した時のクラス担任は「事例研究」等の指導教員が担当し，４年次は「卒業研究」の指導教員が担当します。

３．学生生活なんでも相談室

本学に入学してきた学生諸君が明るく，充実した学生生活を送ることを，誰もが望んでいます。しかし，時として問題にぶつかったり，悩みが生じたりすることもあります。そんな時のために，本学では「学生生活なんでも相談室」を設置して，学生諸君の相談に応じています。

困ったことや悩みが生じた時には，相談室を訪ねてみて下さい。相談室に相談員（カウンセラー）がいれば，その場で相談することができます。また，相談員が不在の時や相談中の場合には，相談室前にある申し込みカードに記入してカード入れにいれるか，医務室および担当課に予約の申し込みをして下さい。また，電話での申し込みや相談も可能です。申し込み用紙はホームページ（下記参照）からダウンロードも可能です。

URL: http://www.tcu.ac.jp/interchange_campuslife/campuslife/support/consultation/imgs/consultation01.pdf

ホーム ＞ 国際交流・キャンパスライフ ＞ キャンパスライフ ＞ 生活支援 ＞ 生活相談・ハラスメント相談

相談内容は，心理相談，生活相談をはじめ個人の身辺の問題，友人関係等どんな内容でもかまいません。相談の内容については，秘密が守られ，相談者とカウンセラーの間だけの事柄として扱われます。また，相談にあたっては強制的な指示が与えられることはありませんので，安心して相談して下さい。

■相談受付時間

相談室前の掲示板を確認して下さい。

■相談内容

心理相談，生活相談をはじめ個人の身辺の問題，友人関係等どんな内容でもかまいませんので気軽に相談して下さい。

■相談方法

相談希望者は直接相談室を訪ねて下さい。なお，相談員が不在の場合は，申し込みカードや電話で申込みをして下さい。

４．ハラスメントについて

ハラスメント（Harassment）とは，嫌がらせを意味します。そのうち大学で起こりうるものとしては，セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）やアカデミック・ハラスメント（アカハラ）等が主に挙げられます。

セクハラとは，相対的に強い立場にある人が，弱い立場にある人に対して，その人格を無視して，性的な性質の言動を行なうことによって屈辱感や不快感を与えたり，その人の対応によっては学習や研究上の不利益を与えたり，そのような言動によってその人の教育環境や研究環境を損なわせる等の人権侵害行為をいいます。

アカハラとは，勉学・教育・研究に関する場面において，教員等の権威的地位を有する者が，その立場を利用し，弱い立場にある者に対して行われる不適切な言動や差別的待遇等による勉学・教育・研究への妨害行為や人権侵害行為をいいます。

■ハラスメントを未然に防ぐために（本学の対応策）

①ハラスメント防止および対策のため，本学にはハラスメント対策室が設置されています。ハラスメント対策室はハラスメント対策委員会，ハラスメント調査委員会，そして相談窓口であるハラスメント相談室で構成されています。

②ハラスメントの発生を未然に防ぐためにハラスメント対策委員会は，必要な啓発活動や指導をあらゆる機会を通じて学生及び教職員に対して行ないます。

■もし被害を受けてしまったら

①何時，どこで，誰から，何をされたのか，また何を言われたのか，記録（メモ）を取っておいて下さい。これは後でハラスメント相談室へ訴えを起こす場合に役立ちます。

②証人を作っておいて下さい。あなたが被害を受けた時，その場を目撃していた人がいたら，その人に今あなたが何をされたのか，また何を言われたのかについて確認をしておくことが大切です。

③相手に対して，「自分は望んでいない。不快である」ことを落ち着いて，きちんとした言葉遣いで，その場ではっきり伝えることが大切です。行為や言動を行なっている人は，あなたの気持ちに気付いていない場合があるからです。たいてい相手は目上の人で言いにくいでしょうが，自分がこれ以上不愉快にならないあるいは人権侵害を受けないためにも重要なことです。

④相談室員に相談したり証言等をしても，不利益を被ることがないようにいたします。躊躇せず相談等をして下さい。

⑤相談員に相談する時，自分ひとりでは不安な場合は親しい友人などを通して話をしたり，あるいは一緒に行ってもらいましょう。

■ハラスメント相談室

ハラスメント相談室員は，ポータルサイト，学生手帳で確認して下さい。

■ＤＯＬ支援プロジェクト

学生生活上の行動やこころの問題は，主に学生相談室が対処します。「文字や文章を読むことが苦手」「文字や文章をうまく書けない」「簡単な計算ができない」「言われたことを正しく理解することができない」「計算通りやったり修正するのが難しい」など，勉学・研究に関する問題は，学習に困難を抱える学生を支援する『ＤＯＬ支援プロジェクト』が対処します。詳しい内容や相談方法は，ＤＯＬのホームページ（http://www.tcu.ac.jp/dol/）を参照してください。

５．保険制度

学生の保険制度として，在学生全員が加入する学生教育研究災害傷害保険（学研災），教育実習，インターンシップに関する学研災付帯賠償責任保険（付帯賠責），各自または団体が任意で加入する保険として学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）とスポーツ安全保険があります。

その他，個人的な登山，合宿あるいは小旅行等に利用できる各種の保険もあります。

以下の保険に関する詳細は学生支援センターまでお問い合わせ下さい。

■学生教育研究災害傷害保険（学研災）

この保険制度は，全国規模の相互共済制度として発足し，大学生を対象とした保険で，公益財団法人日本国際教育支援協会が契約者となり損害保険会社との間に一括契約される傷害保険です。特に工学部では実験，実習中の負傷の可能性は皆無とは言えません。このような正課の授業中や課外活動中，通学途中の不慮の事故から生じる経済的負担をできるだけ少なくし，明るい学生生活が送れるように在学生全員が一括加入しています。

この保険が適用される事故等に遭遇した場合は速やかに（事故日から３０日以内）学生支援センターの窓口に申し出

て下さい。

○保険料

全学部　3,300 円（４年間）　修士課程　1,750 円（２年間）　博士後期課程　2,600 円（３年間）

※保険料は大学が負担しており，また加入手続は不要です。保険の適用期間は入学から卒業するまでの期間となります。

○支払われる保険金の種類と額

ａ．死亡保険金（事故の日から１８０日以内に死亡した時）

「正課中」「学校行事中」の場合　　２，０００万円

「課外活動中」「通学中」等の場合　　１，０００万円

ｂ．後遺障害保険金（事故の日から１８０日以内に後遺障害が生じた時）

「正課中」「学校行事中」の場合　　程度に応じて１２０～３，０００万円

「課外活動中」「通学中」等の場合　　程度に応じて６０～１，５００万円

ｃ．医療保険金（医師の治療を受けたとき）

■学研災付帯賠償責任保険（付帯賠責）

この保険は学生が任意に加入する保険です。日本国内外において正課，学校行事（教育実習中，インターンシップ中等）及びその往復中で他人にケガをさせたり，他人の財物を損壊したりすることによる賠償責任に対して保険金が支払われます。

■学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）

この保険は学生が任意に加入する学生総合保険です。最近の学生生活は非常に多様化し，また高度に複雑化してきており，このため学生が大学の内外を問わず学生自身が被る病気や不慮の事故，傷害など学生生活を２４時間総合的にカバーするための補償制度です。

■スポーツ安全保険

大学の課外活動において，学内外ともに適用される保険としてスポーツ安全保険制度があります。これはスポーツ活動（文化活動・奉仕活動・軽スポーツ等を含む）を行う団体がその活動中に被った不慮の事故等を補償する制度で，保険料はその活動の程度により異なります。特にスポーツ団体に所属している学生は，この保険への加入が強く望まれます。

■旅行・合宿・登山などに適用される保険

スポーツ安全保険は，そのクラブ団体の活動内容により各種の加入条件があり，全員が加入できない場合がありますが，この保険は少人数，短期間など手軽に利用できる制度です。各保険会社で取り扱っていますが，学生支援センターでも紹介します。

６．学籍の異動等と届出手続き

異動等に関する手続は，所定の手続きを行って下さい。

■退学

やむを得ない事情により本学を退学する場合は，事前にクラス担任／指導教員に相談し，承認を得た上で，各キャンパスの学生支援センターの窓口で「退学願」を受け取って下さい。承認がない場合には「退学願」はお渡しできません。なお，受け取った「退学願」に本人・保証人が記入・捺印し，クラス担任／指導教員及び主任教授の捺印をもらってから学生支援センターへ提出して下さい。

■休学

やむを得ない理由により２ヶ月以上修学することができない場合は，願い出て休学することができます。休学期間中，学費の代わりに在籍料を納めていただきます。在籍料は原則，授業料の半額相当となります。

休学期間は全期（１年間）または半期（６ヶ月間）となります。全期（１年間）及び前学期に休学する場合は前学期の履修登録最終日まで，後学期に休学する場合は後学期の履修登録最終日までに「休学願」を提出しなければなりません。なお，休学理由が傷病，経済的困窮，介護等特別な事情がある場合は学期途中からの休学を認める場合があります。

学期途中から休学が認められた場合，休学期間は「休学願」が提出された月の翌月１日からとなります。休学理由が

解消しない場合，引き続き休学を申請することができますが，期間が年度をまたがる場合は改めて休学を願い出て許可を得る必要があります。休学期間は通算して３年を超えることはできません。

また，休学期間は卒業に必要な在学年数４年間，並びに最長在学年数の８年間には算入されません。

但し，休学中の当該学期の「履修登録科目」については，休学申請が受理された時点で，自動的に全て削除されます。通年科目（卒業研究，事例研究・原書講読等）も削除されますので注意して下さい。

休学する場合は，事前にクラス担任／指導教員に相談し，承認を得た上で，各キャンパスの学生支援センターの窓口で「休学願」を受け取って下さい。承認がない場合には「休学願」はお渡しできません。なお，受け取った「休学願」に本人・保証人が記入・捺印し，クラス担任／指導教員及び主任教授の捺印をもらってから学生支援センターへ提出して下さい。

休学期間が満了となる前には，意思確認を行います。復学を希望する場合は「復学願」を，休学の継続を希望する場合には「休学願」を，退学を希望する場合は「退学願」を提出して許可を受けて下さい。

■その他

病気やケガなどにより１週間以上欠席する場合はクラス担任／指導教員に相談の上で，「長期欠席届」の提出が必要です。また，住所変更や身上（改姓など）変更，保証人が変更になる場合なども，各キャンパスの学生支援センターにて所定の手続きを行って下さい。

７．３キャンパス間のシャトルバス

本学には，世田谷・横浜・等々力の３つのキャンパスがあり，これらを結ぶ交通手段として無料のシャトルバスがあります。各キャンパスで行われる授業の相互履修，図書館やメディアセンターの利用，クラブ活動等で利用して下さい。夏期・冬期休業中および授業の無い日は運休します。運行ダイヤは、ホームページ・ポータルサイトで確認してください。

なお，世田谷キャンパスと横浜キャンパス間の移動所要時間は約３０分，世田谷と等々力キャンパス間は約１５分となっています。利用前に各キャンパス学生支援センターで「バス利用券」を受け取ってください。

８．キャンパス内でのマナーについて

■自動車通学の禁止・オートバイ通学の自粛

本学では，学生の通学時の安全確保，学内秩序の維持，駐車場の確保が困難なこと及び大学周辺は全て法令による駐車禁止区域に指定されていることから，自動車による通学は全面禁止としています。自動車での通学及び，このことによる迷惑駐車が発見された場合には，学生部長より厳重注意の上，反省文及び保証人連名の誓約書を提出してもらいます。なお，本人及び保証人で，対応等が発生した場合には謝罪してもらいます。さらに違反を繰り返した場合には，懲戒規程に則り停学・退学等を含めた処罰を行います（オートバイによる迷惑駐車についても，状況に応じてこれに準じます）。

また，オートバイによる通学は自粛としています（等々力キャンパスはオートバイによる通学は禁止です）。
安全面からの配慮はもちろん，排気音による騒音等に関する苦情は，地域との共生をめざす本学としては，大変苦慮しているところです。やむを得ずオートバイに乗ってきた場合は，すみやかにエンジンを切り，指定された場所に駐輪する，エンジンを吹かさないなど配慮して下さい。

■オートバイ・自転車撤去・処分について

オートバイ・自転車は，指定された駐輪場に置くことになっていますが，指定駐輪場以外での駐輪は通行の妨げとなり危険です。こうした違反駐輪車両については，理由に関わらず監視員により強制的に移動・撤去する場合があります。なお，長期に渡って放置されたオートバイ・自転車については，所有権を完全に放棄したとみなし，大学で廃棄処分します。対象となった車両は学外に搬出され処分しますので，返却等には一切応じません。また，事後大学として一切責任は負いません。

■クリーンキャンパス運動と喫煙マナーについて

本学では，学生団体や研究室の学生諸君及び教職員により，「クリーンキャンパス運動」と銘打ち，学内外における清掃活動を行っております。ここ数年で改善されてきた面も見られるものの，タバコの吸い殻や空き缶等のポイ捨て，ゴミの放置はまだまだ見受けられ，マナーやモラルの向上が実現されているとは言い切れない状況にあります。特に喫煙については，喫煙者のマナーに対する苦情が絶えません。このため，現在各キャンパスとも指定場所以外の喫煙は禁止としていますが，社会的な動向も考慮し，全面的な禁煙も視野にいれて検討を進めています。タバコを吸う人も吸わない人も快適に過ごせるキャンパスを実現するために一人ひとりの心がけが求められています。

９．各種証明書の交付申請

申請後の期間は事務局休業日を除きます。システムの障害等により即時発行できない場合もあります。

区分		証明書種類	文書料	交付期日
在学生	和文証明書（無料）	通学証明書	無料	当日
		学生旅客運賃割引証（学割）	無料	当日
	和文証明書	在学証明書	200円	当日
		成績証明書	200円	当日
		卒業見込証明書［学部］／修了見込証明書［大学院］	200円	当日
		健康診断証明書	200円	当日
		指定保育士養成施設卒業見込証明書（TC）	200円	当日
		教育職員免許状（幼稚園教諭）取得見込証明書（TC）	200円	当日
	英文証明書	在学証明書	500円	当日
		成績証明書	500円	当日
		卒業見込証明書［学部］／修了見込証明書［大学院］	500円	当日
	学生証再発行 仮学生証手続き	学生証再発行手続き	3,000円	別途手続き案内
		仮学生証（受験のための証明書）手続き	200円	別途手続き案内
	手続き書類	情報基盤センターパスワード再設定手続き	200円	別途手続き案内
		情報基盤センタープリンター利用上限変更手続き	100円	別途手続き案内
		情報基盤センター講習会 受講手続き	1,000円	別途手続き案内
		教職課程登録手続き（SC･YC）	10,000円	別途手続き案内
		TOEIC IP試験受験手続き	3,100円	別途手続き案内
	その他の 和文証明書 英文証明書 申請	単位修得証明書（特定科目の抜粋） 申請	200円	１週間
		就職用 学校推薦書（紹介状） 申請	200円	SC･TC:３日／YC:翌日
		教育職員免許状（中学校・高等学校教諭）取得見込証明書（SC･YC） 申請	200円	１週間
		社会調査士（取得見込）証明書（YC） 申請	200円	１週間
		社会福祉主事任用資格（取得見込）証明書（TC） 申請	200円	１週間
		学費等証明申請書（和文） 申請	200円	１週間
		学費等証明申請書（英文） 申請	500円	１週間
		その他の和文証明書 申請	200円	別途案内
		その他の英文証明書 申請	500円	別途案内
卒業生・修了生	和文証明書 申請	卒業・学位取得証明書［学部卒業］ 修了・学位取得証明書［大学院修了］ 申請	500円	当日 ※
		成績証明書 申請	500円	当日 ※
		単位修得証明書（特定科目の抜粋） 申請	500円	１週間
		学力に関する証明書 申請	500円	１週間
	英文証明書 申請	卒業・学位取得証明書［学部卒業］ 修了・学位取得証明書［大学院修了］ 申請	500円	当日 ※
		成績証明書 申請	500円	SC:１週間／YC･TC:当日
	その他の 和文証明書 英文証明書 申請	その他の和文証明書 申請	500円	別途案内
		その他の英文証明書 申請	500円	別途案内

※出身キャンパス（卒業生）以外で申請した場合は，発行に３日程度かかります。

大学院環境情報学研究科

本大学には、学部卒業後、より高度な専門知識を修得するために、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻・都市生活学専攻（修士課程・博士後期課程）を設置している。

また、学力・人物ともに優秀で、勉学意欲の旺盛な学生の大学院進学を奨めるため、学部３年終了時の成績を中心に、学業成績上位者（学部の成績が学科全体の 1/3 以内であること。）を条件に、推薦制度（修士課程のみ）による入学を認めている。

学内からの進学者については入学金を免除しており、推薦入学者のうち、特に成績優秀な学生については、学費を免除する奨学制度を設けている。

大学院環境情報学研究科の概要

１．大学院の区分

博士課程を修士課程と後期課程とに区別し、在学期間は、

［　修士課程　２年 ］

［　博士後期課程　３年］　となっている。

２．大学院環境情報学研究科設置の目的

環境情報学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与する。

３．各課程の目的

＜修士課程＞

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。

＜博士後期課程＞

環境と情報の問題にかかわる現象や統合的な観点に立って調べる方法を新たに開発・構築したり、「持続可能で豊かな社会」の実現に資する統合的な問題解決の実践方法を導き出したりすることのできる人材で、環境情報学の研究者・教育者あるいはリーダーになり得る人材を育成することを目的とする。

４．定員等

研究科名	専攻名	課程	修士課程		博士後期課程	
		定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
環境情報学研究科	環境情報学専攻		２０名	４０名	２名	６名
	都市生活学専攻		６名	１２名		
	計		２６名	５２名	２名	６名

本学大学院には環境情報学研究科のほか、工学研究科（修士課程・博士後期課程１０専攻）も設置している。

（修士課程入学定員２６１名、収容定員５２２名・博士後期課程入学定員３６名、収容定員１０８名）

５．指導教授（研究指導教員及び研究指導補助教員）

専攻の各領域を担当する教授または准教授を指導教授（研究指導教員または研究指導補助教員）といい、その研究指導教員および研究指導補助教員は学生の本学における研究指導および学位論文の作成の指導にあたる。

６．修業年限

修士課程：２年

なお、本研究科の修士課程にあっては、４年を超えて在学することはできない。
（※休学期間を除く）

博士後期課程：３年

なお、本研究科の、博士後期課程にあっては、８年を超えて在学することはできない。
（※休学期間を除く）

７．学位

修士（環境情報学）

大学院学則の定めるところにより、２年以上在学して３０単位以上を修得し、かつ必要な教育・研究指導を受けた上、本学大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格した者に**修士（環境情報学）**の学位が与えられる。

ただし、都市生活学専攻を修了した者には、修士（都市生活学）の学位を授与する場合がある。

博士（環境情報学）

修士の学位を有し、大学院学則の定めるところにより、原則として３年以上在学して、必要な教育・研究指導を受けた上、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者に**博士（環境情報学）**の学位が与えられる。

８．入学試験

本学では、以下のとおり年３回の入学試験を実施している。（ただし、ここでは平成 28 年度実施予定の入試を記載。実施内容については学事等に鑑み変更する場合がある。）

試験区分	実施時期	選考方法
A 日程　推薦入試 （修士課程のみ実施） A 日程　一般入試 （博士後期課程のみ実施） ＜後学期入学＞	５月中旬（予定）	・志望理由書・研究計画書の提出。 ・面接考査等
B 日程　一般入試	９月初旬（予定）	・志望理由書・研究計画書の提出。 ・領域毎の専門試験 ・面接考査等
C 日程　一般入試	２月中旬（予定）	

※選考方法は入試大綱に基づき、変更される場合がある。＜4 月下旬決定予定＞

◆［A 日程：推薦入試］

○修士課程のみ実施

本学からの進学希望者で、所定の基準を満たす者には推薦入学の道が開かれている。

次の条件を満たす者が被推薦者の資格を有する。

(1)本学卒業見込者であること。

(2)学部３年終了時における学業成績上位者（学科全体の１／３以内であること。）

(3)本学大学院環境情報学研究科への進学を第１志望とする者。

領域毎に面接考査を行う。

「志望理由書・研究計画書」の内容（英語能力の確認を含む）を中心に面接を行う。

（１人約２０分～３０分程度）

◆［A 日程：一般入試］

○博士後期課程のみ実施＜後学期入学＞

領域毎の専門試験と面接考査を行う。専門試験は、論述式で９０分。

また、「志望履修書・研究計画書」「専門試験」の内容（英語能力の確認含む）を中心に面接を行う。

（１人約２０分～３０分程度）

◆［B 日程・C 日程：一般入試］

○修士課程

領域毎の専門試験と面接考査等を行う。専門試験は、論述式で９０～１２０分程度。

また、「志望理由書・研究計画書」、「専門試験」の内容（英語能力の確認を含む）を中心に面接を行う。（１人約２０分～３０分程度）

※　出願条件に TOEIC のスコア（過去２年間有効）提出が義務付けられているので、事前に受験しておくこと。）

○博士後期課程

領域毎の専門試験と面接考査を行う。専門試験は、論述式で９０分。

また、「志望理由書・研究計画書」、「専門試験」の内容（英語能力の確認を含む）を中心に面接を行う。（１人約２０分～３０分程度）

なお、A 日程推薦入試（修士課程のみ）・A 日程一般入試（博士後期課程のみ）＜後学期入学＞・B 日程・C 日程一般入試とも、出願にあたり、希望する指導教授（研究指導教員及び研究指導補助教員）の承諾を必要とする。

９．入学金の免除

本学では、東京都市大学大学院研究科奨学規程により、学内進学者全員に対して入学金（平成 27 年度の場合 270,000 円）を免除している。

10. 専攻領域

○修士課程

専　攻　名	領　　域　　名
環境情報学専攻	環境マネジメント コミュニケーション環境 情報システム 地域・都市環境
都市生活学専攻	都市生活

○博士後期課程

専　攻　名	領　　域　　名
環境情報学専攻	環境 情報

環　境　方　針

1998 年 8 月 14 日(制定)
2001 年 8 月　9 日(改訂)
2005 年 8 月　9 日(改訂)
2009 年 7 月 23 日(改訂)
2013 年 4 月　1 日(改訂)

A.　基本理念

東京都市大学横浜キャンパス（環境学部・メディア情報学部・大学院環境情報学研究科）は，地球環境保全が人類全体の最重要課題の一つであることを認識し，キャンパス内のすべての活動が環境と調和するよう十分な配慮を払い，広く地球的視野に立って，環境負荷を軽減し，横浜キャンパス内のすべての教職員・学生および常駐する関連会社の職員が協力して，環境の保全と改善に努め，21 世紀の社会の持続可能な発展に貢献する.

B.　基本方針

1. 地球環境・地域環境保全のための教育と活動を積極的に展開し，社会への貢献を図る．自ら研究と教育を進めることはもとより，地域・行政のプログラムに積極的に参画し，教職員・学生が自主的かつ積極的にこれらに参加することを支援し，研究・教育の成果を公表することにより，持続可能な社会への貢献を図る.
2. 横浜キャンパス内のあらゆる活動にかかわる環境側面を常に認識し，環境に対する影響を評価し，環境汚染を予防し，省資源・省エネルギー・廃棄物削減に積極的に取り組むことにより環境負荷の一層の軽減に努め，環境改善を推進する.
3. 横浜キャンパス内のすべての活動にかかわる環境関連法規，規制，協定等を順守し，さらに地球温暖化防止やオゾン層の保護などその他の要求事項を考慮して自主基準を設け，管理する.
4. この環境方針を達成するため環境目的・目標を設定し，横浜キャンパス内のすべての教職員・学生および常駐する関連会社の職員が一致して，これらの目的・目標の達成を図る.
5. 環境監査を実施して，環境マネジメントシステムをレビューし，継続的改善を図る.

この環境方針は，文書化し，横浜キャンパス内のすべての教職員・学生および常駐する関連会社の職員に周知するとともに，一般の人にも文書並びにインターネット（http://www.yc.tcu.ac.jp）を用いて開示する.

東京都市大学
環境学部長
メディア情報学部長
大学院環境情報学研究科長

教職員名簿

○は専任者　△は兼担者　□印は兼務者

■ 学長・副学長・学部長 ■

学長・学部長		
学　　長	工学博士	三木　千壽
副学長(総括担当)	工学博士	湯本　雅恵
副学長(研究担当)	工学博士	丸泉　琢也
副学長(ｷｬﾝﾊﾟｽ連携担当)・環境学部長	博士(農学)	吉﨑　真司
ﾒﾃﾞｨｱ情報学部長	博士（人間・環境学）	中村　雅子

■ 環境学部 ■

環境創生学科			
○	教　授	博士(農学)	吉﨑　真司
○	教　授	博士(農学)	田中　章
△	教　授	博士(農学)	飯島　健太郎
○	教　授	博士(工学)	史　中超
○	教　授	工学博士	宿谷　昌則
○	教　授	博士(工学)	室田　昌子
	客員教授	博士(環境科学)	久米　一成
	客員教授	博士(工学)	山崎　慶太
○	准教授	博士(工学)	大西　暁生
○	准教授	博士(工学)	咸　泳植
○	准教授	博士(農学)	横田　樹広
○	准教授	博士(工学)	ﾘｼﾞｬﾙ ﾎﾑ・ﾊﾞﾊﾄﾞｩﾙ
○	講　師	博士(農学)	北村　亘
	講　師	M.B.A	池田　宗人
	講　師	農学修士	石川　晶生
	講　師	修士（農学）	内山　翼
	講　師	工学修士	大木　正喜
	講　師	修士(社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学)	大重　史朗
	講　師	博士（法学）	竹田　智志
	講　師	博士（工学）	鳴海　大典
	講　師	工学士	松浦　弦三郎
	講　師	Ph.D	三浦　直子

環境マネジメント学科			
○	教　授	Ph.D.	小野　直樹
○	教　授	博士(工学)	伊坪　徳宏
△	教　授	社会学修士・M.B.A	伊藤　裕一
○	教　授	修士(教育心理学)	枝廣　淳子
○	教　授	博士(社会学)	大塚　善樹
○	教　授	工学博士	郭　偉宏
○	教　授	Ph.D.	佐藤　真久
○	教　授	博士(社会工学)	馬場　健司
	客員教授	工学博士	市川　芳明
○	准教授	博士(経済学)	岡田　啓
○	准教授	修士（法学）	古川　務
	客員准教授	博士(工学)	吳　志樵
○	講　師	Ph.D.	ﾌｨｯﾂｷﾞﾎﾞﾝｽﾞ　雄亮
	講　師	工学士	青山　貞一
	講　師	博士（D.Phil）	大守　隆
	講　師	博士(農学)	岡田　穣
	講　師	博士(農学)	佐藤　輝
	講　師	法学修士	髙井　晉
	講　師	博士(商学)	田中　優希
	講　師	経営学士	中原　秀樹
	講　師	博士(農学)	萩原　豪
	講　師	修士(経営学)	曲尾　実
	講　師	工学博士	増井　忠幸
	講　師	政治経済学修士	松下　和夫
	講　師	博士(工学)	水上　浩
	講　師	博士(経済学)	森　朋也
	講　師	博士(経済学)	米田　篤裕

○は専任者　△は兼担者　□印は兼務者

■ メディア情報学部 ■

社会メディア学科

○	教　授	博士（人間・環境学）	中村　雅子
○	教　授	博士(心理学)	川村　久美子
○	教　授	博士(公共経営)	小俣　一平
○	教　授	博士(学術)	小池　星多
○	教　授	博士(学術)	清水　由美子
○	教　授	博士（社会学）	広田　すみれ
○	准教授	博士(学術)	岡部　大介
○	准教授	博士(心理学)	矢吹　理恵
○	准教授	博士(文学)	山﨑　瑞紀
○	准教授	博士(政策・ﾒﾃﾞｨｱ)	李　洪千
○	講　師	博士（学際情報学）	関　博紀
	講　師	博士(政策・ﾒﾃﾞｨｱ)	秋山　優
	講　師	工学博士	奥平　雅士
	講　師	技術経営学修士	岸田　伸幸
	講　師	修士(法学)	佐藤　豊
	講　師	社会学修士	島村　賢一
	講　師	博士(政策・ﾒﾃﾞｨｱ)	白土　由佳
	講　師	博士(政策・ﾒﾃﾞｨｱ)	杉浦　学
	講　師	博士(学術)	田川　史朗
	講　師	博士(文学)	玉利　祐樹
	講　師	博士(法学)	張　睿暎
	講　師	修士（社会学）	橋本　理恵子
	講　師	修士(国際公共政策)	服部　篤子
	講　師	博士(政治学)	渕元　初姫
	講　師	博士(学術)	本多　美樹
	講　師	博士(心理学)	本多・ﾊﾜｰﾄﾞ　素子
	講　師	修士(商学)	宮武　宏輔
	講　師	博士(学術)	山本　竜大

情報システム学科

○	教　授	博士(工学)	八木　伸行
○	教　授	博士(工学)	岩野　公司
○	教　授	博士(工学)	梅原　英一
○	教　授	博士(情報理工学)	大谷　紀子
○	教　授	工学博士	諏訪　敬祐
○	教　授	博士(情報科学)	関　良明
○	教　授	工学博士	藤井　哲郎
○	教　授	博士(工学)	宮地　英生
○	教　授	工学博士	横井　利彰
○	准教授	博士(工学)	小倉　信彦
	講　師	博士(芸術工学)	岡本　学
	講　師	博士(理学)	香川　智修
	講　師	博士(工学)	春日　秀雄

情報システム学科

	講　師	博士(工学)	君山　博之
	講　師	博士(工学)	木村　誠聡
	講　師	博士(工学)	後藤　正幸
	講　師	博士(工学)	杉浦　昌
	講　師	工学修士	鈴木　幸市
	講　師	理学博士	鈴木　理
	講　師	博士(政策・ﾒﾃﾞｨｱ)	鷹野　孝典
	講　師	博士(工学)	高橋　裕子
	講　師	博士(経済学)	田中　秀実
	講　師	博士(理学)	堀口　正之
	講　師	理学博士	安田　正實
	講　師	技術経営学修士(専門職)	吉野　賢治

■ 環境学部/メディア情報学部 ■

学部・学科間共通科目担当

△	准教授	博士(理学)	堀越　篤史
	講　師	工学修士	阿部　雅之
	講　師	博士（心理学）	池田　行伸
	講　師	工学博士	今井　章久
	講　師	修士(教育学)	岩本　俊一
	講　師	博士(工学)	大内　孝子
	講　師	博士(体育科学)	狩野　豊
	講　師	博士(国際関係学)	木村　啓二
	講　師	博士(工学)	工藤　信之
	講　師	文学修士(心理学)	今野　紀子
	講　師	工学博士	高砂子　昌久
	講　師	修士(体育学)	高瀬　武志
	講　師	博士(政治学)	田中　善一郎
	講　師	修士（社会学）	塚田　修一
	講　師	工学士	角田　光男
	講　師	文学修士	夏秋　英房
	講　師	家政学修士	西山　千恵子
	講　師	理学士	野島　一郎
	講　師	修士（体育科学）	波多野　圭吾
	講　師	修士(文学)	矢島　壮平

○は専任者　△は兼担者　□印は兼務者

■　共通教育部　■

共通教育部長

共通教育部長	博士(文学)	新保　良明

人文・社会科学系

○	教　授	博士(教育学)	教職	岩﨑　敬道
○	教　授	文学修士	教職	井上　　健
○	教　授	博士(文学)	人社	新保　良明
△	教　授	博士(医学)	人社	早坂　信哉
○	教　授	体育学士	体育	渡辺　一郎
○	准教授	体育学修士	体育	岩嶋　孝夫
○	准教授	博士(法学)	人社	大沼　友紀恵
○	准教授	芸術学修士	人社	岡山　理香
△	准教授	文学修士	人社	木内　英実
△	准教授	修士(人間科学)	人社	倉田　新
△	准教授	教育学修士・M.F.A.	人社	小林　由利子
○	准教授	教育学修士	人社	千田　茂博
○	准教授	博士(医学)	体育	椿原　徹也
○	准教授	博士(文学)	人社	山本　史華
○	講　師	文学修士	人社	渡辺　昭彦
○	講　師	修士(教育学)	教職	渡邉　大輔
	講　師	理学士	教職	赤荻　進一
	講　師	体育学士	体育	浅野　鉦世
	講　師	修士(法学)	人社	天野　聖悦
	講　師	博士(理学)	人社	新井　智一
	講　師	修士(経済学)	人社	伊藤　潤平
	講　師	教育学修士	教職	稲葉　敏雄
	講　師	法学博士	人社	井上　勇一
	講　師	教育学修士	体育	江口　淳一
	講　師	博士(ｽﾎﾟｰﾂ科学)	体育	枝　　伸彦
	講　師		人社	榎本　宗白
	講　師	博士(医学)	体育	太田　誠耕
	講　師	文学修士	人社	大野　晃徳
	講　師	博士(教育学)	教職	尾高　　進
	講　師	博士(農学)	教職	上地　由朗
	講　師	修士(体育学)	体育	亀井　良和
	講　師	博士(社会学)	人社	木村　豊
	講　師	体育学士	体育	栗原　祐二
	講　師	医学博士	体育	小玉　正志
	講　師	博士(教育学)	教職	柴沼　俊輔

人文・社会科学系

	講　師	修士(学術)	人社	鈴木　洋平
	講　師	経営学士	人社	須藤　智亜紀
	講　師	教育学修士	人社	角田　多加雄
	講　師	博士(学術)	人社	瀬沼　頼子
	講　師	修士(政治学)	人社	竹茂　　敦
	講　師	博士(学術)	人社	谷川　　卓
	講　師	博士(仏教学)	人社	徳野　崇行
	講　師	修士(人文学)	人社	長島　大輔
	講　師	工学士	教職	中田　　悟
	講　師	博士(法学)	人社	中山　裕美
	講　師	理学士	教職	橋本　明彦
	講　師	工学士	教職	廣瀬　幸男
	講　師	修士(文学)	教職	水野　直樹
	講　師	博士(政治学)	人社	森　　達也
	講　師	文学士	人社	森山　　徹
	講　師		体育	八木橋　綱三
	講　師	修士(体育学)	体育	山口　良博
	講　師	学術修士・M.S.W	人社	山中　美子
○	教育講師	教育学士	教職	鈴木　邦夫
○	助　教	修士(体育学)	体育	山田　盛朗
○	助　手	学士(体育学)	体育	龍田　あゆみ

自然科学系

○	教　授	博士(工学)	情報	山口　勝己
○	教　授	理学博士	物理	岩松　雅夫
○	教　授	博士(理学)	物理	長田　　剛
○	教　授	工学博士	数学	金川　秀也
	客員教授	理学博士	物理	岡部　　豊
	客員教授	工学博士	数学	北垣　郁雄
	客員教授	工学博士	数学	知沢　清之
	客員教授	工学博士	数学	野原　　勉
○	准教授	理学博士	数学	井上　浩一
○	准教授	博士(理学)	物理	須藤　誠一
○	准教授	博士(理学)	数学	古田　公司
○	講　師	博士(理学)	物理	中村　正人
○	講　師	博士(理学)	情報	安井　浩之

○は専任者　△は兼担者　□印は兼務者

自然科学系				
	講　師	博士(理学)	数学	天野　政紀
	講　師	工学士	情報	荒木　　一
	講　師	工学博士	数学	有本　彰雄
	講　師	博士(農学)	化学	池田　佑美
	講　師	博士(学術)	数学	市川　　博
	講　師	理学博士	化学	犬塚　則久
	講　師	理学修士	数学	植田　美佳
	講　師	博士(理学)	数学	江崎　翔太
	講　師	博士(学術)	物理	大木　武夫
	講　師	博士(理学)	化学	大槻　　涼
	講　師	文化財博士	化学	大原　啓子
	講　師	博士(工学)	化学	大町　忠敏
	講　師	博士(理学)	化学	岡本　真由美
	講　師	理学博士	物理	奥田　　隆
	講　師	教育学修士	物理	小澤　幸光
	講　師	博士(工学)	物理	小野寺　理文
	講　師	博士(工学)	化学	加藤　　潔
	講　師	博士(工学)	物理	金子　　核
	講　師	Ph.D.	数学	亀子　正喜
	講　師	博士(工学)	化学	北川　匡伸
	講　師	理学士	化学	工藤　　純
	講　師	博士(理学)	化学	国府田　良樹
	講　師	博士(学術)	化学	小林　淳
	講　師	博士(工学)	物理	小林　洋平
	講　師	理学博士	物理	齋藤　幸夫
	講　師	博士(学術)	数学	笹尾　　哲
	講　師	理学博士	数学	志賀　啓成
	講　師	博士(理学)	数学	澁谷　幹夫
	講　師	理学博士	数学	申　　正善
	講　師	理工学修士	化学	新宅　広二
	講　師	博士(理学)	物理	髙瀬　　昇
	講　師	博士(理学)	物理	田中　美枝子
	講　師	修士(理学)	物理	手束　文子
	講　師	理学博士	物理	留野　　泉
	講　師	修士(工学)	情報	鳥海　　健
	講　師	理学博士	物理	中澤　直仁
	講　師	博士(理学)	化学	中村　和彦
	講　師	博士(理学)	物理	西　　正和

自然科学系				
	講　師	博士(理学)	物理	西川　浩之
	講　師	博士(理学)	数学	羽賀　淳一
	講　師	Doctor of Science	物理	ﾋﾟｱﾃﾝｺ ｱﾚｸｻﾝﾀﾞｰ
	講　師	理学博士	数学	藤田　岳彦
	講　師	博士(工学)	化学	堀田　芳生
	講　師	Ph.D.	数学	松岡　拓男
	講　師	博士(学術)	化学	間中　友美
	講　師	博士(学術)	化学	満田　深雪
	講　師	博士(理学)	物理	三原　国子
	講　師	博士(理学)	数学	三宅　啓道
	講　師	Ph.D.	化学	宮﨑　正峰
	講　師	博士(薬学)	化学	村上　志緒
	講　師	博士(理学)	物理	本山　美穂
	講　師	博士(学術)	化学	森下　直紀
	講　師	博士(理学)	数学	森田　和子
	講　師	博士(環境学)	化学	谷口　無我
	講　師	博士(工学)	化学	安井　万奈
	講　師	博士(農学)	化学	箭田　佐衣子
	講　師	博士(理学)	物理	矢吹　文昭
	講　師	理学博士	物理	山田　興一
	講　師	理学博士	物理	山本　和久
	講　師	工学博士	数学	湯浅　図南雄
	講　師	博士(理学)	数学	陸名　雄一
	講　師	博士(物理学)	物理	渡邉　夏輝
○	教育講師	修士(理学)	数学	矢作　由美
○	教育講師	理学博士	物理	右近　修治
○	技士補	理学士	物理	菅谷　幹治

外国語共通教育センター			
○	教　授	文学修士	土肥　一夫
○	教　授	文学修士	秋山　義典
○	教　授	文学修士	日高　正司
○	教　授	M.A.	吉田　国子
○	准教授	文学修士	ｴﾘｯｸ･ﾏﾃﾞｨｰﾝ
○	准教授	博士(工学)	ｽﾃｨｰｳﾞｪﾝ ｸﾚｲﾈｽ
○	准教授	博士(文学)	寺澤　由紀子
○	准教授	M.A.	三幣　友行
○	講　師	修士(文学)	杉本　裕代
○	講　師	修士(中世英文学)	和田　　忍

○は専任者　△は兼担者　□印は兼務者

外国語共通教育センター			
	講　師	修士(文学)	秋間　聖代
	講　師	修士(英文学)	浅川　友幸
	講　師	英語教育学修士	荒井　圭子
	講　師	修士(学術)	李　　延善
	講　師	修士(文学)	池上　俊彦
	講　師	文学士	石山　伊佐夫
	講　師	国際関係論修士	石渡　忠大
	講　師	M.A.	磯野　睦子
	講　師	修士(教育学)	出野　由紀子
	講　師	文学修士	伊藤　千里
	講　師	修士(文学)	今滝　暢子
	講　師	博士(文学)	大塩　真夕美
	講　師	文学修士	大森　尚子
	講　師	修士(教育学)	岡島　　慶
	講　師	修士(異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学)	鴨下　恵子
	講　師	修士(言語学)	川端　均
	講　師	修士(英語英文学)・M.A.	倉持　和歌子
	講　師	修士(商学)	黄　　愛華
	講　師	修士(文学)	ｺﾞｽﾃｳﾞｧ･ﾘｭﾄﾞﾐﾗ
	講　師	修士(文学)	薦田　嘉人
	講　師	文学修士	権平　桂子
	講　師	修士(英文学)	佐藤　芳明
	講　師	M.A.	沢村　　静
	講　師	修士(異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学)	篠原　有子
	講　師	修士(文学)	清水　紀子
	講　師	M.B.A	ｼﾞｮﾝ･W･G・ﾐﾗｰ
	講　師	文学修士	ｼﾞｮﾝ･ﾛﾊﾞｰﾄ･ﾌﾞﾗｳﾝ
	講　師	修士(文学)	白須　洋子
	講　師	文学修士	白雪　　花
	講　師	M.A.	鈴木　夏実
	講　師	修士(英米文学)	関根　路代
	講　師	修士(異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学)	瀬端　　睦
	講　師	ｽﾍﾟｲﾝ語修士	ｾﾝｻﾞﾉ ﾛｻ ｸﾘｽﾃｨｰﾅ
	講　師		孫　　玲
	講　師	修士(教育学)	竹内　裕見子
	講　師	修士(文学)	田中　美和
	講　師	文学修士	田村　江里子
	講　師	文学修士	富塚　真理子
	講　師	応用言語学修士	長岡　真理子
	講　師	文学士	中川　　友
	講　師	Ph.D(English)	中地　幸
	講　師	博士(言語学)	長渡　陽一
	講　師	修士(文学)	中村　　仁

外国語共通教育センター			
	講　師	修士(異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学)	中村　優子
	講　師	M.S.Ed.	平野　玲子
	講　師	文学修士	吹野　佐枝子
	講　師	学士(政治学)	ﾌﾞﾙｰｽ･ﾐﾗｰ
	講　師	M.A.	松本　淳子
	講　師	M.S.Ed.	松本　優美
	講　師	修士(文学)	真鍋　　守
	講　師	文学修士	丸山　令子
	講　師	教育学修士	水嶋　裕子
	講　師	修士(文学)	水戸　俊介
	講　師	修士(言語学)	ﾓﾊﾝﾏﾄﾞ ﾌｧﾄﾋｰ
	講　師	博士(文学)	森井　美保
	講　師	文学修士	森田　里津子
	講　師	修士(教育学)	矢崎　敏子
	講　師	MBA	矢部　直己
	講　師	博士(文学)	山口　和洋
	講　師	教育学修士	横山　康明
	講　師	修士(言語文化)	吉田　由美子
	講　師	Ph.D	李　　正美
	講　師	歴史学士	ﾘﾁｬｰﾄﾞ･ｻｯﾄﾝ
	講　師		ﾛｰﾏﾝ･ｸﾞﾚｺ
○	教育講師	修士(異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学)	稲垣　亜希子
○	教育講師	修士(文学)	植野　貴志子
○	助　手	文学士	小久保　育子
○	助　手	修士(文学)	中川　　梓

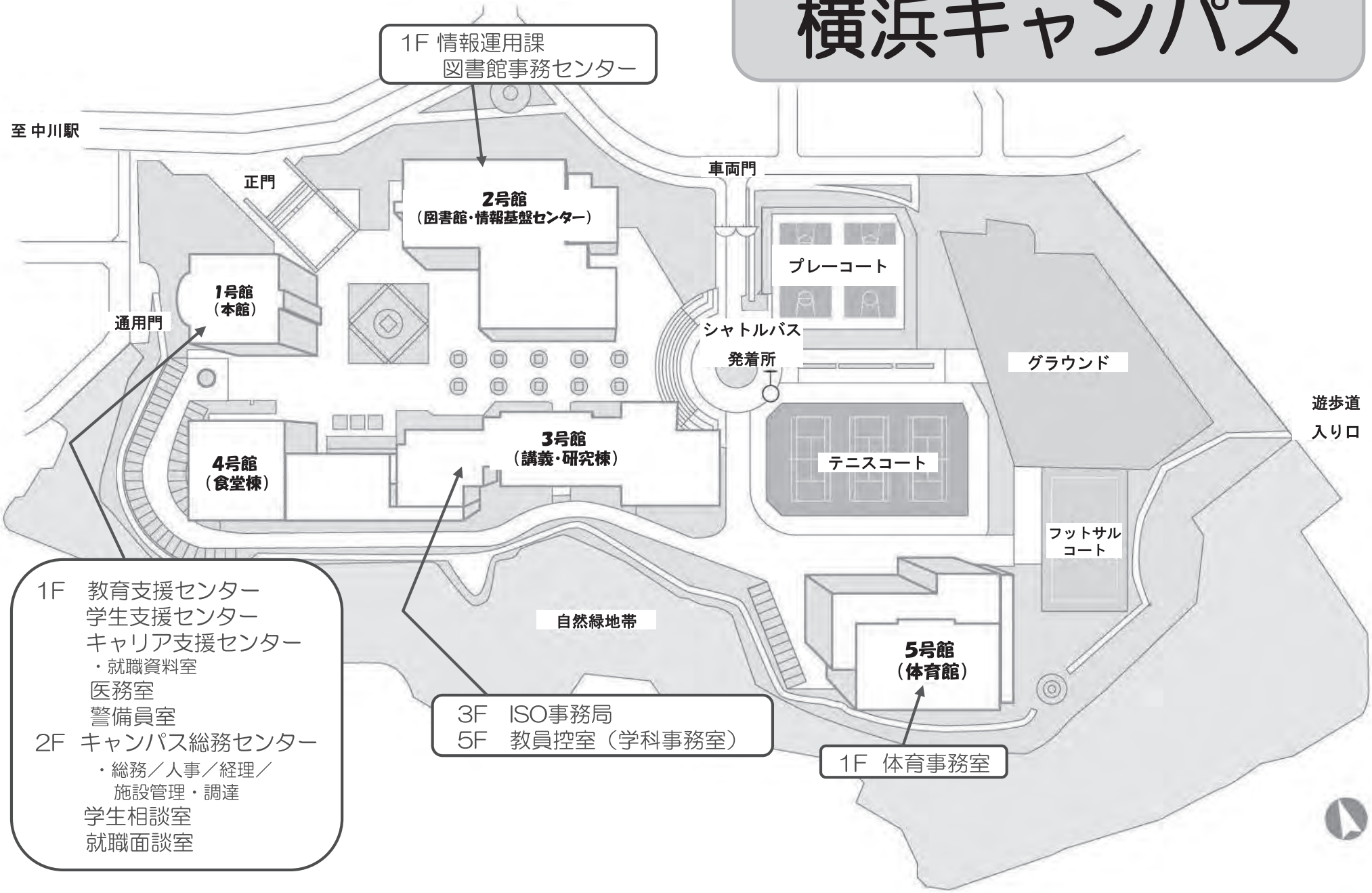
■　国際センター　■

国際センター			
○	教　授	博士(工学)	本間　宏二
○	講　師	経済学修士	木下　俊夫

東京都市大学　特別教授	
	廣瀬　禎彦
	山﨑　芳男
	涌井　史郎
	川合　知二
	鳥居　邦夫
	小堀　洋美
	佐々木　進
	尾嶋　正治
	室山　哲也
	渡辺　広之

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

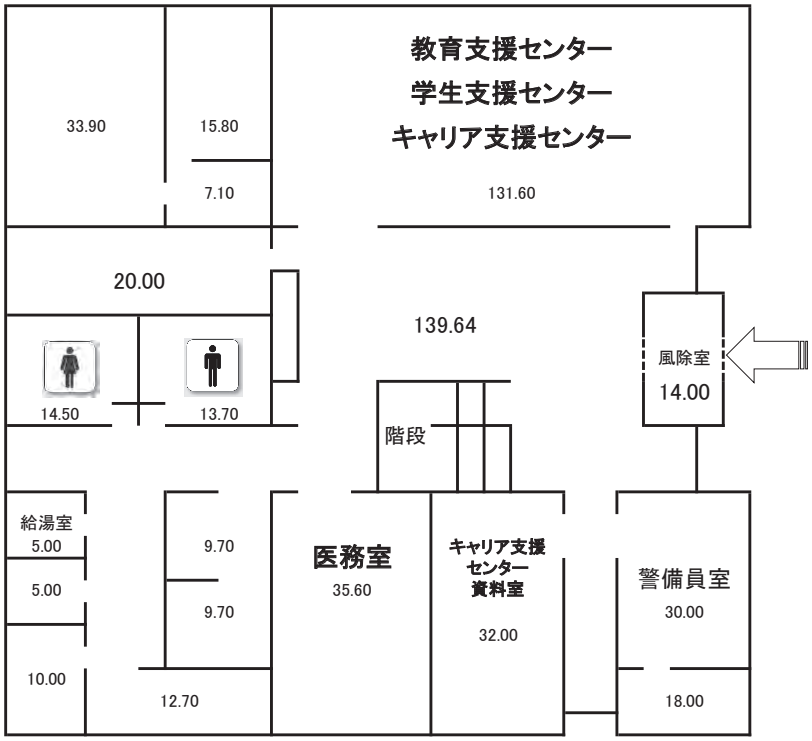
横浜キャンパス



■1号館（本館）

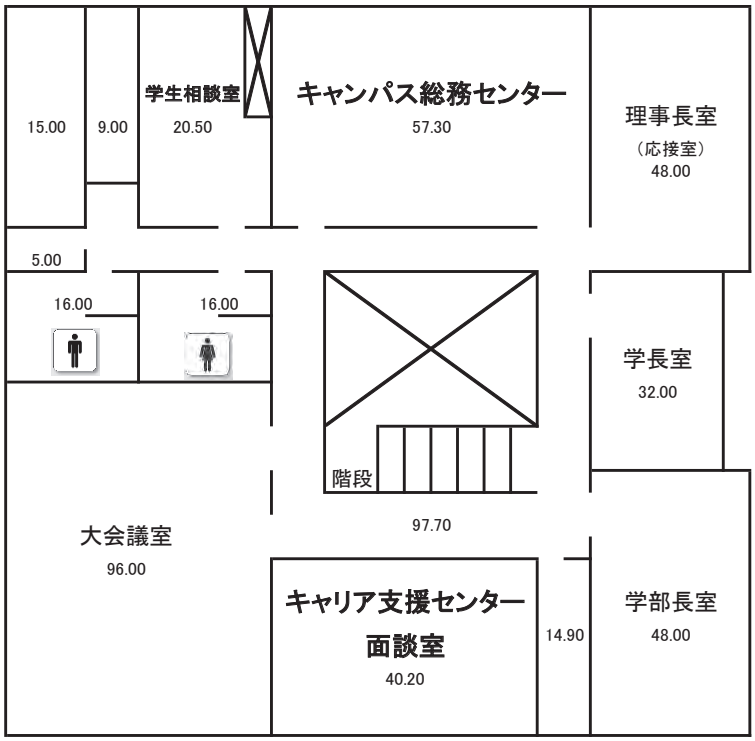
《1号館1階》

426.34



《1号館2階》

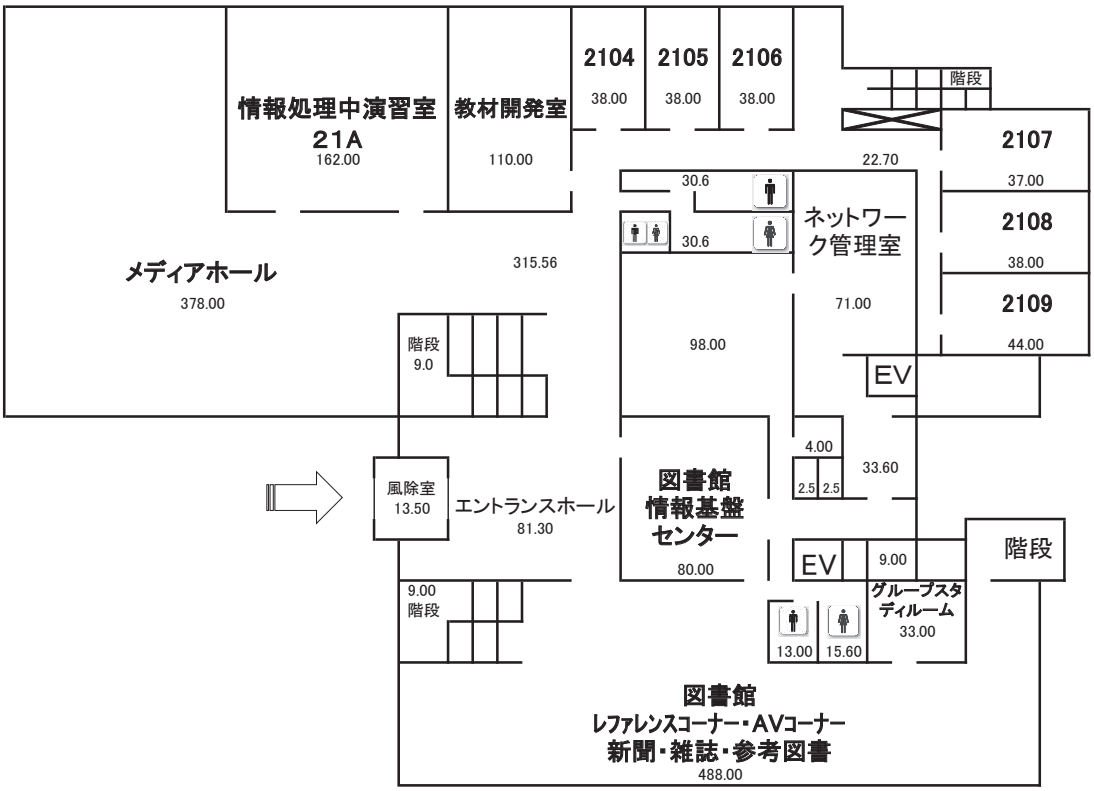
515.60



■2号館（図書館・情報基盤センター）

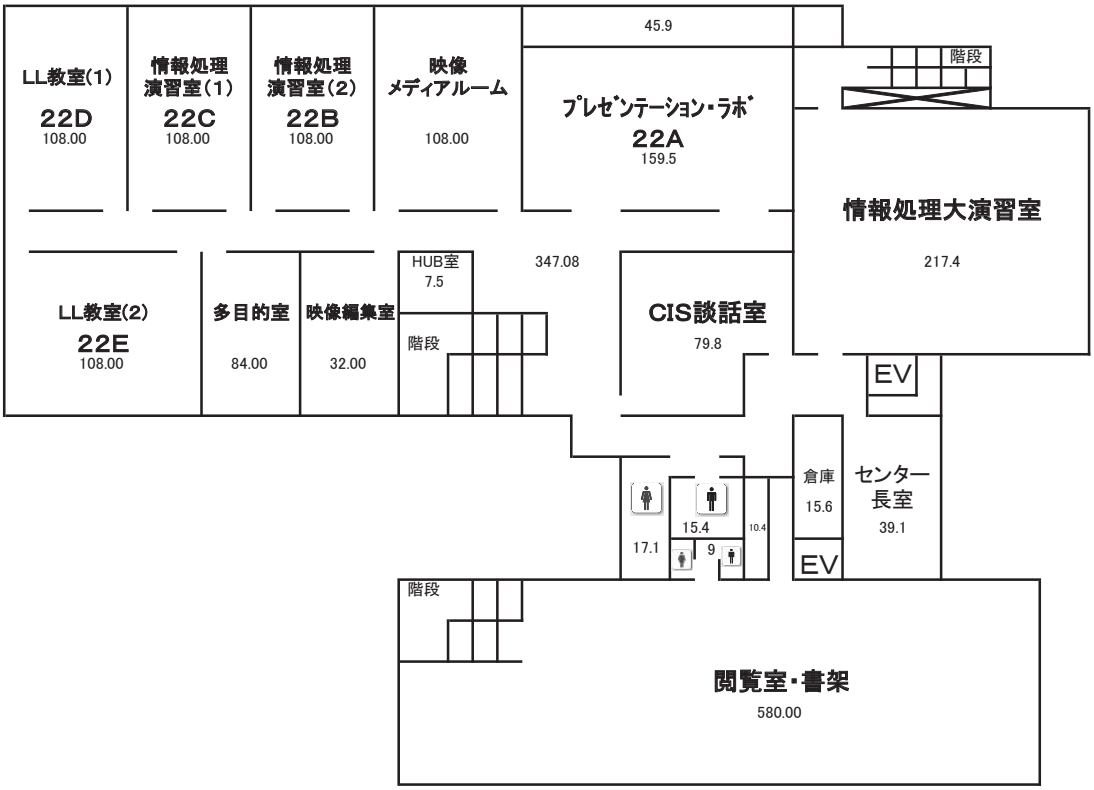
《2号館1階》

2012.46



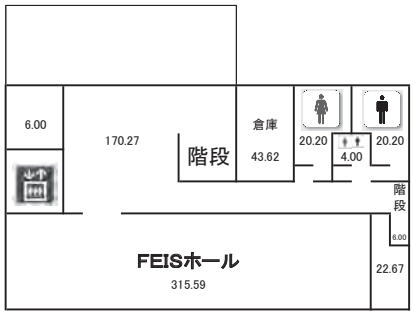
《2号館2階》

2199.78

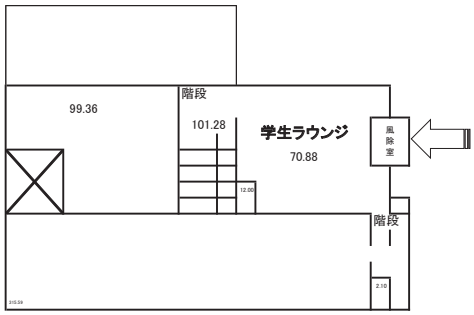


■3号館（講義・研究棟）

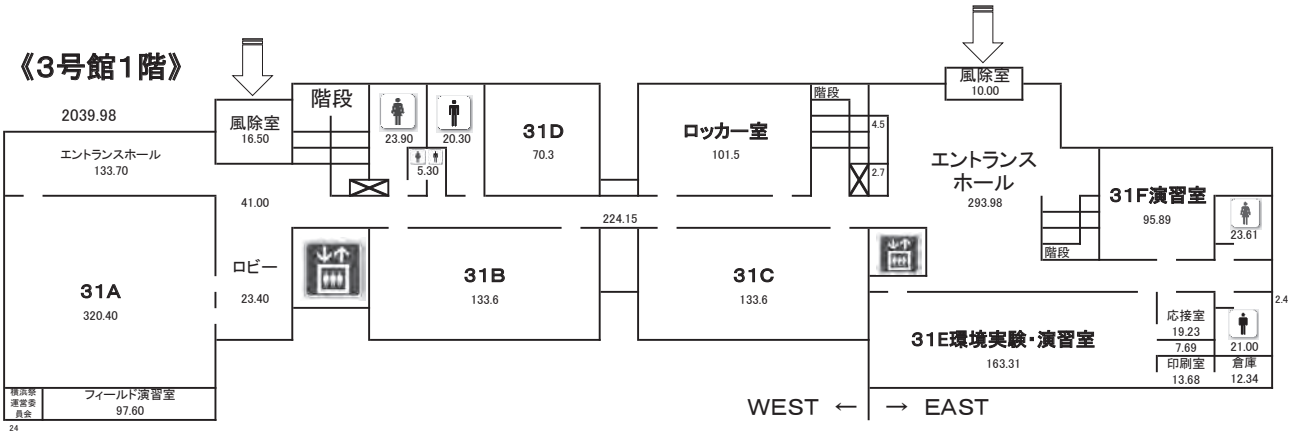
《3号館地下2階》



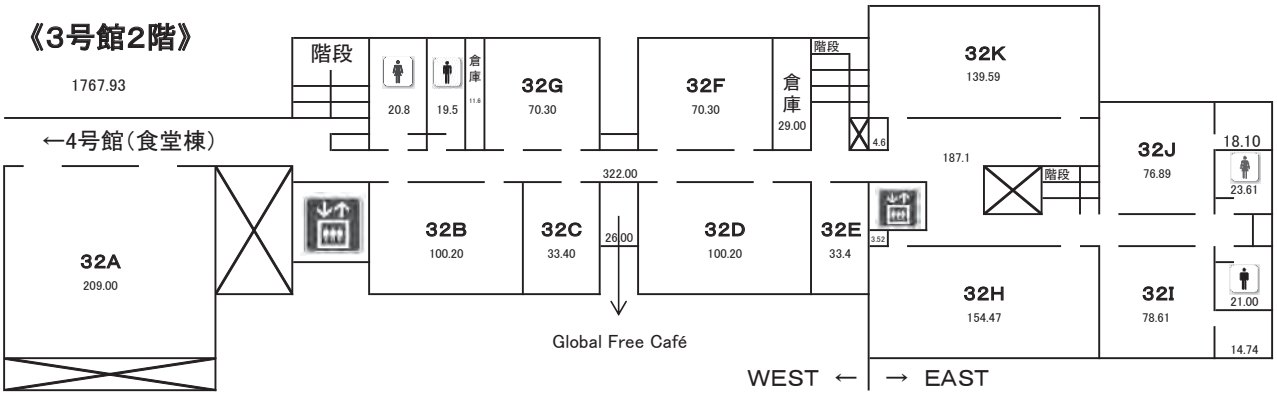
《3号館地下2階》



《3号館1階》

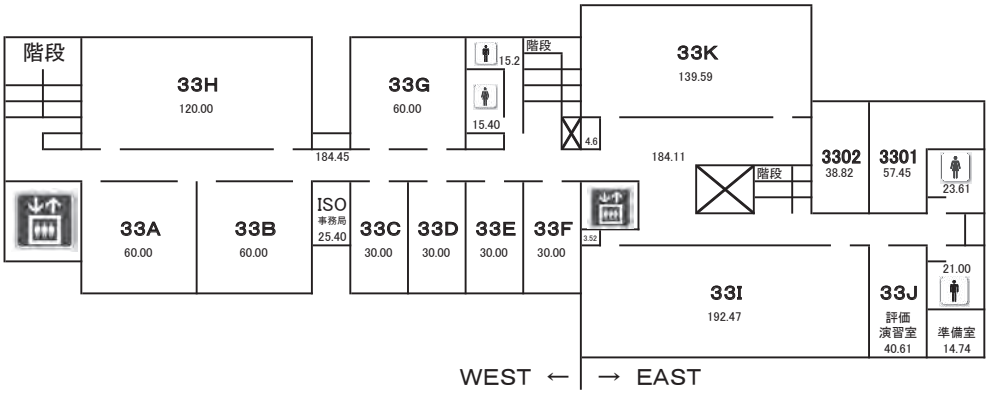


《3号館2階》



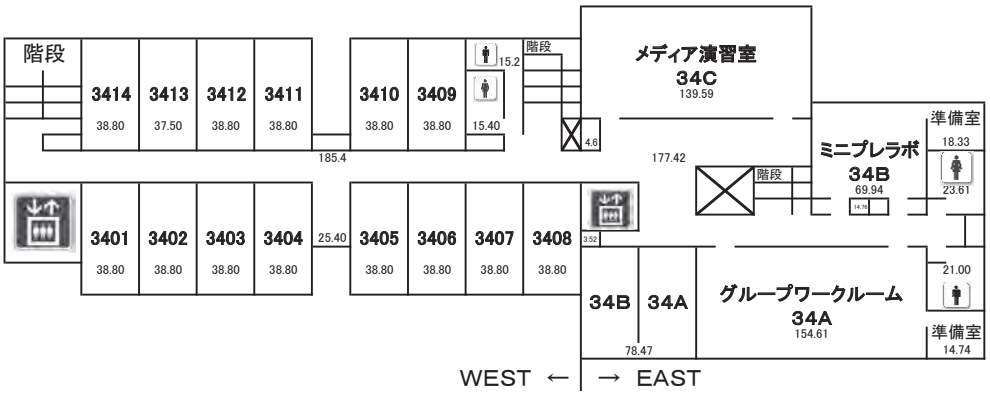
《3号館3階》

1380.97



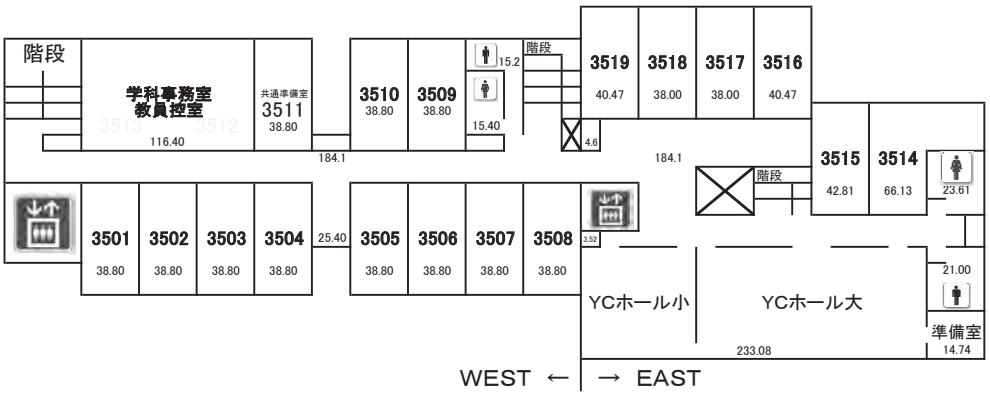
《3号館4階》

1503.89



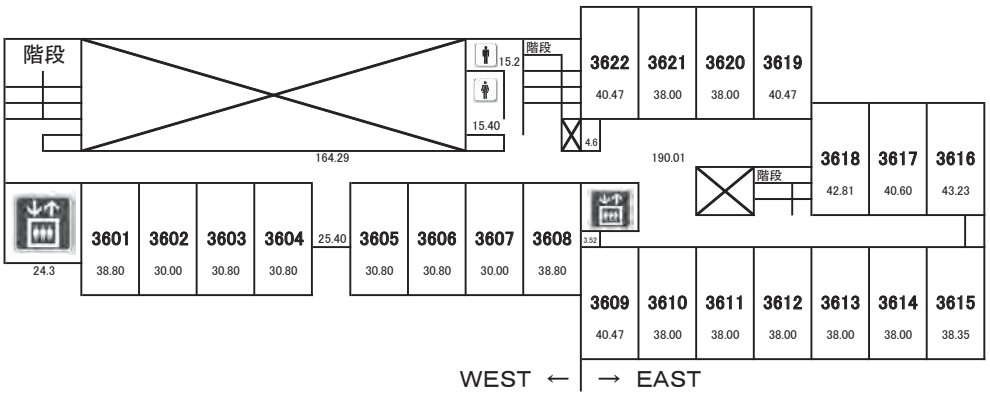
《3号館5階》

1533.83



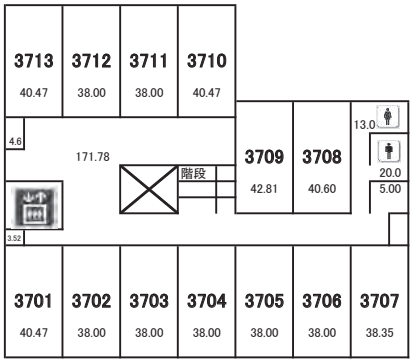
《3号館6階》

1255.92



《3号館7階》

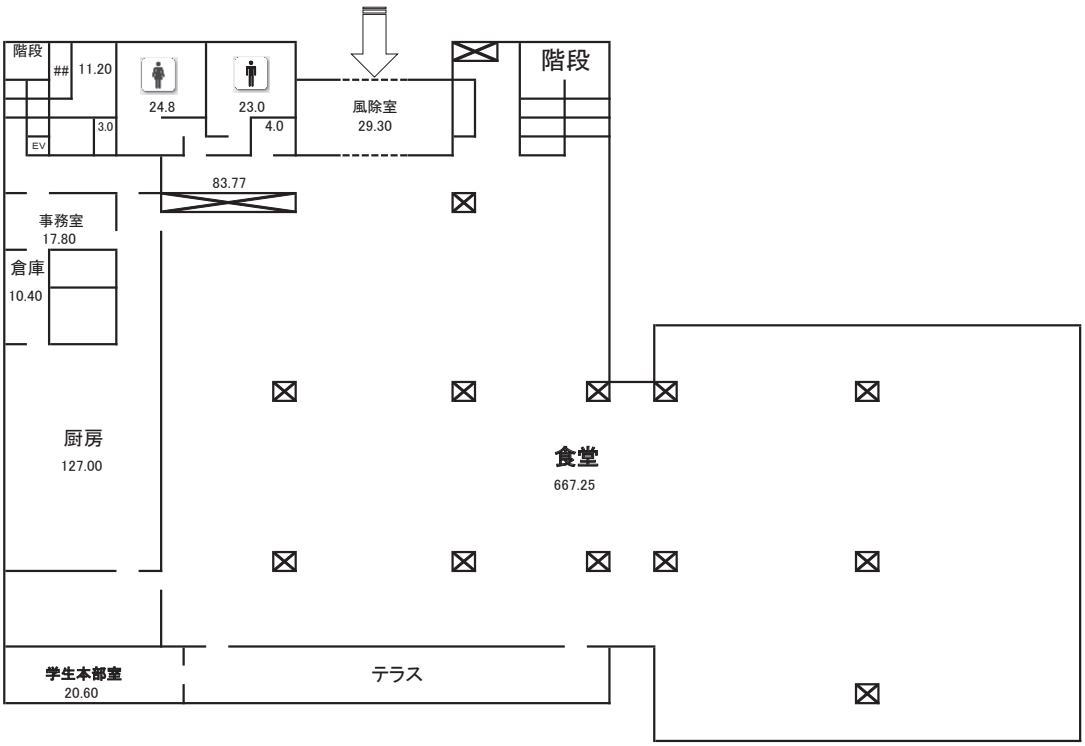
727.07



■4号館（食堂棟）

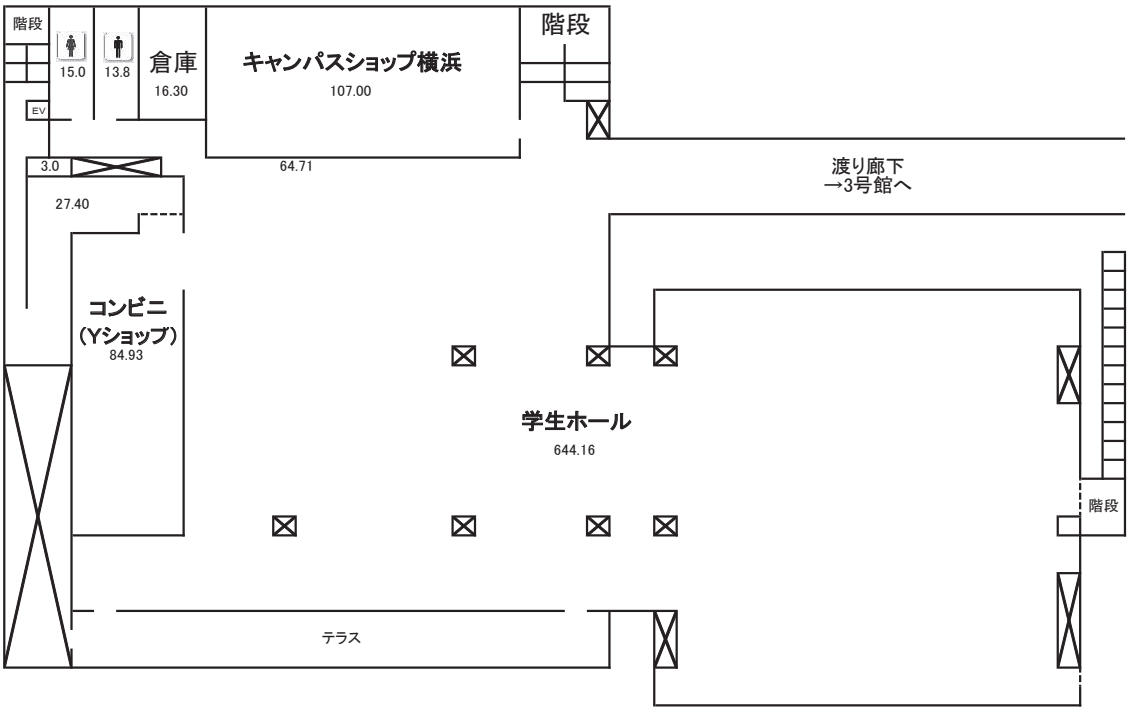
《4号館1階》

1028.22



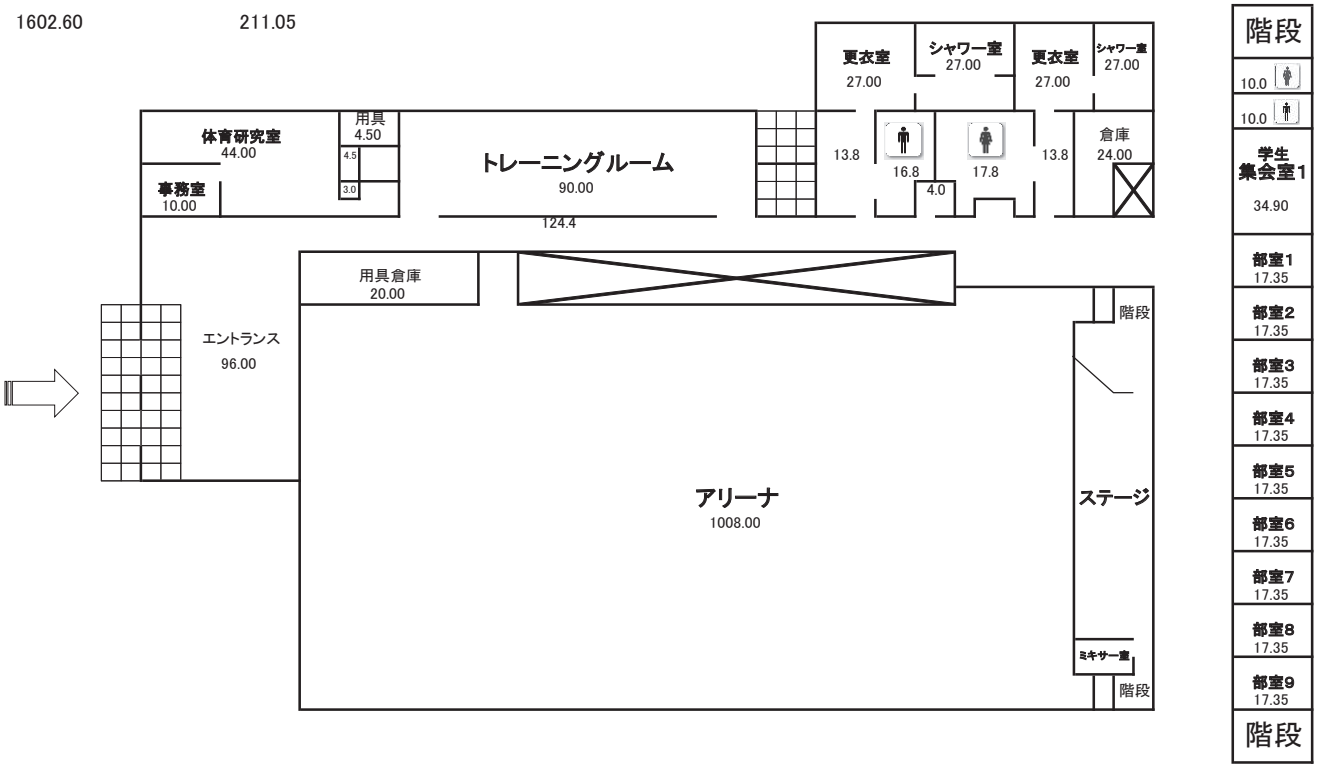
《4号館2階》

976.30

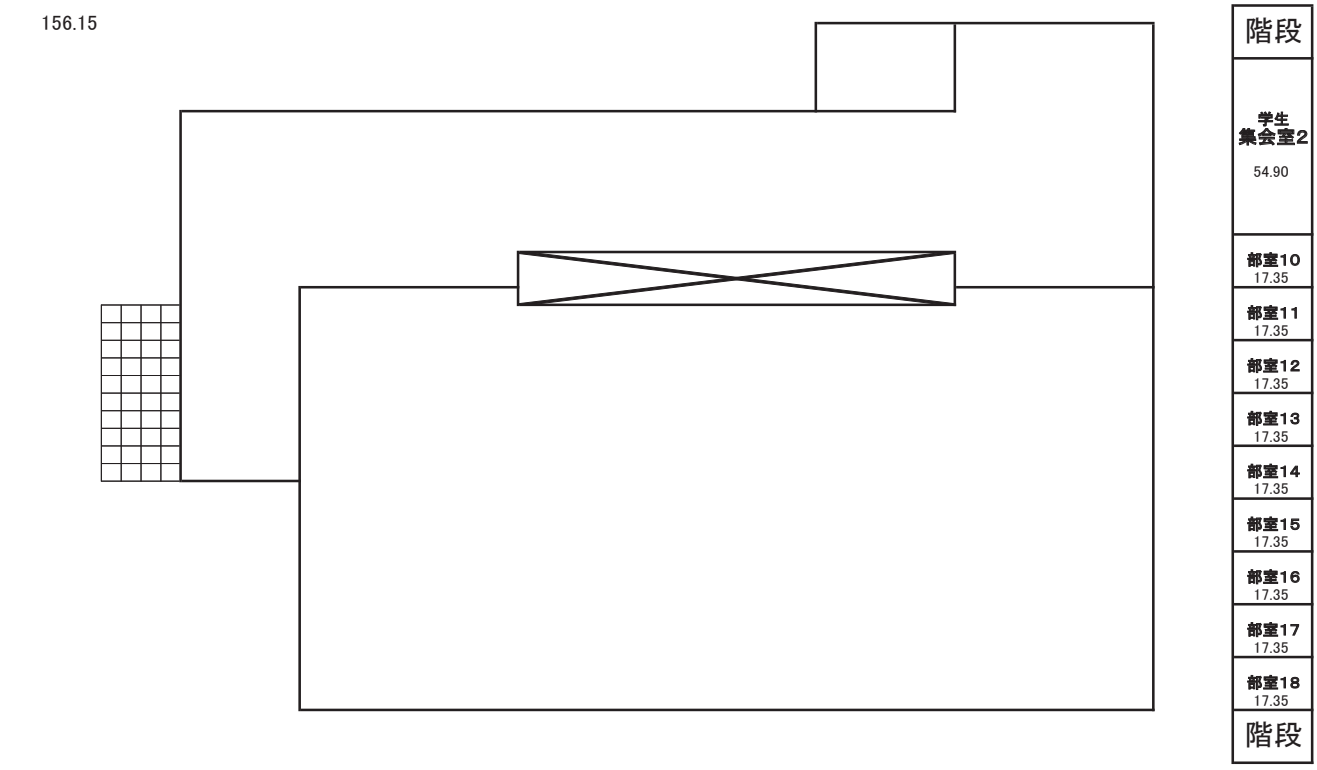


■5号館（体育館）・部室棟

《5号館・部室棟1階》



《部室棟2階》



（発行）
神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1
東京都市大学
教育支援センター（横浜キャンパス）
電話 045-910-0104（代）
（印刷）
東京都千代田区三崎町 3-10-17
株式会社　東甲メゾン
電話 03-3234-7881（代）